XenServer

XenCenter®

cloud SOFTWARE GROUP

XenServer Copyright © 1997–2026. Citrix Systems, Inc. All Rights Reserved.

Contents

XenCenter®について 45
はじめに 45
XenCenter® の新機能 46
2026.4.1 の新機能 46
修正された問題 46
2026.4.1 の既知の問題 46
以前のリリース 47
2026.4.0の新機能 47
修正された問題 47
2026.3.0の新機能 47
修正された問題 48
2026.2.1 の新機能 48
修正された問題 48
2026.2.0 の新機能 48
修正された問題 49
2026.1.0の新機能 49
修正された問題 50
2025.5.0 の新機能 50
修正された問題 51
2025.4.0の新機能 51
新機能 51
修正された問題 52
2025.3.0の新機能 53
新機能 53
修正された問題 54
2025.2.1 54

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

修正された問題 54
2025.2.0 54
新機能 54
修正された問題 55
2025.1.0 56
新機能 56
修正された問題 57
XenCenter 2024.4.0 58
新機能 58
修正された問題 58
XenCenter 2024.3.1 59
新機能 59
修正された問題 59
XenCenter 2024.3.0 60
新機能 60
修正された問題 61
XenCenter 2024.2.1 61
新機能 61
修正された問題 62
XenCenter 2024.2.0 62
新機能 62
修正された問題 64
XenCenter 2024.1.0 64
新機能 64
修正された問題 65
XenCenter 2023.4.0 66
新機能 66
修正された問題 66

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter 2023.3.2 67

新機能 67

修正された問題 67

XenCenter 2023.3.1 67

新機能 67

修正された問題 68

XenCenter 8.2.7 68

XenCenter® のインストール 69

システム要件 69

XenCenterのインストール 70

XenCenterをXenServerホストに接続する 70

XenCenterで外部SSHコンソールを使用するように構成する 71

XenCenterのアンインストール 72

XenCenter® の起動または終了 72

XenCenter の起動 72

XenCenter の終了 72

XenCenter® のアンインストール 73

`msiexec` を使用してアンインストールする 73

XenCenter® ワークスペースの探索 74

ツールバー 75

ツールバーの**戻る**ボタンと**進む**ボタンの使用 75

ツールバーの表示と非表示 76

「**リソース**」ペイン 76

「**ナビゲーション**」ペイン 77

インフラストラクチャ 78

オブジェクト 78

組織ビュー 78

フォルダー別オブジェクト 79

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

タグ別オブジェクト 79

カスタムフィールドによるオブジェクト 80

vApp 80

VM グループ 80

保存された検索 80

通知 81

アラート 81

更新 81

イベント 81

タブ 81

シトリックス® 82

コンソール 82

リモートデスクトップに切り替えるまたは**デフォルトデスクトップに切り替える** 82

グラフィカルコンソールに切り替えるまたは**テキストコンソールに切り替える** 82

SSH コンソールを開く 82

Ctrl+Alt+Delを送信 83

ドッキング解除 (Alt+Shift+U) 83

コンソールの検索 83

「**再ドッキング (Alt+Shift+U)**」または「**コンソールを再アタッチ**」 83

「**スケール**」 83

「**全画面表示 (Ctrl+Enter)**」 84

全般 84

GPU 84

高可用性 85

ホーム 85

メモリ 85

ネットワーク 86

NIC 86

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

パフォーマンス 86
検索 87
スナップショット 87
ストレージ 87
USB 88
ユーザー 90
WLB 90
リソースステータスアイコン 90
プール 90
サーバー 91
仮想マシン、VMテンプレート、およびvApp 92
VMスナップショット 93
ストレージ 94
キーボードショートカット 94
XenCenterの操作 95
ショートカットキー 95
XenCenter® オプションの変更 96
設定の保存と復元 96
セキュリティ設定 98
XenCenter アップデート設定 99
確認設定 99
表示設定 99
コンソール設定 100
接続設定 103
プロキシサーバー 103
接続タイムアウト 104
アクティブディレクトリ 104
外部ツール設定 104

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

隠しオブジェクト 104
リソースの整理 105
フォルダーの使用 105
フォルダーを作成するには 106
リソースをフォルダーに移動したり、フォルダーから移動したりするには 106
フォルダーの名前を変更するには 107
フォルダーを削除するには 107
タグの使用 107
タグを作成するには 107
タグを削除するには 108
リソースにタグを付ける 108
リソースのタグを解除する 108
カスタムフィールドの使用 109
カスタムフィールドを作成するには 109
リソースのカスタムフィールドに値を割り当てるには 109
カスタムフィールドを削除するには 110
リソースの検索 110
検索クエリを作成する 111
検索クエリを作成するには 111
検索結果のフィルタリングとグループ化 112
検索結果をフィルターするには 112
検索結果をグループ化するには 112
保存された検索 113
保存された検索を適用するには 113
保存された検索を削除するには 113
検索のエクスポートとインポート 113
現在の検索をエクスポートするには 113
検索をインポートするには 113

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

インポートした検索を新しいカスタム検索として保存するには 114
XenServer® ライセンスについて 115
関連ドキュメント 115
XenServer 現行リリース 115
ライセンスの概要 115
Citrix® ライセンス 116
XenServer サーバーのライセンス 117
ライセンスの有効期限 117
ライセンス猶予期間 117
関連ドキュメント 118
XenServer 現行リリース 118
XenServer® ライセンスの管理 118
利用可能なライセンス 119
サーバーとプールのライセンスステータスを確認するには 119
ライセンスの詳細を確認する 119
XenServer ライセンスを割り当てるには 121
XenServerライセンスを解放するには 122
関連ドキュメント 122
XenServer現在のリリース 122
Citrix® 統合 123
フィードバック 123
互換性 123
制限事項 124
シトリックス バーチャルアプリとデスクトップの権限 124
Citrixに接続する 124
Citrix接続を削除する 125
プールとCitrix® 125
Citrixタブ 125

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

概要 125
一般 125
セッション 126
マシンカタログ 126
デリバリーグループ 127
マシン 127
ホストとCitrix® 127
Citrixタブ 127
概要 128
一般 128
セッション 128
マシンカタログ 129
デリバリーグループ 129
マシン 129
警告 130
仮想マシンとCitrix® 130
Citrixタブ 130
概要 130
一般 130
マシンカタログ 131
デリバリーグループ 131
セッション 131
警告 132
サーバーの管理 133
接続と切断 133
ネットワークの構成 133
詳細情報 133
サーバーの接続と切断 134

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サーバーを追加する 134
XenCenter にサーバーを追加するには 134
セキュリティ証明書 135
サーバーを切断する 135
サーバーを再接続する 136
異なるログイン資格情報を使用して接続済みのサーバーに再接続するには 136
サーバーを再起動する 136
サーバーを再起動するには 137
サーバーをシャットダウンする 137
サーバーをシャットダウンするには 137
ツールスタックの再起動 138
ツールスタックを再起動するには 138
ホスト電源オンの構成 139
ホスト電源オンの前提条件 139
ホスト電源オンを有効または無効にする 140
関連ドキュメント 141
サーバーをリモートで起動する 141
関連ドキュメント 141
メンテナンスモードで実行する 141
サーバーをメンテナンスモードにするには 142
サーバーをメンテナンスモードから解除するには 142
関連ドキュメント 142
サーバーにTLS証明書をインストールする 142
要件 143
証明書をインストールする 143
証明書情報の表示 144
プールの証明書検証を有効にする 144
サーバーID証明書をリセットする 145

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

証明書アラート 145
関連ドキュメント 145
サーバー接続状態を保存する 146
自動再接続をオンまたはオフにするには 146
メインパスワードの使用 146
サーバーのバックアップと復元 147
サーバーの構成とソフトウェアをバックアップするには 148
バックアップからサーバーのソフトウェアと構成を復元するには 148
関連ドキュメント 148
XenCenter® からサーバーを削除する 149
ネットワークの構成 149
ネットワークの種類 150
シングルサーバープライベートネットワーク 150
外部ネットワーク 150
ボンディングネットワーク 150
注記 151
関連ドキュメント 151
XenServer 現行リリース 151
ネットワークを追加する 151
外部ネットワークを追加する 152
シングルサーバープライベートネットワークを追加する 152
新しいボンディングネットワークを追加するには 153
SR-IOV ネットワークを追加するには 154
関連ドキュメント 155
ネットワークを削除する 155
関連ドキュメント 155
ネットワークプロパティの表示と変更 155
サーバーの現在のネットワーク構成を表示するには 155

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サーバーのネットワーク構成を変更するには 156
関連ドキュメント 157
NIC の構成 158
利用可能な NIC の表示 159
NIC ボンドを作成するには 159
NICボンドの削除 161
NICを特定の機能に割り当てる 161
関連ドキュメント 161
IPアドレスの構成 162
NICにIPアドレスを割り当てるには 162
セカンダリインターフェースを削除するには 164
管理インターフェースを変更するには 164
関連ドキュメント 164
SSHおよびコンソールセッションの管理 165
概要 165
利点 165
SSHアクセスの有効化 165
SSHアクセスの無効化 166
一括操作 166
サーバーのプロパティを表示 166
全般 166
証明書 167
ライセンスの詳細 167
バージョン詳細 167
更新 168
管理インターフェイス 168
メモリ 168
CPU 168

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

GFS2クラスタリングステータス 168
SSHアクセス 169
サーバープロパティの変更 169
(/en-us/xencenter/media/edit-16.png) 全般プロパティ - 名前、説明、フォルダー、およびタグ 169
(/en-us/xencenter/media/edit-16.png) iSCSI IQN (全般タブ) 169
管理対象サーバーのiSCSI IQN値を変更するには 170
(/en-us/xencenter/media/000-fields-h32bit-16.png) カスタムフィールド 170
(/en-us/xencenter/media/000-alert2-h32bit-16.png) アラート 170
(/en-us/xencenter/media/000-email-h32bit-16.png) メール通知（スタンドアロンサーバー） 170
(/en-us/xencenter/media/000-storage-h32bit-16.png) マルチパス 171
(/en-us/xencenter/media/001-power-on-h32bit-16.png) 電源オン（スタンドアロンサーバー） 171
(/en-us/xencenter/media/001_tools_h32bit_16.png) ドライバー 171
ログ保存先 171
リモートのXenServerログ保存先を指定するには 172
GPU 172
配置ポリシー 172
統合GPUパススルー 173
NRPE 173
SNMPアイコン(/en-us/xencenter/media/icon-snmp.png) SNMP 174
コンソール 175
プール内のサーバー 175
スタンドアロンサーバー 175
コントロールドメインのメモリを変更する 176
dom0メモリを更新するには 177

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント 177
XenServer 最新リリース 177
管理対象サーバーのリストのエクスポートとインポート 177
管理対象サーバーのリストをエクスポートするには 177
サーバーリストをインポートするには 178
プールの管理 179
関連ドキュメント 179
XenServerの現在のリリース 179
プール要件 179
ハードウェア要件 179
その他の要件 180
同種プール 181
異種プール 181
共有プールストレージ 182
関連ドキュメント 182
XenServer 現在のリリース 182
新しいプールを作成する 182
プールを作成するには 182
その他のプール構成手順 184
関連ドキュメント 184
XenServer 現在のリリース 184
プールにサーバーを追加する 184
既存のプールにサーバーを追加するには 184
サーバーを新しいプールに配置するには 186
関連ドキュメント 186
XenServer 現在のリリース 186
プールからサーバーを削除する 186
関連ドキュメント 187

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer 現在のリリース 187

プールからサーバーを破棄する 187

リソースデータのエクスポート 187

リソースデータ 188

サーバー 188

ネットワーク 189

VDI 189

ストレージ 189

仮想マシン 189

GPU 190

プールプロパティの表示 190

全般 191

証明書 191

更新 191

管理インターフェース 191

GFS2クラスタリングステータス 192

SSHアクセス 192

プールプロパティの変更 192



全般プロパティ - 名前、説明、フォルダー、タグ 192



カスタムフィールド 193



メールオプション 193



電源オン 193



ドライバー 194



GPU 194



© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

セキュリティ 194



ライブパッチ 195



ネットワーク 195



GFS2クラスタリング 196



グローバルVMオプション 197

パフォーマンスの強化 197

Secure Boot証明書の自動更新 197



NRPE 197

(/en-us/xencenter/media/icon-snmp.png) SNMP 198

コンソール 198

プールセキュリティ 199

ルートパスワードの変更 199

プールシークレットのローテーション 200

関連ドキュメント 200

XenServer 現行リリース 200

プールの削除 200

ストレージの管理 201

関連ドキュメント 202

XenServer の現在のリリース 202

新しいSRの作成 202

SR作成手順 202

関連ドキュメント 204

XenServer 現行リリース 204

NFSストレージ 204

NFS SRを構成するには 204

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント 205
ソフトウェアiSCSIストレージ 205
ソフトウェアiSCSI SRを作成するには 206
関連ドキュメント 207
ハードウェア HBA ストレージ 207
ハードウェア HBA SR を作成するには 208
関連ドキュメント 209
SMBストレージ 209
SMB SRを構成するには 209
関連ドキュメント 210
ソフトウェアFCoEストレージ (非推奨) 210
ソフトウェアFCoE SRを作成するには 211
関連ドキュメント 212
ISOストレージ 212
NFSストレージに新しいISO SRを構成するには 212
CIFS/SMBストレージに新しいISO SRを構成するには 213
関連ドキュメント 213
シンプロビジョニングされた共有GFS2ブロックストレージ 213
1. GFS2環境を計画する 214
2. 冗長なネットワークインフラストラクチャを構成する 215
3. 専用のボンディングネットワークを作成する 215
4. GFS2クラスタープールをセットアップする 218
5. コントロールドメインメモリを増やす 219
6. ストレージマルチパスを設定する 219
7. GFS2 SRを作成する 220
制約事項 223
関連ドキュメント 224
ストレージのプロパティ 225

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ストレージのプロパティの表示 225
全般 225
ストレージ 226
検索 226
SRプロパティの変更 226
一般 226
カスタムフィールド 227
アラート 227
読み取りキャッシュ 227
関連ドキュメント 228
XenServerの現在のリリース 228
SRの削除 228
ストレージリポジトリをデタッチするには 228
ストレージリポジトリを忘却するには 229
関連ドキュメント 230
XenServer 現行リリース 230
SRの再アタッチ 230
デタッチされたSRを再アタッチするには 230
関連ドキュメント 230
XenServerの現在のリリース 230
ストレージマルチパス 230
マルチパスを有効にするには 231
関連ドキュメント 231
XenServer 現行リリース 231
ストレージ読み取りキャッシュ 232
読み取りキャッシュを無効にするには 233
読み取りキャッシュを有効にするには 233
関連ドキュメント 233

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer 現行リリース 233
PVS-アクセラレーター 233
PVS-Acceleratorを有効にする 233
XenServerでPVS-Acceleratorを構成する 234
PVSでキャッシュ構成を完了する 235
キャッシュ操作 235
関連ドキュメント 236
XenServer 現行リリース 236
解放された領域の再利用 237
関連ドキュメント 237
XenServer 現在のリリース 237
ライブLUN拡張 237
関連ドキュメント 238
XenServer 現行リリース 238
Corosync アップグレードウィザード 238
概要 238
開始する前に 238
事前チェック 238
アップグレードプロセス 239
アップグレード中の XenCenter RPU の動作 239
VMの作成 241
XenServer® VMツール 241
テンプレートの使用 242
関連ドキュメント 243
XenServer 現在のリリース 243
新しいVMの作成 243
VM作成手順の概要 243
関連ドキュメント 246

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer 現行リリース 246
VMテンプレートとBIOSオプション 246
BIOSオプションを選択する 247
関連ドキュメント 247
VM名と説明 248
関連ドキュメント 248
OSインストールメディア 248
OSインストールメディアオプション 248
起動モード 249
vTPM 249
関連ドキュメント 249
ホームサーバー 250
ワークロードバランシング（WLB）と仮想GPUに関する考慮事項 250
関連ドキュメント 250
VMグループ 250
関連ドキュメント 252
VMのCPUとメモリの割り当て 252
オプション 252
VMの電源状態のシナリオ 254
関連ドキュメント 255
GPU 255
Intel GPU パススルーの有効化 256
関連ドキュメント 257
仮想ストレージ構成 257
オプション 258
関連ドキュメント 259
仮想ネットワーク構成 259
関連ドキュメント 259

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

新規VM作成の完了 259
関連ドキュメント 260
Express (無人) VM作成 260
関連ドキュメント 260
XenServerの現在のリリース 260
新しいテンプレートの作成 260
既存のVMをテンプレートに変換するには 261
スナップショットのコピーを新しいテンプレートとして保存するには 261
XVAファイルからテンプレートをインポートするには 261
テンプレートをファイルにエクスポートする 262
テンプレートをファイルにエクスポートするには 262
関連ドキュメント 262
XenServer 現行リリース 262
VMとテンプレートのコピー 262
VMのコピー 263
プール内でVMをコピーするには 263
VMを別のプールにコピーするには 263
テンプレートのコピー 264
プール内でテンプレートをコピーするには 264
別のプールにテンプレートをコピーするには 264
関連ドキュメント 265
XenServer 現在のリリース 265
仮想マシンの構成 266
XenServer® VM Tools のインストール 266
Windows 用 XenServer VM ツール 267
Linux 用 XenServer VM ツール 268
仮想マシンの仮想化状態を確認する 269
XenServer VM Toolsの更新 269

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

I/Oドライバーの更新 270
Management Agentの更新 271
関連ドキュメント 271
XenServer 現在のリリース 271
仮想ストレージの構成 271
関連ドキュメント 272
XenServer の現在のリリース 272
仮想ディスクの追加 272
関連ドキュメント 273
仮想ディスクを接続する 273
関連ドキュメント 273
仮想ディスクのデタッチ 273
関連ドキュメント 274
仮想ディスクの移動 274
ストレージライブマイグレーションについて 275
仮想ディスクを移動するには 275
関連ドキュメント 275
仮想ディスクの削除 276
関連ドキュメント 276
仮想ディスクのプロパティを変更する 276
一般プロパティ - 名前、説明、フォルダー、タグ 276
カスタムフィールド 277
ディスクのサイズと場所 277
デバイスオプション 277
関連ドキュメント 278
VMネットワーキングの構成 278
仮想ネットワークインターフェースを追加する 279
関連ドキュメント 279

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

仮想ネットワークインターフェースの有効化/無効化 280
関連ドキュメント 280
仮想ネットワークインターフェースの削除 280
関連ドキュメント 280
仮想ネットワークインターフェースのプロパティを変更する 281
関連ドキュメント 281
仮想GPUの構成 281
関連ドキュメント 282
XenServerの現在のリリース 282
VMメモリの構成 282
動的メモリ制御 (DMC) 283
動的および静的メモリ範囲 283
DMCメモリの制約 284
DMCを有効にするには 284
DMCを無効にするには 285
関連ドキュメント 285
XenServer 現行リリース 285
VMプロパティの表示 285
全般 285
起動オプション 286
CPU 286
読み取りキャッシュ 286
デバイスセキュリティ 286
更新 287
VMプロパティの変更 287
全般 287
カスタムフィールド 287
CPUとメモリ 287

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

vCPUの数 (Windows VMの場合) 288
vCPUの最大数 (Linux VMの場合) 288
トポロジ 288
現在のvCPU数 (Linux VMの場合) 288
この仮想マシンのvCPU優先度 288
起動オプション 289
起動オプション 289
起動順序 289
次のVMの起動を試行するまでの時間 289
HA再起動優先度 290
アラート 290
ホームサーバー 290
GPU 290
USB 291
関連ドキュメント 292
XenServer 現在のリリース 292
VMの管理 293
VMを起動する 293
特定のサーバーでVMを起動するには 293
最適なサーバーまたはホームサーバーでVMを起動するには 294
関連ドキュメント 294
XenServer 現行リリース 294
VM を一時停止および再開する 294
VM を一時停止するには 294
一時停止中の VM を再開するには 295
特定のサーバーでサスペンドされたVMを再開するには 295
最適なサーバーまたはホームサーバーでVMを自動的に再開するには 295
関連ドキュメント 296

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer 最新リリース 296
VMをシャットダウンする 296
ソフトシャットダウンを実行するには 296
強制シャットダウンを実行するには 297
関連ドキュメント 297
XenServer 最新リリース 297
VMを再起動する 297
VMを正常に再起動するには 298
強制再起動を実行するには 298
関連ドキュメント 299
XenServer 最新リリース 299
VMデバイスモデルを再起動する 299
デバイスモデルを再起動するには 299
リモートコンソールセッションを実行する 299
Linux 仮想マシン 299
SSHコンソール 300
Windows 仮想マシン 300
VMグループの管理 301
VMグループの管理ダイアログ 302
VMグループの作成 303
VMグループを削除する 304
VMグループのプロパティを更新する 304
関連ドキュメント 304
XenServerの現在のリリース 304
仮想マシンを移行する 304
ライブマイグレーション 305
ストレージライブマイグレーション 305
互換性要件 306

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ライブマイグレーションとストレージライブマイグレーションの制限事項 307
VMの移動 308
VMを移行または移動するには 308
関連ドキュメント 309
XenServer 現行リリース 309
VMを削除する 309
関連ドキュメント 310
XenServer 現行リリース 310
変更ブロック追跡 310
VM での変更ブロック追跡の無効化 311
VDIの変更ブロック追跡ステータスを表示する 311
セキュアブート証明書 311
XenCenterで証明書の状態を確認する 312
証明書更新用にVMをフラグ付けまたはフラグ解除する 312
VMのインポートとエクスポート 313
サポートされているインポートおよびエクスポート形式 313
どの形式を使用しますか? 314
(Windows VMのみ) Windows用XenServer VM Toolsのインストール 314
(Linux VMのみ) オペレーティングシステム修正 315
OS修正の要件 315
オープン仮想化フォーマット (OVF および OVA) 315
OVF パッケージの内容? 316
どの形式を使用するか? 317
(Windows VMのみ) Windows用XenServer® VM Toolsのインストール 317
(Linux VMのみ) オペレーティングシステム修正の使用 317
OVFに関する詳細情報 317
関連ドキュメント 318
XenServer 現行リリース 318

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ディスクイメージ形式 (VHD、VHDX、AVHDX、および VMDK) 318
サポートされているディスクイメージ形式 319
(Windows VMのみ) Windows用XenServer® VM Toolsのインストール 319
(Linux VMのみ) オペレーティングシステム修正の使用 320
関連ドキュメント 320
XenServer現行リリース 320
OVF/OVA から VM をインポートする 320
前提条件 321
OVF パッケージをインポートする 321
インポートされたVMの起動時に発生するエラー 323
関連ドキュメント 324
XenServerの現在のリリース 324
ディスクイメージからVMをインポートする 324
前提条件 324
ディスクイメージをインポートする 324
次のステップ 328
関連ドキュメント 328
XenServer 現在のリリース 328
XVA から VM をインポートする 328
前提条件 329
XVA パッケージをインポートする 329
関連ドキュメント 330
XenServer 現行リリース 330
VMをOVF/OVAとしてエクスポートする 330
前提条件 331
OVF/OVAパッケージのエクスポート 331
VMをXVAとしてエクスポートする 332
前提条件 333

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XVAパッケージをエクスポートする 333
スナップショットについて 334
スナップショットの種類 334
ディスクのみのスナップショット 334
ディスクとメモリのスナップショット 334
孤立したスナップショットへのアクセス 335
関連ドキュメント 335
XenServer 現在のリリース 335
VM スナップショットを作成する 335
関連ドキュメント 336
XenServer の現在のリリース 336
スナップショットへの復元 336
関連ドキュメント 336
XenServer 現行リリース 336
スナップショットから新しいVMを作成する 337
スナップショットからVMを作成するには 337
孤立したスナップショットからVMを作成するには 337
関連ドキュメント 337
XenServer 現行リリース 337
スナップショットから新しいテンプレートを作成する 337
スナップショットを新しいテンプレートとして保存するには 338
孤立したスナップショットを新しいテンプレートとして保存するには 338
関連ドキュメント 338
XenServer 現行リリース 338
スナップショットをファイルにエクスポートする 338
スナップショットをファイルにエクスポートするには 338
孤立したスナップショットをエクスポートするには 339
関連ドキュメント 339

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer 現行リリース 339
スナップショットを削除する 339
スナップショットを削除するには 339
孤立したスナップショットを削除するには 339
関連ドキュメント 340
XenServer 現在のリリース 340
スケジュールされたスナップショット 340
関連ドキュメント 340
XenServer 現在のリリース 340
スケジュールされたスナップショットの作成 341
関連ドキュメント 342
スケジュールされたスナップショットの管理 342
スナップショットスケジュールの有効化 342
スナップショットスケジュールの無効化 342
スナップショットスケジュールの編集 343
スナップショットスケジュールの削除 343
関連ドキュメント 343
VMをスナップショットに戻す 344
関連ドキュメント 344
XenServer® vApp 345
「**vApp の管理**」ダイアログボックスの使用 345
関連ドキュメント 346
XenServerの現在のリリース 346
vAppを作成する 346
関連ドキュメント 347
XenServer 現行リリース 347
vAppsの変更 347
「**vAppsの管理**」ダイアログの使用 347

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント 348
XenServer 現行リリース 348
vAppを削除する 348
関連ドキュメント 349
XenServer 現行リリース 349
vAppの起動とシャットダウン 349
vAppを起動するには 349
vAppをシャットダウンするには 350
関連ドキュメント 350
XenServer 現行リリース 350
vApp のエクスポートとインポート 350
vApp をエクスポートするには 350
vApp をインポートするには 350
関連ドキュメント 351
XenServer 最新リリース 351
VMとvAppの保護 352
高可用性 352
ディザスタリカバリ 352
関連ドキュメント 353
XenServer 現在のリリース 353
高可用性 354
可用性のためのハートビート 354
サーバーフェンシング 355
障害発生時のキャパシティプランニング 356
オーバーコミット保護 357
HAが有効なプールでの作業 357
高可用性とロールベースのアクセス制御 (RBAC) 358
関連ドキュメント 358

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer 現行リリース 358

高可用性の要件 359

関連ドキュメント 359

XenServer 現在のリリース 359

VMの再起動設定 359

高可用性再起動優先度 360

起動順序 360

遅延間隔 (次のVMの起動を試行するまでの時間) 360

関連ドキュメント 360

XenServer 現行リリース 360

高可用性の構成 361

関連ドキュメント 362

XenServer 最新リリース 362

高可用性を無効にする 362

関連ドキュメント 363

XenServer 現行リリース 363

高可用性を有効にする 363

関連ドキュメント 363

XenServer 現行リリース 363

高可用性設定の変更 363

高可用性再起動優先度とVM起動シーケンス設定を変更するには 363

プールのサーバー障害制限を変更するには 364

プールの最大障害容量を増やすには 365

関連ドキュメント 365

XenServer 現行リリース 365

災害復旧 (DR) 366

DRの概要 366

災害復旧用語 367

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ディザスタリカバリインフラストラクチャ 367

フェイルオーバー、フェイルバック、およびテストフェイルオーバーを**ディザスタリカバリ**ウィザードで実行する 368

フェイルオーバー 368

フェイルバック 369

関連ドキュメント 370

XenServer 最新リリース 370

災害復旧の構成 370

関連ドキュメント 371

XenServer 現行リリース 371

フェイルオーバー 371

関連ドキュメント 373

XenServer 最新リリース 373

フェイルバック 373

関連ドキュメント 374

XenServer 最新リリース 374

テストフェイルオーバー 374

関連ドキュメント 376

XenServer 最新リリース 376

アクセス制御 (AD および RBAC) 377

関連ドキュメント 377

XenServer 現在のリリース 377

ユーザーの管理 377

XenServer環境でのAD認証 378

関連ドキュメント 379

XenServer 現行リリース 379

ロールベースアクセス制御の概要 379

XenServerユーザーアカウントにActive Directoryアカウントを使用する 379

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

RBACプロセス 380
ローカルスーパーユーザー 380
RBACロール 381
関連ドキュメント 382
XenServer 現行リリース 382
RBACロールと権限の定義 382
ドメインに参加してユーザーを追加する 382
セキュアLDAP (LDAPS) 383
XenServerまたはプールをドメインに参加させるには 383
Active Directoryユーザーまたはグループをプールに追加するには 384
ドメインから離脱するには 384
関連ドキュメント 385
XenServer 現行リリース 385
ユーザーとグループにロールを割り当てる 385
ユーザーまたはグループのロールを変更または割り当てるには 386
関連ドキュメント 387
XenServer 現在のリリース 387
RBACロールの計算 387
ログインすると、XenServer® はセッションのロールをどのように計算しますか? 387
関連ドキュメント 388
XenServer 現行リリース 388
監査の変更 388
関連ドキュメント 389
XenServer 現行リリース 389
ワークロードバランシングの概要 390
関連ドキュメント 391
XenServer 現在のリリース 391
Workload Balancing の使用を開始する 391

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント 392
XenServer 現在のリリース 392
Workload Balancing の基本概念 392
関連ドキュメント 392
Workload Balancing への接続 392
前提条件 393
Workload Balancing 仮想アプライアンスに接続するには 394
関連ドキュメント 395
基本的なタスクの概要 395
VMを起動する最適なホストの決定 396
Workload Balancingの推奨の受け入れ 396
関連ドキュメント 397
XenServer 最新リリース 397
VMの初期配置、移行、および再開に最適なサーバーの選択 397
配置はどのように機能しますか? 397
最適とはどういう意味ですか? 397
最適なサーバーで仮想マシンを起動するには 398
最適なサーバーで仮想マシンを再開するには 398
関連ドキュメント 399
最適化の推奨事項を受け入れる 399
最適化の推奨事項の根拠 399
最適化の推奨事項を承認するには 400
高可用性における WLB の推奨事項について 400
関連ドキュメント 401
Workload Balancing レポートの操作 401
レポートの種類 401
レポートの生成 401
関連ドキュメント 401

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer 現在のリリース 401

タスクでのワークロードバランシングレポートの使用 401

パフォーマンスしきい値の有効性の評価 402

管理上の変更のトラブルシューティング 402

関連ドキュメント 402

ワークロードバランシングレポートの生成と管理 402

ワークロードバランシングレポートを生成するには 402

ワークロードバランシングレポートをナビゲートするには 403

Workload Balancing レポートを印刷するには 404

Workload Balancing レポートをエクスポートするには 404

関連ドキュメント 405

ワークロードバランシングレポート用語集 405

チャージバック利用状況分析 405

ホストの健全性履歴 408

プール最適化パフォーマンス履歴 408

プール監査証跡 409

プールヘルス 411

プール健全性履歴 412

プール最適化履歴 412

仮想マシン移動履歴 413

仮想マシンのパフォーマンス履歴 413

関連ドキュメント 414

監査ログイベント 414

関連ドキュメント 416

Workload Balancing設定の編集 416

Workload Balancing設定の適用方法 417

Workload Balancing 設定ダイアログボックスを表示するには 417

関連ドキュメント 418

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer の現在のリリース 418

最適化モードの調整 418

すべての期間にわたって最適化モードを設定するには 419

最適化モードが自動的に変更される時間を指定するには 419

スケジュールされた最適化モードタスクを削除または一時停止するには 419

スケジュールされた最適化モードタスクを編集するには 420

関連ドキュメント 420

自動的に電力を最適化および管理する 420

最適化の推奨事項を自動的に受け入れる 420

電源管理を有効にする 421

Power Management の動作について 421

電源管理とVM統合のための環境設計 423

最適化の推奨事項を自動的に適用するには 423

電源管理のサーバーを選択するには 424

関連ドキュメント 425

臨界しきい値の変更 425

概要 425

しきい値のデフォルト設定 426

他のしきい値が推奨事項をトリガーする方法 427

クリティカルしきい値を変更するには 428

関連ドキュメント 428

メトリックの重み付けの調整 428

最大パフォーマンスモードでのメトリックの重み付けの適用方法 429

最大密度モードでのメトリックの重み付けの適用方法 429

メトリックの重み付け係数を編集するには 430

関連ドキュメント 430

推奨事項からホストを除外する 430

ホストを除外するタイミング 431

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

配置および最適化の推奨事項からホストを除外するには 431
関連ドキュメント 431
推奨事項からのVMの除外 431
VMを除外するタイミング 432
配置および最適化の推奨事項からVMを除外するには 432
関連ドキュメント 432
高度な設定 432
VM 移行間隔 433
推奨カウント 433
推奨の重大度 434
最適化の積極性 435
仮想マシンの推奨間隔を構成するには 436
プール監査証跡の粒度 437
関連ドキュメント 437
Workload Balancing の管理 437
関連ドキュメント 438
XenServer 現行リリース 438
ワークロードバランシングからの切断 438
ワークロードバランシングから切断するには 438
関連ドキュメント 439
別のWLBアプライアンスを使用するようにプールを再構成する 439
別のWorkload Balancingアプライアンスを使用するには 439
関連ドキュメント 440
ワークロードバランシングの資格情報の更新 440
ワークロードバランシングから切断するには 440
ワークロードバランシングを再度有効にし、新しい資格情報を指定するには 441
関連ドキュメント 441
Workload Balancing が有効な状態でメンテナンスモードに入る 442

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Workload Balancing が有効な状態でメンテナンスモードに入るには 442
サーバーをメンテナンスモードから解除するには 442
関連ドキュメント 443
ワークロードバランシングのトラブルシューティング 443
一般的なトラブルシューティングのヒント 443
エラーメッセージ 443
関連ドキュメント 443
XenServer 現在のリリース 443
Workload Balancing 資格情報の入力に関する問題 444
関連ドキュメント 444
Workload Balancing の起動に関する問題 444
関連ドキュメント 444
Workload Balancing 証明書に関する問題 445
関連ドキュメント 445
ワークロードバランシング接続エラー 446
関連ドキュメント 446
Workload Balancingサーバーの変更に関する問題 446
関連ドキュメント 446
コンバージョンマネージャー 447
サポートされているゲストオペレーティングシステム 448
XenServerを理解する 448
VMwareとXenServerの用語を比較する 449
変換の概要 449
VMを変換する方法の概要 451
関連ドキュメント 451
XenServer 9 451
Conversion Manager の新機能 451
2026.1.0 の新機能 452

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

以前のリリース 452
コンバージョンマネージャー 8.5.0 452
コンバージョンマネージャー 8.4.0 453
コンバージョンマネージャー 8.3.1 454
Conversion Manager を始める 454
環境を準備する 455
XenServerをインストールしてプールを作成する 455
XenServer環境に関する考慮事項 456
仮想アプライアンスのインポートと構成 460
仮想アプライアンスをダウンロードする 460
仮想アプライアンスをXenServerにインポートする 461
Conversion Manager仮想アプライアンスの構成 462
VMware ESXi/vCenter VMの変換 463
変換後のタスク 467
Windows VMでWindowsライセンスを再アクティブ化する 467
Windows VMを再起動する 467
その他の変換タスク 468
Conversion Manager のトラブルシューティング 469
変換されたVMの起動に関する問題 469
Windows STOP コード 0x0000007B のブルースクリーン 469
Windows の製品アクティベーション 469
Windows VMでのネットワーク設定の喪失 469
VMware SCSI ディスクを起動できません 470
変換中の問題 470
システムパフォーマンスの監視 471
XenCenter® を使用したシステムパフォーマンスの監視 471
NRPE を使用したシステムパフォーマンスの監視 472
SNMPを使用したシステムパフォーマンスの監視 472

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント 472
XenServer 現在のリリース 472
パフォーマンスデータの表示 473
より長い期間または短い期間のデータを表示するには 473
異なる期間のデータを表示するには 474
サーバー上のVMライフサイクルイベントデータを表示するには 474
パフォーマンスグラフの設定 475
グラフを追加するには 475
グラフを編集するには 475
グラフを削除するには 475
グラフを並べ替えるには 475
グラフのデータソースの色を変更するには 475
グラフの種類を変更するには 476
XenCenterでのNUMA最適化 476
概要 476
NUMAステータスの表示場所 476
インジケーター 477
メトリックを有効にする 477
ガイダンスと考慮事項 477
NRPE を使用したホストと dom0 リソースの監視 478
前提条件 482
制約事項 482
XenCenter を使用して NRPE を構成する 483
関連ドキュメント 484
XenServer 現行リリース 484
SNMPによるホストおよびdom0リソースの監視 484
メトリックオブジェクト 485
トラップ 486

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

前提条件 488
制約事項 488
XenCenterを使用してSNMPを構成する 489
関連ドキュメント 490
XenServer 最新リリース 490
パフォーマンスアラートの構成 491
更新とアップグレード 494
XenCenter® のバージョンを更新する 494
ホストをアップグレードする 494
XenServer® ホストを更新する 494
関連ドキュメント 495
XenServer 現在のリリース 495
ホストをアップグレードする 495
重要: アップグレードする前に 496
ローリングプールアップグレードウィザードを使用してXenServerをアップグレードするには 497
関連ドキュメント 499
XenServer 現在のリリース 499
XenServer® ホストを更新する 499
プールの更新を構成する 500
CDNからの更新 500
オフライン更新 503
リモートプールからの更新 504
リモートプールを更新チャネルとして構成する 504
プールで利用可能な更新を表示する 506
サーバー別 507
更新別 509
ガイダンスカテゴリと更新タスクを理解する 509

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ガイダンスカテゴリ 509
更新タスク 512
プールにアップデートを適用する 513
開始する前に 513
更新のインストール 513
CDN からの更新 514
オフライン更新 515
保留中の更新タスクを完了する 517
関連ドキュメント 518
XenServer の現在のリリース 518
ライブパッチ 519
ライブパッチ適用シナリオ 519
XenCenter® を更新 520
更新通知 521
XenCenter®通知を有効にする 521
前提条件 521
ホストの更新通知を有効にする 521
補足パックをインストールする 523
XenCenter® を使用して補足パックをインストールするには 523
関連ドキュメント 524
XenServer 現行リリース 524
ドライバーディスクをインストールする 524
XenCenter を使用してドライバーディスクをインストールする 524
関連ドキュメント 525
XenServer 8.4 525
XenCenter® アラート 526
アラートの操作 527
重大度でフィルター 527

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

場所でフィルター 527

日付でフィルター 527

更新 527

すべてエクスポート 527

すべて無視 528

アクション 528

メールによるアラート通知の受信 528

メール通知をオンにするには 529

SNMPによる警告通知の受信 529

トラブルシューティング 530

関連ドキュメント 530

XenServer 最新リリース 530

XenCenter® イベントログの使用 530

現在のセッションでイベントを表示する 530

XenCenterイベントログファイルを表示する 530

現在のセッションでイベントを操作する 531

ステータスでフィルタリング 531

サーバーでフィルタリング 531

日付でフィルタリング 531

すべてを閉じる 531

アクション 532

サーバー状態レポートの作成 532

サーバー状態レポートを生成するには 532

関連ドキュメント 533

XenServer 現行リリース 533

SR接続の問題を解決する 533

関連ドキュメント 534

XenServer 現在のリリース 534

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ヘルプの利用 535

index 536

XenServer 6.2.0ライセンスの管理 536

割り当てるには XenServer ライセンス 536

無償版からXenServer 6.2.0へのアップグレード 537

Advanced Edition、Enterprise Edition、またはPlatinum EditionからXenServer 6.2.0へのアップグレード 537

XenServer ライセンスをリリースするには 538

XenServer 6.5ライセンスの管理 538

XenServer ライセンスを割り当てるには 538

XenServer ライセンスをリリースするには 539

ライセンス概要 - XenServer 6.5 539

Citrix ライセンス 540

XenServerエディションのライセンス 540

ライセンスの有効期限 540

ライセンスの猶予期間 541

XenCenterのドキュメント履歴 542

fix 545

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter®について

XenCenterは、複数のXenServer®ホスト、リソースプール、およびそれらに関連する仮想インフラストラクチャ全体を管理するための豊富なユーザーエクスペリエンスを提供します。

XenCenterを使用すると、WindowsデスクトップマシンからXenServer環境を管理し、仮想マシンを展開、管理、監視できます。



この記事では、サーバーハードウェアにXenServerがすでにインストールされていることを前提としています。

はじめに

XenCenter管理コンソールを始めましょう:

1. システムに.NET 4.8以降がインストールされていれば、ほとんどのWindowsシステムにXenCenterをインストールできます。詳細については、システム要件を参照してください。
2. XenCenterをインストールするには、弊社のWebサイトからダウンロードしたインストーラーファイルを実行します。インストーラーがインストールプロセスを案内します。詳細については、XenCenterのインストールを参照してください。
3. WindowsシステムにXenCenterがインストールされたので、UIのレイアウトとその機能に慣れてください。詳細については、XenCenterワークスペースの探索を参照してください。
4. XenCenterをXenServerホストに接続し、管理を開始します。詳細については、新しいサーバーの追加を参照してください。
5. XenServerストレージリポジトリ (SR) を作成し、**新しいSR**ウィザードを使用してホストにアタッチします。SRは、管理対象サーバー間で共有できるストレージを提供します。詳細については、新しいストレージの追加を参照してください。
6. **新しいプール**ダイアログを使用して、管理対象サーバーを共有ストレージを持つリソースプールにグループ化します。詳細については、新しいプールの作成を参照してください。
7. **新しいVM**ウィザードを使用して、プールにVMを作成します。詳細については、新しいVMの作成を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter® の新機能

XenCenter は XenServer のバージョンとは独立して更新されます。サポートを継続するには、最新の XenCenter バージョンを使用していることを確認してください。

注記:

特に指定がない限り、XenCenter の記事は XenServer® 8.4 以降のリリースに適用されます。XenServer 8.4 のみが明示的に記載されている場合でも同様です。

XenCenter YYYY.x.x は、XenServer ダウンロードページ からダウンロードできます。

XenCenter YYYY.x.x のバージョンをインストールすると、XenCenter のさらなる更新を自動的に受け取ることができます。詳細については、「XenCenter の更新」を参照してください。

2026.4.1 の新機能

このアップデートには、以下の機能強化が含まれています。

- XenCenter で、新しく作成された VM に Secure Boot 証明書更新のフラグを自動的に設定するオプションが提供されるようになりました。

修正された問題

- ディスクおよびメモリスナップショットを持つ VM に保留中の更新後タスクがある場合、XenCenter はスナップショットに対して同じ更新後タスクを誤って表示します。(CA-425866)

2026.4.1 の既知の問題

- スタンドアロンホストが再起動された後（アップデート適用後の再起動を含む）、ホストの **General** タブにシステムのステータスが正しく表示されません。別のオブジェクトをクリックしてホストに戻るか、切断して再接続することで、ホストの **General** タブを更新することをお勧めします。
- XenCenter が実行されているコンピューターでフォントサイズまたは DPI を変更すると、ユーザーインターフェイスが正しく表示されない場合があります。デフォルトのフォントサイズは 96 dpi です。Windows 10 では、このフォントサイズを 100% と呼びます。(CA-45514)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **VM Export** ウィザードは、エクスポートされた VM の元の MAC アドレスを保持します。さらに、**VM Import** ウィザードでは、重複する MAC アドレスを持つ VM のインポートが可能です。この動作の組み合わせにより、元の VM とインポートされた VM が同じ DHCP サーバーによって提供されている場合、IP アドレスの競合が発生する可能性があります。この問題を回避するには、インポート後に「MAC アドレスを自動生成する」を選択してください。(CP-53982)
- XenCenterで、名前にハッシュ文字（#）を含むフォルダーからOVFパッケージまたはディスクイメージをインポートしようとすると、null参照例外でインポートが失敗します。(CA-368918)
- XenCenterがすでに実行中に、コマンドラインからXenCenterを実行しようとすると、空白文字を含む引数は二重引用符と単一引用符の両方で囲む必要があります: '"example"'。(CA-389317)
- OVFファイルをインポートする際に、XenCenterは証明書を検証できません。「Signature verification failed.」というエラーメッセージが表示されて失敗します。(CA-413933)
- **インポートウィザード**からXVAファイルのインポートをキャンセルしようとすると、XenCenterがクラッシュする可能性があります。(CA-415171)

以前のリリース

このセクションでは、以前のリリースにおける機能と、それらの修正された問題について説明します。これらの以前のリリースは、XenCenterの最新バージョンに置き換えられています。利用可能になったら、XenCenterの最新バージョンに更新してください。

2026.4.0の新機能

修正された問題

- このアップデートにはセキュリティ修正が含まれています。詳細については、セキュリティ情報を参照してください。

2026.3.0の新機能

このアップデートには以下の改善が含まれています。

- XenCenterは、UEFI NVRAMにレガシーなMicrosoft 2011 UEFIセキュアブート証明書チェーンのみが含まれている仮想マシン（VM）を特定し、修復をスケジュールできるようになりました。詳細については、セキュアブート証明書を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- XenServer 9を実行しているシステムでSSHアクセスが有効になっている場合、XenCenterはプールとホストの**全般**タブに警告を表示するようになりました。
- **新規変換**ウィザードの機能強化。

修正された問題

- XenCenter は、10 を超える仮想ディスクを持つ VM を含む OVF/OVA パッケージをインポートできません。(XSI-2253)
- XenCenter は、リモートデスクトップを使用して Windows VM に接続できないことがあり、空白の画面が表示されます。(CA-418659)
- XenCenter の検索ボックスにユーザーが入力できないことがあります。(XSI-2107)
- その他のユーザーエクスペリエンスとコンテキストヘルプの改善。(CP-310388, CA-425526)

2026.2.1 の新機能

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

- XenCenter で、管理ネットワークでのジャンボフレームの有効化が可能になりました。
- XenCenter で、サーバーの**全般**タブに vCPU:CPU 比率が表示されるようになりました。
- NIC のインデックスに加えて、XenCenter でサーバーの**NIC**タブに NIC の名前が表示されるようになりました。

修正された問題

- サーバーをプールに追加した後、XenCenter がクラッシュすることがあります。(CA-426861)
- ライセンスのないサーバーをライセンスされたプールに追加すると、参加するサーバーにライセンスが自動的に適用されないため、失敗します。(CA-428040)
- サーバーの再起動によりサーバーへの接続が失われた場合、XenCenter は再接続をあきらめるのが早すぎることがあります。(CA-422352)
- その他のユーザーエクスペリエンスに関する問題。(CP-311878, CP-312720)

2026.2.0 の新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- XenCenterは、ライセンスサーバーの証明書検証を提供するようになりました。
- 新しいバージョンにアップグレードする際、XenCenterには、アップグレード後のXenServerホストのメモリフットプリントが増加した場合に警告を発する強化された事前チェックが含まれています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

このアップデートには、以下の動作変更が含まれています。

- XenCenterは、ローカルメディアからCitrix Hypervisor 8.2 Cumulative Update 1にホットフィックスをインストールする機能を提供しなくなりました。これは、XenServer 8.4へのアップグレードの機能には影響しません。

修正された問題

- XenCenterは、サポーターホストに対して誤ったライセンスタイプを表示します。(CA-425178)
- エアギャップ環境でディスクイメージをインポートする際、XenCenterはXenServer VM ToolsファイルをConversion Manager仮想アプライアンスにアップロードするのを防ぎます。(CA-424791)
- サーバーで新規または変更された証明書が検出されるたびにXenCenterが警告を表示すると、サーバーへの接続がタイムアウトすることがあります。(CA-382627)
- その他のユーザーエクスペリエンスの問題。(CA-425615, CA-423745, CA-389397, CA-425534)

2026.1.0の新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- XenCenterは、XenServer 9ホストでのドライバーマルチバージョン管理 (DMV) のサポートを導入しました。XenCenterを使用して、ストリーミングされたホストアップデートを通じて提供される承認済みドライバーバージョンとバリアントを検出、選択、インストール、および切り替えることができます。DMVは、ほとんどのサードパーティ製「ドライバーディスク」の必要性を排除し、カーネルABI (kABI) が変更された場合のライフサイクル操作を簡素化し、承認されていないサードパーティ製バイナリをブロックするために署名を強制します。
- XenCenterは、XenServer 9ホスト上の仮想マシン (VM) のNUMA最適化ステータスを表示するようになりました。XenCenterを使用して、配置を確認し、NUMA関連のメトリックを有効にした後に視覚化できます。
- XenCenterを使用して、XenServerの仮想マシン (VM) および制御ドメイン (Dom0) のVNCコンソールセッションを制限および管理できるようになりました。
- XenCenter は XenServer ライセンスの管理を改善しました。
- サーバーにアップデートをインストールする際、XenCenter は、アップデート後のタスクに VM の再起動が含まれる場合に警告を発する新しい事前チェックを含むようになりました。
- プールに対して高可用性が構成され、その後無効にされた場合、以前に VM に指定された再起動の優先順位を保持したまま、再度有効にできるようになりました。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

修正された問題

- XenCenter が同じ AD アカウントを使用する多数のプールを管理している場合、AD アカウントのパスワードが変更されると、XenCenter は古いパスワードですべてのプールにログインしようとし、その結果、AD アカウントがロックアウトされる可能性があります。(CP-54814)
- **プロパティ** ウィンドウを使用してネットワーク設定を変更しても、変更が保持されません。(XSI-2089)
- スナップショットまたはカスタムテンプレートを XVA ファイルとしてエクスポートする際、スナップショットまたはテンプレートの名前に無効な Windows パス文字が含まれていると、XenCenter がクラッシュする可能性があります。(XSI-2055)
- **新規変換** ウィザードは、VMware ESXi/vCenter VM の合計ディスクサイズが 2TiB を超える場合、その変換をブロックします。(CA-424048)
- XenCenter は、XenServer 9 を実行しているシステムで、メンバー NIC の 1 つが管理インターフェイスである場合に、新しいボンディングネットワークを作成できません。(CA-421968)
- ツールバーの **戻る** ボタンと **進む** ボタンを使用してリソースビュー間を素早く移動すると、一部のビューが除外されます。(CA-397590)
- Conversion Manager 仮想アプライアンスとの互換性が強化されました。
- シンプロビジョニングされたストレージリポジトリを削除する際の GFS2 クラスタリング管理が改善されました。(CP-311077)
- サーバーへの不要なリクエストを削減することにより、パフォーマンスが向上しました。(CA-412104, CA-422495)
- その他のユーザーエクスペリエンスの問題 (CA-421989, CP-311733, CA-423906, XSI-2113)

2025.5.0 の新機能

Dec 08, 2025 公開

このアップデートには以下の新機能が含まれています。

- XenCenterで、VMにインストールされているXenServer VM Toolsのバージョンが表示されるようになりました。これには、Windowsゲスト用のManagement AgentおよびPVドライバーのバージョンと、Linuxゲスト用のエージェントバージョンが含まれます。ユーザーは、特定のバージョンのXenServer VM Toolsがインストールされているを検索し、グループ化することもできます。
- XenCenterで、サーバーがセキュアブートモードで起動したかどうかが表示されるようになりました。
- XenCenterで、新しいネットワーク運用メトリックのサポートが追加されました。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

修正された問題

- RBAC権限が不十分なユーザーが変更を保存しようとすると、サーバーの**プロパティ**ウィンドウがクラッシュすることがあります。(CA-420006)
- 場合によっては、サーバーの**プロパティ**ウィンドウに、サーバーにインストールされているすべてのドライバーが表示されないことがあります。(CA-419461)
- 新しいボンディングネットワークのボンドメンバーを選択する際、NICのリストに重複するエントリが含まれることがあります。(CA-420665)
- ダイアログボックスが開いている間に、ユーザーが追加のストレージリポジトリを修復しようとすると、XenCenterは**ストレージリポジトリの修復**ダイアログボックスの複数のインスタンスを起動します。(CA-415190)
- 新しい外部ネットワークを作成する際、選択されたVLAN番号が0でない場合でも、XenCenterはVLAN 0に関する情報メッセージを誤って表示することがあります。(CA-389419)
- **Corosyncアップグレード**ウィザード上の誤ったヘルプリンク。(CA-421480)
- その他のユーザーエクスペリエンスに関する問題 (CA-410114, CA-419886, CP-310601, CP-310652, CA-417876, CP-309339)。

2025.4.0の新機能

Oct 23, 2025 公開

新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- **クリーンシャットダウン時の高可用性 (HA) 動作の構成**

  高可用性 (HA) が内部 VM シャットダウンにどのように応答するかを制御できるようになりました。以前は、HA は VM 内から開始されたものを含むすべての VM シャットダウンを障害として扱い、VM を自動的に再起動していたため、混乱を招くことがよくありました。このアップデートにより、内部シャットダウン後に HA が VM を再起動するかどうかを指定できます。

  この設定は当初、API および CLI を介して利用可能でしたが、より簡単にアクセスおよび構成できるように、UI でも公開されるようになりました。

- **SSH アクセス管理**

  管理者は、XenAPI および xe CLI を介して、dom0 への SSH アクセスをプログラムで有効または無効にできるようになりました。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

この機能強化により、複数のホストにわたる集中型 SSH 制御が可能になり、Ansible や Salt などの自動化フレームワークがサポートされます。

これにより、手動での介入が減り、リモートシェルアクセスが不要な場合に SSH の露出が制限されるため、セキュリティコンプライアンスが向上します。

- **Corosync 3 クラススタックのアップグレード**

  XenServer 8.4 では、Corosync 2 に代わる Corosync 3 クラスタリングスタックのサポートが導入されました。

  新しいスタックは、GFS2 ベースのストレージプールにおけるクラスターの安定性、スケーラビリティ、および通信の信頼性を向上させます。

  既存の GFS2 クラスターを Corosync 2 から Corosync 3 に移行するための専用のアップグレードプロセスが追加されました。

  このアップグレードは、XenServer 8.4 から先に進むための前提条件です。

- 更新されたアップグレードプラグインを活用する、新しい事前チェックがローリングプールアップグレードの実行時に追加されました。
- Citrix Integration機能は現在GAであり、本番環境でサポートされています。

修正された問題

- プールに接続し、使用中のライセンスが非推奨でないことを確認すると、XenCenterがクラッシュすることがあります。(CA-415868)
- グループメンバーシップを通じてユーザーにプールへのアクセスが許可されており、直接許可されていない場合、ユーザーはOpenSSHコンソール経由でサーバーやVMに接続できません。(CA-414429).
- ライセンスマネージャー上のライセンスサーバーへのリンクが間違ったアドレスを指しています。(CA-416292)
- ユーザーが意図的に切断した後でも、XenCenterがプールに再接続してしまうことがあります。(CA-399647)
- **ローリングプールアップグレード**ウィザードの事前チェックパネルにある**アップグレードの開始**ボタンが、事前チェックの実行中に有効になることがあります。(CA-417146)
- オブジェクトのプロパティダイアログを通じてフォルダーの名前を変更すると、そのオブジェクトは古い名前のフォルダーに移動されます。(CA-393524).
- その他のユーザーエクスペリエンスの問題とエラー処理の改善。(CA-399641, CA-416280, CA-417646, CP-309841).

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2025.3.0の新機能

Aug 11, 2025 リリース

新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- **リモートプールからの更新によるプール参加の簡素化**: サーバーとプールを、別のプールと同期して更新するように構成できるようになりました。この機能により、すべて同じ更新レベルのサーバープールをより簡単に作成できます。プールを更新チャネルとして手動で構成できるだけでなく、**新しいプール**および**プールに追加**タスクは、参加するサーバーをプールと互換性のあるものにするために、このプロセスを自動的に実行します。

  詳細については、「XenServerホストの更新」を参照してください。

このアップデートには以下の改善が含まれています。

- VMインポートメカニズムの改善。OVA/OVFファイルからVMをインポートする際にテンプレートを選択するよう求められるようになり、インポートされたVM間の一貫性が向上します。このインポートメカニズムにより、Conversion Manager 8.5.0以降を含むプール内のVMにWindows VM Toolsを自動的にインストールすることもできます。
- **インポート**ウィザードの改善点:
  - ホストのリソースが不足している場合、**インポート完了後すぐに新しいVMを自動的に起動する**オプションを無効にします。
  - 重複する情報を削除します。
- **サーバー状態レポート**ウィザードの重複する**権限チェック**タブを削除します。
- アップグレード時にホストが証明書長の事前チェックに失敗した場合、この失敗が解決されるまで進行が妨げられます。詳細については、アップグレードできますか？を参照してください。
- ワークロードバランシングで、空きメモリのクリティカルしきい値の許容最大値を100 GBに増やします。
- **新しいサーバーの追加**ダイアログボックスで、キーボードショートカットを使用してテキストを操作する際の動作を改善します。
- XenCenterを使用して管理ネットワークを変更する際の動作の改善。

このアップデートには以下の動作変更が含まれています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- XenCenterは、Citrix Hypervisor 8.2 Cumulative Update 1にホットフィックスを自動的にダウンロードして適用する機能を提供しなくなりました。これは、XenServer 8.4へのアップグレードの機能には影響しません。

修正された問題

- XenCenterから1つ以上のVMをOVFまたはOVAファイルとしてエクスポートし、その後それらをインポートし直すと、インポートプロセス終了後にXenCenterがエラーを発生させます。インポートされたVMのいずれかを起動しようとすると、2番目のエラーが発生します。(CA-411119)
- プールの作成などの非同期ホスト操作は、XenServerホストへの接続が失われた場合にNullPointerExceptionをスローする可能性があります。(CA-409158)
- 「**災害復旧 - フェイルバック**」ウィザードは、事前チェックで警告が表示されると進行を妨げます。(CA-411227)
- 更新またはインストールプロセスがすでに実行されているときにXenCenterを更新しようとすると、XenCenterがクラッシュする可能性があります。(CA-407747)
- XenCenterがストレージ修復操作が失敗したと誤って表示することがあります。(CA-403820)
- VMインポート中のエラーにより、XenCenterが応答しなくなることがあります。(CA-413300)
- IPアドレスを削除した後にネットワーク管理を変更すると、管理ネットワーク構成が保持されません。(CA-415174)

2025.2.1

Jun 18, 2025 リリース

修正された問題

- ホストをメンテナンスモードから解除する際に、**VMを復元**を選択すると、退避されたVMのうち最初のVMのみがホストに移行されます。その後のVMの自動移行は失敗します。これらのVMは手動で元のホストに移行できます。(XSI-1924)

2025.2.0

May 07, 2025 リリース

新機能

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ライブパッチ適用に関するアドバイスの改善。XenCenterは、一連のアップデートに対して部分的なライブパッチが利用可能な場合に、追加のガイダンスを表示します。この情報を使用して、不要なホストの再起動を回避してください。
- VMインポートメカニズムの改善。ディスクイメージからVMをインポートする際にテンプレートを選択するよう促されるようになり、インポートされたVM間の一貫性が向上します。
- XenCenterと最新のXenServerアップデート間の互換性を確保します。現在のXenCenterバージョンと互換性のない一連のアップデートをプールに適用しようとすると、XenCenterはアップデートをブロックし、XenCenterを最新バージョンにアップデートするよう促します。このチェックにより、アップデートプロセス中にXenCenterがプールとの接続を失うことがなくなります。
- ルートパスワード変更オプションの改善。プールルートパスワードを変更するオプションは、**プール**メニューにのみ表示されるようになりました。以前は**サーバー**メニューにも表示されていました。
- 複数のプールまたはスタンドアロンホストを選択して同時にライセンスを適用する場合、XenCenterはこれらのプールを順次ではなく並行して処理するようになりました。この変更により、ライセンスプロセスが高速化されます。
- ホストがメンテナンスモードを終了すると、以前に退避されたVMは、1つずつではなく並行してホストに戻されるようになりました。これにより、VMを元のホストに戻すプロセスが高速化されます。

このアップデートには、以下の動作変更が含まれています。

- XenCenterは、以下のファイルタイプ（OVF、OVA、VHD、VMDK）をそれ自体に関連付けなくなりました。

修正された問題

- XenServer 8.4プールの場合、XenCenterのパフォーマンスグラフが空白になります。(XSI-1824)
- **ネットワーク > プロパティ**で、**新しいVMにネットワークを自動的に追加**設定への変更が保存されません。(CA-407424)
- 高可用性が有効になっている大規模なプールにXenCenterが接続している場合、そのプール内のホストがフェンスすると、XenCenterがクラッシュし、予期しないエラーを報告することがあります。(CA-404129)
- ツールスタックの再起動時に、**アップデートのインストール**ダイアログにエラーが表示されることがあります。(CA-399639)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- アップデートのインストール中に、アップデートの詳細を表示しようとすると、捕捉されない例外が発生します。(CA-407544)
- ホストの**プロパティ**ダイアログの**ログの宛先**パネルで、XenCenterはフィールドにポートを含めることを許可しません。(CA-404628)
- **新しいセキュリティ証明書**ダイアログのヘルプリンクが正しくありません。(CA-404836)
- インポート操作が中断された場合、部分的にインポートされたVMを削除できず、インポートを続行できないことがあります。(CA-380982)
- 「**VMのコピー**」ダイアログで、選択可能なストレージネットワークがない場合でも、次のステップに進めてしまいます。この動作によりエラーが発生します。(CA-408106)
- XenCenterをシャットダウンして再起動した後、保存されたホストとプールが表示されないことがあります。(CA-401317)
- XenCenterのログに、過剰な量のCitrix Virtual Apps and Desktops™接続マネージャーメッセージが含まれることがあります。(CA-408197)
- 「**更新のインストール**」ウィザードを使用して複数のスタンドアロンホストを更新する際に、ウィザードが正常に終了しません。(CA-407549)
- データソース「runstate_blocked」が「runstate_idle」と誤って表示されます。(CA-409548)
- 「**変換マネージャー**」ウィンドウを開くと、「**新しいセキュリティ証明書**」ダイアログがキャンセルしても繰り返し開きます。「**変換マネージャー**」ウィンドウを閉じても、開き続けます。(CA-409460)
- ADドメインの一部であるプールに、そのドメイン内のユーザーとして接続する際に、そのユーザーがプールに明示的に追加されていない場合、操作がハングします。(CA-406952)
- プールコーディネーターの緊急移行中にホストがメンテナンスモードを終了すると、エラーが発生することがあります。(CA-404662)

2025.1.0

Mar 03, 2025 リリース

新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- **XenCenterでのGFS2クラスターの健全性情報とアラートの表示。** プールでGFS2クラスタリングが有効になっている場合、XenCenterはプールおよびプール内のホストの「**全般**」タブに「**GFS2クラスター**」セクションを表示します。詳細については、「プールのプロパティの表示」および「ホストのプロパティの表示」を参照してください。GFS2クラスター化されたプール内のライブホストの数が変更された場合、またはプールがクォーラムを失う寸前になっ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

た場合、XenCenterはアラートを表示します。詳細については、「アラート」を参照してください。

- (XenServer 8.4およびWorkload Balancing 8.4.0) **Workload Balancing証明書の自動インポート。** XenServerをWorkload Balancing仮想アプライアンスに接続すると、XenCenterはWorkload Balancing証明書をXenServerプールに自動的にインポートします。この機能により、XenServerとWorkload Balancing仮想アプライアンス間の信頼関係の管理が簡素化されます。詳細については、「Workload Balancingへの接続」を参照してください。

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

- 表示される製品バージョンをXenServer 8.4に更新
- Citrix Hypervisor 8.2 Cumulative Update 1の今後のサポート終了についてユーザーに通知.
- 視認性向上のため、パフォーマンスグラフの色を改善.
- 部分的に更新されたプールでのアイコン表示の改善.
- ホットキーの動作の改善.
- **新規VM > GPU**パネルの文言の改善.
- XenCenterプロキシ設定に関する文言の改善.
- Conversion Manager接続に関するメッセージ表示の改善.
- ホストを退避させる際の動作の改善.

修正された問題

- XenCenter 2024.3.0以降で多数のホストとプールを管理している場合、CPU使用率が高くなり、XenCenter UIでラグが発生する可能性があります。(CA-391284)
- XenCenterは、VM作成時に、明示的に自動追加しないようにマークされていない限り、すべてのネットワークを誤って自動的に追加します。正しい動作は、明示的に自動追加するようにマークされたネットワークのみを自動的に含めることです。(CA-403749)
- **Citrix®**タブ > **マシン**セクションを表示中にVMを移行すると、ビューが更新されず、VMは元の場所に表示されたままになります。(CA-402543)
- XenCenterは、デフォルトテンプレートからVMを作成する際、**新規VM**作成ウィザードの**ネットワーク構成**ページで最大4つのネットワークを表示します。(CA-400335)
- VMをインポートする際、**戻る**ボタンを使用して**場所**タブに戻ると、選択されたホストの値が変更されている可能性があります。(CA-380739)
- PVS Accelerator は、デバイス番号が最も小さい VIF がデバイス 0 にない場合、VM に対して有効にできません。(CA-402911)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- サーバーにローカルの XFS SR しかない場合、XenCenter を介してそのサーバー上に新しい VM を作成することはできません。
- XenServer 8.4 サーバーに補足パックを適用しようとすると、XenCenter はそのパックをオフライン更新バンドルとして誤って扱います。(CA-406387)

XenCenter 2024.4.0

Dec 05, 2024 リリース

新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- (プレビュー) Citrix 統合。XenCenter を Citrix Virtual Apps and Desktops 環境に接続して、XenServer プールでホストされている Citrix Virtual Apps and Desktops マシンとセッションに関する情報を表示します。詳細については、「Citrix 統合」を参照してください。
- (XenServer 8.4) XenServer のオフライン更新。この機能を使用して、エアギャップサーバーを更新したり、より高いレベルの更新が適用されている既存のプールにホストを参加させたり、本番環境への展開前に更新テストをより適切に管理したりできます。詳細については、「手動更新」を参照してください。
- VM 変換の改善。XenCenter 2024.4.0 と Conversion Manager 仮想アプライアンス 8.4.0 を組み合わせることで、変換された VM から VMware Tools を自動的にアンインストールし、XenServer VM Tools をインストールできます。XenServer 8.4 のみの場合、このリリースでは Windows 11 VM の変換もサポートされます。詳細については、「Conversion Manager - 新機能」を参照してください。

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

- スナップショットからの VM のクイック作成。クイック作成オプションは、スナップショットでも利用できるようになりました。

修正された問題

- XenCenter を使用して DNS 設定を変更すると、プール上の IP 設定が警告なしに変更されることがあります。(CA-389459)
- ホストをプールに追加する際の Active Directory ドメインチェックが誤って失敗することがあります。この失敗は、チェックが大文字と小文字を区別するために発生します。(CA-399256)
- VMの作成時またはXVAのインポート時に、XenCenterは利用できないSRを持つホストまたはプールを選択することを許可します。(CA-359985)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **メンテナンスモードの終了**ダイアログは、シャットダウン、一時停止、または退避しなかったVMを復元するよう提案します。(CA-311142)
- XenCenterのメインパネルのサイズを変更した後、長いプール名やサーバー名がライセンス情報やログイン情報を隠してしまうことがあります。(CA-399240)
- Citrix Hypervisor 8.2 Cumulative Update 1のプールまたはサーバーにホットフィックスを適用する際、事前チェックパネルからVMをシャットダウンすることを選択すると、シャットダウン操作が成功してもエラーを報告する場合があります。(CA-389409)
- XenCenterがホストをメンテナンスモードから復帰させるとき、すべてのVMが復元されるわけではありません。(CA-400059, CA-400930)
- その他のユーザーエクスペリエンスに関する問題。(CA-400057, CA-401369, CA-375830, CA-393494)

XenCenter 2024.3.1

Oct 10, 2024 リリース

新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- Windows VM、カスタムテンプレート、またはスナップショットの場合、XenCenterの**新しいVM**ウィザードでWindows Updateを介してXenServer VM ToolsのI/Oドライバーアップデートを管理できるようになりました。Windows Updateを介したI/Oドライバーアップデートの有効化の詳細については、「VM作成手順の概要」を参照してください。

修正された問題

- VMの`has-vendor-device`フィールドがtrueに設定されており、そのVMをテンプレートまたはスナップショットに変換すると、XenCenterはこの値を保持できず、テンプレートまたはスナップショットから作成された新しいVMの`has-vendor-device`値が不正になります。(CA-391310)
- XenCenterのサイレントインストール中、既存のインストールを検出するシーケンスが標準UIインストール中にのみ実行されるため、インストーラーは以前のバージョンを削除できません。(CA-399231)
- XenCenterで多数のCitrix Hypervisor 8.2 CU1ホストを管理している場合、CPU使用率の高さやUIの一時的なフリーズなど、GUIのパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。(CA-397980)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- XenCenter 2024.1.0以降を使用して、オブジェクトのカスタムフィールドに値を設定または編集すると、オブジェクトの`other_config`内のすべての値が削除されます。この問題は、オブジェクトと環境によっては予期しない動作を引き起こす可能性があります。カスタムフィールド値を追加または編集しないことを強くお勧めします。(CA-397587)
- XenServer 8.4プールの場合、VMグループ機能が無効になっているか、ライセンスが付与されていない場合、XenCenterで一部の要素とメニューオプションが誤って表示されます。(CA-396046)
- **Install Update**ウィザードの**Pre-checks**パネルで、スナップショットの完了待ちタスクがあることを示す情報ポップアップが表示されますが、このガイダンスはVMにのみ適用されます。(CA-395739)
- XenCenterでローリングプールアップグレードを実行すると、**Rolling Pool Upgrade**ウィザードの最終ページで、24時間形式のログタイムスタンプが12時間形式で誤って表示されます。(CA-393819)
- プールまたはホストを表示しているときに、ライセンスの有効期限が切れている場合、ライセンス情報が正しく表示されません。(CA-392951)
- XenCenter 2024.1.0では、プールまたはVMの**Properties**ペインが、時々正しくレンダリングされなくなります。(CA-389831)
- ホストがオフラインの場合、すべてのアクティブなホストが共有ストレージに正しく接続されているにもかかわらず、共有ストレージが破損していると報告されます。(CA-353531)

XenCenter 2024.3.0

Aug 22, 2024 リリース

新機能

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- (XenServer 8.4) プール内のホストで起動されるアンチアフィニティ配置グループにVMを割り当てることができるようになりました。以下のアンチアフィニティ配置ルールに従います。

  a. 特定のグループ内のすべてのVMが実行されている唯一のホストは存在しません。

  b. 各ホストにおけるグループ内のVMの数は、可能な限り均等になります。

  これらのグループのいずれかのVMがホストで起動または退避されると、XenServerは、VMグループがこれらのルールに可能な限り厳密に従うことができるホストにVMを配置することを選択します。

  詳細については、VMグループの管理を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

- (XenServer 8.4) XenCenterは、ホストの電源投入にIPMIを使用することをサポートするようになりました。詳細については、ホストの電源投入の構成を参照してください。
- シンプロビジョニングされたLUN上にGFS2 SRを作成しようとすると、XenCenterは警告を表示します。この構成は推奨されず、容量不足を引き起こす可能性があります。詳細については、シンプロビジョニングされた共有GFS2ブロックストレージを参照してください。

修正された問題

- 複数のXenCenterインスタンスで同じXenServerプールに接続すると、どちらのXenCenterも利用可能なアップデートを表示しません。この問題を回避するには、XenCenterをプールから切断し、再接続することができます。(CA-389319)
- **リソース**ペインで複数のVMを選択すると、**VM**メニューから利用できるアクションとコンテキストメニューで利用できるアクションが一致しません。(CA-61207)
- コンテキストメニューの一部のショートカットキーが一意ではありません。(CA-395822)
- VMの**起動オプション**パネルに不正確な情報が表示されることがあります。(CA-396230)
- **組織**ビューまたは**インフラストラクチャ**ビューで複数の項目を選択し、これらのビューを切り替えると、選択が失われます。(CA-391372)
- Aug 17, 2024以降、XenCenter 2024.2.1への自動アップデートが機能しなくなりました。この障害は、期限切れの証明書が原因です。自動アップデートは、XenCenter 2024.3.0リリースで再開されました。

XenCenter 2024.2.1

Jul 09, 2024リリース

新機能

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

- XenCenterインストールウィザードに、現在のインストールによってデバイスから以前のバージョンのXenCenterアプリケーションがすべて削除されるという情報が追加されました。
- VMware ESXi/vCenter VMで、変換がサポートされていないゲストオペレーティングシステムが実行されている場合、変換プロセスを開始する前に警告を表示するように、**Conversion Manager**ウィンドウが改善されました。
- VMリカバリモード機能が削除されました。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

修正された問題

- Citrix Hypervisor 8.2 Cumulative Update 1ホストで、自動更新を通じてホットフィックスを適用しようとすると、XenCenterが誤って「ライセンスは非推奨であり、更新が適用されるとトライアルエディションに戻る可能性があります」という警告を表示します。(XSI-1676)
- ワークロードバランシングに関連する操作（接続、一時停止、再開など）を実行すると、XenCenterがワークロードバランシングアプライアンスの正しい状態を表示できない場合があります。(XSI-1674)
- Workload Balancing仮想アプライアンスがオフラインの場合、XenCenter 2024.2.0を使用してVMを別のホストに移行することはできません。

XenCenter 2024.2.0

Jun 06, 2024 リリース

新機能

注：

- Citrix Hypervisor 8.2 Cumulative Update 1およびXenServer 8.4で製品サポートを受けるには、XenCenter 2024.2.0が必要です。

アップグレードに関する注意事項:

- XenCenter 2024.2.0は、XenCenter 8.2.xを含む以前のバージョンのXenCenterに優先します。XenCenter 2024.2.0をインストールすると、システム上の他のバージョンのXenCenterが削除されます。
- XenCenter 2024.2.0が、システムにインストールしたYYYY.x.x形式のXenCenterの最初のバージョンである場合、システム上のXenCenter 8.2.xのインスタンスからサーバーリストがインポートされます。パスワードはインポートされません。
- XenCenter YYYY.x.x のバージョンが XenCenter 8.2.x と並行してインストールされている場合、このバージョンは XenCenter 8.2.x からサーバーリストをインポートしません。
  XenCenter 8.2.x からサーバーリストを移行するには、次の手順を順番に実行します。

  a. XenCenter 8.2.x からデータをエクスポートします。**ファイル > サーバーリストのエクスポート** に移動します。

  b. XenCenter 2024.2.0 をインストールします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

c. XenCenter 2024.2.0 にデータをインポートします。**ファイル > サーバーリストのインポート** に移動します。

詳細については、「管理対象サーバーリストのエクスポートとインポート」を参照してください。

このアップデートには、次の新機能が含まれています。

- (XenServer 8.4) **VHDX または AVHDX ディスクイメージを VM としてインポート:** VHDX/AVHDX ファイルをプールまたは特定のホストに VM としてインポートできるようになりました。VHDX は、VHD 形式の改良版であり、より大きな容量に加えて、パフォーマンス、フォールトトレランス、データ保護機能が向上しています。XenCenter の **インポート** ウィザードを使用して VHDX/AVHDX ファイルをインポートする方法については、「ディスクイメージのインポート」を参照してください。

  Citrix のお客様は、この機能を使用して VM を VMware から XenServer に移行することもできます。Citrix Provisioning は、ソフトウェアストリーミングテクノロジーの一部として、共有ディスクイメージ (vDisk) を VHDX/AVHDX ファイルとして保存します。XenCenter の **インポート** ウィザードを使用して VHDX/AVHDX ファイルをインポートすることで、vDisk を VMware から XenServer に簡単に移行できます。詳細については、「VMware からの移行」を参照してください。
- XenCenter を使用して、プールの管理インターフェイスの TCP ポート 80 を閉じます。詳細については、「プールプロパティの変更」を参照してください。

  プールまたはサーバーのポート 80 のステータスは、**管理インターフェイス** セクションの **全般** タブでも確認できます。

このアップデートには、次の改善が含まれています。

- XenCenter は、ホストの **全般** タブにホストハードウェアのメーカーとモデルを一覧表示します。
- ライセンス情報の表示の改善。
- **新規変換** ウィザードでのブランディング情報の改善。
- NIC ラベリングの改善。「FCoE Capable」列は「Software FCoE Capable」に名称変更されました。
- 「**Conversion Manager**」ウィンドウでのエラー処理とスレッド処理の改善。
- 「**Copy VM**」ウィザードでのエラー処理の改善。
- 「**New VM**」ウィザードでのエラー処理の改善。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- XenCenterにXFSファイルシステムタイプがリストされるようになりました。

修正された問題

- 更新タスクに関するガイダンスを含まない一部の更新は、「**By update**」ビューに表示されません。これらの更新を表示するには、「**By server**」ビューで確認できます。
- Standard Editionライセンスを持つお客様は、XenCenterを介してWindows VMにGPUパススルーを実行できません。
- XenCenter 2024.1.0では、新しいフォルダーを作成しても、変更されたプールから切断して再接続するまで表示されません。また、フォルダーが削除されても、再接続するまで表示されたままになります。
- 動的VHDのインポートでエラーが発生します。
- ライセンスマネージャーが、選択されていないライセンスを割り当てたり、ライセンスの解放を拒否したりする場合があります。

XenCenter 2024.1.0

Mar 06, 2024 リリース

新機能

注:

XenServerプールにMar 06, 2024以降にリリースされた更新を適用する前に、このバージョンのXenCenter以降を使用している必要があります。常に最新バージョンのXenCenterをインストールしてください。

このアップデートには、以下の新機能が含まれています。

- (XenServer 8.4) **更新ガイダンスの改善:** 更新の一部として実行されるタスクについて、より詳細なガイダンスを追加しました。これらの変更は、更新タスクがVMに与える可能性のある中断を最小限に抑えるように設計されています。タスクは、**必須**、**推奨**、**完全な有効性**、**ライブパッチ**に分類されます。これらの分類により、ホストまたはVMにダウンタイムや軽微な中断を引き起こす可能性のある更新タスクが、お客様の環境とリスクプロファイルにとって必要かどうかを判断できます。詳細については、「XenServer ホストの更新」を参照してください。
- (XenServer 8.4) **SNMP:** XenServerが消費するリソースをリモートで監視するために、SNMPと任意のNMSを使用できるようになりました。この機能を使用すると、XenServerホストを監視するためのトラップを設定することもできます。トラップとは、XenServerで特定のイベン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

トが発生したことをNMSに通知するエージェント開始メッセージです。詳細については、「SNMP を使用したホストおよび dom0 リソースの監視」を参照してください。

- **ライセンスの変更:** XenServer 8.4のパブリックプレビュー期間中にCitrix Virtual Apps and Desktopsライセンスを使用していた場合、このライセンスは非推奨となり、今後XenServer 8.4ではサポートされません。XenCenterは、このライセンスが非推奨であることを警告し、XenServer Premium Editionライセンスをホストに適用するまで、Citrix Hypervisor 8.2 CU1からXenServer 8.4へのアップグレードを防止します。

  XenServerプールでCitrix Virtual Apps and Desktopsワークロードを実行するには、XenServer Premium Editionライセンスが必要です。ライセンスの取得については、XenServer Webサイトを参照してください。

  XenServerは、Citrixワークロードを実行するためのCitrix for Private Cloud、Citrix Universal Hybrid Multi-Cloud、Citrix Universal MSP、およびCitrix Platform Licenseサブスクリプションのエンタイトルメントになりました。詳細はこちら。

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

- **VMプロパティ**から**詳細オプション**パネルが削除されました。このパネルには、不要になった古いオプションが含まれていました。
- **仮想インターフェースのプロパティ**ペインで、XenCenterはQoS制限をMBit/sで表示するようになりました。
- XenCenterに表示される単位は、単位の基数（1000または1024）を正確に反映するように修正されました。単位が1024の倍数で計算される場合は、XenCenterはkiB、MiB、GiB、TiBなどを表示します。単位が1000の倍数で計算される場合は、XenCenterはkB、MB、GB、TBなどを表示します。
- VMエクスポートウィザードのユーザビリティが向上しました。
- XenCenterは、XenCenterからアクセス可能なすべてのオブジェクトについて、**プロパティダイアログ > 全般**タブにオブジェクトのUUIDを表示するようになりました。

修正された問題

- 以前は、XenCenterでは、ホストを現在実行しているのと同じバージョンにローリングプールアップグレードすることが可能で、これによりプールが破損した状態になっていました。XenCenterは現在、この動作を防止します。
- VMスナップショットスケジュールの**プロパティ**ダイアログで、**スナップショットスケジュール**パネルが読み込まれないことがあります。(CA-387186)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- XenCenter は、事前チェックが失敗した場合でも、誤ってアップグレードを続行させてしまうことがあります。(CA-386488)
- メンテナンスモードを終了した後、VM が元のホストに復元されないことがあります。(CA-387197)
- Standard Edition のユーザーには、アップデートが提供されません。(CA-389235)
- XenCenter は、初回起動時に接続状態を保存するよう促しません。(CA-380853)
- タスクバーにピン留めされている場合、XenCenter のアップデート後に XenCenter のタスクバーアイコンが消えます。(CA-379341)
- XenCenter は、サスペンドされた VM を XVA としてエクスポートする際に、電源状態を保持しません。(CA-368247)
- XenCenter は、プールオペレーターがアプライアンスをインポートすること、および VM 管理者がアプライアンスをエクスポートすることを誤ってブロックします。(CA-389487)

XenCenter 2023.4.0

Dec 04, 2023 リリース

新機能

このアップデートには、以下の改善が含まれています。

- (XenServer 8.4) **NRPE を使用したホストおよび dom0 リソースの監視** XenServer 8.4 では、プール管理者ロールを持つユーザーは、Nagios Remote Plugin Executor (NRPE) をサポートするサードパーティの監視ツールを使用して、ホストおよび dom0 リソースを監視できます。NRPE の設定方法の詳細については、「NRPE を使用したホストおよび dom0 リソースの監視」を参照してください。
- (XenServer 8.4) **64 vCPU のサポート** XenCenter は、Linux または Windows VM で最大 64 の仮想 CPU をサポートできるようになりました。
- 「**ここをクリックして DVD ドライブを作成**」オプションを選択すると、新しい DVD ドライブを作成するかどうかを確認するプロンプトが表示されるようになりました。

このアップデートには、以下の動作変更が含まれています。

- XenCenterでは、VMの平均CPUを示すパフォーマンスグラフが削除されました。

修正された問題

- **Install Updates** ウィザードを使用してホストにアップデートを適用する際、ウィザードを使用してWLBを一時停止すると、XenCenterはWLBの実行を自動的に再開できません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 同じXenServerプール内の別のホストのローカルストレージにVMをライブマイグレーションすることはできません。
- **XenCenter Setup** ウィザードで、**セットアップウィザードの終了時にXenCenterを起動する** チェックボックスがなくなりました。

XenCenter 2023.3.2

Oct 05, 2023 リリース

新機能

修正された問題

- GFS2 SRを持つプールでは、XenCenterを使用してサーバー状態レポート (SSR) を生成すると失敗する場合があります。(CA-375900)
- CPU使用率が100%のホストでパフォーマンスグラフを読み込もうとした後、XenServerホストでパフォーマンスグラフを読み込もうとすると、グラフのレンダリングに問題が発生します。(CA-376887)
- サードパーティ製ソフトウェアのファイル命名の問題により、XenCenterが起動に失敗する場合があります。(CA-382850)

XenCenter 2023.3.1

Aug 24, 2023 リリース

新機能

- (XenServer 8.4) XenCenterを通じてXenServer 8.4への定期的なアップデートが提供され、これにより、以前よりも迅速なペースで新機能やバグ修正を提供する、より効率的なリリースプロセスから恩恵を受けることができます。詳細については、「ホストの更新」を参照してください。
- XenCenterのアップデートは、UI内からダウンロードして適用できます。詳細については、「XenCenterの更新」を参照してください。
- XenCenterを使用して、XenServer 8.4の非本番環境を管理できます。
- PuTTYはXenCenterにバンドルされなくなりました。XenCenterを使用してXenServerホストにSSHコンソールを起動するには、外部SSHコンソールツールをインストールし、XenCenterがそれを使用するように構成されていることを確認する必要があります。詳細については、「外部SSHコンソールを使用するようにXenCenterを構成する」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

修正された問題

このアップデートには、以下の問題に対する修正が含まれています。

- Windows 10 (1903以降) のVMでは、XenServer VM Toolsのインストール後、XenCenterで**リモートデスクトップに切り替える**オプションが利用可能になるまでに数分の遅延が発生する場合があります。このオプションをすぐに表示させるには、ツールスタックを再起動できます。(CA-322672)
- 合計2 TBを超える複数のVMディスクを作成しようとすると、XenCenterが無効なエラーを返します。(XSI-1467)

XenCenter 8.2.7

詳細については、「XenCenter 8.2.7」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter® のインストール

XenCenter は、ネットワーク経由で XenServer® ホストに接続できる Windows マシンにインストールする必要があります。

システム要件

さらに、XenCenter には以下のシステム要件があります。

- **オペレーティングシステム:**
  - ウィンドウズ 10
  - ウィンドウズ 11
  - ウィンドウズ サーバー 2016
  - ウィンドウズ サーバー 2019
  - ウィンドウズ サーバー 2022
  - ウィンドウズ サーバー 2025
- **.NET Framework:** バージョン 4.8
- **CPU 速度:** 最小 750 MHz、1 GHz 以上を推奨
- **RAM:** 最小 1 GB、2 GB 以上を推奨
- **ディスク容量:** 最小 100 MB
- **ネットワーク:** 100 Mbit/s 以上のNIC
- **画面解像度:** 1024x768 ピクセル以上

XenCenterからXenServerホストに接続する外部SSHコンソールを起動できるようにしたい場合は、以下のいずれかのアプリケーションをシステムにインストールしてください。

- PuTTY
- OpenSSH (一部のWindowsオペレーティングシステムにはデフォルトでインストールされています)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenterのインストール

1. XenServerダウンロードページから、XenCenterインストールファイル`XenCenter.msi`をダウンロードします。
2. インストーラーファイル`.msi`を起動します。
3. **XenCenter セットアップ**ウィザードに従ってXenCenterをインストールします。

   a. 導入パネルで、**次へ**をクリックします。

   b. **カスタムセットアップ**では、以下のオプションを設定できます。

   - XenCenterのインストール先。デフォルトの場所は`C:\Program Files (x86)\XenServer\XenCenter\`です。
   - XenCenterをすべてのユーザーが利用できるようにするか、現在のユーザーのみが利用できるようにするか。デフォルト値は**自分のみ**で、XenCenterは現在のユーザーにのみインストールされます。

   このパネルでは、**ディスク使用量**をクリックして、コンピューターで利用可能なディスク容量と、XenCenterのインストールに必要な容量を確認することもできます。

   次へをクリックして選択内容を確定します。
4. 「**インストール**」をクリックしてインストールを開始します。インストールプロセスは短時間で完了します。
5. XenCenterのインストールが完了したら、「**セットアップウィザードの終了時にXenCenterを起動する**」を選択します。「**完了**」をクリックします。

XenCenterを初めて起動すると、XenCenterの更新を定期的に確認するかどうかを尋ねられます。この機能はデフォルトで有効になっています。XenCenterが更新の確認とダウンロードに使用するプロキシサーバーを構成できます。

詳細については、「XenCenterの更新」(/ja-jp/xencenter/current-release/updates-xencenter.html)を参照してください。

XenCenterをXenServerホストに接続する

サーバーにXenServerのバージョンをまだインストールしていない場合は、まず「XenServerのインストール」(/ja-jp/xenserver/9/install.html)の手順を完了してください。

1. XenCenterを起動します。プログラムは「**ホーム**」タブで開きます。
2. 「**新しいサーバーの追加**」アイコンをクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. 「**サーバー**」フィールドにXenServerホストのホスト名またはIPアドレスを入力します。XenServerホストのインストール時に設定したrootユーザー名とパスワードを入力します。「**追加**」をクリックします。

ホストを初めて追加すると、「**接続状態の保存と復元**」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログでは、ホスト接続情報の保存とホスト接続の自動復元に関する設定を行うことができます。

後で設定を変更したい場合は、XenCenterを使用して変更できます。

1. メインメニューから「**ツール > オプション**」を選択します。「**オプション**」ダイアログボックスが開きます。
2. 「**保存と復元**」タブを選択し、設定を行います。
3. 「**OK**」をクリックして変更を保存します。

XenCenterで外部SSHコンソールを使用するように構成する

XenCenterは、XenServerホストに接続する外部SSHコンソールを起動できます。サポートされている外部SSHコンソールツールはPuTTYとOpenSSHです。外部SSHコンソールを使用するには、XenCenterをホストするシステムにこれらのツールのいずれかまたは両方がインストールされていることを確認してください。

XenCenterでPuTTYとOpenSSHの両方のパスを設定できます。ただし、XenCenterはオプションダイアログで選択されたツールのみを使用しようとします。デフォルトでは、XenCenterはインストールされているツールを選択します。両方のツールがインストールされている場合、PuTTYが選択されます。

外部SSHコンソールツールへのパスを設定していない場合、XenCenterは起動時にPuTTYまたはOpenSSHのインストール場所を特定しようとし、検出したパスを使用します。

外部SSHコンソールツールを設定するには、以下の手順を完了してください。

1. XenCenterのメインメニューで、**ツール > オプション** に移動します。
2. **オプション** ダイアログで、**外部ツール** タブに移動します。
3. **外部SSHクライアント** セクションで、以下のオプションを設定できます。
    - 使用したい外部ツールを選択します。
    - 外部ツールの実行可能ファイルへのパスを参照または入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. 変更を保存するには、**OK** をクリックします。

XenCenterのアンインストール

XenCenterをアンインストールするには：

1. **Windowsコントロールパネル** を開きます。
2. **コントロールパネル** の **プログラム** で、**プログラムのアンインストール** を選択します。
3. リストから **XenCenter** を選択し、**アンインストール** を選択します。

XenCenterアプリケーションをアンインストールしても、XenCenterユーザー構成データとログファイルは削除されません。ログファイルとユーザー構成データは、次のフォルダーに保存されます。

```
%appdata%\XenServer\XenCenter
```

XenCenter® の起動または終了

XenCenter の起動

XenCenter セッションを開始するには、次のいずれかの操作を行います。

- 「**スタート**」メニューで、「**スタート > すべてのプログラム > XenCenter**」を選択します。
- 「**XenCenter**」デスクトップ ショートカットをダブルクリックします。

以前に XenCenter を設定して、起動時にサーバー接続を復元し、メインパスワードを設定した場合、XenCenter は続行する前にこのパスワードの入力を求めます。サーバーの再接続設定方法の詳細については、サーバー接続状態の保存 を参照してください。

ユーザーごとに実行できる XenCenter セッションは 1 つだけです。

XenCenter の終了

現在の XenCenter セッションを終了するには、「**ファイル**」メニューで「**終了**」を選択します。

XenCenter を終了したときに実行中のサーバーと VM は、XenCenter ウィンドウが閉じても引き続き実行されます。

進行中の XenCenter タスクがある場合、終了しようとすると XenCenter から警告が表示されます。そのまま終了することもできますが、その場合、未完了のタスクが正常に完了しない可能性があります。または、未完了のタスクが完了するまで待つこともできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter® のアンインストール

XenCenter をアンインストールするには:

1. **Windows コントロール パネル**を開きます。
2. **コントロール パネル**の**プログラム**で、**プログラムのアンインストール**を選択します。
3. リストから**XenCenter <version>**を選択し、**アンインストール**を選択します。

XenCenter アプリケーションをアンインストールしても、XenCenter のユーザー構成データとログ ファイルは削除されません。ログ ファイルは次のフォルダーに保存されます:

```
%appdata%\XenServer\XenCenter
```

ユーザー構成データは次のフォルダーに保存されます:

```
%appdata%\XenServer\XenCenter.exe_Url_<hash>\<version>\user.config
```

`msiexec` を使用してアンインストールする

`msiexec` を使用して XenCenter をインストールした場合、**プログラムの追加と削除**の一覧に表示されないことがあります。この場合、代わりに `msiexec` を使用してプログラムをアンインストールできます。

コマンド プロンプトを開き、次のコマンドを実行します:

```
msiexec /x <xencenter-installation-msi-file-name>
```

`<xencenter-installation-msi-file-name>` を XenCenter インストーラー `.msi` ファイルの名前に置き換えます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter® ワークスペースの探索

GUIレイアウトの番号付き図。1はウィンドウ上部の行、2は1の下の行、3はウィンドウ左中央のパネル、4はウィンドウ左下のパネル、5はウィンドウ下部の行、6はウィンドウ右中央の大きなパネルのラベルです。6は3と4の反対側にあり、両方を合わせた高さと同じです。(/en-us/xencenter/media/xcwindow_new.png)

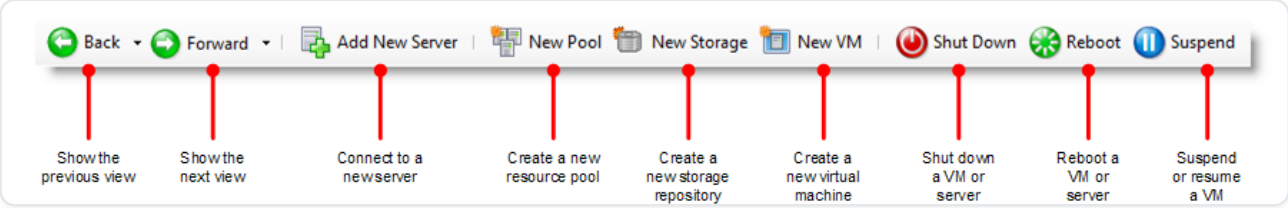
参照番号	名前	説明
1	メニューバー	サーバー、プール、SR、VM、およびテンプレートを管理するために必要なすべてのコマンドが含まれています。
2	ツールバー	最も頻繁に使用されるメニューコマンドのサブセットへのクイックアクセスを提供します。「ツールバー」を参照してください。(/ja-jp/xencenter/current-release/toolbar.html).
3	リソースペイン	現在XenCenterから管理されているサーバー、プール、VM、テンプレート、およびSRを一覧表示します。「リソースペイン」を参照してください。(/ja-jp/xencenter/current-release/resourcespane-viewing.html)
4	ナビゲーションペイン	ナビゲーションボタンを一覧表示します。ボタンをクリックすると、リソースペインに管理対象リソースの対応するビューが表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

参照番号	名前	説明
5	ステータスバー	現在のタスクに関する進行状況情報を表示します。
6	プロパティタブ	選択したリソースのプロパティを表示および設定します。「タブ」を参照してください。

ツールバー

XenCenter® ツールバーは、新しいサーバーへの接続やVMの作成など、最も一般的なXenCenterタスクにすばやくアクセスできるようにします。

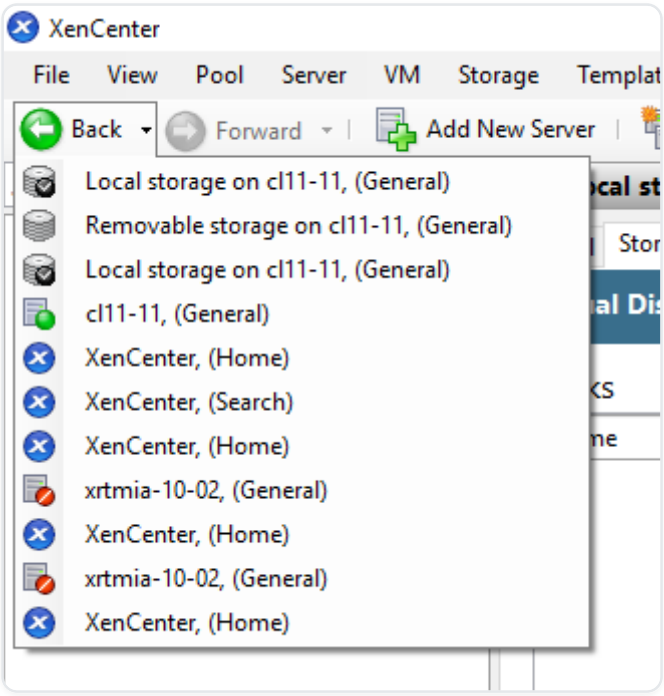


ツールバーの戻るボタンと進むボタンの使用

ツールバーの**戻る**ボタンと**進む**ボタンは、ブラウザの**戻る**ボタンと**進む**ボタンのように機能し、リソースのビュー間をすばやく移動できます。

- 以前のリソースビューを表示するには、**戻る**を選択します。
- 次のリソースビューを表示するには（**戻る**を使用した場合）、**進む**を選択します。
- このセッションで使用したリソースビューのいずれかを表示するには、**戻る**または**進む**ボタンの横にある下矢印を選択し、リストからビューを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



ツールバーの表示と非表示

XenCenterウィンドウにはデフォルトでツールバーが表示されます。ただし、コンソール表示のためにXenCenterウィンドウのスペースを増やす必要がある場合など、ツールバーを非表示にすることができます。ツールバーを非表示にするには、次のいずれかを実行します。

- ツールバーの任意の場所を右クリックし、ショートカットメニューで**Show Toolbar**のチェックマークを外します。
- **表示**メニューで、**ツールバー**のチェックマークを外します。

注：

XenCenterツールバーの表示設定に対する変更は永続的であり、セッション間で保存されます。

「リソース」ペイン

「**リソースペイン**」は、管理対象のリソース（サーバー、プール、VM、ストレージ）に関する詳細を表示します。リソースは、物理的な場所、またはフォルダー、タグ、カスタムフィールドなどのプロパティで表示できます。「**リソース**」ペインの表示は、「**ナビゲーション**」ペインでクリックしたボタンによって異なります。「**ナビゲーション**」ペインのさまざまなボタンについては、次のセクションの表を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

リソース名で簡単なテキスト検索を行うには、「**リソース**」ペインの上にある「**検索**」ボックスに単語またはフレーズを入力します。入力すると、一致するリソースが表示されます。クエリを削除してすべてのリソースを再度表示するには、「**検索**」ボックスの右側にある「**x**」ボタンをクリックします。

以前に保存した検索クエリを「**リソース**」ペインに適用することもできます。XenCenterには、いくつかの便利な保存済み検索が含まれています。詳細については、「保存済み検索」を参照してください。

いつでも独自のカスタム検索を作成してこのリストに追加することもできます。詳細については、「検索クエリの作成」を参照してください。

保存済み検索を「**リソース**」ペインの内容に適用するには、「**ナビゲーション**」ペインで「**保存済み検索**」を選択し、リストから検索クエリを選択します。

次の表に、「**ナビゲーション**」ペインで利用できるさまざまなオプションを示します。

ナビゲーションボタン	説明
インフラストラクチャ	リソースを物理的な場所、つまり所属するホストまたはプール別に表示します。
オブジェクト	リソースをプール、サーバー、VM、テンプレートなどのカテゴリ別に表示します。
組織ビュー	リソースをフォルダー、タグ、カスタムフィールド、またはvApp別に表示します。
保存済み検索	選択された検索条件に基づいてリソースを表示します
通知	アラート、更新、イベントを一元的に確認できる通知ビューを表示します

ナビゲーションボタンの詳細については、ナビゲーションペインを参照してください。

「ナビゲーション」ペイン

XenCenter® の「**ナビゲーション**」ペインは、管理対象リソースを表示およびアクセスするためのさまざまなオプションを提供します。以下に示すナビゲーションボタンを使用すると、リソースをすばやく表示および管理できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 「**インフラストラクチャ**」
- 「**オブジェクト**」
- 「**組織ビュー**」
- 「**保存された検索**」
- 「**通知**」

以下のセクションでは、「**ナビゲーション**」ペインのボタンの概要を説明します。

インフラストラクチャ

ナビゲーションペインのインフラストラクチャビューの一部。XenCenter を最上位ノードとし、その下に各プールまたはサーバーがノードとして配置されたツリー構造です。(/en-us/xencenter/media/infrastructure-view.png)

このビューはデフォルトビューです。「**インフラストラクチャ**」ビューには、リソースが物理的な場所別にツリービューで表示されます。所属するプールまたはサーバー別に、サーバー、VM、テンプレート、およびストレージリソースのリストが表示されます。

オブジェクト

「種類別のオブジェクト」を最上位とし、その下に展開可能なノードがあり、次のラベルが付いたツリー構造です。プール、サーバー、切断されたサーバー、VM、カスタムテンプレート、XenServer テンプレート、リモートストレージリポジトリ、ローカルストレージリポジトリ、仮想ディスク、ネットワーク。(/en-us/xencenter/media/objects-view.png)

「**オブジェクト**」を選択すると、プール、サーバー、VM などのカテゴリ別にリソースのリストが表示されます。ノードを展開すると、各カテゴリの項目が表示されます。

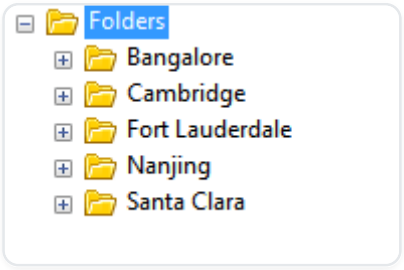
組織ビュー

XenCenter を使用すると、管理を容易にするためにリソースをグループ化できます。デフォルトでは、XenCenter は次の種類の組織ビューを提供します。

- フォルダー別オブジェクト
- タグ別オブジェクト
- カスタムフィールド別オブジェクト
- vApps
- VM グループ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

フォルダー別オブジェクト



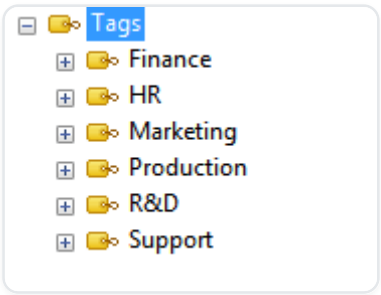
このオプションを選択すると、フォルダー別にリソースを表示できます。フォルダーを作成して、場所、機能、リソースの種類などでリソースをグループ化できます。

注:

リソースをフォルダーに整理することは概念的なものであり、物理的なものではありません。フォルダーでグループ化することを選択しても、リソースが物理的にフォルダーに移動されるわけではありません。

リソースを整理するためのフォルダーの作成と管理に関する詳細については、フォルダーの使用を参照してください。

タグ別オブジェクト

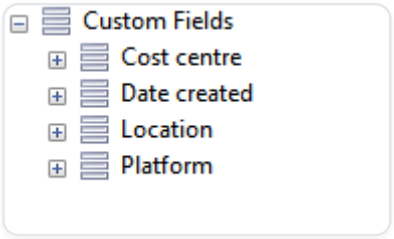


このオプションを選択すると、以前に定義したタグ別にリソースを表示できます。タグは、定義した基準に基づいてリソースを表示するために指定するラベルです。1つのリソースに複数のタグを含めることができます。たとえば、「Production」タグを持つサーバーは、「R&D」としてタグ付けすることもできます。

XenCenter でのタグの作成と管理に関する詳細については、「タグの使用」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

カスタムフィールドによるオブジェクト



このオプションを選択すると、以前に定義したカスタマイズされたフィールド別にリソースを表示できます。XenCenter を使用すると、リソースにカスタムフィールドを追加し、値を指定してリソースを効果的に管理できます。サーバー、VM、またはプール内のその他のリソースにカスタムフィールドを追加し、値を指定するだけです。その後、検索クエリを作成する際にカスタムフィールドの値を使用できます。

カスタムフィールドの作成と使用については、「カスタムフィールドの使用」を参照してください。

vApp

このオプションを選択すると、VM が属する vApp 別に VM を表示できます。vApp は、単一のエンティティとして管理できる 1 つ以上の VM のグループです。vApp の詳細については、「vApp の管理」を参照してください。

VM グループ

このオプションを選択すると、VM が属する VM グループ別に VM を表示できます。VM グループは、配置動作がグループのルールによって定義される 1 つ以上の VM のセットです。詳細については、「VM グループの管理」を参照してください。

保存された検索

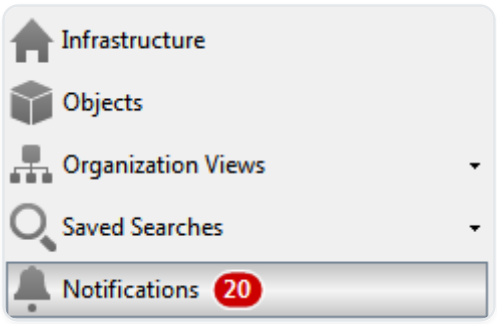


このボタンをクリックし、リストからオプションを選択して、検索条件に一致するリソースを表示します。デフォルトでは、XenCenter にはリソースを検索できるいくつかの保存された検索が含まれています。いつでも独自のクエリを作成してこのリストに追加できます。

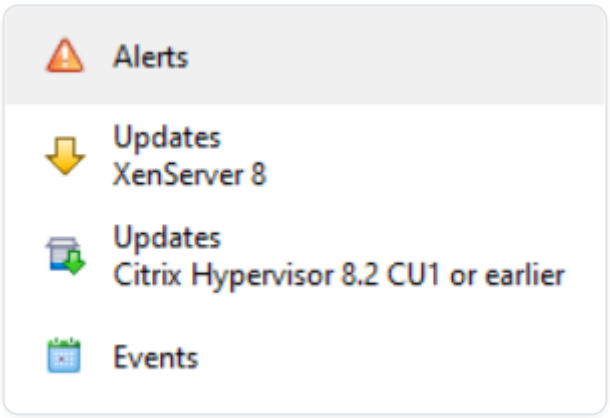
XenCenter の検索機能の詳細については、「リソースの検索」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

通知



「**通知**」ビューを表示するには、このボタンをクリックします。「**通知**」ビューでは、すべての通知を一元的に確認し、それらに対処するための特定のアクションを実行できます。これには、アラート、更新、およびイベントビューが含まれます。



アラート

「**アラート**」ビューには、XenCenterによって生成されたシステムアラートのリストが表示されます。さまざまなオプションでアラートをフィルタリングし、アラートに対処するための特定のアクションを実行できます。詳細については、「XenCenter アラート」を参照してください。

更新

XenCenterは、「**更新**」タブの下で、ホストとプールで利用可能な更新に関する通知を発行します。詳細については、「XenServer ホストを更新する」を参照してください。

イベント

このオプションを選択すると、現在のXenCenterセッション内のすべてのイベントの概要が表示されます。詳細については、「XenCenter イベントログ」を参照してください。

タブ

XenCenter® のタブベースのナビゲーションにより、同時に多数のウィンドウを開閉することなく、管理対象リソースにすばやくアクセスできます。いつでも利用できるタブは、**リソース**ペイン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

で何を選択しているかによって異なります。たとえば、ほとんどのリソースには**全般**タブがあります。**HA**タブと**WLB**タブはプールが選択されている場合にのみ利用でき、**スナップショット**タブはVMが選択されている場合にのみ利用できます。

シトリックス®

XenCenter が Citrix Virtual Apps and Desktops™ 環境にアクティブに接続している場合、XenCenter は以下のリソースに対して**Citrix**タブを表示します。

- VM
- ホスト
- プール

コンソール

このタブでは、VM または管理対象サーバーでコンソールセッションを実行できます。

XenCenter でサポートされているリモート VM コンソールのさまざまな種類については、リモートコンソールセッションの実行 も参照してください。

リモートデスクトップに切り替えるまたはデフォルトデスクトップに切り替える

Windows リモートコンソールの種類を切り替えます

グラフィカルコンソールに切り替えるまたはテキストコンソールに切り替える

Linux リモートコンソールの種類を切り替えます。グラフィックコンソールに切り替える際には、まず VNC パスワードを入力する必要がある場合があります。

SSH コンソールを開く

外部SSHコンソールをポップアップウィンドウとして開きます。このオプションは利用可能です

- ホストのコンソールタブでコントロールドメイン (Dom0) コンソールにアクセスする場合
- Linux VMのコンソールタブでVMのコンソールにアクセスする場合。

> **注:**
>
> SSHコンソールを起動するには、LinuxゲストエージェントがVMにインストールされていることを確認してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Ctrl+Alt+Delを送信

Ctrl+Alt+Delキーシーケンスをリモートコンソールに送信します。

リモートコンソールを使用すると、ほとんどのキーボードショートカットはサーバーまたはVMに送信されます。ただし、リモートコンソールで**Ctrl+Alt+Del**キーシーケンスを直接入力した場合、ローカルシステムが常にこれを傍受し、送信されないようにします。

ドッキング解除 (Alt+Shift+U)

コンソールタブをフローティングウィンドウにドッキング解除します。

サーバーをシャットダウンまたは再起動したり、XenServer® VM Toolsをインストールしたり、フローティングコンソールウィンドウ内から仮想マシンをシャットダウン、再起動、または一時停止したりするには、ウィンドウの左上隅にあるライフサイクルアイコンを選択し、コマンドをクリックします。

ライフサイクルアイコン。3つの積み重ねられた円：青、緑、赤。(/en-us/xencenter/media/001-life-cycle-h32bit-24.png)

コンソールのドッキングとドッキング解除に別のキーボードショートカットを使用するには、XenCenterの**オプション**ダイアログボックスに移動します: **ツール > オプション**をクリックします。

コンソールの検索

最小化されているフローティングコンソールウィンドウを開くか、他のウィンドウの背後に隠れている場合は前面に表示します。

「再ドッキング (Alt+Shift+U)」または「コンソールを再アタッチ」

フローティングコンソールウィンドウを**コンソール**タブに再ドッキングします。

「スケール」

リモートコンソール画面を**コンソール**タブまたはウィンドウ内に収まるようにスケーリングし、リモートコンソールのすべてを簡単に見られるようにします。チェックボックスをオフにすると、リモートコンソール画面が通常のサイズで表示されます。

デフォルトでは、コンソールのドッキングを解除したり、コンソールの種類を切り替えたりしても、**コンソール**タブで使用されるスケール設定は保持されますが、この動作は構成可能です。この設定を変更するには、**オプション**ダイアログボックスの**コンソール**タブに移動します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「全画面表示 (Ctrl+Enter)」

コンソールを全画面モードで表示します。全画面モードを終了するには**Ctrl+Alt**を押します。別のキーシーケンスを使用するには、XenCenterのXenCenterオプションの変更ダイアログボックスに移動します。

全画面モードで画面の中央上部をポイントすると、**接続バー**が表示されます。**接続バー**には、作業中のVMまたはサーバーの名前が表示され、2つのコントロールが含まれています。**接続バー**を常時表示するための**ピン**ボタンと、クリックして全画面モードを終了できる**元に戻す**ボタンです。

オプションダイアログボックスで、さまざまなコンソール設定を制御できます。たとえば、ローカルマシンのテキストクリップボードは、デフォルトでリモートコンソールと共有されます。切り取ったりコピーしたりした項目はクリップボードに配置され、ローカルコンピューターまたはリモートコンソールのいずれかに貼り付けることができます。クリップボードの共有をオフにしたり、XenCenterの**オプション**ダイアログボックスから他のさまざまなコンソール設定を変更したりできます。詳細については、XenCenterオプションの変更を参照してください。

全般

選択したコンテナ、仮想マシン、サーバー、リソースプール、テンプレート、またはストレージリポジトリの全般プロパティを**全般**タブで表示します。プロパティを設定または変更するには、**プロパティ**をクリックします。

このペインに表示されている値をWindowsクリップボードにコピーするには、値を右クリックし、ショートカットメニューの**コピー**をクリックします。

特定のリソースタイプの全般プロパティに関する詳細情報は、以下の記事で入手できます。

- VMプロパティの表示
- サーバープロパティの表示
- プールプロパティの表示

GPU

GPUタブでは、GPU配置ポリシーの表示または編集、利用可能なGPUおよび仮想GPUタイプの表示ができます。GPUは、サポートされている仮想GPUタイプに基づいてグループ化されます。特定のGPUで許可されている仮想GPUタイプは、**選択したGPUを編集**オプションを使用して変更できます。各グループの横棒は物理GPUを表し、そのGPUで実行されているVMに関する情報を表示します。

詳細については、以下の記事を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 仮想GPUの構成
- プールプロパティの変更。

注:

- GPUパススルーとグラフィックス仮想化は、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。GPUタブは、プールがライセンス要件を満たし、さまざまな仮想GPUタイプをサポートするGPUを搭載している場合に表示されます。
- Linux VMでNVIDIA GPUパススルーを使用するためのライセンス制限はありません。

高可用性

プールの**HA**タブでは、次のことができます。

- **HAの構成**ボタンを使用して高可用性を有効にします。
- **HAの構成**ボタンを使用して、プールの高可用性構成を変更します。
- 高可用性を無効にします。

高可用性が有効になっている場合、**HA**タブで高可用性のステータス（障害容量とサーバー障害制限）および選択されたハートビートストレージリポジトリのステータスを確認できます。

詳細については、以下の記事を参照してください。

- 高可用性の構成
- 高可用性の無効化
- 高可用性設定の変更

ホーム

ホームタブでは、管理対象サーバーのリストにサーバーを追加したり、ブラウザウィンドウを開いてXenServerの詳細を確認したりできます。

メモリ

メモリタブでは、動的メモリ制御 (DMC) を有効にし、動的メモリ制限を構成できます。VMは静的メモリ割り当てを持つことも、DMCを使用することもできます。DMCを使用すると、サーバーのメモリ要件の変化に応じて、VMを再起動することなく、VMに割り当てられるメモリ量をオン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ザフライで調整できます。**メモリ**タブでは、コントロール ドメイン (dom0) のメモリを更新することもできます。

詳細については、以下の記事を参照してください。

- コントロール ドメインのメモリの変更
- VMメモリ構成について

ネットワーク

ネットワークタブには、選択したプール、サーバー、またはVMで構成されているネットワークのリストが表示されます。ネットワーク設定にアクセスしたり変更したりするための集中管理された場所を提供します。

詳細については、以下の記事を参照してください。

- XenServerネットワークについて
- ネットワークプロパティの表示と変更(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-network-properties.html)。

NIC

選択したサーバー上の物理NICに関する詳細情報を表示し、**NIC**タブでNICボンディングを設定します。

NICボンディング（または「NICチーミング」）は、2つ以上の物理NICを1つのように使用することで、サーバーの回復性を向上させることができます。ボンディング内の1つのNICが故障した場合、サーバーのネットワークトラフィックは自動的に2番目のNICにルーティングされ、サーバー管理の接続性が確保されます。(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-nics.html)を参照してください。

注:

vSwitchをネットワークスタックとして使用して、4つのNICをボンディングします。Linuxブリッジ（非推奨）を使用している場合は、2つのNICしかボンディングできません。

パフォーマンス

仮想マシンと管理対象サーバーのパフォーマンスデータを**パフォーマンス**タブで表示します。完全なパフォーマンスデータは、(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-installtools.html)がインストールされている仮想マシンでのみ利用可能です。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

このタブでは、リソースプール全体のパフォーマンス統計のリアルタイム監視と、仮想マシンおよび物理マシンのパフォーマンスのグラフによる傾向表示が提供されます。デフォルトでは、CPU、メモリ、ネットワークI/O、ディスクI/Oを示すグラフがタブに表示されます。**アクション**をクリックして、さらにパフォーマンスデータを追加し、グラフの表示を変更します。詳細については、(/ja-jp/xencenter/current-release/performance-config.html)を参照してください。

管理対象サーバー、仮想マシン、またはSRで、CPU、メモリ使用量、ネットワーク、ストレージスループット、または仮想マシンディスクアクティビティが指定されたしきい値を超えた場合に、パフォーマンスアラートを生成できます。詳細については、(/ja-jp/xencenter/current-release/performance-alerts.html)を参照してください。

検索

リソースペインでトップレベルのXenCenter項目、プール、またはサーバーを選択し、**検索**タブをクリックして、管理対象リソースの複雑な検索を実行します。オブジェクトタイプ、フォルダー、および名前、説明、タグ、高可用性ステータス、再起動優先度、電源状態などの属性に基づいてクエリを構築できます。

詳細については、以下の記事を参照してください。

- 検索クエリの作成(/ja-jp/xencenter/current-release/resources-searching-new.html)
- 検索結果のフィルタリングとグループ化(/ja-jp/xencenter/current-release/resources-searching-filter.html)
- 保存された検索
- 検索のエクスポートとインポート

スナップショット

スナップショットタブで、VMスナップショットを作成、削除、エクスポートし、選択したスナップショットにVMを復元し、既存のスナップショットを使用してVMとテンプレートを作成します。

VMスナップショットを参照してください。

ストレージ

ストレージタブで、選択した仮想マシン、サーバー、リソースプール、またはストレージリポジトリのストレージ構成を表示します。このタブに表示される設定は、**リソース**ペインで現在選択されているリソースの種類によって異なります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

選択されたリソース	ストレージタブに表示される内容	詳細
VMとテンプレート	VM上の各仮想ディスクに関する情報が表示されます。この情報には、サイズと場所（仮想ディスクが配置されているSR）、データアクセスステータス、ディスクアクセス優先度が含まれます。仮想ディスクの設定を編集するには、リストで選択し、**プロパティ**をクリックします。ディスクを追加するには**追加**を、既存のディスクをアタッチするには**アタッチ**をクリックします。	仮想ストレージの構成
サーバーとプール	利用可能なストレージリポジトリ（SR）のリストが、その種類、サイズ、空き容量、共有ステータスに関する概要情報とともに表示されます。SRの名前または説明を編集するには、リストで選択し、**プロパティ**をクリックします。SRを追加するには**追加**を、選択したSRをデタッチするには**デタッチ**をクリックします。	ストレージリポジトリ (SR) の管理
ストレージリポジトリ	選択したSR上の仮想ディスクまたはISOのリストが表示されます。新しい仮想ディスクを追加するには、**追加**をクリックします。	仮想ディスクの追加

USB

USBタブでは、個々の物理USBデバイスをVMにパススルーして、VMのOSがそれをローカルUSBデバイスとして使用できるようにします。パススルーを有効または無効にするには、**USB**タブの

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

パススルーを有効にするまたは**パススルーを無効にする**ボタンをクリックします。USBを接続するには、次の手順を実行します。

1. VMをシャットダウンします。
2. VMを右クリックし、**プロパティ**を選択します。
3. 左ペインで、**USB**をクリックします。
4. **接続**をクリックします。
5. USB接続ダイアログボックスで、**接続**をクリックします。
6. VMを起動します。USBがVMに接続されました。
7. 同様に、VMからUSBを取り外すには、**切断**をクリックします。

USBパススルーのサポートには、次の制限があります。

- USBパススルーは、以下のUSBバージョンでサポートされています: 1.1、2.0、および3.0。
- USBパススルーは、単一のVMに最大6つのUSBデバイスをパススルーすることをサポートします。
- USBがVMにパススルーされている場合、スナップショット/一時停止/プール移行/ストレージ移行操作はサポートされません。
- USBパススルー機能は、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。
- 信頼できないUSBデバイスをコンピューターに接続すると、コンピューターが危険にさらされる可能性があります。変更可能な動作を持つUSBデバイスは、信頼できるゲストVMにのみ割り当ててください。
- USBデバイスからBIOSを起動しないでください。
- パススルーするUSBデバイスが信頼できるものであり、通常のLinux環境で安定して動作することを確認してください。
- プールで高可用性が有効になっており、VMの再起動優先度が**Restart**に設定されている場合、VMでのUSBデバイスパススルーはブロックされます。USBアタッチボタンは無効になり、次のメッセージが表示されます: **The virtual USB cannot be attached because the VM is protected by HA**。プールの高可用性を構成する際、VMがアジャイルでない場合、**Restart**オプションは無効になり、次のツールチップが表示されます: **The VM has one or more virtual USBs. Restart cannot be guaranteed**。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ユーザー

ユーザータブで、ADユーザーアカウントプロビジョニングとロールベースアクセス制御 (RBAC) を介して、XenServerユーザーおよびグループへのロールベースアクセスを構成します。このタブでは、次のタスクを実行できます。

- プールまたはサーバーをActive Directory (AD) ドメインに参加させる
- ADユーザーまたはグループをプールに追加する
- ユーザーとグループにロールを割り当てる。

詳細については、ユーザーの管理を参照してください。

WLB

WLBタブで、構成、最適化の推奨事項、ステータスなど、主要なワークロードバランシング機能にアクセスします。

注記:

WLB は XenServer Premium Edition のお客様にご利用いただけます。ライセンスの詳細については、XenServer ライセンスについて を参照してください。

リソースステータスアイコン

管理対象リソース（サーバー（ホスト）、仮想マシン、ストレージ、テンプレート）のステータスは、**リソース**ペインおよびXenCenter®のその他の場所で、異なるアイコンを使用して表示されます。

プール

アイコン	説明
接続済みプールアイコン - 上部に緑色の点があるプールアイコン(/en-us/xencenter/media/pool-connected-icon.png)	接続されており、正常に稼働しているプール。
ホストが混在アップグレード状態のプールアイコン - 上部に緑色の上向き矢印があるプールアイコン(/en-us/xencenter/media/pool-mixed-upgrade-state.png)	ホストが異なるアップグレード状態にある混在モードのプール。このアイコンは、1つ以上のホストがプールコーディネーターよりもアップグレードされていない状態である場合に表示されます。たとえば、ホストがプールコー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アイコン	説明
	ディネーターよりも古いバージョンのXenServerまたはCitrix Hypervisorを実行している場合などです。
ホストが混在更新状態のプールアイコン - 上部に黄色の下向き矢印があるプールアイコン(/en-us/xencenter/media/pool-hosts-mixed-update-state.png)	ホストが異なる更新状態にある混在モードのプール。このアイコンは、1つ以上のホストがプールコーディネーターよりも更新されていない状態である場合に表示されます。たとえば、プールのすべてのホストに最新の更新が適用されていない場合などです。
ライセンスなしプールアイコン - 上部に警告三角形アイコンがあるプールアイコン(/en-us/xencenter/media/pool-unlicensed.png)	ライセンスのないプール。

サーバー

アイコン	説明
	接続されており、正常に稼働しているホスト。
	再起動中であるか、接続処理中であるなどの理由で、一時的にXenCenterに接続されていないホスト。
	シャットダウンされたなどの理由で、切断されているホスト。
	現在メンテナンスモードのホスト。詳細については、メンテナンスモードで実行を参照してください。
	システム障害の結果としてクラッシュダンプファイルが作成されたホスト。クラッシュダンプファイルは、ホスト上の `/var` ディレクトリにあるcrashという名前のフォルダーにあります。クラッシュダンプファイルは、XenServer関連の問題の診断に役立つ貴重な情報をサポートエンジニアに提供できます。このファイルは、XenCenterで**サーバー状態レポートの取得**ユーティリティを使用して生成された

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アイコン	説明
	ホスト状態レポートに含めることができます。この機能の使用方法の詳細については、サーバー状態レポートの作成を参照してください。ホスト上の `/var` ディレクトリからクラッシュダンプファイルを削除すると、XenCenterに表示されるホスト状態アイコンは通常の状態に戻ります。
	プールコーディネーターよりも更新が遅れているため、*更新*が必要なホスト。詳細については、XenServerホストの更新を参照してください。
	プールコーディネーターよりも古いバージョンのXenServerを実行しているため、*アップグレード*が必要なホスト。詳細については、ホストのアップグレードを参照してください。
「ライセンスなしホストアイコン - 警告三角形アイコンが上にあるホストアイコン」(/en-us/xencenter/media/host-unlicensed.png)	ライセンスのないホスト。

仮想マシン、VMテンプレート、およびvApp

アイコン	説明
「VM実行中アイコン - 緑色の再生アイコンが重ねられたVMアイコン」(/en-us/xencenter/media/000-start-vm-h32bit-16.png)	正常に稼働している仮想マシン。
「VM一時停止アイコン - 青い一時停止記号が重ねられたVMアイコン」(/en-us/xencenter/media/000-suspend-vm-h32bit-16.png)	現在一時停止中の仮想マシン。
「VM利用不可アイコン - 黄色の再生アイコンが重ねられたVMアイコン」(/en-us/xencenter/media/000-vm-starting-h32bit-16.png)	現在利用できない仮想マシン。たとえば、再起動中または一時停止中の場合など。
「VM停止アイコン - 赤い停止アイコンが重ねられたVMアイコン」(/en-us/xencenter/media/000-stopped-vm-h32bit-16.png)	稼働していない仮想マシン。たとえば、シャットダウンされている場合など。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アイコン	説明
「VM移行中アイコン - 左右を指す緑色の矢印が重ねられたVMアイコン」(/en-us/xencenter/media/000-migrate-vm-h32bit-16.png)	現在移行中の仮想マシン。(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-relocate.html)を参照してください。
VMテンプレートアイコン - 黄色のVMアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-vm-template-h32bit-16.png)	XenServer VMテンプレート。
ユーザー定義テンプレートアイコン - 青色のVMアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-user-template-h32bit-16.png)	カスタム（ユーザー定義）VMテンプレート。
仮想アプライアンスアイコン - 2つのVMアイコンが重ねて表示され、緑色の線で囲まれています。(/en-us/xencenter/media/000-virtual-appliance-h32bit-16.png)	XenServer vApp。(/ja-jp/xencenter/current-release/vapps.html)を参照してください。

VMスナップショット

アイコン	説明
ディスクのみのスナップショットアイコン - 青い時計。(/en-us/xencenter/media/000-vm-snapshot-disk-only-h32bit-16.png)	ディスクのみのVMスナップショット。
スケジュールされたディスクのみのスナップショットアイコン - カレンダーアイコンが重ねられた青い時計。(/en-us/xencenter/media/000-scheduled-vm-snapshot-disk-only-h32bit-16.png)	スケジュールされたディスクのみのVMスナップショット。
ディスクとメモリのスナップショットアイコン - 緑色の時計。(/en-us/xencenter/media/000-vm-snapshot-disk-memory-h32bit-16.png)	ディスクとメモリのVMスナップショット。
スケジュールされたディスクとメモリのスナップショットアイコン - カレンダーが重ねられた緑色の時計。(/en-us/xencenter/media/000-scheduled-vm-snapshot-disk-memory-h32bit-16.png)	スケジュールされたディスクとメモリのVMスナップショット。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ストレージ

アイコン	説明
ストレージアイコン(/en-us/xencenter/media/000-storage-h32bit-16.png)	ストレージリポジトリ。
デフォルトストレージアイコン - 黒いチェックマークアイコンが重ねられたストレージアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-storage-default-h32bit-16.png)	プールのデフォルトストレージリポジトリ。
無効なストレージアイコン - 白いスラッシュが付いた赤い円が重ねられたストレージアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-storage-disabled-h32bit-16.png)	現在接続されていないストレージリポジトリ。
破損したストレージアイコン - 白い十字アイコンが付いた赤い円が重ねられたストレージアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-storage-broken-h32bit-16.png)	現在利用できないストレージリポジトリ。「SR接続の問題の解決」を参照してください。
仮想ディスクアイコン - 全体が青色のストレージアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-virtual-storage-h32bit-16.png)	仮想ディスク。
仮想ディスクスナップショットアイコン - クロックアイコンが重ねられた仮想ディスクアイコン(/en-us/xencenter/media/virtualstorage-snapshot-16.png)	仮想ディスクスナップショットです。このオブジェクトはVMのディスクのスナップショットであり、VMのスナップショットが作成されたときに作成されます。VMスナップショットの取得については、VMスナップショットを参照してください。ディスクスナップショットの詳細については、スナップショットを参照してください。

キーボードショートカット

マウスに加えて、キーボードを使用してXenCenter内を移動し、タスクを実行できます。たとえば、矢印キーを使用して、**リソース**ペインの項目間やメニュー内を移動できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenterの操作

XenCenterは、ユーザーインターフェイスを操作するための標準的なWindowsショートカットの多くを提供します。詳細については、「Windowsのキーボードショートカット」を参照してください。

メニューモードのオン/オフを切り替えるには、**F10**または**Alt**を押します。メニューモードが有効な場合、メニュー内の文字には下線が引かれ、特定のメニューやメニューコマンドを選択するために使用できるアクセスキーであることを示します。

メニューモードでは、キーボードを使用してメニューを操作できます。次の表に、基本的なナビゲーションコマンドの一部を示します。

キー	アクション
Tab	次のUI項目に移動し、フォーカスを与えます。
右矢印、左矢印	メニューバーを横断して移動し、各メニューを順番に選択します。
上矢印、下矢印	各メニューコマンドを順番に選択します。
エンター	選択したコマンドをアクティブにする。
スペース	フォーカスのあるUI項目を選択する。
Esc	選択したコマンドをキャンセルし、メニューを閉じる。

ショートカットキー

特定のメニューコマンドをアクティブにするには、ショートカットキーの組み合わせを使用します。たとえば、**Ctrl+N**を押すと、メインツールバーの**VM**メニューで**New VM**をクリックするのと同じように、**New VM**ウィザードが開きます。

テンキーのキーを使用する場合は、**Num Lock**がオフになっていることを確認してください。

一部のショートカットキーは、メニューやツールバーのツールチップに表示されます。次の表に、一般的なXenCenterタスクのショートカットを示します。

キー	アクション
F1	オンラインヘルプを表示する

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

キー	アクション
Alt+F4キー	XenCenterを終了し、XenCenterウィンドウを閉じる
コントロール+Enter	コンソール表示を全画面モードとウィンドウモードで切り替える
コントロール+B	選択したVMを起動する
コントロール+C	選択したテキストをWindowsクリップボードにコピーする
コントロール+E	選択したVMをシャットダウンする
コントロール+N	「**新規VM**」ウィザードを開く
コントロール+R	選択したVMを再起動する
コントロール+V	選択したテキストをWindowsクリップボードから貼り付ける
コントロール+X	選択したテキストをWindowsクリップボードに切り取る
コントロール+Y	選択したVMを一時停止または再開する
コントロール+Z	最後のテキスト編集操作を元に戻す

VMコンソールを操作するためのキーボードショートカットも利用できます。これらのショートカットは設定可能です。詳細については、コンソール設定を参照してください。

XenCenter® オプションの変更

XenCenter の作業環境に影響するさまざまな設定を変更できます。「**ツール**」メニューで「**オプション**」をクリックし、タブをクリックして設定を変更した後、「**OK**」をクリックして変更を保存します。

設定の保存と復元

デフォルトでは、XenCenter は接続する管理対象サーバーのアドレスを記憶しています。このタブの設定を使用して、サーバーのログイン資格情報を保存するかどうかを指定します。保存された

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ログイン資格情報は、オンデマンドで、または各 XenCenter セッションの開始時に自動的にサーバーに再接続するために使用できます。保存されたログイン資格情報を保護するために、ここでメインパスワードを設定することもできます。

オプション	説明	デフォルト
サーバーのログイン資格情報を保存	すべての管理対象サーバーのログイン資格情報 (ユーザー名とパスワード) は、XenCenter セッション間で保存できます。このチェックボックスをオンにすると、XenCenter は新しいセッションの開始時にログイン資格情報を記憶します。これにより、ログイン資格情報を再入力することなく、オンデマンドでサーバーに再接続できます。	オフ
起動時にサーバー接続を自動的に復元	保存されたログイン資格情報は、新しい XenCenter セッションの開始時に管理対象サーバーに自動的に再接続するために使用できます。このチェックボックスをオンにすると、XenCenter は各セッションの終了時にすべての管理対象サーバーの接続状態を記憶します。XenCenter は、保存されたログイン資格情報を使用して、次のセッションの開始時にサーバーの接続状態を復元しようとします。	オフ
メインパスワードを要求	「**起動時にサーバー接続状態を保存および復元**」が有効になっている場合、保存されたログイン資格情報をメインパスワードで保護して、セキュリティを確保できます。各セッションの開始時に、管理対象サーバーへの接続が自動	オフ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプション	説明	デフォルト
	的に復元される前に、このメインパスワードの入力を求められます。	
メインパスワードの変更	現在のメインパスワードを変更するには、これを選択します。現在のパスワードを入力し、新しいメインパスワードを入力して確認するよう求められます。	

セキュリティ設定

オプション	説明	デフォルト
新しい証明書が見つかったときに警告する	管理対象サーバーで新しいTLSセキュリティ証明書が見つかるたびにXenCenterに警告を表示させるには、このチェックボックスをオンにします。管理対象サーバーに接続する際に、新しい証明書に関する警告を表示させたくない場合は、このチェックボックスをオフにします。	オフ
証明書が変更されたときに警告する	管理対象サーバーに接続する際に、変更された証明書に関する警告を表示させたくない場合は、このチェックボックスをオフにします。管理対象サーバーで変更された証明書が見つかるたびにXenCenterに警告を表示させるには、このチェックボックスをオンにします。	オン
プールシークレットをローテーションするときに、サーバーのrootパスワードを変更するよう通知する	プールシークレットをローテーションした後にrootパスワードの変更を求められたくない場合は、このチェック	オン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプション	説明	デフォルト
	ボックスをオフにします。プールシークレットがローテーションされた後にrootパスワードの変更を求められるようにするには、このチェックボックスをオンにします。	

関連項目: サーバーの接続と切断。

XenCenter アップデート設定

オプション	説明	既定
XenCenter の新しいバージョンを確認する	このチェックボックスをオンにすると、XenCenter が定期的に新しいバージョンを確認し、利用可能になったときに通知します。このチェックボックスをオフにすると、定期的な確認が無効になります。	オン

関連項目:

- XenCenter を更新する

確認設定

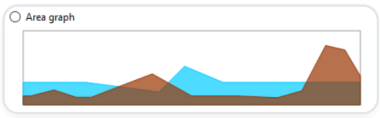
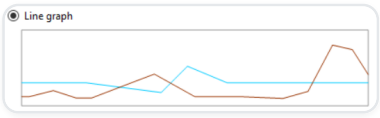
このタブの設定を使用して、次の場合に確認ダイアログを表示するかどうかを設定します。

- アラートを却下する場合
- アップデートを却下する場合
- イベントを却下するとき
- OVF/OVAパッケージを検証するとき

表示設定

このタブでは、**パフォーマンス**タブにグラフがどのように表示されるかを構成できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプション	説明	デフォルト
エリアグラフ	**パフォーマンス**タブに表示されるパフォーマンスデータをエリアチャートとして表示したい場合は、このラジオボタンを選択します。例: 	いいえ
折れ線グラフ	**パフォーマンス**タブに表示されるパフォーマンスデータを折れ線グラフとして表示したい場合は、このラジオボタンを選択します。例: 	はい
リソースの最後に選択したタブを記憶する	次回リソースをクリックしたときに、そのリソースで最後に表示したタブを表示するには、このオプションを選択します。	オン
更新およびアップグレードログコンソールにタイムスタンプを表示する	更新およびアップグレードログにタイムスタンプ情報を含めるには、このオプションを選択します。	オン

参照: システムパフォーマンスの監視。

このタブを使用して、XenCenter がリソースの最後に選択されたタブを記憶するかどうかを設定することもできます。

コンソール設定

オプション	説明	デフォルト
リモートコンソールとクリップボードの内容を共有する	ローカルのテキストクリップボードの内容をリモートコンソールと共有するには、このチェックボックスをオンにし	オン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプション	説明	デフォルト
	ます。切り取りまたはコピーされた項目はクリップボードに配置され、ローカルコンピューターまたはリモートコンソールのいずれかに貼り付けることができます。	
全画面表示モード	コンソールを全画面表示モードに切り替えたり、全画面表示モードから戻したりするためのキーボードショートカット。	コントロール+エンター
ドッキング/ドッキング解除	XenCenterウィンドウから**コンソール**タブをドッキング解除したり、再ドッキングしたりするためのキーボードショートカット。	オルト+シフト+ユー
キーボードとマウスの解放	VM上のオペレーティングシステムが、ゲストOS内で使用するためにキーボードとマウスカーソルをキャプチャする場合。入力したすべてのキーストローク、マウスの動き、ボタンクリックはVMに送られます。キーボードとマウスの所有権をホストオペレーティングシステムに戻すために、XenCenterはキーボード上の特別なキーを予約しています。このキーがホストキーです。デフォルトでは、ホストキーはキーボードの右Ctrlキーです。ここでこのデフォルトを変更できます。	右Ctrl
コンソールがドッキング解除されているときに現在のスケール設定を保持する	コンソールがドッキングされているときとドッキング解除されているときに、同じコン	オン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプション	説明	デフォルト
	ソールスケール設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。	
デフォルトのコンソールに戻すときに現在のスケール設定を保持する	コンソールタイプを切り替えるとき（例: VNC/テキストコンソール）に、同じコンソールスケール設定を保持するには、このチェックボックスをオンにします。	オン
Windowsキーの組み合わせをリモートデスクトップコンソールに送信する	XenCenterがキーボードで入力されたWindowsキーの組み合わせをリモートデスクトップコンソールに送信するようにするには、このチェックボックスをオンにします。	オン
リモートデスクトップコンソールからサウンドを受信する	このチェックボックスを選択すると、XenCenterがリモートデスクトップコンソールで実行されているアプリケーションからのサウンドを、ローカルコンピューター（XenCenterを実行しているコンピューター）で再生します。	オン
利用可能になったときにリモートデスクトップコンソールに自動的に切り替える	このチェックボックスを選択すると、XenCenterは、リモートデスクトップコンソールが利用可能になったときに、標準のグラフィカルコンソールからリモートデスクトップコンソールへの切り替えを自動的に行います。	オン
サーバーのコンソールセッションに直接接続する	このチェックボックスを選択すると、XenCenterはリモートサーバー上の既存のコンソールセッションに接続します。リモートデスクトップコ	オン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプション	説明	デフォルト
	ンソールセッションを開く際、XenCenterは新しい仮想コンソールセッションを作成する代わりに、このセッションを使用します。	

Windowsリモートデスクトップコンソールの設定に加えた変更は、XenCenterを再起動したときに適用されます。

参照: リモートコンソールセッションを実行する。

接続設定

プロキシサーバー

XenCenterは、管理対象サーバーに直接接続するように構成することも、プロキシサーバーを使用するように構成することもできます。オペレーティングシステムのプロキシサーバー設定を使用するか、プロキシサーバーを指定できます。

- プロキシサーバーを使用せずにXenCenterが管理対象サーバーに直接接続するようにするには、**プロキシサーバーを使用しない**を選択します。
- OSで設定されているのと同じプロキシ設定を使用するには、**オペレーティングシステムのプロキシサーバー設定を使用する**を選択します。
- XenCenterを特定のプロキシサーバーに接続する場合は、**このプロキシサーバーを使用する**を選択します。HTTP CONNECTを使用して、サーバーへの安全なTLSトンネルを確立します。プロキシサーバーのアドレスと使用するポート番号を入力します。

XenServer®への接続要求をプロキシサーバーを介さずに直接行うには、**XenServer接続のプロキシサーバーをバイパスする**チェックボックスをオンにします。すべての接続要求をプロキシサーバーを介して行うには、チェックボックスをオフにします。

XenServer接続とは、コマンドの送信やコンソールの使用など、XenCenterとXenServerシステム間の通信を提供するあらゆる接続を指します。XenServer以外の接続とは、更新の確認などです。

資格情報の提供チェックボックスをオンにし、指定されたプロキシサーバーに設定されているユーザーアカウントに対応する**ユーザー名**と**パスワード**を入力します。

目的の認証方法（BasicまたはDigest（デフォルト））を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

認証方法はプロキシサーバーへの認証に使用されます。プロキシサーバーに設定されているものと同じ認証方法を選択してください。

たとえば、プロキシサーバーがXenCenterにDigest認証を使用するよう要求している場合、Basic認証方法が選択されているとXenCenterは認証に失敗します。

デフォルト: プロキシサーバーを使用しない

接続タイムアウト

管理対象サーバーとの接続を確立する際に待機する時間を、接続タイムアウトの秒数を調整することで指定できます。ネットワーク関連の問題による誤ったアラートを多数受け取りたくない場合は、この値を低く設定しすぎないでください。

デフォルト: 20秒

関連項目: サーバーの接続と切断。

アクティブディレクトリ

複数のシステムに同時に接続を開始すると、XenCenterも同時にログインを実行します。このオプションは、同じActive Directoryアカウントを使用するログインでアカウントロックアウトが発生する場合に無効にできます。

デフォルト: 同時ログインを許可

外部ツール設定

XenCenterは、XenServerホストに接続する外部SSHコンソールを起動できます。サポートされている外部SSHコンソールツールは、PuTTYとOpenSSHです。外部SSHコンソールを使用するには、XenCenterをホストするシステムにこれらのツールのいずれかまたは両方がインストールされていることを確認してください。

XenCenterでPuTTYとOpenSSHの両方のパスを設定できます。ただし、XenCenterは、このダイアログで選択されているツールのみを使用しようとします。デフォルトでは、XenCenterはインストールされているツールを選択します。両方のツールがインストールされている場合、PuTTYが選択されます。

隠しオブジェクト

XenServer Management APIでオブジェクトの`other_config`パラメーターにキー`HideFromXenCenter=true`を追加することで、XenCenterからネットワーク、PIF、VMを非表示にできます。たとえば、特定のVMを非表示にして、環境内の一般ユーザーが直接使用できないよ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

うにすることができます。このキーでフラグ付けされたオブジェクトは隠しオブジェクトであり、デフォルトではXenCenterのどこにも表示されません。

XenCenter®で隠しオブジェクトを表示するには、**表示**メニューで**隠しオブジェクト**をクリックして選択します。再度非表示にするには、**表示**メニューで**隠しオブジェクト**のチェックマークをオフにします。

`HideFromXenCenter`キーを使用してオブジェクトにフラグを付ける方法の詳細については、開発者向けドキュメントを参照してください。

リソースの整理

XenCenter®では、物理リソースと仮想リソースを整理するためのさまざまな方法が提供されており、最適な方法を使用できます。

- フォルダーの使用
- タグの使用
- カスタムフィールドの使用

フォルダーの使用

フォルダーは、環境に合わせて管理対象リソースをグループ化するコンテナーです。たとえば、組織内の各支店にフォルダーを作成できます。フォルダーには、XenServer®環境内のどこからでもあらゆる種類のリソースを含めることができます。リソースは、参照されているフォルダーとは独立してアクセスできます。

XenCenter®でのフォルダーの編成は概念的なものであり、物理的なものではありません。リソースは物理的にフォルダー内に配置されていません。したがって、リソースを物理的な場所とは独立してフォルダーに配置できます。たとえば、VMをフォルダーに配置しても、そのホストサーバーがフォルダーに配置されるわけではありません。サーバーをフォルダーに配置しても、そのサーバー上のすべてのVMとストレージリソースがフォルダーに配置されるわけではありません。

フォルダーは検索クエリでも使用できます。たとえば、「含まれる」または「含まれない」関係とフォルダーの階層リストを使用して、フォルダーで検索できます。詳細については、「検索クエリの作成」を参照してください。

リソースが配置されているフォルダーは、リソースの**全般**タブとその**プロパティ**ダイアログボックスに表示されます。リソースのフォルダー情報は常に確認できます。また、**全般**タブからリソースを別のフォルダーに移動したり、フォルダーから削除したりすることもできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

フォルダーを作成するには

フォルダーを作成する最も簡単な方法は、リソースペインを使用することです。**ナビゲーション**ペインで**組織ビュー**をクリックし、**フォルダー別のオブジェクト**を選択します。**リソース**ペインで、**フォルダー**グループをクリックし、右クリックしてショートカットメニューから**新しいフォルダー**を選択します。新しいフォルダーの名前を入力し、フォルダーのメタデータが保存されているサーバーを選択して、**作成**をクリックします。

任意の任意のリソースの**全般**タブからフォルダーを作成することもできます。

1. **リソース**ペインで、プール、サーバー、SR、仮想マシン、またはテンプレートを選択し、**全般**タブをクリックして**プロパティ**をクリックします。
2. **プロパティ**ダイアログボックスの**全般**タブで、**フォルダー**ボックスの**変更**をクリックします。
3. **フォルダーの変更**ダイアログボックスで、**このフォルダー内**ボタンをクリックし、**新しいフォルダー**をクリックします。
4. 新しいフォルダーの名前を入力し、フォルダーのメタデータが保存されているサーバーを選択して、**作成**をクリックします。
5. **移動**をクリックして変更を適用し、**プロパティ**ダイアログボックスで**OK**をクリックします。

リソースをフォルダーに移動したり、フォルダーから移動したりするには

リソースを**リソース**ペインまたは**検索**タブからフォルダーにドラッグして、フォルダーに移動します。リソースは1つのフォルダーにのみ存在できます。リソースがすでに別のフォルダーにある場合、別のフォルダーにドラッグすると移動されます。

「**全般**」タブから、リソースを別のフォルダーに移動したり、フォルダーから削除したりすることもできます。

1. 「**リソース**」ペインで、フォルダーに配置するプール、サーバー、SR、仮想マシン、またはテンプレートを選択します。
2. 「**全般**」タブを選択し、「**プロパティ**」をクリックします。
3. 「**プロパティ**」ダイアログボックスの「**全般**」タブで、「**フォルダー**」ボックスの「**変更**」をクリックします。

    - リソースを現在のフォルダーから削除するには、「**どのフォルダーにも属していません**」を選択します。
    - リソースを別のフォルダーに移動するには、「**このフォルダー内**」を選択し、リストからフォルダーまたはサブフォルダーを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- リソースを新しいフォルダーに配置するには、「**新しいフォルダー**」をクリックします。新しいフォルダーの名前を入力し、フォルダーのメタデータが保存されているサーバーを選択してから、「**作成**」をクリックします。

4. 「**移動**」をクリックして変更を適用し、「**プロパティ**」ダイアログボックスで「**OK**」をクリックします。

フォルダーの名前を変更するには

1. 「**リソース**」ペインでフォルダーを選択し、右クリックしてショートカットメニューの「**フォルダー名の変更**」を選択します。
2. 新しい名前を入力します。

フォルダーを削除するには

フォルダーを削除しても、フォルダー内のリソースは実際には削除されません。リソースは一般的なコレクションに戻ります。

1. 「**リソース**」ペインでフォルダーを選択し、右クリックしてショートカットメニューの「**フォルダーの削除**」を選択します。
2. 「**はい**」をクリックして確認します。

すべてのコンテンツがフォルダーから移動され、その後フォルダーが削除されます。

タグの使用

タグを使用すると、新しい方法でリソースを識別できます。タグはキーワードやラベルのようなものです。これにより、XenCenter® 内のリソースの表示を、アプリケーション、場所、コストセンター、所有者、ライフサイクルステージなど、自分にとって重要な基準に基づいて再編成できます。

タグは必要なときに作成でき、いくつでも使用できます。また、タグに基づいて検索を構築することもできます。たとえば、「ケンブリッジにあるすべての Windows 10 テストマシン」などです。

リソースの**全般**タブを選択すると、そのリソースに現在割り当てられているタグを確認したり、タグを追加したり削除したりできます。

タグを作成するには

1. **リソース**ペインで、リソースを選択します。
2. その**全般**タブを選択し、次に**プロパティ**を選択します。
3. **プロパティ**ダイアログボックスの**全般**タブで、**タグの編集**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. **新しいタグ**ボックスに単語またはフレーズを入力し、**作成**を選択します。
5. 新しいタグは、選択したリソースに自動的に割り当てられます。タグを削除するには、チェックボックスをオフにします。
6. **OK**を選択します。
7. **プロパティ**ダイアログボックスで、**OK**を選択して変更を適用します。

タグを削除するには

1. **ナビゲーション**ペインで、**組織ビュー**、次に**タグ別オブジェクト**を選択します。**タグ**グループが**リソース**ペインに表示されます。
2. 削除したいタグを選択し、右クリックして**タグの削除**を選択します。そのタグは、現在そのタグが付けられているすべてのリソースから削除されます。

リソースにタグを付ける

既存のタグをリソースに割り当てる最も簡単な方法は、**リソース**ペインでタグの上にドラッグすることです。**リソース**ペイン内の**タグ**グループから、または**検索**タブの検索結果リストからリソースをドラッグできます。

タグの編集ダイアログボックスを使用して、既存のタグまたは新しいタグをリソースに割り当てることもできます。

1. **リソース**ペインで、タグを付けたいプール、サーバー、SR、仮想マシン、またはテンプレートを選択します。
2. **全般**タブを選択し、次に**プロパティ**を選択します。
3. **プロパティ**ダイアログボックスの**全般**タブで、**タグの編集**を選択します。
   - タグを作成して選択したリソースに追加するには、**タグの編集**ボックスに単語またはフレーズを入力します。**作成**をクリックします。
   - 既存のタグを追加するには、**タグ**リストでタグのチェックボックスを選択します。**OK**をクリックします。
4. **プロパティ**ダイアログボックスで、**OK**を選択して変更を適用します。

リソースのタグを解除する

リソースのタグを解除（タグを削除）するには、**ナビゲーション**ペインで**組織ビュー**を選択し、次に**タグ別オブジェクト**を選択します。タグを解除したいリソースを選択し、右クリックして**オブジェクトのタグ解除**を選択します。

タグの編集ダイアログボックスを使用して、リソースのタグを解除することもできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. **リソース**ペインで、タグを解除したいプール、サーバー、SR、仮想マシン、またはテンプレートを選択します。
2. その**全般**タブを選択し、次に**プロパティ**を選択します。
3. **プロパティ**ダイアログボックスの**全般**タブで、**タグの編集**を選択します。
4. 「**タグ**」リストでタグのチェックボックスをオフにし、「**OK**」を選択します。
5. 「**プロパティ**」ダイアログボックスで、「**OK**」を選択して変更を適用します。

カスタムフィールドの使用

カスタムフィールドを使用すると、リソースに構造化された情報を追加でき、リソースをより効果的に検索および管理するのに役立ちます。

たとえば、すべてのホストを物理的な場所で識別したり、すべてのVMで実行されているコストセンターとアプリケーションにラベルを付けたりできます。サーバー、VM、またはプール内のその他のリソースにカスタムフィールドを追加し、それに値を割り当てるだけです。その後、検索クエリを作成する際にカスタムフィールドの値を使用できます。

カスタムフィールドはプールレベルで共有されます。プール内の任意のリソースにカスタムフィールドを設定すると、このフィールドはプール内のすべてのリソースで利用可能になります。カスタムフィールドには、リソースの**プロパティ**ダイアログボックスの**全般**タブと**カスタムフィールド**タブからアクセスできます。

ナビゲーションペインで、**組織ビュー**をクリックし、**カスタムフィールドによるオブジェクト**を選択して、カスタムフィールド別に管理対象リソースを表示します。

カスタムフィールドを作成するには

1. **リソース**ペインで、任意のリソースを選択します。
2. **全般**タブを選択し、**プロパティ**をクリックします。
3. **カスタムフィールド**タブで、**カスタムフィールドの編集**をクリックします。
4. **追加**をクリックし、カスタムフィールドの名前を入力して、フィールドタイプを選択します。
5. **OK**をクリックして変更を適用します。

リソースのカスタムフィールドに値を割り当てるには

1. **リソース**ペインで、リソースを選択します。
2. **全般**タブを選択し、**プロパティ**をクリックします。
3. **プロパティ**ダイアログボックスの**カスタムフィールド**タブで、カスタムフィールドの値を入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. **OK**をクリックします。

リソースの**全般**タブには、そのリソースに設定されているすべてのカスタムフィールドが表示されます。

カスタムフィールドを削除するには

1. **リソース**ペインで、リソースを選択します。
2. **全般**タブを選択し、次に**プロパティ**をクリックします。
3. **プロパティ**ダイアログボックスの**カスタムフィールド**タブで、**カスタムフィールドの編集**をクリックします。
4. リストからカスタムフィールドを選択し、次に**削除**をクリックします。
5. 確認のため**はい**をクリックします。

リソースの検索

XenCenter® を使用すると、管理対象リソースの複雑な検索を実行できます。デフォルトでは、XenCenter にはいくつかの検索が含まれています。これらの検索では、タグでリソースを検索できます。また、ネットワーク、オペレーティングシステム、電源状態、vApp、および XenServer VM Tools のステータスで VM を検索することもできます。

このリストに独自のカスタム検索をいつでも作成して追加することもできます。**検索**タブの表示は、**ナビゲーション**ペインで選択したオプションによって異なります。**ナビゲーション**ペインからビューを選択し、**検索**タブを選択して検索クエリを開始します。**検索**タブには、検索クエリのリソースの選択を強調表示するタイトルも表示されます。

検索ボックスに単語またはフレーズを入力して、リソース名で簡単なテキスト検索を行うこともできます。**検索**ボックスは**リソース**ペインの上にあります。入力すると、一致するリソースが表示されます。クエリを削除してすべてのリソースを再度表示するには、**検索**ボックスの右側にある **x** ボタンを選択します。詳細については、以下のトピックを参照してください。

- 検索クエリの作成
- 検索結果のフィルターとグループ化
- 検索のエクスポートとインポート
- 保存された検索

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

検索クエリを作成する

検索タブを使用して、オブジェクトの種類、フォルダー、および属性に基づいてクエリを作成できます。属性には、名前、説明、タグ、高可用性ステータス、再起動の優先順位、電源状態などがあります。

検索クエリを作成するには

1. **検索**タブで、**新しい検索**をクリックします。
2. **検索対象**で、検索するリソースの種類またはリソースの組み合わせを選択します。サーバー、VM、SRなどのリソースの種類に加えて、このリストにはリソースの種類の一般的な組み合わせも含まれています。また、すべてのリソースを検索するオプションも提供されます。

   独自の検索カテゴリを定義するには、**カスタム**をクリックし、検索するリソースの種類を選択します。

   検索対象でオプションを選択すると、検索が適用されます。結果は**検索**タブの下半分にすぐに表示されます。
3. 検索クエリを保存するには、**保存**をクリックします。
4. **名前**ボックスに検索クエリのタイトルを入力します。
5. **場所**リストをクリックして、検索クエリのメタデータが保存されるサーバーを選択します。
6. **保存**をクリックします。

注:

- **検索**タブで検索結果をダブルクリックすると、そのリソースの**一般**タブが表示されます。
- 検索をさらに絞り込むには、結果にフィルターを適用できます。詳細については、「検索結果のフィルターとグループ化」を参照してください。フィルターオプションを選択するとフィルターが適用され、結果はすぐに更新されます。
- 検索結果をすばやくフォルダーに配置するには、**組織ビュー**を選択し、次に**フォルダー別のオブジェクト**を選択します。検索クエリを実行し、検索結果を選択して、**リソース**ペインのフォルダーにドラッグします。リソースは1つのフォルダーにしか存在できないため、リソースがすでに別のフォルダーにある場合は移動されます。詳細については、「フォルダーの使用」を参照してください。
- 検索結果にすばやくタグを付けるには、**組織ビュー**を選択し、次に**タグ別オブジェクト**を選択します。検索クエリを実行し、検索結果を選択して、**リソース**ペインのタグにドラッグします。タグの使用方法の詳細については、タグの使用を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

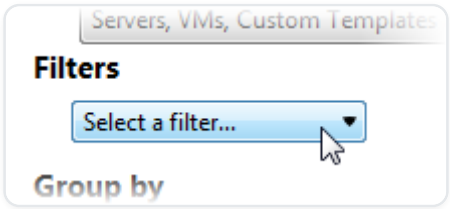
検索結果のフィルタリングとグループ化

選択した検索カテゴリにフィルターを適用して、検索をさらに絞り込むことができます。利用可能なフィルターは、検索しているリソースの種類に適しています。

たとえば、サーバーを検索する場合、サーバー名、サーバーのIPアドレス、そのリソースプール、およびその上のVMで結果をフィルターできます。仮想ディスクを検索する場合、共有されているかどうかや、それらが存在するストレージリポジトリなどの基準を使用して結果をフィルターできます。

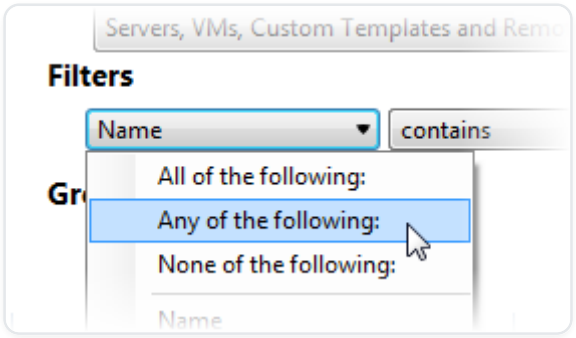
検索結果をフィルターするには

1. フィルターボタンをクリックし、リストからフィルターカテゴリを選択します。



   検索しているリソースに適用可能なフィルターのみを選択できます。

2. 該当する場合は、「**次と等しい**」、「**次を含む**」、「**開始時刻**」などの演算子を選択し、値を入力します。ここでオプションを選択すると、フィルターが検索結果に適用されます。結果はすぐに更新されます。
3. フィルターを追加するには、フィルターボタンをクリックし、リストから複数フィルターカテゴリを選択します。



4. フィルターを削除するには、「**検索**」タブの右側にある「**削除**」ボタンをクリックします。

検索結果をグループ化するには

1. 「**グループ化**」の下で、リストから適用したいグループ化オプションを選択します。ここでオプションを選択すると、グループ化が適用されます。結果はすぐに更新されます。
2. 検索結果に別のグループ化カテゴリを追加するには、「**その他**」をクリックし、追加したいグループカテゴリを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. グループ化を削除するには、グループボタンをクリックし、「**グループ化を削除**」を選択します。

保存された検索

XenCenter® には、いくつかの便利な保存された検索が含まれています。これらの検索を使用すると、タグでリソースを検索できます。また、ネットワーク、オペレーティングシステム、電源状態、vApp、および XenServer VM Tools のステータスで VM を検索することもできます。これらの検索クエリは、**Search** タブの **Edit Search** ボタンをクリックして変更できます。

このリストには、いつでも独自のカスタム検索を作成して追加できます。詳細については、「検索クエリの作成」を参照してください。カスタム検索は、**Navigation** ペインの **Saved Searches** リストの一番上に表示されます。

保存された検索を適用するには

- **Resources** ペインで保存された検索を実行するには、**Navigation** ペインの **Saved Searches** リストから検索を選択します。検索結果は **Resources** ペインに表示されます。
- **Search** タブで保存された検索を実行するには、**Saved Searches** をクリックし、リストから保存された検索クエリを選択します。

保存された検索を削除するには

Search タブで、**Saved Searches** をクリックし、次に **Delete** をクリックして、リストから保存された検索クエリを選択します。確認のために **Yes** をクリックします。

検索のエクスポートとインポート

XenCenterでは、検索クエリを`.xensearch`ファイルとして保存できます。検索クエリをエクスポートして保存すると、検索クエリのみが保存され、結果は保存されません。

現在の検索をエクスポートするには

1. **検索**タブで、**エクスポート**を選択します。
2. ファイル名と場所を入力します。
3. **保存**をクリックして確定します。

検索をインポートするには

1. **検索**タブで、**インポート**を選択します。または、XenCenter®の**ファイル**メニューで、**検索のインポート**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. エクスポートされた検索ファイル（ファイル名拡張子 `.xensearch`）を参照して見つけ、**開く**をクリックします。インポートされた検索はすぐに実行され、**検索**タブに結果が表示されます。

インポートした検索を新しいカスタム検索として保存するには

1. **保存**をクリックします。
2. 検索クエリの**名前**を指定します。
3. 検索クエリのメタデータを保存する**場所**を選択します。
4. **保存**をクリックして確定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer® ライセンスについて

XenServer は、Citrix Cloud のライセンスアクティベーションサービスに接続し、XenServer のエンタイトルメントを検証するために、Citrix License Server を必要とします。Citrix Licensing のインストールと実行方法については、Citrix 製品ドキュメントを参照してください。

Citrix Virtual Apps and Desktops または Citrix DaaS ワークロードを実行するために XenServer を使用している場合、XenServer は、Citrix ワークロードを実行するための Citrix for Private Cloud、Citrix Universal Hybrid Multi-Cloud、Citrix Universal MSP、および Citrix Platform License サブスクリプションのエンタイトルメントになりました。詳細はこちら。

XenServer Trial Edition を使用する場合、ライセンスまたは Citrix License Server は必要ありません。詳細については、XenServer ライセンスを参照してください。

ライセンスの詳細については、以下を参照してください。

- ライセンスの概要
- XenServer ライセンスの管理

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ライセンスの概要
- ライセンスに関するFAQ

ライセンスの概要

XenServerは、以下のエディションで利用できます。

- トライアルエディション
- プレミアムエディション

「**プレミアムエディション**」は、サーバー、デスクトップ、クラウドのワークロード向けに最適化された、当社のプレミアム製品です。以下の機能を提供します。

- 動的ワークロードバランシング

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- NVIDIA vGPUによるGPU仮想化
- 共有ブロックストレージデバイスのシンプロビジョニング
- SMBストレージのサポート
- ダイレクトインスペクトAPI
- プールリソースデータのエクスポート
- インメモリ読み取りキャッシュ
- PVS-アクセラレーター
- Citrix Virtual Desktops™ タブレットモードの有効化
- 変更ブロック追跡
- IGMP スヌーピング
- USB パススルー
- SR-IOV ネットワークサポート
- NRPE を使用したホストおよび dom0 リソースの監視
- SNMP を使用したホストおよび dom0 リソースの監視

  XenServer を使用して Citrix Virtual Apps and Desktops または Citrix DaaS ワークロードを実行する場合、Premium Edition ライセンスが必要です。XenServer は現在、Citrix ワークロードを実行するための Citrix for Private Cloud、Citrix Universal Hybrid Multi-Cloud、Citrix Universal MSP、および Citrix Platform License サブスクリプションのエンタイトルメントとなっています。もっと読む。

Trial Edition では、3台以下のホストに制限されたプールで、すべての Premium Edition 機能にアクセスできます。Trial Edition は、有効期限が切れるまで90日間使用できます。この90日間の期間が終了すると、Trial Edition ホストまたはプールで VM を起動することはできません。

Citrix® ライセンス

XenServer は、他の Citrix 製品と同じライセンスプロセスを使用するため、License Activation Service で有効なライセンスまたはエンタイトルメントが利用可能である必要があります。Citrix License Server を使用して License Activation Service に接続し、エンタイトルメントを確認してください。License Server は Citrix Licensing からダウンロードできます。

XenServer® ホストにライセンスを割り当てると、XenServer は指定された Citrix License Server に接続し、指定されたサーバーのライセンスを要求します。成功すると、ライセンスがチェックア

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ウトされます。**License Manager** には、ホストがライセンスされているライセンスに関する情報が表示されます。

ライセンスを要求または適用する際、XenServer のバージョンおよびライセンスの種類に関する情報が Citrix に送信される場合があります。ユーザー、VM、または XenServer 環境に関するその他の情報は収集または Citrix に送信されません。ライセンスプロセス中に Citrix に送信される限定された情報は、当社のプライバシーポリシーに従って取り扱われます。詳細については、当社のプライバシーポリシー を参照してください。

XenServer サーバーのライセンス

XenServer は部分的なライセンスをサポートしていません。プール内のすべてのサーバーがライセンスされている必要があります。XenServer プールに異なるライセンスタイプでライセンスされているサーバーが含まれている場合、最も低いライセンスがプール全体に適用されます。ライセンスされているホストとライセンスされていないホストが混在するプールは、すべてのホストがライセンスされていないかのように動作します。XenServer でのライセンス管理については、(/ja-jp/xencenter/current-release/licensing-manage.html) を参照してください。

ライセンスの有効期限

XenCenter® は、ライセンスの有効期限が近づくと通知します。有効期限が切れる前にライセンスを購入してください。XenServer ライセンスの有効期限が切れると、次のようになります。

- XenCenter License Manager はステータスを **ライセンスなし** と表示します。
- 別のライセンスを購入するまで、プール内のどのサーバーに対しても、ライセンス機能にアクセスしたり、テクニカルサポートを受けたりすることはできません。
- お客様はトライアルエディションを実行しており、トライアルエディションのライセンスが期限切れになるまでの90日間、そのエディションで提供される機能を使用できます。

ライセンス猶予期間

ライセンスされたXenServerホストがライセンスサーバーに接続できない場合、サーバーは15日間のライセンス猶予期間に入ります。猶予期間中、XenServerはキャッシュされた情報を通じて自身をライセンスします。サーバーは、ライセンスサーバーと引き続き通信しているかのように動作を継続できます。猶予期間は15日間で、猶予期間が終了すると、XenServerはライセンスなしの状態に戻ります。XenServerとライセンスサーバー間の通信が再確立されると、猶予期間はリセットされます。

ライセンスサーバーがライセンスアクティベーションサービスに接続できない場合、サーバーは30日間のライセンス猶予期間に入ります。猶予期間中、XenServerはキャッシュされた情報を通じ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

て自身をライセンスします。サーバーは、ライセンスサーバーがライセンスアクティベーションサービスと引き続き通信しているかのように動作を継続できます。猶予期間は30日間で、猶予期間が終了すると、XenServerはライセンスなしの状態に戻ります。ライセンスサーバーとライセンスアクティベーションサービス間の通信が再確立されると、猶予期間はリセットされます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ライセンスの概要
- ライセンスに関するFAQ

XenServer® ライセンスの管理

このトピックでは、XenServer でのライセンス管理に関する情報について説明します。

プール内のすべてのホストはライセンスが必要です。XenCenter の **ライセンスマネージャー** ダイアログボックスを使用して、XenServer ライセンスを管理できます。ライセンスマネージャーでは、次のことができます。

- 管理対象サーバーに XenServer ライセンスを**割り当て**ます。ライセンスを割り当てると、XenServer は Citrix® License Server に接続し、指定された種類のライセンスを要求します。ライセンスが利用可能な場合、Citrix License Server からチェックアウトされます。
- XenServer ライセンスを**解放**します。ライセンスを解放すると、XenServer は Citrix License Server に接続し、ライセンスをチェックインし直します。

ライセンスマネージャー ダイアログには、ホストに適用されているライセンスに関する情報も表示されます。次の情報が一覧表示されます。

- ライセンスの種類。
- ソケット数。
- ライセンスの有効期限。
- ライセンスサーバーのホストとポート。
- ライセンスが有効にする機能のレベル。詳細については、「ライセンスの概要」を参照してください。
- ホストがサポートの対象であるかどうか。ライセンスにアクティブな Customer Success Services サブスクリプションが関連付けられている場合、ホストはサポートの対象となります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ライセンスが非推奨であるかどうか。ライセンスの取得については、XenServer Webサイト を参照してください。

利用可能なライセンス

XenCenter には、XenServer Premium Per-Socket ライセンスが表示されます。

XenServer は、Universal Hybrid Multi-Cloud、Citrix Platform、Citrix® Platform Flex、および Citrix for Private Cloud の各製品のエンタイトルメントです。ライセンスの取得については、Citrix Web サイト を参照してください。

サーバーとプールのライセンスステータスを確認するには

サーバーまたはプールのライセンスの種類を確認するには、ツリービューでそのサーバーまたはプールを選択します。XenCenter は、サーバーまたはプールの名前の後に、そのサーバーまたはプールのタイトルバーにライセンスステータスを表示します。

サーバーの タブに移動し、 セクションでライセンスの種類を確認することもできます。

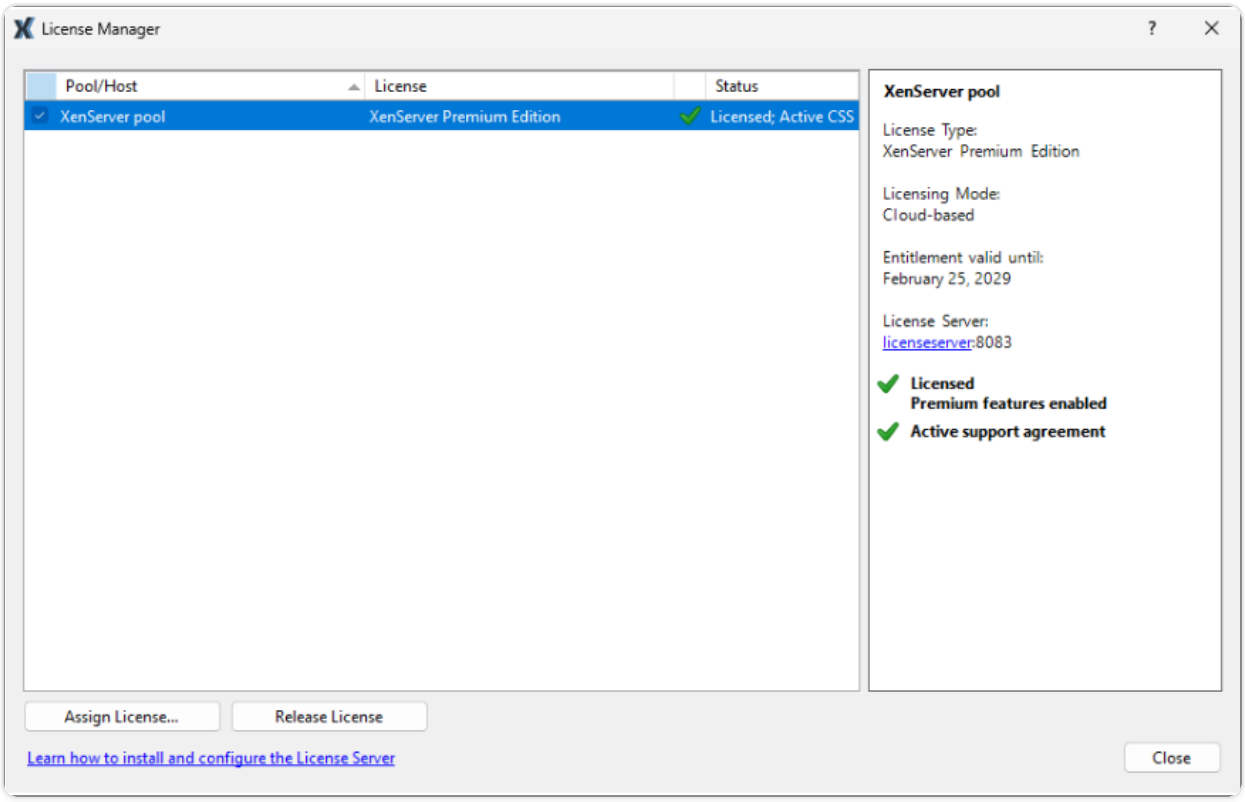
ライセンスが適用されているホストと適用されていないホストが混在するプールは、すべてのホストがライセンスなしであるかのように動作します。ツリービューでは、XenCenter はライセンスなしのプールを警告三角形アイコンで表示します。

ライセンスの詳細を確認する

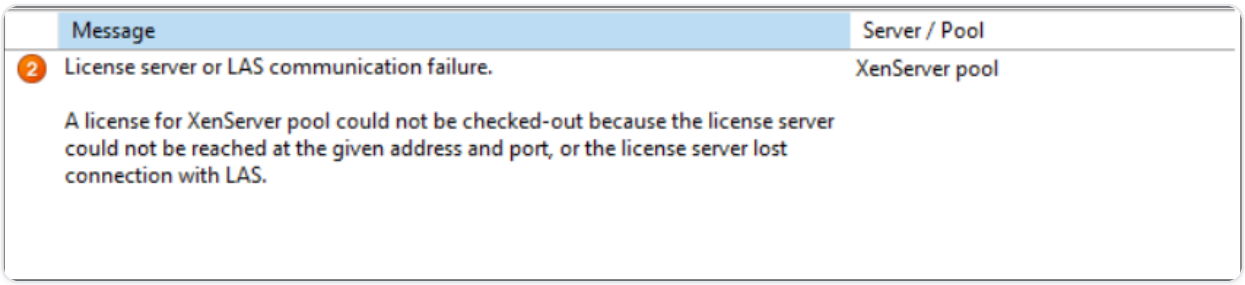
ライセンスを設定した後、XenCenter を使用してライセンスの詳細を確認できます。

1. XenCenter で、 メニューから を選択します。
2. ライセンスマネージャーで、リスト内のプールまたはホストをクリックします。XenServer が LAS を使用してアクティブ化されている場合、エンタイトルメント検証ステータスが右側のパネルに表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

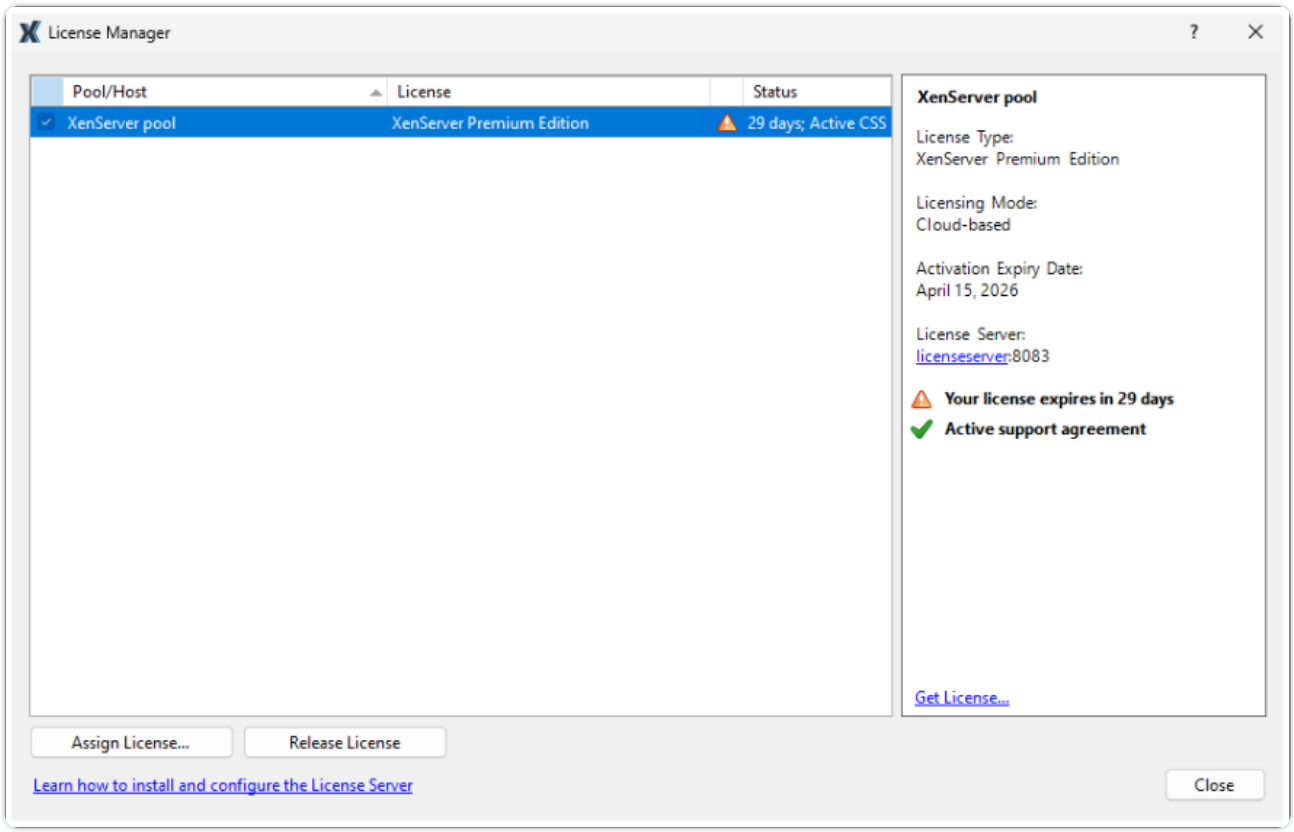


3. ライセンスサーバーが利用できないか、LAS と通信できない場合、XenCenter に「License server or LAS communication failure」というアラートが表示されることがあります。この状況では、XenServer は猶予期間に入ります。



ライセンスマネージャーでは、この猶予期間はライセンスの有効期限として反映され、ライセンスが指定された日数で期限切れになることを示す警告が表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



XenServer ライセンスを割り当てるには

1. 「**ツール**」メニューから、「**ライセンスマネージャー**」を選択します。
2. ライセンスを割り当てるホストまたはプールを1つ以上選択し、「**ライセンスの割り当て**」を選択します。
3. 「**ライセンスの適用**」ダイアログボックスで、ライセンスサーバーから要求するライセンスを選択します。さまざまなXenServerライセンスの詳細については、「ライセンスの概要」を参照してください。
4. ライセンスサーバーの詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

> **注：**
>
> デフォルトでは、ライセンスサーバーはCitrix Cloud™ License Activation Serviceとの通信にポート**8083**を使用します。

XenCenterは、指定されたCitrixライセンスサーバーに接続し、指定されたサーバーのライセンスを要求します。

- 成功すると、ライセンスがチェックアウトされ、XenCenterライセンスマネージャーに表示される情報が更新されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 接続に失敗した場合、「**ライセンスマネージャー**」には、ライセンスサーバーに関する追加情報を入力できるダイアログが表示されます。たとえば、ライセンスサーバーのデフォルトポートを変更した場合は、ポート番号ボックスに適切な番号を入力します。競合によるポート番号の変更の詳細については、Citrix Product Documentation Webサイトのライセンスに関するトピックを参照してください。

XenServerライセンスを解放するには

1. 「**ツール**」メニューで、「**ライセンスマネージャー**」を選択します。
2. サーバーまたはプールを選択し、「**ライセンスの解放**」を選択します。

関連ドキュメント

XenServer現在のリリース

- ライセンスの概要
- ライセンスFAQ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Citrix® 統合

この機能は、XenServerとCitrix Virtual Apps and Desktopsの異なる管理モデル間のギャップを埋めます。XenServerプールへの変更がCitrix Virtual Apps and Desktopsセッションに与える影響を示し、自信を持って効率的に環境を管理できるようにします。

現在、Citrixとの以下の統合を提供しています。

- XenServer®でホストされているVMがCitrix環境にどのようにマッピングされているかを表示します。
- XenServerプールで行っている操作がCitrix Virtual Apps and Desktopsセッションに影響を与える可能性がある場合に、警告を受け取ります。

<iframe src="https://www.youtube.com/embed/Vz_lHc0xdWM" width="720px" height="480px" frameborder="0" title="YouTube video player" allowfullscreen=""> </iframe>

フィードバック

mailto:feedback@xenserver.comにメールで、この機能についてのご意見をお聞かせください。XenServerおよびCitrix Virtual Apps and Desktopsの展開に関する情報をできるだけ多く含めることで、状況の全体像を理解するのにご協力ください。

互換性

この機能は、Citrix Virtual Apps and Desktops 2407およびCitrix Virtual Apps and Desktops 2411でテストされています。

Delivery Controller™はオンプレミスに配置され、XenCenterからアクセスできる必要があります。XenCenterは、Delivery ControllerのHTTPS RESTエンドポイントから情報を要求するためにポート443を使用します。

CitrixおよびXenServer環境のその他の接続要件については、接続要件およびCitrixが使用する通信ポートを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

制限事項

- プールごとに1つのサイトしか接続できません。XenServerプールが2つのCitrix Virtual Apps and Desktopsインストールをホストしている場合でも、統合できるのは1つだけです。
- サイトごとに1つのDelivery Controllerにしか接続できません。環境内に複数のDelivery Controllerがある場合は、そのうちの1つだけを選択して接続を作成してください。

シトリックス バーチャルアプリとデスクトップの権限

この機能のメリットを最大限に活用するには、Citrix 環境への接続に使用するアカウントに次の権限があることを確認してください。

- **読み取り専用管理者** - 無効になっていない読み取り専用のCitrix Virtual Apps and Desktops管理者は、この統合でサポートされる最小限の役割です。
- **VMスコープ** – XenCenter® Citrix統合を通じて表示および管理したいVMを表示するように、アカウントのスコープが設定されていることを確認してください。

Citrixに接続する

XenCenterをCitrix Virtual Apps and Desktops環境に接続するには：

1. **ツール > Citrix接続の管理...** に移動します。**Citrix接続の構成** ダイアログが開きます。
2. **接続の追加** をクリックします。
3. **名前** フィールドに接続の表示名を指定します。
4. **接続の詳細** で、Citrix Virtual Apps and Desktops環境の接続情報を提供します。
    - **コントローラーアドレス** に、Delivery ControllerのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
    - (オプション) **XenServer資格情報で事前入力** リストから、Delivery Controllerへの接続に使用するActive Directory資格情報のセットを選択します。この選択により、以下のフィールドに保存された資格情報が入力されます。
    - **ユーザー名** と **パスワード** に、Citrix環境の有効な資格情報を入力します。選択したユーザーアカウントには、必要なCitrix Virtual Apps and Desktopsの権限が必要です。
5. **接続のテスト** をクリックして、入力した値が正しいこと、およびXenCenterがCitrix環境に接続できることを確認します。
6. 接続が成功した場合は、**OK** をクリックして接続を保存できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenterは、Citrix環境に接続されている場合、ステータスバーにCitrixアイコン (

) を表示します。

少なくとも1つの接続が保存されている場合、XenCenterは以下のリソースに対して**Citrix**タブを表示します:

- VM
- ホスト
- プール

Citrix接続を削除する

XenCenterからCitrix接続を削除するには:

1. **ツール > Citrix接続の管理...** に移動します。**Citrix接続の構成**ダイアログが開きます。
2. 左側のパネルで接続を見つけます。
3. その接続の**削除**アイコン (X) をクリックします。
4. ダイアログを終了するには、**OK**をクリックします。

プールとCitrix®

Citrixタブ

XenCenterのプールの場合、**Citrix**タブには、このプールが稼働させているCitrix Virtual Apps and Desktops™環境、およびプールでホストされているマシンとセッションに関する情報が表示されます。このタブに表示される情報は10秒ごとに更新されます。

選択したプールをCitrix Virtual Apps and Desktops展開に関連付けられない場合、タブにメッセージが表示されます。プールがCitrix Virtual Apps and Desktops環境の一部である場合、これは不適切な権限が原因である可能性があります。

概要

このタブの**概要**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のセッション、マシン、マシンカタログ、およびデリバリーグループに関する概要情報が表示されます。

一般

このセクションには、次の情報が表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **名前:** Citrix Virtual Apps and Desktopsサイトの名前。
- **ID:** シトリックス バーチャル アプリケーションズ アンド デスクトップス サイトのID。
- **セッション:** プール内のセッションの総数と、切断されているセッションの数。
- **マシン:** サイトに存在するマシンの総数。このフィールドには、Citrix Virtual Apps and Desktopsでメンテナンスモードとしてマークされているマシンの数も表示されます。
- **デリバリーグループ:** サイトに存在するデリバリーグループの総数。このフィールドには、Citrix Virtual Apps and Desktopsでメンテナンスモードとしてマークされているデリバリーグループの数も表示されます。
- **マシンカタログ:** サイトに存在するマシンカタログの総数。このフィールドには、プロビジョニングタイプ（MCS、PVS、または手動）ごとにサイトに存在するマシンカタログの数も表示されます。

セッション

このタブの**セッション**セクションには、このプール内のすべてのVM上のCitrix Virtual Apps and Desktopsセッションがすべて一覧表示されます。各セッションについて、以下の情報が表示されます。

- **VM:** このセッションが実行されているVM。
- **ユーザー:** セッションのユーザーのフルユーザー名。
- **状態:** セッションがアクティブであるかどうか。
- **種類:** セッションの種類: デスクトップまたはアプリケーション。
- **セッション開始:** セッションの開始時刻。
- **セッション確立:** セッションがユーザーによって最後にアクティブに使用された時刻。

マシンカタログ

このタブの**マシンカタログ**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のすべてのマシンカタログが一覧表示されます。各マシンカタログについて、以下の情報が表示されます。

- **名前:** マシンカタログの名前。
- **マシンタイプ:** マシンの種類: 仮想または物理。
- **プロビジョニングタイプ:** マシンカタログで使用されるプロビジョニングタイプ: MCS、PVS、または手動。
- **割り当てタイプ:** マシンカタログによるマシンの割り当て方法: ランダムまたは静的。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **合計マシン数:** このマシンカタログ内のマシンの合計数。
- **サーバーに割り当てられたマシン:** このマシンカタログ内でこのプールに割り当てられているマシンの合計数。

デリバリーグループ

このタブの**デリバリーグループ**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のすべてのデリバリーグループが一覧表示されます。各デリバリーグループについて、次の情報が表示されます。

- **名前:** デリバリーグループの名前。
- **マシン数:** このプールのこのデリバリーグループ内のマシンの総数。
- **アクティブセッション:** このプールのこのデリバリーグループで実行されているアクティブセッションの数。
- **切断されたセッション:** このプールのこのデリバリーグループで実行されている切断されたセッションの数。

マシン

このタブの**マシン**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のすべてのマシンが一覧表示されます。各マシンについて、次の情報が表示されます。

- **名前:** Citrix Virtual Apps and Desktopsマシンの名前。
- **VM:** マシンが実行されているVMと、そのVMが実行されているホスト。
- **ユーザー変更の永続性:** エンドユーザーが行った変更が破棄されるかどうか。
- **デリバリーグループ:** マシンが割り当てられているデリバリーグループ。
- **マシンカタログ:** マシンが割り当てられているマシンカタログ。
- **アクティブセッション:** このマシンで実行されているアクティブセッションの数。
- **切断されたセッション:** このマシンで実行されている切断されたセッションの数。

ホストとCitrix®

Citrixタブ

XenCenterのホストの**Citrix**タブには、このホストが稼働させているCitrix Virtual Apps and Desktops環境、およびホストでホストされているマシンとセッションに関する情報が表示されます。このタブに表示される情報は10秒ごとに更新されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

選択したホストをCitrix Virtual Apps and Desktops展開に関連付けられない場合、タブにメッセージが表示されます。ホストがCitrix Virtual Apps and Desktops環境の一部である場合、これは不適切な権限が原因である可能性があります。

概要

このタブの**概要**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のセッション、マシン、マシンカタログ、およびデリバリーグループに関する概要情報が表示されます。

一般

このセクションには、次の情報が表示されます。

- **名前:** Citrix Virtual Apps and Desktopsサイトの名前。
- **ID:** Citrix Virtual Apps and Desktopsサイトの識別子。
- **セッション:** ホスト内のセッションの総数と、切断されているセッションの数。
- **マシン:** サイトに存在するマシンの総数。このフィールドには、Citrix Virtual Apps and Desktopsでメンテナンスモードとしてマークされているマシンの数も表示されます。
- **デリバリーグループ:** サイトに存在するデリバリーグループの総数。このフィールドには、Citrix Virtual Apps and Desktopsでメンテナンスモードとしてマークされているデリバリーグループの数も表示されます。
- **マシンカタログ:** サイトに存在するマシンカタログの総数。このフィールドには、プロビジョニングタイプ（MCS、PVS、または手動）ごとにサイトに存在するマシンカタログの数も表示されます。

セッション

このタブの**セッション**セクションには、このホスト上のすべてのVMにおけるCitrix Virtual Apps and Desktopsセッションがすべて表示されます。各セッションについて、以下の情報が表示されます。

- **VM:** このセッションが実行されているVM。
- **ユーザー:** セッションのユーザーのフルユーザー名。
- **状態:** セッションがアクティブであるかどうか。
- **種類:** セッションの種類: デスクトップまたはアプリケーション。
- **セッション開始:** セッションの開始時刻。
- **セッション確立:** セッションがユーザーによって最後にアクティブに使用された時刻。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

マシンカタログ

このタブの**マシンカタログ**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のすべてのマシンカタログが表示されます。各マシンカタログについて、以下の情報が表示されます。

- **名前:** マシンカタログの名前。
- **マシンの種類:** マシンの種類: 仮想または物理。
- **プロビジョニングの種類:** マシンカタログで使用されるプロビジョニングの種類: MCS、PVS、または手動。
- **割り当ての種類:** マシンカタログによるマシンの割り当て方法: ランダムまたは静的。
- **マシンの総数:** このマシンカタログ内のマシンの総数。
- **サーバーに割り当てられたマシン:** このマシンカタログ内でこのサーバーに割り当てられているマシンの総数。

デリバリーグループ

このタブの**デリバリーグループ**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のすべてのデリバリーグループが一覧表示されます。各デリバリーグループについて、次の情報が表示されます。

- **名前:** デリバリーグループの名前。
- **サーバーマシン数:** このサーバー上のこのデリバリーグループ内のマシンの総数。
- **サーバーアクティブセッション:** このサーバー上のデリバリーグループで実行されているアクティブセッションの数。
- **サーバー切断セッション:** このサーバー上のデリバリーグループで実行されている切断されたセッションの数。

マシン

このタブの**マシン**セクションには、接続されているCitrix Virtual Apps and Desktops環境内のすべてのマシンが一覧表示されます。各マシンについて、次の情報が表示されます。

- **名前:** Citrix Virtual Apps and Desktopsマシンの名前。
- **VM:** マシンが実行されているVM。
- **ユーザー変更の永続性:** エンドユーザーが行った変更が破棄されるかどうか。
- **デリバリーグループ:** マシンが割り当てられているデリバリーグループ。
- **マシンカタログ:** マシンが割り当てられているマシンカタログ。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **アクティブセッション:** このマシンで実行されているアクティブセッションの数。
- **切断されたセッション:** このマシンで実行されている切断されたセッションの数。

警告

Citrix Virtual Apps and DesktopsセッションをホストするVMがあるXenServerホストをシャットダウンまたは再起動しようとすると、XenCenterは影響を受けるセッションを一覧表示する警告ポップアップを表示し、続行するかどうかを尋ねます。

仮想マシンとCitrix®

Citrixタブ

XenCenterのVMの「**Citrix**」タブには、このVMが属するCitrix Virtual Apps and Desktops環境と、このVM上のセッションに関する情報が表示されます。このタブに表示される情報は10秒ごとに更新されます。

選択したVMをCitrix Virtual Apps and Desktops展開に関連付けられない場合、タブにメッセージが表示されます。VMがCitrix Virtual Apps and Desktopsセッションをホストしている場合、これは不適切な権限が原因である可能性があります。

概要

このタブの「**概要**」セクションには、VMによって稼働するCitrix Virtual Apps and Desktopsマシンに関連する一般、マシンカタログ、およびデリバリーグループの情報が表示されます。

一般

このセクションには、VMによって稼働するCitrix Virtual Apps and Desktopsマシンに関する次の情報が表示されます。

- 「**名前:**」VMによって稼働するCitrix Virtual Apps and Desktopsマシンの名前。
- 「**ID**」VMによって稼働するマシンのID。このIDはVMのUUIDとは異なります。
- 「**メンテナンスモード:**」マシンがCitrix Virtual Apps and Desktopsのメンテナンスモードとしてマークされているかどうか。
- 「**ユーザー変更の永続性モード:**」エンドユーザーが行った変更が破棄されるかどうか。
- 「**セッション:**」このVM上のセッションの総数と、そのうち切断されているセッションの数。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

マシンカタログ

このセクションには、マシンが割り当てられているマシンカタログに関する次の情報が表示されます。

- **名前:** マシンカタログの名前。
- **ID:** マシンカタログのID。
- **説明:** マシンカタログの説明。
- **プロビジョニングタイプ:** マシンカタログで使用されるプロビジョニングタイプ: MCS、PVS、または手動。
- **割り当てタイプ:** マシンカタログによるマシンの割り当て方法: ランダムまたは静的。
- **マシンタイプ:** マシンの種類: 仮想または物理。
- **合計マシン数:** このマシンカタログ内のマシンの総数。
- **マシン:** 現在選択されているマシンを含む、マシンカタログ内のすべてのマシンのコンマ区切りリスト。

デリバリーグループ

このセクションには、マシンが割り当てられているデリバリーグループに関する以下の情報が表示されます。

- **名前:** デリバリーグループの名前。
- **ID:** デリバリーグループのID。
- **説明:** デリバリーグループの説明。
- **メンテナンスモード中:** デリバリーグループがCitrix Virtual Apps and Desktopsのメンテナンスモードとしてマークされているかどうか。
- **合計マシン数:** このデリバリーグループ内のマシンの総数。
- **マシン:** 現在選択されているものを含む、デリバリーグループ内のすべてのマシンのコンマ区切りリスト。

セッション

このタブの**セッション**セクションには、このマシン上のすべてのCitrix Virtual Apps and Desktopsセッションが一覧表示されます。各セッションについて、次の情報が表示されます。

- **ユーザー:** セッションのユーザーのフルユーザー名。
- **状態:** セッションがアクティブであるかどうか。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **種類:** セッションの種類: デスクトップまたはアプリケーション。
- **セッション開始:** セッションの開始時刻。
- **セッション確立:** セッションがユーザーによって最後にアクティブに使用された時刻。

警告

Citrix Virtual Apps and Desktopsセッションをホストするvmをシャットダウン、再起動、または一時停止しようとすると、XenCenterは、影響を受けるセッションを一覧表示し、続行するかどうかを尋ねる警告ポップアップを表示します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サーバーの管理

接続と切断

- サーバーの追加
- サーバーの切断
- サーバーの再接続
- サーバーの再起動
- サーバーのシャットダウン
- ツールスタックの再起動
- ホストの電源オンの構成
- サーバーをリモートで電源オンにする
- メンテナンスモードで実行する
- サーバー接続状態の保存
- サーバーのバックアップと復元
- XenCenter からサーバーを削除する

ネットワークの構成

- XenServer ネットワーク
- 新しいネットワークの追加
- ネットワークの削除
- ネットワークプロパティの表示と変更
- NIC の構成
- IP アドレスの構成

詳細情報

- サーバープロパティの変更
- コントロール ドメイン メモリの変更
- 管理対象サーバーリストのエクスポートとインポート

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サーバーの接続と切断

- 新しいサーバーを追加する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-add.html)
- サーバーを切断する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-disconnect.html)
- サーバーを再接続する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-reconnect.html)
- サーバーを再起動する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-reboot.html)
- サーバーをシャットダウンする(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-shutdown.html)
- ツールスタックを再起動する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-restart-xapi.html)
- ホストの電源オンを設定する(/ja-jp/xencenter/current-release/host-power-on-enable.html)
- サーバーをリモートで電源オンにする(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-remotepoweron.html)
- メンテナンスモードで実行する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-maintenancemode.html)
- TLS証明書をインストールする(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-certificates.html)
- サーバー接続状態を保存する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-connect-save.html)
- サーバーをバックアップおよび復元する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-backup.html)
- XenCenterからサーバーを削除する(/ja-jp/xencenter/current-release/hosts-remove.html)

サーバーを追加する

XenCenter® からサーバー上のアクティビティを監視および管理するには、まずそのサーバーを管理対象リソースとして識別します。初めてサーバーに接続すると、そのサーバーは XenCenter ウィンドウ左側の **リソース** ペインに表示されます。サーバーのデフォルトのストレージリポジトリ (構成されている場合) およびサーバー上の物理 CD または DVD ドライブもここに表示されます。管理対象サーバーは、その後切断、再接続、シャットダウン、またはメンテナンスモードにすることができます。XenCenter から削除するまで、**リソース** ペインからアクセス可能です。

XenCenter を使用してサーバーに初めて接続すると、**接続状態の保存と復元** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログを使用すると、各 XenCenter セッションの開始時に接続情報を保存し、サーバー接続を復元するための設定を行うことができます。詳細については、「サーバー接続状態の保存」を参照してください。

XenCenter にサーバーを追加するには

1. **新しいサーバーの追加** をクリックします。または、次のいずれかの方法を使用します。
   - **サーバー** メニューで、**追加** をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **リソース** ペインで、最上位の XenCenter エントリを選択し、右クリックしてショートカットメニューの **追加** をクリックします。
- XenCenter のホーム画面で、**新しいサーバーの追加** ボタンをクリックします。

2. 追加するサーバーの IP アドレスまたは DNS 名を **サーバー** ボックスに入力します。例: `203.0.113.28` または `server.example.com`。

   ヒント:

   サーバー ボックスに、名前または IP アドレスをセミコロンで区切って入力することで、同じログイン資格情報を持つ複数のサーバーを追加できます。

3. XenServer のインストール中に設定したユーザー名とパスワードを入力します。XenServer 環境で Active Directory (AD) 認証が有効になっている場合は、ここに AD 資格情報を入力できます。詳細については、「RBAC の概要」を参照してください。
4. **追加** をクリックします。接続の進行状況モニターが表示されます。接続をキャンセルするには、**キャンセル** をクリックします。

セキュリティ証明書

XenCenter は、管理対象サーバーへの接続中に新しいまたは変更された TLS セキュリティ証明書を検出するたびに、警告メッセージを表示するように構成できます。セキュリティ証明書を表示するには、**証明書の表示** をクリックします。TLS 証明書の警告が生成されないようにするには、XenCenter の **オプション** ダイアログボックスにある **セキュリティ設定** タブを使用します。

サーバーを切断する

切断されたサーバーは管理対象サーバーのままであり、**リソース**ペインで次のステータスアイコンとともに引き続き利用可能です:


現在切断されているサーバーを確認するには、**ナビゲーション**ペインで**オブジェクト**ビューに切り替え、**切断されたサーバー**をクリックします。

サーバーを切断するには:

1. **リソース**ペインでサーバーを選択します。
2. **サーバー**メニューで、**接続/切断**をクリックし、次に**切断**をクリックします。

切断されたサーバーにはいつでも再接続できます。詳細については、「サーバーの再接続」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

リソースペインから切断されたサーバーを削除するには、「XenCenterからサーバーを削除する」を参照してください。

サーバーを再接続する

XenCenter®にサーバーを追加すると、現在のXenCenterセッション中は**リソース**ペインでアクセス可能なままになります。サーバーのステータス（接続済みか切断済みか、正常に稼働しているかメンテナンスモードであるか）に関わらずアクセス可能です。

切断されたサーバーに再接続するには、**リソース**ペインでそのサーバーを選択するか、右クリックしてショートカットメニューから**接続**を選択します。サーバーの接続情報は、現在のXenCenterセッション中に記憶されます。同じユーザーアカウントを使用して再接続する場合、同じXenCenterセッション内でログイン資格情報を複数回入力する必要はありません。

接続済みのサーバーに、異なるログイン資格情報を使用して再接続することもできます。例えば、ローカルのrootアカウントの代わりにADログインを使用するなどです。

異なるログイン資格情報を使用して接続済みのサーバーに再接続するには

1. **リソース**ペインでサーバーを選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
   - **リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから**名前を付けて再接続**を選択します。
   - **サーバー**メニューで、**接続/切断**を選択し、次に**名前を付けて再接続**を選択します。
3. 新しいユーザー名とパスワードを入力します。XenServer環境でActive Directory認証が有効になっている場合、ここにAD資格情報を入力できます。RBACの概要を参照してください。
4. **OK**をクリックします。

サーバーを再起動する

XenCenter® でサーバーを再起動すると、そのサーバー上で実行されているすべての VM がシャットダウンされます。VM がシャットダウンされた後、サーバーは切断され、再起動されます。サーバーがプールに属している場合、シャットダウン時の接続喪失は処理され、サーバーが復帰するとプールは回復します。別のプールメンバー（プールコーディネーターではない）をシャットダウンした場合、他のプールメンバーとプールコーディネーターは引き続き機能します。プールコーディネーターをシャットダウンした場合、プールコーディネーターが再起動してオンラインに戻るまで、プールは機能停止状態になります。プールコーディネーターが再起動すると、他のメンバー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

はプールコーディネーターに再接続し、同期します。あるいは、xe CLI を使用して、他のメンバーのいずれかをプールコーディネーターにすることもできます。

XenServer VM Tools がインストールされている VM は、ホストサーバーを再起動すると正常にシャットダウンされます。ただし、XenServer VM Tools がインストールされていない VM は、強制シャットダウンを使用してシャットダウンされます。強制シャットダウンを避けるには、VM に XenServer VM Tools をインストールしてください。詳細については、「XenServer VM Tools のインストール」を参照してください。

サーバーの再起動後、XenCenter は自動的にサーバーへの再接続を試みます。サーバーが再接続されたら、サーバーの再起動時に自動的に起動するように構成されていない限り、そのサーバーで実行されていたすべての VM を再起動します。詳細については、「VM プロパティの変更」を参照してください。

サーバーを再起動するには

リソースペインでサーバーを選択し、ツールバーの**再起動**をクリックします。

サーバーをシャットダウンする

XenCenter® でサーバーをシャットダウンすると、そのサーバー上で実行されているすべての VM がシャットダウンされ、その後サーバーは切断されて電源がオフになります。サーバーがプールに属している場合、シャットダウン時の接続喪失は処理され、サーバーが復帰するとプールは回復します。他のプールメンバー（プールコーディネーターではない）をシャットダウンした場合、他のプールメンバーとプールコーディネーターは引き続き機能します。プールコーディネーターをシャットダウンした場合、プールコーディネーターが再起動してオンラインに戻るまで、プールは機能停止状態になります。その時点で、他のメンバーはプールコーディネーターに再接続し、同期します。あるいは、xe CLI を使用して、他のメンバーのいずれかをプールコーディネーターにすることもできます。

XenServer VM Tools がインストールされている VM は、正常にシャットダウンされます。ただし、XenServer VM Tools がインストールされていない VM は、強制シャットダウンされます。強制シャットダウンを避けるには、すべての VM に XenServer VM Tools をインストールしてください。詳細については、「XenServer VM Tools のインストール」を参照してください。

サーバーの電源を再度オンにした後、再度接続する必要があります。詳細については、「サーバーの再接続」を参照してください。

サーバーをシャットダウンするには

リソースペインでサーバーを選択し、ツールバーの**シャットダウン**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サーバーがシャットダウンされると、**リソース**ペインでのステータスが**切断済み**に変わります。



ツールスタックの再起動

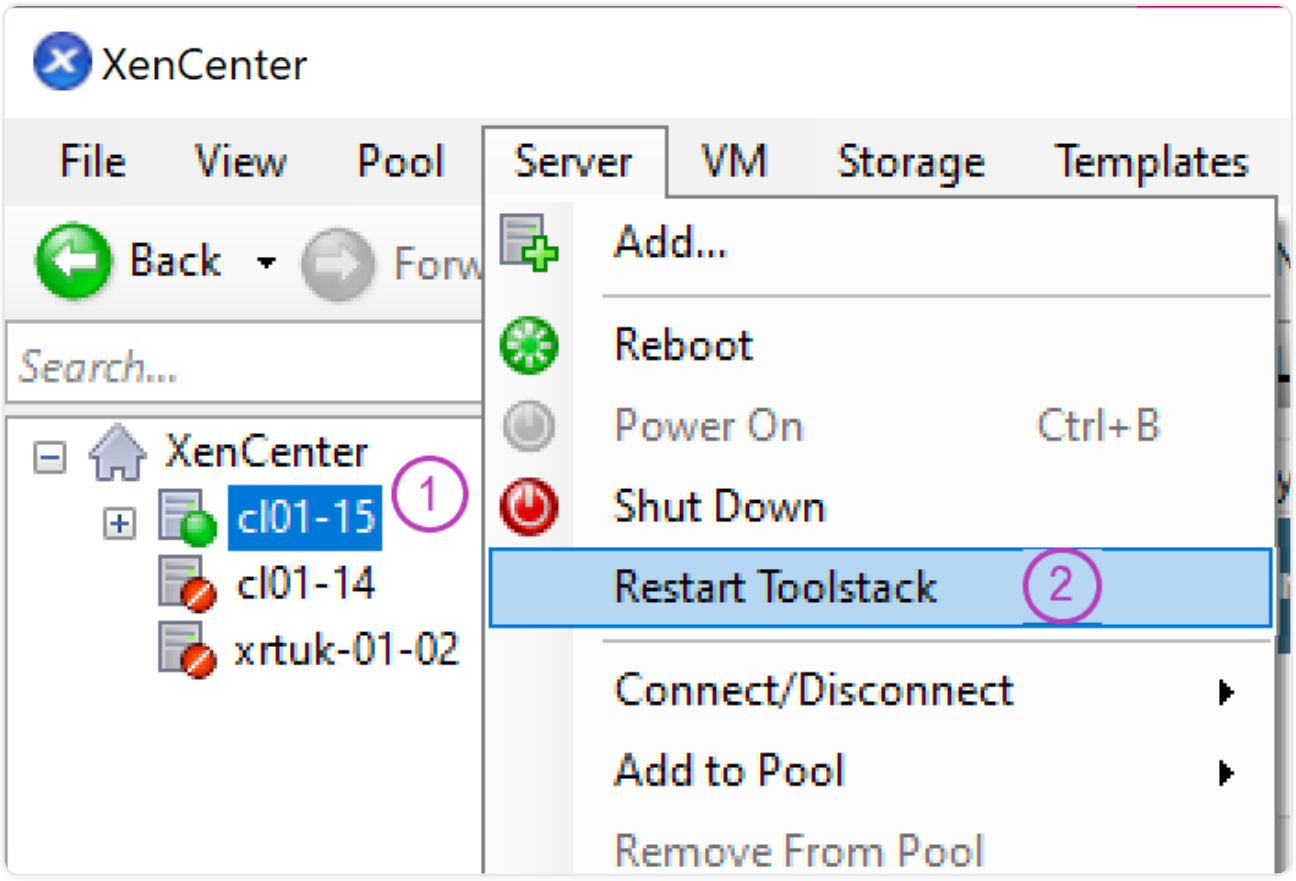
ツールスタックの再起動オプションを使用すると、XenServer®管理ツールスタックを再起動できます。このツールスタックは、VMのライフサイクル操作、ホストおよびVMのネットワーク、VMストレージ、ユーザー認証を制御します。XenServerリソースプールの管理を可能にします。このツールスタックは、VMおよびリソースプールを管理するすべてのツールで使用される、公開されている管理APIを提供します。

注:

場合によっては、**ツールスタックの再起動**オプションをXenServerの問題のトラブルシューティングに使用できます。ただし、このオプションの使用には注意してください。誤った使用は予期せぬ結果を引き起こす可能性があります。

HAが有効な間はツールスタックを再起動しないでください。可能であれば、ツールスタックを再起動する前に一時的にHAを無効にしてください。

ツールスタックを再起動するには



© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. **リソース**ペインでサーバーを選択します。
2. **サーバー**メニューで、**ツールスタックの再起動**をクリックします。
3. **はい**をクリックして確認します。

> **注:**
>
> プールコーディネーターで**ツールスタックの再起動**オプションを実行すると、XenCenter®はプールへの接続を失い、その後自動的に再接続を試みます。

ホスト電源オンの構成

XenServer® ホスト電源オン機能を使用すると、リモートホスト (サーバー) の電源を手動でオン/オフできます。この機能を使用するには、次の手順を実行する必要があります。

1. サーバーがリモート電源制御をサポートしていることを確認します。つまり、サーバーには次のいずれかの機能が必要です。
   - Wake on LAN 機能
   - IPMI サポート
   - カスタムスクリプト
2. ホスト電源オン機能を有効にします。

   DRAC プロセッサでこの手順を実行するには、プロセッサのファームウェアで設定されている資格情報が必要です。

サーバーでホスト電源オンが構成されたら、XenCenter からサーバーの電源をオンにできます。サーバーを選択し、**サーバー** メニューで **電源オン** をクリックします。

Workload Balancing をインストールして構成している場合、XenServer を構成して、VM が統合されたりオンラインに戻されたりする際にホストの電源をオン/オフすることもできます。この機能は Power Management と呼ばれます。

ホスト電源オンの前提条件

ホスト電源オン機能を有効にするには、ホストサーバーに次のいずれかの電源制御ソリューションが必要です。

- **Wake On LAN (WOL)** をサポートするネットワークカード。
- **インテリジェント プラットフォーム管理インターフェース (IPMI)** のサポート。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- Management API に基づくカスタム電源オン スクリプト。これにより、XenServer を介して電源をオン/オフできます。詳細については、「ホストとリソースプール」を参照してください。

ホスト電源オンを有効または無効にする

個々のサーバーに対してはサーバーの**プロパティ**ウィンドウを、複数のサーバーに対してはプールの**プロパティ**ウィンドウを使用して、ホスト電源オンを有効にできます。

1. サーバーまたはプールを選択し、その**プロパティ**ダイアログボックスを開きます。**サーバー**または**プール**メニューで、**プロパティ**をクリックします。
2. **電源オン**タブをクリックし、**電源オンモード**で、目的のオプションを選択します。
   - **無効** ホスト電源オン機能を無効にするには、このオプションを選択します。
   - **Wake on LAN (WOL)** このオプションを使用するには、ホストにWake on LAN対応のネットワークカードが必要です。
   - **Intelligent Platform Management Interface (IPMI)** このオプションを使用するには、サーバーがIPMIを介した電源管理をサポートしている必要があります。
   - **カスタム電源オン スクリプト** リモートの場所からXenServerホストの電源をオンにするには、カスタムのPython 3 Linuxスクリプトを使用できます。スクリプトの作成方法、およびサポートされているキー/値ペアのリストについては、ホストとリソースプールを参照してください。
3. IPMIを選択した場合は、次の情報を入力します。
   - **IPアドレス** IPMIコントローラーと通信するように構成されたIPアドレス。
   - **ユーザー名** これは、管理プロセッサに関連付けられているユーザー名です。この値は、工場出荷時のデフォルト設定から変更されている場合があります。
   - **パスワード** これは、そのユーザー名に関連付けられているパスワードです。
4. **カスタム電源オン スクリプト**を選択した場合は、作成したカスタムスクリプトのファイル名とパスを入力します。**構成オプション**で、スクリプトの構成に使用するキー/値ペアを入力します。クリックまたはタブでフィールド間を移動します。

   カスタムスクリプトのファイル名を指定するときに、.py拡張子を指定する必要はありません。
5. **OK**をクリックして構成の変更を保存し、**プロパティ**ウィンドウを閉じます。

設定後、ワークロードバランシング自動化機能とホスト電源オン機能を構成および実行できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ホスト電源オン

サーバーをリモートで起動する

ホスト電源オン機能を使用すると、XenCenterから管理対象サーバーをリモートで起動できます。この機能を使用するには、サーバーが以下の条件を満たしている必要があります。

- サーバーがリモート電源制御をサポートしていること: Wake-on-LAN機能、IPMI、またはカスタム電源オン スクリプト。
- サーバーの**プロパティ**設定でホスト電源オンを有効にしていること。この機能は、プールレベルで複数のサーバーに対して一度に有効にできます。詳細については、ホスト電源オンの構成を参照してください。

ホスト電源オンが構成されたら、サーバーを選択し、次のいずれかを実行します。

- **サーバー**メニューで、**電源オン**を選択します。
- 右クリックして**電源オン**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ホスト電源オン

メンテナンスモードで実行する

管理対象サーバーをオフラインにする理由はいくつか考えられます。たとえば、次のとおりです。

- 仮想化ソフトウェアのローリングアップグレードを行うため
- 新しいネットワークへの接続を追加またはテストするため
- 根本的なハードウェアの問題を診断するため
- 新しいストレージシステムへの接続を追加するため。

XenCenter® を使用して、サーバーを *メンテナンスモード* にすることで一時的にオフラインにします。リソースプール内のサーバーをメンテナンスモードにすると、そのサーバー上で実行されているすべての VM は、同じプール内の別のサーバーに自動的に移行されます。サーバーがプールコーディネーターである場合、新しいプールコーディネーターもプール用に選択されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ワークロードバランシングが有効になっている場合、そのサーバーで実行されている VM は、利用可能な最適なサーバーに移行されます。これらの移行は、ワークロードバランシングの推奨事項（パフォーマンスデータ、配置戦略、パフォーマンスしきい値）に基づいています。

サーバーがメンテナンスモードの間は、そのサーバー上で VM を作成したり起動したりすることはできません。

サーバーをメンテナンスモードにするには

XenCenter リソースペイン（左ペイン）の **インフラストラクチャ** ビューで、サーバーを選択し、次のいずれかを実行します。

- サーバー名を右クリックし、ショートカットメニューから **メンテナンスモードに入る** を選択します。
- **サーバー** メニューで、**メンテナンスモードに入る** を選択します。

実行中のすべての VM がサーバーから正常に移行されると、**リソース** ペインのサーバーのステータスが、サーバーメンテナンスモードアイコンを表示するように変わります。


サーバーをメンテナンスモードから解除するには

XenCenterリソースペイン（左ペイン）の**インフラストラクチャ**ビューで、サーバーを選択し、次のいずれかを実行します。

- サーバー名を右クリックし、ショートカットメニューから**メンテナンスモードの終了**を選択します。
- **サーバー**メニューで、**メンテナンスモードの終了**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- XenServerホストのプールをメンテナンス用に準備する

サーバーにTLS証明書をインストールする

XenServerホストにはデフォルトのTLS証明書がインストールされています。ただし、XenServerとCitrix Virtual Apps and Desktops™間の通信をHTTPSで保護するには、信頼できる認証局が提供する証明書をインストールしてください。

この記事では、XenCenterで証明書を使用する方法について説明します。xe CLIを使用して証明書を操作する方法については、「ホストとリソースプール」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

要件

TLS証明書とその秘密鍵が以下の要件を満たしていることを確認してください。

- 証明書とキーペアはRSAキーであること
- キーが証明書と一致すること
- キーは証明書とは別のファイルで提供されること
- 証明書は、中間証明書とは別のファイルで提供されること
- キーファイルは、次のいずれかのタイプである必要があります: `.pem` または `.key`
- すべての証明書ファイルは、次のいずれかのタイプである必要があります: `.pem`、`.cer`、または `.crt`
- キーの長さは2,048ビット以上4,096ビット以下であること
- キーは暗号化されていないPKCS #8キーであり、パスキーを持たないこと
- キーと証明書はbase-64エンコードされた「PEM」形式であること
- 証明書が有効であり、期限切れでないこと
- 署名アルゴリズムはSHA-256またはSHA-512です。

選択した証明書とキーがこれらの要件を満たしていない場合、XenCenter®は警告を表示します。

証明書をインストールする

XenCenterからアクセス可能な場所にある証明書を、XenCenterを使用してXenServer®ホストにインストールできます。

XenServerホストに証明書をインストールするには、プール管理者ロールを持っている必要があり、XenServerホストでHAが有効になっていてはなりません。

1. **証明書のインストール**ダイアログに移動します。このダイアログには、次のいずれかの方法でアクセスできます。
   - **サーバー**メニューで、**証明書のインストール**を選択します。
   - リソースペインでホストを右クリックし、コンテキストメニューから**証明書のインストール**を選択します。
   - ホストの**全般**タブで、**証明書**セクションを右クリックし、コンテキストメニューから**証明書のインストール**を選択します。
2. **証明書のインストール**ダイアログで、秘密鍵ファイルの場所を参照して選択します。
3. サーバー証明書ファイルの場所を参照して選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. 証明書チェーンから任意の数の中間証明書を追加できます。

   a. **追加**をクリックします。

   b. 1つまたは複数の中間証明書の場所を参照して選択します。

5. **インストール**をクリックします。

   XenCenter は証明書を検証してインストールします。

   - 証明書に問題がある場合、XenCenter はエラーメッセージを表示します。問題を修正し、もう一度 **インストール** をクリックしてください。
   - 証明書が正常にインストールされると、XenCenter は成功メッセージを表示します。これで **閉じる** をクリックしてダイアログを閉じることができます。

XenServer ホスト上の証明書が変更されると、ホストは開いている接続をすべて閉じます。XenCenter はこの動作を想定しており、XenServer ホストとの接続を再開します。ただし、以前にホストに開いていた他の接続（たとえば、別の API クライアントやリモート xe CLI からの接続）は、手動で再開する必要がある場合があります。

証明書情報の表示

XenServer ホストの **全般** タブにある **証明書** セクションには、ホストに関する以下の情報が表示されます。

- 証明書の有効期間。証明書の有効期限が近づくと、このテキストは赤色で表示されます。
- 証明書のサムプリント

XenServer プールの **全般** タブには、プールに関する以下の情報が表示されます。

- **全般** セクションには、証明書検証が有効か無効かを示す **証明書検証** のエントリがあります。
- **証明書** セクションには、CA 証明書の名前、有効性、およびサムプリントが一覧表示されます。

プールの証明書検証を有効にする

証明書検証は、XenServer の新規インストールではデフォルトで有効になっています。詳細については、「証明書検証」を参照してください。

以前のバージョンの XenServer からアップグレードした場合、証明書検証は自動的に有効にならないため、手動で有効にする必要があります。XenCenter は、アップグレードされたプールに次回接続するときに、証明書検証を有効にするよう促します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プールで証明書検証を有効にする前に、プールで操作が実行されていないことを確認してください。

XenCenter には、証明書検証を有効にするためのいくつかの方法があります。

- XenCenter を証明書検証が有効になっていないプールに初めて接続すると、有効にするよう求められます。「**はい、証明書検証を有効にする**」をクリックします。
- **プール**メニューで、「**証明書検証を有効にする**」を選択します。
- プールの**全般**タブで、「**証明書検証**」エントリを右クリックし、メニューから「**証明書検証を有効にする**」を選択します。

サーバーID証明書をリセットする

XenCenter または xe CLI からサーバーID証明書をリセットできます。証明書をリセットすると、ホストから証明書が削除され、新しい自己署名証明書がその場所にインストールされます。

XenCenter で証明書をリセットするには：

1. ホストの**全般**タブに移動します。
2. **証明書**セクションで、リセットしたい証明書を右クリックします。
3. メニューから「**証明書のリセット**」を選択します。
4. 表示されるダイアログで、「**はい**」をクリックして証明書のリセットを確認します。

または、**サーバー**メニューで、「**証明書 > 証明書のリセット**」に移動することもできます。

証明書をリセットすると、XenServer ホストへの既存の接続（XenCenter とホスト間の接続を含む）はすべて切断されます。

xe CLI を使用して証明書をリセットする方法については、「証明書検証」を参照してください。

証明書アラート

証明書の有効期限が近づくと、XenCenter は **Notifications** タブの **Alerts** セクションにアラートを表示します。これらのアラートのアクションメニューから、**Install Certificates** ダイアログを開くことができます。

アラートの詳細については、XenCenter Alertsを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ホストに TLS 証明書をインストールする

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 証明書の検証

サーバー接続状態を保存する

管理対象サーバーすべてのログイン資格情報（ユーザー名とパスワード）は、XenCenter®セッション間で保存でき、新しいXenCenterセッションの開始時に自動的に再接続するために使用できます。この機能を有効にすると、XenCenterは各セッションの終了時にすべての管理対象サーバーの接続状態を記憶します。XenCenterは、次回のセッション開始時にサーバーを復元しようとします。前回のセッション終了時にサーバーが接続されていた場合、サーバーのログイン詳細を求められることなく、自動的に再接続されます。前回のセッション終了時にサーバーが切断されていた場合、自動的に再接続されません。

自動再接続機能を無効にした場合、XenCenterを開くたびに、すべての管理対象サーバーに再接続する必要があります。その後、各サーバーのユーザー名とパスワードを入力します。

注記：

システム管理者がサーバーのログイン資格情報の保存を無効にできるため、この機能は利用できない場合があります。

オプションで、保存されたログイン資格情報をメインパスワードで保護し、安全性を確保できます。各セッションの開始時に、管理対象サーバーへの接続が復元される前に、このメインパスワードの入力を求められます。

自動再接続をオンまたはオフにするには

1. XenCenterの**オプション**ダイアログボックスを開きます。**ツール**メニューで**オプション**をクリックします。
2. **保存と復元**タブをクリックします。
3. **起動時にサーバー接続状態を保存して復元する**チェックボックスをオンまたはオフにします。

メインパスワードの使用

XenCenterにログイン資格情報を保存することを選択した場合、メインパスワードも設定できます。管理対象サーバーへの接続が自動的に復元される前に、このメインパスワードを入力する必要があります。メインパスワードの設定、削除、変更は、XenCenterの**オプション**ダイアログボックスの**保存と復元**タブから行います。

メインパスワードを紛失または忘れた場合、回復することはできません。各管理対象サーバーに再度接続し、その後、新しいメインパスワードを設定する必要があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

メインパスワードを設定するには：

1. XenCenterの**オプション**ダイアログボックスを開きます。**ツール**メニューで**オプション**をクリックします。
2. 「**保存と復元**」タブをクリックします。
3. 「**起動時にサーバー接続状態を保存および復元する**」チェックボックスが選択されていることを確認します。
4. 「**メインパスワード**」の下で、「**メインパスワードを要求する**」チェックボックスを選択し、パスワードを入力して確認し、「**OK**」をクリックします。パスワードは大文字と小文字を区別することに注意してください。

メインパスワードを変更するには：

1. XenCenterの「**オプション**」ダイアログボックスを開きます。「**ツール**」メニューで「**オプション**」をクリックします。
2. 「**保存と復元**」タブをクリックします。
3. 「**メインパスワード**」の下で、「**メインパスワードの変更**」をクリックします。
4. 既存のメインパスワードを入力し、新しいメインパスワードを入力して確認し、「**OK**」をクリックします。

メインパスワードをクリアするには：

1. XenCenterの「**オプション**」ダイアログボックスを開きます。「**ツール**」メニューで「**オプション**」をクリックします。
2. 「**保存と復元**」タブをクリックします。
3. 「**メインパスワード**」の下で、「**メインパスワードを要求する**」チェックボックスをオフにします。
4. プロンプトが表示されたら、現在のメインパスワードを入力して確認し、「**OK**」をクリックします。

サーバーのバックアップと復元

管理対象サーバーを1つのXenServerバックアップファイル (`.xbk`) にバックアップできます。このバックアップファイルは、ハードウェア障害が発生した場合にサーバーを復元するために使用できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注記:

このファイルはサーバー自体のみをバックアップし、その上で実行されている可能性のあるVMはバックアップしません。

サーバーまたはソフトウェアの障害から回復できるように、サーバーを頻繁にバックアップすることをお勧めします。XenCenter®でサーバーをバックアップする際は、次の点に注意してください。

- XenServerコントロール ドメイン (dom0) にバックアップを作成しないでください。XenServerコントロール ドメインの詳細については、製品ドキュメントを参照してください。
- XenServer®バックアップファイルは大きくなることがあります。

サーバーを復元するには、XenCenter内でバックアップファイルを選択して復元します。XenServerインストールISOからサーバーを再起動して、復元を完了します。

サーバーの構成とソフトウェアをバックアップするには

1. **リソース**ペインでサーバーを選択します。
2. **サーバー**メニューで、**バックアップ**をクリックします。
3. バックアップファイルを作成するフォルダーを参照して見つけ、ファイル名を入力します。
4. **保存**をクリックしてバックアップを開始します。

バックアップには時間がかかる場合があります。進行状況を表示するには、**通知**、次に**イベント**を選択します。

バックアップからサーバーのソフトウェアと構成を復元するには

1. **リソース**ペインでサーバーを選択します。
2. **サーバー**メニューで、**バックアップから復元**をクリックします。
3. バックアップファイルを参照して見つけます。
4. 復元を開始するには、**開く**をクリックします。
5. サーバーで、インストールCDから再起動し、**バックアップから復元**を選択します。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- ホストとVMのバックアップと復元(/ja-jp/xenserver/9/dr/backup.html)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter® からサーバーを削除する

管理対象サーバーを XenCenter から削除すると、そのサーバーに対するすべての管理および監視アクティビティが停止します。これは、サーバー自体で実行されているアクティビティや、サーバーにインストールされている VM には影響しません。サーバーを削除すると、XenCenter とサーバーおよびその VM との接続が切断されます。サーバーは XenCenter に表示されなくなります。

サーバーを削除するには、**リソース**ペインでサーバーを選択します。**サーバー**メニューで、**XenCenter から削除**を選択します。

削除したサーバーを管理対象リソースのリストに戻すには、最初に接続したときと同じ方法で XenCenter に再度追加します。詳細については、「サーバーの追加」を参照してください。

ネットワークの構成

各管理対象サーバーには1つ以上のネットワークがあります。XenServer®ネットワークは、外部インターフェースに接続できる、または個々のサーバーまたはプール内で完全に仮想的な仮想イーサネットスイッチです。外部インターフェースはVLANタグの有無にかかわらず使用できます。

XenServer製品が物理サーバーにインストールされると、サーバー上の各物理NICに対してネットワークが作成されます。このネットワークは、VM上の仮想ネットワークインターフェース (VIF) と、サーバー上のNICに関連付けられた物理ネットワークインターフェース (PIF) の間のブリッジとして機能します。

管理対象サーバーをプールに移動すると、これらのデフォルトネットワークはマージされ、同じデバイス名を持つ物理NICは同じネットワークに接続されます。通常、次の場合にネットワークを追加します。

- 内部ネットワークを作成する場合
- 既存のNICを使用して新しいVLANを設定する場合
- NICボンディングを作成する場合

管理対象サーバーごとに最大16のネットワーク、または最大8つのボンディングされたネットワークインターフェースを構成できます。

ジャンボフレームは、ストレージネットワーク、VMネットワーク、および管理ネットワーク上のトラフィックのパフォーマンスを最適化するために使用できます。新しいサーバーネットワークの最大転送単位 (MTU) は、**新しいネットワーク**ウィザードで設定するか、既存のネットワークの場合はその**プロパティ**ウィンドウで設定できます。設定可能なMTU値の範囲は1500～9216です。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ネットワークの種類

XenCenter内でネットワークを作成する際に選択できる物理ネットワークの種類は3つあります。

シングルサーバープライベートネットワーク

この種類のネットワークは、物理ネットワークインターフェースとの関連付けがない内部ネットワークです。特定のサーバー上の仮想マシン間でのみ接続を提供し、外部との接続はありません。

外部ネットワーク

この種類のネットワークは、物理ネットワークインターフェースとの関連付けがあり、仮想マシンと外部ネットワーク間のブリッジを提供します。このブリッジにより、VMはサーバーの物理NICを介して外部リソースに接続できます。

ボンディングネットワーク

この種類のネットワークは、2つ以上のNICをボンディングして、VMと外部ネットワーク間の接続を提供する単一の高性能チャネルを作成します。3つのボンディングモードがサポートされています。

- **アクティブ-アクティブ**

  このモードでは、ボンディングされたNIC間でトラフィックが分散されます。ボンディング内の1つのNICが故障した場合、ホストのすべてのネットワークトラフィックは自動的に2番目のNICを経由してルーティングされます。このモードは、ボンディング内の物理NIC間で仮想マシントラフィックの負荷分散を提供します。

- **アクティブ-パッシブ**

  ボンディング内のNICのうち、1つだけがアクティブです。アクティブなNICが故障した場合にのみ、非アクティブなNICがアクティブになり、ホットスタンバイ機能が提供されます。

- **リンクアグリゲーション制御プロトコル (LACP) ボンディング**

  このモードはアクティブ-アクティブボンディングを提供し、ボンディングされたNIC間でトラフィックが分散されます。Linuxブリッジ (非推奨) 環境でのアクティブ-アクティブボンディングとは異なり、LACPはすべてのトラフィックタイプを負荷分散できます。このモードには2つのオプションがあります。

  - **送信元MACアドレスに基づく負荷分散LACP**

    このモードでは、トラフィックの送信元であるVMのMACアドレスに基づいて、送信NICが選択されます。同じホスト上に複数のVMがある環境でトラフィックを分散するには、この

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプションを使用します。NICよりもVIFが少ない場合、このオプションは適していません。トラフィックを複数のNICに分割できないため、負荷分散が最適ではないからです。

- **送信元および宛先のIPとポートに基づく負荷分散LACP**

  このモードでは、送信元IPアドレス、送信元ポート番号、宛先IPアドレス、および宛先ポート番号を使用して、NIC間でトラフィックをルーティングします。このオプションは、VMからのトラフィックを分散するのに理想的であり、NICの数がVIFの数を超える場合に適しています。たとえば、1つの仮想マシンのみが3つのNICのボンディングを使用するように構成されている場合などです。

注記

- XenCenterでLACPボンディングオプションを表示し、LACPボンディングを作成できるようにするには、vSwitchをネットワークスタックとして構成します。また、スイッチはIEEE 802.3ad標準をサポートしている必要があります。
- アクティブ-アクティブおよびアクティブ-パッシブのボンディングタイプは、vSwitchとLinuxブリッジの両方で利用できます。
- vSwitchがネットワークスタックの場合、2つ、3つ、または4つのNICをボンディングできます。ただし、Linuxブリッジがネットワークスタックの場合、2つのNICしかボンディングできません。

注:

Linuxブリッジネットワークスタックは非推奨であり、将来のリリースで削除されます。

XenServerでのNICボンディングのサポートに関する詳細については、ネットワークを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ネットワークの管理

ネットワークを追加する

プールまたはスタンドアロンサーバーで新しいネットワークを作成するには、**New Network** ウィザードを使用します。**Resources** ペインでサーバーまたはプールを選択し、**Networking** タブを選択してから、**Add Network** をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

外部ネットワークを追加する

外部ネットワークは物理NICと関連付けられており、仮想マシンと外部ネットワーク間のブリッジを提供します。このブリッジにより、VMはNICを介して外部リソースに接続できます。

1. **New Network** ウィザードを開きます。
2. ウィザードの最初のページで、**External Network** を選択し、**Next** をクリックします。
3. 新しいネットワークの名前とオプションの説明を入力し、**Next** をクリックします。
4. **Network settings** ページで、新しいネットワークのNIC、VLAN、およびMTU設定を構成します。
   a. **NIC** リストから、物理NICを選択します。
   b. **VLAN** ボックスで、新しい仮想ネットワークに番号を割り当てます。
   c. ジャンボフレームを使用するには、最大転送単位 (**MTU**) を1500〜9216の間の値に設定します。
   d. SR-IOVネットワーク上にVLANを作成するには、SR-IOVが有効になっているNICを選択します (手順4a)。**Create the VLAN on the SR-IOV network** チェックボックスをオンにします。
5. **Automatically add this network to new virtual machines** チェックボックスを選択すると、**New VM** ウィザードを使用して作成された新しいVMにこのネットワークが自動的に追加されます。
6. 新しいネットワークを作成してウィザードを閉じるには、**Finish** をクリックします。

シングルサーバープライベートネットワークを追加する

単一サーバープライベートネットワークは、物理ネットワークインターフェースに関連付けられていない内部ネットワークです。これは、特定のサーバー上のVM間でのみ接続を提供します。このネットワークは、プール内の他のサーバー上のVMや外部の世界とは接続されていません。

1. 「**新しいネットワーク**」ウィザードを開きます。
2. ウィザードの最初のページで、「**単一サーバープライベートネットワーク**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。
3. 新しいネットワークの名前とオプションの説明を入力し、「**次へ**」をクリックします。
4. 「**ネットワーク設定**」ページで、「**このネットワークを新しい仮想マシンに自動的に追加する**」チェックボックスを選択します。この選択により、「**新しいVM**」ウィザードを使用して作成された新しいVMに、この新しいネットワークが追加されるようになります。
5. 「**完了**」をクリックして新しいネットワークを作成し、ウィザードを閉じます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

新しいボンディングネットワークを追加するには

このタイプのネットワークは、2つ以上のNICを結合して、VMと外部ネットワーク間の接続を提供する単一の高性能チャネルを作成します。

「

注:

」:

可能な限り、リソースプールを最初に作成するとき、およびそれ以上のサーバーをプールに参加させたりVMを作成したりする前に、NICボンディングを作成してください。ボンディング構成は、サーバーがプールに参加すると自動的にレプリケートされます。この操作により、必要な手順の数が減ります。

1. 「**新しいネットワーク**」ウィザードを開きます。
2. ウィザードの最初のページで、「**ボンディングネットワーク**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。
3. 「**ボンディングメンバー**」ページで、ボンディングするNICを選択します。NICを選択するには、リスト内のチェックボックスをオンにします。このリストでは最大4つのNICを選択できます。NICの選択を解除するには、チェックボックスをオフにします。
4. 「**ボンディングモード**」で、ボンディングの種類を選択します。

   - アクティブ-アクティブボンディングを構成するには、「**アクティブ-アクティブ**」を選択します。このボンディングでは、ボンディングされたNIC間でトラフィックが分散されます。ボンディング内のいずれかのNICが故障した場合、サーバーのネットワークトラフィックは自動的に2番目のNICを経由してルーティングされます。
   - 「**アクティブ-パッシブ**」を選択して、アクティブ-パッシブ ボンドを構成します。このボンドでは、結合された NIC のうちの 1 つのみを介してトラフィックが渡されます。このモードでは、アクティブな NIC が失敗した場合（たとえば、ネットワーク接続が失われた場合）にのみ、2 番目の NIC がアクティブになります。
   - 「**送信元 MAC アドレスに基づくロードバランシングを使用した LACP**」を選択して、LACP ボンドを構成します。このボンドでは、トラフィックの送信元である VM の MAC アドレスに基づいて、送信 NIC が選択されます。このオプションは、同じホスト上に複数の VM がある環境でトラフィックを分散するために使用します。NIC の数よりも仮想インターフェース (VIF) の数が少ない場合、トラフィックを NIC 間で分割できないため、ロードバランシングが最適ではないため、このオプションは適していません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 「**送信元および宛先の IP とポートに基づくロードバランシングを使用した LACP**」を選択して、LACP ボンドを構成します。このボンドは、送信元 IP アドレス、送信元ポート番号、宛先 IP アドレス、および宛先ポート番号を使用して、NIC 間でトラフィックを割り当てます。このオプションは、NIC の数が VIF の数を超える環境で VM からのトラフィックを分散するために使用します。

注記:

- XenCenter で LACP ボンディングオプションを表示し、LACP ボンドを作成するには、vSwitch をネットワークスタックとして構成する必要があります。また、スイッチは IEEE 802.3ad 標準をサポートしている必要があります。
- アクティブ-アクティブおよびアクティブ-パッシブのボンドタイプは、vSwitch と Linux ブリッジの両方で利用できます。
- vSwitch がネットワークスタックの場合、2、3、または 4 つの NIC を結合できます。ただし、Linux ブリッジがネットワークスタックの場合、結合できる NIC は 2 つのみです。

5. ジャンボフレームを使用するには、最大転送単位 (**MTU**) を 1500〜9216 の間の値に設定します。
6. 「**このネットワークを新しい仮想マシンに自動的に追加する**」チェックボックスを選択すると、「**新しい VM**」ウィザードを使用して作成された新しい VM にこの新しいネットワークが追加されます。
7. 「**完了**」をクリックして新しいネットワークを作成し、ウィザードを閉じます。

詳細については、「NIC の構成」を参照してください。

SR-IOV ネットワークを追加するには

Single Root I/O Virtualization (SR-IOV) は、単一の PCI デバイスが物理 PCI バス上で複数の PCI デバイスとして表示されることを可能にする PCI デバイス仮想化テクノロジーです。物理デバイスは物理機能 (PF) と呼ばれます。その他のデバイスは仮想機能 (VF) と呼ばれます。SR-IOV は、ハイパーバイザーが SR-IOV テクノロジーを使用してこれらの VF の 1 つ以上を仮想マシン (VM) に直接割り当てることを可能にします。ゲストは、VF を他の直接割り当てられた PCI デバイスと同様に使用できます。

1. 「**新しいネットワーク**」ウィザードを開きます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. ウィザードの最初のページで、「**SR-IOV ネットワーク**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。
3. 新しいネットワークの名前とオプションの説明を入力し、**次へ**をクリックします。
4. リストからNICを選択します。NIC0はリストにありません。
5. 「**ネットワーク設定**」ページで、「**このネットワークを新しい仮想マシンに自動的に追加する**」チェックボックスを選択すると、新しいVMウィザードを使用して作成された新しいVMにこのネットワークが追加されます。
6. **完了**をクリックします。

   SR-IOVネットワークを作成すると、ネットワーク接続の状態に影響します。XenCenter®からプールへの接続が一時的に中断される可能性があります。
7. **SR-IOVを続行して作成**をクリックしてネットワークを作成し、ウィザードを閉じます。作成されたネットワークは**NIC**タブに表示され、残りのVFの数、または無効になっているかを示します。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- ネットワークの管理

ネットワークを削除する

1. **リソース**ペインでサーバーまたはプールを選択します。
2. **ネットワーク**タブを選択します。
3. **ネットワーク**タブで、リストからネットワークを選択します。
4. **ネットワークの削除**をクリックします。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ネットワークの管理(/ja-jp/xenserver/9/networking/manage.html)

ネットワークプロパティの表示と変更

サーバーの現在のネットワーク構成を表示するには

サーバーの**ネットワーク**タブを選択すると、サーバーに現在構成されているすべてのネットワークと、それぞれの情報が表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

名前	ネットワークの名前。
説明	（オプション）ネットワークの説明。
NIC	ネットワークで使用される物理NIC、NICボンド、または内部仮想ネットワーク。
VLAN	外部ネットワークの場合、この列には仮想LAN（VLAN）タグが表示されます。
自動	この列は、**新規VM**ウィザードを使用して作成された新しい仮想マシンに、ネットワークが自動的に追加されるかどうかを示します。
リンクステータス	ネットワークのリンクステータス：接続済みまたは切断済み。
MAC	ネットワークアダプタ (NIC) のMACアドレスです。この値は、特定のネットワークアダプタの一意の識別子です。
MTU	1500〜9216の間の最大転送単位 (MTU) の値は、ジャンボフレームの使用を可能にします。

サーバーのネットワーク構成を変更するには

XenCenter®の**ネットワーク**タブで、ネットワークを選択し、**プロパティ**を選択します。名前、説明、フォルダー、タグ、カスタムフィールドに加えて、**ネットワーク設定**タブでさまざまなネットワーク構成設定も変更できます。

ボンドモード

この構成オプションは、ボンドされたネットワークでのみ表示されます。

- **アクティブ-アクティブ**を選択して、アクティブ-アクティブボンドを構成します。このボンドでは、トラフィックはボンドされたNIC間でバランスされます。ボンド内の1つのNICが故障した場合、ホストサーバーのネットワークトラフィックは自動的に2番目のNICを経由してルーティングされます。
- **アクティブ-パッシブ**を選択して、アクティブ-パッシブボンドを構成します。このボンドでは、トラフィックはボンドされたNICの1つのみを経由します。このモードでは、アクティブなNICが故障した場合（例えば、ネットワーク接続を失った場合など）にのみ、2番目のNICがアクティブになります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **送信元MACアドレスに基づくロードバランシングを備えたLACP**を選択して、LACPボンドを構成します。このボンドでは、送信NICは、トラフィックの発信元であるVMのMACアドレスに基づいて選択されます。このオプションは、同じホスト上に複数のVMがある環境でトラフィックをバランスさせるために使用します。NICよりも仮想インターフェース (VIF) が少ない場合、このオプションは適していません。トラフィックをNIC間で分割できないため、ロードバランシングが最適ではないからです。
- **送信元および宛先のIPとポートに基づくロードバランシングを備えたLACP**を選択して、LACPボンドを構成します。このボンドは、送信元IPアドレス、送信元ポート番号、宛先IPアドレス、および宛先ポート番号を使用して、NIC間でトラフィックを割り当てます。このオプションは、NICの数がVIFの数を超える環境でトラフィックをバランスさせるために使用します。

注:

- XenCenterでLACPボンディングオプションを表示し、LACPボンドを作成するには、vSwitchをネットワークスタックとして構成します。また、スイッチはIEEE 802.3ad標準をサポートしている必要があります。
- アクティブ-アクティブおよびアクティブ-パッシブのボンドタイプは、vSwitchとLinuxブリッジの両方で利用できます。
- vSwitchがネットワークスタックの場合、2つ、3つ、または4つのNICをボンディングできますが、Linuxブリッジがネットワークスタックの場合、2つのNICのみをボンディングできます。

Linuxブリッジネットワークスタックは非推奨であり、将来のリリースで削除されます。
詳細については、NICの構成を参照してください。

MTU

ジャンボフレームを使用するには、最大転送単位 (**MTU**) を1500〜9216の間の任意の値に設定します。

このネットワークを新しい仮想マシンに自動的に追加する

このチェックボックスをオンにすると、**新しいVM**ウィザードを使用して作成されたときに、新しいVMにネットワークが自動的に追加されます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ネットワークの管理

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

NIC の構成

XenServer® は、関連するネットワーク、仮想ネットワークインターフェース、サーバーネットワーク、およびボンド構成に基づいて、必要に応じて NIC を自動的に管理します。利用可能な NIC の表示、NIC ボンドの構成、および特定の機能への NIC の割り当ては、「**NICs**」タブから行えます。

NIC ボンディングは、2 つ以上の物理 NIC を 1 つであるかのように使用することで、サーバーの回復性を向上させることができます。2 つ以上の NIC をボンディングして、VM と外部ネットワーク間の接続を提供する単一の高性能チャネルを作成できます。3 つのボンドモードがサポートされています。

アクティブ/アクティブ: このモードは、ボンド内の物理 NIC 間で仮想マシントラフィックの負荷分散を提供します。ボンド内の 1 つの NIC が故障した場合、サーバーのネットワークトラフィックは自動的に 2 番目の NIC を経由してルーティングされます。

アクティブ/パッシブ: このモードはフェイルオーバー機能を提供します。ボンド内の NIC は 1 つだけがアクティブです。非アクティブな NIC は、アクティブな NIC が故障した場合にのみアクティブになります。

リンクアグリゲーション制御プロトコル (LACP) ボンディング: このモードはアクティブ/アクティブボンディングを提供し、ボンディングされた NIC 間でトラフィックが分散されます。Linux ブリッジ (非推奨) 環境でのアクティブ/アクティブボンドとは異なり、LACP はすべてのトラフィックタイプを負荷分散できます。

> **注:**
>
> XenCenter で LACP ボンディングオプションを表示し、LACP ボンドを作成するには、vSwitch をネットワークスタックとして構成する必要があります。また、スイッチは IEEE 802.3ad 標準をサポートしている必要があります。スイッチには、ホスト上の各 LACP ボンド用に個別に構成された LAG グループが含まれている必要があります。LAG グループの作成の詳細については、「Networking」を参照してください。

XenCenter® を使用して個別の NIC をボンディングすると、新しい NIC が作成されます。この NIC はボンドインターフェースであり、他の NIC はボンディングされた NIC と呼ばれます。NIC ボンドは XenServer ネットワークに接続され、仮想マシントラフィックとサーバー管理機能が実行できるようになります。NIC ボンドは、XenCenter の「**NICs**」タブまたはサーバーの「**Networking**」タブから作成できます。ネットワークタイプとして「**Bonded Network**」を使用します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

利用可能な NIC の表示

サーバー上の利用可能な各 NIC について、「**NICs**」タブに次のデバイスプロパティが表示されます。

NIC	物理 NIC または内部仮想ネットワークを識別します。
MAC	NIC の MAC (Media Access Control) アドレス。
リンクステータス	NIC の接続ステータス: 接続済みまたは切断済み。
速度	NIC のデータ転送速度。
デュプレックス	NIC のデュプレックスモード: 全二重または半二重。
ベンダー、デバイス	NIC のベンダー名とデバイス名。
PCI バスパス	パススルーデバイスの PCI バスパス。

サーバーに物理インターフェース (たとえば、新しいイーサネットコントローラー) を追加しても、**NIC** タブのリストに表示されない場合があります。このような場合は、次の手順を実行してください:

1. 新しい物理インターフェースまたは関連ドライバーをインストールした後、ホストを再起動してください。
2. **NIC** タブで **再スキャン** をクリックして、サーバーに新しいカードを強制的にスキャンさせます。これで、インターフェースがサーバーの **NIC** タブに表示されます。
3. NIC が **切断済み** と表示されている場合、ホストを再起動するか、ホストコンソールでコマンド `xe pif.plug` を実行できます。詳細については、「ネットワークの管理」を参照してください。

NIC ボンドを作成するには

1. 結合するNICが使用中でないことを確認してください。ボンドを作成する前に、ボンドされたNICを使用している仮想ネットワークインターフェースを持つVMをシャットダウンしてください。ボンドを作成した後、仮想ネットワークインターフェースを適切なネットワークに再接続してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. 左側の**リソース**ペインでサーバーを選択し、**NIC**タブをクリックして**ボンドの作成**をクリックします。
3. 結合するNICを選択します。NICを選択するには、リスト内のチェックボックスをオンにします。このリストでは最大4つのNICを選択できます。チェックボックスをオフにするとNICの選択が解除されます。柔軟で安全なネットワークを維持するために、vSwitchがネットワークスタックの場合、2つ、3つ、または4つのNICを結合できます。ただし、Linuxブリッジがネットワークスタックの場合、2つのNICしか結合できません。
4. **ボンドモード**で、ボンドの種類を選択します。

   - アクティブ-アクティブボンドを設定するには、**アクティブ-アクティブ**を選択します。このボンドでは、トラフィックは結合されたNIC間で負荷分散されます。ボンド内の1つのNICが故障した場合、ホストサーバーのネットワークトラフィックは自動的に2番目のNICを経由してルーティングされます。
   - アクティブ-パッシブボンドを設定するには、**アクティブ-パッシブ**を選択します。このボンドでは、トラフィックは結合されたNICのいずれか1つのみを経由します。このモードでは、アクティブなNICが故障した場合（例えば、ネットワーク接続が失われた場合）にのみ、2番目のNICがアクティブになります。
   - LACPボンドを設定するには、**送信元MACアドレスに基づくロードバランシング付きLACP**を選択します。このボンドでは、送信NICはトラフィックの送信元VMのMACアドレスに基づいて選択されます。このオプションは、同じホスト上に複数のVMがある環境でトラフィックを負荷分散するために使用します。NICの数よりも仮想インターフェース（VIF）の数が少ない場合、トラフィックをNIC間で分割できないため、ロードバランシングが最適ではないため、このオプションは適していません。
   - LACPボンドを設定するには、**送信元および宛先のIPとポートに基づくロードバランシング付きLACP**を選択します。このボンドは、送信元IPアドレス、送信元ポート、宛先IPアドレス、および宛先ポートを使用して、NIC間でトラフィックを割り当てます。このオプションは、NICの数がVIFの数を超える環境でVMからのトラフィックを負荷分散するために使用します。

     注記：

     LACPボンディングはvSwitchでのみ利用可能ですが、アクティブ-アクティブおよびアクティブ-パッシブボンディングモードはvSwitchとLinuxブリッジの両方で利用可能です。

     XenServerでのNICボンドのサポートに関する詳細については、ネットワークを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

5. ジャンボフレームを使用するには、最大転送単位（**MTU**）を1500〜9216の間の値に設定します。
6. **新規VM**ウィザードを使用して作成される新しいVMに、新しいボンドネットワークを自動的に追加するには、チェックボックスを選択します。
7. **作成**をクリックしてNICボンドを作成し、ダイアログボックスを閉じます。

新しいボンドが作成されると、XenCenterは管理インターフェースとセカンダリインターフェースを、ボンドされたNICからボンドインターフェースに自動的に移動します。

ボンド上に管理インターフェースを持つサーバーは、プールに参加できません。プールに参加する前に、サーバーの管理インターフェースを再構成し、物理NICに戻してください。

NICボンドの削除

サーバーを非ボンド構成に戻す場合は、以下の要件に注意してください。

- ボンドを作成する場合と同様に、ボンドを使用する仮想ネットワークインターフェースを持つすべての仮想マシンは、ボンドを破棄する前にシャットダウンする必要があります。非ボンド構成に戻した後、仮想ネットワークインターフェースを適切なネットワークに再接続してください。
- ボンドを削除する前に、**管理インターフェース**ダイアログボックスを使用して管理インターフェースを別のNICに移動してください。そうしないと、サーバーへの接続（XenCenterを含む）が切断されます。

ボンドを削除するには

1. 左側の**リソース**ペインでサーバーを選択し、**NIC**タブをクリックします。
2. **ボンドの削除**をクリックします。

NICを特定の機能に割り当てる

NICにIPアドレスを割り当てて、ストレージやその他の種類のネットワークトラフィックなど、特定の機能にNICを割り当てることができます。詳細については、「IPアドレスの構成」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ネットワークの管理

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

IPアドレスの構成

管理対象サーバーの管理インターフェースとして使用されるNICは、XenServerのインストール時に最初に指定されます。XenCenter®、xe CLI、および別のマシンで実行されるその他の管理ソフトウェアは、管理インターフェースのIPアドレスを使用してサーバーに接続します。

サーバーに2つ以上のNICがある場合、別のNICまたはNICボンドを管理インターフェースとして使用するように選択できます。NICにIPアドレスを割り当て、ストレージやその他の種類のネットワークトラフィックなど、特定の機能にNICを割り当てることができます。

新しいサーバーがプールに参加すると、その新しいサーバーは、ネットワークおよびボンド情報を含むプールコーディネーターのネットワーク構成を継承します。ただし、参加するサーバーの管理インターフェースは、プールコーディネーターと一致するように変更されません。参加後に、プールコーディネーターサーバーと同じボンドを使用するように再構成してください。

注記：

管理インターフェースがボンド上にあるサーバーは、プールに参加できません。プールに参加する前に、サーバーの管理インターフェースを再構成し、物理NICに戻してください。

XenCenterで、**IPアドレスの構成**ダイアログを使用して、NICにIPアドレスを割り当て、サーバーまたはプールの管理インターフェースを変更します。以下のセクションでは、これらのアクションを完了するための手順を説明します。

NICにIPアドレスを割り当てるには

XenCenterを使用して、ストレージトラフィックなどの特定の機能を実行するために、NICにIPアドレスを構成できます。NICにIPアドレスを構成すると、実質的にセカンダリインターフェースを作成することになります。

柔軟で安全なネットワークを維持するために、専用のNICを使用するセカンダリインターフェースを作成することで、ネットワークトラフィックをセグメント化できます。たとえば、サーバー管理、アプリケーション本番トラフィック、ストレージトラフィック用に個別のネットワークを確立します。デフォルトのXenServer®ネットワーク構成では、IPベースのストレージデバイスへのすべてのネットワークトラフィックは、管理インターフェースに使用されるNICを介して発生します。セカンダリインターフェースは、管理インターフェースからDNSサーバー設定を継承することに注意することが重要です。

特定の機能を実行するためにNICにIPアドレスを割り当てるには、NICが目的のトラフィックに使用されるように適切なネットワーク構成が整っていることを確認してください。たとえば、NICを

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ストレージトラフィック専用にするには、新しく作成されたインターフェースに次の基準を満たすIPアドレスを割り当てます。

- 該当する場合、IPアドレスはストレージコントローラーと同じサブネット上にあること。
- IPアドレスは管理インターフェースとは異なるサブネット上にあること。
- IPアドレスは他のセカンダリインターフェースと同じサブネット上にはないこと。

ターゲットが割り当てられたNICを介してのみアクセスできるように、NIC、ストレージターゲット、スイッチ、およびVLANを構成してください。このアクションにより、標準のIPルーティングを使用して、管理対象サーバー内の複数のNIC間でトラフィックがどのようにルーティングされるかを制御できます。

NICにIPアドレスを割り当て、セカンダリインターフェースを作成するには、以下のタスクを実行します。

1. サーバーまたはプールの**ネットワーク**タブで、**IPアドレス設定**の下にある**設定**を選択します。
2. **IPアドレスの追加**をクリックします。
3. 新しいセカンダリインターフェースの名前を入力します。
4. **ネットワーク**リストからネットワークを選択します。
5. 新しいインターフェースのネットワーク設定を構成します。
   - IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを含むネットワーク設定を自動的に割り当てるために、自動DHCPを使用するには、**DHCPを使用して設定を自動的に取得する**を選択します。
   - ネットワーク設定を手動で構成するには、**これらの設定を使用する**を選択し、必要な値を入力します。IPアドレスとサブネットマスクを入力します。ゲートウェイ設定はオプションで入力できます。
6. 追加のインターフェースを構成するには、再度**IPアドレスの追加**を選択し、前述の設定手順を繰り返します。
7. 完了したら、**OK**をクリックして設定内容を保存します。

> **注:**
>
> ネットワーク設定を手動で構成することを選択した場合、設定の確認を求められます。**とにかく再構成**をクリックして確認します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

セカンダリインターフェースを削除するには

1. サーバーまたはプールの**ネットワーク**タブで、**IPアドレス設定**の下にある**設定**を選択します。
2. 構成済みのインターフェースのリストから削除したいものを選択し、**IPアドレスの削除**をクリックします。
3. **OK** をクリックして、構成の選択を保存します。

管理インターフェースを変更するには

1. サーバーまたはプールの「**ネットワーク**」タブで、「**IPアドレス構成**」の下にある「**構成**」を選択します。
2. 「**管理インターフェース**」タブで、「**ネットワーク**」リストからネットワークを選択します。

   注:

   タグ付きVLANネットワークもこのネットワークリストに表示されます。

3. 管理インターフェースのネットワーク設定を構成します。

   - IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーを含むネットワーク設定を自動的に割り当てるために自動DHCPを使用するには、「**DHCPを使用して設定を自動的に取得する**」を選択します。
   - ネットワーク設定を手動で構成するには、「**これらの設定を使用する**」を選択し、必要な値を入力します。IPアドレスとサブネットマスクは入力する必要がありますが、ゲートウェイとDNSサーバーの設定はオプションです。

4. 完了したら、「**OK**」をクリックして、構成の選択を保存します。

   注:

   ネットワーク設定を手動で構成することを選択した場合、設定の確認を求められます。「**とにかく再構成**」をクリックして確認します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ネットワークの管理

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

SSHおよびコンソールセッションの管理

概要

XenServerでは、dom0へのSSHアクセスはデフォルトで有効になっており、xsconsoleで切り替えることができます。管理者は、ホストレベルとプールレベルの両方でXenCenterを介してSSHアクセスを直接管理できるようになりました。

新機能は次のとおりです。

- ホストおよびプールレベルでのSSHアクセスステータスの表示
- オプションのタイムアウト付きSSHの有効化または無効化
- SSHの自動モードを有効にし、XAPIがSSHステータスを動的に制御できるようにする
- SSHおよびVNCコンソールセッションのアイドルタイムアウトの設定

これらの機能により、管理が簡素化され、XenCenterがセキュリティのベストプラクティスに準拠します。

利点

- セキュリティの向上 – タイムアウトにより、開いているSSHおよびコンソールセッションを制限します。
- 運用効率 – xsconsoleにログインしたりCLIを使用したりせずにSSHアクセスを管理します。
- 誤用リスクの低減 – アイドルセッションを自動的に終了します。
- 柔軟性 – トラブルシューティングのためにSSHを一時的に有効にし、自動的に期限切れにします。

SSHアクセスの有効化

1. プールまたはホストを選択します。
2. 上部の「プール/サーバー」メニューで、またはプール/ホストを右クリックして、**SSHアクセス** -> **有効化...** をクリックします。
3. **SSHアクセスを有効にする** ダイアログには、2つのオプションがあります。
    - SSHアクセスを有効にする
    - 期間限定でSSHアクセスを有効にする

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

> **注:**
>
> このオプションは、指定した期間のみSSHアクセスを有効にし、その期間が経過するとSSHは自動的に無効になります。

プールでSSHアクセスを有効にすると、プール内のすべてのホストに同じ設定が適用されます。

SSHアクセスを有効にすると、サーバーの「コンソール」タブに **SSHコンソールを起動** ボタンが表示されます。SSHが無効になっている場合、このボタンは非表示になります。

SSHアクセスの無効化

1. プールまたはホストを選択します。
2. 上部の「プール/サーバー」メニューで、またはプール/ホストを右クリックして、**SSHアクセス** -> **無効化** をクリックします。
3. **SSHアクセスを無効にする** ダイアログで、SSHを無効にする際に自動モードを有効にするかどうかを選択します。SSH自動モードを有効にすると、XenServer APIに到達できない緊急時に、サーバーがSSHサービスを自動的に開始できるようになります。

一括操作

複数のプールまたは複数のホストに対して、SSHアクセスを一括で有効または無効にできます。選択内容のステータスが不整合な場合、メニューには有効化と無効化の両方のオプションが引き続き表示されます。

サーバーのプロパティを表示

サーバーの**全般**タブには、以下のセクションと情報が含まれています。

全般

全般タブの**全般**セクションには、以下の情報が表示されます。

- **名前**: ホストに付けた名前。
- **説明**: ホストに付けた説明。
- **タグ**: ホストに割り当てたタグ。
- **フォルダー**: ホストに割り当てたフォルダー。
- **プールコーディネーター**: ホストがプールコーディネーターであるかどうか。
- **ステータス**: ホストが有効になっているか、メンテナンスモードであるか。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **セキュアブート**: ホストでセキュアブートが有効になっているかどうか。
- **システムメーカー**: サーバーハードウェアのメーカー。
- **システムモデル**: サーバーハードウェアのモデル。
- **証明書検証**: 証明書検証が有効になっているかどうか。
- **iSCSI IQN**: iSCSIネットワークに対してホストを識別する一意の名前。
- **ログの保存先**: ログがローカルに保存されているか、リモートの場所に保存されているかを示します。
- **サーバーの稼働時間**: サーバーが最後に起動してからの時間。
- **ツールスタックの稼働時間**: ツールスタックが最後に起動してからの時間
- **ドメイン**: このホストがメンバーであるActive Directoryドメイン。
- **UUID**: このホストの一意の識別子。

証明書

全般タブの**証明書**セクションには、次の情報が表示されます。

- **サーバーID証明書**: 管理ネットワーク上でプールと通信するクライアントアプリケーションに対してXenServer®ホストのIDを検証するために使用される証明書の有効期間とサムプリント。
- **サーバー内部ID証明書**: プール内のホスト間の通信を保護するために使用される証明書の有効期間とサムプリント。

ライセンスの詳細

全般タブの**ライセンスの詳細**セクションには、次の情報が表示されます。

- **ステータス**: サーバーがライセンスされているかどうか。
- **有効期限**: ライセンスの有効期限。
- **ライセンス**: このホストに適用されているライセンスの種類。
- **ソケット数**: このホストが使用しているソケットの数。
- **ライセンスサーバーアドレス**: ライセンスをホストしているCitrix® License Serverのホスト名またはIPアドレス。
- **ライセンスサーバーポート**: XenServerがCitrix License Serverと通信するポート。

バージョン詳細

全般タブの**バージョン詳細**セクションには、次の情報が表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **バージョン**: このサーバーで実行されているXenServerのバージョン。
- **DBV**: ホストの日付ベースのバージョン。

更新

全般タブの**更新**セクションには、XenServerホストに関する次の情報が表示されます。

- **最終更新日時**: このホストに更新が最後に適用された日時。
- **最後に適用された更新のチェックサム**: このホストに適用された更新レベルのチェックサム。
- **保留中の推奨タスク**: 適用されたすべての更新から最大限の効果を得るために実行する必要があるアクション。

管理インターフェイス

全般タブの**管理インターフェイス**セクションには、次の情報が表示されます。

- **DNSホスト名**: このサーバーのホスト名。
- **管理インターフェイス**: 管理インターフェイスのIPアドレス。
- セカンダリインターフェースとそのIPアドレスのリスト。
- **TCPポート80**: ポート80が開いているかどうか。

メモリ

全般タブの**メモリ**セクションには、次の情報が表示されます。

- **サーバー**: サーバーで利用可能なメモリ量と、サーバーの合計メモリ。
- **VM**: ホスト上の各VMに割り当てられているメモリ量。
- **XenServerホスト**: dom0に割り当てられているメモリ量。

CPU

全般タブの**CPU**セクションには、ベンダー、モデル、速度、およびvCPU:CPU比率とともにCPUのリストが表示されます。

GFS2クラスタリングステータス

プールでGFS2クラスタリングが有効になっている場合、**全般**タブには**GFS2クラスタリングステータス**セクションがあり、次の情報が表示されます。

- **ステータス**: ホストがクラスターのライブメンバーであるか、ライブメンバーではないか。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **最終更新ステータス**: ホストのステータスが最後に更新された日時。

SSHアクセス

全般タブの**SSHアクセス**セクションには、次の情報が表示されます。

ステータス: ホストのSSHアクセスステータス。

サーバープロパティの変更

「**リソース**」ペインで接続されている任意のサーバーを選択し、「**全般**」タブを選択して、そのプロパティとステータスを表示します。サーバーのプロパティを変更するには、「**プロパティ**」をクリックします。

(/en-us/xencenter/media/edit-16.png) 全般プロパティ - 名前、説明、フォルダー、およびタグ

サーバーの名前、説明、フォルダー、およびタグは、「**プロパティ**」ダイアログの「**全般プロパティ**」タブで変更できます。

- サーバーの名前を変更するには、「**名前**」ボックスに新しい名前を入力します。
- 説明を変更するには、「**説明**」ボックスに新しいテキストを入力します。
- サーバーをフォルダーに配置したり、別のフォルダーに移動したりするには、「**フォルダー**」ボックスで「**変更**」を選択し、フォルダーを選択します。詳細については、「フォルダーの使用」を参照してください。
- サーバーのタグ付けとタグ解除、およびタグの作成と削除については、「タグの使用」を参照してください。

(/en-us/xencenter/media/edit-16.png) iSCSI IQN (全般タブ)

サーバーのiSCSI IQNは、iSCSIストレージリポジトリ（SR）に接続する際に一意に識別するために使用されます。XenServerホストは、ホストのインストール中にランダムなIQNで自動的に作成および構成される単一のiSCSIイニシエーターをサポートします。単一のイニシエーターを使用して、複数のiSCSIターゲット（SR）に同時に接続できます。iSCSIストレージに対するXenServerのサポートに関する詳細については、「ストレージ」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

重要:

iSCSIターゲット（SR）とプール内のすべてのサーバーには、異なるIQNを設定する必要があります。一意でないIQN識別子が使用された場合、データ破損が発生したり、ターゲットへのアクセスが拒否されたりする可能性があります。

管理対象サーバーのiSCSI IQN値を変更するには

注:

サーバーのiSCSI IQN値を変更する前に、既存のすべてのSRをデタッチする必要があります。サーバーのIQNを変更すると、ストレージターゲットが適切に更新されない限り、サーバーが新規または既存のSRに接続できなくなる可能性があります。

1. 「**リソース**」ペインでサーバーを選択し、「**全般**」タブを選択して、「**プロパティ**」をクリックします。
2. 「**プロパティ**」ダイアログボックスの「**全般**」タブで、「**iSCSI IQN**」ボックスに新しい値を入力します。
3. 「**OK**」をクリックして変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

(/en-us/xencenter/media/000-fields-h32bit-16.png) カスタムフィールド

カスタムフィールドを使用すると、管理対象リソースに情報を追加して、検索や整理を容易にすることができます。詳細については、「カスタムフィールドの使用」(/ja-jp/xencenter/current-release/resources-customfields.html)を参照してください。

(/en-us/xencenter/media/000-alert2-h32bit-16.png) アラート

このタブを使用して、サーバーのCPU、メモリ使用量、ネットワークアクティビティのパフォーマンスアラートを設定します。詳細については、「パフォーマンスアラートの構成」(/ja-jp/xencenter/current-release/performance-alerts.html)を参照してください。

(/en-us/xencenter/media/000-email-h32bit-16.png) メール通知（スタンドアロンサーバー）

このタブを使用して、スタンドアロンサーバーで生成されるシステムアラートのメール通知を設定します。プール内のサーバーの場合、この機能はプールレベルで設定されます。詳細について

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

は、「XenCenterアラート」(/ja-jp/xencenter/current-release/systemalerts.html)を参照してください。

(/en-us/xencenter/media/000-storage-h32bit-16.png) マルチパス

ファイバーチャネルおよびiSCSIストレージリポジトリでは、動的ストレージマルチパスがサポートされています。この機能は、サーバーの「**プロパティ**」ダイアログにある「**マルチパス**」タブから有効にできます。

詳細については、「ストレージマルチパス」(/ja-jp/xencenter/current-release/storage-pools-multipathing.html)を参照してください。

(/en-us/xencenter/media/001-power-on-h32bit-16.png) 電源オン（スタンドアロンサーバー）

このタブを使用して、XenServerホスト電源オン機能を構成し、管理対象サーバーをリモートで電源オンできるようにします。この機能の構成の詳細については、「ホスト電源オンの構成」(/ja-jp/xencenter/current-release/host-power-on-enable.html)を参照してください。プール内のサーバーの場合、この機能はプールレベルで構成されます。

(/en-us/xencenter/media/001_tools_h32bit_16.png) ドライバー

このタブでは、サーバーにインストールされているドライバーバリアントを表示および変更できます。現在アクティブなバリアントと、次回の再起動後にアクティブになるバリアントが表示されます。

このリストには、複数のバリアントを持ち、現在のハードウェアに適用されるサーバー上のドライバーが表示されます。「**次回の再起動後にアクティブ**」列で、必要に応じて別のバリアントを選択します。新しいバリアントは、サーバーを再起動した後にアクティブになります。

単一のバリアントのみを持つドライバーを含めるには、「**単一バリアントドライバーを表示**」を選択します。

サーバーに適用されないドライバーを含めるには、「**現在のハードウェアに適用されないドライバーを表示**」を選択します。



ログ保存先

XenServer® のシステムログメッセージは、サーバー自体にローカルに保存されます。これらのログをリモートサーバーに転送することもできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

リモートサーバーは、ログを受信して正しく集約するためにsyslogdデーモンを実行している必要があります。syslogdデーモンは、すべてのLinuxおよびUnixインストールに標準で含まれています。Windowsおよびその他のオペレーティングシステム向けにサードパーティバージョンも利用可能です。リモートサーバーを構成して、プール内のホストからのリモート接続を許可し、ファイアウォールを適切に構成してください。

リモートのXenServerログ保存先を指定するには

1. 「**リソース**」ペインでサーバーを選択し、「**全般**」タブを選択して、「**プロパティ**」をクリックします。
2. 「**プロパティ**」ダイアログボックスで「**ログ保存先**」タブを選択します。
3. 「**システムログをリモートサーバーにも保存する**」を選択します。
4. 「**サーバー**」フィールドに、syslogdデーモンを実行しているサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。ポートは`:<port>`を付加することで指定できます。指定しない場合、デフォルトでポート514が使用されます。
5. 「**OK**」をクリックして変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。



GPU

「**GPU**」タブでは、次のことができます。

1. GPU配置ポリシーを設定する
2. Windows VM向けIntel GPUパススルーを有効にする

配置ポリシー

「**GPU**」タブでは、最大密度または最大パフォーマンスのいずれかを達成するために、利用可能なGPUにVMを割り当てるホスト全体のポリシーを設定できます。要件に基づいてオプションを選択してください。

「**GPU**」タブは、異なるGPUグループに異なる設定が使用されている場合にのみ、「**Mixed**」設定を表示します。「**Mixed**」設定の場合、特定のGPUグループは最大密度を達成するように構成され、残りは最大パフォーマンスを達成するように構成されます。

XenCenterを使用して「**Mixed**」設定を設定または編集することは**できません**。異なるGPUグループに異なる設定を使用したい場合は、xe CLIを使用してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

GPU仮想化は、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。「**GPU**」タブは、サーバーがライセンス要件を満たし、さまざまな仮想GPUタイプをサポートするGPUを搭載している場合に表示されます。詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。

統合GPUパススルー

XenServerサーバーがIntelサーバー上のIntel GPUに接続されている場合、サーバーの制御ドメインは統合GPUデバイスに接続されます。このような場合、GPUはパススルーに利用できません。dom0とGPU間の接続を無効にし、変更を有効にするためにホストを再起動するには、「**このサーバーは統合GPUを使用しません**」を選択します。

詳細については、「GPU」を参照してください。

注:

dom0とGPU間の接続を無効にした後、XenServerサーバーの外部コンソール出力（VGA、HDMI、DPなど）は利用できなくなります。



NRPE

注:

NRPE機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServer Webサイトにアクセスしてください。

このタブでは、プールの一部ではないスタンドアロンホストのNRPEサービスを構成できます。

Pool Adminロールを持つユーザーは、Nagios Remote Plugin Executor (NRPE) をサポートするサードパーティの監視ツールを使用して、XenServerホストおよびdom0（ホストの制御ドメイン）によって消費されるリソースを監視できます。NRPEを使用して取得できるホストおよびdom0のメトリックについては、NRPEでホストおよびdom0リソースを監視するを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

NRPEを有効にするチェックボックスをオンにして、スタンドアロンホストのNRPEを有効にします。NRPEデーモンと通信できる監視サーバーを追加するには、IPアドレスまたはホスト名のコンマ区切りリストとしてホストを指定します。また、警告およびクリティカルしきい値テーブルの値を変更することで、プラグインチェックの警告およびクリティカルしきい値を調整できます。NRPEサービスの構成方法の詳細については、NRPEでホストおよびdom0リソースを監視するを参照してください。

注記：

NRPEタブは、Pool Adminロールを持つユーザーのみが利用できます。

SNMPアイコン(/en-us/xencenter/media/icon-snmp.png) SNMP

注記：

SNMP機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServer Webサイトにアクセスしてください。

このタブでは、プールの一部ではないスタンドアロンホストのSNMPサービスを構成できます。

Pool Adminロールを使用すると、SNMPを使用して、XenServerホストおよびdom0（ホストの制御ドメイン）によって消費されるリソースをリモートで監視できます。

SNMPを有効にするチェックボックスをオンにして、スタンドアロンホストのSNMPを有効にします。**トラップレシーバーの追加**をクリックして、トラップレシーバーを1つ追加できます。SNMPサービスの構成方法の詳細については、SNMPでホストおよびdom0リソースを監視するを参照してください。

注記：

SNMPタブは、Pool Adminロールを持つユーザーのみが利用できます。

XenCenterで**SNMP**タブが表示されない場合、ホストがSNMPをサポートするXenServerのバージョンを実行していない可能性があります。ホストを最新バージョンのXenServerに更新してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

コンソール

プール内のサーバー

このタブでは、SSHおよびVNCコンソールのアイドルタイムアウトパラメーターを設定できます。

- **サーバーSSHおよびVNCコンソールセッションのアイドルタイムアウトを有効にする**をクリックし、値を入力します（分）。
  - 0 = セッションは期限切れになりません
  - ゼロ以外の値（例: 60）= 指定された分数後にアイドルセッションを終了します。

> **注:**
>
> アイドルタイムアウトに達すると、コンソールセッションは自動的に切断されます。

スタンドアロンサーバー

このタブでは、SSHおよびVNCコンソールのアイドルタイムアウトパラメーター（VM VNCセッションを含む）を設定でき、サーバーまたはVMごとに単一の同時VNCコンソールセッションを許可します。

- **サーバーSSHおよびVNCコンソールセッションのアイドルタイムアウトを有効にする**をクリックし、値を入力します（分）。
  - 0 = セッションは期限切れになりません
  - ゼロ以外の値（例: 60）= 指定された分数後にアイドルセッションを終了します。
- **VM VNCコンソールセッションのアイドルタイムアウトを有効にする**をクリックし、値を入力します（分）。
  - 0 = セッションは期限切れになりません
  - ゼロ以外の値 (例: 60) = 指定された分数後にアイドルセッションを終了する

> **注:**
>
> アイドルタイムアウトに達すると、コンソールセッションは自動的に切断されます。

- 同時VNCコンソールセッションを1つに制限する。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

XenCenterがVNCコンソールセッションに接続しようとしたときに、コンソールセッションが制限されており、誰かがそのコンソールセッションを使用している場合、ユーザーに通知するダイアログが表示されます。

コントロールドメインのメモリを変更する

コントロールドメインは、「dom0」とも呼ばれ、XenServer®管理ツールスタック (XAPI) を実行するセキュアで特権を持つLinux仮想マシン (VM) です。コントロールドメインはXenServerの管理機能を提供します。また、ユーザーが作成したVMに物理デバイスへのアクセスを提供するドライバー スタックも実行します。

コントロールドメインに割り当てられるメモリ量は、XenServerのインストール中に自動的に設定されます。この量は、サーバー上の物理メモリ量に基づいています。詳細については、「メモリ使用量」を参照してください。

次のような場合に、dom0に割り当てられるメモリを増やすことを検討してください。ストレージ読み取りキャッシュのシナリオ、PVS-Acceleratorのシナリオ、またはXenServerサーバーあたり50台を超えるVMを実行している場合。メモリ量が少ないサーバーでは、dom0に割り当てられるメモリを減らすことを検討してください。次のセクションでは、XenCenterを使用してdom0メモリを更新する手順を説明します。xe CLIを使用してdom0メモリを変更する方法については、「コマンドラインインターフェイス」を参照してください。

注:

- Citrix®は、dom0メモリを1 GiB未満に減らさないことを推奨します。
- dom0メモリの量を増やすと、VMに利用可能なメモリが少なくなります。
- お客様は、XenServerのインストール中に最初に設定された値より少なくdom0メモリを減らすためにXenCenter®を使用することはできません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

dom0メモリを更新するには

> **注:**
>
> dom0メモリを更新する前に、サーバーをメンテナンスモードにします。詳細については、「メンテナンスモードで実行」を参照してください。

1. **リソース**ペインでサーバーを選択し、**メモリ**をクリックします。**メモリ**タブには、サーバーで現在使用されているメモリに関する情報が表示されます。この情報には、利用可能なメモリ、dom0メモリ、合計メモリ、およびサーバーが使用している合計メモリの割合が含まれます。
2. **コントロールドメインメモリ**の横に表示されているハイパーリンクをクリックします。または、**サーバー**メニューから**コントロールドメインメモリ**を選択します。
3. **コントロールドメインメモリ設定**ダイアログで、dom0に割り当てられているメモリを更新します。dom0メモリを変更すると、サーバーが再起動します。
4. **OK**をクリックして変更を確定し、サーバーを再起動します。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- メモリ使用量

管理対象サーバーのリストのエクスポートとインポート

XenCenter®から管理対象サーバーのリストを構成ファイルにエクスポートできます。この構成ファイルを別のコンピューター上のXenCenterセッションにインポートできます。この機能は、たとえば、デスクトップコンピューターからラップトップに管理対象サーバーのリストをコピーする場合に役立ちます。新しいマシンで長いサーバーリストを手動で追加する手間を省くことができます。

XenCenterは、各管理対象VMのIPアドレスまたはDNS名、ポート、および表示名を、`.config`ファイル名拡張子を持つファイルにXML形式で保存します。ログイン資格情報は保存されません。

管理対象サーバーのリストをエクスポートするには

1. **ファイル**メニューで、**サーバーリストのエクスポート**を選択します。
2. エクスポートファイルの名前と場所を指定し、**保存**をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サーバーリストをインポートするには

1. **ファイル**メニューで、**サーバーリストのインポート**を選択します。
2. XenCenter構成ファイルを見つけて、**開く**をクリックします。

   サーバーは、XenCenterの**リソース**ペインに切断されたステータスで表示されます 
   。
3. **リソース**ペインでインポートされた各サーバーをダブルクリックして接続します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プールの管理

XenServerプールを使用すると、複数のサーバーとそれらに接続された共有ストレージを単一の統合リソースとして表示できます。このビューを使用して、リソース要件とビジネス優先度に基づいてVMを展開できます。プールには、同じバージョンのXenServerソフトウェアを実行し、同じパッチレベルで、広範な互換性のあるハードウェアを備えた最大64台のサーバーを含めることができます。詳細については、「プール要件」を参照してください。

プール内の1台のサーバーがプールコーディネーターとして指定されます。プールコーディネーターは、プール内のすべてのサーバーに対する単一の連絡窓口を提供し、必要に応じてプール内の他のメンバーに通信をルーティングします。

プールコーディネーターがシャットダウンすると、プールコーディネーターがオンラインに戻るか、別のプールメンバーを新しいプールコーディネーターとして指名するまで、プールは利用できません。リソースプールのすべてのメンバーは、必要に応じてプールコーディネーターの役割を引き継ぐために必要なすべての情報を含んでいます。HA対応プールでは、プールコーディネーターがシャットダウンした場合、新しいプールコーディネーターが自動的に指名されます。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- ホストとリソースプール

プール要件

リソースプールは、最大64台までの同種または異種のサーバーの集合体です。プールを作成する前、または既存のプールにサーバーを参加させる前に、プール内のすべてのサーバーで以下の要件が満たされていることを確認してください。

ハードウェア要件

XenServer®リソースプール内のすべてのサーバーは、概ね互換性のあるCPUを搭載している必要があります。すなわち：

- CPUベンダー（Intel、AMD）は、すべてのサーバーのすべてのCPUで同じである必要があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- すべてのCPUで仮想化が有効になっている必要があります。

その他の要件

ハードウェアの前提条件に加えて、プールに参加するサーバーには他にもいくつかの前提条件があります。

- 一貫したIPアドレス（サーバー上の静的IPアドレスまたは静的DHCPリース）を持っている必要があります。この要件は、共有NFSまたはiSCSIストレージを提供するサーバーにも適用されます。
- システムクロックはプールコーディネーターと同期されている必要があります（例：NTP経由）。
- プールと同じデータセンターにあるか、または近接定義を満たすデータセンターにあり、低遅延（往復5ms未満）、高帯域幅（少なくとも10Gbps）のネットワークで接続されている必要があります。
- 既存のリソースプールのメンバーであってはなりません。
- 実行中または一時停止中のVM、あるいはVMで進行中のアクティブな操作があってはなりません。サーバーがプールに参加する前に、すべてのVMをシャットダウンする必要があります。
- 共有ストレージがすでに構成されていてはなりません。
- ボンディングされた管理インターフェースを持っていてはなりません。プールに参加する前に、参加するサーバーの管理インターフェースを再構成し、物理NICに戻してください。サーバーがプールに正常に参加した後、再構成できます。詳細については、IPアドレスの構成を参照してください。
- プールにすでに存在するサーバーと同じバージョンのXenServerソフトウェアが、同じ更新レベルで実行されている必要があります。そうでない場合、XenCenter®は参加するサーバーをプールコーディネーターと同期させ、一致する更新セットを適用しようとします。
- プールにすでに存在するサーバーと同じ補足パックで構成されている必要があります。補足パックは、dom0（XenServerコントロール ドメイン）にアドオンソフトウェアをインストールするために使用されます。プール全体でユーザーエクスペリエンスの一貫性を保つために、プール内のすべてのサーバーに同じ改訂版の補足パックをインストールしてください。
- プールにすでに存在するサーバーと同じXenServerライセンスを持っている必要があります。プールに参加した後、任意のプールメンバーのライセンスを変更できます。最も低いライセンスを持つサーバーが、プール内のすべてのメンバーに利用可能な機能を決定します。ライセンスの詳細については、XenServerライセンスについてを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

同種プール

同種リソースプールは、同一のCPUを持つサーバーの集合体です。前のセクションの要件に加えて、同種プールに参加するサーバーは、プールにすでに存在するサーバーと同じCPUを持っている必要があります。CPUは、ベンダー、モデル、および機能が同じであれば、同じであると見なされます。

異種プール

XenServerは、異なるホストハードウェアをリソースプール（異種リソースプールとして知られる）に結合できるようにすることで、時間の経過とともに展開を拡大することを可能にします。異種リソースプールは、Intel（FlexMigration）およびAMD（Extended Migration）CPUに搭載されている、CPUの「マスキング」または「レベリング」を提供するテクノロジーを適用することで実現されます。これらの機能により、CPUを、実際とは異なるメーカー、モデル、または機能を提供しているかのように構成できます。この機能により、異なるCPUを持つホストのプールを作成しながらも、ライブマイグレーションを安全にサポートできます。異種プールに参加するサーバーは、以下の要件を満たす必要があります。

- プールに参加するサーバーのCPUは、プールにすでに存在するサーバーのCPUと同じベンダー（AMD、Intel）のものである必要があります。ただし、CPUの特定のタイプ（ファミリー、モデル、ステッピング番号）は同じである必要はありません。
- プールに参加するサーバーのCPUは、Intel FlexMigrationまたはは AMD Enhanced Migrationのいずれかをサポートしている必要があります。

XenServerは、異種プールのサポートを簡素化します。基盤となるCPUタイプに関係なく、CPUが同じベンダーファミリーのものである限り、既存のリソースプールにサーバーを追加できます。プール機能セットは、以下のたびに動的に計算されます。

- 新しいサーバーがプールに参加する
- プールメンバーがプールを離れる
- 再起動後にプールメンバーが再接続する

プール機能セットの変更は、現在プールで実行中のVMには影響しません。実行中のVMは、起動時に適用された機能セットを引き続き使用します。この機能セットは起動時に固定され、移行、一時停止、再開の操作全体で保持されます。能力の低いサーバーがプールに参加してプールレベルが低下した場合でも、実行中のVMは、新しく追加されたサーバーを除くプール内の任意のサーバーに移行できます。VMをプール内またはプール間で別のサーバーに移動または移行する場合、XenServerはVM機能セットを宛先サーバーの機能セットと比較します。機能セットに互換性があることが判明した場合、VMは移行が許可されます。この機能により、VMは使用しているCPU機能に関係なく、プール内およびプール間で自由に移動できます。Workload Balancingを使用して

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMを移行する最適な宛先サーバーを選択する場合、互換性のない機能セットを持つサーバーは宛先サーバーとして推奨されません。

> **注：**
>
> 実行中のVMをプールの新しい機能セットを使用するように更新するには、VMの電源をオフにしてから再度起動します。例えば、XenCenterで**再起動**をクリックしてVMを再起動しても、VMの機能セットは更新されません。

共有プールストレージ

リソースプールを作成するための厳密な要件ではありませんが、プールの利点は、プールに1つ以上の共有ストレージリポジトリ (SR) がある場合にのみ利用できます。これらの利点には、最も適切なサーバーでVMを実行することや、サーバー間でのVM移行が含まれます。

共有ストレージが利用可能になるまで、プールの作成を試みないことをお勧めします。共有ストレージを追加した後、ローカルストレージにディスクがある既存のVMをコピーすることで、共有ストレージにすばやく移動できます。

共有SRを持つサーバーがプールコーディネーターになると、このSRはプールの共有SRになります。新しいプールコーディネーターに共有ストレージがない場合、プール用に新しい共有SRを作成する必要があります。「新しいSRの作成」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- 「ホストとリソースプール」

新しいプールを作成する

プールを作成する際、XenCenter® はプールを作成する前に、プールの構成に関する問題を解決しようとします。

サーバーがプールに正常に参加できない原因となる、その他のハードウェアまたは構成の問題がある場合があります。詳細については、「プールの要件」を参照してください。

プールを作成するには

1. ツールバーの をクリックして、 ウィザードを開きます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. 新しいプールの名前と、オプションで説明を入力します。名前は ペインに表示されます。 をクリックします。
3. リストからサーバーを選択して、プールコーディネーターを指名します。
4. リストから、新しいプールに配置するサーバーをさらに選択します。利用可能なすべての管理対象サーバーが一覧表示されます。サーバーが一覧にない場合は、 をクリックしてリストに追加できます。管理対象サーバーが「プールの要件」に記載されているプールの参加要件のいずれかまたは複数を満たさない場合、そのサーバーは無効として表示されます。

   をクリックします。
5. パネルで、XenCenter は解決が必要となる可能性のあるプールの構成上の問題を特定します。

   - サポートサーバーは、プールコーディネーターと同じレベルでライセンスされている必要があります。
     - サポートサーバーにライセンスがなく、プールコーディネーターが接続されているライセンスサーバーで利用可能なライセンスを持っている場合、XenCenter は適切なライセンスを自動的に適用します。
     - サポートサーバーがプールコーディネーターとは異なるライセンスを持っている場合、このサーバーは リストで無効として表示されます。このサーバーをプールに追加することはできません。

     プールに参加した後、任意のプールメンバーのライセンスを変更できます。最も低いライセンスを持つサーバーが、プール内のすべてのメンバーに利用可能な機能を決定します。ライセンスの詳細については、「XenServer ライセンスについて」を参照してください。
   - サポートサーバーは、プールコーディネーターと同じ Active Directory ドメインの一部である必要があります。
     - プールコーディネーターがドメインに参加しており、サポートサーバーがドメインに参加していない場合、XenCenterは自動的にサポートサーバーを同じドメインに参加させます。

       プールの作成ステップで、サポートサーバーの資格情報を求められます。プールが参加しているドメインのAD資格情報を入力してください。これらの資格情報には、ドメインにサーバーを追加するための十分な権限が必要です。
     - プールコーディネーターがドメインに参加しており、サポートサーバーが別のドメインに参加している場合、このサーバーは**追加メンバー**リストで無効として表示されます。このサーバーをプールに追加することはできません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- サポートサーバーは、プールコーディネーターと同じレベルの更新である必要があります。サポートサーバーがプールよりも古いレベルの更新である場合、XenCenterはそれをプールコーディネーターと同期し、プールコーディネーターからサポートホストに更新を適用します。

これらの事前チェックを解決し、プールを作成するには、**次へ**をクリックします。

6. **プールの作成**パネルで、XenCenterはプールの構成問題を解決し、プールを作成して結果を表示します。ウィザードを閉じるには、**完了**をクリックします。

プールコーディネーターがすでに共有ストレージリポジトリ (SR) を持っている場合、このリポジトリはプールの共有SRになります。新しいプールコーディネーターが共有ストレージを持っていない場合、プール用に新しい共有SRを作成する必要があります。詳細については、新しいSRの作成を参照してください。

その他のプール構成手順

新しいプールを構成するには、プロパティタブを使用します。

1. プールに共有ストレージを追加するには、新しいSRの作成を参照してください。
2. プールにサーバーを追加するには、プールへのサーバーの追加を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ホストとリソースプール

プールにサーバーを追加する

リソースプールに新しいサーバーを追加する前に、プールの要件で指定されているハードウェアおよび構成要件が、参加するサーバーで満たされていることを確認してください。

重要：

サーバーをプールに追加する前に、そのサーバーでホストされているすべての仮想マシンをバックアップしてください。

既存のプールにサーバーを追加するには

1. **リソース**ペインでサーバーを選択し、次のいずれかを実行します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 選択したサーバーを**リソース**ペインのターゲットプールにドラッグします。
- **サーバー**メニューで、**プールに追加**を選択し、ターゲットプールを選択します。
- 右クリックしてショートカットメニューの**プールに追加**を選択します。ターゲットプールを選択します。

プールに追加ウィザードが開きます。

2. **事前チェック**パネルで、XenCenter®は解決が必要な可能性のあるプール構成の問題を特定します。

   - サポートサーバーは、プールコーディネーターと同じレベルでライセンスされている必要があります。
     - サポートサーバーにライセンスがなく、プールコーディネーターに接続されたLicense Serverで利用可能なライセンスがある場合、XenCenterは適切なライセンスを自動的に適用します。
     - サポートサーバーがプールコーディネーターとは異なるライセンスを持っている場合、エラーが表示されます。サーバーをプールに追加することはできません。

     プールに参加した後、任意のプールメンバーのライセンスを変更できます。最も低いライセンスを持つサーバーが、プール内のすべてのメンバーに利用可能な機能を決定します。ライセンスの詳細については、XenServerライセンスについてを参照してください。
   - サポートサーバーは、プールコーディネーターと同じActive Directoryドメインの一部である必要があります。
     - プールコーディネーターがドメインに参加しており、サポートサーバーがドメインに参加していない場合、XenCenterは自動的にサポートサーバーを同じドメインに参加させます。

       プールに追加ステップで、サポートサーバーの資格情報の入力を求められます。プールが参加しているドメインのAD資格情報を入力します。これらの資格情報には、ドメインにサーバーを追加するための十分な権限が必要です。
     - プールコーディネーターがドメインに参加しており、サポートサーバーが別のドメインに参加している場合、エラーが表示されます。サーバーをプールに追加することはできません。
   - サポートサーバーは、プールコーディネーターと同じ更新レベルである必要があります。サポートサーバーがプールよりも古い更新レベルである場合、XenCenterはそれをプールコーディネーターと同期し、プールコーディネーターからの更新をサポートホストに適用します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

これらの事前チェックを解決し、サーバーをプールに追加するには、**次へ**をクリックします。

3. **プールに追加**パネルで、XenCenterは構成の問題を解決し、サーバーをプールに追加して、結果を表示します。ウィザードを閉じるには、**完了**をクリックします。

サーバーをプールに配置すると、**リソース**ペインにプールメンバーとして表示されます。例：

展開されたプールノードの下に2つのサーバーノードが表示されています。(/en-us/xencenter/media/status-pool-and-server.png)

新しいサーバーがプールに参加すると、そのサーバーはネットワークおよびボンド情報を含むプールコーディネーターのネットワーク構成を自動的に継承します。ただし、参加するサーバーの管理インターフェイスは、プールコーディネーターと一致するように変更されません。参加後に、プールコーディネーターと同じボンドを使用するように再構成してください。詳細については、「管理インターフェイスを変更するには」を参照してください。

サーバーを新しいプールに配置するには

新しいプールウィザードを使用して、管理対象サーバーを新しいプールに配置します。そのサーバーは新しいプールでプールコーディネーターになります。

1. **リソース**ペインで、サーバーを選択します。
2. 右クリックして、ショートカットメニューから**プールに追加**、次に**新しいプール**を選択します。
3. **新しいプール**ウィザードを使用してプールを作成します。詳細については、「新しいプールを作成する」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ホストとリソースプール(/ja-jp/xenserver/9/hosts-pools.html)

プールからサーバーを削除する

1. ローカルディスクに保存されているすべてのデータを、同じリソースプール内の共有ストレージリポジトリに移動します。詳細については、「仮想ディスクの移動」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

重要:

リソースプールからサーバーを削除すると、ローカルディスクに保存されているすべてのVMデータは消去されます。重要なデータを保持するため、この手順を完了してください。

2. サーバーで実行中のVMをシャットダウンします。詳細については、「VMのシャットダウン」を参照してください。
3. **リソース**ペインでサーバーを選択し、次のいずれかを実行します。
   - 右クリックして、**リソース**ペインのショートカットメニューから**プールからサーバーを削除**を選択します。
   - **プール**メニューで、**サーバーの削除**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- リソースプールからXenServerホストを削除する

プールからサーバーを破棄する

リソースプールからサーバーを破棄すると、指定されたXenServer®サーバーに明示的に連絡することなく、そのサーバーを忘却します。これにより、サーバーはローカルSR、DVDドライブ、リムーバブルストレージとともにプールから完全に削除されます。このオプションは、連絡できない、または物理的に故障したサーバーを破棄する場合に使用します。また、サーバー破棄操作は元に戻すことができません。再度使用する前に、サーバーを再インストールしてください。

1. 「**リソース**」ペインで、サーバーを選択し、次のいずれかを実行します。
   - 右クリックし、「**リソース**」ペインのショートカットメニューで「**破棄**」を選択します。
   - 「**サーバー**」メニューで「**破棄**」を選択します。
2. 確認のため、「**はい、破棄**」をクリックします。

リソースデータのエクスポート

リソースデータのエクスポートを使用すると、プール用のリソースデータレポートを生成し、そのレポートを`.xls`または`.csv`ファイルにエクスポートできます。このレポートには、プール内のさまざまなリソースに関する詳細情報が含まれています。たとえば、次のとおりです。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- サーバー
- ネットワーク
- ストレージ
- 仮想マシン
- VDI
- GPU

この機能を使用して、CPU、ストレージ、ネットワークなどのさまざまなワークロードに基づいてリソースを追跡、計画、割り当てます。

注:

リソースデータのエクスポートは、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。

リソースデータをエクスポートするには:

1. XenCenter®の**ナビゲーション**ペインで、**インフラストラクチャ**を選択し、プールをクリックします。
2. XenCenterメニューから、**プール**を選択し、**リソースデータのエクスポート**を選択します。
3. レポートを保存する場所を参照し、**保存**をクリックします。

リソースデータ

このセクションでは、レポートに含まれるリソースとさまざまな種類のリソースデータを一覧表示します。

サーバー

- 名前
- プールコーディネーター
- UUID
- アドレス
- CPU使用率
- ネットワーク (平均/最大 KB)
- 使用済みメモリ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ストレージ
- アップタイム
- 説明

ネットワーク

- 名前
- リンクステータス
- MAC
- MTU
- VLAN
- タイプ
- 場所

VDI

- 名前
- タイプ
- UUID
- サイズ
- ストレージ
- 説明

ストレージ

- 名前
- 種類
- UUID
- サイズ
- 場所
- 説明

仮想マシン

- 名前
- 電源状態

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 実行ホスト
- アドレス
- MAC
- NIC
- オペレーティングシステム
- ストレージ
- 使用メモリ
- CPU使用率
- UUID
- 稼働時間
- テンプレート
- 説明

GPU

> **注:**
>
> GPUに関する情報は、XenServer®ホストにGPUが接続されている場合にのみ利用可能です。

- 名前
- サーバー
- PCIバスパス
- UUID
- 電力使用量
- 温度
- 使用済みメモリ
- コンピューター利用率

プールプロパティの表示

プールの**全般**タブには、以下のセクションと情報が含まれています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

全般

全般タブの**全般**セクションには、以下の情報が表示されます。

- **名前**: プールに付けた名前。
- **説明**: プールに付けた説明。
- **タグ**: プールに割り当てたタグ。
- **フォルダー**: プールに割り当てたフォルダー。
- **プールライセンス**: このプールに適用されているライセンスの種類。
- **ソケット数**: このプールで使用されているライセンスソケットの数。
- **証明書の検証**: 証明書の検証が有効になっているかどうか。
- **バージョン**: このプールで実行されているXenServer®のバージョン。
- **UUID**: このプールの一意の識別子。

証明書

全般タブの**証明書**セクションには、以下の情報が表示されます。

- プールにインストールされているCA証明書のリスト、その種類、有効期限、およびサムプリント。

更新

全般タブの**更新**セクションには、次の情報が表示されます。

- **更新チャネル**: プールが更新を受信するように構成されている更新チャネル。
- **最終同期日時**: プールが更新チャネルと同期し、新しい更新を確認した最終日時。
- **同期チェックサム**: 更新チャネルから利用可能な更新レベルのチェックサム。
- **適用済み最新更新のチェックサム**: プールに適用された更新レベルのチェックサム。
- **保留中の推奨タスク**: 適用されたすべての更新から最大限の効果を得るために、プール内のホストで実行する必要があるアクション。

管理インターフェース

プール内の各ホストについて、**全般**タブの**管理インターフェース**セクションには、次の情報が表示されます。

- **DNSホスト名**: このサーバーのホスト名。
- **管理インターフェース**: 管理インターフェースのIPアドレス。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **TCPポート80**: ポート80が開いているかどうか。
- セカンダリインターフェースとそのIPアドレスのリスト。

GFS2クラスタリングステータス

プールでGFS2クラスタリングが有効になっている場合、**全般**タブには、次の情報を示す**GFS2クラスタリングステータス**セクションがあります。

- **稼働中のホスト数**: クラスター内のホストのうち、オンラインでクラスター内の他のホストに接続されているホストの数。
- **到達不能なホスト**: クラスター内で稼働していないホストのリスト。これらのホストは、オフラインであるか、フェンスされているか、またはオンラインであってもクラスターに接続できない可能性があります。
- **Corosyncバージョン**: 現在のCorosyncバージョンを表示します。XenServerが最新の場合、**GFS2クラスターのアップグレード**リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、**Corosyncアップグレード**ウィザードが起動します。
- **クォーラム**: クラスターがクォーラムを確立するために必要な稼働中のホストの数。クォーラム値の計算方法の詳細については、GFS2クラスタープールを参照してください。
- **GFS2クラスターはクォーラム状態**: クラスターがクォーラムを確立しているかどうか。

SSHアクセス

全般タブの**SSHアクセス**セクションには、次の情報が表示されます。

- このプール内の各ホストのSSHアクセスステータス。

プールプロパティの変更

リソースペインで任意のリソースプールを選択し、**全般**タブを選択してそのプロパティとステータスを表示します。プールのプロパティを変更するには、**全般**タブの**プロパティ**をクリックします。



全般プロパティ - 名前、説明、フォルダー、タグ

全般プロパティタブでは、プールの名前と説明を変更したり、フォルダーに配置したり、タグを管理したりできます。

- プール名を変更するには、**名前**ボックスに新しい名前を入力します。
- 説明を変更するには、**説明**ボックスに新しいテキストを入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- プールをフォルダーに追加したり、別のフォルダーに移動したりするには、**フォルダー**ボックスで**変更**を選択します。フォルダーを選択します。詳細については、フォルダーの使用を参照してください。
- プールにタグを付けたり、タグを解除したり、タグを作成および削除したりする方法については、タグの使用を参照してください。



カスタムフィールド

カスタムフィールドを使用すると、管理対象リソースに情報を追加して、検索や整理を容易にすることができます。管理対象リソースにカスタムフィールドを割り当てる方法については、カスタムフィールドの使用を参照してください。



メールオプション

このタブを使用して、プール内の任意のサーバーまたはVMで生成されるシステムアラートのメール通知を設定します。詳細については、XenCenterアラートを参照してください。パフォーマンスアラートメールを受信したいユーザーは、リストから希望の言語を選択できます。利用可能な言語は、英語、中国語、日本語です。

XenCenterのパフォーマンスアラートメール言語を設定するためのデフォルト言語は英語です。



電源オン

電源オン機能を使用すると、電源管理をサポートするサーバーの電源管理設定を構成できます。サーバーは、プールの総ワークロード（ワークロードバランシング経由）に応じて自動的に電源オフおよびオンにできます。

- タブ上部のサーバーリストで、電源管理を設定したいサーバーを選択します。
- **電源オンモード**で、選択したサーバーの**電源オン**設定（無効、Wake-on-LAN、IPMI、またはカスタムスクリプト）を指定します。利用可能な電源オン設定は、ホストのバージョンによって異なります。
- **構成オプション**で、IPアドレスと資格情報、またはホスト電源オン スクリプトのキーと値のペアを指定します。指定する必要があるオプションは、選択した**電源オンモード**オプションによって異なります。

ホスト電源オン機能の前提条件と構成オプションの詳細については、「ホスト電源オンの構成」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



ドライバー

このタブでは、プール内のすべてのサーバーにインストールされているドライバーバリアントを表示および変更できます。現在アクティブなバリアントと、次回の再起動後にアクティブになるバリアントが表示されます。

上部のリストには、プール内のすべてのサーバーが表示されます。1つ以上のサーバーを選択すると、下部のリストには、複数のバリアントを持ち、現在のハードウェアに適用されるこれらのサーバー上のドライバーが表示されます。**次回の再起動後にアクティブ**列で、必要に応じて別のバリアントを選択します。新しいバリアントは、サーバーを再起動した後にアクティブになります。

単一バリアントのドライバーを含めるには、**単一バリアントのドライバーを表示**を選択します。

現在のハードウェアに適用されないドライバーを含めるには、**現在のハードウェアに適用されないドライバーを表示**を選択します。



GPU

このタブでは、最大密度または最大パフォーマンスのいずれかを達成するために、利用可能なGPUにVMを割り当てるプール全体のポリシーを設定できます。要件に基づいてオプションを選択してください。

GPUタブには、異なるGPUグループに異なる設定が使用されている場合にのみ、**混合**設定が表示されます。つまり、プール内の一部のGPUグループを最大密度に構成し、他のGPUグループを最大パフォーマンスに構成した場合です。XenCenterを使用して**混合**設定を設定または編集することは**できません**。異なるGPUグループに異なる設定を使用するには、xe CLIを使用します。

> **注記：**
>
> GPU仮想化は、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。プールがライセンス要件を満たし、さまざまな仮想GPUタイプをサポートするGPUも搭載している場合、XenCenterは**GPU**タブを表示します。詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。



セキュリティ

「**セキュリティ**」タブでは、プールの管理インターフェイスに対してTCPポート80を開くか閉じるかを指定できます。このポートは閉じることをお勧めします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プールとの通信には、TLS 1.2プロトコルのみがサポートされています。

プールとのTLS 1.2通信に使用される暗号スイートのリストについては、お使いのプールバージョンの情報をご覧ください。

- XenServer 最新リリース



ライブパッチ

このタブでは、ライブパッチを有効または無効にできます。ライブパッチを使用すると、お客様はホストを再起動することなく、一部のLinuxカーネルおよびXen®ハイパーバイザーのアップデートをインストールできます。これはデフォルトで有効になっています。

注記：

XenServer Live Patchingは、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。ライセンスの詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。



ネットワーク

このタブでは、IGMPスヌーピングを有効または無効にできます。XenServer®はマルチキャストトラフィックをすべてのゲストVMに送信します。この動作により、ホストデバイスは要求していないパケットを処理する必要があるため、不要な負荷がかかります。IGMPスヌーピングを有効にすると、ローカルネットワーク上のホストが明示的に参加していないマルチキャストグループのトラフィックを受信することを防ぎます。このアクションにより、マルチキャストのパフォーマンスが向上します。IGMPスヌーピングは、IPTVなどの帯域幅を大量に消費するIPマルチキャストアプリケーションに特に役立ちます。このオプションはデフォルトで無効になっています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注記：

- IGMPスヌーピングは、ネットワークバックエンドがOpen vSwitchを使用している場合にのみ利用可能です。
- プールでこの機能を有効にする場合、物理スイッチのいずれかでIGMPクエリアを有効にする必要がある場合もあります。そうしないと、サブネットワーク内のマルチキャストがブロードキャストにフォールバックし、XenServerのパフォーマンスが低下する可能性があります。
- IGMP v3を実行しているプールでこの機能を有効にすると、VM移行またはネットワークボンディングのフェイルオーバーにより、IGMPバージョンがv2に切り替わります。
- XenServer IGMPスヌーピングは、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。ライセンスの詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。



GFS2クラスタリング

このタブでは、GFS2クラスタリングを有効または無効にできます。GFS2でシンプロビジョニングされたストレージリポジトリを使用するには、プールでクラスタリングを有効にします。

注:

クラスタリングは、3台以上のサーバーとGFS2 SRを含むプールでのみ有効にすることをお勧めします。

GFS2 SRを含まないプールでは、クラスタリングを有効にしないでください。
この機能をプールで有効にする際は、ネットワークを指定します。クラスタリングメカニズムは、このネットワークを使用してプール内のすべてのサーバーと通信します。クラスター化されたプール内のサーバーが、タイムアウト後に他のほとんどのサーバーと通信できない場合、そのサーバーは自己フェンスします。ホストが不必要に自己フェンスする可能性を減らすために、クラスタリングに使用するネットワークが信頼できるものであることを確認してください。物理的に分離されたボンディングネットワークを使用することをお勧めします。詳細については、「新しいネットワークの追加」を参照してください。

Corosyncバージョン2をまだ使用している場合は、GFS2クラスターをCorosyncバージョン3にアップグレードできるようになりました。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



グローバルVMオプション

このタブでは、プール内のすべてのVMに適用されるオプションを設定できます。

パフォーマンスの強化

VMのライブマイグレーション中、そのメモリはネットワークを使用して2つのホスト間でデータストリームとして転送されます。マイグレーションストリーム圧縮機能を有効にすることで、このデータストリームを圧縮し、低速なネットワークでのメモリ転送を高速化できます。マイグレーションストリーム圧縮機能を有効にするには、**VMライブマイグレーション中にVMメモリとvGPUデータを圧縮**チェックボックスを選択します。この機能はデフォルトで無効になっています。

Secure Boot証明書の自動更新

プールで作成されたVMにレガシーなSecure Boot証明書が含まれている場合、このオプションを選択すると、次回の起動時に証明書が自動的に更新されるようにフラグを立てることができます。この機能はデフォルトで無効になっています。



NRPE

注:

NRPE機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServerウェブサイトをご覧ください。

このタブでは、プールのNRPEサービスを設定できます。

NRPEタブには、プールのデフォルトのNRPE構成値が表示されます。プール管理者ロールを持つユーザーは、Nagios Remote Plugin Executor (NRPE) をサポートするサードパーティの監視ツールを使用して、XenServerホストおよびdom0（ホストの制御ドメイン）によって消費されるリソースを監視できます。NRPEを使用して取得できるホストおよびdom0のメトリックについては、NRPEでホストおよびdom0のリソースを監視するを参照してください。

NRPEを有効にするチェックボックスを選択して、プールでNRPEを有効にします。NRPEデーモンと通信を許可する監視サーバーを追加するには、IPアドレスまたはホスト名のコンマ区切りリストとしてホストを指定します。また、警告およびクリティカルしきい値テーブルの値を変更することで、プラグインチェックの警告およびクリティカルしきい値を調整することもできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

NRPEサービスの設定方法の詳細については、NRPEでホストおよびdom0のリソースを監視するを参照してください。

注:

NRPEタブは、プール管理者ロールを持つユーザーのみが利用できます。

(/en-us/xencenter/media/icon-snmp.png) SNMP

注:

SNMP機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServerウェブサイトをご覧ください。

このタブでは、プールのSNMPサービスを設定できます。

SNMPタブには、プールのデフォルトのSNMP構成値が表示されます。プール管理者ロールを使用すると、SNMPを使用して、XenServerホストおよびdom0（ホストの制御ドメイン）によって消費されるリソースをリモートで監視できます。

SNMPを有効にするチェックボックスを選択して、スタンドアロンホストでSNMPを有効にします。**トラップレシーバーの追加**をクリックして、トラップレシーバーを1つ追加できます。SNMPサービスの設定方法の詳細については、SNMPでホストおよびdom0のリソースを監視するを参照してください。

注:

SNMPタブは、プール管理者ロールを持つユーザーのみが利用できます。

XenCenterで**SNMP**タブが表示されない場合、それはプールのメンバーがSNMPをサポートするXenServerのバージョンを実行していないためである可能性があります。プールのすべてのメンバーを最新バージョンのXenServerに更新してください。

コンソール

このタブでは、SSHおよびVNCコンソールセッションのアイドルタイムアウト、VM VNCコンソールセッションのアイドルタイムアウト、およびサーバーまたはVMごとに1つのVNCコンソー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ルセッションのみを許可するかどうかを設定できます。これらをプールレベルで構成すると、プール内のすべてのホストに設定が適用されます。

- **サーバーSSHおよびVNCコンソールセッションのコンソールアイドルタイムアウトを有効にする**をクリックし、値（分）を入力します。
  - 0 = セッションは期限切れになりません
  - ゼロ以外の値（例：60）= 指定された分数後にアイドルセッションを終了します
- **VM VNCコンソールセッションのアイドルタイムアウトを有効にする**をクリックし、値（分）を入力します。
  - 0 = セッションは期限切れになりません
  - ゼロ以外の値（例：60）= 指定された分数後にアイドルセッションを終了します

  注:

  アイドルタイムアウトに達すると、コンソールセッションは自動的に切断されます。

- サーバーまたはVMごとに一度に1つのVNCコンソールセッションのみを許可します。

  注:

  XenCenterがVNCコンソールセッションに接続しようとしたときに、コンソールセッションが制限されており、誰かがそのコンソールセッションを占有している場合、ユーザーに通知するダイアログが表示されます。

プールセキュリティ

ルートパスワードの変更

プールのルートパスワード（つまり、プール内のすべてのサーバーのルートパスワード）は、次の手順で変更できます。

1. **リソース**ペインで、プールまたはプール内の任意のサーバーを選択します。
2. **プール**メニューで、**ルートパスワードの変更**を選択します。

XenCenterがセッション間でサーバーのログイン資格情報を保存するように構成されている場合、新しいパスワードは記憶されます。詳細については、サーバー接続状態の保存を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ルートパスワードを変更する際は、プールシークレットをローテーションすることも推奨されます。

プールシークレットのローテーション

プールシークレットは、プール内のサーバー間で共有されるシークレットであり、サーバーがプールへのメンバーシップを証明できるようにします。プール管理者ロールを持つユーザーは、SSH経由でサーバーに接続する際にこのシークレットを表示できます。これらのユーザーのいずれかが組織を離れたり、プール管理者ロールを失ったりした場合は、プールシークレットをローテーションしてください。

プールのプールシークレットは、次の手順でローテーションできます。

1. **リソース**ペインで、プールまたはプール内の任意のサーバーを選択します。
2. **プール**メニューで、**プールシークレットのローテーション**を選択します。

プールシークレットをローテーションすると、ルートパスワードの変更も求められます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ホストとリソースプール(/ja-jp/xenserver/9/hosts-pools.html)

プールの削除

管理対象サーバーが1台のみ含まれるリソースプールは削除でき、そのサーバーは実質的にスタンドアロンサーバーになります。

プールを削除するには、**リソース**ペインでプールを選択し、**プール**メニューから**スタンドアロンサーバーにする**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ストレージの管理

XenServer のストレージリポジトリ (SR) は、仮想ディスクが格納されるストレージコンテナです。ストレージリポジトリと仮想ディスクはどちらも、XenServer とは独立して存在する永続的なディスク上のオブジェクトです。SR はリソースプール内のサーバー間で共有でき、内部および外部の両方の異なる種類の物理ストレージデバイス上に存在できます。これらのデバイスには、ローカルディスクデバイスと共有ネットワークストレージが含まれます。**新しいストレージリポジトリ**ウィザードを使用してストレージリポジトリを作成する際に、さまざまな種類のストレージを利用できます。選択したストレージの種類に応じて、XenCenter でいくつかの高度なストレージ機能を構成できます。これらの機能には以下が含まれます。

- **動的マルチパス**。Fibre Channel および iSCSI SR では、ラウンドロビンモードのロードバランシングを使用してストレージマルチパスを構成できます。詳細については、「ストレージマルチパス」を参照してください。
- **シンプロビジョニング**。NetApp および Dell EqualLogic SR では、使用するスペース管理の種類を選択できます。

  デフォルトでは、割り当てられたスペースはシックプロビジョニングされ、すべての仮想割り当て保証はファイラー上で完全に適用されます。この動作により、仮想ディスクの容量が不足することがなく、ディスクへの書き込み失敗が発生することもありません。

  シンプロビジョニングにより、物理容量は VM が必要とする時（書き込み時）にのみ割り当てられるため、ディスクをより有効に活用できます。この動作により、利用可能なストレージのオーバープロビジョニングとストレージ資産の最大限の活用が可能になります。
- **解放された領域の再利用**。シンプロビジョニングされたブロックベースの SR では、未使用の領域（たとえば、LUN 内の削除された VDI）を解放できます。ストレージリポジトリは、解放された領域を再利用できます。詳細については、「解放された領域の再利用」を参照してください。
- **ライブ LUN 拡張**。ライブ LUN 拡張により、VM のダウンタイムなしで LUN のサイズを増やすことができます。詳細については、「ライブ LUN 拡張」を参照してください。

サーバーまたはプールを構成する際、クラッシュダンプデータとサスペンドされた VM のイメージを保存するために使用されるデフォルト SR を指定します。この SR は、新しい仮想ディスクに使用されるデフォルト SR です。プールレベルでは、デフォルト SR は共有 SR である必要があります。リソースプール内で作成される新しい仮想ディスク、クラッシュダンプファイル、またはサスペンドされた VM イメージは、プールのデフォルト SR に保存されます。この動作により、物理

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サーバーの障害から回復するためのメカニズムが提供されます。スタンドアロンサーバーの場合、デフォルト SR はローカルまたは共有のいずれかです。スタンドアロンサーバーに共有ストレージを追加すると、その共有ストレージが自動的にそのサーバーのデフォルト SR になります。

XenServer xe CLI を使用して、VM、クラッシュダンプデータ、およびサスペンドされた VM に異なる SR を使用することが可能です。詳細については、「コマンドラインインターフェイス」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- ストレージ

新しいSRの作成

ストレージリポジトリを作成するには、ツールバーの**新規ストレージ**を選択します。

または、次のいずれかを実行します。

- 選択したプールまたはサーバーの**ストレージ**タブで、**新規SR**をクリックします。
- ストレージメニューで、**新規SR**をクリックします。

新規ストレージリポジトリウィザードの最初のページで、物理ストレージの種類を選択します。ウィザードの指示に従って、そのストレージタイプの構成プロセスを進めます。ウィザードで利用可能な設定は、最初のページで選択したストレージシステムベンダー/モデルによって異なります。

ブロックストレージ上にシンプロビジョニングされた共有GFS2 SRを作成するには、iSCSIまたはハードウェアHBAリポジトリタイプのいずれかを選択できます。ただし、シンプロビジョニングされた共有GFS2ブロックストレージの使用には、追加の要件と制約があります。このタイプのSRを使用する前に、シンプロビジョニングされた共有GFS2ブロックストレージを確認してください。

SR作成手順

新規ストレージリポジトリウィザードは、SRを作成するプロセスを案内します。

1. **タイプ**ページで、基になるストレージの種類を選択します。

   - NFS: NFS VHD SRでは、VMイメージは共有NFSターゲット上にシンプロビジョニングされたVHD形式ファイルとして保存されます。TCP/IP経由でNFS V4およびNFS V3をサポー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

トする既存のNFSサーバーは、仮想ディスクのストレージリポジトリとしてすぐに使用できます。NFS SRは共有可能であり、NFS VHDストレージリポジトリに仮想ディスクを持つVMは、同じリソースプール内のサーバー間で移行できます。

- iSCSI: ソフトウェアiSCSIは、open-iSCSIソフトウェアiSCSIイニシエーターを使用するか、サポートされているiSCSIホストバスアダプター（HBA）を使用することでサポートされます。
- ハードウェアHBA: ハードウェアHBA SRは、HBAを介してファイバーチャネル（FC）、FCoE（Fibre Channel over Ethernet）、または共有シリアルアタッチドSCSI（SAS）LUNに接続します。**新規ストレージリポジトリ**ウィザードを実行する前に、LUNを公開するために必要な構成を完了してください。ウィザードは利用可能なLUNを自動的にプローブし、見つかったすべてのLUNのリストを表示します。
- SMBストレージ: SMBサーバーは、Windows共有ファイルシステムインフラストラクチャの一般的な形式です。これらのサーバーは、仮想ディスクのストレージリポジトリ基盤として使用できます。SMBサーバー内の仮想マシンイメージは、SMBターゲット上にシンプロビジョニングされたVHDファイルとして保存されます。
- ソフトウェアFCoE（非推奨）: このオプションを使用すると、ソフトウェアFCoE SRを構成できます。ソフトウェアFCoEは、ハードウェアベンダーがFCoEオフロード対応ドライバーを接続し、ハードウェアベースのFCoEと同じ利点を得ることができる標準フレームワークを提供します。この機能により、高価なHBAを使用する必要がなくなります。新規ストレージリポジトリウィザードを使用してソフトウェアFCoEストレージを作成する前に、LUNをホストに公開するために必要な構成を手動で完了してください。
- Windowsファイル共有 (SMB/CIFS): このオプションを使用すると、Windows (SMB/CIFS) 共有として利用可能なISO形式のファイルとして保存されているCDイメージを処理できます。このタイプのSRは、たとえばVMインストールイメージなどの共有ISOライブラリを作成するのに役立ちます。
- NFS ISO: NFS ISO SRは、NFS共有として利用可能なISO形式のファイルとして保存されているCDイメージを処理します。このタイプのSRは、たとえばVMインストールイメージなどの共有ISOライブラリを作成するのに役立ちます。

2. **名前**ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードの進行中に選択した構成オプションの概要を含むSRの説明が自動的に生成されます。独自の記述を入力するには、**説明を自動生成**チェックボックスをオフにして、**説明**ボックスに入力します。
3. ストレージタイプとしてiSCSIまたはハードウェアHBAを選択した場合、ウィザードには**プロビジョニング**ページが表示されます。このSRに使用するプロビジョニングのタイプを選択します。利用可能なオプションは次のとおりです。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- シンプロビジョニング (GFS2)。このタイプのプロビジョニングは、GFS2クラスタープールでのみ利用可能です。GFS2クラスタリングの詳細については、「プールプロパティの変更」を参照してください。
- フルプロビジョニング (LVM)

4. **場所**ページで、基になるストレージアレイの場所を入力し、構成設定を行います。このページおよび以降のウィザードページで利用可能なオプションは、ウィザードの最初のページで選択したストレージのタイプによって異なります。
5. **完了**をクリックしてSRを作成し、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ストレージリポジトリの作成

NFSストレージ

NFSストレージリポジトリ (SR) では、VMイメージは共有NFSターゲット上にシンプロビジョニングされたVHD形式ファイルとして保存されます。既存のNFSサーバー (TCP/IP経由のNFSv3またはNFSv4のいずれかのバージョンをサポート) は、仮想ディスク用のSRとしてすぐに使用できます。

NFS SRは共有できるため、NFS VHDストレージリポジトリに仮想ディスクを持つ任意のVMは、同じリソースプール内のサーバー間で移行できます。

NFS SR上の仮想ディスクはスパースとして作成されるため、必要なすべての仮想ディスクのためにSR上に十分なディスク容量があることを確認してください。

NFS SRを構成するには

1. **新しいストレージリポジトリ**ウィザードを開きます。ツールバーの**新しいストレージ**をクリックします。
2. 物理ストレージタイプとして**NFS**を選択し、**次へ**をクリックします。
3. **名前**ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードがSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードを進めるにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、**SR設定に基づいて説明を自動生成**チェックボックスをオフにし、**説明**ボックスに入力します。続行するには**次へ**をクリックします。
4. **場所**ページで、NFSストレージターゲットの詳細を指定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **共有名** サーバーのIPアドレスまたはDNS名とパス。例: server:/path (serverはサーバーコンピューターのDNS名またはIPアドレス、pathはSRを格納するために使用されるディレクトリ)。NFSサーバーは、指定されたパスをプール内のすべてのサーバーにエクスポートするように構成されている必要があります。
- **詳細オプション** ここに追加の構成オプションを入力できます。
- **NFSバージョン** SRで使用されるNFSバージョンを選択します。

> **注:**
>
> 基盤となるストレージアレイがNFSv4をサポートしていない場合、NFSv3が共有をマウントするために使用されます。

5. **スキャン**をクリックして、指定した場所で既存のNFS SRをウィザードにスキャンさせます。
6. 新しいストレージリポジトリウィザードは、まだアタッチされていない既存のSRをすべて表示します。リストからSRを選択し、新しいストレージリポジトリとしてアタッチできます。「**既存のSRを再アタッチ**」をクリックしてリストからSRを選択し、「**完了**」をクリックします。
7. 既存のSRが見つからない場合は、「**完了**」をクリックして新しいSR構成を完了し、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- NFSストレージ

ソフトウェアiSCSIストレージ

ソフトウェアiSCSIは、open-iSCSIソフトウェアiSCSIイニシエーターを使用するか、サポートされているiSCSIホストバスアダプター（HBA）を使用することでサポートされます。

iSCSIストレージリポジトリでは、動的マルチパスがサポートされています。デフォルトでは、マルチパスはラウンドロビンモードの負荷分散を使用するため、通常の操作中は両方のルートでアクティブなトラフィックが発生します。XenCenterでストレージマルチパスを有効または無効にするには、サーバーの**プロパティ**ダイアログの**マルチパス**タブを使用します。詳細については、「ストレージマルチパス」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ソフトウェアiSCSI SRを作成するには

注:

以下の手順を実行する前に、プール内のすべてのホストに対してiSCSIイニシエーターIQNが適切に設定されていることを確認してください。詳細については、「サーバープロパティの変更」を参照してください。

1. **新しいストレージリポジトリ**ウィザードを開きます。ツールバーの**新しいストレージ**をクリックします。または、:
   - 選択したプールまたはサーバーの**ストレージ**タブで、**新しいSR**をクリックします。
   - **ストレージ**メニューで、**新しいSR**をクリックします。
   - **リソース**ペインで、サーバーまたはプールを選択し、右クリックしてショートカットメニューの**新しいSR**をクリックします。
2. 物理ストレージタイプとして**ソフトウェアiSCSI**を選択し、**次へ**をクリックします。
3. **名前**ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードがSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードを進むにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、**説明を自動生成**チェックボックスをオフにし、**説明**ボックスに入力します。**次へ**をクリックして続行します。
4. **プロビジョニング**ページで、使用するプロビジョニングのタイプを選択します。利用可能なオプションは次のとおりです。
   - シンプロビジョニング（GFS2）。このタイプのプロビジョニングは、GFS2クラスタープールでのみ利用可能です。GFS2クラスタリングの詳細については、「プールプロパティの変更」を参照してください。
   - フルプロビジョニング（LVM）

   続行するには、**次へ**をクリックします。
5. **場所**ページで、iSCSIターゲットの詳細を指定します。
   - **ターゲットホスト**: iSCSIターゲットのIPアドレスまたはDNS名。これは、コンマ区切りの値のリストにすることもできます。
   - **CHAPを使用**: iSCSIターゲットがCHAP認証を使用するように構成されている場合は、**CHAPを使用**チェックボックスをオンにして、詳細を入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

  - CHAPユーザー: ターゲットに接続するときに適用するCHAP認証ユーザー名資格情報。
  - CHAPシークレット: ターゲットに接続するときに適用するCHAP認証パスワード資格情報。

- **ターゲットIQN**: iSCSIターゲットIQNを指定するには、**IQNの検出**ボタンをクリックし、**ターゲットIQN**リストからIQNを選択します。

  重要:

  iSCSIターゲットとプール内のすべてのサーバーは、同じIQNを設定してはなりません。すべてのiSCSIターゲットとイニシエーターは一意のIQNを持つ必要があります。一意でないIQN識別子が使用された場合、データ破損が発生したり、ターゲットへのアクセスが拒否されたり、その両方が発生する可能性があります。

- **ターゲットLUN**: ストレージリポジトリを作成するLUNを指定するには、**LUNの検出**ボタンをクリックします。**ターゲットLUN**リストからLUNを選択します。

  各iSCSIストレージリポジトリは、単一のLUNに完全に含まれている必要があります。SRは複数のLUNにまたがることはできません。LUNにすでにSRが含まれている場合は、既存のSRを使用するか、既存のSRを新しいものに置き換えるかを選択します。既存のSRを置き換えると、ディスク上のデータはすべて破棄されます。

6. **完了**をクリックして、新しいSR構成を完了し、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ソフトウェアiSCSIストレージ

ハードウェア HBA ストレージ

ハードウェア HBA SR は、HBA を介してファイバーチャネル (FC)、Fibre Channel over Ethernet (FCoE)、または共有シリアル接続 SCSI (SAS) LUN に接続します。**新しいストレージリポジトリ**ウィザードを実行する前に、LUN を公開するために必要な構成を行います。ウィザードは利用可能な LUN を自動的にプローブし、検出されたすべての LUN のリストを表示します。

ファイバーチャネルおよび iSCSI ストレージリポジトリでは、動的マルチパスサポートが利用可能です。ストレージマルチパスを有効にするには、サーバーの**プロパティ**ダイアログで**マルチパス**タブを開きます。ストレージマルチパスを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ハードウェア HBA SR を作成するには

1. **新しいストレージリポジトリ**ウィザードを開くには、次のいずれかの操作を実行できます。
   - ツールバーで、**新しいストレージ**を選択します。
   - 選択したプールまたはサーバーの**ストレージ**タブで、**新しい SR**を選択します。
   - **ストレージ**メニューで、**新しい SR**を選択します。
   - **リソース**ペインで、サーバーまたはプールを選択し、右クリックしてショートカットメニューから**新しい SR**を選択します。
2. 物理ストレージタイプとして**ハードウェア HBA**を選択し、次に**次へ**を選択します。
3. **名前**ページで、新しい SR の名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードが SR の説明を生成します。この説明には、ウィザードを進めるにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、**説明を自動生成**チェックボックスをオフにし、**説明**ボックスに入力します。**次へ**をクリックして**プロビジョニング**ページに進みます。
4. **プロビジョニング**ページで、プロビジョニングタイプを選択します。利用可能なオプションは次のとおりです。
   - シンプロビジョニング (GFS2)。このプロビジョニングタイプは、GFS2 クラスタープールでのみ利用可能です。GFS2 クラスタリングの詳細については、プールプロパティの変更を参照してください。
   - フルプロビジョニング (LVM)

次へをクリックして**場所**ページに進みます。

ウィザードは利用可能なLUNをスキャンし、見つかったすべてのLUNを一覧表示するページを表示します。リストからLUNを選択し、「**作成**」をクリックします。

「

注:

」:

選択したLUNに既存のSRがある場合、警告メッセージが表示されます。詳細を確認し、次のいずれかのオプションを選択してください。

- 既存のものを使用するには、「**再アタッチ**」をクリックします。
- 既存のSRを削除して新しいSRを作成するには、「**フォーマット**」をクリックします。
- 別のLUNを選択したい場合は、「**キャンセル**」をクリックしてリストからLUNを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「**概要**」ページに新しいSRに関する情報が表示されます。情報を確認し、「**完了**」をクリックしてSR作成プロセスを完了します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ハードウェアHBAストレージ

SMBストレージ

SMBサーバーは、仮想ディスクのストレージリポジトリ基盤として使用できる、Windows共有ファイルシステムインフラストラクチャの一般的な形式です。SMBサーバー内のVMイメージは、SMBターゲット上にシンプロビジョニングされたVHDファイルとして保存されます。SMBサーバーは共有SRであるため、SMBサーバーに仮想ディスクを持つVMをプール内の任意のサーバーで起動できます。これらのVMはサーバー間で容易に移行できます。

注:

- SMBストレージは、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。
- SMBストレージを使用している場合、SMB SRをデタッチする前にストレージから共有を削除しないでください。

SMB SRを構成するには

1. **新しいストレージリポジトリ**ウィザードを開きます。ツールバーの**新しいストレージ**をクリックします。
2. 物理ストレージの種類として**SMB**を選択し、**次へ**をクリックします。
3. **名前**ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードがSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードの進行中に選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、**SR設定に基づいて説明を自動生成**チェックボックスをオフにし、**説明**ボックスに入力します。続行するには**次へ**をクリックします。
4. **場所**ページで、ストレージターゲットの詳細を指定します。
   - **共有名** サーバーのIPアドレスまたはDNS名とパス。例: `\\server\path`。ここで、`server`はサーバーコンピューターのDNS名またはIPアドレス、`path`はフォルダーまた

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

はファイル名です。SMBサーバーを構成して、指定されたパスをプール内のすべてのサーバーにエクスポートします。

- **ユーザー名とパスワード** (オプション) 別のユーザー名を使用してSMBサーバーに接続するには、ログインユーザー名とパスワードを入力します。

5. **スキャン**をクリックして、指定した場所にある既存のSMB SRをウィザードでスキャンします。
6. **新しいストレージリポジトリ**ウィザードには、まだアタッチされていない既存のSRがすべて表示されます。リストからSRを選択し、新しいストレージリポジトリとしてアタッチできます。**既存のSRを再アタッチ**をクリックしてリストからSRを選択し、**完了**をクリックします。
7. 既存のSRが見つからない場合は、**完了**をクリックして新しいSRの構成を完了し、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- SMBストレージ

ソフトウェアFCoEストレージ (非推奨)

ソフトウェアFCoEは、ハードウェアベンダーがFCoEオフロード対応NICを接続できる標準フレームワークを提供します。このフレームワークを使用することで、ハードウェアベースのFCoEと同じ利点が得られます。この機能により、高価なHBAを使用する必要がなくなります。ソフトウェアFCoEは、ネットワークバックエンドとしてOpen vSwitchおよびLinuxブリッジで使用できます。

ソフトウェアFCoEストレージを作成する前に、LUNをホストに公開するために必要な構成を完了してください。このプロセスには、FCoEファブリックの構成と、SANのパブリックワールドワイドネーム (PWWN) へのLUNの割り当てが含まれます。この構成を完了すると、利用可能なLUNはホストのCNAにSCSIデバイスとしてマウントされます。その後、SCSIデバイスを使用して、ローカルに接続されたSCSIデバイスであるかのようにLUNにアクセスできます。FCoEをサポートするための物理スイッチとアレイの構成については、ベンダーが提供するドキュメントを参照してください。ソフトウェアFCoEの詳細については、ストレージを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

- ソフトウェアFCoEは非推奨であり、将来のリリースで削除されます。
- FCoEファブリックを構成する際は、VLAN 0を使用しないでください。XenServer®ホストは、VLAN 0上のトラフィックを検出できません。
- ソフトウェアFCoEは、ネットワークバックエンドとしてOpen vSwitchおよびLinuxブリッジを使用する場合に利用できます。

ソフトウェアFCoE SRを作成するには

1. **新規ストレージリポジトリ**ウィザードを開くには、次のいずれかの操作を行います。
   - ツールバーで、**新規ストレージ**をクリックします。
   - 選択したプールまたはサーバーの**ストレージ**タブで、**新規SR**をクリックします。
   - **ストレージ**メニューで、**新規SR**をクリックします。
   - **リソース**ペインで、サーバーまたはプールを選択し、右クリックしてショートカットメニューの**新規SR**をクリックします。
2. ストレージタイプとして**ソフトウェアFCoE**を選択し、**次へ**をクリックします。
3. 新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードがSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードを進めるにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、**説明を自動生成**チェックボックスをオフにし、**説明**ボックスに入力します。**次へ**をクリックして**場所**ページに進みます。
4. XenCenter® は利用可能なLUNをプローブし、ホストに現在公開されているLUNのリストを表示します。このページには、サイズ、シリアル、ID、NICなど、LUNに関する詳細情報も表示されます。SRに割り当てるLUNを選択し、**次へ**をクリックします。

   注:

   ホストがLUNを見つけられない場合、エラーメッセージが表示されます。ハードウェア構成を確認し、SR作成プロセスを続行するために再試行してください。

5. 概要を確認し、**完了**をクリックしてSR作成プロセスを完了します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 8.4

- ソフトウェアFCoEストレージ（非推奨）

ISOストレージ

このタイプのSRは、共有ISOライブラリの作成に役立ちます。たとえば、VMインストールイメージのライブラリを作成するために使用します。ISO形式のファイルとして保存されたCDイメージを処理するために、以下のISO SRタイプが提供されています。

- **NFS ISO** SRタイプは、NFS共有として利用可能なISO形式のファイルとして保存されたCDイメージを処理します。
- **Windowsファイル共有 (SMB/CIFS)** SRタイプは、Windows (SMB/CIFS) 共有として利用可能なISO形式のファイルとして保存されたCDイメージを処理します。

NFSストレージに新しいISO SRを構成するには

1. **新しいストレージリポジトリ**ウィザードを開きます。ツールバーの**新しいストレージ**をクリックします。
2. **ISOライブラリ**の下で、ストレージタイプとして**NFS ISO**を選択し、**次へ**をクリックします。
3. **名前**ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードがSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードを進めるにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、**説明を自動生成**チェックボックスをオフにし、**説明**ボックスに入力します。

   続行するには**次へ**をクリックします。
4. **場所**ページで、ISOストレージターゲットの詳細を指定します。

   - **共有名**: 例: `server:/path`。ここで、`server`はサーバーコンピューターのDNS名またはIPアドレスであり、`path`はフォルダー名またはファイル名です。
   - **NFSバージョン**: SRが使用するNFSバージョンを選択します。

   > **注:**
   >
   > 基盤となるストレージアレイがNFSv4をサポートしていない場合、NFSv3が共有のマウントに使用されます。

5. **完了**をクリックして、新しいSR構成を完了し、ウィザードを閉じます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

CIFS/SMBストレージに新しいISO SRを構成するには

1. **新しいストレージリポジトリ**ウィザードを開きます。ツールバーの**新しいストレージ**をクリックします。
2. **ISOライブラリ**の下で、ストレージタイプとして**Windowsファイル共有 (SMB/CIFS)**を選択し、**次へ**をクリックします。
3. **名前**ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードはSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードを進めるにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の記述を入力するには、**説明を自動生成**チェックボックスをオフにし、**説明**ボックスに入力します。

   続行するには**次へ**をクリックします。
4. **場所**ページで、ISOストレージターゲットの詳細を指定します。

   - **共有名**: 例: `\\server\sharename`。ここで、`server`はサーバーコンピューターのDNS名またはIPアドレスであり、`sharename`はフォルダーまたはファイル名です。
   - **別のユーザー名を使用**: 別のユーザー名を使用してSMBサーバーに接続する場合は、このチェックボックスを選択し、ログインユーザー名とパスワードを入力します。
5. **完了**をクリックして、新しいSRの構成を完了し、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- NFSストレージ上のISOライブラリ
- CIFS/SMBストレージ上のISOライブラリ

シンプロビジョニングされた共有GFS2ブロックストレージ

シンプロビジョニングは、VDIの仮想サイズ全体を事前に割り当てるのではなく、データが仮想ディスクに書き込まれるときにディスクストレージスペースをVDIに割り当てることで、利用可能なストレージをより有効に活用します。シンプロビジョニングにより、共有ストレージアレイに必要なスペースを大幅に削減でき、それによって総所有コスト（TCO）も削減できます。

共有ブロックストレージのシンプロビジョニングは、特に次のような場合に役立ちます。

- スペース効率を向上させたい場合。イメージはスパースに割り当てられ、厚く割り当てられません。
- ストレージアレイでの1秒あたりのI/O操作数を減らしたい場合。GFS2 SRは、共有ブロックストレージでのストレージ読み取りキャッシュをサポートする最初のSRタイプです。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 複数の仮想マシンで共通のベースイメージを使用している場合。個々のVMのイメージは、通常、さらに少ないスペースしか使用しません。
- スナップショットを使用している場合。各スナップショットはイメージであり、各イメージは現在スパースです。
- 2 TiBを超えるサイズのVDIを作成したい場合。GFS2 SRは、最大16 TiBのサイズのVDIをサポートします。
- ストレージがNFSまたはSMB3をサポートせず、ブロックストレージのみをサポートしている場合。ストレージがNFSまたはSMB3をサポートしている場合は、GFS2の代わりにこれらのSRタイプを使用することをお勧めします。
- ストレージがLUNのシンプロビジョニングをサポートしていない場合。ストレージがLUNをシンプロビジョニングする場合、GFS2と組み合わせると問題が発生し、スペースが不足する可能性があります。GFS2とシンプロビジョニングされたLUNを組み合わせても、多くの追加の利点は得られず、推奨されません。シンプロビジョニングされたLUNでGFS2を使用しようとすると、XenCenter®は警告を表示します。

共有GFS2タイプは、iSCSIまたはHBA LUN上に作成されたファイルシステムとしてディスクを表します。GFS2 SRに保存されているVDIは、QCOW2イメージ形式で保存されます。

1. GFS2環境を計画する

データ損失のリスクなしに共有ブロックストレージでシンプロビジョニングの利点を提供するには、プールが十分な信頼性と接続性を提供する必要があります。GFS2を使用するリソースプール内のホストが相互に確実に通信できることが重要です。これを確実にするために、XenServer®はGFS2 SRでクラスター化されたプールを使用することを要求します。また、可能な限り多くの回復力と冗長性を提供するように環境を設計し、XenServer機能を構成することをお勧めします。

GFS2 SRで動作するようにXenServerプールを設定する前に、理想的なGFS2環境に関する以下の要件と推奨事項を確認してください。

- **推奨:** 冗長ネットワークインフラストラクチャを構成する。
- **推奨:** 専用のボンディングネットワークを作成する
- **必須:** GFS2クラスタプールをセットアップする
- **オプション** コントロール ドメインのメモリを増やす
- **推奨:** ストレージマルチパスを構成する
- **必須:** GFS2 SRを作成する

GFS2 SR を持つクラスタプールは、他の種類のプールや SR とは動作が異なります。詳細については、制約事項を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. 冗長なネットワークインフラストラクチャを構成する

ボンディングネットワークは、2つ以上のNICを結合して、ネットワークトラフィック用の単一チャネルを作成します。GFS2クラスタプールのトラフィックには、ボンディングネットワークを使用することをお勧めします。ただし、ボンディングネットワークをセットアップする前に、ネットワークハードウェア構成がボンディングネットワークの冗長性を促進することを確認してください。これらの推奨事項のうち、組織と環境にとって実現可能な限り多くを実装することを検討してください。

以下のベストプラクティスは、ネットワークスイッチに影響を与える可能性のあるソフトウェア、ハードウェア、または電源障害に対する回復力を高めます。

- ボンディングネットワークで使用するために、同じスイッチ上のポートだけでなく、個別の物理ネットワークスイッチが利用可能であることを確認してください。
- 個別のスイッチが、異なる独立した配電ユニット (PDU) から電力を供給されていることを確認してください。
- 可能であれば、データセンターで、PDUを電源フィードの異なるフェーズ、または異なる電力会社が提供するフィードに配置してください。
- 無停電電源装置を使用して、電源障害が発生した場合でもネットワークスイッチとサーバーが機能し続けるか、または正常にシャットダウンできるようにすることを検討してください。

3. 専用のボンディングネットワークを作成する

GFS2クラスタプール内のホストが相互に確実に通信できることを確認することが重要です。このプールトラフィック用にボンディングネットワークを作成すると、クラスタプールの回復力が高まります。

注記:

GFS2クラスターネットワークは、非管理VLAN上に配置できません。

ボンディングネットワークは、2つ以上のNIC間に結合を作成し、GFS2クラスタープールがクラスターハートビートトラフィックに使用できる単一の高性能チャネルを作成します。このボンディングネットワークを他のトラフィックに使用しないことを強くお勧めします。管理トラフィックに使用するプール用に、別のネットワークを作成してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注記:

プール内のホスト間にファイアウォールがある場合は、GFS2クラスターネットワーク上でホストが以下のポートを使用して通信できることを確認してください。

- TCP: 8892, 8896, 21064
- UDP: 5404, 5405

詳細については、XenServerが使用する通信ポートを参照してください。

GFS2クラスターネットワークとして使用するボンディングネットワークを作成するには：

1. 「**New Network**」ウィザードを開きます。
2. ウィザードの最初のページで、「**Bonded Network**」を選択し、「**Next**」をクリックします。
3. 「**Bond Members**」ページで、ボンディングするNICを選択します。NICを選択するには、リスト内のチェックボックスをオンにします。このリストでは、最大4つのNICを選択できます。NICの選択を解除するには、チェックボックスをオフにします。
4. 「**Bond mode**」で、ボンディングの種類を選択します。
   - アクティブ/アクティブボンディングを構成するには、「**Active-active**」を選択します。このボンディングでは、トラフィックはボンディングされたNIC間で負荷分散されます。ボンディング内の1つのNICに障害が発生した場合、サーバーのネットワークトラフィックは自動的に2番目のNICにルーティングされます。
   - アクティブ/パッシブボンディングを構成するには、「**Active-passive**」を選択します。このボンディングでは、トラフィックはボンディングされたNICのいずれか一方のみを通過します。このモードでは、アクティブなNICに障害が発生した場合（たとえば、ネットワーク接続が失われた場合）にのみ、2番目のNICがアクティブになります。
   - 「**送信元MACアドレスに基づくロードバランシングによるLACP**」を選択して、LACP ボンドを構成します。このボンドでは、送信元VMのMACアドレスに基づいて、送信NICが選択されます。同じホスト上に複数のVMがある環境でトラフィックを分散させるには、このオプションを使用します。仮想インターフェース（VIF）の数がNICの数よりも少ない場合、このオプションは適していません。トラフィックを複数のNICに分割できないため、ロードバランシングが最適ではないからです。
   - 「**送信元および宛先のIPとポートに基づくロードバランシングによるLACP**」を選択して、LACP ボンドを構成します。このボンドは、送信元IPアドレス、送信元ポート番号、宛先IPアドレス、および宛先ポート番号を使用して、NIC間でトラフィックを割り当てます。NICの数がVIFの数を超える環境でVMからのトラフィックを分散させるには、このオプションを使用します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「

注記：

」：

- XenCenterでLACPボンディングオプションを表示し、LACPボンドを作成するには、vSwitchをネットワークスタックとして構成します。また、スイッチはIEEE 802.3ad標準をサポートしている必要があります。
- アクティブ/アクティブおよびアクティブ/パッシブのボンドタイプは、vSwitchとLinuxブリッジの両方で利用できます。
- vSwitchがネットワークスタックの場合、2つ、3つ、または4つのNICをボンディングできます。ただし、Linuxブリッジがネットワークスタックの場合、ボンディングできるNICは2つのみです。 Linuxブリッジネットワークスタックは非推奨であり、将来のリリースで削除されます。

5. ジャンボフレームを使用するには、最大転送単位（**MTU**）を1500～9216の間の値に設定します。
6. 「**このネットワークを新しい仮想マシンに自動的に追加する**」チェックボックスを選択すると、**新しいVM**ウィザードを使用して作成された新しいVMに新しいネットワークが追加されます。
7. 「**完了**」をクリックして、新しいネットワークを作成し、ウィザードを閉じます。

プールコーディネーターでボンディングされたネットワークを作成した後、他のXenServerホストをプールに参加させると、ネットワークとボンドの情報は参加するサーバーに自動的に複製されます。

詳細については、「NICの構成」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「

注記：

」:

- XenCenterを使用してGFS2クラスターネットワークのIPアドレスを変更するには、クラスタリングとGFS2を一時的に無効にする必要があります。
- クラスターが稼働中でVMが実行されている間に、GFS2クラスターネットワークのボンディングを変更しないでください。この操作により、クラスター内のホストが強制的に再起動（フェンス）される可能性があります。
- GFS2クラスターネットワークでIPアドレスの競合（複数のホストが同じIPアドレスを持つ）があり、クラスター化が有効になっているホストが少なくとも1つ含まれている場合、クラスターは正しく形成されず、必要に応じてホストはフェンスできません。この問題を解決するには、IPアドレスの競合を解消してください。

4. GFS2クラスタープールをセットアップする

共有GFS2ストレージを使用するには、XenServerリソースプールがクラスター化されたプールである必要があります。GFS2 SRを作成する前に、プールでGFS2クラスタリングを有効にしてください。

GFS2クラスタープールを作成するには：

1. ツールバーの**新規プール**をクリックして、**新規プール**ダイアログボックスを開きます。
2. 新しいプールの名前とオプションの説明を入力します。名前は**リソース**ペインに表示されます。
3. **コーディネーター**リストからサーバーを選択して、プールコーディネーターを指名します。
4. **追加メンバー**リストから、新しいプールに配置するサーバーをさらに選択します。利用可能なすべての管理対象サーバーが一覧表示されます。サーバーが一覧にない場合は、**新しいサーバーの追加**をクリックしてリストに追加できます。管理対象サーバーが一覧にない場合、それはプールの要件に記載されているプールの参加要件の1つ以上を満たしていないためである可能性があります。
5. **プールの作成**を選択してプールを作成し、ダイアログボックスを閉じます。
6. **リソース**パネルでプールを選択し、その**一般**タブで**プロパティ**を選択します。**プールプロパティ**ウィンドウが開きます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

7. **GFS2クラスタリング**タブで、**GFS2クラスタリングを有効にする**を選択し、クラスターネットワークとして作成した専用のボンディングネットワークを選択します。
8. **OK**をクリックします。

5. コントロールドメインメモリを増やす

ホストのコントロールドメインメモリが不足している場合、プールでネットワークの不安定性が発生する可能性があります。ネットワークの不安定性は、GFS2 SRを持つクラスター化されたプールに問題を引き起こす可能性があります。

GFS2クラスタープールに適切な量のコントロールドメインメモリがあることを確認することが重要です。コントロールドメインメモリの量を変更する方法については、コントロールドメインメモリの変更を参照してください。

6. ストレージマルチパスを設定する

クラスター化されたプールとGFS2 SRの間でストレージマルチパスが設定されていることを確認してください。

マルチパスは、冗長性のために複数のパスを介してストレージトラフィックをストレージデバイスにルーティングします。すべてのルートは、通常の操作中にアクティブなトラフィックを持つことができ、その結果、スループットが向上します。

マルチパスを有効にする前に、以下の記述が真であることを確認してください。

- イーサネットまたはファイバースイッチが、ストレージサーバー上で複数のターゲットを利用できるように構成されていること。

  例えば、特定のポータルで`sendtargets`を照会されたiSCSIストレージバックエンドは、以下の例のように複数のターゲットを返します。

  ```
  iscsiadm -m discovery --type sendtargets --portal 192.168.0.161

  192.168.0.161:3260,1 iqn.strawberry:litchie

  192.168.0.204:3260,2 iqn.strawberry:litchie
  ```

  ただし、単一のターゲットのみを公開するアレイに対してiSCSIマルチパスを有効にするための追加構成を実行できます。詳細については、単一のターゲットのみを公開するアレイのiSCSIマルチパスを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- iSCSIの場合のみ、コントロール ドメイン (dom0) は、マルチパスストレージで使用される各サブネットにIPアドレスを持っていること。

  ストレージへの各パスに対してNICがあり、各NICにIPアドレスが構成されていることを確認すること。例えば、ストレージへの4つのパスが必要な場合、それぞれにIPアドレスが構成された4つのNICが必要です。
- iSCSIの場合のみ、すべてのiSCSIターゲットとイニシエーターが一意のIQNを持っていること。
- iSCSIの場合のみ、iSCSIターゲットポートがポータルモードで動作していること。
- HBAの場合のみ、複数のHBAがスイッチファブリックに接続されていること。
- 可能であれば、複数の冗長スイッチを使用すること。

マルチパスを有効にするには：

プール内のすべてのサーバーに対して、以下の手順を完了してください：

1. 「**リソース**」ペインでサーバーを選択し、**メンテナンスモード**にします。XenCenterがアクティブな仮想マシンを移行し、既存のストレージの接続を解除する間、短い遅延が発生します。サーバーがプールコーディネーターである場合、新しいプールコーディネーターが割り当てられる間、サーバーは切断され、一時的に「**リソース**」ペインから消えることがあります。サーバーがサーバーメンテナンスモードアイコン(
   
)とともに「**リソース**」ペインに再表示されたら、次のステップに進みます。
2. 「**全般**」タブで「**プロパティ**」を選択し、次に「**マルチパス**」タブを選択します。
3. マルチパスを有効にするには、「**このサーバーでマルチパスを有効にする**」チェックボックスをオンにします。マルチパスを無効にするには、チェックボックスをオフにします。
4. 「**OK**」をクリックして新しい設定を適用し、ダイアログボックスを閉じます。XenCenterが新しいストレージ構成を保存する間、短い遅延が発生します。
5. サーバーをメンテナンスモードから解除します。「**リソース**」ペインでサーバーを選択し、右クリックして「**メンテナンスモードの終了**」を選択します。

プール内のすべてのホストでマルチパスを有効にしてください。すべてのケーブル接続、およびiSCSIの場合はサブネット構成が、各ホストの対応するNICと一致している必要があります。

7. GFS2 SRを作成する

リソースプール内のすべてのXenServerホストから見えるiSCSIまたはHBA LUN上に、共有GFS2 SRを作成します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「

注:

」:

GFS2でシンプロビジョニングされたLUNを使用することはお勧めしません。GFS2でシンプロビジョニングされたLUNを使用しようとすると、XenCenterは警告を表示します。

ただし、この構成を選択する場合は、LUNにXenServerが書き込みを行うのに十分なスペースが常に確保されていることを確認する必要があります。
クラスター化されたプールには、最大62個のGFS2 SRを追加できます。

ソフトウェアiSCSI SRを作成するには

「

注:

」:

以下の手順を実行する前に、プール内のすべてのホストでiSCSIイニシエーターIQNが適切に設定されていることを確認してください。詳細については、「サーバープロパティの変更」を参照してください。

1. 「**新規ストレージリポジトリ**」ウィザードを開きます。ツールバーの「**新規ストレージ**」をクリックします。または、:
   - 選択したプールまたはサーバーの「**ストレージ**」タブで、「**新規SR**」をクリックします。
   - 「**ストレージ**」メニューで、「**新規SR**」をクリックします。
   - 「**リソース**」ペインで、サーバーまたはプールを選択し、右クリックしてショートカットメニューの「**新規SR**」をクリックします。
2. 物理ストレージの種類として「**ソフトウェアiSCSI**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。
3. 「**名前**」ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードがSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードを進めるにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、「**説明を自動生成**」チェックボックスをオフにして、「**説明**」ボックスに入力します。「**次へ**」をクリックして続行します。
4. 「**プロビジョニング**」ページで、「**シンプロビジョニング (GFS2)**」を選択します。
5. 「**場所**」ページで、iSCSIターゲットの詳細を指定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **ターゲットホスト**: iSCSIターゲットのIPアドレスまたはDNS名。これは、コンマ区切りの値のリストにすることもできます。
- **CHAPを使用**: これはGFS2 SRではサポートされていません。このオプションは選択しないでください。
- **ターゲットIQN**: iSCSIターゲットIQNを指定するには、「**IQNの検出**」ボタンをクリックし、「**ターゲットIQN**」リストからIQNを選択します。

  重要:

  iSCSIターゲットとプール内のすべてのサーバーは、同じIQNを設定してはなりません。すべてのiSCSIターゲットとイニシエーターは一意のIQNを持つ必要があります。一意でないIQN識別子が使用された場合、データ破損が発生したり、ターゲットへのアクセスが拒否されたり、その両方が発生する可能性があります。

- **ターゲットLUN**: ストレージリポジトリを作成するLUNを指定するには、「**LUNの検出**」ボタンをクリックします。「**ターゲットLUN**」リストからLUNを選択します。

  各iSCSIストレージリポジトリは、単一のLUNに完全に含まれている必要があります。SRは複数のLUNにまたがることはできません。LUNにすでにSRが含まれている場合は、既存のSRを使用するか、既存のSRを新しいものに置き換えるかを選択します。既存のSRを置き換えると、ディスク上の既存のデータはすべて破棄されます。

6. 「**完了**」をクリックして、新しいSR構成を完了し、ウィザードを閉じます。

ハードウェアHBA SRを作成するには

1. 「**新規ストレージリポジトリ**」ウィザードを開くには、次のいずれかの操作を実行します。
   - ツールバーで、「**新規ストレージ**」を選択します。
   - 選択したプールまたはサーバーの「**ストレージ**」タブで、「**新規SR**」を選択します。
   - 「**ストレージ**」メニューで、「**新規SR**」を選択します。
   - 「**リソース**」ペインで、サーバーまたはプールを選択し、右クリックしてショートカットメニューから「**新規SR**」を選択します。
2. 物理ストレージの種類として「**ハードウェアHBA**」を選択し、「**次へ**」を選択します。
3. 「**名前**」ページで、新しいSRの名前を入力します。デフォルトでは、ウィザードがSRの説明を生成します。この説明には、ウィザードを進むにつれて選択する構成オプションの概要が含まれます。独自の説明を入力するには、「**説明を自動生成**」チェックボックスをオフにし、「

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

説明」ボックスに入力します。「**次へ**」をクリックして、「**プロビジョニング**」ページに進みます。

4. 「**プロビジョニング**」ページで、「**シンプロビジョニング (GFS2)**」を選択します。
5. 「**次へ**」をクリックして、「**場所**」ページに進みます。
6. ウィザードは利用可能なLUNをスキャンし、見つかったすべてのLUNを一覧表示するページを表示します。リストからLUNを選択し、「**作成**」をクリックします。

   「

   注:

   」:

   選択したLUNに既存のSRがある場合、警告メッセージが表示されます。詳細を確認し、次のいずれかのオプションを選択してください。

   - 既存のものを使用するには、「**再アタッチ**」をクリックします。
   - 既存のSRを削除してSRを作成するには、**フォーマット**をクリックします。
   - 別のLUNを選択したい場合は、**キャンセル**をクリックして、リストからLUNを選択します。

7. **概要**ページに新しいSRに関する情報が表示されます。情報を確認し、**完了**をクリックしてSR作成プロセスを完了します。

制約事項

共有GFS2ストレージには現在、以下の制約事項があります。

- 他のシンプロビジョニングされたSRと同様に、GFS2 SRの使用率が100%に達すると、VMからのそれ以降の書き込みは失敗します。これらの失敗した書き込みは、VM内の障害、データ破損の可能性、またはその両方につながる可能性があります。
- SRの使用率が80%に達すると、XenCenterはアラートを表示します。このアラートについてGFS2 SRを監視し、表示された場合は適切な処置を講じてください。GFS2 SRでは、使用率が高いとパフォーマンスが低下します。SRの使用率を80%未満に保つことをお勧めします。
- GFS2 SR上にVDIがあるVMの場合、ストレージ移行（ライブまたはオフライン）を伴うVM移行はサポートされていません。また、別の種類のSRからGFS2 SRにVDIを移行することもできません。
- FCoEトランスポートはGFS2 SRではサポートされていません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- Trim/unmapはGFS2 SRではサポートされていません。
- CHAPはGFS2 SRではサポートされていません。
- 2 TiBを超えるVDIをVHDまたはOVA/OVFとしてエクスポートすることはできません。ただし、2 TiBを超えるVDIを持つVMはXVA形式でエクスポートできます。
- GFS2でシンプロビジョニングされたLUNを使用することはお勧めしません。ただし、この構成を選択する場合は、XenServerが書き込みを行うのに十分なスペースが常にLUNにあることを確認する必要があります。
- GFS2 SRでSAN重複排除を使用することはお勧めしません。ただし、この構成を選択する場合は、XenServerが書き込みを行うのに十分なスペースが常に確保されていることを確認するために、SAN使用率の適切な外部監視を使用する必要があります。
- GFS2ファイルシステムは100 TiBを超えることはできません。
- プールには62を超えるGFS2 SRを含めることはできません。
- GFS2クラスタープールは、プールあたり最大16ホストのみをサポートします。
- GFS2クラスターのトラフィックには、少なくとも2つの異なるネットワークスイッチを使用するボンディングされたネットワークを使用することを強くお勧めします。このネットワークを他の目的で使用しないでください。
- XenCenterを使用してGFS2クラスターネットワークのIPアドレスを変更するには、クラスタリングとGFS2を一時的に無効にする必要があります。
- クラスターが稼働中でVMが実行されている間に、GFS2クラスターネットワークのボンディングを変更しないでください。この操作により、クラスター内のホストが強制的に再起動（フェンス）される可能性があります。
- GFS2クラスタリングが有効になっているホストが少なくとも1つ含まれるGFS2クラスターネットワークでIPアドレスの競合（複数のホストが同じIPアドレスを持つ）が発生した場合、クラスターは正しく形成されず、ホストは必要に応じてフェンスできません。この問題を解決するには、IPアドレスの競合を解消してください。

関連ドキュメント

XenServer現行リリース

- GFS2クラスタープール
- シンプロビジョニングされた共有GFS2ブロックストレージ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ストレージのプロパティ

ストレージのプロパティの表示

XenServer® プール内のすべてのストレージリポジトリ (SR) の詳細は、プールの **ストレージ** タブから表示できます。**リソース** ペインでサーバーまたはプールを選択し、**ストレージ** タブをクリックします。このタブには、ローカルおよび共有ストレージリポジトリに関する情報が表示されます。この情報には、名前、説明、ストレージの種類、使用状況、SR のサイズ、および仮想割り当てが含まれます。

個々のストレージリポジトリに関する詳細情報を表示するには、**リソース** ペインで SR リポジトリを選択します。メインペインには、**全般**、**ストレージ**、**検索** の各タブが表示されます。

全般

全般 タブの **全般** セクションには、ストレージリポジトリに関する情報が表示されます。この情報には、名前、説明、SR に適用されているタグ、SR が存在するフォルダー、ストレージの種類、SR のサイズ、SCSI ID、および SR の UUID が含まれます。

> **注**
>
> GFS2 SR の場合、サイズは「*a* GB 使用済み (合計 *b* GB、*c* GB 割り当て済み)」の形式で表示されます。このステートメントの値は、次の意味を持ちます。

- *c* は、SR 内で割り当てられ使用されている領域です。(`du` コマンドを実行した場合、これが表示される値です。)
- *b* は、LUN の実際の合計サイズです。
- *a* は「使用済み」領域です。この値は、SR 上のファイルの合計ファイルサイズであり、スパースファイルから解放されたブロックは考慮されません。これらの解放されたブロックは、他の VM で使用できるようになります。(`df` コマンドを実行した場合、これが表示される値です。)

  GFS2 SR では、VM ディスクは QCOW2 形式で保存されます。これは、シンプロビジョニングとスパースの両方に対応しています。VM からデータブロックが削除されると、VM ディスクファイル内の関連するデータブロックは SR ファイルシステムに解放され、未割り当てとしてマークされますが、ファイルサイズは変更されません。この動作により、*a* の値と *c* の値の間に不一致が生じる可能性があります。

ステータス セクションには、SR の状態と、それがプール内のサーバーに接続されているかどうかが表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

マルチパス セクションには、SR とプール内のサーバー間でマルチパスがアクティブであるかどうかが表示されます。

ストレージ

「**ストレージ**」タブには、ストレージリポジトリにある仮想ディスクが一覧表示されます。各ディスクについて、テーブルにはディスク名、説明、サイズ、仮想マシン名、および変更ブロック追跡が有効になっているかどうかが表示されます。

検索

「**検索**」タブを使用すると、オブジェクトタイプ、フォルダー、属性に基づいてクエリを構築できます。詳細については、「リソースの検索」を参照してください。

SRプロパティの変更

「**プロパティ**」ダイアログボックスを使用すると、SRの詳細を変更し、フォルダー、タグ、カスタムフィールドを使用してリソースを整理することで、SRを効率的に管理できます。また、ストレージスループットが特定の制限を超えた場合にアラートを設定することもできます。

SRの「**プロパティ**」ダイアログボックスには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- 「**リソース**」ペインでサーバーまたはプールを選択し、「**ストレージ**」タブをクリックします。これにより、プール内のローカルストレージと共有ストレージが一覧表示されます。リストからSRを選択し、「**プロパティ**」をクリックします。
- 「**リソース**」ペインでストレージリポジトリを選択します。SRの「**一般**」タブで、「**プロパティ**」をクリックします。

一般

「**一般**」タブでは、SRの名前と説明を変更し、そのフォルダーとタグを管理できます。

- SRの名前を変更するには、「**名前**」ボックスに新しい名前を入力します。
- 説明を変更するには、「**説明**」ボックスに新しいテキストを入力します。
- SRをフォルダーに配置するか、別のフォルダーに移動するには、「**フォルダー**」ボックスの「**変更**」をクリックしてフォルダーを選択します。詳細については、「フォルダーの使用」を参照してください。
- SRにタグを付けたり、タグを解除したり、タグを作成したり削除したりするには、「タグの使用」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

カスタムフィールド

カスタムフィールドを使用すると、SRに関する追加情報を定義または変更できます。このタブは、ストレージリポジトリを検索し、効果的に整理するのに役立ちます。詳細については、「カスタムフィールドの使用」を参照してください。

アラート

アラートタブでは、物理ブロックデバイス (PBD) 上の合計読み取りおよび書き込みストレージスループットアクティビティが指定された制限を超えたときにアラートを設定できます。**ストレージスループットアラートを生成**をチェックし、アラートをトリガーするストレージスループットと時間しきい値を設定します。

> **注：**
>
> 物理ブロックデバイス (PBD) は、特定のXenServerホストと接続されたSR間のインターフェイスを表します。PBD上の合計読み取り/書き込みSRスループットアクティビティが指定したしきい値を超えると、PBDに接続されたホストでアラートが生成されます。他のホストアラートとは異なり、このアラートは関連するSRで設定する必要があります。

読み取りキャッシュ

読み取りキャッシュは、同じソースからクローンされた複数のVMをホストするNFS、EXT3/EXT4、SMB、またはGFS2 SRのパフォーマンスを向上させます。次の場合には、読み取りキャッシュを無効にすることをお勧めします。

- ファイルベースのSRがない場合
- クローンされたVMがない場合
- パフォーマンス上のメリットがない場合

読み取りキャッシュタブでは、NFS、EXT3/EXT4、またはSMB SRで読み取りキャッシュを有効または無効にすることを選択できます。

GFS2 SRの場合、**読み取りキャッシュ**タブは表示されず、読み取りキャッシュを無効にすることはできません。

詳細については、「ストレージ読み取りキャッシュ」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- ストレージ

SRの削除

XenCenter® を使用すると、ストレージリポジトリを一時的または永続的に削除できます。

- **デタッチ**。ストレージリポジトリをデタッチすると、ストレージデバイスとプールまたはサーバー間の関連付けが解除され、その仮想ディスクにアクセスできなくなります。仮想ディスクの内容と、仮想マシンが仮想ディスクにアクセスするために使用するメタ情報は保持されます。**デタッチ**は、たとえばメンテナンスのためにストレージリポジトリを一時的にオフラインにする必要がある場合に使用できます。デタッチされたSRは、後で再アタッチできます。詳細については、「SRの再アタッチ」を参照してください。
- **忘却**。SRを忘却すると、SR上の仮想ディスクの内容は保持されます。ただし、仮想マシンをその仮想ディスクに接続するために使用される情報は完全に削除されます。SRは**リソース**ペインから削除されます。

  忘却操作は元に戻すことはできません。
- **破棄**。SRを破棄すると、SRの内容が完全に削除され、SRは**リソース**ペインから削除されます。

  破棄操作は元に戻すことはできません。SRを破棄する方法については、「ストレージ」を参照してください。

注記:

- 現在実行中の仮想マシンの仮想ディスクが含まれている場合、ストレージリポジトリを削除することはできません。
- SMBストレージを使用している場合、SMB SRをデタッチする前に、ストレージから共有を削除しないでください。

ストレージリポジトリをデタッチするには

1. **リソース**ペインでSRを選択し、**ストレージ**タブをクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. このストレージリポジトリに現在仮想ディスクがアタッチされている仮想マシンをメモします。
3. このストレージリポジトリにディスクがある仮想マシンが実行中でないことを確認します。
4. **リソース**ペインでSRを選択し、次のいずれかを実行します。
   - 「**リソース**」ペインのショートカットメニューで右クリックし、「**デタッチ**」をクリックします。
   - 「**ストレージ**」メニューで、「**デタッチ**」をクリックします。
5. 確認のため、「**はい**」をクリックします。

注:

ストレージリポジトリがデタッチされている間は、そのストレージリポジトリに仮想ディスクが接続されている仮想マシンを起動できません。

ストレージリポジトリを忘却するには

iSCSIなどの特定の種類のストレージリポジトリは、SRを忘却しようとする前にデタッチする必要があります。

重要:

SRの忘却操作は元に戻せません。SR上の仮想ディスクにVMを接続するために使用される情報は、完全に削除されます。

SRを忘却するには、次の手順を実行します。

1. 「リソース」ペインでSRを選択し、次のいずれかを実行します。
   - 「**リソース**」ペインのショートカットメニューで右クリックし、「**忘却**」をクリックします。
   - 「**ストレージ**」メニューで、「**忘却**」をクリックします。
2. 確認のため、「**はい、忘却**」をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ストレージリポジトリの管理

SRの再アタッチ

デタッチされたストレージデバイスは、どのプールまたはサーバーとも関連付けられていませんが、その上に保存されているデータは保持されます。管理対象サーバーにSRを再アタッチする場合は、SRを追加するときと同じ方法でストレージ構成情報を提供します。

デタッチされたSRを再アタッチするには

1. **リソース**ペインでデタッチされたSRを選択し、次のいずれかを実行します。
   - 右クリックして、**リソース**ペインのショートカットメニューから**ストレージリポジトリの再アタッチ**を選択します。
   - **ストレージ**メニューで、**ストレージリポジトリの再アタッチ**を選択します。
2. SRを追加するときと同じ方法で、必要な構成情報を入力します。参照:
   - NFS VHDストレージ
   - ソフトウェアiSCSIストレージ
   - ハードウェアHBAストレージ
   - ISOストレージ
3. **完了**をクリックしてSR構成を完了し、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- ストレージリポジトリの管理

ストレージマルチパス

動的マルチパスサポートは、Fibre Channel および iSCSI ストレージリポジトリで利用できます。デフォルトでは、マルチパスはラウンドロビンモードの負荷分散を使用するため、通常動作中は両方のルートでアクティブなトラフィックが発生します。XenCenter® でストレージマルチパスを有効または無効にするには、サーバーの ダイアログの タブを使用します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

マルチパスを有効にする前に:

- ストレージサーバーで複数のターゲットが利用可能であることを確認します。
- サーバーをメンテナンスモードにする必要があります。これにより、変更が加えられる前に、影響を受けるストレージリポジトリに仮想ディスクを持つ実行中の仮想マシンがすべて移行されます。
- プール内の各ホストでマルチパスを設定する必要があります。すべてのケーブル接続と、iSCSI の場合は、各ホストの対応する NIC のサブネット構成が一致している必要があります。(たとえば、すべての NIC は同じサブネットを使用するように構成する必要があります。詳細については、「IP アドレスの構成」を参照してください。)

マルチパスの詳細については、「マルチパス」を参照してください。

1 つの LUN に対して最大 16 のパスを使用できます。

マルチパスを有効にするには

1. ペインでサーバーを選択し、 にします。XenCenter がアクティブな仮想マシンを移行し、既存のストレージをアンプラグするまで、しばらく時間がかかります。サーバーがプールコーディネーターである場合、新しいプールコーディネーターが割り当てられる間、切断され、一時的に ペインから消えることがあります。サーバーがサーバーメンテナンスモードアイコンとともに ペインに再表示されたら、次の手順に進みます。

2. タブで を選択し、次に タブを選択します。
3. マルチパスを有効にするには、 チェックボックスをオンにします。マルチパスを無効にするには、チェックボックスをオフにします。
4. をクリックして新しい設定を適用し、ダイアログボックスを閉じます。XenCenter が新しいストレージ構成を保存するまで、しばらく時間がかかります。
5. サーバーをメンテナンスモードから解除します。 ペインでサーバーを選択し、右クリックしてを選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ストレージマルチパス

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ストレージ読み取りキャッシュ

読み取りキャッシュは、外部ディスクからの最初の読み取り後、ホストの空きメモリ内にデータがキャッシュされるため、VMのディスクパフォーマンスを向上させます。これは、多くのVMが単一のベースVMからクローンされる状況で、ディスクから読み取られるブロックの数を劇的に減らすため、パフォーマンスを大幅に向上させます。たとえば、読み取りキャッシュは、Citrix Virtual Desktops Machine Creation Services™ (MCS) 環境でパフォーマンスを向上させます。

このパフォーマンスの向上は、データがメモリにキャッシュされるため、ディスクから複数回読み取られる必要がある場合に常に確認できます。このパフォーマンスの違いは、大量のI/Oが発生する状況で発生するサービス低下において最も顕著です。たとえば、次のとおりです。

- 多数のエンドユーザーが短期間に起動する場合（ブートストーム）
- 多数のVMが同時にマルウェアスキャンを実行するようにスケジュールされている場合（アンチウイルスストーム）

注:

読み取りキャッシュを最も効率的に使用するには、XenServerコントロール ドメイン (dom0) に割り当てられるメモリ量を増やす必要がある場合があります。dom0メモリの増加については、「コントロール ドメイン メモリの変更」を参照してください。

XenCenter® は、VMの**全般**タブに読み取りキャッシュのステータスを表示します。

注:

ストレージ読み取りキャッシュは、XenServer® Premium Editionのお客様にご利用いただけます。

読み取りキャッシュは、以下の条件が満たされている場合、デフォルトで有効になっています。

- XenServerホストがXenServer Premium Editionのライセンスを取得していること。
- VMがNFS、EXT3/EXT4、またはGFS2などのファイルベースのSR上のVDIに接続されていること。読み取りキャッシュは、他のSRタイプでは使用できません。
- VMが高速クローンまたはスナップショットから作成されているか、VMが読み取り専用VDIに接続されていること。

読み取りキャッシュの詳細については、「ストレージ読み取りキャッシュ」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

読み取りキャッシュを無効にするには

NFS、EXT3/EXT4、またはSMB SRの読み取りキャッシュは、**プロパティ**ダイアログで無効にできます。

1. **リソース**ペインで、読み取りキャッシュを無効にするSRを選択します。
2. **全般**タブで、**プロパティ**をクリックします。
3. **プロパティ**ダイアログで、**読み取りキャッシュを有効にする**の選択を解除します。
4. **OK**をクリックします。

GFS2 SRの場合、**読み取りキャッシュ**タブは表示されず、読み取りキャッシュを無効にすることはできません。

読み取りキャッシュを有効にするには

SRの読み取りキャッシュは、**プロパティ**ダイアログで有効にできます。

1. **リソース**ペインで、読み取りキャッシュを有効にするSRを選択します。
2. **全般**タブで、**プロパティ**をクリックします。
3. **プロパティ**ダイアログで、**読み取りキャッシュを有効にする**を選択します。
4. **OK**をクリックします。
5. 変更された設定の恩恵を受けたいVMをすべて再起動します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ストレージ読み取りキャッシュ

PVS-アクセラレーター

XenServer PVS-Accelerator機能は、各XenServerホストでPVS読み取り要求をキャッシュすることにより、パフォーマンスを向上させます。この機能は、XenServerとCitrix Provisioning (PVS) を使用しているお客様にご利用いただけます。PVSは、Citrix Virtual Apps and Desktopsにおけるイメージ管理とホスティングで広く利用されているソリューションです。PVS-Acceleratorを活用するには、Citrix Provisioning 7.12以降のXenServerを使用してください。

PVS-Acceleratorを有効にする

PVS-Acceleratorを有効にするには、次の2つの主要な手順が必要です。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. XenServerでPVS-Acceleratorを構成します。
2. PVSでキャッシュ構成を完了します。

XenServerでPVS-Acceleratorを構成する

XenCenterまたはxe CLIを使用して、XenServerでPVS-Acceleratorを構成できます。次のセクションでは、XenCenterの手順について説明します。xe CLIを使用してPVS-Acceleratorを構成する方法については、XenServer製品ドキュメントを参照してください。

XenCenter®を使用してPVS-Acceleratorを構成します。

1. XenCenterで、プールまたはスタンドアロンホストを選択し、**PVS**タブを選択します。

   *PVS-Accelerator Supplemental Pack*をインストールし、Premium Editionライセンスを割り当てると、XenCenterのプールレベル（プールがない場合はホストレベル）に**PVS**タブが表示されます。**PVS**タブには、プール内で実行されているすべてのVMの読み取りキャッシュステータスの概要が表示されます。
2. **PVS-Acceleratorの構成**を選択します。
3. **PVS-Acceleratorの構成**ダイアログで、**キャッシュ構成の追加**を選択してPVSサイトを追加します。

   a. **サイト名**フィールドにPVSサイトの名前を入力します。

   b. プール内の各ホストについて、使用するキャッシュを指定します。

   - **メモリのみ**: コントロール ドメイン メモリで、指定されたキャッシュ サイズまで使用します。このオプションでは、コントロール ドメインに追加のメモリを割り当てる必要があります。コントロール ドメインにメモリを割り当てる方法については、「コントロール ドメインのメモリの変更」を参照してください。
   - **ストレージリポジトリ (SR)**: SR 上で指定されたキャッシュサイズまで使用します。また、利用可能なコントロール ドメイン メモリをベストエフォート型のキャッシュ層として暗黙的に使用します。

   重要:

   - メモリのみもSRも指定されていない場合、読み取りキャッシュはアクティブ化されません。
   - PVS-Acceleratorは、メモリのみ、またはディスクとメモリの組み合わせを利用するように設計されています。構成の選択に関わらず、システムパフォーマンスの低下を確実に防ぐため、コントロール ドメインに割り当てるメモリ量を増やしてください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 読み取りレイテンシーの増加やパフォーマンスの低下につながる頻繁なディスクアクセスを避けるため、ホストごとに少なくとも4 GBのコントロール ドメイン メモリを割り当てることをお勧めします。詳細については、「コントロール ドメインのメモリの変更」を参照してください。
- アクティブに使用するvDiskバージョンごとに、少なくとも5 GBのキャッシュ領域を割り当てることをお勧めします。

4. **OK**をクリックします。新しいPVSサイトと選択したキャッシュストレージ構成がXenServerサーバーに追加されます。

PVSでキャッシュ構成を完了する

XenServerサーバーでPVS-Acceleratorを構成した後、Citrix Provisioning ConsoleまたはPowerShell Snap-In CLIを使用して、新しく作成したサイトのキャッシュ構成を完了します。詳細については、「Citrix Provisioning Documentation」を参照してください。この手順が完了すると、**PVS-Accelerator configuration**ダイアログで**View PVS Servers**をクリックして、新しいサイト用に構成されたPVSサーバーのリストを表示できます。

キャッシュ操作

PVS-AcceleratorでVMを起動すると、VMのキャッシュステータスがVMの**PVS**タブと**General**タブに表示されます。次の表に、これらのタブに表示されるステータスメッセージを示します。

PVS-ACCELERATORステータス	説明
初期化済み	PVS-Acceleratorが起動し、キャッシュの準備ができています。VMが起動したときにキャッシュがこの状態のままである場合、PVSサーバーのIPアドレスが正しく構成されていないか、VMがプライマリネットワークインターフェースを使用してPVSサーバーと通信していないことを意味します。
キャッシュ中	PVS-Acceleratorが動作しています。
停止済み	PVS-AcceleratorはVMに対して実行されていません。VMが実行されていない場合、またはキャッシュが十分に構成されていない場合、キャッシュはこの状態のままになります。
互換性のないライトキャッシュモード	VMがPVSサーバーに変更を永続化するように構成されているため、キャッシュは行われませ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

PVS-ACCELERATORステータス	説明
	ん。VMタイプが「Production」または「Test」であり、vDiskが「Standard Image」アクセスモードであることを確認してください。
互換性のないプロトコルバージョン	PVSサーバーのバージョンが正しくありません。Provisioning Services 7.12以降を使用していることを確認してください。

PVS-Accelerator機能は以下をキャッシュします。

- vDiskからの**読み取り**（書き込みまたはライトキャッシュからの読み取りは除く）
- **イメージバージョンに基づく**。複数のVMが同じイメージバージョンを使用している場合、キャッシュされたブロックを共有します。
- **任意のライトキャッシュタイプ**を持つデバイス
- アクセスモードが**Standard Image**に設定されているvDisk。Private Imageモードに設定されているvDiskとはキャッシュは互換性がありません。
- タイプが**Production**またはTestとしてマークされているデバイス。タイプが**Maintenance**としてマークされているデバイスはキャッシュされません。

注記:

- PVS-Accelerator は XenServer Premium Edition のお客様にご利用いただけます。
- XenCenter は、ホストレベルのパフォーマンスタブにさまざまな PVS-Accelerator のパフォーマンスグラフを表示します。これらのパフォーマンスグラフは、キャッシュ操作に関する詳細な洞察を提供します。
- PVS-Accelerator 機能は OVS の機能を使用するため、ネットワークバックエンドとして Linux Bridge (非推奨) を使用するホストでは利用できません。
- PVS-Accelerator は、キャッシュされた VM の最初の仮想ネットワークインターフェース (VIF) で動作します。したがって、キャッシュを機能させるには、最初の VIF を使用して PVS ストレージネットワークを接続してください。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- PVS-アクセラレーター

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

解放された領域の再利用

XenCenterの**解放された領域を再利用**オプションを使用すると、ストレージアレイによってシンプロビジョニングされたLUN上の未使用ブロックを解放できます。解放された領域は、アレイによって再利用されます。**解放された領域を再利用**操作は、アレイ上でシンプロビジョニングされたLVMベースのSR（iSCSI、Fibre Channel、またはLocal LVM）でのみ利用可能です。NFSやEXT3/EXT4などのファイルベースのSRでは、手動での領域再利用操作が不要なため、この機能は有効になっていません。

解放された領域を再利用するには：

1. **インフラストラクチャ**ビューを選択し、SRを含むホストまたはプールを選択します。
2. **ストレージ**タブを選択します。
3. リストからSRを選択し、**解放された領域を再利用**を選択します。

   注：

   解放された領域の再利用は集中的な操作であり、ストレージアレイのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。この操作は、アレイで領域の再利用が必要な場合にのみ実行してください。Citrix®は、この作業をアレイのピーク需要時間外にスケジュールすることを推奨します。

4. 操作を確定するには、**はい**をクリックします。この操作のステータスを表示するには、**通知**、次に**イベント**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ストレージリポジトリの管理

ライブLUN拡張

容量要件を満たすために、XenServer® ホストにプロビジョニングされたLUNのサイズを増やすために、ストレージアレイに容量を追加する必要があるかもしれません。ライブLUN拡張を使用して、SRをデタッチしたり、ホストやVMをオフラインにしたりすることなく、LUNのサイズを増やし、新しく得られた領域を使用します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

警告：

LUNを縮小または切り詰めることはできません。ストレージアレイでLUNサイズを縮小すると、データ損失につながる可能性があります。

LUNのサイズを拡張するには：

1. 追加のストレージをストレージアレイに追加します。
2. **インフラストラクチャ**ビューを選択し、SRをクリックします。
3. プロパティペインで**ストレージ**タブをクリックします。
4. **再スキャン**をクリックします。この操作によりSRが再スキャンされ、追加の容量が追加され、利用可能になります。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ストレージリポジトリの管理

Corosync アップグレードウィザード

概要

アップグレードウィザードは、GFS2 クラスタリングタブまたは設定ページからアクセスできます。

開始する前に

ウィザードはまず、Corosync 2 から Corosync 3 へのアップグレードに必要な自動化された手順の概要を表示します。

1. 影響を受けるすべての仮想マシンを表示するには、**影響を受けるVMを表示**をクリックします。
2. 影響を受けるすべてのストレージリポジトリを表示するには、**影響を受けるSRを表示**をクリックします。

事前チェック

ウィザードは、高可用性 (HA) が現在有効になっている場合、自動的に無効にします。

XenCenter は各ステップを自動的に実行し、リアルタイムで進行状況を表示します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

続行する前に、事前チェックが完了し、影響を受けるすべての仮想マシンがシャットダウンされたままであることを確認してください。

準備ができたら、**次へ**をクリックしてアップグレードプロセスを開始します。

アップグレードプロセス

アップグレード中は、XenCenter を閉じたり、ホストを再起動したりしないでください。進行状況バーには、各自動アクションのステータスが表示されます。

アップグレードが完了すると、XenCenter は結果の概要と、プロセス中に実行されたすべてのアクションを表示します。

ウィザードが以前に高可用性 (HA) を無効にしていた場合、アップグレードが正常に完了すると XenCenter は自動的にそれを再有効化します。

仮想マシンは、シャットダウン前に実行されていたのと同じホストで再起動します。 概要を確認し、完了を承認したら、「完了」をクリックしてウィザードを閉じます。

エラーが発生した場合は、**再試行**ボタンをクリックするか、GFS2 ストレージが Corosync 3 に正常にアップグレードされたら**完了**をクリックします。

注記:

HA がウィザードによって無効にされた場合、アップグレードが正常に完了した場合にのみ再有効化されます。

アップグレード後、VM はシャットダウン前に実行されていたのと同じホストで再起動します。

アップグレード中の XenCenter RPU の動作

XenServer 8.4 からそれ以降のバージョンにアップグレードする場合、ローリングプールアップグレード (RPU) ウィザードは、Corosync のステータスに基づいて追加のチェックを実行します。

ケース	条件	アクション
1	Corosync 3 がアクティブ	アップグレードを続行します。
2	Corosync 2 がアクティブで、GFS2 クラスタリングは有効	ウィザードは「GFS2 クラスタリングを無効にする」を介

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ケース	条件	アクション
	ですが、SR はアタッチされていません	してクラスタリングの無効化を許可します
3	Corosync 2 がアクティブで、GFS2 クラスタリングは有効で、SR がアタッチされています	Corosync 3 がインストールされるまで、アップグレードはブロックされます

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMの作成

仮想マシン (VM) は、ホスト物理コンピューター上で動作するソフトウェアコンテナです。VMは、それ自体が物理コンピューターであるかのように動作します。VMは、オペレーティングシステムに加えて、CPU、メモリ (RAM)、ネットワークリソース、およびソフトウェアアプリケーションで構成されます。

テンプレートは、ファイルにカプセル化された仮想マシンであり、新しいVMを迅速に展開することを可能にします。各テンプレートには、インストールメタデータが含まれています。このメタデータは、特定のゲストオペレーティングシステムと、最適なストレージ、CPU、メモリ、および仮想ネットワーク構成でVMを作成するために必要なセットアップ情報です。

XenCenter®でVMを作成するには、いくつかの異なる方法があります。

- 新規VMウィザードは、テンプレートまたはスナップショットからVMを作成するプロセスを段階的に案内します。このウィザードを使用すると、オペレーティングシステム、CPU、ストレージ、ネットワーク、およびその他のパラメーターを構成できます。
- **新規VM**ウィザードをバイパスして、必要なVM構成パラメーターをすべて指定するカスタムVMテンプレートに基づいて、*インスタントVM*を作成できます。XenCenterで事前に構成されたテンプレートを選択し、右クリックしてテンプレートからインスタントVMを選択するだけです。この無人VMインストールモードは、多数の同一VMを展開する場合に役立ちます。
- 既存のVMをコピー (または「クローン」) できます。
- 以前にエクスポートされたVMをインポートできます。

XenServer® VMツール

XenServerはVMを完全に仮想化し、ゲストオペレーティングシステムに変更を加えることなく、仮想化対応ハードウェア上でほぼネイティブのプロセッサー速度で実行できるようにします。

Linux VMの場合、最新のプロセッサーにおけるx86仮想コンテナテクノロジーを利用することで、パフォーマンスがさらに向上します。これらのVMは、ネットワークおよびストレージ操作のためにカーネルに組み込まれた準仮想化 (PV) ドライバーを使用し、PVモードで効率的なアクセスを提供します。

I/Oドライバー (PVドライバーとも呼ばれる) は、WindowsおよびLinux VMの両方でディスクおよびネットワークパフォーマンスを最適化するために不可欠です。すべての新しいVMにこれらのド

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ライバーをインストールすることをお勧めします。Windows VMの場合、XenCenterの**新規VM**ウィザードでVMテンプレートを選択する際に構成可能な設定であるWindows Updateを通じてドライバーの更新を管理できます。Windows Updateを通じてI/Oドライバーの更新を有効にする方法の詳細については、VM作成手順の概要を参照してください。

I/Oドライバーと管理エージェントの組み合わせは、総称してXenServer VM Toolsと呼ばれます。VM移行や履歴パフォーマンスデータ追跡などの主要な機能は、これらのツールがインストールされている場合にのみ利用できます。詳細なインストール手順については、XenServer VM Toolsのインストールを参照してください。

テンプレートの使用

XenServerサーバーには、いくつかの異なるテンプレートが付属しています。これらのテンプレートには、新しいVMに特定のゲストオペレーティングシステムをインストールするために必要なすべてのさまざまな構成設定が含まれています。また、適切なゲストオペレーティングシステム、メモリ、CPU、ストレージ、およびネットワーク設定で構成された独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、それらを使用してVMを作成することもできます。このリリースでサポートされているテンプレート/オペレーティングシステムのリスト、およびWindowsとLinuxでのさまざまなインストールメカニズムに関する詳細情報については、ゲストOSのサポートを参照してください。

製品に付属のXenServerテンプレートと、作成したカスタムテンプレートは、**リソース**ペインで表示できます。

- XenServerテンプレートアイコン(/en-us/xencenter/media/000-vm-template-h32bit-16.png) XenServerテンプレート
- カスタムテンプレートアイコン(/en-us/xencenter/media/000-user-template-h32bit-16.png) カスタムテンプレート

リソースペインにXenServerテンプレートとカスタムテンプレートを表示するかどうかを制御できます。

- XenCenterナビゲーションペインで、**インフラストラクチャ**を選択します。

  このパネルには、管理対象リソースのツリービューが**リソース**ペインに表示されます。
- 標準のXenServer VMテンプレートを表示するには、**表示**メニューで**XenServerテンプレート**を選択します。XenServerテンプレートを非表示にするには、もう一度選択してチェックマークを外します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- カスタムVMテンプレートを表示するには、**表示**メニューで**カスタムテンプレート**を選択します。カスタムテンプレートを非表示にするには、もう一度選択してチェックマークを外します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

新しいVMの作成

新しいVMウィザードは、新しい仮想マシン (VM) を段階的に作成するプロセスを案内します。**新しいVM**ウィザードを開始するには、ツールバーで**新しいVM**をクリックします。

または、次のいずれかを実行します。

- **Ctrl+N**を押します。
- **VM**メニューで、**新しいVM**をクリックします。
- **リソース**ペインでサーバーを選択し、右クリックしてショートカットメニューの**新しいVM**をクリックします。

ウィザードを使用すると、CPU、ストレージ、ネットワークリソースのさまざまな構成パラメーターを調整して、新しいVMを思い通りに構成できます。ウィザードの最初のページで選択するVMテンプレートに応じて、その後のページに表示されるVM構成オプションが若干異なります。表示されるインストールオプションは、各ゲストオペレーティングシステムに合わせて調整されています。詳細については、任意のウィザードページで**ヘルプ**をクリックするか、**F1**を押してください。

ロールベースのアクセス制御 (RBAC) が実装されているXenServer環境では、**新しいVM**ウィザードは、VMを作成するのに十分な権限を持つロールを持っていることを確認します。RBACロールに十分な権限がない場合（たとえば、VMオペレーターまたは読み取り専用ロールの場合）、VMの作成を続行できません。詳細については、「RBACの概要」を参照してください。

VM作成手順の概要

新しいVMウィザードは、VMを作成するために次の手順を案内します。

1. VMテンプレートを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

まず、適切なVMテンプレートを選択します。テンプレートには、特定のゲストオペレーティングシステムと、最適なストレージ、CPU、メモリ、および仮想ネットワーク構成を持つVMを作成するためのセットアップ情報が含まれています。さまざまなテンプレートが提供されており、独自のカスタムテンプレートを追加できます。詳細については、「テンプレートとBIOSのオプション」を参照してください。

組み込みのWindowsテンプレートを選択する場合、**Windows UpdateによるI/Oドライバーの配信を許可する**チェックボックスを有効または無効にすることで、Windows Updateを介したXenServer VM ToolsのI/Oドライバーの更新を管理するオプションがあります。

カスタムテンプレートまたはスナップショットの場合、**新しいVM**ウィザードは`has-vendor-device`フィールドの現在の値を表示します。このフィールドは、Windows Updateを介したPVドライバーの配信を許可するためにtrueに設定する必要があります。

> **注:**
>
> Windows VM を Citrix Provisioning ターゲットとして使用する場合、またはリセットオンブートフラグを有効にして使用する場合は、自動更新メカニズムを使用できません。そのような場合は、**Windows Update による I/O ドライバーの提供を許可する** チェックボックスが無効になっていることを確認してください。詳細については、「Citrix Provisioning ターゲットまたはリセットオンブートマシンの設定」を参照してください。

2. 新しい VM に名前を付けます。

   次に、新しい VM に名前を付け、オプションで説明を追加します。VM 名は XenCenter 内で一意性がチェックされないため、意味のある覚えやすい名前を付けることで、さまざまな VM を管理しやすくなります。詳細については、「VM 名と説明」を参照してください。

3. オペレーティングシステムのインストールメディア、ブートモード、および vTPM を接続するかどうかを指定します。

   Windows オペレーティングシステムは、ISO ライブラリ、物理 DVD/CD ドライブのインストールメディア、またはネットワークブートからインストールできます。Linux オペレーティングシステムは、ネットワークインストールリポジトリ、ISO ライブラリ、または物理 DVD/CD ドライブのインストールメディアからインストールできます。

   一部のゲストオペレーティングシステムを UEFI モードで起動できるようになりました。詳細については、「OS インストールメディア」を参照してください。

   Windows 11 VM の場合、vTPM を接続する必要があります。**新しい vTPM を作成して接続する** オプションが選択されており、選択解除することはできません。vTPM をサポートする他の

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VM オペレーティングシステムの場合、**新しい vTPM を作成して接続する** を選択するかどうかを選択できます。vTPM は、VM 内のアプリケーションに TPM 2.0 準拠の API を提供します。TPM 1.2 はサポートされていません。

4. ホームサーバーを選択します。

   この手順はオプションですが、新しい VM のホームサーバーを選択できます。XenServer は、可能な場合は常に指定されたホームサーバーで VM を起動しようとします。詳細については、「ホームサーバー」を参照してください。VM にホームサーバーを割り当てた後で、VM をグループに割り当てた場合、ホームサーバーが優先されます。

5. VM グループを構成します。

   VM をグループに入れることを選択できます。グループは、VM が起動、再開、またはホストから退避される際の配置に影響します。ホームサーバーの設定は、グループの配置ルールよりも優先されます。既存のグループを選択するか、**新しい VM グループ...** をクリックして新しいグループを作成できます。詳細については、「VM グループ」を参照してください。

6. CPU とメモリを構成します。

   - **Windows VM の場合**: 新しい VM に仮想 CPU (vCPU) を割り当て、vCPU に提示するソケットあたりのコア数を指定し、メモリを割り当てることができます。これらの設定は、新しい VM の作成後に調整できます。詳細については、「CPU とメモリの構成」を参照してください。
   - **Linux VM の場合**: VM に割り当てる vCPU の最大数を指定し、vCPU に提示するソケットあたりのコア数を指定し、vCPU の初期数を設定し、メモリを割り当てることができます。これらの設定は、新しい VM の作成後に調整できます。詳細については、「CPU とメモリの構成」を参照してください。
   - すべての VM で、ソケットあたりのコア数が 2 のべき乗であることを確認してください。そうでない場合、予期しない動作が発生する可能性があります。詳細については、「既知の問題」を参照してください。
   - vCPUの数は、ソケットあたりのコア数で割り切れる必要があります。

7. グラフィックス処理ユニット (GPU) を割り当てます。

   新しいVMウィザードでは、専用GPUまたは1つ以上の仮想GPUをVMに割り当てるよう求められます。この機能により、VMはGPUの処理能力を使用できるようになり、CAD/CAM、GIS、医療画像処理アプリケーションなどのハイエンド3Dプロフェッショナルグラフィックスアプリケーションを強化できます。詳細については、GPUを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

> **注:**
>
> GPU仮想化は、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。詳細については、XenServerライセンスについてを参照してください。

8. ストレージを構成します。

   次のステップは、新しいVMの仮想ディスクを構成することです。ウィザードは自動的に最低1つの仮想ディスクを構成し、選択したテンプレートにはそれ以上が含まれる場合があります。詳細については、仮想ディスクの構成を参照してください。

9. ネットワークを構成します。

   新しいVMをプロビジョニングするプロセスの最後のステップは、ネットワークを構成することです。各VMに最大4つの仮想ネットワークインターフェイスを構成できます。詳細については、仮想ネットワークインターフェイスの構成を参照してください。

10. 新しいVMの作成を完了します。

    ウィザードの最終ページで、選択したすべての構成オプションを確認できます。「VMを自動的に起動する」チェックボックスをオンにすると、新しいVMが作成時に自動的に起動します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

VMテンプレートとBIOSオプション

XenServer®サーバーには、さまざまなVMテンプレートが付属しています。これらのテンプレートは、さまざまな方法でVMを作成するために使用できます。各テンプレートには、インストールメタデータが含まれています。これは、最適なストレージ、CPU、メモリ、および仮想ネットワーク構成を持つ特定のゲストOSでVMを作成するために使用される情報です。

XenServerがサポートするゲストオペレーティングシステムの完全なリストについては、ゲストオペレーティングシステムの要件を参照してください。

適切なゲストオペレーティングシステム、メモリ、CPU、ストレージ、およびネットワーク設定で構成された独自のカスタマイズされたテンプレートを作成することもできます。詳細については、新しいテンプレートの作成を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

BIOSオプションを選択する

XenServer VMは、BIOS汎用またはBIOSカスタマイズのいずれかになります。

BIOS汎用: VMには汎用XenServer BIOS文字列があります。

BIOSカスタマイズ: VMはBIOSのカスタマイズを2つの方法でサポートします。すなわち、ホストBIOS文字列のコピーとユーザー定義BIOS文字列です。

- ホストBIOS文字列のコピー: VMには、プール内の特定のサーバーのBIOS文字列のコピーがあります。
- ユーザー定義BIOS文字列: ユーザーは、CLI/APIを使用して、選択したBIOS文字列にカスタム値を設定できます。

注:

VMの起動時にBIOS文字列が設定されていない場合、標準のXenServer BIOS文字列が挿入され、VMはBIOS汎用になります。

詳細については、高度なVM情報を参照してください。

新しいVMウィザードを使用してVMを作成するときに、同じプール内のOEMサーバーからBIOS文字列を新しいVMにコピーできます。この操作により、必要に応じて、後でVMにReseller Option Kit (BIOSロック) のWindows OEMバージョンをインストールできます。BIOS文字列をコピーするOEMサーバーは、新しいVMのホームサーバーとして指定されます。

BIOSカスタマイズされたVMは、同じBIOS文字列を持つサーバー、および異なるBIOS文字列を持つサーバーに移行、インポート、エクスポートできます。

重要:

インストールするBIOSロックされたオペレーティングシステムの使用を規定するあらゆるEULAを遵守するのは、お客様の責任です。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- 仮想マシン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VM名と説明

新しいVMの名前を**名前**ボックスに入力します。好きな名前を選択できますが、説明的な名前が最適です。複数のVMに同じ名前を付けることは避けるのが望ましいですが、必須ではありません。XenCenter®はVM名の一意性制約を強制しません。

意味のある名前を付けることで、異なるVMをより簡単に管理できます。例えば、VM名に以下の情報のいずれかを含めます。

- VMのオペレーティングシステム (Windows 10 64ビット)
- VM上のアプリケーションソフトウェア (XenServer Web Self-Service v1.0 (ビルド 9057))
- VMの役割 (`db-server` 、Outlook Server、テスト)。

スペースを含む名前に引用符を使用する必要はありません。

ウィザードのこのページで、VMのより長い説明を含めることもできます（オプション）。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

OSインストールメディア

「**新規VM**」ウィザードの「**インストールメディア**」ページで利用できるOSインストールメディアと起動モードのオプションは、ウィザードの最初のページで選択したOSまたはテンプレートによって異なります。

OSインストールメディアオプション

ISOライブラリまたはDVDドライブからインストール

テンプレート: WindowsおよびLinuxゲスト

ISOライブラリまたはDVDドライブからインストールを選択し、リストからISOイメージまたはDVDドライブを選択します。

使用したいISOイメージがここに表示されていない場合は、**新規ISOライブラリ**をクリックし、「**新規ストレージリポジトリ**」ウィザードを使用してISO SRを作成します。ISO SRの作成後、ここにある利用可能なISOライブラリのリストから選択できます。

ここにISOイメージがリストされていない場合は、外部NFSまたはSMB/CIFS共有ディレクトリを作成して、ISOをサーバーで利用できるようにする必要があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ネットワークから起動

テンプレート: WindowsおよびLinuxゲスト

ゲストにPXE/ネットワークブートを使用するには、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、新しいVMの起動順序でネットワークが最上位に配置されます。

起動モード

VMの起動モードを選択します。VMを作成するときに起動モードを指定します。VMを最初に起動した後は、起動モードを変更することはできません。

- **BIOSブート**を選択して、レガシーBIOSモードでVMを起動します。
- 「**UEFI Boot**」を選択して、VMをUEFIモードで起動します。
- 「**UEFI Secure Boot**」を選択して、VMをUEFI Secure Bootモードで起動します。

最も安全なブートモードがデフォルトで選択されています。新しいVMで利用可能なブートオプションのみを選択できます。

UEFIブートおよびUEFI Secure Bootは、特定のオペレーティングシステムでのみサポートされています。詳細については、「ゲストUEFIブートとセキュアブート」を参照してください。

vTPM

オプション「**Create and attach a new vTPM**」を使用して、vTPMをUEFIブートモードのゲストにアタッチできます。

- Windows 11 VMにはvTPMが必要です。このオプションは選択されており、選択解除することはできません。Windows 10からWindows 11にアップグレードする場合は、オペレーティングシステムをWindows 11にアップグレードする前に、Windows 10 VMにvTPMをアタッチしてください。
- vTPMは、VM内のアプリケーションにTPM 2.0準拠のAPIを提供します。TPM 1.2はサポートされていません。

詳細については、「vTPM」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ホームサーバー

ホームサーバーとは、プール内のVMにリソースを提供するサーバーです。VMにホームサーバーを指名すると、XenServer®は可能であれば常にそのサーバーでVMを起動しようとします。XenServerがそのサーバーでVMを起動できない場合、同じプール内の代替サーバーが自動的に選択されます。

- **新規VM**ウィザードでVMのホームサーバーを指名するには、**このサーバーにVMを配置**を選択し、リストからサーバーを選択します。
- ホームサーバーを指名したくない場合は、**このVMにホームサーバーを割り当てない**をクリックします。VMは、利用可能な最適なサーバーのリソースを使用します。

BIOSをカスタマイズしたVMを作成している場合、BIOS文字列をコピーしたOEMサーバーが、新しいVMのホームサーバーとして自動的に選択されます。

VMのプロパティダイアログボックスから、VMのホームサーバー構成を変更できます。詳細については、「VMプロパティの変更」を参照してください。

ワークロードバランシング（WLB）と仮想GPUに関する考慮事項

ホームサーバーの指名が有効にならないシナリオを以下に示します。

- ワークロードバランシング（WLB）が有効になっているプールでは、指名されたホームサーバーは、VMの起動、再起動、再開、または移行には使用されません。代わりに、WLBはXenServerリソースプールメトリックを分析し、最適化を推奨することで、VMに最適なサーバーを指名します。
- VMに1つ以上の仮想GPUが割り当てられている場合、ホームサーバーの指名は有効になりません。代わりに、サーバーの指名はユーザーが設定した仮想GPU配置ポリシーに基づきます。詳細については、「GPU配置ポリシー」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- VMの配置

VMグループ

VMをVMグループに割り当てることができます。VMグループは、グループの配置ルールに従ってプール内のホストで起動されます。利用可能な配置タイプは「アンチアフィニティ」と「ノーマル」です。

ノーマル配置のVMグループには、特別な動作はありません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アンチアフィニティ配置のVMグループには、以下のルールがあります。

1. 特定のグループ内のすべてのVMが実行されている唯一の場所となるホストは存在しません。
2. 各ホストにおけるグループ内のVMの数は、可能な限り均等になります。

アンチアフィニティ配置ルールを持つVMグループ内のVMがホストから起動または退避されると、XenServer®は、VMグループがこれらのアンチアフィニティ配置ルールに可能な限り厳密に従うことができるホストにVMを配置することを選択します。配置ルールに違反せずにVMの起動またはホストからの退避を実行できない場合、XenServerは配置ルールに従うことよりもアクションの完了を優先します。

アンチアフィニティルールに違反した場合、アラートが送信されます。アンチアフィニティグループ内の実行中のすべてのVMが単一のホストに存在する場合にアラートが生成されます。この状況が変化すると、アラートはクリアされます。グループ内のVMが1つだけ実行されている場合、またはグループ内のVMが実行されていない場合は、このアラートは生成されません。詳細については、「XenCenterアラート」を参照してください。

以下のシナリオでは、VMグループの配置ルールは適用されません。

- Workload Balancing (WLB) が有効になっているプールでは、VMグループはVMの起動、再起動、再開、または移行には使用されません。代わりに、Workload BalancingはXenServerリソースプールメトリックを分析し、最適化を推奨することで、VMに最適なサーバーを指名します。これらの推奨事項により、VMアンチアフィニティルールに違反する可能性があります。
- VMにホームサーバーが定義されている場合、この設定はVMグループの設定よりも優先されます。

VMグループを使用する際の考慮事項:

- プールごとにサポートされるアンチアフィニティグループは5つのみです。
- VMグループに属するVMをクローンする場合、新しいVMは同じVMグループに追加されません。新しいVMのVMグループは明示的に設定する必要があります。
- VMを以前のスナップショットに復元しても、VMは現在のVMグループ設定を保持します。この設定は、スナップショットを作成したときの値には変更されません。
- VMをエクスポートしても、VMグループ設定は保持されません。このVMを再度インポートしても、VMグループには追加されません。インポートしたVMには、明示的にVMグループを設定する必要があります。

新しいVMウィザードの**VMグループ**タブで、VMを追加するVMグループを選択できます。このタブでは、新しいグループを作成するオプションも提供されます。VMは1つのVMグループにのみ追加できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VM作成後、以下のいずれかの場所でVMのグループを変更できます。

- XenCenter®の**リソース**ペインで、VMを右クリックし、**VMグループに割り当て**を選択できます。サブメニューには利用可能なVMグループが表示され、新しいVMグループを作成するオプションも提供されます。VMの現在のVMグループにはチェックマークが付いています。
- XenCenterの**リソース**ペインで、プールを右クリックし、**VMグループの管理**を選択できます。詳細については、VMグループの管理を参照してください。
- XenCenterのメインメニューで、**VM > VMグループに割り当て**を選択できます。サブメニューには利用可能なVMグループが表示され、新しいVMグループを作成するオプションも提供されます。VMの現在のVMグループにはチェックマークが付いています。
- XenCenterのメインメニューで、**プール > VMグループの管理**を選択できます。詳細については、VMグループの管理を参照してください。

XenCenterで**VMグループの管理**ダイアログボックスを使用して、VMグループを管理できます。詳細については、VMグループの管理を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM配置

VMのCPUとメモリの割り当て

VMを作成する際、仮想CPUを割り当て、vCPUに提示するソケットあたりのコア数を指定し、VMの初期メモリリソースを設定できます。新しいVMが作成された後であれば、いつでもこれらの設定を変更できます。

ソケットあたりのコア数が2のべき乗であることを確認してください。そうでない場合、予期せぬ動作が発生する可能性があります。詳細については、「既知の問題」を参照してください。vCPUの数は、ソケットあたりのコア数で割り切れる必要があります。

XenCenter®の**vCPUホットプラグ**機能により、実行中のLinux VMに割り当てられたvCPUの数を、VMを再起動することなく動的に増やすことができます。

オプション

vCPUの数

(Windows VMの場合)

新しいVMに割り当てる仮想CPU (vCPU) の数を入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMから最高のパフォーマンスを引き出すには、VMに割り当てられるvCPUの数が、サーバー上の物理CPUの数を超えてはなりません。

注記：

この値は、必要に応じて後で変更できます。詳細については、「VMプロパティの変更：CPUとメモリ」を参照してください。VMでサポートされるvCPUの最大数については、「XenServer構成制限」を参照してください。

vCPUの最大数

(Linux VMの場合)

新しいVMに割り当てる仮想CPU (vCPU) の最大数をメニューから選択します。

VMから最高のパフォーマンスを引き出すには、VMに割り当てられるvCPUの数が、サーバー上の物理CPUの数を超えてはなりません。

注記:

必要に応じて、この値は後で変更できます。詳細については、「VMプロパティの変更：CPUとメモリ」を参照してください。

トポロジ

vCPUのトポロジを指定します。

デフォルトでは、XenServer®は各vCPUにソケットあたり1つのコアを割り当てます。たとえば、4つのvCPUを割り当てると、ソケットあたり1つのコアを持つ4つのソケットとして表示されます。この設定を変更するには、**トポロジ**メニューをクリックして、リストからオプションを選択します。

ソケットあたりのコア数が2の累乗であることを確認してください。そうでない場合、予期しない動作が発生する可能性があります。詳細については、「既知の問題」を参照してください。vCPUの数は、ソケットあたりのコア数で割り切れる必要があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注記:

ソケットあたりのコア数の設定は、サーバーに存在するソケットの数とインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。一部のオペレーティングシステムには、CPUの数に関する制限があります。このオプションを設定する際は、オペレーティングシステムの要件に従ってください。

vCPUの初期数

（Linux VMの場合）

このオプションは、VMに割り当てられたvCPUの初期数を表示します。デフォルトでは、この数は前の手順で設定された最大vCPU数と同じです。リストから選択して、VMに割り当てられるvCPUの初期数を変更できます。

メモリ

VMに割り当てるメモリ量を入力します。

XenServerテンプレートは、一般的なVM構成を提供し、ゲストオペレーティングシステムのタイプに基づいてメモリの適切なデフォルト値を設定します。新しいVMに最初に割り当てるメモリ量を決定する際に、以下の考慮事項が影響する可能性があります。

- VM上で実行されるアプリケーションの種類。
- 同じメモリリソースを使用する他の仮想マシン。
- 仮想マシンと並行してサーバー上で実行されるアプリケーション。

新しいVMが作成された後、VMの**CPUとメモリ**タブでメモリ割り当てを調整できます。このタブでは、同じプール内のVM間でメモリを動的に再割り当てできるように、動的メモリ制御 (DMC) を有効にすることもできます。詳細については、「VMメモリの構成」(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-memory.html)を参照してください。

VMの電源状態のシナリオ

次の表に、3つのVM電源状態と、それらのさまざまなvCPUシナリオを示します。

VM電源状態	最大VCPU数	初期VCPU数	現在のVCPU数
実行中	増減不可	該当なし	増やすことのみ可能。
シャットダウン	増減可能	増減可能	該当なし

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VM電源状態	最大VCPU数	初期VCPU数	現在のVCPU数
一時停止中	変更不可	該当なし	変更不可

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- 仮想マシン

GPU

XenCenterでは、VM作成時に新しいVMに専用グラフィック処理装置 (GPU) または1つ以上の仮想GPUを割り当てることができます。この機能により、VMはGPUの処理能力を使用できるようになり、ハイエンドの3Dプロフェッショナルグラフィックアプリケーションをより適切にサポートします。例えば、CAD/CAM、GIS、医療画像処理アプリケーションなどです。

詳細については、「グラフィックの構成」(/ja-jp/xenserver/9/graphics.html)を参照してください。

XenServerはIntelの仮想GPUをサポートしています。これは、追加のハードウェアを必要としないグラフィックアクセラレーションソリューションです。一部のプロセッサに組み込まれているIntel Iris Pro機能を使用し、VM内にインストールされた標準のIntel GPUドライバーを利用します。マザーボードには、GPU機能を有効にするチップセットが必要です。例えば、Xeon E3 v4 CPU用のC226やXeon v5 CPU用のC236などです。サポートされているプロセッサについては、XenServerハードウェア互換性リストを参照してください。

次の表は、GPUパススルー、共有GPU (vGPU)、および複数の共有GPU (vGPU) がゲストでサポートされているかどうかを示しています。

注:

NVIDIA GPUがこの機能をサポートしており、vGPUが同じタイプである場合、複数のvGPUをVMに追加できます。

	WINDOWS VM用GPUパススルー	LINUX VM用GPUパススルー	WINDOWS VM用共有GPU (VGPU)	LINUX VM用共有GPU (VGPU)	WINDOWS VM用複数の共有GPU (VGPU)	LINUX VM用複数の共有GPU (VGPU)
AMD	はい					

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

	WINDOWS VM用GPUパススルー	LINUX VM用GPUパススルー	WINDOWS VM用共有GPU (VGPU)	LINUX VM用共有GPU (VGPU)	WINDOWS VM用複数の共有GPU (VGPU)	LINUX VM用複数の共有GPU (VGPU)
インテル	はい		はい (非推奨)			
NVIDIA	はい	はい	はい	はい	はい	はい

使用するグラフィックカードによっては、ベンダーサブスクリプションまたはライセンスが必要になる場合があります。

追加をクリックすると、**GPUタイプ**リストに、利用可能なGPU、サポートされている仮想GPUタイプ、解像度、および仮想GPUあたりの最大ディスプレイ数が表示されます。リストからGPUまたは仮想GPUタイプを選択して、VMにGPUまたは仮想GPUを追加します。

仮想GPU機能を使用している場合は、VMがGPUの全処理能力を使用できるように、**GPU全体をパススルー**を選択します。必要に応じて、GPUまたは仮想GPUの選択は後で変更できます。詳細については、「VMプロパティの変更」(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-properties.html)を参照してください。

注記:

- GPUパススルーとグラフィックス仮想化は、XenServer Premium Editionのお客様のみが利用できます。詳細については、「XenServerライセンスについて」(/ja-jp/xencenter/current-release/licensing-about.html)を参照してください。
- Linux VM で NVIDIA GPU パススルーを使用するためのライセンス制限はありません。
- Linux VM に GPU を割り当てると、**GPU タイプ** リストにはホストまたはプールで利用可能なすべての GPU タイプが表示されます。ただし、Linux VM でサポートされているのは NVIDIA GPU パススルーのみです。

Intel GPU パススルーの有効化

XenServer は、Intel 統合 GPU デバイスを使用する Windows VM の GPU パススルー機能をサポートしています。この機能は、Intel 統合 GPU デバイスを搭載し、グラフィックス対応チップセットを持つ Haswell (Xeon E3-12xx v3) 以降の CPU でサポートされています。サポートされて

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

いるハードウェアの詳細については、XenServer ハードウェア互換性リスト を参照してください。

Intel サーバーで Intel GPU を使用する場合、XenServer® サーバー制御ドメイン (dom0) は統合 GPU デバイスにアクセスできます。このような場合、GPU はパススルーに利用できません。Intel サーバーで Intel GPU パススルー機能を使用するには、GPU を VM にパススルーする前に、dom0 と GPU 間の接続を無効にします。

接続を無効にするには：

1. **リソース** ペインで XenServer ホストを選択します。
2. **全般** タブで、**プロパティ** をクリックし、左ペインで **GPU** をクリックします。
3. **統合 GPU パススルー** セクションで、**このサーバーは統合 GPU を使用しません** をクリックします。

   この設定により、dom0 と Intel 統合 GPU デバイス間の接続が無効になります。
4. **OK** をクリックします。
5. 変更を有効にするには、XenServer サーバーを再起動します。

   Intel GPU は、新しい VM 作成時の GPU タイプリストと、VM の **プロパティ** タブに表示されるようになります。

注記：

dom0 と GPU 間の接続を無効にすると、XenServer ホストの外部コンソール出力 (VGA、HDMI、DP など) は利用できなくなります。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM
- グラフィックス

仮想ストレージ構成

新規VMウィザードを使用して作成された仮想マシンは、少なくとも1つの仮想ディスクを持ち、選択したVMテンプレートには追加の仮想ディスクが含まれる場合もあります。VMは、仮想CD-ROMを含め、最大7つの仮想ディスクを持つことができます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

新規VMウィザードの**ストレージ**ページから、次のことができます。

- 仮想ディスクを追加する
- 仮想ディスクを削除する
- 仮想ディスクのサイズと場所を変更する

オプション

これらの仮想ディスクを使用する

リストされている仮想ディスクを使用するには、このオプションを選択します。

- 仮想ディスクを追加するには、**追加**をクリックし、名前、サイズ、場所 (SR) を指定します。仮想ディスクの追加を参照してください。
- 仮想ディスクを削除するには、**削除**をクリックします。
- 仮想ディスクを別のSRに移動するには、リストで選択し、**プロパティ**をクリックし、次に**場所**リストからSRを選択します。
- 仮想ディスクのサイズを大きくまたは小さくするには、リストで選択し、**プロパティ**をクリックし、次に**サイズ**ボックスに新しい値を入力します。
- 仮想ディスクの名前または説明を変更するには、リストで選択し、**プロパティ**をクリックし、次に新しいテキストを入力します。

ストレージレベルの高速ディスククローンを使用する

VMを作成するために使用しているテンプレートまたはスナップショット内の仮想ディスクのいずれかが同じSR上にある場合、このチェックボックスが表示されます。テンプレート/スナップショットから新しいVMにディスクをコピーするためにハードウェアレベルのクローン作成機能を使用するには、このチェックボックスを選択します。ストレージレベルの高速ディスククローンを使用すると、VMを迅速に作成できます。

このオプションは、リモートNFS共有ストレージまたはローカルVHDベースのストレージを使用するVMでのみサポートされています。

ネットワークから起動するディスクレスVMを作成する

ウィザードの前のOS Installation mediaページで**ネットワークから起動**オプションを選択した場合、このオプションを選択して新しいVMをディスクレスVMにすることができます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- VM

仮想ネットワーク構成

「**新規VM**」ウィザードの「**ネットワーク**」ページから、最大4つの仮想ネットワークインターフェイスを構成できます。4つ以上を構成するには、VMの作成後に「**ネットワーク**」タブに移動し、そこから追加します。

デフォルトでは、すべての仮想ネットワークインターフェイスに自動的に作成されたランダムなMACアドレスが使用されます。別のMACアドレスを入力するには、「**プロパティ**」をクリックします。「**仮想インターフェイスのプロパティ**」ダイアログボックスで、`aa:bb:cc:dd:ee:ff`の形式で16進文字を使用して新しいアドレスを入力します。

- 新しい仮想ネットワークインターフェイスを追加するには、「**追加**」をクリックします。
- 仮想ネットワークインターフェイスを削除するには、リストで選択し、「**削除**」をクリックします。
- 仮想ディスクの物理ネットワーク、MACアドレス、またはサービス品質（QoS）の優先度を変更するには、それを選択し、「**プロパティ**」をクリックします。詳細については、「仮想ネットワークインターフェイスのプロパティを変更する」を参照してください。

必要に応じて、後で「**ネットワーク**」タブを使用してVMの仮想ネットワーク構成を変更できます。詳細については、「VMネットワークの構成」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer現行リリース

- VM

新規VM作成の完了

「**新規VM**」ウィザードの最後のページで、「**VMを自動的に起動**」を選択して、新しいVMがインストール時に自動的に起動するようにします。

VMの作成プロセスには時間がかかる場合があります。かかる時間は、テンプレートのサイズ、および宛先サーバーとXenCenter間のネットワーク接続の速度と帯域幅によって異なります。進行状況は、ステータスバーと「**通知**」の下にある「**イベント**」ビューで確認できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMを作成したら、最適化されたI/Oパフォーマンスを確保するためにXenServer VM Toolsをインストールします。詳細については、「XenServer VM Toolsのインストール」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- 「VM」

Express (無人) VM作成

XenCenter®で**新規VM**ウィザードをバイパスし、**クイック作成**機能を使用することで、カスタムVMテンプレートに基づいて複数の同一VMを作成できます。

1. 新しいVMに必要なすべての構成パラメーターを指定するカスタムVMテンプレートを作成します。詳細については、「新しいテンプレートの作成」を参照してください。
2. **リソース**ペインでカスタムテンプレートを選択します。**テンプレート**メニューで、**選択からVMを作成**をポイントし、**クイック作成**を選択します。または、**リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから**クイック作成**を選択します。

新しいVMは、テンプレートで指定されたすべての構成設定を使用して作成およびプロビジョニングされます。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- VM

新しいテンプレートの作成

XenCenter®では、いくつかの異なる方法でカスタムテンプレートを作成できます。

- 既存のテンプレートをコピーする。詳細については、「VMとテンプレートのコピー」を参照してください。
- 既存のVMを新しいテンプレートに変換する。
- VMスナップショットのコピーを新しいテンプレートとして保存する。
- 既存のテンプレートまたはVMスナップショットからXVAファイルとして以前にエクスポートされたテンプレートをインポートする。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

既存のVMをテンプレートに変換するには

この方法でテンプレートを作成すると、VMのディスクが新しいテンプレートにコピーされ、元のVMは存在しなくなります。現在vApp内にあるVMはテンプレートに変換できません。

1. 「VMのシャットダウン」で説明されているように、VMをシャットダウンします。
2. **リソース**ペインでVMを選択し、右クリックして**テンプレートに変換**を選択します。
3. **変換**をクリックして確定します。変換の進行状況は、XenCenterウィンドウの下部にあるステータスバーと、**通知**の下にある**イベント**ビューで確認できます。

変換が完了すると、VMは**リソース**ペインから消え、新しいカスタムテンプレートとして再表示されます。新しいカスタムテンプレートは、他のテンプレートと同様にVMを作成するために使用できます。

スナップショットのコピーを新しいテンプレートとして保存するには

1. **スナップショット**タブでスナップショットを選択し、右クリックしてショートカットメニューから**スナップショットからテンプレートを作成**を選択します。
2. 新しいテンプレートの名前を入力し、**OK**をクリックします。

テンプレートが正常に作成されると、**リソース**ペインと**新規VM**ウィザードの**テンプレート**ページにカスタムテンプレートとして表示されます。

XVAファイルからテンプレートをインポートするには

XVAファイルとしてエクスポートされたVMテンプレートとスナップショットは、**インポート**ウィザードを使用してXenCenterにインポートできます。

1. **ファイル**メニューで、**インポート**を選択します
2. ウィザードの最初のページで、テンプレートを含むXVAファイルを選択します
3. XVAからVMをインポートする場合と同じ手順に従います

詳細については、「XVAからVMをインポートする」を参照してください。

インポートの進行状況は、XenCenterウィンドウの下部にあるステータスバーと、**通知**の下の**イベント**ビューに表示されます。インポートプロセスには、テンプレートのサイズ、およびXenCenterとサーバー間のネットワーク接続の速度と帯域幅に応じて、時間がかかる場合があります。新しくインポートされたテンプレートが利用可能になると、**リソース**ペインにカスタムテンプレートとして表示されます。新しいテンプレートは、元のエクスポートされたテンプレートと同じ構成プロパティを持っています。構成プロパティを変更するには、テンプレートの**プロパティ**ウィンドウを使用します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

テンプレートをファイルにエクスポートする

カスタムテンプレートをエクスポートすると、選択した場所にXVAファイルとして保存されます。このファイルには、テンプレートの完全なコピー（ディスクイメージを含む）が含まれています。その後、テンプレートをインポートして、同じまたは別のリソースプールでVMを作成するために使用できます。

テンプレートをファイルにエクスポートするには

1. **リソース**ペインで、テンプレートを選択します。
2. **テンプレート**メニューで、**ファイルにエクスポート...**を選択します。または、テンプレートを右クリックし、**コンテキストメニューから**ファイルにエクスポート...**を選択します。
3. ウィザードの**エクスポートファイルの詳細**ページで、XVAファイル名を入力し、ファイルを作成するフォルダーを参照して見つけます。**次へ**をクリックして続行します。
4. **完了**ページで、選択した設定を確認します。XenCenterにエクスポートされたパッケージを検証させるには、**完了時にエクスポートを検証**チェックボックスを選択します。次に、**完了**を選択してエクスポートを開始します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

VMとテンプレートのコピー

既存のVMまたはテンプレートをコピー（クローン）して、VMとテンプレートを作成できます。XenCenter®を使用すると、プール内およびプール間でVMとテンプレートをコピーできます。

XenServer®には、VMとテンプレートをコピーするための2つのメカニズムがあります。フルコピーまたは高速クローンです。

- **フルコピー**は、VMのディスクの完全なコピーを作成します。
- **高速クローン**（Copy-on-Write）は、変更されたブロックのみをディスクに書き込みます。この機能は、既存のVMから新しいVMにディスクをコピーするために、ハードウェアレベルのクローン作成機能を使用します。このモードは、ファイルベースのVMでのみサポートされています。Copy-on-Writeは、ディスクスペースを節約し、高速クローンを可能にするように設計されていますが、通常のディスクパフォーマンスをわずかに低下させる可能性があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMのコピー

重要:

- Windows VMをコピーする前に、WindowsユーティリティのSysprepを使用して、セキュリティID（SID）の一意性を確保してください。推奨されるシステム準備手順を最初に実行せずにVMをコピーすると、SIDの重複やその他の問題が発生する可能性があります。VMのクローン作成とSysprepの実行については、「Sysprepを使用してWindows VMをクローンする準備」を参照してください。
- コピーするVMがWindows VMの場合は、Sysprepユーティリティを実行します。
- VMが実行中の場合は、コピーする前にシャットダウンする必要があります。
- 既存のVMをコピーして作成されたVMは、元のVMと同じVMグループには追加されません。

プール内でVMをコピーするには

1. **リソース**ペインでVMを選択し、**VM**メニューで**VMのコピー**を選択します。
2. **宛先**ページで、**プール内**を選択します。
3. **名前とストレージ**ページで、新しいVMの名前と（オプションで）意味のある説明を入力します。
4. コピーモードを選択します: **高速クローン** または **完全コピー**。
5. コピーモードとして**完全コピー**を選択した場合、VMの仮想ディスクをコピーするストレージリポジトリ (SR) を選択します。VMをローカルストレージから共有ストレージに移動する場合は、ここで共有SRを選択していることを確認してください。
6. **完了**を選択します。

VMを別のプールにコピーするには

1. **リソース**ペインでVMを選択し、**VM**メニューで**VMのコピー**を選択します。
2. **宛先**ページで、**プール間**を選択し、**次へ**を選択します。
3. **宛先**メニューからスタンドアロンサーバーまたはプールを選択します。
4. **ホームサーバー**リストからサーバーを選択してVMのホームサーバーを割り当て、**次へ**を選択します。
5. **ストレージ**ページで、コピーするVMの仮想ディスクを配置するストレージリポジトリを指定し、**次へ**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **すべての移行済み仮想ディスクを同じSRに配置する**オプションはデフォルトで選択されており、宛先プール上のデフォルトの共有SRを表示します。
- **移行済み仮想ディスクを指定されたSRに配置する**を選択して**ストレージリポジトリ**メニューからSRを指定します。このオプションを使用すると、移行されたVM上の各仮想ディスクに対して異なるSRを選択できます。

6. **ネットワーク**ページで、VM内の仮想ネットワークインターフェースを宛先プールまたはサーバーのネットワークにマッピングします。**ターゲットネットワーク**メニューを使用してオプションを指定し、**次へ**を選択します。
7. VMの仮想ディスクのライブマイグレーションに使用する宛先プール上のストレージネットワークを選択します。**次へ**を選択します。

> **注:**
>
> パフォーマンス上の理由から、VMのコピーに管理ネットワークを使用しないことをお勧めします。

8. 構成設定を確認し、「**完了**」を選択して VM のコピーを開始します。

テンプレートのコピー

プール内でテンプレートをコピーするには

1. 「**リソース**」ペインでテンプレートを選択し、「**テンプレート**」メニューで「**テンプレートのコピー**」を選択します。
2. 「**宛先**」ページで、「**プール内**」を選択します。
3. 「**名前とストレージ**」ページで、新しいテンプレートの名前と意味のある説明を入力します。
4. コピーモードを選択します。「**高速クローン**」または「**完全コピー**」。
5. コピーモードとして「**完全コピー**」を選択した場合は、コピーされた仮想ディスクが配置される SR を選択します。
6. 「**完了**」を選択します。

別のプールにテンプレートをコピーするには

1. 「**リソース**」ペインでテンプレートを選択し、「**テンプレート**」メニューで「**コピー**」を選択します。
2. 「**宛先**」ページで、「**プール間**」を選択し、「**次へ**」を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. 「**宛先**」メニューからスタンドアロンサーバーまたはプールを選択します。
4. 「**ホームサーバー**」リストからサーバーを選択して VM のホームサーバーを割り当て、「**次へ**」を選択します。
5. 「**ストレージ**」ページで、コピーされたテンプレートの仮想ディスクを配置するストレージリポジトリを指定し、「**次へ**」を選択します。

   - 「**すべての移行済み仮想ディスクを同じSRに配置**」オプションはデフォルトで選択されており、宛先プール上のデフォルトの共有SRが表示されます。
   - 「**移行済み仮想ディスクを指定されたSRに配置**」を選択して、「**ストレージリポジトリ**」メニューからSRを指定します。このオプションを使用すると、移行されたVM上の各仮想ディスクに対して異なるSRを選択できます。

6. 「**ネットワーク**」ページで、選択したテンプレート内の仮想ネットワークインターフェースを宛先プールまたはサーバー内のネットワークにマッピングします。「**ターゲットネットワーク**」メニューを使用してオプションを指定し、「**次へ**」を選択します。
7. テンプレートの仮想ディスクをコピーするために使用する、宛先プールまたはサーバー上のストレージネットワークを選択します。「**次へ**」を選択します。

   注:

   パフォーマンス上の理由から、VMのコピーに管理ネットワークを使用しないことをお勧めします。

8. 構成設定を確認し、「**完了**」を選択してテンプレートのコピーを開始します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

仮想マシンの構成

- XenServer VM Tools のインストール(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-installtools.html)
- 仮想マシンのメモリ構成(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-memory.html)
- 仮想マシンのストレージ構成(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-storage.html)
  - 仮想ディスクの追加(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-storage-addnewdisk.html)
  - 仮想ディスクのアタッチ(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-storage-attach.html)
  - 仮想ディスクのデタッチ(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-storage-detach.html)
  - 仮想ディスクの移動(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-storage-move.html)
  - 仮想ディスクの削除(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-storage-delete.html)
  - 仮想ディスクのプロパティの変更(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-storage-properties.html)
- 仮想マシンのネットワーク構成(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-network.html)
  - 仮想ネットワークインターフェースの追加(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-network-add.html)
  - 仮想ネットワークインターフェースの有効化/無効化(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-network-activate.html)
  - 仮想ネットワークインターフェースの削除(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-network-remove.html)
  - 仮想ネットワークインターフェースのプロパティの変更(/ja-jp/xencenter/current-release/vms-network-properties.html)
- 仮想 GPU の設定
- VM プロパティの変更

XenServer® VM Tools のインストール

XenServer VM Tools (旧称 Citrix VM Tools または XenServer PV Tools) は、従来のデバイスエミュレーションのオーバーヘッドなしに、高性能なI/Oサービスを提供します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Windows 用 XenServer VM ツール

Windows 用 XenServer VM Tools は、I/Oドライバー (準仮想化ドライバーまたはPVドライバーとも呼ばれます) および管理エージェントで構成されています。

I/Oドライバーには、ストレージドライバー、ネットワークドライバー、および低レベルの管理インターフェイスが含まれています。これらのドライバーは、エミュレートされたデバイスを置き換え、Windows と XenServer 製品ファミリーソフトウェア間の高速転送を提供します。Windows オペレーティングシステムをインストールする際、XenServer は従来のデバイスエミュレーションを使用して、標準のIDEコントローラーと標準のネットワークカードをVMに提示します。このエミュレーションにより、Windows のインストールで組み込みドライバーを使用できますが、コントローラードライバーのエミュレーションに内在するオーバーヘッドのため、パフォーマンスが低下します。

管理エージェント (ゲストエージェントとも呼ばれます) は、高レベルの仮想マシン管理機能の責任を負い、XenCenter に完全な機能セットを提供します。

Windows 用 XenServer VM Tools インストーラーは、XenServer ダウンロードページ から入手してください。

Windows 用 XenServer VM Tools のバージョンは、XenServer のバージョンとは独立して更新されます。ツールの最新バージョンについては、新機能 を参照してください。

各Windows VMに最新バージョンのWindows用XenServer VM Toolsをインストールしてください。これにより、VMは完全にサポートされた構成になり、xe CLIまたはXenCenterを使用できるようになります。VMはWindows用XenServer VM Toolsなしでも機能しますが、I/Oドライバーがインストールされていない場合、パフォーマンスが低下します。Windows VMにWindows用XenServer VM Toolsをインストールすると、以下の操作を実行できるようになります。

- VMを正常にシャットダウン、再起動、または一時停止する
- XenCenter でVMのパフォーマンスデータを表示する
- 実行中のVMを移行する (ライブマイグレーションまたはストレージライブマイグレーションを使用)
- メモリ付きスナップショット (チェックポイント) を作成する、またはスナップショットに戻す

詳細については、Windows 用 XenServer VM Tools のインストール を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Linux 用 XenServer VM ツール

XenServer VM Tools for Linuxには、VMに関する追加情報をホストに提供するゲストエージェントが含まれています。

XenServer VM Tools for Linuxインストーラーは、XenServerダウンロードページから入手してください。

以下の操作を実行できるように、Linux VMにXenServer VM Tools for Linuxをインストールします。

- XenCenterでVMのパフォーマンスデータを表示する。

  例えば、「Used Memory」、「Disks」、「Network」、「Address」といったメモリパフォーマンス値は、XenServer VM Toolsがインストールされている場合にのみXenCenterで表示されます。
- XenCenterでLinuxゲストオペレーティングシステム情報を表示する。
- XenCenterの**Networking**タブで、VMのIPアドレスを表示する。
- XenCenterからVMへのSSHコンソールを起動する。
- 実行中のLinux VMのvCPU数を調整する。
- ダイナミックメモリ制御（DMC）を有効にする。

> **注：**
>
> 一部のLinuxゲストオペレーティングシステムは、Xen®ハイパーバイザーでのメモリバルーニングをサポートしていないため、ダイナミックメモリ制御（DMC）機能を使用できません。これが適用されるゲストオペレーティングシステムについては、ゲストOS機能サポートを参照してください。

詳細については、XenServer VM Tools for Linuxのインストールを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

重要：

VMを実行する際にサポートされる構成にするには、XenServer VM Toolsがインストールされていることを確認してください。Windows VMはこれらがなくても機能しますが、I/Oドライバーがインストールされていないとパフォーマンスが低下します。サポートされるように、これらのドライバーを使用してWindows VMを実行してください。物理ホスト間でのライブ再配置などの一部の機能は、I/Oドライバーがインストールされ、アクティブになっている場合にのみ利用できます。

仮想マシンの仮想化状態を確認する

XenCenterは、仮想マシンの**全般**タブで仮想化状態を報告します。XenServer VM Tools（I/Oドライバーと管理エージェント）がインストールされているかどうか、および仮想マシンがWindows Updateから更新プログラムをインストールして受け取ることができるかどうかを確認できます。以下のセクションでは、XenCenterに表示されるメッセージを一覧表示します。

I/O最適化済み（最適化されていません） - I/Oドライバーが仮想マシンにインストールされているかどうかを表示します。

管理エージェントがインストールされています（インストールされていません） - 管理エージェントの最新バージョンが仮想マシンにインストールされているかどうかを表示します。

Windows Updateから更新プログラムを受信できます（受信できません） - 仮想マシンがWindows UpdateからI/Oドライバーを受信できるかどうかを指定します。

I/Oドライバーと管理エージェントをインストール - 仮想マシンにI/Oドライバーまたは管理エージェントがインストールされていないことを示します。

注：

サーバーまたはプールに多数の仮想マシンがある場合は、リソースペインでサーバーまたはプールを選択し、**検索**タブを選択します。**保存された検索**リストから、**XenServer VM Toolsがインストールされていない仮想マシン**を選択します。この検索では、XenServer VM Toolsがインストールされていない仮想マシンのリストが表示されます。

XenServer VM Toolsの更新

XenServerには、Windows仮想マシン用のI/Oドライバー（PVドライバー）と管理エージェントを自動的に更新するよりシンプルなメカニズムがあります。このメカニズムにより、顧客は利用可能になった更新プログラムをインストールできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

仮想マシンの**全般**タブにある**仮想化状態**セクションでは、仮想マシンがWindows Updateから更新プログラムを受信できるかどうかを指定します。XenCenterの**新規仮想マシン**ウィザードで仮想マシンテンプレートを選択する際に、Windows Updateを介したI/Oドライバーの更新を有効にできます。Windows Updateを介したI/Oドライバーの更新を有効にする方法の詳細については、「仮想マシン作成手順の概要」を参照してください。Windows UpdateからI/Oドライバーの更新を受信したくない場合は、仮想マシンでWindows Updateを無効にするか、グループポリシーを指定してください。

重要：

- 現在8.2.x.xドライバー以前のバージョンを使用しており、管理エージェントMSIファイルを使用してドライバーの最新バージョンに更新したい場合は、これらのドライバーをインストールする前に、デバイスマネージャーを使用して仮想マシンから8.2.x.xドライバーをアンインストールする必要があります。この手順を完了しないと、MSIインストールプロセスは失敗します。
- XenServer VM Toolsをインストールまたは更新する前に、仮想マシンのスナップショットを作成することをお勧めします。
- 更新の一部として、要求されたすべての仮想マシンの再起動が完了していることを確認してください。複数の再起動が必要になる場合があります。要求されたすべての再起動が完了しない場合、この更新により予期しない動作が発生する可能性があります。

I/Oドライバーの更新

Microsoft Windows Update から I/O ドライバーの更新を自動的に取得できます。ただし、次の条件を満たしている場合に限ります。

- XenServer 7.0以降で発行されたXenCenterを使用してWindows VMを作成していること
- VM内でWindows Updateが有効になっていること
- インターネットにアクセスできるか、WSUSプロキシサーバーに接続できること

注:

お客様は、自動管理エージェント更新メカニズムを通じて、I/Oドライバーの更新を自動的に受け取ることもできます。詳細については、*管理エージェントの更新* を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Management Agentの更新

XenServer enables you to automatically update the Management Agent on both new and existing Windows VMs. By default, XenServer allows the automatic updating of the Management Agent. However, it does not allow the Management Agent to update the I/O drivers automatically. You can customize the Management Agent update settings during XenServer VM Tools installation. For more information, see Install XenServer VM Tools for Windows. The automatic updating of the Management Agent occurs seamlessly, and does not reboot your VM. In scenarios where a VM reboot is required, XenCenter issues notification to users about the required action.

管理エージェントを自動的に更新するには：

- XenServer 7.0以降で発行されたXenServer VM Toolsがインストールされている必要があります
- Windows VMがインターネットに接続されている必要があります

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- Windows向け XenServer 仮想マシンツール
- Linux 仮想マシン

仮想ストレージの構成

XenServer® VM のストレージは仮想ディスクによって提供されます。仮想ディスクは、それが接続されている VM とは独立して存在する、永続的なディスク上のオブジェクトです。仮想ディスクは XenServer ストレージリポジトリ (SR) に保存され、必要に応じて同じ VM または異なる VM に接続、切断、再接続できます。新しい仮想ディスクは、VM 作成時 (「**新しい VM**」ウィザード内から) に作成できます。また、VM 作成後に VM の「**ストレージ**」タブから追加することもできます。

XenServer VM Tools がインストールされている VM 上の仮想ディスクは、*ホットプラグ*できます。つまり、VM を最初にシャットダウンすることなく、仮想ディスクの追加、削除、接続、切断を行うことができます。XenServer VM Tools がインストールされていない VM は、これらの操作を実行する前にシャットダウンする必要があります。この状況を避けるため、すべての仮想マシンに XenServer VM Tools をインストールしてください。詳細については、「XenServer VM Tools」を参照してください。

XenCenter® の VM の「**ストレージ**」タブでは、次のことができます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 「新しい仮想ディスクを追加」します。
- 「仮想ディスクを構成」します。仮想ディスクのサイズ、場所、読み取り/書き込みモード、およびその他の構成パラメーターを変更します。
- 「既存の仮想ディスクを VM に接続」します。
- 「仮想ディスクを切断」します。仮想ディスクとその上のすべてのデータを保持します。
- 「仮想ディスクを指定されたストレージリポジトリに移動」します。
- 「仮想ディスクを削除」します。ディスクとその上に保存されているすべてのデータを完全に破棄します。

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- 「VM」

仮想ディスクの追加

新しい仮想ディスクを追加するには、**仮想ディスクの追加**ダイアログボックスを使用します。

重要:

VMがXenServer VM Toolsをインストールせずに実行されている場合、仮想ディスクを追加する前にシャットダウンしてください。この状況を避けるため、すべての仮想マシンにXenServer VM Toolsをインストールしてください。詳細については、XenServer VM Toolsを参照してください。

手順:

1. 次のいずれかの方法で、**仮想ディスクの追加**ダイアログボックスを開きます。
   - **リソース**ペインでVMまたはストレージリポジトリを選択し、**ストレージ**タブを選択してから、**追加**を選択します。
   - **ストレージ**メニューで、**仮想ディスク**を選択し、次に**新しい仮想ディスク**を選択します。
   - **新しいVM**ウィザードの**ストレージ**ページで、**追加**を選択します。
2. 新しい仮想ディスクの名前と、オプションで説明を入力します。
3. 新しい仮想ディスクのサイズを入力します。仮想ディスクが保存されるストレージリポジトリ（SR）に、新しい仮想ディスクのための十分な空き容量があることを確認してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. 新しい仮想ディスクが保存されるSRを選択します。
5. **作成**をクリックして新しい仮想ディスクを追加し、ダイアログボックスを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 仮想マシン

仮想ディスクを接続する

既存の仮想ディスクを接続することで、VMにストレージを追加できます。

1. **リソース**ペインでVMを選択し、**ストレージ**タブを選択して、**接続**を選択します。または、**ストレージ**メニューで**仮想ディスク**を選択し、次に**仮想ディスクの接続**を選択します。
2. リストから仮想ディスクを選択します。
3. 仮想ディスクへのアクセスを読み取り専用に設定するには、**読み取り専用として接続**チェックボックスをオンにします。この設定は、複数のVMがディスクにアクセスする際に、データが上書きされたり変更されたりするのを防ぐのに役立ちます。また、仮想ディスクを多くのVMに接続することもできます。仮想ディスクへの書き込みアクセスを許可するには、チェックボックスをオフにします。
4. **接続**をクリックします。

> **ヒント:**
>
> 基盤となるSRの問題により、接続されている仮想ディスクが非アクティブ化（「切断」）されることがあります。この状況が発生した場合は、VMの**ストレージ**タブから選択し、**アクティブ化**をクリックして再度アクティブ化してください。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

仮想ディスクのデタッチ

VMから仮想ディスクをデタッチすると、仮想ディスクとその上のデータは保持されます。仮想ディスクはVMでは使用できなくなります。デタッチされたストレージデバイスは、後で同じVMに

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

再アタッチしたり、別のVMにアタッチしたり、別のストレージリポジトリ（SR）に移動したりできます。

以下の条件が満たされている場合、VMをシャットダウンせずに仮想ディスクをデタッチ（*ホットアンプラグ*）できます。

- VMが一時停止されていないこと。
- VMにXenServer® VM Toolsがインストールされていること。
- 仮想ディスクがシステムディスクではないこと。
- 仮想ディスクをクリーンにデタッチするには、非アクティブ化する必要があります。*非アクティブ化*という用語は、製品ドキュメントおよびCLIでこの操作に使用される用語である*アンプラグ*と同義です。

これらの条件のいずれかが満たされていない場合は、仮想ディスクをデタッチする前にVMをシャットダウンしてください。

仮想ディスクをデタッチするには：

1. **リソース**ペインでVMを選択し、**ストレージ**タブをクリックします。
2. リストから仮想ディスクを選択し、**非アクティブ化**をクリックし、**デタッチ**をクリックします。
3. **OK**をクリックして操作を確定します。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- VM

仮想ディスクの移動

仮想ディスクは、同じプール内の1つのストレージリポジトリ (SR) から別のSRに移動または移行できます。移動または移行できる仮想ディスクのタイプは次のとおりです。

- 現在、どのVMにもアタッチされていない仮想ディスク。
- 実行中でないVMにアタッチされている仮想ディスク。
- 実行中のVMにアタッチされている仮想ディスク (ストレージライブマイグレーションを使用)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

ローカルストレージ上の仮想ディスクを別のサーバーの共有ストレージに移動することはできますが、別のサーバーのローカルストレージに移動することはできません。

ストレージライブマイグレーションについて

ストレージライブマイグレーションを使用すると、VMをシャットダウンせずに仮想ディスクを移動できるため、次のような管理操作が可能になります。

- VMを安価なローカルストレージから、高速で回復力のあるアレイバックストレージに移動する。
- VMを開発環境から本番環境に移動する。
- VMがストレージ容量によって制限されている場合に、ストレージの階層間を移動する。
- ストレージアレイのアップグレードを実行する。

複数のスナップショットを持つ仮想ディスクは移行できません。

仮想ディスクを移動するには

1. XenCenter® の **リソース** ペインで、仮想ディスクが保存されている SR を選択し、次に、**ストレージ** タブを選択します。仮想ディスクを見つけるには:
   - XenCenter の **リソース** ペインで、移動する仮想ディスクが接続されている VM を選択します。
   - **ストレージ** タブをクリックし、仮想ディスクが保存されている SR を特定します。
2. **仮想ディスク** リストから、移動したい仮想ディスクを1つ以上選択し、次に、**移動** を選択します。または、選択した仮想ディスクを右クリックし、ショートカットメニューから **仮想ディスクの移動** を選択します。
3. **仮想ディスクの移動** ダイアログボックスで、仮想ディスクの移動先となるターゲット SR を選択します。ターゲット SR に別の仮想ディスクを格納するのに十分な空き容量があることを確認してください。利用可能な空き容量は、利用可能な SR のリストに表示されます。
4. **移動** をクリックして仮想ディスクを移動します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

仮想ディスクの削除

以下の条件が満たされている場合、VMをシャットダウンせずに仮想ディスクを削除できます。

- VMが一時停止状態ではないこと。
- VMにXenServer® VM Toolsがインストールされていること。
- 仮想ディスクがシステムディスクではないこと。
- 仮想ディスクは最初に非アクティブ化する必要があります。*非アクティブ化*という用語は、製品ドキュメントやCLIでこの操作に使用される用語である*プラグを抜く*と同義です。

これらの条件のいずれかが満たされていない場合は、仮想ディスクを削除する前にVMをシャットダウンしてください。

重要:

仮想ディスクを削除すると、ディスクが完全に削除され、そのディスクに保存されているデータはすべて破棄されます。

仮想ディスクを削除するには：

1. VMの**ストレージ**タブで、リストから仮想ディスクを選択し、**非アクティブ化**、次に**削除**を選択します。
2. **OK**をクリックして削除を確定します。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- VMs

仮想ディスクのプロパティを変更する

仮想ディスクのプロパティを変更するには、VMの**ストレージ**タブを選択し、仮想ディスクを選択して**プロパティ**を選択します。

一般プロパティ - 名前、説明、フォルダー、タグ

(/en-us/xencenter/media/edit-16.png)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プロパティ	説明
名前	仮想ディスク名
説明	仮想ディスクの説明（オプション）
フォルダー	該当する場合、仮想ディスクが配置されているリソースフォルダーの名前。
タグ	この仮想ディスクに適用されているタグのリスト。

カスタムフィールド



カスタムフィールドタブでは、仮想ディスクに新しいカスタムフィールドを割り当てたり、既存のカスタムフィールドの値を変更したり、カスタムフィールドを削除したりできます。

カスタムフィールドの追加、設定、変更、削除については、「カスタムフィールドの使用」を参照してください。

ディスクのサイズと場所



このタブで仮想ディスクのサイズを設定し、仮想ディスクが配置されているストレージリポジトリを選択します。

デバイスオプション



仮想ディスクの**プロパティ**ダイアログボックスの最後のタブでは、仮想ディスクのいくつかのデバイスオプションを設定できます。

オプション	説明
モード	仮想ディスクのディスク読み取り/書き込み権限を変更できます。たとえば、バックアップ目的で使用する仮想ディスクでデータが上書きされるのを防ぐために、この設定を変更します。
デバイスの位置	ドライブシーケンスでこの仮想ディスクに使用する位置。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オプション	説明
ディスクアクセス優先度	一部の仮想ディスクでは、ディスクI/Oの優先度を調整できます。この設定は、LVMベースのストレージリポジトリ（ローカル、共有iSCSI、またはハードウェアHBA）上の仮想ディスクでのみ利用可能です。このオプションは、ディスクスケジューラが `cfq` に変更された後にのみ表示されます。デフォルトでは利用できません。詳細については、「ストレージリポジトリの管理」(/ja-jp/xenserver/9/storage/manage.html)を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- 仮想マシン

VMネットワーキングの構成

各仮想マシン (VM) は、仮想NICとして機能する1つ以上の仮想ネットワークインターフェースを持つことができます。

仮想ネットワークインターフェースには、以下のプロパティがあります。

プロパティ	説明
ネットワーク	仮想ネットワークインターフェースの (物理的な) ネットワークの場所。
MACアドレス	仮想ネットワークインターフェースのMACアドレス。
QoS制限	最大ネットワーク転送速度のためのオプションのI/O優先度サービス品質 (QoS) 設定。メモリリソースが少ない場合、このようにI/Oスロットリングを使用すると、メモリ処理が遅くなり、クラッシュを防ぐことでシステムの安定性が向上します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMのすべての仮想ネットワークインターフェースは、VMの**ネットワーク**タブに表示されます。ここで、新しい仮想ネットワークインターフェースを追加できます。また、既存の仮想ネットワークインターフェースを編集、アクティブ化、非アクティブ化、および削除することもできます。

- ネットワーク
- 仮想ネットワークインターフェースの追加
- 仮想ネットワークインターフェースのアクティブ化/非アクティブ化
- 仮想ネットワークインターフェースを削除する
- 仮想ネットワークインターフェースのプロパティを変更する

仮想ネットワークインターフェースを追加する

仮想マシンには最大7つの仮想ネットワークインターフェース (VNI) を追加できます。仮想マシンでサポートされるVNIの最大数については、XenServer構成制限を参照してください。

1. 次のいずれかの方法で、**仮想インターフェースの追加**ダイアログボックスを開きます。
   - **リソース**ペインで仮想マシンを選択します。**ネットワーク**タブに移動します。**インターフェースの追加**をクリックします。
   - **新規仮想マシン**ウィザードの**ネットワーク**ページで、**追加**をクリックします。
2. **ネットワーク**リストからネットワークの場所を選択します。
3. MACアドレスを指定します。
   - 生成されたMACアドレスを使用するには、**MACアドレスを自動生成**を選択します。
   - MACアドレスを明示的に入力するには、**このMACアドレスを使用**を選択します。XY:XX:XX:XX:XX:XXの形式でアドレスを入力します。ここで、Xは任意の16進数、Yは2、6、A、またはEのいずれかです。
4. 最大ネットワーク転送速度のオプションのI/O優先度サービス品質 (QoS) 設定を行うには、チェックボックスをオンにして、1秒あたりのキロバイト数 (kB/s) で値を入力します。
5. **追加**をクリックします。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- 仮想マシン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

仮想ネットワークインターフェースの有効化/無効化

VMが以下の条件を満たしている場合、実行中のVMで仮想ネットワークインターフェースを有効または無効にすることができます。

- VMがサスペンドされていないこと。
- VMにXenServer® VM Toolsがインストールされていること。

仮想ネットワークインターフェースを有効化（「プラグイン」）または無効化（「アンプラグ」）するには：

1. VMの**ネットワーク**タブで、インターフェースを選択します。
2. **有効化**または**無効化**と表示されたボタンをクリックします。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

仮想ネットワークインターフェースの削除

以下の条件を満たしている場合、VMをシャットダウンせずに仮想ネットワークインターフェースをVMから削除できます（「ホットアンプラグ」）。

- VMが一時停止状態ではないこと。
- VMにXenServer® VM Toolsがインストールされていること。

これらの条件のいずれかまたは両方が満たされていない場合は、仮想ネットワークインターフェースを削除する前にVMをシャットダウンしてください。

仮想ネットワークインターフェースを削除するには：

1. **リソース**ペインでVMを選択します。
2. **ネットワーク**タブを選択します。
3. **ネットワーク**タブで、リストから仮想ネットワークインターフェースを選択します。**削除**をクリックします。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

仮想ネットワークインターフェースのプロパティを変更する

仮想ネットワークインターフェースのプロパティを変更するには、次のいずれかの方法で**仮想インターフェースのプロパティ**ダイアログボックスを開きます。

- 仮想マシンの**ネットワーク**タブをクリックし、仮想ネットワークインターフェースを選択して、**プロパティ**をクリックします。
- **新規仮想マシン**ウィザードの**ネットワーク**ページで、**編集**をクリックします。

仮想ネットワークインターフェースのネットワークロケーションとMACアドレスを変更できます。また、I/O優先度を設定できる場合もあります。

プロパティ	説明
ネットワーク	仮想ネットワークインターフェースのネットワークロケーション。
MACアドレス	仮想ネットワークインターフェースのMACアドレス。この値は自動生成することも、XY:XX:XX:XX:XX:XXの形式で手動で入力することもできます。ここでXは任意の16進数、Yは2、6、A、またはEです。
QoS制限を有効にする	このオプションを選択し、1秒あたりのキロバイト数 (kB/s) で値を入力して、最大ネットワーク転送速度に対するオプションのI/O優先度サービス品質 (QoS) 設定を行います。メモリリソースが少ない場合、このようにI/Oスロットリングを使用すると、メモリ処理が遅くなり、クラッシュを防ぐことでシステムの安定性を高めるのに役立ちます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 仮想マシン

仮想GPUの構成

GPUは、特定のGPUでサポートされている仮想GPUのタイプに基づいてグループ化されます。XenCenterでは、GPUごとに許可される仮想GPUタイプを変更し、要件に基づいてGPUをグループ化できます。詳細については、GPUを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

特定のGPUで許可される仮想GPUタイプを変更するには：

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**GPU**タブを選択します。
2. プールを選択した場合は、GPUの横にあるチェックボックスを使用して、変更するGPUを選択します。GPUタブの各横棒は物理GPUを表すことに注意してください。
3. **選択したGPUを編集**をクリックします。GPUウィンドウには、仮想GPUタイプの一覧が表示されます。各仮想GPUタイプに固有の情報が含まれています。この情報には、GPUごとに許可される仮想GPUの数、最大解像度、仮想GPUあたりの最大ディスプレイ数、およびビデオRAMが含まれます。
4. 要件に基づいて選択を変更し、**OK**を選択します。GPU全体をパススルーする場合は、**GPU全体をパススルー**を選択します。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- VM
- グラフィックス

VMメモリの構成

VMが最初に作成されると、固定量のメモリが割り当てられます。XenServer®環境での物理メモリの利用率を向上させるために、Dynamic Memory Control (DMC) を使用できます。DMCは、VM間でメモリを動的に再割り当てできるメモリ管理機能です。

XenCenter®の**メモリ**タブには、VMとサーバーのメモリ使用量と構成情報が表示されます。

- サーバーの場合、利用可能な合計メモリと現在のメモリ使用量が表示され、ホストされているVM間でメモリがどのように分割されているかを確認できます。
- VMの場合、現在のメモリ使用量に加えて、VMのメモリ構成情報も確認できます。その構成には、DMCが有効になっているかどうか、および現在の動的な最小値と最大値が含まれます。このタブでDMC構成設定を編集できます。

同じメモリ構成を持つVMは**メモリ**タブにグループ化され、個々のVMおよびVMグループのメモリ設定を表示および構成できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

一部のLinuxゲストオペレーティングシステムは、Xen®ハイパーバイザーでのメモリバルーニングをサポートしていないため、Dynamic Memory Control (DMC) 機能を使用できません。これが適用されるゲストオペレーティングシステムについては、ゲストOS機能サポートを参照してください。

動的メモリ制御 (DMC)

動的メモリ制御 (*動的メモリ最適化*、*メモリオーバーコミット*、または*メモリバルーニング*とも呼ばれます) は、実行中のVMのメモリを自動的に調整することで機能します。

- DMCは、各VMに割り当てられるメモリ量を、指定された最小メモリ値と最大メモリ値の間に維持します
- DMCはパフォーマンスを保証します
- DMCにより、サーバーあたりのVM密度を高めることができます

DMCがない場合、サーバーが満杯のときにさらにVMを起動すると、「メモリ不足」エラーで操作が失敗します。既存のVMメモリ割り当てを減らして、より多くのVMのためのスペースを確保するには、各VMのメモリ割り当てを編集し、VMを再起動する必要があります。DMCが有効になっている場合、XenServerは、実行中のVMの現在のメモリ割り当てを定義されたメモリ範囲内で自動的に削減することで、メモリを再利用しようとします。

動的および静的メモリ範囲

各VMについて、動的メモリ範囲を設定できます。この動的メモリ範囲は、再起動を必要とせずにVMにメモリを追加または削除できる範囲です。VMの実行中に、再起動することなく動的範囲を調整できます。XenServerは、VMに割り当てられるメモリ量が常に動的範囲内に収まることを保証します。たとえば、動的最小メモリが512 MBで、動的最大メモリが1,024 MBの場合、VMの動的メモリ範囲は512～1,024 MBです。VMはこの範囲内で動作します。DMCを使用すると、XenServerは各VMに指定されたDMR内のメモリを常に割り当てることを保証します。

ホストメモリが十分な場合、実行中のすべてのVMは動的最大メモリレベルを受け取ります。ホストメモリが不足している場合、実行中のすべてのVMは動的最小メモリレベルを受け取ります。*満杯*のサーバーで新しいVMを起動する必要がある場合、実行中のVMのメモリは新しいVMを起動するために*圧迫されます*。必要な追加メモリは、既存の実行中のVMを事前定義された動的範囲内で比例的に圧迫することによって取得されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServerがサポートする多くのオペレーティングシステムは、メモリの動的な追加または削除を完全にサポートしていません。その結果、XenServerサーバーは、VMが起動するときにVMが消費するように要求できる最大メモリ量を宣言する必要があります。ゲストオペレーティングシステムは、この情報を使用して、ページテーブルやその他のメモリ管理構造のサイズを適切に設定できます。この機能により、XenServer製品内に静的メモリ範囲の概念が導入されます。静的メモリ範囲は、VMの実行中に調整することはできません。動的範囲は、VMが次に再起動されるまで、常にこの静的範囲内に含まれるように制約されます。静的最小値は、管理者を保護するために存在します。静的最小値は、OSがXenServerサーバー上で実行できる最小メモリ量に設定します。

重要：

この値はオペレーティングシステムごとにサポートされているレベルで設定されているため、静的最小レベルを変更しないことをお勧めします。静的最大レベルを動的最大値よりも高く設定することで、再起動を必要とせずに将来VMにより多くのメモリを割り当てることができます。

DMCメモリの制約

XenCenterは、DMC値を設定する際に次の制約を適用します。

- 動的最小メモリ値は、静的最小メモリ値より低くすることはできません。
- 動的最小メモリ値は、動的最大メモリ値より大きくすることはできません。
- 動的最大メモリ値は、静的最大メモリ値より大きくすることはできません。
- 動的最小メモリは、静的最大値の少なくとも75%である必要があります。これより低い量では、ゲスト内での障害が発生する可能性があり、サポートされていません。

検証チェックに従って、これらの制約を満たす任意の値にVMのメモリプロパティを変更できます。これらの制約に加えて、特定のオペレーティングシステムに対して特定のVMメモリ構成のみをサポートしています。

DMCを有効にするには

1. **リソース**ペインでVMまたはサーバーを選択し、**メモリ**タブを選択します。
2. 構成したいVMまたはVMグループの**編集**ボタンを選択します。
3. 現在のメモリ構成が同じ複数のVMの場合、構成したいVMを選択し、**次へ**をクリックします。
4. 「**この範囲内でメモリを自動的に割り当てる**」オプションを選択します。
5. スライダーを使用するか、値を直接入力して、必要な最大および最小の動的メモリ範囲値を設定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

6. **OK**をクリックして変更を適用し、ダイアログボックスを閉じます。

DMCを無効にするには

1. **リソース**ペインでVMまたはサーバーを選択し、**メモリ**タブを選択します。
2. 構成したいVMまたはVMグループの**編集**ボタンを選択します。
3. 現在のメモリ構成が同じ複数のVMの場合、構成したいVMを選択し、**次へ**をクリックします。
4. 「**固定メモリを設定**」オプションを選択します。
5. 割り当てるメモリ量を指定します。
6. **OK**をクリックして変更を適用し、ダイアログボックスを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VMメモリ

VMプロパティの表示

VMの**全般**タブには、以下のセクションと情報が含まれています。

全般

全般タブの**全般**セクションには、以下の情報が表示されます。

- **名前**: このVMに付けた名前。
- **説明**: このVMに付けた説明。
- **タグ**: VMに割り当てたタグ。
- **フォルダー**: VMに割り当てたフォルダー。
- **オペレーティングシステム**: このVMで実行されているオペレーティングシステム。
- **BIOS文字列のコピー**: BIOS文字列がこのVMにコピーされたかどうか。
- **NUMA最適化**: このVMでNUMAが有効になっているかどうか、およびそれが適用されるノードの数。
- **vApp**: VMが属しているvApp（存在する場合）。
- **VMグループ**: VMが属しているVMグループ（存在する場合）。
- **ホームサーバー**: このVMに関連付けられているホームサーバー。
- **UUID**: このVMの一意の識別子。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「**全般**」タブの「**Virtualization & VM Tools**」セクションには、次の情報が表示されます。

- **仮想化モード**: VMの仮想化モード。
- **仮想化の状態**: XenServer® VM ToolsがVMにインストールされているかどうか。
- **管理エージェントのバージョン**: 管理エージェントのバージョン (Windows VMの場合)。
- **VM Toolsのバージョン**: インストールされているXenServer VM Toolsのバージョン (Linux VMの場合)。
- **インストールされているドライバーとバージョン**: VMにインストールされているドライバーとそのバージョン番号を一覧表示します。

起動オプション

「**全般**」タブの「**起動オプション**」セクションには、次の情報が表示されます。

- **起動順序**: このVMがどのデバイスから、どのような順序で起動するか。
- **起動モード**: VMがUEFIまたはBIOSのどちらの起動モードであるか。
- **セキュアブート証明書**: VM内のセキュアブート証明書のステータス (UEFIセキュアブートが有効なVMの場合)。

CPU

「**全般**」タブの「**CPU**」セクションには、次の情報が表示されます。

- **仮想CPU**: このVMに現在割り当てられている仮想CPUの数。
- **最大CPU数**: (Linux VMのみ) このVMに割り当て可能なvCPUの最大数。
- **トポロジ**: このVMのソケットトポロジ。

読み取りキャッシュ

全般タブの**読み取りキャッシュ**セクションには、以下の情報が表示されます。

- **ステータス**: VMが読み取りキャッシュを使用しているかどうか。
- **理由**: VMが読み取りキャッシュを使用しているか、または使用していない理由。

デバイスセキュリティ

全般タブの**デバイスセキュリティ**セクションには、以下の情報が表示されます。

- **トラステッドプラットフォームモジュール**: vTPMがこのVMに接続されているかどうか。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

更新

全般タブの**更新**セクションには、以下の情報が表示されます。

- **保留中の推奨タスク**: 適用されたすべての更新から最大限の効果を得るために実行する必要があるアクション。

VMプロパティの変更

リソースペインで仮想マシンを選択します。**全般**タブで、**プロパティ**ボタンを選択して、VMのプロパティを表示または変更します。

全般

編集プロパティアイコン - 線が入った灰色の四角形。(/en-us/xencenter/media/edit-16.png)

全般プロパティタブでは、VMの名前と説明を変更したり、フォルダーに配置したり、タグを管理したりできます。

- VM名を変更するには、**名前**ボックスに新しい名前を入力します。
- VMの説明を変更するには、**説明**ボックスに新しいテキストを入力します。
- VMをフォルダーに配置したり、別のフォルダーに移動したりするには、**フォルダー**ボックスの**変更**をクリックしてフォルダーを選択します。詳細については、「フォルダーの使用」を参照してください。
- VMのタグ付けとタグ解除、およびタグの作成と削除については、「タグの使用」を参照してください。

カスタムフィールド

フィールドアイコン(/en-us/xencenter/media/000-fields-h32bit-16.png)

カスタムフィールドを使用すると、管理対象リソースに情報を追加して、検索や整理を容易にすることができます。詳細については、「カスタムフィールドの使用」を参照してください。

CPUとメモリ

CPUアイコン - 緑色のマイクロチップ。(/en-us/xencenter/media/000-cpu-h32bit-16.png)

CPUとメモリタブでは、VMに割り当てられる仮想CPUの数を調整したり、vCPUのソケットあたりのコア数を設定したり、vCPUの優先度を指定したりできます。これらの設定を変更する前にVMをシャットダウンしてください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

コア/ソケットの数が2の累乗であることを確認してください。そうでない場合、予期しない動作が発生する可能性があります。詳細については、既知の問題を参照してください。vCPUの数は、ソケットあたりのコア数で割り切れる必要があります。

vCPUの数 (Windows VMの場合)

VMに割り当てられた仮想CPUの数を変更するには、**vCPUの数**リストの数値を変更します。VMから最高のパフォーマンスを引き出すには、vCPUの数がホストサーバーの物理CPUの数を超えないようにしてください。

vCPUの最大数 (Linux VMの場合)

VMに割り当てられた仮想CPUの最大数を変更するには、**vCPUの最大数**リストの数値を変更します。VMから最高のパフォーマンスを引き出すには、vCPUの最大数がホストサーバーの物理CPUの数を超えないようにしてください。

トポロジ

デフォルトでは、XenCenter®は各vCPUにソケットあたり1つのコアを割り当てます。**トポロジ**リストには、有効なコア/ソケットの組み合わせが表示されます。この設定を変更するには、リストからオプションを選択します。

選択したvCPUの数に応じて、XenCenterはvCPUの数がソケットあたりのコア数で割り切れるオプションのリストを表示します。たとえば、VMに8つのvCPUを指定した場合、ソケットあたりのコア数は1、2、4、または8のみになります。

現在のvCPU数 (Linux VMの場合)

このリストには、VMに割り当てられている現在のvCPU数が表示されます。VMが実行中でも、リストから必要なvCPU数を選択することで、VMに割り当てられているvCPUの数を増やすことができます。

注:

VMに割り当てられているvCPUの数を減らすには、VMをシャットダウンしてください。

この仮想マシンのvCPU優先度

vCPU優先度とは、ホストCPUスケジューリング中に、同じホストサーバーで実行されている他のVMと比較して、VMの各vCPUに与えられる優先度です。VMのvCPU優先度を調整するには、vCPUスライダーを移動します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer®テンプレートは、一般的なVM構成を提供し、ゲストオペレーティングシステムの種類に基づいてメモリの適切なデフォルトを設定します。VMに割り当てるメモリの量を決定する際には、以下の要素を考慮してください。

- VM上で実行されるアプリケーションの種類。
- 同じメモリリソースを使用する他の仮想マシン。
- 仮想マシンと並行してサーバー上で実行されるアプリケーション。

起動オプション

電源オンアイコン - 白い電源アイコンが重ねられた緑色の円。(/en-us/xencenter/media/001-power-on-h32bit-16.png)

このタブで利用できる起動オプションは、ゲストオペレーティングシステムによって異なります。たとえば、一部のVMでは、起動順序（またはブートシーケンス）を変更したり、追加の起動パラメータを指定したりできます。

- 起動順序を変更するには、**起動順序**リストで項目を選択し、**上に移動**または**下に移動**を選択します。
- 追加の起動パラメータを指定するには、**OS起動パラメータ**ボックスに入力します。たとえば、Debian VMでは、VMをシングルユーザーモードで起動するために「single」と入力できます。

起動オプション

起動オプションアイコン - 白い斑点のある緑色の円が重ねられたVMアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-reboot-vm-h32bit-16.png)

このタブでは、選択したVMの**起動順序**、起動遅延間隔、および**HA再起動優先度**を調整できます。

起動順序

vApp内または高可用性リカバリ操作中に個々のVMが起動される順序を指定し、特定のVMを他のVMより先に起動できるようにします。起動順序の値が0のVMが最初に起動され、次に起動順序の値が1のVMが起動される、というように続きます。

次のVMの起動を試行するまでの時間

この値は、VMが起動してから、起動シーケンス内の次のVMグループを起動するまでに待機する時間を指定する遅延間隔です。この設定は、vApp内のVMと、高可用性リカバリ操作中の個々のVMに適用されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

HA再起動優先度

高可用性が有効なプールでは、この設定により、基盤となるハードウェアが故障した場合、またはホストサーバーが失われた場合に、どのVMが自動的に再起動されるかが指定されます。

- HA再起動優先度が**再起動**のVMは、プール内に十分なリソースがある場合、再起動が保証されます。これらは、**可能な場合は再起動**の優先度を持つVMよりも前に再起動されます。
- HA再起動優先度が**可能な場合は再起動**のVMは、障害計画の計算時には考慮されません。ただし、それらを実行しているサーバーが故障した場合、一度だけ再起動が試みられます。この再起動は、すべての高優先度VMが再起動された後に行われ、起動の試みが失敗した場合、再試行されることはありません。
- HA再起動優先度が**再起動しない**のVMは、自動的に再起動されません。

詳細については、VM起動設定を参照してください。

アラート



アラートタブでは、VMのCPU使用率、ネットワーク、ディスクアクティビティに関するパフォーマンスアラートを設定できます。

アラートの設定については、パフォーマンスアラートの設定を参照してください。

ホームサーバー



VMの**プロパティ**ダイアログボックスの**ホームサーバー**タブでは、VMにリソースを提供するサーバーを指名できます。可能であれば、そのサーバーでVMが起動されます。そのサーバーでVMを起動できない場合、同じプール内の代替サーバーが自動的に選択されます。詳細については、新しいVMの作成を参照してください。

ワークロードバランシング (WLB) が有効なプールでは、ホームサーバーを設定できません。代わりに、XenCenterはXenServerのリソースプールメトリクスを分析し、最適化を推奨することで、VMに最適なサーバーを指名します。これらの推奨事項をリソースパフォーマンスまたはハードウェア密度に合わせるかどうかを決定できます。個々のリソースメトリクス（CPU、ネットワーク、メモリ、ディスク）の重み付けを微調整して、配置の推奨事項と重要なしきい値が環境のニーズに合うようにすることができます。

GPU

GPUアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-get-memory-info-h32bit-16.png)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMの**GPU**プロパティタブで、専用のグラフィックス処理ユニット (GPU) または1つ以上の仮想GPUをVMに割り当てることができます。この構成により、VMはグラフィックスハードウェアに直接アクセスできます。VMはGPUの処理能力を利用でき、CAD/CAM、GIS、医療画像処理アプリケーションなどのハイエンド3Dプロフェッショナルグラフィックスアプリケーションをより適切にサポートします。

注:

NVIDIA GPUがこの機能をサポートしており、vGPUが同じタイプである場合、複数のvGPUをVMに追加できます。

VMにGPUを追加するには、**追加**をクリックします。**GPUタイプ**リストには、利用可能なGPUと仮想GPUのタイプが表示されます。リストから仮想GPUタイプを選択して、特定の仮想GPUタイプをVMに割り当てます。または、**GPU全体をパススルー**を選択して、VMがGPUの全処理能力を使用できるようにします。

注:

GPU仮想化はXenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。ライセンスの詳細については、XenServerライセンスについてを参照してください。

USB

USBアイコン(/en-us/xencenter/media/usb_16.png)

VMの**USB**プロパティタブで、右側のペインにVMに接続されているUSBのリストが表示されます。VMに追加のUSB (最大6個) を接続できます。VMからUSBを取り外すこともできます。

詳細については、「タブ」を参照してください。

注:

- USBパススルーはXenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。
- USBパススルーは、以下のUSBバージョン (1.1、2.0、3.0) でサポートされています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMの管理

- VMの起動
- VMの一時停止と再開
- VMのシャットダウン
- VMの再起動
- リモートコンソールセッションの実行
- VMの移行
- VMの削除
- 変更ブロック追跡
- セキュアブート証明書

VMを起動する

プール内のVMの場合、VMを起動する場所を選択できます。この選択は、選択したホストサーバーで利用可能なリソースに左右されます。サーバーの選択は、VMとプールがどのように構成されているかによって異なります。

- ワークロードバランシング (WLB) が有効になっているプールでは、VMのワークロードに最適な物理サーバーを選択するのに役立つ推奨事項が提供されます。
- ワークロードバランシングが構成されていないプールでは、プール内の任意のサーバーでVMを起動します（そのサーバーで利用可能なストレージに依存します）。詳細については、「新しいVMの作成」を参照してください。

VMが起動して実行中の場合、そのステータスインジケーターは**リソース**ペインの**VM実行中**アイコンに変わります。



特定のサーバーでVMを起動するには

1. **リソース**ペインでVMを選択します。
2. 右クリックして**サーバーで起動**を選択し、ショートカットメニューから目的のサーバーを選択します。または、**VM**メニューで**サーバーで起動**を選択し、サブメニューから目的のサーバーを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

最適なサーバーまたはホームサーバーでVMを起動するには

リソースペインでVMを選択し、ツールバーの**起動**を選択します。



または、次のいずれかを実行します。

- **リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから**起動**を選択します。
- **VM**メニューで**起動**を選択します。

WLBが有効なプールでは、この操作によりVMが最適なサーバーで起動します。

Workload Balancingが構成されていないプールでは、この操作によりVMはホームサーバーで起動します。ホームサーバーが設定されていない場合、VMは最初に利用可能なサーバーで起動します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM(/ja-jp/xenserver/9/vms.html)

VM を一時停止および再開する

VM を一時停止すると、その現在の状態はデフォルトのストレージリポジトリ (SR) 上のファイルに保存されます。この機能により、VM のホストサーバーをシャットダウンできます。サーバーを再起動した後、VM を再開して元の実行状態に戻すことができます。

注:

異なる種類のサーバーで作成された一時停止中の VM は、再開できない場合があります。例えば、Intel VT 対応 CPU を搭載したサーバーで作成された VM は、AMD-V CPU を搭載したサーバーでは再開できない場合があります。

VM を一時停止するには

1. 現在のデフォルト SR がデタッチされている場合は、新しいデフォルト SR を選択します。
2. **リソース**ペインで VM を選択し、ツールバーの**一時停止**を選択します。

   または:

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 右クリックしてショートカットメニューの**一時停止**を選択します。
- **VM**メニューで**一時停止**を選択します。

VM が一時停止されると、そのステータスインジケーターは**リソース**ペインで一時停止中の VM アイコンに変わります。



一時停止中の VM を再開するには

プール内の VM の場合、通常はどこで再開するかを選択できます。サーバーの選択は、VM とプールの構成によって異なります。

- Workload Balancing (WLB) が有効なプールでは、VMのワークロードに最適な物理サーバーを選択するための推奨事項が提供されます。
- Workload Balancingが構成されていないプールでは、プール内の任意のサーバーでVMを再開できます（そのサーバーで利用可能なストレージがある場合）。詳細については、「ホームサーバー」を参照してください。

サスペンドされたVMが正常に再開されると、そのステータスインジケーターは**リソース**ペインの**VM実行中**アイコンに変わります。



特定のサーバーでサスペンドされたVMを再開するには

1. **リソース**ペインでVMを選択します。
2. 右クリックして**サーバーで再開**を選択し、ショートカットメニューで目的のサーバーを選択します。または、**VM**メニューで**サーバーで再開**を選択し、サブメニューで目的のサーバーを選択します。

最適なサーバーまたはホームサーバーでVMを自動的に再開するには

リソースペインでVMを選択し、ツールバーの**再開**を選択します。



または、次のいずれかを実行します。

- **リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューの**再開**を選択します。
- **VM**メニューで**再開**を選択します。

WLBが有効なプールでは、VMは最適なサーバーで起動します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Workload Balancingが構成されていないプールでは、VMはホームサーバーで起動します。ホームサーバーが設定されていない場合、または指定されたサーバーが利用できない場合、VMは最初に利用可能なサーバーで起動します。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- VM

VMをシャットダウンする

実行中のVMをシャットダウンする必要がある理由はいくつか考えられます。例えば、:

- そのリソースを解放するため
- その仮想ネットワークハードウェアを再構成するため
- その仮想ディスクストレージを再構成するため

VMは、VMのコンソールまたはXenCenterを使用してシャットダウンできます。XenCenterは、VMをシャットダウンする2つの方法を提供します。

- ソフトシャットダウンは、VMのグレースフルシャットダウンを実行し、実行中のすべてのプロセスが個別に停止されます。
- 強制シャットダウンは、ハードシャットダウンを実行し、物理サーバーの電源プラグを抜くことと同じです。これにより、すべての実行中のプロセスが常にシャットダウンされるとは限らず、この方法でVMをシャットダウンするとデータが失われるリスクがあります。ソフトシャットダウンが不可能な場合にのみ、強制シャットダウンを使用してください。

XenServer VM Toolsがインストールされていないは、強制シャットダウンでのみシャットダウンできます。この状況を避けるため、すべての仮想マシンにXenServer VM Toolsをインストールしてください。詳細については、XenServer VM Toolsを参照してください。

ソフトシャットダウンを実行するには

リソースペインでVMを選択し、ツールバーの**シャットダウン**を選択します。



または、:

- 右クリックし、**リソース**ペインのショートカットメニューで**シャットダウン**をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **VM**メニューで、**シャットダウン**をクリックします。

VMのフローティングコンソールウィンドウ内からVMをシャットダウンするには、ライフサイクルアイコンをクリックし、**シャットダウン**をクリックします。



実行中のプロセスが停止されると、VMのコンソールにシャットダウンメッセージが表示されます。シャットダウンが完了すると、**リソース**ペインのVMステータスインジケーターが停止したVMアイコンに変わります。



強制シャットダウンを実行するには

リソースペインでVMを選択し、ツールバーの**強制シャットダウン**をクリックします。



または:

- 右クリックし、**リソース**ペインのショートカットメニューで**強制シャットダウン**をクリックします。
- **VM**メニューで、**強制シャットダウン**をクリックします。

VMのフローティングコンソールウィンドウ内からVMを強制的にシャットダウンするには、ライフサイクルアイコンをクリックし、**強制シャットダウン**をクリックします。



シャットダウンが完了すると、**リソース**ペインのVMステータスインジケーターが停止したVMアイコンに変わります。



関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- 仮想マシン

VMを再起動する

XenCenter®でVMを再起動する方法は2つあります。

- ソフト再起動は、VMを正常にシャットダウンして再起動します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 強制再起動は、シャットダウン手順を実行せずにVMを再起動するハード再起動です。この操作は、物理サーバーの電源プラグを抜き、再び差し込んで電源を入れるのと同じように機能します。

強制再起動は、致命的なエラーなどの状況からシステムを強制的に復旧させるための最終手段としてのみ実行してください。

XenServer VM Toolsがインストールされていないvmは、強制再起動でのみ再起動できます。この状況を避けるため、すべての仮想マシンにXenServer VM Toolsをインストールしてください。詳細については、XenServer VM Toolsを参照してください。

VMを正常に再起動するには

「**リソース**」ペインでVMを選択し、ツールバーの「**再起動**」を選択します。



または：

- 右クリックして、「**リソース**」ペインのショートカットメニューから「**再起動**」を選択します。
- 「**VM**」メニューで、「**再起動**」を選択します。

VMはシャットダウンされ、再起動されます。このプロセスが完了すると、「**リソース**」ペインのステータスインジケーターが「**VM起動**」アイコンに戻ります。



強制再起動を実行するには

「**リソース**」ペインでVMを選択し、ツールバーの「**強制再起動**」を選択します。

強制再起動アイコン - 中央から白い線が放射状に伸びる赤いアイコン。(/en-us/xencenter/media/001-force-reboot-h32bit-16.png)

または、:

- 右クリックし、「**リソース**」ペインのショートカットメニューから「**強制再起動**」を選択します。
- 「**VM**」メニューで「**強制再起動**」を選択します。

VMは直ちにシャットダウンされ、再起動されます。このプロセスが完了すると、「**リソース**」ペインのステータスインジケーターが「**VM起動**」アイコンに戻ります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VM起動アイコン - 緑色の再生アイコンが重ねられたVMアイコン。(/en-us/xencenter/media/000-start-vm-h32bit-16.png)

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- VM

VMデバイスモデルを再起動する

「**デバイスモデルの再起動**」オプションを使用すると、VMまたは複数のVMのデバイスモデルを再起動できます。デバイスモデルを再起動すると、VMは更新プログラムに含まれる修正や改善の恩恵を受けることができます。

デバイスモデルを再起動するには

VMメニューのデバイスモデル再起動オプション(/en-us/xencenter/media/restart-device-model.png)

1. 「**リソース**」ペインでVMまたは複数のVMを選択します。
2. 「**VM**」メニューで、「**デバイスモデルの再起動**」をクリックします。
3. 確認のため「**はい**」をクリックします。

デバイスモデルの再起動中、VMは「**リソース**」ペインに黄色の三角形のアイコン (黄色のアイコン(/en-us/xencenter/media/yellow-migrate-icon.png)) を表示します。この間、VMを停止、起動、または移行することはできません。

リモートコンソールセッションを実行する

VMでリモートコンソールセッションを開くには、VMを選択し、コンソールタブを選択します。

Linux 仮想マシン

Linux VMでグラフィカルコンソールセッションを実行したり、VMへのSSH接続を開始したりできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

Linuxゲストの場合、一定期間の非アクティブ状態（通常10分）の後、画面のブランク設定が有効になることがあります。画面がブランクになると、コンソールは黒くなり、キーが押されるまでブランクのままで、その後テキストが再表示されます。

ゲスト内でこの動作を無効にするには、カーネルブートパラメータに`consoleblank=0`を追加します。

SSHコンソール

XenCenterでは、VMのコンソールタブにある**Open SSH Console**ボタンを使用して、Linux VMへのSSH接続を開始できます。この操作により、VM用のSSHコンソールが外部のポップアップウィンドウで起動します。SSHコンソールでは、VMのコンソールとの間でコンテンツをコピー/ペーストすることもできます。SSHコンソール機能を使用するには、次の条件を満たす必要があります。

- VMとXenCenter®が同じネットワーク上でアクセス可能であることを確認する
- VMにLinuxゲストエージェントをインストールします。Linuxゲストエージェントのインストールに関する詳細については、Linux VMを参照してください。
- VMでSSHデーモンが実行されており、リモート接続を受け入れていることを確認する

注:

SSHコンソールを閉じると、コンソールで実行中のすべての操作が終了します。

Windows 仮想マシン

Windows VM上のコンソールセッションは、標準グラフィックコンソールまたはリモートデスクトップコンソールのいずれかを使用でき、どちらも完全なキーボードとマウスの対話性をサポートしています。標準グラフィックコンソールは、XenServerがVMコンソールへのリモートアクセスを提供するために開発した内蔵VNCテクノロジーを使用します。リモートデスクトップコンソールは、RDP（Remote Desktop Protocol）テクノロジーを使用します。標準グラフィックコンソールとリモートデスクトップコンソールの切り替えは、XenCenterの**コンソール**タブにある**リモートデスクトップに切り替える/デフォルトデスクトップに切り替える**ボタンを使用して行います。

リモートデスクトップコンソール接続を使用するには、以下の要件が満たされていることを確認してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 仮想マシンでリモートデスクトップが有効になっている必要があります。Windows仮想マシンでリモートデスクトップを有効にする方法については、Windows VMを参照してください。
- XenServer® VM Toolsがインストールされている必要があります。
- 仮想マシンにはネットワークインターフェースがあり、XenCenterに接続できる必要があります。
- Credential Security Support Providerプロトコル（CredSSP）の更新は、RDP接続のクライアントとサーバーの両方に適用されているか、またはどちらにも適用されていない必要があります。詳細については、`<https://support.microsoft.com/en-gb/help/4295591/credssp-encryption-oracle-remediation-error-when-to-rdp-to-azure-vm>`を参照してください。

リモートデスクトップコンソール環境に影響を与える様々なXenCenter設定があります。

- Windowsキーの組み合わせはリモートデスクトップコンソールに送信されます。
- リモートデスクトップコンソールで実行されているアプリケーションからのサウンドは、ローカルコンピューターで再生されます。
- デフォルトでは、リモートデスクトップコンソールセッションを開くと、仮想コンソールセッションを作成する代わりに、リモートサーバー上のコンソールセッションに接続されます。
- XenCenterはRDP接続を自動的にスキャンし、利用可能になったときにリモートデスクトップコンソールに自動的に切り替えることができます。

これらの設定やその他のリモートデスクトップコンソール設定は、XenCenterの**オプション**ダイアログボックスの**コンソール**タブから変更できます。XenCenterオプションの変更を参照してください。

注:

XenCenterにRDPを使用して接続するのではなく、ローカルマシンでXenCenterを使用することで、VNCのパフォーマンスを向上させることができます。

VMグループの管理

VMを、グループの配置ルールに従ってプール内のホストで起動されるVMグループに割り当てることができます。利用可能な配置タイプは「アンチアフィニティ」と「ノーマル」です。

ノーマル配置のVMグループには、特別な動作はありません。

アンチアフィニティ配置のVMグループには、以下のルールがあります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. 特定のグループ内のすべてのVMが単一のホストでのみ実行されることはありません。
2. 各ホストにおけるグループ内のVMの数は、可能な限り均等になります。

アンチアフィニティ配置ルールを持つVMグループ内のVMが起動されるか、ホストから退避される場合、XenServer®は、VMグループがこれらのアンチアフィニティ配置ルールに可能な限り厳密に従うことができるホストにVMを配置することを選択します。配置ルールに違反せずにVMの起動またはホストからの退避を実行できない場合、XenServerは配置ルールに従うことよりもアクションの完了を優先します。

アンチアフィニティルールが破られた場合、アラートが生成されます。アンチアフィニティグループ内の実行中のすべてのVMが単一のホストに存在する場合、アラートが生成されます。この状況が変化すると、アラートはクリアされます。グループ内のVMが1台しか実行されていない場合、またはグループ内のVMが実行されていない場合、このアラートは生成されません。詳細については、「XenCenter Alerts」を参照してください。

次のシナリオでは、VMグループの配置ルールは適用されません。

- Workload Balancing (WLB) が有効になっているプールでは、VMの起動、再起動、再開、または移行にVMグループは使用されません。代わりに、Workload BalancingはXenServerリソースプールメトリックを分析し、最適化を推奨することで、VMに最適なサーバーを指名します。これらの推奨事項により、VMのアンチアフィニティルールが破られる可能性があります。
- VMにホームサーバーが定義されている場合、この設定はVMグループの設定よりも優先されます。

VMグループを使用する際の考慮事項:

- プールごとに5つのアンチアフィニティグループのみがサポートされます。
- VMグループに属するVMをクローンする場合、新しいVMは同じVMグループに追加されません。新しいVMのVMグループを明示的に設定する必要があります。
- VMを以前のスナップショットに復元する場合、VMは現在のVMグループ設定を保持します。この設定は、スナップショットを作成したときの値には変更されません。
- VMのエクスポートでは、VMグループ設定は保持されません。このVMを再度インポートしても、VMグループには追加されません。インポートしたVMには、VMグループを明示的に設定する必要があります。

VMグループの管理ダイアログ

このダイアログでは、VMグループの作成、削除、更新ができます。

VMグループの管理ダイアログは、次のいずれかの場所から開くことができます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **リソース**ビューで、プールを右クリックし、**VMグループの管理...**を選択します。
- XenCenterのメインメニューで、**プール > VMグループの管理**を選択できます。詳細については、VMグループの管理を参照してください。

このウィンドウには、プール内のVMグループが一覧表示され、それぞれのグループについて以下が表示されます。

- ユーザー定義のグループ名
- このグループが使用する配置の種類
- グループのオプションの説明
- グループ内のVMの数

VMグループを選択すると、そのグループ内のVMのリストが右側のパネルに表示されます。

VMグループの作成

注:

5つを超えるアンチアフィニティグループを作成しようとすると、XenCenter®は、この操作がサポートされていないことを示す警告を表示します。

新しいVMグループを作成するには：

1. **VMグループの管理**ダイアログで、**新しいVMグループ**をクリックします。**新しいVMグループ**ウィザードが開きます。
2. **名前**パネルで、以下を指定します。

   - VMグループの**名前**。
   - (オプション) グループの**説明**。
   - 使用する**配置**タイプ。「アンチアフィニティ」オプションがデフォルトで選択されています。

   次へをクリックします。
3. **仮想マシン**パネルで、新しいグループに追加するVMを選択します。

   VMが既存のグループのメンバーである場合、XenCenterは、このグループにVMを追加すると既存のグループから削除されるという警告を表示します。VMは複数のVMグループに属するこ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

とはできません。この移動を続行するには**はい**をクリックし、VMを現在のグループに残すには**いいえ**をクリックします。

続行するには**次へ**をクリックします。

4. **完了**パネルで、指定した設定を確認します。正しければ、**完了**をクリックします。

VMグループを削除する

VMグループを削除するには：

1. **VMグループの管理**ダイアログで、削除したいグループを選択します。
2. **削除**をクリックします。
3. XenCenterは、VMグループを削除しようとしていることを警告します。削除を確定するには、**はい**をクリックします。

VMを含むVMグループを削除すると、VMはグループに関連付けられなくなりますが、それ以外には影響しません。

VMグループのプロパティを更新する

1. **VMグループの管理**ダイアログで、編集したいグループを選択します。
2. **プロパティ**をクリックします。
3. **名前**パネルで、グループの**名前**と**説明**を更新できます。**配置**は更新できません。
4. **仮想マシン**パネルで、グループ内のVMを追加および削除できます。
5. **OK**をクリックします。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- VM配置

仮想マシンを移行する

このトピックでは、プール内およびプール間、ならびにスタンドアロンサーバー間での仮想マシンの移行と移動に関する情報について説明します。

定義:

- VMの移行: 実行中または一時停止中のVMを別のサーバーまたはプールに移動すること。
- VMの移動: シャットダウンされたVMを別のサーバーまたはプールに移動すること。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ライブマイグレーション

ライブマイグレーションは、すべてのバージョンのXenServerで利用できます。この機能を使用すると、VMのディスクが両方のサーバーで共有されているストレージ上にある場合に、実行中または一時停止中のVMをXenServerサーバー間で移動できます。この機能により、ワークロードバランシング (WLB)、高可用性、ローリングプールアップグレード (RPU) などのプールメンテナンス機能でVMを自動的に移動できます。ストレージは同じプール内のホスト間でのみ共有できます。その結果、VMは同じプール内でのみ移動できます。

VMのライブマイグレーション中、そのメモリはネットワークを使用して2つのホスト間でデータストリームとして転送されます。マイグレーションストリーム圧縮機能は、このデータストリームを圧縮し、低速ネットワークでのメモリ転送を高速化します。この機能はデフォルトで無効になっていますが、XenCenterまたはxe CLIを使用して変更できます。詳細については、Pool Properties - Advanced および Pool parameters を参照してください。

ライブマイグレーションにより、VMのダウンタイムなしで以下のことが可能になります。

- ワークロードの平準化
- インフラストラクチャの回復力
- サーバーソフトウェアのアップグレード

ストレージライブマイグレーション

ストレージライブマイグレーションを使用すると、VMのディスクが2つのホスト間で共有されているストレージ上にない場合でも、VMをあるホストから別のホストに移動できます。その結果、ローカルストレージに保存されているVMをダウンタイムなしで移行でき、サービス中断をほとんど発生させることなくVMをあるプールから別のプールに移動できます。移行先サーバーの選択は、VMとプールの構成方法によって異なります。たとえば、ワークロードバランシング (WLB) が有効になっているプールでは、VMのワークロードに最適な物理サーバーを選択するのに役立つ推奨事項が提供されます。詳細については、Choosing an Optimal Server for VM Initial Placement, Migrate, and Resume を参照してください。

ストレージライブマイグレーションにより、システム管理者は次のことが可能になります。

- XenServerプール間でVMのバランスを再調整する（例：開発環境から本番環境へ）
- VMのダウンタイムなしでスタンドアロンのXenServerサーバーをアップグレードおよび更新する
- XenServerサーバーのハードウェアをアップグレードする

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注：

- VMをあるホストから別のホストに移行すると、VMの*状態*が保持されます。状態情報には、VMを定義および識別する情報と、CPUおよびネットワーク使用量などの履歴パフォーマンスメトリックが含まれます。

ストレージライブマイグレーションを使用すると、仮想ディスクを同じプール内の1つのストレージリポジトリ（SR）から別のSRに移動することもできます。詳細については、「仮想ディスクの移動」を参照してください。

互換性要件

ライブマイグレーションまたはストレージライブマイグレーションでVMを移行する場合、VMとサーバーは以下の互換性要件を満たす必要があります。

一般的な要件：

- ターゲットホストには、ソースホストと同じかそれ以降のバージョンのXenServerがインストールされている必要があります。これには、ターゲットホストがソースホストと同じかそれ以降のレベルの更新プログラムを持っていることを確認することも含まれます。
- 移行する各Windows VMには、XenServer VM Tools for Windowsがインストールされている必要があります。
- ソースの場所が同じプール内にあるVMを3台以上同時に移行することはできません。

CPU要件：

- ソースホストとターゲットホストのCPUが異なる場合、ターゲットホストはソースホストと同等以上の性能を持っている必要があります。一般的に、これはターゲットが同じかより新しいCPUを持っていることを意味します。
  - 同じプール内で移行する場合、プールはVMを互換性のある状態にするよう自動的に試行します。
  - プール間で移行する場合、VMが移行先プールの機能セットと互換性があることを確認する必要があります。
- AMDプロセッサとIntelプロセッサ間でVMをライブマイグレーションすることはできません。

メモリ要件:

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ターゲットホストは、十分な空きメモリ容量を持っているか、動的メモリ制御を使用して十分な容量を解放できる必要があります。メモリが不足している場合、移行は完了しません。
- ストレージ移行のみ: ソースプール内のホストは、移行中の停止したVMを実行するために十分な空きメモリ容量を持っている必要があります。この要件により、停止したVMは移行プロセスのどの時点でも起動できるようになります。

ディスク容量要件:

- ストレージ移行のみ: ターゲットストレージには、受信VM用に十分な空きディスク容量が必要です。必要な空き容量は、VDIサイズの3倍（スナップショットなし）になる場合があります。十分なスペースがない場合、移行は完了しません。
- ソースストレージには、移行中にVMのVDIの一時スナップショットを作成するための十分な空きディスク容量が必要です。十分なスペースがない場合、移行は完了しません。必要な空き容量は、VMのディスクサイズの最大2倍になる場合があります。

ライブマイグレーションとストレージライブマイグレーションの制限事項

ライブマイグレーションとストレージライブマイグレーションには、以下の制限事項があります。

- SR-IOVを使用しているVMは移行できません。詳細については、「SR-IOV対応NICの使用」を参照してください。
- 移行中はVMのパフォーマンスが低下します。
- 高可用性機能を使用している場合、移行対象のVMが保護対象としてマークされていないことを確認してください。
- `reset`に設定された`on-boot`オプションを持つVMは移行できません。詳細については、「Intellicache」を参照してください。
- VMの移行完了までの時間は、VMのメモリフットプリントとそのアクティビティに依存します。さらに、VDIのサイズとVDIのストレージアクティビティは、ストレージライブマイグレーションで移行されるVMに影響を与える可能性があります。
- 変更ブロック追跡が有効になっているVMを移行するために、ストレージライブマイグレーションを使用することはできません。ストレージライブマイグレーションを試みる前に、変更ブロック追跡を無効にしてください。詳細については、「変更ブロック追跡」を参照してください。
- ストレージライブマイグレーションは、Machine Creation Servicesによって作成されたVMでは使用できません。
- ストレージマイグレーションは、非永続VMでは使用できません。

GFS2またはXFS SR上にVDIを持つVMには、以下の追加の制限が適用されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ストレージライブマイグレーションは、同じプール内でもプール間でも使用できません。
    - プール内では、VMがシャットダウンされている場合にVMの移動操作を使用できます。

ライブマイグレーションまたはストレージライブマイグレーションを使用してVMを移行する手順については、「*VMを移行または移動するには*」のセクションを参照してください。

VMの移動

XenCenter®では、**VMの移動**ウィザードを使用して、シャットダウンされたVMを同じプール内の新しいストレージリポジトリに移動できます。手順については、次のセクションを参照してください。

> **注:**
>
> シャットダウンされたVMをSR間で移動することには、ストレージマイグレーションを実行する場合と同じ制限があります。詳細については、前のセクションを参照してください。

VMを移行または移動するには

1. リソースペインでVMを選択し、VMのステータスに応じて次のいずれかを実行します。
    - ライブマイグレーションまたはストレージライブマイグレーションを使用して、実行中または一時停止中のVMを移行するには：**VM**メニューで、**サーバーに移行**を選択し、次に**VMの移行ウィザード**を選択します。この操作により、**VMの移行**ウィザードが開きます。

      > **注:**
      >
      > メンバーが16以下のプールの場合、右クリックメニューに、VMの移行先として利用可能なサーバーのリストが表示されます。ただし、より大規模なプールの場合、サーバーはメニューに表示されません。代わりに、**Migrate to Server** ウィザードを開く必要があります。

    - 停止中のVMを移動するには: **VM** メニューで、**Move VM** を選択します。この操作により、**Move VM wizard** が開きます。
2. **Destination** リストからスタンドアロンサーバーまたはプールを選択します。
3. **Home Server** リストからサーバーを選択してVMのホームサーバーを割り当て、**Next** を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. **Storage** ページで、移行するVMの仮想ディスクを配置するストレージリポジトリを指定します。**Next** を選択します。

   - **Place all migrated virtual disks on the same SR** オプションはデフォルトで選択されており、移行先プール上のデフォルトの共有SRを表示します。
   - **Place migrated virtual disks onto specified SRs** を選択して、**Storage Repository** リストからSRを指定します。このオプションを使用すると、移行するVM上の各仮想ディスクに異なるSRを選択できます。

5. **Networking** ページで、選択したVM内の仮想ネットワークインターフェイスを、移行先プールまたはサーバー内のネットワークにマッピングします。**Target Network** リストを使用してオプションを指定し、**Next** を選択します。
6. VMの仮想ディスクの移行に使用される、移行先プール上のストレージネットワークを選択します。**Next** を選択します。

   注:

   パフォーマンス上の理由から、ライブマイグレーションに管理ネットワークを使用しないことをお勧めします。

7. 構成設定を確認し、**Finish** を選択してVMの移行または移動を開始します。

XenServerまたはCitrix Hypervisor™の古いバージョンから移行する場合、新しい仮想化機能が適用されるようにするため、VMを移行した後、すべてのVMを再起動する必要がある場合があります。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 仮想マシンを移行する

VMを削除する

仮想マシンを削除すると、その構成とファイルシステムがサーバーから削除されます。VMを削除する際、VMに接続されている仮想ディスクやVMのスナップショットを削除するか保持するかを選択できます。

VMを削除するには:

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. VMをシャットダウンします。
2. **リソース**パネルで停止中のVMを選択し、右クリックしてショートカットメニューから**削除**を選択します。または、**VM**メニューから**削除**を選択します。
3. 接続されている仮想ディスクを削除するには、そのチェックボックスを選択します。

   重要:

   VMの仮想ディスクドライブに保存されているデータはすべて失われます。

4. VMのスナップショットを削除するには、そのチェックボックスを選択します。
5. **削除**をクリックします。

   削除操作が完了すると、VMは**リソース**ペインから削除されます。

   注:

   親VMが削除されたVMスナップショット（*孤立スナップショット*）は、**リソース**ペインから引き続きアクセスできます。これらのスナップショットは、エクスポート、削除、またはVMやテンプレートの作成に使用できます。**リソース**ペインでスナップショットを表示するには、ナビゲーションペインで**オブジェクト**を選択し、リソースペインで**スナップショット**グループを展開します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VMs

変更ブロック追跡

XenServer® の変更ブロック追跡機能は、XenServer を使用しているお客様に増分バックアップ機能を提供します。この機能は XenServer Premium Edition でのみ利用可能です。

VM の仮想ディスクイメージ (VDI) に対して変更ブロック追跡を有効にすると、VDI 内で変更されたブロックはすべてログファイルに記録されます。VDI のスナップショットを作成するたびに、このログファイルを使用して、前回の VDI スナップショット以降に変更されたブロックを特定できます。この機能を使用すると、変更されたブロックのみをバックアップできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

変更ブロック追跡は、CLI または API を使用して有効にできます。増分バックアップを実行するために使用するサードパーティ製品は、通常この機能を有効にします。VDI に対して変更ブロック追跡が有効になっている場合、VDI の変更されたブロックをリストする追加情報が計算され、保存されます。このプロセスでは、メモリやスペースなどのリソースが使用されます。

変更ブロック追跡の詳細については、開発者向けドキュメント を参照してください。

変更ブロック追跡機能を使用するサードパーティ製ソリューションのリストについては、サードパーティ製バックアップソリューション を参照してください。

VM での変更ブロック追跡の無効化

XenCenter を使用して、VM に関連付けられているすべての VDI の変更ブロック追跡を無効にできます。VM の変更ブロック追跡を無効にする前に、次の点を考慮してください。

- ストレージライブマイグレーションを使用して VM を移動するには、その VM の変更ブロック追跡を無効にする必要があります。
- 変更ブロック追跡を無効にすると、バックアップソリューションが VM に関連付けられている VDI の増分バックアップを実行できなくなります。別の増分バックアップセットを実行するには、変更ブロック追跡を再度有効にする必要があります。
- XenCenter を使用して変更ブロック追跡を再度有効にすることはできません。

変更ブロック追跡を無効にするには、次の手順を実行します。

1. 左側のパネルで、変更ブロック追跡を無効にする VM を選択します。
2. メインメニューから、**VM**、次に **変更ブロック追跡の無効化** を選択します。
3. 開いた確認ダイアログで、**はい** を選択して続行します。

VDIの変更ブロック追跡ステータスを表示する

SRの**ストレージ**タブで、VDIの変更ブロック追跡が有効になっているかどうかを確認できます。

SRが変更ブロック追跡が利用可能なプールの一部である場合、XenCenterは**変更ブロック追跡**列を表示します。この列には、VDIの変更ブロック追跡が**有効**か**無効**かが表示されます。

セキュアブート証明書

UEFIセキュアブートが有効なVMの場合、XenCenter®はセキュアブート証明書のステータスを表示し、利用可能な場合は更新を許可します（例：証明書の有効期限切れを修正するため）。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

UEFIセキュアブート証明書の修正に関する詳細については、適切なXenServer 8.4またはXenServer 9のドキュメントを参照してください。

XenCenterで証明書の状態を確認する

次のプロセスを使用して、特定のVMまたはテンプレートの証明書の状態を確認できます。

1. 左側のパネルで、確認したいVMまたはテンプレートを選択します。
2. タブで、セクションを展開します。
3. **セキュアブート証明書**フィールドを確認します。
   - **更新可能** - VMは修正の対象であり、次回の起動時に更新のフラグを立てることができます。
   - **OK** - VMは修正を必要としません。
   - **更新フラグ付き** - VMは次回の起動時に証明書の更新が予定されています。

次のプロセスを使用して、更新が利用可能なVMを特定するために、検索機能を使用することもできます。

1. 新しい検索を開始します。
2. VMを検索するように選択します。
3. **セキュアブート証明書**でフィルタリングするように選択します。
4. 「**利用可能なアップデート**」の値を選択します

証明書更新用にVMをフラグ付けまたはフラグ解除する

次回起動時に1つ以上のVMを証明書更新用にフラグ付けするには、次のプロセスを使用します。

1. 左側のパネルで、証明書更新用にフラグ付けしたいVMを選択します。
2. メインメニューから「**VM**」を選択し、次に「**セキュアブート証明書**」を、次に「**証明書更新用にフラグ付け**」を選択します。または、右クリックして「**セキュアブート証明書**」>「**証明書更新用にフラグ付け**」を選択します。

次回起動時に1つ以上のVMを証明書更新用にフラグ解除するには、次のプロセスを使用します。

1. 左側のパネルで、証明書更新用にフラグ解除したいVMを選択します。
2. メインメニューから「**VM**」を選択し、次に「**セキュアブート証明書**」を、次に「**証明書更新用にフラグ解除**」を選択します。または、右クリックして「**セキュアブート証明書**」>「**証明書更新用にフラグ解除**」を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMのインポートとエクスポート

OVF/OVAパッケージ、ディスクイメージ、およびXenServer XVAファイルからVMをインポートできます。VMはOVF/OVAパッケージおよびXenServer XVAファイルとしてエクスポートできます。XenCenterでVMをインポートおよびエクスポートするには、**インポート**および**エクスポート**ウィザードを使用します。

XenServer®サーバーで作成されたUEFI対応VMを、OVA、OVF、またはXVAファイルとしてインポートまたはエクスポートできます。他のハイパーバイザーからUEFI対応VMをインポートすることはサポートされていません。

注記:

- より新しいシステムからエクスポートされたVMを、より古いシステムにインポートできる保証はありません。たとえば、早期アクセス更新チャネルの最新レベルにあるホストからVMをエクスポートした場合、通常更新チャネルの最新レベルにあるホストにこのVMをすぐにインポートできない可能性があります。そのホストにVMをインポートする前に、通常チャネルのホストは、VMがエクスポートされた時点の早期アクセスチャネルと同じレベルの更新に達している必要があります。

  この動作は、後の更新で追加される可能性のある追加のメタデータが原因であり、以前のバージョンでは理解できません。
- VMがエクスポートされると、VMグループ設定は保持されません。

サポートされているインポートおよびエクスポート形式

形式	説明
オープン仮想化フォーマット (OVFおよびOVA)	OVFは、1つ以上のVMで構成される仮想アプライアンスをパッケージ化および配布するためのオープン標準です。OVFおよびOVAファイル形式に対するXenCenterのサポートの詳細については、Open Virtualization Formatを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

形式	説明
ディスクイメージ形式	Virtual Hard Disk (VHD) および Virtual Machine Disk (VMDK) 形式のディスクイメージファイルは、**インポート**ウィザードを使用してインポートできます。仮想ディスクイメージのみが利用可能で、それに関連付けられたOVFメタデータがない場合に、ディスクイメージをインポートしたい場合があります。サポートされているディスクイメージ形式の詳細については、Disk Image Formats (VHD and VMDK)を参照してください。
XenServer XVA形式	XVAは、ディスクリプタとディスクイメージの単一ファイルアーカイブとして単一のVMをパッケージ化するための、Xenベースのハイパーバイザーに固有の形式です。そのファイル名拡張子は`.xva`です。

どの形式を使用しますか?

OVF/OVAを使用する目的:

- OVFをサポートする他のハイパーバイザーとXenServerのvAppおよびVMを共有する。
- 複数のVMを保存する。
- vAppまたはVMを破損や改ざんから保護する。
- ライセンス契約を含める。
- OVFパッケージをOVAに保存することで、vAppの配布を簡素化する。

XVAを使用する目的:

- コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、スクリプトからVMをインポートおよびエクスポートする。

(Windows VMのみ) Windows用XenServer VM Toolsのインストール

プールにConversion Managerバージョン8.5.0以降が含まれている場合、インポートされたファイルからWindows VMが正常に作成された後、修正プロセスが開始されます。修正プロセスは、

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMware Toolsが存在する場合、それらをアンインストールします。このオプションを選択した場合、XenServer VM Toolsもインストールされます。

(Linux VMのみ) オペレーティングシステム修正

他のハイパーバイザーで作成されたLinux VMのインポートの場合、XenCenter®には高度なハイパーバイザー相互運用機能であるオペレーティングシステム修正が含まれています。この機能は、XenServer以外のハイパーバイザーで作成された一部のLinux VMに対して、基本的なレベルの相互運用性を確保することを目的としています。

オペレーティングシステム修正は、インポートされたVMのDVDドライブに接続される自動起動ISOイメージとして提供されます。Linux VMが最初に起動されるときに必要な構成変更を実行し、その後VMをシャットダウンします。次に新しいLinux VMが起動されるとき、起動デバイスがリセットされ、VMは正常に起動します。

注記:

OS修正は、ゲストオペレーティングシステムをあるハイパーバイザーから別のハイパーバイザーへ変換しません。

OS修正ISOは、XenCenterのインストールディレクトリ内の`C:\Program Files (x86)\XenServer\XenCenter\External Tools`にあります。

インポートされたディスクイメージおよびOVF/OVAパッケージでOS修正を使用するには、XenCenterの**インポート**ウィザードの**OS修正設定**ページでこの機能を有効にします。XenServerが使用できるように、修正ISOをコピーする場所を指定してください。

OS修正の要件

OS修正には、40 MBの空き容量と256 MBの仮想メモリを備えたISO SRが必要です。

オープン仮想化フォーマット (OVF および OVA)

OVF は、分散管理タスクフォース (DMTF) によって規定されたオープン標準であり、1つ以上の仮想マシン (VM) で構成される仮想アプライアンスをパッケージ化および配布するためのものです。

An **OVF パッケージ**には、VM を記述するメタデータとファイル要素、および OVF パッケージ内のアプリケーションの展開と操作に重要な追加情報が含まれています。そのファイル名拡張子は`.ovf` です。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

An **Open Virtual Appliance (OVA)** は、`.ova` 拡張子を持つ単一ファイルアーカイブ形式の OVF パッケージです。

ロールベースアクセス制御 (RBAC) が実装されている XenServer 環境では、Pool Admin または Pool Operator の RBAC ロールを持つユーザーのみが OVF および OVA パッケージをインポートできます。OVF および OVA パッケージをエクスポートするには、Pool Admin、Pool Operator、VM Power Admin、または VM Admin のロールが必要です。RBAC ロールの詳細については、「RBAC の概要」を参照してください。

OVF パッケージの内容?

An **OVF パッケージ**には常に記述子ファイル (`*.ovf`) が含まれており、その他いくつかのファイルが含まれる場合もあります。

ファイルの種類	説明
記述子	記述子は、サービスの仮想ハードウェア要件を指定します。この記述子には、仮想ディスクの説明、サービス自体、ゲスト OS、EULA、アプライアンス VM の起動と停止に関する指示、およびサービスのインストールに関する指示などの情報も含まれる場合があります。記述子ファイルのファイル名拡張子は `.ovf` です。
マニフェスト	マニフェストは、パッケージ内のすべてのファイルの SHA-1 ダイジェストであり、破損を検出することでパッケージの内容を検証できます。マニフェストファイルのファイル名拡張子は `.mf` です。
署名	署名は、パッケージに含まれる X.509 証明書の公開鍵で署名されたマニフェストのダイジェストです。これにより、パッケージの作成者を検証できます。署名ファイルのファイル名拡張子は `.cert` です。
仮想ディスク	OVFはディスクイメージ形式を指定しません。OVFパッケージには、仮想ディスクをエクスポートした仮想化製品によって定義された形式の仮想ディスクを構成するファイルが含まれています。XenServerはDynamic VHD形式のディスクイメージを含むOVFパッケージを

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ファイルの種類	説明
	生成し、VMware製品とVirtual BoxはStream-Optimized VMDK形式の仮想ディスクを含むOVFパッケージを生成します。

OVAパッケージは、OVFパッケージを構成するファイルを含む、Tape Archive (tar) 形式の単一のアーカイブファイルです。

どの形式を使用するか?

OVFパッケージには、ファイル内の個々のディスクイメージにアクセスしやすくする一連の非圧縮ファイルが含まれています。OVAパッケージは単一の大きなファイルです。このファイルを圧縮することはできますが、OVFのような一連のファイルの柔軟性はありません。

OVAは、Webダウンロード用のパッケージ作成など、単一のファイルを持つことが有利で、パッケージの取り扱いが容易になる特定のアプリケーションに適しています。OVAパッケージのエクスポートとインポートは、OVFよりも時間がかかります。

接続されたvTPMを持つ仮想マシンをエクスポートするためにOVA/OVFを使用することはできません。

(Windows VMのみ) Windows用XenServer® VM Toolsのインストール

プールでConversion Manager仮想アプライアンスバージョン8.5.0以降も実行している場合、インポートの一部としてWindows用XenServer VM Toolsをインストールすることを選択できます。インポートプロセスの一部としてWindows用XenServer VM Toolsをインストールしないことを選択した場合、VMが完全にサポートされるように、後で手動でインストールしてください。詳細については、XenServer VM Toolsのインストールを参照してください。

(Linux VMのみ) オペレーティングシステム修正の使用

XenCenter®には、高度なハイパーバイザー相互運用機能であるオペレーティングシステム修正が含まれています。この機能は、XenServer以外のハイパーバイザーで作成されたLinux VMの基本的な相互運用性を確保することを目的としています。別のハイパーバイザーで作成されたディスクイメージをインポートする際にLinuxテンプレートを選択した場合、代わりにインポートの一部としてオペレーティングシステム修正を実行することを選択できます。

詳細については、VMのインポートとエクスポートについてを参照してください。

OVFに関する詳細情報

OVFに関する詳細については、DMTFウェブサイトの以下のドキュメントを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オープン仮想化フォーマット仕様

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VMのインポートとエクスポート

ディスクイメージ形式 (VHD、VHDX、AVHDX、および VMDK)

インポートウィザードを使用して、ディスクイメージをリソースプールまたは特定のホストにVMとしてインポートできます。

仮想ディスクイメージのみが利用可能で、それに関連付けられたOVFメタデータがない場合に、ディスクイメージをインポートしたい場合があります。このシナリオが発生する可能性のある状況は次のとおりです。

- OVFメタデータが読み取れない場合でも、ディスクイメージをインポートすることは可能です。
- OVFパッケージで定義されていない仮想ディスクがある。
- OVFアプライアンスを作成できないプラットフォーム（例えば、古いプラットフォームやイメージ）から移行している。
- OVF情報を持たない古いVMwareアプライアンスをインポートしたい。
- OVF情報を持たないスタンドアロンVMをインポートしたい。

利用可能な場合、Citrix®は、個別のディスクイメージをインポートするだけでなく、OVFメタデータを含むアプライアンスパッケージをインポートすることを推奨します。OVFデータは、**インポート**ウィザードがディスクイメージからVMを再作成するために必要な情報を提供します。この情報には、VMに関連付けられたディスクイメージの数、プロセッサ、ストレージ、メモリの要件などが含まれます。この情報がないと、VMを再作成しようとすると、はるかに複雑でエラーが発生しやすくなる可能性があります。

ロールベースのアクセス制御 (RBAC) が実装されているXenServer環境では、Pool AdminのRBACロールを持つユーザーのみがディスクイメージをインポートできます。詳細については、RBACの概要を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

サポートされているディスクイメージ形式

XenCenter®の**インポート**ウィザードを使用して、次のディスクイメージ形式をインポートできます。

形式	説明
仮想ハードディスク (VHD)	VHDは、MicrosoftがOpen Specification Promiseの一部として指定した仮想ディスクイメージ形式のグループです。そのファイル名拡張子は`.vhd`です。XenCenterは、使用時にのみ領域を割り当てるシンプロビジョニングされた仮想ディスクイメージであるDynamic VHD形式をインポートおよびエクスポートします。
仮想ハードディスク (VHDX)	VHDの後継形式です。ファイル名拡張子は`.vhdx`です。
自動仮想ハードディスク (AVHDX)	VHDXファイルの特定の状態に対するディスクイメージチェックポイントです。ファイル名拡張子は`.avhdx`です。
仮想マシンディスク (VMDK)	VMDKは、VMwareが指定した仮想ディスクイメージ形式のグループです。そのファイル名拡張子は`.vmdk`です。XenCenterは、ストリーム最適化VMDK形式とモノリシックフラットVMDK形式をインポートします。ストリーム最適化VMDKは、VMwareおよびVirtual Boxハイパーバイザー用に生成されたOVFパッケージで使用される形式です。モノリシックフラットVMDKは、VMware管理クライアントがダウンロードできる仮想ディスクの一般的な形式です。

(Windows VMのみ) Windows用XenServer® VM Toolsのインストール

プールでConversion Manager仮想アプライアンスバージョン8.5.0以降も実行している場合、インポートの一部としてWindows用XenServer VM Toolsをインストールすることを選択できます。インポートプロセスの一部としてWindows用XenServer VM Toolsをインストールしないことを選択した場合、VMが完全にサポートされるように、後で手動でインストールしてください。詳細については、XenServer VM Toolsのインストールを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

(Linux VMのみ) オペレーティングシステム修正の使用

XenCenterには、高度なハイパーバイザー相互運用性機能であるオペレーティングシステム修正が含まれています。この機能は、XenServer以外のハイパーバイザーで作成されたLinux VMの基本的な相互運用性を確保することを目的としています。別のハイパーバイザーで作成されたディスクイメージをインポートする際にLinuxテンプレートを選択した場合、代わりにインポートの一部としてオペレーティングシステム修正を実行することを選択できます。

詳細については、VMのインポートとエクスポートについてを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer現行リリース

- VMのインポートとエクスポート

OVF/OVA から VM をインポートする

インポート ウィザードを使用して、OVF/OVA ファイルとして保存されている仮想マシン (VM) をインポートできます。このウィザードでは、XenCenter で VM を作成するために必要な通常の多くの手順 (新しい VM のストレージとネットワークの構成など) に加えて、OVF インポートプロセスの一部として必要な追加の手順 (以下を含む) を実行します。

- EULA の確認/承諾。
- OVF パッケージに証明書またはマニフェストが含まれている場合、セキュリティ設定を指定する。
- XenServer® ホスト以外のハイパーバイザーで構築された Linux VM をインポートする場合、**オペレーティングシステム修正** 設定を指定する。

これらの各手順の詳細については、新しい VM の作成 を参照してください。

XenCenter を使用してインポートされた OVF パッケージは、vApp として表示されます。インポートが完了すると、新しい VM は XenCenter の **リソース** ペインに表示され、新しい vApp は vApp の管理 ダイアログボックスに表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

異なる CPU タイプを持つ別のサーバーからエクスポートされたインポート済み VM を実行できない場合があります。たとえば、Intel VT CPU を搭載したサーバーで作成され、エクスポートされた Windows VM は、AMD-V CPU を搭載したサーバーにインポートすると実行できない場合があります。

前提条件

- OVF/OVA パッケージから VM をインポートするには、特定の権限が必要です。**インポート** ウィザードは、続行する前に、宛先プールで必要なロールを持っていることを確認するためのチェックを実行します。必要な RBAC ロールの詳細については、RBAC ロールと権限の定義を参照してください。

OVF パッケージをインポートする

1. **リソース** ペインで、パッケージをインポートするホストまたはプールを選択します。
2. **ファイル** メニューで、**インポート** を選択します。**インポート** ウィザードが開きます。
3. ウィザードの最初のページで、インポートする OVA/OVF ファイルを見つけ、**次へ** をクリックして続行します。

   - 圧縮されたOVAファイル (`*.ova.gz`) を選択した場合、**次へ**をクリックすると、ファイルはOVAファイルに解凍され、古い `*.ova.gz` ファイルは削除されます。
   - **ファイル名**ボックスにURLの場所（HTTP、HTTPS、ファイル、FTP）を入力した場合、**次へ**をクリックすると、**パッケージのダウンロード**ダイアログが開きます。このダイアログで、OVA/OVFをコピーするXenCenterホスト上のフォルダーを指定します。

4. (オプション) **EULAを確認して同意します。** OVF/OVAにEULAが含まれている場合、**EULA** ページにEULAのテキストが表示されます。EULAに同意する場合は、**同意する**を選択して続行します。
5. **テンプレートを指定します。** **テンプレート**ページで、OVA/OVFファイルからインポートするVMまたは複数のVMに使用するテンプレートを選択します。XenServerに付属のデフォルトテンプレートのみがサポートされています。カスタムテンプレートは使用しないでください。

   このパネルでは、Windows Updateを使用してI/Oドライバーを更新するかどうかも選択できます。

   次へをクリックして続行します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

6. (オプション) **XenServer VM Toolsをインストールします** (Windows VMのみ) プールでConversion Manager仮想アプライアンスバージョン8.5.0以降が実行されている場合、インポートの一部としてWindows用XenServer VM Toolsをインストールすることを選択できます。このツールインストールプロセスは、インポートされたVMが最初に起動した後に実行されます。このオプションを利用するには、VMディスクが共有ストレージ上にあるか、Conversion Managerと同じホスト上にある必要があります。

   a. **XenServer® VM Toolsをインストール**を選択します。

   b. インストールするツールのバージョンを選択します。以下のオプションの1つ以上が利用可能です。

      - Conversion Managerにアップロードされたツールのバージョン
      - インターネットからダウンロードされた最新バージョン
      - XenCenter®からアクセス可能な場所にあるツールインストールファイル

   c. **次へ**をクリックして続行します。

7. (オプション) **VMの場所を指定します。 場所**ページで、インポートするVMをサーバーのローカルストレージに配置する場合は、サーバーを選択します。

   次へをクリックして続行します。

8. **新しいVMのストレージを構成します。**

   「**Storage**」ページで、インポートされた仮想ディスクが配置されるストレージリポジトリ (SR) を選択します。インポートの一部としてXenServer VM Toolsをインストールすることを選択した場合は、VMディスクが共有ストレージ上にあるか、Conversion Managerと同じホスト上にあることを確認してください。

   続行するには「**次へ**」をクリックします。

9. **新しいVMのネットワークを構成します。**

   「**Networking**」ページで、新しいVMの仮想ネットワークインターフェイスの宛先プール/スタンドアロンサーバー内のターゲットネットワークを選択します。

   続行するには「**次へ**」をクリックします。

10. (オプション) **セキュリティ設定を指定します。** 選択したOVF/OVAパッケージが証明書やマニフェストなどのセキュリティ機能で構成されている場合は、「**Security**」ページで必要な情報を指定します。続行するには「**次へ**」を選択します。OVFパッケージで構成されているセキュリティ機能に応じて、このページには異なるオプションが表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- パッケージが署名されている場合、「**デジタル署名を検証**」チェックボックスが表示されます。署名を検証する場合は、このチェックボックスを選択します。「**証明書の表示**」をクリックすると、パッケージの署名に使用された証明書が表示されます。証明書が信頼されていないと表示される場合、ルート証明書または発行証明機関のいずれかがローカルコンピューターで信頼されていない可能性があります。
- パッケージにマニフェストが含まれている場合、「**マニフェストの内容を検証**」チェックボックスが表示されます。ウィザードにパッケージ内のファイルリストを検証させるには、このチェックボックスを選択します。

パッケージがデジタル署名されている場合、関連するマニフェストは自動的に検証されるため、「**マニフェストの内容を検証**」チェックボックスは「**Security**」ページには表示されません。

続行するには「**次へ**」をクリックします。

11. (オプション) **オペレーティングシステム修正を有効にします。** (Linux VMのみ) すべてのVMがWindows VMの場合、このパネルは表示されません。

    インポートするLinux VMがXenServer以外のハイパーバイザー上に構築されている場合は、「**オペレーティングシステム修正を使用**」を選択します。XenServerが使用できるようにFixup ISOをコピーできるISO SRを選択します。詳細については、「VMのインポートとエクスポートについて」を参照してください。

    続行するには「**次へ**」をクリックします。

12. 「**完了**」ページで、すべてのインポート設定を確認します。インポートプロセスを開始してウィザードを閉じるには、「**完了**」をクリックします。

インポートが完了すると、新しくインポートされたVMは**リソース**ペインに表示され、新しいvAppはvAppの管理ダイアログに表示されます。

> **注:**
>
> プールでConversion Manager仮想アプライアンスバージョン8.5.0以降が実行されている場合、インポートされたWindows VMが最初に起動した後、VMware Toolsが存在すれば自動的に削除されます。

インポートされたVMの起動時に発生するエラー

OVFパッケージからインポートしたVMを起動できない場合は、オペレーティングシステム修正機能を使用せずにパッケージを再度インポートしてみてください。**インポート**ウィザードの**OS修正**

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

設定ページで、**オペレーティングシステム修正を使用**チェックボックスをオフにします。詳細については、VMのインポートとエクスポートについてを参照してください。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- VMのインポートとエクスポート

ディスクイメージからVMをインポートする

XenCenter® の **インポート** ウィザードを使用して、ディスクイメージとして保存された仮想マシン (VM) をインポートできます。このウィザードでは、XenCenter で VM を作成するために必要な通常の多くの手順（ホームサーバーの指定、新しい VM のストレージとネットワークの構成など）に加え、ディスクイメージのインポートプロセスの一部として必要となる追加の手順（以下を含む）を実行します。

- 新しいVMの名前を指定し、vCPUとメモリリソースを割り当てる。
- XenServer® ホスト以外のハイパーバイザーで構築されたVMをインポートする場合、**オペレーティングシステム修正** 設定を指定する。

これらの各手順の詳細については、「新しいVMの作成」を参照してください。

前提条件

- ディスクイメージからVMをインポートするには、特定の権限が必要です。**インポート** ウィザードは、続行する前に、宛先プールで必要なロールを持っていることを確認するためのチェックを実行します。必要なRBACロールの詳細については、「RBACロールと権限の定義」を参照してください。
- Windows 11がインストールされているディスクイメージをインポートする場合は、BitLockerが無効になっていることを確認し、vTPMデバイスを削除してください。

ディスクイメージをインポートする

1. **リソース** ペインで、パッケージをインポートするホストまたはプールを選択します。
2. **ファイル** メニューで、**インポート** を選択します。**インポート** ウィザードが開きます。
3. ウィザードの最初のページで、インポートするディスクイメージファイルを見つけて、**次へ** をクリックして続行します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ファイル名 ボックスにURLロケーション（HTTP、HTTPS、ファイル、FTP）を入力し、**次へ** をクリックすると、**パッケージのダウンロード** ダイアログが開きます。このダイアログで、ディスクイメージをコピーするXenCenterホスト上のフォルダーを指定します。

4. **テンプレートを指定します。** ディスクイメージをインポートするVMに使用するテンプレートを選択します。XenServerに付属のデフォルトテンプレートのみがサポートされています。カスタムテンプレートは使用しないでください。

   このパネルでは、BIOS文字列をVMにコピーするかどうか、およびWindows Updateを使用してI/Oドライバーを更新するかどうかも選択できます。

   「**次へ**」をクリックして続行します。

5. (オプション) **XenServer VM Toolsをインストール** (Windows VMのみ) プールでConversion Manager仮想アプライアンスバージョン8.5.0以降が実行されている場合、インポートの一部としてWindows用XenServer VM Toolsをインストールすることを選択できます。このツールインストールプロセスは、インポートされたVMが最初に起動した後に実行されます。このオプションを利用するには、ディスクイメージが共有ストレージ上にあるか、Conversion Managerと同じホスト上にある必要があります。

   a. 「**XenServer VM Toolsをインストール**」を選択します。

   b. インストールするツールのバージョンを選択します。次のオプションのいずれか、または複数が利用可能です。

      - Conversion Managerにアップロードされたツールのバージョン
      - インターネットからダウンロードされた最新バージョン
      - XenCenterからアクセス可能な場所にあるツールインストールファイル

   c. 「**次へ**」をクリックして続行します。

6. **VM名を指定します。**

   「**名前**」ページで、インポートされたディスクイメージから作成する新しいVMの名前を入力します。この値は、新しいVMが作成された後で調整できます。XenCenterではVM名の一意性はチェックされないため、意味のある覚えやすい名前を付けると、異なるVMを管理しやすくなります。詳細については、「VM名と説明」を参照してください。

   「**次へ**」をクリックして続行します。

7. **CPUとメモリリソースを割り当てます。**

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「**CPUとメモリ**」ページで、CPUと初期メモリリソースを割り当てます。これらの値は、新しいVMが作成された後で調整できます。詳細については、「VM CPUとメモリ割り当て」を参照してください。

「**次へ**」をクリックして続行します。

8. (オプション) **VMの場所を指定します。**「**場所**」ページで、インポートするVMをサーバーのローカルストレージに配置する場合は、サーバーを選択します。

   「**次へ**」をクリックして続行します。

9. 「**新しいVMのストレージを構成します。**」.

   「**ストレージ**」ページで、インポートされた仮想ディスクが配置されるストレージリポジトリ（SR）を選択します。インポートの一部としてXeNServer VM Toolsをインストールすることを選択した場合は、ディスクイメージが共有ストレージ上にあるか、Conversion Managerと同じホスト上にあることを確認してください。

   「**次へ**」をクリックして続行します。

10. 「**新しいVMのネットワークを構成します。**」.

    「**ネットワーク**」ページで、新しいVMの仮想ネットワークインターフェースの宛先プール/スタンドアロンサーバー内のターゲットネットワークを選択します。

    「**次へ**」をクリックして続行します。

11. 「**ブートオプションを指定します。**」.

    「**ブートオプション**」ページで、新しいVMのブートモードを指定します。ゲストオペレーティングシステムでサポートされているオプションのみを選択できます。

    - 「**BIOSブート**」：このオプションを選択すると、VMがレガシーBIOSモードで起動します。レガシーBIOSブートはWindows 11 VMではサポートされていません。
    - 「**UEFIブート**」：このオプションを選択すると、VMがUEFIモードで起動します。XenServerは、特定のゲストオペレーティングシステムでのみこのブートモードをサポートしています。UEFIブートがサポートされているゲストオペレーティングシステムの詳細については、「ゲストUEFIブートとセキュアブート」を参照してください。
    - 「**UEFIセキュアブート**」：このオプションを選択すると、VMがUEFIセキュアブートモードで起動します。セキュアブートは、署名されていない、誤って署名された、または変更されたバイナリが起動中に実行されるのを防ぎます。XenServerは、特定のゲストオペレーティングシステムでのみこのブートモードをサポートしています。UEFIセキュアブー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

トがサポートされているゲストオペレーティングシステムの詳細については、「ゲストUEFIブートとセキュアブート」を参照してください。

（VHDX/AVHDXのみ）VHDX/AVHDXファイルからVMをインポートする場合、「**インポート**」ウィザードは、インポートするVHDX/AVHDXファイルからブートモードを自動的に検出しようとします。設定を確認し、VMに元々構成されていたブートモードと同じものが選択されていることを確認してください。

「**次へ**」をクリックして続行します。

12. （オプション）「**オペレーティングシステム修正の有効化**」。Windowsテンプレートを選択した場合、このパネルは表示されません。

    インポートするディスクイメージがXenServer以外のハイパーバイザーで構築されている場合は、「**オペレーティングシステム修正の適用**」を選択します。XenServerが使用できるように、修正ISOをコピーできるISO SRを選択します。詳細については、「VMのインポートとエクスポートについて」を参照してください。

    重要：

    VMware vSphere上のCitrixプロビジョニング (PVS) からVHDX/AVHDXファイルをインポートする場合は、「**オペレーティングシステム修正を適用しない**」を選択します。PVSからのVHDX/AVHDXに対してオペレーティングシステム修正を有効にすると、起動に失敗する可能性があります。

    「**次へ**」をクリックして続行します。

13. 「**完了**」ページで、すべてのインポート設定を確認します。「**完了**」をクリックしてインポートプロセスを開始し、ウィザードを閉じます。

    インポートの進行状況は、XenCenterウィンドウの下部にあるステータスバーに表示され、「**通知**」の下の「**イベント**」ビューにも表示されます。

インポートプロセスには時間がかかる場合があります。所要時間は、インポートされた仮想ディスクのサイズ、利用可能なネットワーク帯域幅、およびXenCenterホストのディスクインターフェイス速度によって異なります。インポートが完了すると、新しくインポートされたVMが「**リソース**」ペインに表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注：

プールでConversion Manager仮想アプライアンスバージョン8.5.0以降が実行されている場合、インポートされたVMが最初に起動した後、VMwareツールが存在すれば、自動的に削除されます。

次のステップ

XenServer VM Tools for Windowsが完全にインストールされていることを確認してください。

- インポートプロセスの一部としてXenServer VM Tools for Windowsをインストールすることを選択した場合は、インポート後にVMを再起動して、ツールのインストールを完了します。
- インポートプロセスの一部としてXenServer VM Tools for Windowsをインストールしないことを選択した場合は、VMが完全にサポートされるように、後で手動でインストールしてください。詳細については、「XenServer VM Toolsのインストール」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VMのインポートとエクスポート

XVA から VM をインポートする

XenCenter の **インポート** ウィザードを使用すると、XVA 形式 (`.xva`) でエクスポートされローカルに保存されている VM、テンプレート、スナップショットをインポートできます。このウィザードは、XenCenter で VM を作成するために必要な通常の多くの手順 (ホームサーバーの指定、新しい VM のストレージとネットワークの構成など) を案内します。これらの各手順の詳細については、「新しい VM の作成」を参照してください。

注:

CPU タイプが異なる別のサーバーからエクスポートされたインポート済み VM は、常に実行できるとは限りません。たとえば、Intel VT CPU を搭載したサーバーで作成され、その後エクスポートされた Windows VM は、AMD-V CPU を搭載したサーバーにインポートしても実行できない場合があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

前提条件

- XVA パッケージから VM をインポートするには、特定の権限が必要です。**インポート** ウィザードは、続行する前に、宛先プールで必要なロールを持っていることを確認するためのチェックを実行します。必要な RBAC ロールの詳細については、「RBAC ロールと権限の定義」を参照してください。

XVA パッケージをインポートする

1. 次のいずれかの方法で、**インポート** ウィザードを開きます。
   - **リソース** ペインで右クリックし、ショートカットメニューから **インポート** を選択します。
   - **ファイル** メニューで、**インポート** を選択します。
2. ウィザードの最初のページで、インポートする XVA ファイルを見つけて、**次へ** をクリックします。**ファイル名** ボックスに URL (HTTP、HTTPS、ファイル、FTP) を入力した場合、**次へ** をクリックすると、**パッケージのダウンロード** ダイアログが開きます。このダイアログで、ファイルをコピーする XenCenter® ホスト上のフォルダーを指定します。
3. **ホームサーバー** ページで、新しい VM を配置する場所を指定します。
   - インポートした VM をホームサーバーに割り当てずにプールに配置するには、リストから宛先プールを選択します。**次へ** をクリックして続行します。
   - インポートした VM をプールに配置し、特定のサーバーに割り当てる (またはスタンドアロンサーバーに配置する) には、サーバーを選択します。

   次へ をクリックして続行します。
4. 「**ストレージ**」ページで、インポートされた仮想ディスクを配置するストレージリポジトリ (SR) を選択し、「**次へ**」をクリックして続行します。
5. 「**ネットワーク**」ページで、インポートするVMの仮想ネットワークインターフェイスを、宛先プール/スタンドアロンサーバーのターゲットネットワークにマッピングします。このページに表示されるネットワークとMACアドレスは、エクスポートファイル内の元の（エクスポートされた）VMの定義の一部として保存されます。受信仮想ネットワークインターフェイスをターゲットネットワークにマッピングするには、「**ターゲットネットワーク**」列のリストからネットワークを選択します。

   「**次へ**」をクリックして続行します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

6. 「**インポート**」ウィザードの最後のページで、選択した構成オプションを確認します。インポートプロセスが完了し、新しいVMがプロビジョニングされたときにインポートされたVMを起動するには、「**インポート後にVMを起動**」チェックボックスを選択します。
7. 「**完了**」をクリックして選択したファイルのインポートを開始し、ウィザードを閉じます。

   インポートの進行状況は、XenCenterウィンドウの下部にあるステータスバーと、「**通知**」の下の「**イベント**」ビューに表示されます。

   インポートプロセスには時間がかかる場合があります。所要時間は、インポートされたVMの仮想ディスクのサイズ、利用可能なネットワーク帯域幅、およびXenCenterホストのディスクインターフェイス速度によって異なります。新しくインポートされたVMが利用可能になると、「**リソース**」ペインに表示されます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VMのインポートとエクスポート

VMをOVF/OVAとしてエクスポートする

XenCenter®の**エクスポート**ウィザードを使用して、1つまたは複数のVMをOVFまたはOVAパッケージとしてエクスポートできます。ウィザードを開くには、エクスポートしたいVMを選択し、**VM**メニューで**エクスポート**を選択します。VMはエクスポートする前にシャットダウンまたは一時停止されている必要があります。

OVF/OVAにエクスポートするには、Pool AdminのRBACロールが必要です。**エクスポート**ウィザードは、起動時にPool Adminロールを持っていることを確認してから続行を許可します。詳細については、RBACの概要を参照してください。

注：

CPUタイプが異なる別のサーバーからエクスポートされたVMをインポートして実行することが常に可能であるとは限りません。たとえば、Intel VT CPUを搭載したサーバーで作成され、その後エクスポートされたWindows VMは、AMD-V CPUを搭載したサーバーにインポートされた場合、実行できない可能性があります。

vTPMがアタッチされた仮想マシンをOVA/OVFを使用してエクスポートすることはできません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

前提条件

- VMをOVF/OVAパッケージとしてエクスポートするには、特定の権限が必要です。**エクスポート**ウィザードは、続行を許可する前に、宛先プールで必要なロールを持っていることを確認するためのチェックを実行します。必要なRBACロールの詳細については、RBACロールと権限の定義を参照してください。

OVF/OVAパッケージのエクスポート

1. **エクスポート**ウィザードを開きます。エクスポートしたいVMを含むプールまたはサーバーを選択し、**VM**メニューで**エクスポート**を選択します。
2. ウィザードの最初のページで、エクスポートファイルの名前を入力します。ファイルを保存するフォルダーを指定します。**形式**リストから**OVF/OVAパッケージ (*.ovf, *.ova)**を選択します。**次へ**を選択します。
3. エクスポートしたいVMを選択します。**次へ**を選択します。
4. **EULAs**ページでは、事前に準備されたエンドユーザーライセンス契約 (EULA) ドキュメント (`.rtf`, `.txt`) をパッケージに追加できます。テキストエディターでEULAの内容を表示するには、リストでそれを選択し、**表示**を選択します。パッケージにEULAを含めたくない場合は、**次へ**を選択して続行します。
5. 詳細オプションページで、マニフェスト、署名、および出力ファイルのオプションを指定するか、**次へ**を選択して続行します。

   a. パッケージのマニフェストを作成するには、**マニフェストを作成**チェックボックスを選択します。マニフェストは、パッケージ内の他のファイルのインベントリまたはリストを提供します。マニフェストは、パッケージが作成されたときに元々含まれていたファイルが、パッケージが到着したときに存在するファイルと同じであることを確認するために使用されます。ファイルがインポートされる際、チェックサムを使用して、パッケージが作成されてからファイルが変更されていないことを検証します。

   b. パッケージにデジタル署名を追加するには、**OVFパッケージに署名**チェックボックスを選択します。証明書を見つけるには、参照します。証明書に関連付けられた秘密鍵を**秘密鍵パスワード**ボックスに入力します。署名されたパッケージがインポートされると、ユーザーは証明書の公開鍵を使用してデジタル署名を検証することで、パッケージ作成者の身元を確認できます。信頼された機関から既に作成し、マニフェストファイルの署名と、その署名を作成するために使用された証明書を含む`.pem`または`.pfx`ファイルとしてエクスポートしたX.509証明書を使用します。

   c. 選択したVMをOVA形式の単一の(`tar`)ファイルとして出力するには、**OVAパッケージを作成**チェックボックスを選択します。異なるファイル形式の詳細については、Open Virtualization Format (OVF and OVA)を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

d. パッケージに含まれる仮想ハードディスクイメージ(`.VHD`ファイル)を圧縮するには、**OVFファイルを圧縮**チェックボックスを選択します。デフォルトでは、アプライアンスパッケージを作成すると、エクスポートされる仮想ハードディスクイメージは、VMに割り当てられたスペースと同じ量のスペースを消費します。たとえば、26 GiBのスペースが割り当てられたVMは、VMが実際にその量のスペースを必要とするかどうかにかかわらず、26 GiBのスペースを消費するハードディスクイメージを持ちます。VHDファイルを圧縮すると、エクスポートプロセスが完了するまでに時間がかかり、圧縮されたVHDファイルを含むパッケージをインポートすると、**インポート**ウィザードがインポート時にVHDイメージを抽出する必要があるため、時間がかかります。

OVAパッケージを作成と**OVFファイルを圧縮**の両方のオプションがチェックされている場合、結果は圧縮されたOVAファイル`*.ova.gz`になります。

6. ウィザードの最終ページで、前のページで選択した設定を確認します。ウィザードにエクスポートされたパッケージを検証させるには、**完了時にエクスポートを検証**チェックボックスを選択します。**完了**を選択して、選択したVMのエクスポートを開始し、ウィザードを閉じます。

   エクスポートプロセスには時間がかかる場合があります。エクスポート速度は、仮想ディスクのサイズ、利用可能なネットワーク帯域幅、およびXenCenterホストのディスクインターフェース速度によって異なります。進行状況は、XenCenterウィンドウの下部にあるステータスバーと、**通知**の下の**イベント**ビューに表示されます。

   進行中のエクスポートをキャンセルするには、**通知** > **イベント**を選択し、イベントリストからエクスポートを見つけて、**キャンセル**を選択します。

VMをXVAとしてエクスポートする

単一のVMをXVAファイルとしてエクスポートするには、**エクスポート**ウィザードを使用します。エクスポートを試みる前に、VMをシャットダウンまたは一時停止してください。

注記：

CPUタイプが異なる別のサーバーからエクスポートされたVMをインポートして実行できない場合があります。たとえば、Intel VT CPUを搭載したサーバーで作成され、その後エクスポートされたWindows VMは、AMD-V CPUを搭載したサーバーにインポートすると実行できないことがあります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

前提条件

- VMをXVAパッケージとしてエクスポートするには、特定の権限が必要です。**エクスポート**ウィザードは、続行する前に、宛先プールで必要なロールを持っていることを確認するためのチェックを実行します。必要なRBACロールの詳細については、「RBACロールと権限の定義」を参照してください。

XVAパッケージをエクスポートする

1. エクスポートするVMを選択し、**VM**メニューで**エクスポート**を選択します。
2. ウィザードの最初のページで、エクスポートファイルの名前を入力し、ファイルを保存するフォルダーを指定します。**形式**リストから**XVAファイル (*.xva)**を選択します。**次へ**をクリックします。
3. **仮想マシン**ページで、エクスポートするVMがリストで選択されています。XVAとしてエクスポートする場合、このリストから選択できるVMは1つだけです。**次へ**をクリックして続行します。
4. ウィザードの最終ページで、前のページで選択した設定を確認します。エクスポートされたXVAファイルをウィザードで検証するには、**完了時にエクスポートを検証**をチェックします。**完了**をクリックして、選択したVMのエクスポートを開始し、ウィザードを閉じます。

   エクスポートプロセスには時間がかかる場合があります。エクスポートの速度は、VMの仮想ディスクのサイズ、利用可能なネットワーク帯域幅、およびXenCenter®ホストのディスクインターフェース速度によって異なります。進行状況は、XenCenterウィンドウの下部にあるステータスバーと、**通知**の下の**イベント**ビューに表示されます。

   進行中のエクスポートをキャンセルするには、**通知** > **イベント**を選択します。イベントのリストでエクスポートを見つけます。**キャンセル**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

スナップショットについて

仮想マシン (VM) スナップショットは、実行中の VM のある時点での記録です。VM のスナップショットを作成すると、そのストレージ情報 (ハードドライブ上のデータ) とメタデータ (構成情報) も保存されます。必要に応じて、スナップショットが自己整合性のあるディスクイメージをキャプチャできるように、スナップショットの作成中は VM 上の I/O が一時的に停止します。

VM をシャットダウンせずにスナップショットを作成できます。この動作は VM のエクスポートとは異なります。スナップショットは通常の VM テンプレートに似ていますが、ネットワーク情報を含む元の VM のすべてのストレージおよび構成情報が含まれています。スナップショットは、バックアップ目的でエクスポートして復元するためのテンプレートを迅速に作成したり、VM を迅速に作成したりするための方法を提供します。

スナップショットはすべてのストレージタイプでサポートされています。

スナップショットの種類

XenCenter® は、次の種類の VM スナップショットをサポートしています。

- ディスクのみ
- ディスクとメモリ

詳細については、「VM スナップショットの作成」を参照してください。

ディスクのみのスナップショット

ディスクのみのスナップショットは、VM の構成情報 (メタデータ) とディスク (ストレージ) を保存し、バックアップ目的でエクスポートおよび復元できるようにします。この種類のスナップショットはクラッシュ整合性があり、Linux VM を含むすべての VM タイプで実行できます。

ディスクとメモリのスナップショット

ディスクとメモリのスナップショットは、VM のメタデータとディスクを保存するだけでなく、VM のメモリ状態 (RAM) も保存します。ディスクとメモリのスナップショットに復元しても VM の再起動は不要で、スナップショットの作成時に VM は実行中または一時停止状態にすることができます。ディスクとメモリのスナップショットは、次の場合に役立ちます。

- ソフトウェアをアップグレードまたはパッチ適用する場合

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 新しいアプリケーションをテストしたいが、VM の現在の変更前の状態 (RAM) に戻せるオプションも必要な場合

孤立したスナップショットへのアクセス

VMのスナップショットを作成し、後で元のVMを削除した場合でも、**リソース**ペインでそれらのスナップショットにアクセスできます。**ナビゲーション**ペインで**オブジェクト**ビューに切り替え、**スナップショット**グループを展開すると、利用可能なすべてのスナップショットが表示されます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

VM スナップショットを作成する

仮想マシンのスナップショットを作成するには、以下の手順を実行します。

1. **リソース**ペインでVMを選択し、**スナップショット**タブをクリックします。
2. **スナップショットの作成**をクリックします。または、,
   - **プロパティ**ペインで右クリックし、**スナップショットの作成**を選択します。
   - **VM**メニューで、**スナップショットの作成**を選択します。
3. 新しいスナップショットの名前と、オプションで説明を入力します。
4. **スナップショット**モードで、作成するスナップショットの種類を選択します。
   - ディスクのみのスナップショットを作成するには、**仮想マシンのディスクをスナップショット**を選択します。
   - ディスクとメモリのスナップショットを作成するには、**仮想マシンのディスクとメモリをスナップショット**を選択します。
5. スナップショットの作成を開始するには、**OK**をクリックします。進行状況はステータスバーと、**通知**の下にある**イベント**ビューに表示されます。

   新しいスナップショットが作成されると、VMの**スナップショット**タブと、**フォルダー**ビューの**リソース**ペインにあるスナップショットグループの下に表示されます。

   - ディスクのみのスナップショット

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



- ディスクとメモリのスナップショット

  ディスクとメモリのスナップショットアイコン - 緑色の時計。(/en-us/xencenter/media/000-vm-snapshot-disk-memory-h32bit-16.png)

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- VM

スナップショットへの復元

スナップショットに復元すると、VMはスナップショット作成時の状態に戻ります。スナップショット作成後にVMに加えられた変更は破棄されます。VMの現在の状態は失われますが、以下の例外があります。VMを以前のスナップショットに復元しても、VMは現在のVMグループ設定を保持します。この設定は、スナップショット作成時の値には変更されません。

スナップショットに復元ダイアログボックスには、以前のスナップショットに復元する前に、現在のVM状態のスナップショットを作成するオプションが含まれています。このオプションを使用すると、必要に応じてVMを現在の状態に簡単に復元できます。

1. **スナップショット**タブで、スナップショットを選択し、**復元**を選択します。

   復元したいスナップショットがスケジュールされたスナップショットである場合は、選択する前に**スナップショット**タブでスケジュールされたスナップショットを表示可能にします。これらのスナップショットを表示可能にするには、**表示** > **スケジュールされたスナップショット**を選択します。
2. VMを以前のスナップショットに戻す前に、VMの現在の状態の新しいスナップショットを作成するには、チェックボックスを選択します。
3. **はい**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

スナップショットから新しいVMを作成する

スナップショットからVMを作成するには、通常のVMテンプレートからVMを作成する場合と同じように、**新しいVM**ウィザードを使用します。

スナップショットからVMを作成するには

1. **スナップショット**タブで、使用するスナップショットを選択し、右クリックしてショートカットメニューから**スナップショットから新しいVM**を選択します。

   新しいVMウィザードが開き、**テンプレート**ページでスナップショットが事前に選択されています。

2. **新しいVM**ウィザードの手順に従ってVMを作成します。詳細については、「新しいVMの作成」を参照してください。

孤立したスナップショットからVMを作成するには

スナップショットの作成に使用された元のVMが削除されている場合、次のようにスナップショットを選択して**新しいVM**ウィザードを開始できます。

1. **リソース**ペインで、フォルダービューに切り替えます。
2. **タイプ別オブジェクト**グループを展開し、次に**スナップショット**グループを展開します。
3. スナップショットを選択し、右クリックしてショートカットメニューから**スナップショットから新しいVM**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

スナップショットから新しいテンプレートを作成する

VMスナップショットを直接コピーすることはできませんが、スナップショットからVMテンプレートを作成し、それを使用してスナップショットのコピーを作成できます。テンプレートは「ゴールドイメージ」であり、VMを作成するための元のコピーとして使用する通常のVMです。VMを希望どおりに設定し、スナップショットを取得したら、そのスナップショットを新しいテンプレートとして保存します。この新しいテンプレートを使用して、同じリソースプール内に特別に構成されたVMのコピーを作成します。この操作を行う際、スナップショットのメモリ状態は保存されません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

スナップショットを新しいテンプレートとして保存するには

1. **スナップショット**タブで、スナップショットを選択し、右クリックして、ショートカットメニューから**スナップショットからテンプレートを作成**を選択します。
2. 新しいテンプレートの名前を入力し、**OK**をクリックします。

   新しいテンプレートが正常に作成されると、**リソース**ペインにカスタムテンプレートとして表示されます。また、**新しいVM**ウィザードの**テンプレート**ページにも表示されます。

孤立したスナップショットを新しいテンプレートとして保存するには

スナップショットの作成に使用された元のVMが削除されている場合、次のように新しいテンプレートとして保存できます。

1. **リソース**ペインで、フォルダービューに切り替えます。
2. **タイプ別のオブジェクト**グループを展開し、次に**スナップショット**グループを展開します。
3. スナップショットを選択し、右クリックして、ショートカットメニューから**スナップショットからテンプレートを作成**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

スナップショットをファイルにエクスポートする

VMスナップショットをエクスポートすると、選択した場所にXVAファイルとしてVMテンプレートとして保存されます。このテンプレートには、スナップショットの完全なコピー（ディスクイメージを含む）が含まれています。その後、テンプレートをインポートして、同じまたは異なるリソースプールでVMを作成するために使用できます。

スナップショットをファイルにエクスポートするには

1. **スナップショット**タブで、スナップショットを選択し、**アクション**を選択してから、**スナップショットをテンプレートとしてエクスポート**を選択します。
2. ウィザードの**ファイルのエクスポートの詳細**ページで、XVAファイル名を入力し、ファイルを作成するフォルダーを参照して見つけます。**次へ**をクリックして続行します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. **完了**ページで、選択した設定を確認します。XenCenterにエクスポートされたパッケージを検証させるには、**完了時にエクスポートを検証**チェックボックスをオンにします。次に、**完了**を選択してエクスポートを開始します。

孤立したスナップショットをエクスポートするには

スナップショットの作成に使用された元のVMが削除されている場合、スナップショットを次のようにエクスポートできます。

1. **リソース**ペインで、フォルダービューに切り替えます。
2. **タイプ別のオブジェクト**グループを展開し、次に**スナップショット**グループを展開します。
3. スナップショットを選択し、右クリックしてコンテキストメニューから**ファイルにエクスポート**を選択します。
4. ウィザードの**ファイルのエクスポートの詳細**ページで、XVAファイル名を入力し、ファイルを作成するフォルダーを参照して見つけます。**次へ**をクリックして続行します。
5. **完了**ページで、選択した設定を確認します。XenCenterにエクスポートされたパッケージを検証させるには、**完了時にエクスポートを検証**チェックボックスをオンにします。次に、**完了**を選択してエクスポートを開始します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 仮想マシン

スナップショットを削除する

スナップショットを削除するには

1. **スナップショット**タブで、スナップショットを選択します。**削除**を選択します。
2. **OK**を選択して確定します。

孤立したスナップショットを削除するには

スナップショットの作成に使用された元のVMが削除されている場合、次のようにスナップショットを削除できます。

1. **リソース**ペインで、フォルダービューに切り替えます。
2. **タイプ別オブジェクト**グループを展開し、次に**スナップショット**グループを展開します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. スナップショットを選択し、右クリックしてショートカットメニューから**スナップショットの削除**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

スケジュールされたスナップショット

スケジュールされたスナップショット機能は、重要なサービスVMのシンプルなバックアップおよび復元ユーティリティを提供します。定期的なスケジュールされたスナップショットは自動的に取得され、個々のVMを復元するために使用できます。

スケジュールされたスナップショットは、プール内の選択されたVMに対してプール全体のスケジュールを設定することで機能します。スナップショットスケジュールが有効になると、指定されたVMのスナップショットは、1時間ごと、1日ごと、または1週間ごとにスケジュールされた時刻に取得されます。

複数のスケジュールされたスナップショットをプールで有効にでき、異なるVMを対象とし、異なるスケジュールを設定できます。VMは一度に1つのスナップショットスケジュールにのみ割り当てることができます。

XenCenter®は、この機能を使用するのに役立つさまざまなツールを提供しています。

- スケジュールされたスナップショットを定義するには、**新しいスナップショットスケジュール**ウィザードを使用します。
- プールに対してスケジュールされたスナップショットを有効化、無効化、編集、および削除するには、**VMスナップショットスケジュール**ダイアログボックスを使用します。
- スナップショットスケジュールを編集するには、**VMスナップショットスケジュール**ダイアログボックスからそのプロパティダイアログボックスを開きます。
- VMをスケジュールされたスナップショットに復元するには、**スナップショット**タブでスナップショットを選択し、VMをそれに復元します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

スケジュールされたスナップショットの作成

新しいスナップショットスケジュールウィザードを使用して、以下の情報を指定できる**スナップショットスケジュール**を作成します。

- スナップショットを作成するプール内のVM
- 作成するスナップショットの種類（ディスクのみ、またはディスクとメモリ）
- スナップショットスケジュール。

新しいスナップショットスケジュールウィザードを開くには、**プール**メニューで**VMスナップショットスケジュール**を選択し、**新規**を選択してウィザードを開始します。

- **スケジュール名**: スナップショットスケジュールの名前を入力します。必要に応じて、説明を入力します。
- **スナップショットスケジュール内のVM**: スナップショットスケジュールに追加するVMを選択します。
- **スナップショットの種類**: 作成するスナップショットの種類を選択します。

  スケジュールされたスナップショットは、ディスクのみのスナップショット、またはディスクとメモリのスナップショットのいずれかです。

  - ディスクのみのスナップショットは、VMのディスク（ストレージ）とメタデータを保存します。これらはクラッシュコンシステントであり、Linux VMを含むすべてのVMタイプで実行できます。
  - ディスクとメモリのスナップショットは、VMのディスク（ストレージ）、メタデータ、および現在のメモリ状態（RAM）を保存します。この種類のスナップショットはサイズが大きくなる可能性があります。
- **スナップショットスケジュール**: スナップショットをスケジュールする頻度を選択します。

  スナップショットスケジュールのオプション:

  - **時間ごとのスナップショット**: 指定されたVMまたはVMのスナップショットは、指定された時間に1時間ごとに取得されます。
  - **毎日スナップショット**: 指定されたVMまたは複数のVMのスナップショットが、毎日指定された時刻に取得されます。
  - **毎週スナップショット**: 指定されたVMまたは複数のVMのスナップショットが、指定された曜日の指定された時刻に取得されます。1つまたは複数の曜日を選択できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

「**保持するスナップショットの数**」セクションで、保持するスナップショットスケジュールの数を指定します。取得されたスケジュール済みスナップショットの数がこの値を超えると、最も古いスナップショットは自動的に削除されます。

> **注:**
>
> VMごとに最大10個のスケジュール済みスナップショットを取得できます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- VM

スケジュールされたスナップショットの管理

プールの**スケジュールされたスナップショット**を有効化、無効化、編集、削除するには、**プール**メニューの**VMスナップショットスケジュール**ダイアログボックスを使用し、**VMスナップショットスケジュール**を選択します。

スナップショットスケジュールの有効化

スナップショットスケジュールを有効にすると、「オン」になります。指定されたVMの自動スナップショットは、スケジュールされた時刻に生成されます。スケジュールが無効になるまで、スケジュールされたスナップショットが取得されます。

スナップショットスケジュールを有効にするには：

1. **リソース**ペインでプールまたはプール内の任意のサーバーまたはVMを選択し、**プール**メニューで**VMスナップショットスケジュール**を選択します。
2. プールで定義されているスナップショットスケジュールの一覧からスナップショットスケジュールを選択し、**有効化**を選択します。

スナップショットスケジュールの無効化

自動スナップショットの取得を停止したい場合は、**VMスナップショットスケジュール**ダイアログボックスを使用して**スナップショットスケジュール**を無効にできます。無効化されたスナップショットスケジュールは、いつでも再度有効にできます。

スナップショットスケジュールを無効にするには：

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. **リソース**ペインでプールまたはプール内の任意のサーバーまたはVMを選択し、**プール**メニューで**VMスナップショットスケジュール**を選択します。
2. プールで定義されているスナップショットスケジュールの一覧からスナップショットスケジュールを選択し、**無効化**を選択します。

スナップショットスケジュールの編集

スナップショットスケジュールのプロパティを変更できます。たとえば、VMを追加したり、スナップショットスケジュールを変更したりできます。

1. **リソース**ペインでプールまたはプール内の任意のサーバーまたはVMを選択します。**プール**メニューから**VMスナップショットスケジュール**を選択します。
2. プールで定義されているスナップショットスケジュールのリストから、スナップショットスケジュールを選択します。
3. **プロパティ**をクリックし、必要なタブに移動します。
   - **全般** スナップショットスケジュールの名前と説明を変更します。
   - **カスタムフィールド** スナップショットスケジュールに追加のテキストフィールドと日付/時刻フィールドを定義します。
   - **スナップショットスケジュール内のVM** リストからVMを選択して、スナップショットスケジュールに追加します。
   - **スナップショットの種類** 作成するスナップショットの種類を変更します。
   - **スナップショットスケジュール** VMスナップショットを取得するために使用するスケジュールを変更し、スナップショットの保持値を変更します。
4. **OK** をクリックして変更を保存し、**プロパティ** ウィンドウを閉じます。

スナップショットスケジュールの削除

スナップショットスケジュールを削除するには：

1. **リソース** ペインで、プール、またはプール内の任意のサーバーまたはVMを選択します。**プール** メニューで、**VMスナップショットスケジュール** を選択します。
2. スナップショットスケジュールのリストからスケジュールを選択し、**削除** を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMをスナップショットに戻す

VMをスケジュールされたスナップショットに戻すには：

1. VMを選択し、**スナップショット**タブを選択します。
2. スケジュールされたスナップショットを表示するには、**表示**を選択し、次に**スケジュールされたスナップショット**を選択します。スナップショットタブは、デフォルトではスケジュールされたスナップショットを表示しません。
3. VMを戻したいスケジュールされたスナップショットを選択し、**元に戻す**を選択します。
4. スナップショットスケジュールに戻す前に、VMの現在の状態の新しいスナップショットを作成するには、チェックボックスを選択します。
5. **はい**をクリックして、VMを選択したスナップショットに戻します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- VM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer® vApp

XenServer vApp: 1つまたは複数の関連する仮想マシン (VM) の論理グループで、単一のエンティティとして管理できます。vApp 内の VM は、1つの XenServer サーバー上に存在する必要はなく、通常のルールを使用してプール内に分散されます。

vApp が起動されると、その中に含まれる VM はユーザー定義の順序で起動され、相互に依存する VM を自動的に順序付けることができます。この機能により、サービス全体を再起動する必要がある場合に、依存する VM の起動を手動で順序付ける必要がなくなります。

「vApp の管理」ダイアログボックスの使用

XenCenter® の「**vApp の管理**」ダイアログボックスを使用して、選択したプール内で vApp の作成、削除、変更、vApp の起動とシャットダウン、vApp のインポートとエクスポートを行うことができます。リストで vApp を選択すると、その vApp に含まれる VM が右側の詳細ペインに表示されます。

コントロール	機能
(/en-us/xencenter/media/000-new-virtual-appliance-h32bit-16.png) **新しい vApp**	「**新しい vApp**」ウィザードを開きます。「vApp の作成」を参照してください。
(/en-us/xencenter/media/000-delete-virtual-appliance-h32bit-16.png) **削除**	選択した vApp を削除します。vApp 内の VM は削除されません。
(/en-us/xencenter/media/edit-16.png) **プロパティ**	選択した vApp の「**プロパティ**」ダイアログボックスを開きます。ここで、vApp の名前または説明を変更したり、vApp から VM を追加または削除したり、VM の起動順序と遅延間隔を変更したりできます。「vApp の変更」を参照してください。
(/en-us/xencenter/media/001-power-on-h32bit-16.png) **起動**	選択した vApp 内のすべての VM を、個々の VM に設定された起動順序と遅延間隔の値で指定された順序で起動します。「vApp の起動とシャットダウン」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

コントロール	機能
シャットダウン	選択したvApp内のすべてのVMをシャットダウンします。(/ja-jp/xencenter/current-release/vapps-start.html)を参照してください。
(/en-us/xencenter/media/000-import-virtual-appliance-h32bit-16.png) **インポート**	**インポート**ウィザードを開き、OVF/OVAパッケージをvAppとしてインポートします。(/ja-jp/xencenter/current-release/vapps-export.html)を参照してください。
(/en-us/xencenter/media/000-export-virtual-appliance-h32bit-16.png) **エクスポート**	**エクスポート**ウィザードを開き、vAppをOVF/OVAパッケージとしてエクスポートします。(/ja-jp/xencenter/current-release/vapps-export.html)を参照してください。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- (/ja-jp/xenserver/9/vms/vapps.html)

vAppを作成する

vAppを作成するには、vAppの管理ダイアログボックスを使用します。

1. プールを選択し、**プール**メニューから**vAppの管理**を選択します。

   または、**リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから**vAppの管理**を選択します。

2. vAppの管理ダイアログボックスの左上隅にある**新規vApp...**を選択します。
3. 新しいvAppの名前と（オプションで）説明を入力し、**次へ**を選択します。任意の名前を選択できますが、わかりやすい名前が最適です。同じ名前のvAppを複数持たないようにすることをお勧めしますが、必須ではありません。XenCenter®はvApp名の一意性制約を強制しません。スペースを含む名前に引用符を使用する必要はありません。
4. 新しいvAppに含める仮想マシンを選択し、**次へ**を選択します。**検索**ボックスを使用して、指定された文字列を含む名前のVMのみを一覧表示できます。
5. vApp内のVMの起動シーケンスを指定し、**次へ**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

値	説明
開始順序	vApp内で個々のVMが起動される順序を指定し、特定のVMを他のVMより先に再起動できるようにします。開始順序の値が0のVMが最初に起動し、次に開始順序の値が1のVMが起動するといった具合です。
次のVMを起動するまでの待機時間	この値は遅延間隔であり、VMが起動してから、起動シーケンス内の次のVMグループが起動するまでに待機する時間を指定します。

注:

vApp内のVMのシャットダウン順序は、常に設定された起動順序の逆になります。

6. ウィザードの最終ページで、vAppの設定を確認できます。**Previous**を選択して戻り、設定を変更するか、**Finish**を選択してvAppを作成し、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- vApps

vAppsの変更

「**vAppsの管理**」ダイアログを使用して、以下の操作を実行できます。

- vAppの名前または説明を変更する
- vAppからVMを追加または削除する
- vApp内のVMの起動順序を変更する

「vAppsの管理」ダイアログの使用

1. プールを選択し、**プール**メニューで「**vAppsの管理**」を選択します。

   または、**リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから「**vAppsの管理**」を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. vAppを選択し、「**プロパティ**」を選択してその「**プロパティ**」ダイアログボックスを開きます。

   プロパティ編集アイコン - 線が入った灰色の四角。(/en-us/xencenter/media/edit-16.png)

3. 「**全般**」タブを選択して、vAppの名前または説明を変更します。
4. 「**仮想マシン**」タブを選択して、vAppからVMを追加または削除します。
5. 「**VM起動順序**」タブを選択して、vApp内の個々のVMの起動順序と遅延間隔の値を変更します。

コントロール	説明
起動順序	vApp内で個々のVMが起動される順序を指定します。これにより、特定のVMを他のVMより先に再起動できます。起動順序の値が0のVMが最初に起動し、次に起動順序の値が1のVMが起動するといった具合です。
次のVMの起動を試行するまでの時間	この値は遅延間隔です。VMが起動してから、シーケンス内の次のVMグループが起動するまでに待機する時間を指定します。

注:

vApp内のVMのシャットダウン順序は、常に構成された起動順序の逆になります。

6. **OK**を選択して変更を保存し、**プロパティ**ダイアログボックスを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- vApp

vAppを削除する

プールからvAppを削除するには、**vAppの管理**ダイアログボックスを使用します。

1. プールを選択し、**プール**メニューで**vAppの管理**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

または、**リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから**vAppの管理**を選択します。

2. リストから削除するvAppを選択し、**削除**を選択します。



vApp内のVMは削除されません。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- vApp

vAppの起動とシャットダウン

vAppを起動またはシャットダウンするには、**プール**メニューからアクセスできる**vAppの管理**ダイアログボックスを使用します。

vAppを起動すると、その中のすべてのVMが自動的に順番に起動されます。起動順序と遅延間隔の値は、個々のVMに指定されており、起動シーケンスを制御します。これらの値は、vAppの作成時に設定でき、**vAppのプロパティ**ダイアログまたは個々の**VMのプロパティ**ダイアログからいつでも変更できます。

詳細については、以下を参照してください。

- vAppの作成
- vAppのプロパティ
- VMのプロパティ

vApp内のVMのシャットダウン順序は、常に設定された起動順序の逆になります。

vAppを起動するには

1. **vAppの管理**ダイアログボックスを開きます。vApp内のVMが配置されているプールを選択し、**プール**メニューで**vAppの管理**を選択します。

   または、**リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから**vAppの管理**を選択します。

2. vAppを選択し、**起動**を選択して、それに含まれるすべてのVMを起動します。



© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

vAppをシャットダウンするには

1. **vAppの管理**ダイアログボックスを開きます。vApp内のVMが配置されているプールを選択し、**プール**メニューで**vAppの管理**を選択します。

   または、リソースペインで右クリックし、ショートカットメニューから**vAppの管理**を選択します。

2. vAppを選択し、**シャットダウン**を選択して、vApp内のすべてのVMをシャットダウンします。

   シャットダウンアイコン - 白い電源アイコンが重ねられた赤い円。(/en-us/xencenter/media/001-shut-down-h32bit-16.png)

   すべてのVMでソフトシャットダウンが試行されます。ソフトシャットダウンが不可能な場合は、強制シャットダウンが実行されます。ソフトシャットダウンと強制シャットダウンの詳細については、VMのシャットダウンを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- vApp

vApp のエクスポートとインポート

vApp をエクスポートするには

vApp は OVF/OVA パッケージとしてエクスポートできます。

1. **vApp の管理**ダイアログボックスを開きます。**プール**メニューで、**vApp の管理**を選択します。
2. リストからエクスポートする vApp を選択し、**エクスポート**を選択します。

   vApp エクスポートアイコン - 青い上向き右カーブ矢印が重ねられた vApp アイコン。(/en-us/xencenter/media/000-export-virtual-appliance-h32bit-16.png)

3. OVF/OVA として VM をエクスポートする に記載されている手順に従います。

   vApp のエクスポートには時間がかかる場合があります。

vApp をインポートするには

OVF/OVA パッケージは vApp としてインポートされます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. **vApp の管理**ダイアログボックスを開きます。**プール**メニューで、**vApp の管理**を選択します。
2. **インポート**を選択して、**インポート**ウィザードを開きます。

   vApp インポートアイコン - 緑色の上向き左カーブ矢印が重ねられた vApp アイコン。(/en-us/xencenter/media/000-import-virtual-appliance-h32bit-16.png)
3. OVF/OVA から VM をインポートする に記載されている手順に従います。

   インポートが完了すると、**vApp の管理**ダイアログボックスの vApp のリストに新しい vApp が表示されます。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- vApps

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMとvAppの保護

XenServer®は、VMとvAppを保護するためのさまざまな機能を提供します。

高可用性

高可用性は、プール内の個々のサーバーの障害によって引き起こされる重要なVMのダウンタイムから保護します。この機能により、VMは最小限のサービス中断で、同じプール内の代替サーバーで自動的に再起動されることが保証されます。XenServerは、プールデータベースをすべてのノードにわたって常にレプリケートします。プールデータベースは、追加の安全のためにハートビートSR上の共有ストレージにもバックアップされます。

詳細については、以下の記事を参照してください。

- 高可用性について
- 高可用性の要件
- VMの起動設定
- 高可用性の構成
- 高可用性の無効化
- 高可用性設定の変更

ディザスタリカバリ

ディザスタリカバリ (DR) は、プライマリデータサイトでの複数のサーバーの損失から保護します。DRが有効になっている場合、プールデータベースはミラーリングされたストレージを介して常にレプリケートされます。プライマリサイトで災害が発生した場合、DRはミラーリングされたストレージからセカンダリ (DR) サイトのプールにVMとvAppを回復できます。

詳細については、以下の記事を参照してください。

- XenServer DRについて
- DRの構成
- フェイルオーバー
- フェイルバック
- テストフェイルオーバー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- 高可用性
- ディザスターリカバリー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

高可用性

XenServer® の高可用性により、基盤となるハードウェア障害またはサーバーの損失が発生した場合に、VM が自動的に再起動できるようにします。高可用性とは、重要な VM が常にリソースプールで実行されていることを保証することです。高可用性が有効になっている場合、いずれかのサーバーで障害が発生すると、その VM は同じプール内の他のサーバーで再起動します。この機能により、システムまたはコンポーネントの障害が発生した場合でも、最小限のサービス中断で重要なサービスを復元できます。

プールコーディネーターサーバーで障害が発生した場合、XenServer の高可用性は、新しいサーバーをプールコーディネーターとして引き継ぐように選択します。プール内の任意のサーバーがプールコーディネーターサーバーになることができます。XenServer は、プールデータベースをすべてのノードにわたって常にレプリケートします。また、追加の安全性のため、ハートビート SR 上の共有ストレージにデータベースをバックアップします。

XenServer の高可用性には、主に2つの側面があります。

- サーバー障害の確実な検出
- 迅速な回復を可能にする障害計画の計算

可用性のためのハートビート

サーバー障害を確実に検出することは困難です。サーバーが一時的に消えたのか、壊滅的な障害が発生したのかをリモートで区別する必要があるためです。高可用性が誤ってプールコーディネーターサーバーが故障したと判断し、新しいプールコーディネーターを選出した場合、元のサーバーが復帰すると予期せぬ結果が生じる可能性があります。同様に、ネットワークの問題によりプールが2つの等しい半分に分割された場合、両方が同時に共有ストレージにアクセスするのではなく、片方のみがアクセスするようにする必要があります。XenServer は、ストレージハートビートとネットワークハートビートという2つのメカニズムを持つことで、これらの問題をすべて解決します。

プールで高可用性を有効にすると、iSCSI、Fibre Channel、または NFS ストレージリポジトリをハートビート SR として指定します。XenServer は、この SR にいくつかの小さな仮想ディスクを自動的に作成します。最初のディスクは、リソースプール内のすべてのサーバーによって共有クォーラムディスクとして使用されます。各サーバーは共有ディスク内に一意のブロックを割り当て、定期的にそのブロックに書き込みを行うことで、自身が稼働中であることを示します。高可用

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

性が起動すると、すべてのサーバーはストレージチャネルとネットワークチャネルの両方でデータを交換します。ネットワークハートビートは、ポート694を介したUDPトランスポートを使用します。この動作は、両方のチャネルでどのサーバーが見えるかを示し、どのI/Oパスが機能していて、どのI/Oパスが機能していないかを示します。この情報は、固定点に達し、プール内のすべてのサーバーが互いに見えるものについて合意するまで交換されます。この合意が成立すると、高可用性が有効になり、プールが保護されます。この高可用性有効化プロセスは、大規模なプールでは安定するまでに数分かかることがありますが、高可用性を初めて有効にする場合にのみ必要です。

高可用性がアクティブになった後、各サーバーは、ハートビート仮想ディスクにストレージ更新を定期的に書き込み、管理インターフェースを介してネットワークパケットを送信します。ネットワークアダプターが冗長性のためにボンディングされており、ストレージインターフェースがサポートされている場合は動的マルチパスを使用していることを確認してください。この構成により、単一のアダプターまたは配線の障害が可用性の問題を引き起こすことはありません。

詳細については、以下を参照してください。

- ネットワークボンディング
- ストレージマルチパス

サーバーフェンシング

高可用性にとって最悪のシナリオは、サーバーがオフラインであると見なされているにもかかわらず、共有ストレージに書き込みを続けている場合です。このシナリオは、永続データの破損につながる可能性があります。XenServer は、この状況を防ぐためにサーバーフェンシングを使用します。サーバーは自動的に電源がオフになり、プール内の共有リソースへのアクセスから隔離されます。フェンシングは、障害が発生したサーバーが共有ディスクに書き込むのを防ぎます。この動作により、保護された仮想マシンがプール内の他のサーバーに移動される自動フェイルオーバー中に、保存されたデータが損傷するのを防ぎます。

サーバーは、以下のいずれかの条件が満たされない限り、ハートビート障害が発生した場合に自己フェンス（つまり、電源をオフにして再起動）します。

- すべてのサーバーでストレージハートビートは存在しますが、ネットワークがパーティション分割されている（つまり、2つのサーバーグループが存在する）場合。この場合、最大のネットワークパーティションのメンバーであるすべてのサーバーは稼働を継続し、より小さいネットワークパーティションのサーバーは自己フェンスします。ここでの仮定は、ネットワーク障害によってVMが隔離され、動作するネットワークを持つサーバーで再起動する必要があるということです。ネットワークパーティションのサイズが同じ場合、安定した選択機能に従って、そのうちの1つだけが自己フェンスします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ストレージハートビートが失われ、ネットワークハートビートが残っている場合、サーバーはネットワーク経由で他のすべてのサーバーを認識できるかを確認します。この条件が満たされる場合、サーバーはストレージデバイスが故障したという仮定で稼働を継続します。このアクションはVMの安全性を損なうものではありませんが、ネットワークハートビートが失われると、両方のハートビートが消失したことになるため、フェンシングが発生します。

障害発生時のキャパシティプランニング

ハートビートシステムはサーバー障害の信頼性の高い通知を提供するため、高可用性の第2ステップである障害発生時のキャパシティプランニングに進みます。

リソースプールは、複数のサーバー（例えば32台）で構成され、それぞれ異なる量のメモリと異なる数の実行中のVMを持つ可能性があります。XenServerの高可用性は、任意のサーバー障害時に実行されるアクションを計算する障害計画を動的に算出します。この障害計画は、単一のサーバー障害によって、そのVMを別のサーバーで再起動することが不可能になる（例えば、他のサーバーのメモリ不足のため）ことがないように保証します。単一サーバーの障害に対処するだけでなく、XenServerの高可用性は、プール内の複数のサーバーの損失にも対処できます。例えば、ネットワークパーティションの障害によってサーバーのグループ全体が停止した場合にも、高可用性は対応できます。

実行されるアクションを計算することに加えて、障害計画ではプール内で許容できるサーバー障害の数を考慮します。プールの高可用性計画を計算する上で、2つの重要な考慮事項があります。

- 最大障害許容数。この値は、プール内のすべての保護されたVMを実行するためのリソースが不足するまでに障害が発生する可能性のあるサーバーの最大数です。最大障害許容数を計算するために、XenServerは以下を考慮します。
  - プール内のVMの再起動優先度
  - プール内のサーバー数
  - サーバーのCPUとメモリ容量
- Server failure limit. You can define this value as part of the high availability configuration which specifies the number of server failures to allow in the pool, within the plan. For example, when the server failure limit for a pool is 3, XenServer calculates a failover plan that allows any 3 servers to fail and all protected VMs can still run in the pool. You can configure the server failure limit to a value that is lower than the maximum failure capacity, making it less likely that the pool becomes overcommitted. This configuration can be useful in an environment with RBAC enabled. For example, this setting allows RBAC users with lower permissions than Pool

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Operator to bring more VMs online without breaking the high availability plan. For more information, see the *High availability and Role-Based Access Control (RBAC)* section.

最大障害許容数の値がサーバー障害制限に指定された値を下回ると、システムアラートが生成されます。

オーバーコミット保護

プールで高可用性が最初に有効にされたとき、その時点で利用可能なリソースに基づいて障害計画が計算されます。XenServerの高可用性は、新しいVMの起動など、プールに影響を与えるイベントに応じて、新しい障害計画を動的に計算します。プール全体でリソースが不足しているために新しい計画を計算できない場合、プールはオーバーコミット状態になります。リソース不足の例としては、十分な空きメモリがないことや、どのVMがどのサーバーで再起動されるかに影響を与える仮想ディスクやネットワークの変更などが挙げられます。

高可用性再起動優先度は、プールがオーバーコミットされたときにどのVMを起動するかを決定するために使用されます。**HA構成**ダイアログボックスまたは**HAの構成**ウィザードで保護したいVMの再起動優先度を構成すると、プールの最大障害許容容量が動的に再計算されます。この情報により、ビジネスニーズに応じてVM再起動優先度のさまざまな組み合わせを試すことができます。プールの重要なVMに必要な保護レベルに対して、最大障害許容容量が適切であるかどうかを確認できます。

VMを起動または再開しようとして、その操作によってプールがオーバーコミットされる場合、XenCenterに警告が表示されます。設定されている場合、このメッセージは電子メールアドレスにも送信できます。操作をキャンセルするか、続行してプールをオーバーコミット状態にするかを選択できます。

HAが有効なプールでの作業

高可用性のベストプラクティスは、高可用性が有効になっている間はプールに構成変更を行わないことです。代わりに、近くに人間の管理者がいない場合に問題が発生したときにサーバーを再起動する「午前2時のセーフガード」として意図されています。ソフトウェアアップデートの適用など、プールで積極的に構成変更を行っている場合は、これらの変更中に高可用性を無効にしてください。

- XenCenterから保護されたVMをシャットダウンしようとすると、XenCenterはVMを障害計画から削除してからシャットダウンするオプションを提供します。このオプションにより、偶発的なVMシャットダウンがダウンタイムを引き起こすことはありませんが、本当に停止したい場合は保護されたVMを停止できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 高可用性が有効になっているときにサーバーを再起動する必要がある場合、XenCenterはVMの再起動優先度を自動的に使用して、この再起動がプールの障害計画を無効にするかどうかを判断します。計画に影響がない場合、サーバーは正常にシャットダウンされます。計画が侵害されたが、最大障害許容容量が1より大きい場合、XenCenterはプールのサーバー障害制限を1つ減らすオプションを提供します。この操作はプールの全体的な回復力を低下させますが、常に少なくとも1つのサーバー障害が許容されることを保証します。サーバーが再起動すると、計画は自動的に再計算され、必要に応じて元のサーバー障害制限が復元されます。
- **更新のインストール**ウィザードを使用してソフトウェア更新をインストールする場合、**HAをオフにする**を選択してプールの高可用性を無効にする必要があります。更新がインストールされた後、高可用性を再度有効にできます。高可用性を無効にしない場合、更新は続行されません。更新のインストール中はプールを手動で監視し、サーバー障害がプールの操作を妨げないようにしてください。
- 高可用性が有効になっている場合、VMの再起動計画を危険にさらす可能性のある一部の操作（プールからのサーバーの削除など）が無効になることがあります。これらの操作を実行するには、一時的に高可用性を無効にするか、続行する前に保護されたVMをシャットダウンすることができます。

高可用性とロールベースのアクセス制御 (RBAC)

ロールベースのアクセス制御 (RBAC) が実装されているXenServer環境では、すべてのユーザーがプールの高可用性構成設定を変更できるわけではありません。たとえば、VMオペレーターは、HAが有効なプールのフェイルオーバー容量を調整する十分な権限を持っていません。VMを起動すると、許可される最大サーバー障害数が現在の値よりも低い値に減少する場合、VMオペレーターはVMを起動できません。許可されるサーバー障害の数を構成できるのは、プール管理者またはプールオペレーターレベルのユーザーのみです。

この場合、プール管理者またはプールオペレーターは、サーバー障害制限を許可される最大障害数よりも低い値に設定できます。この設定により、余裕のある容量が作成され、権限の低いユーザーでも新しいVMを起動できるようになります。これにより、障害計画を脅かすことなく、プールのフェイルオーバー容量が削減されます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 高可用性

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

高可用性の要件

リソースプールで高可用性を構成する前に、プール内のすべてのサーバーと仮想マシンについて、以下の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- 共有ストレージが利用可能である必要があります。共有ストレージには、ハートビートSRに使用される4 GiB以上のiSCSI、Fibre Channel、またはNFS LUNが少なくとも1つ含まれている必要があります。NetAppまたはEqualLogicストレージアレイを使用している場合は、アレイ上にiSCSI LUNを手動でプロビジョニングして、ハートビートSRに使用してください。
- プール内のサーバーでは、ボンディングされた管理インターフェースを使用することを強くお勧めします。
- ハートビートSRには、マルチパスストレージを使用することを強くお勧めします。
- すべてのサーバーに適切なライセンスがインストールされている必要があります。
- 高可用性で保護したいすべての仮想マシンは、アジャイルである必要があります。これは次のことを意味します。
  - 仮想ディスクは共有ストレージ上にある必要があります。仮想ディスクを保存するために、任意の種類の共有ストレージを使用できます。iSCSI、Fibre Channel、またはNFS LUNは、ストレージハートビートにのみ必要です。これらのSRは、必要であれば仮想ディスクストレージとして使用できますが、必須ではありません。
  - 仮想ネットワークインターフェースは、プール全体のネットワーク上にある必要があります。
  - ローカルDVDドライブへの接続を構成しないでください。

  アジャイルではないVMには、**可能な場合は再起動**の再起動優先度のみを割り当てることができます。これらのVMは1つのサーバーに固定されます。たとえば、サーバーから物理CDドライブがマッピングされたVMは、そのCDドライブを持つサーバー上でのみ実行できます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- 高可用性

VMの再起動設定

計画よりも多くのサーバーが故障した場合、高可用性リカバリ操作が開始されます。**HA再起動優先度**は、どのVMを再起動するかを決定するために使用されます。起動順序と遅延間隔の値は、

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

個々のVMが起動される順序を決定します。これらの設定により、最も重要なVMが最初に再起動されることが保証されます。

高可用性再起動優先度

HA再起動優先度は、プールに対する高可用性障害計画の下でどのVMを再起動するかを指定します。

- **再起動** - この優先度のVMは、プール内に十分なリソースがある場合、再起動が保証されます。これらは、**可能な場合は再起動**の優先度を持つVMよりも前に再起動されます。

  この再起動優先度を持つすべてのVMは、障害計画の計算時に考慮されます。この優先度を持つすべてのVMが確実に再起動できる計画が存在しない場合、プールはオーバーコミット状態になります。

- **可能な場合は再起動** - この再起動優先度を持つVMは、障害計画の計算時には考慮されません。ただし、これらのVMを実行しているサーバーが故障した場合、それらのVMを再起動する試みが行われます。この再起動は、すべての高優先度VMが再起動された後に行われます。再起動可能なVMの起動試行が、VMを起動する容量がないために失敗した場合、再試行は行われません。

  この設定は、実行を継続することが重要ではないが、そうできれば望ましいテスト/開発用VMに役立ちます。

- **再起動しない** - この優先度を持つVMの再起動は試行されません。

起動順序

起動順序プロパティは、リカバリ操作中に個々のVMが起動する順序を指定します。この設定により、特定のVMを他のVMよりも先に起動できます。起動順序の値が0のVMが最初に起動し、次に起動順序の値が1のVMが起動するといった具合です。

遅延間隔 (次のVMの起動を試行するまでの時間)

次のVMの起動を試行するまでの時間プロパティは、リカバリプロセスがVMの起動後に、起動シーケンス内の次のVMを起動するまでにどれくらいの時間待機するかを指定します。次のVMのグループとは、起動順序が後のVMのことです。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 高可用性

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

高可用性の構成

リソースプールに高可用性を構成するには、**HAの構成**ウィザードを使用します。このウィザードは、高可用性の構成プロセスを段階的に案内します。このプロセス中に、ウィザードは利用可能なリソースと指定した高可用性再起動優先度に基づいて、プールのサーバー障害制限を計算します。

HAの構成ウィザードを開くには、XenCenter®でプールを選択し、**HA**タブを選択してから、**HAの構成**を選択します。

または、次のいずれかの方法で開きます。

- **プール**メニューで、**高可用性** > **HAの構成...**を選択します。
- **リソース**ペインでプールを右クリックし、コンテキストメニューから**高可用性** > **HAの構成...**を選択します。

プールで高可用性を構成するには：

1. 高可用性の要件が満たされていることを確認します。詳しくは、「高可用性の要件」を参照してください。
2. **HAの構成**ウィザードを開きます。
3. ウィザードの最初のページで**次へ**をクリックします。ウィザードは、ハートビートSRとして使用する共有iSCSI、Fibre Channel、またはNFS LUNをプール内でスキャンします。適切なSRが見つからない場合は、続行する前に適切な新しいストレージを構成してください。
4. **ハートビートSR**ページで、リストからSRを選択し、**次へ**をクリックします。
5. **HAプラン**ページで、リストから1つ以上のVMを選択し、必要なVM起動設定を設定します。これらのオプションの詳細については、「VM起動設定」を参照してください。

   次のオプションを設定します。

   - **HA再起動優先度**：各VMの再起動優先度を選択します。
     - プール内に十分なリソースがある場合に、選択したVMが再起動されるようにするには、**再起動**を選択します。
     - 自動的にVMを再起動することが不可欠でない場合は、**Restart if Possible** を選択します。
     - VMが自動的に再起動されることを決して望まない場合は、**Do Not Restart** を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **起動順序**: リカバリ操作中に個々のVMが起動する順序を指定し、特定のVMを他のVMより先に起動できるようにします。起動順序の値が0のVMが最初に起動し、次に起動順序の値が1のVMが起動します。
- **次のVMの起動を試行するまでの時間**: VMの起動後、起動シーケンス内の次のVMグループの起動を試みる前に待機する遅延間隔を設定します。次のVMグループとは、起動順序が低いVMのことです。

6. 内部シャットダウン時にVMを自動的に再起動します。

   選択されている場合、VM内でユーザーによってトリガーされたクリーンシャットダウンが原因でVMが停止した場合でも、HAはVMの再起動を試みます。

7. **HAプラン**ページで、**サーバー障害制限**の下に、この高可用性プラン内で許可するサーバー障害の数を設定できます。この値が、ここでmaxとして表示されているプールの最大障害許容数以下であることを確認してください。maxが0の場合、プールはオーバーコミットされており、状況を解決するまで続行できません。プールがオーバーコミットされないようにするには、高可用性再起動の優先順位を調整するか、プール内でより多くのリソースを利用できるようにします。詳細については、「プールの最大障害許容数を増やすには」を参照してください。高可用性プランの設定が完了したら、**次へ**をクリックします。
8. ウィザードの最後のページで、高可用性構成設定を確認します。**戻る**をクリックして設定を変更するか、**完了**をクリックして高可用性を有効にし、ウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- 高可用性

高可用性を無効にする

高可用性が有効になっている場合、VMを再起動するための計画を損なう可能性のある一部の操作（たとえば、プールからサーバーを削除する操作など）が無効になることがあります。これらの操作を実行するには、一時的に高可用性を無効にすることができます。

高可用性を無効にするには：

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**HA**タブを選択し、次に**HAを無効にする**を選択します。

   または、**プール**メニューで、**高可用性** > **HAを無効にする**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

リソースペインでプールを右クリックし、コンテキストメニューから**高可用性** > **HAを無効にする**を選択することもできます。

2. 確認のために**OK**をクリックします。プール内の各VMに指定された再起動の優先順位は保存され、後で高可用性を再度有効にした場合でも記憶されます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 高可用性

高可用性を有効にする

高可用性が以前に構成され、その後無効にされた場合、プール内の各VMに定義された再起動優先度は保存され、保持されます。

高可用性を再度有効にして、これらの同じ設定を再利用するには、次のいずれかの方法を使用します。

- **リソース**ペインでプールを選択し、**HA**タブを選択して、**HAを有効にする**を選択します。
- **プール**メニューで、**高可用性** > **HAを有効にする**を選択します。
- **リソース**ペインでプールを右クリックし、コンテキストメニューから**高可用性** > **HAを有効にする**を選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 高可用性

高可用性設定の変更

プールで高可用性が有効になっている場合、「**HAの構成**」ダイアログボックスを使用して、VMの起動設定とプールのサーバー障害制限を変更します。

高可用性再起動優先度とVM起動シーケンス設定を変更するには

1. 「**リソース**」ペインでプールを選択し、「**HA**」タブを選択して、「**HAの構成**」を選択します。または:
   - 「**プール**」メニューで、「**高可用性**」を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 「**リソース**」ペインで右クリックし、ショートカットメニューから「**高可用性**」を選択します。

2. リストから1つ以上のVMを選択し、必要なVM起動設定を行います。これらのオプションの詳細については、「VM起動設定」を参照してください。

   次のオプションを設定します:

   - **HA再起動優先度**: 各VMの再起動優先度を選択します:
     - プール内に十分なリソースがある場合、選択したVMが再起動されるように「**再起動**」を選択します。
     - VMを自動的に再起動することが必須ではない場合は、「**可能であれば再起動**」を選択します。
     - VMを自動的に再起動したくない場合は、「**再起動しない**」を選択します。
   - **開始順序**: リカバリ操作中に個々のVMが起動する順序を指定し、特定のVMを他のVMより先に起動できるようにします。開始順序の値が0のVMが最初に起動し、次に開始順序の値が1のVMが起動し、その後も同様です。

3. 次のVMの起動を試行するまでの間隔。

   VMの起動後、起動シーケンスで次のVMグループを起動するまでに待機する遅延間隔を設定します。次のVMグループとは、開始順序が低いVMのことです。

4. 内部シャットダウン時にVMを自動的に再起動します。

   選択した場合、HAは、VM内のユーザーによってトリガーされたクリーンシャットダウンが原因でVMが停止した場合でも、VMの再起動を試みます。

5. 変更を適用してダイアログボックスを閉じるには、**OK**をクリックします。

プールのサーバー障害制限を変更するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**HA**タブを選択して、**HAの構成**をクリックします。または、次のいずれかの操作を行います。

   - **プール**メニューで、**高可用性**を選択します。
   - **リソース**ペインで右クリックし、ショートカットメニューから**高可用性**を選択します。

2. **サーバー障害制限**で、許可するサーバー障害の数を入力します。この値が、ここに最大値として表示されているプールの最大障害容量以下であることを確認してください。最大値が0の場合、プールはオーバーコミットされており、変更を保存できません。変更を保存できるように

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

するには、高可用性再起動の優先順位を調整するか、プール内でより多くのリソースを利用できるようにします。詳細については、次のセクションを参照してください。

3. 変更を適用してダイアログボックスを閉じるには、**OK**をクリックします。

プールの最大障害容量を増やすには

プールの最大障害容量を増やすには、次のいずれかまたは複数の操作を行う必要があります。

- 一部のVMの高可用性再起動優先度を下げます。
- サーバーのRAM容量を増やすか、プールにサーバーを追加して容量を増やします。
- 一部のVMに構成されているメモリ量を減らします。
- 不要なVMをシャットダウンします。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 高可用性

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

災害復旧 (DR)

災害復旧 (DR) 機能を使用すると、プールまたはサイト全体を無効にするか破壊するようなハードウェアの壊滅的な障害から、VMとvAppを復旧できます。

単一サーバー障害からの保護には、高可用性を使用できます。高可用性は、同じプール内の代替サーバーでVMを再起動します。

DRの概要

災害復旧は、ビジネスに不可欠なVMとvAppを復旧するために必要なすべての情報をストレージリポジトリ (SR) に保存します。これらのストレージリポジトリは、プライマリ (本番) 環境からバックアップ環境にレプリケートされます。プライマリサイトの保護されたプールが失敗した場合、そのプール内のVMとvAppは、レプリケートされたストレージから復旧され、セカンダリ (DR) サイトで再作成できます。その結果、アプリケーションまたはユーザーのダウンタイムを最小限に抑えることができます。

復旧されたVMがDRプールで稼働した後、DRプールのメタデータもレプリケートされたストレージに保存する必要があります。このアクションにより、復旧されたVMとvAppは、プライマリサイトがオンラインに戻ったときに、プライマリサイトに復元できるようになります。

注:

災害復旧は、LVM over HBA または LVM over iSCSI ストレージタイプでのみ使用できます。

XenServer® VMは2つのコンポーネントで構成されています。

- VMによって使用されている仮想ディスク。VMが配置されているプール内の構成済みストレージリポジトリ (SR) に保存されます。
- VM環境を記述するメタデータ。メタデータには、元のVMが利用できないか破損している場合にVMを再作成するために必要なすべての情報が含まれています。ほとんどのメタデータはVMの作成時に書き込まれ、VM構成を変更した場合にのみ更新されます。プール内のVMの場合、このメタデータのコピーはプール内のすべてのサーバーに保存されます。

DR環境では、VMはプールメタデータ（プール内のすべてのVMとvAppに関する構成情報）からセカンダリ (DR) サイトで再作成されます。各VMのメタデータには、その名前、説明、Universal Unique Identifier (UUID)、およびメモリ、仮想CPU、ネットワーク、ストレージの構成が含まれま

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

す。また、高可用性またはDR環境でVMを再起動するときに使用されるVM起動オプション（起動順序、遅延間隔、再起動優先度）も含まれます。たとえば、VMを復旧する場合、vApp内のVMは、メタデータで指定された順序と遅延間隔でDRプールで再起動します。

注:

災害復旧を使用するには、rootとしてログインしているか、Pool Operator以上のロールを持っている必要があります。

災害復旧用語

vApp: 単一のエンティティとして管理される関連VMの論理グループ。

Site: XenServerリソースプール、ストレージ、およびハードウェア機器の物理的なグループ。

Primary site: 災害時に保護する必要があるVMまたはvAppを実行する物理的なサイト。

Secondary site, DR site: 災害発生時にプライマリサイトの復旧場所として機能することを目的とした物理的なサイト。

Failover: プライマリサイトで災害が発生した場合に、セカンダリ（復旧）サイトでVMおよびvAppを復旧すること。

Failback: セカンダリ（復旧）サイトからプライマリサイトにVMおよびvAppを復元すること。

Test failover: 「ドライラン」フェイルオーバーであり、VMおよびvAppがレプリケートされたストレージからセカンダリ（復旧）サイトのプールに復旧されますが、起動はされません。テストフェイルオーバーを実行して、DRが正しく構成されているか、およびプロセスが効果的であるかを確認できます。

Pool metadata: プール内のVMおよびvAppに関する情報（名前や説明など）です。VMの場合、構成情報にはUUID、メモリ、仮想CPU、ネットワークおよびストレージ構成、起動オプションが含まれます。プールメタデータは、DRでプライマリサイトからセカンダリサイトの復旧プールにVMおよびvAppを再作成するために使用されます。

ディザスタリカバリインフラストラクチャ

ディザスタリカバリを使用するには、プライマリサイトとセカンダリサイトの両方に適切なDRインフラストラクチャを設定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- プールメタデータとVMが使用する仮想ディスクの両方に使用されるストレージは、プライマリ（本番）環境からバックアップ環境にレプリケートする必要があります。ミラーリングを使用するなど、ストレージレプリケーションはデバイスによって異なります。ストレージレプリケーションの処理には、お使いのストレージソリューションを使用することをお勧めします。
- 復旧したVMおよびvAppがDRサイトのプールで稼働した後、DRプールメタデータと仮想ディスクを含むSRをレプリケートします。このアクションにより、プライマリサイトがオンラインに戻った後、復旧したVMおよびvAppをプライマリサイトに復元（フェイルバック）できます。
- DRサイトのハードウェアインフラストラクチャは、プライマリサイトと一致している必要はありません。ただし、XenServer環境は同じリリースおよびパッチレベルである必要があります。また、フェイルオーバーされたすべてのVMを再作成して起動できるように、ターゲットプールに十分なリソースが構成されている必要があります。

重要:

XenCenter®と**Disaster Recovery**ウィザードは、ストレージアレイの機能を制御しません。プールメタデータと、災害時に再起動されるVMが使用するストレージがバックアップサイトにレプリケートされていることを確認してください。一部のストレージアレイには、コピーを自動的に実行するためのミラーリング機能が含まれています。これらの機能を使用する場合は、リカバリサイトでVMを再起動する前にミラー機能を無効にしてください。

フェイルオーバー、フェイルバック、およびテストフェイルオーバーをディザスタリカバリウィザードで実行する

ディザスタリカバリウィザードを使用すると、フェイルオーバーとフェイルバックが簡単になります。これらのプロセスに含まれる手順を以下に示します。

フェイルオーバー

1. セカンダリDRサイトで、VMとvAppを復旧するターゲットプールを選択します。
2. プライマリサイトからレプリケートされたSRを含むストレージターゲットの詳細を指定します。ウィザードはターゲットをスキャンし、そこにあるすべてのSRを一覧表示します。
3. 復旧するVMとvAppのメタデータと仮想ディスクを含むSRを選択します。ウィザードはSRをスキャンし、見つかったすべてのVMとvAppを一覧表示します。
4. DRサイトに復旧するVMとvAppを選択します。復旧後にウィザードで自動的に起動するか、手動で起動するまで待機するかを指定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ウィザードは、選択したVMとvAppがターゲットDRプールに復旧できることを確認するために事前チェックを実行します。たとえば、ウィザードは、選択したVMとvAppに必要なすべてのストレージが利用可能であることを確認します。

事前チェックが完了し、問題が解決されると、フェイルオーバープロセスが開始されます。選択したVMとvAppは、レプリケートされたストレージからDRプールにエクスポートされます。これでフェイルオーバーは完了です。

フェイルバック

1. DRサイトで現在実行中のVMとvAppを復元するプライマリサイトのターゲットプールを選択します。
2. DRサイトからレプリケートされたSRを含むストレージターゲットの詳細を指定します。ウィザードはターゲットをスキャンし、見つかったすべてのSRを一覧表示します。
3. 復元するVMとvAppのメタデータと仮想ディスクを含むSRを選択します。ウィザードはSRをスキャンし、見つかったすべてのVMとvAppを一覧表示します。
4. プライマリサイトに復元するVMとvAppを選択します。復元後にウィザードで自動的に起動するか、手動で起動するまで待機するかを指定します。

   その後、ウィザードは、選択したVMとvAppがプライマリサイトのターゲットプールに復旧できることを確認するために事前チェックを実行します。たとえば、ウィザードは、選択したVMとvAppに必要なすべてのストレージが利用可能であることを確認します。

事前チェックが完了し、すべての問題が解決されると、フェイルバックプロセスが開始されます。DRサイトで実行されている選択されたVMとvAppは、レプリケートされたストレージからプライマリサイトの選択されたプールにエクスポートされます。

フェイルバックが完了しました。

Disaster Recovery ウィザードが同じVMの情報を2つ以上の場所で検出した場合、VMごとに最新の情報のみを使用します。たとえば、情報はプライマリサイトのストレージ、DRサイトのストレージ、およびデータがインポートされるプールに保存されている可能性があります。

ヒント:

VMとvAppのリカバリを容易にするには、VMとvAppがSRにどのようにマッピングされているか、およびSRがLUNにどのようにマッピングされているかを示すようにSRに名前を付けます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

また、**Disaster Recovery** ウィザードを使用して、ディザスタリカバリシステムの非破壊テストのためにテストフェイルオーバーを実行することもできます。テストフェイルオーバーでは、手順はフェイルオーバーと同じですが、リカバリされたVMとvAppはDRサイトで一時停止状態で起動されます。テストが完了すると、DRサイトで再作成されたすべてのVM、vApp、およびストレージを削除するためにクリーンアップが実行されます。詳細については、テストフェイルオーバーを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- ディザスタリカバリとバックアップ

災害復旧の構成

XenCenter® の **DRの構成** ダイアログボックスを使用して、プールのメタデータを保存するストレージリポジトリ (SR) を選択します。このメタデータには、プール内のすべてのVMとvAppに関する構成情報が含まれます。プールのメタデータは、VMまたはvAppの構成を変更するたびに更新されます。

> **注:**
>
> XenServer® DRは、LVM over HBAまたはLVM over iSCSIストレージタイプのみをサポートします。

プライマリプールで災害復旧を構成するには：

1. プライマリサイトで、保護するプールを選択します。
2. **プール** メニューで、**災害復旧** を選択し、**構成** をクリックします。
3. プールメタデータが保存される最大8つのSRを選択します。このストレージには、プール復旧情報を含む新しいLUNのために少量のスペースが必要です。
4. **OK** をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

重要:

DR環境を完全に構成するには、プールメタデータとVM仮想ディスクを含むSRを、本番環境からバックアップ環境にレプリケートします。ストレージレプリケーションはXenCenter内から構成することはできません。ミラーリングを使用するなど、ストレージソリューションを使用してストレージレプリケーションを処理してください。レプリケーションはデバイスによって異なります。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 災害復旧を有効にする

フェイルオーバー

フェイルオーバーは、プライマリサイトで災害が発生した場合に、VMとvAppをセカンダリサイトに復旧します。重要なVMとvAppをフェイルオーバーするには、**Disaster Recovery**ウィザードを使用します。

重要:

Disaster Recoveryウィザードは、ストレージアレイの機能を制御しません。リカバリサイトへのフェイルオーバーを試みる前に、メタデータストレージと再起動するVMが使用するストレージの重複（ミラーリング）を無効にしてください。

VMとvAppをセカンダリサイトにフェイルオーバーするには:

1. XenCenter®で、セカンダリプールを選択し、**プール**メニューで**Disaster Recovery**をクリックして、**Disaster Recovery**ウィザードを開きます。
2. **Failover**を選択し、**Next**をクリックします。

   注:

   LUNミラーリングを使用してFibre Channel共有ストレージでデータをセカンダリサイトにレプリケートしている場合は、データを復旧する前にミラーリングを解除してください。この操作により、セカンダリサイトに読み取り/書き込みアクセスが許可されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. 復旧するVMとvAppのプールメタデータを含むストレージリポジトリ（SR）を選択します。デフォルトでは、このウィザードページに表示されるリストには、現在プール内にアタッチされているすべてのSRが表示されます。さらにSRをスキャンするには、**Find Storage Repositories**を選択し、スキャンするストレージの種類を選択します。

   - 利用可能なすべてのハードウェアHBA SRをスキャンするには、**Find Hardware HBA SRs**を選択します。
   - ソフトウェアiSCSI SRをスキャンするには、**Find Software iSCSI SRs**を選択し、ダイアログボックスにターゲットホスト、IQN、およびLUNの詳細を入力します。

   ウィザードで必要なSRを選択したら、**Next**をクリックして続行します。

4. 復旧するVMとvAppを選択します。**Power state after recovery**オプションを使用して、ウィザードが復旧したVMとvAppをすぐに起動するかどうかを指定します。または、フェイルオーバーが完了した後、VMとvAppを手動で起動することもできます。

5. **Next**をクリックして次のウィザードページに進み、フェイルオーバーの事前チェックを開始します。

   ウィザードはフェイルオーバーを開始する前に事前チェックを実行します。たとえば、ウィザードは選択されたVMおよびvAppに必要なすべてのストレージが利用可能であることを確認します。この時点でストレージが不足している場合は、このページで**SRをアタッチ**をクリックして、関連するSRを見つけてアタッチできます。

6. 事前チェックページで問題を解決し、その後、**フェイルオーバー**をクリックしてリカバリプロセスを開始します。

   進捗状況ページが表示され、各VMおよびvAppのリカバリが成功したかどうかが示されます。

   フェイルオーバーは、リカバリするVMおよびvAppの数に応じて時間がかかる場合があります。このプロセス中に、次のアクションが発生します。

   - VMおよびvAppのメタデータがレプリケートされたストレージからエクスポートされます
   - VMおよびvAppはプライマリプールで再作成されます
   - 仮想ディスクを含むSRが再作成されたVMにアタッチされます
   - VMは、指定されている場合、起動されます

7. フェイルオーバーが完了したら、**次へ**をクリックしてサマリーレポートを表示します。

8. サマリーレポートページで**完了**をクリックしてウィザードを閉じます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プライマリサイトが再び利用可能になったら、VMおよびvAppをそのサイトに戻すことができます。このプロセスを完了するには、再度**ディザスタリカバリ**ウィザードに従いますが、代わりに**フェイルバック**オプションを選択します。詳細については、フェイルバックを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- ディザスタリカバリとバックアップ

フェイルバック

フェイルバックは、レプリケートされたストレージからVMとvAppをプライマリサイトのプールに復元します。フェイルバックは、災害イベント後にプライマリサイトが復旧したときに発生します。VMとvAppをプライマリサイトにフェイルバックするには、**ディザスタリカバリ**ウィザードを使用します。

重要:

ディザスタリカバリウィザードは、ストレージアレイの機能を制御しません。プライマリサイトへのフェイルバックを試みる前に、メタデータストレージと復元されるVMが使用するストレージの重複排除（ミラーリング）を無効にしてください。

VMとvAppをプライマリサイトにフェイルバックするには:

1. XenCenter®で、プライマリサイトのターゲットプールを選択し、**プール**メニューで**ディザスタリカバリ**をクリックして、**ディザスタリカバリ**ウィザードを開きます。
2. **フェイルバック**を選択し、**次へ**をクリックします。

   注:

   DRサイトでデータをレプリケートするためにLUNミラーリングを備えたFibre Channel共有ストレージを使用している場合は、データの回復を試みる前にミラーリングを解除してください。この操作により、プライマリサイトに読み取り/書き込みアクセスが許可されます。

3. プライマリサイトに復元するVMとvAppのプールメタデータを含むストレージリポジトリ (SR) を選択します。デフォルトでは、このウィザードページには、プール内に現在アタッチされて

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

いるすべてのSRが表示されます。さらにSRをスキャンするには、**ストレージリポジトリの検索**を選択し、スキャンするストレージタイプを選択します。

- 利用可能なすべてのハードウェアHBA SRをスキャンするには、**ハードウェアHBA SRの検索**を選択します。
- ソフトウェアiSCSI SRをスキャンするには、**ソフトウェアiSCSI SRの検索**を選択し、ダイアログボックスにターゲットホスト、IQN、およびLUNの詳細を入力します。

ウィザードで必要なSRを選択したら、**次へ**をクリックして続行します。

4. 復元するVMとvAppを選択します。**回復後の電源状態**オプションを使用して、復元されたVMとvAppを自動的に起動するかどうかを指定します。または、フェイルバックが完了した後、VMとvAppを手動で起動することもできます。
5. **次へ**をクリックして次のウィザードページに進み、フェイルバックの事前チェックを開始します。

   ウィザードはフェイルバックを開始する前に事前チェックを実行します。例えば、ウィザードは選択されたVMとvAppに必要なすべてのストレージが利用可能であることを確認します。この時点でストレージが不足している場合、このページで**SRの接続**をクリックして、関連するSRを見つけて接続できます。
6. 事前チェックページで問題を解決し、その後、**フェイルバック**をクリックしてリカバリプロセスを開始します。

   各VMとvAppの復元が成功したかどうかを示す進行状況ページが表示されます。フェイルバックには、復元するVMとvAppの数に応じて時間がかかる場合があります。
7. フェイルバックが完了したら、**次へ**をクリックしてサマリーレポートを表示します。
8. サマリーレポートページで**完了**をクリックしてウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- 災害復旧とバックアップ

テストフェイルオーバー

フェイルオーバーテストは、災害復旧計画において不可欠な要素です。**Disaster Recovery** ウィザードを使用して、災害復旧システムの無停止テストを実行できます。テストフェイルオーバー操作中、すべての手順はフェイルオーバーの場合と同じです。ただし、DRサイトに復旧された後に起動するのではなく、VMとvAppは一時停止状態になります。テストフェイルオーバーの終了時

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

に、ウィザードはDRサイトで再作成されたすべてのVM、vApp、およびストレージを自動的に削除します。

After initial DR configuration, verify that failover works correctly by performing a test failover. We recommend you also do a test failover after you make significant configuration changes in a DR-enabled pool.

VMsとvAppsをセカンダリサイトにテストフェイルオーバーするには：

1. XenCenter®で、セカンダリプールを選択し、**Pool**メニューで**Disaster Recovery**をクリックして、**Disaster Recovery**ウィザードを開きます。
2. **テストフェイルオーバー**を選択し、**次へ**をクリックします。

   注：

   Fibre Channel共有ストレージとLUNミラーリングを使用してデータをセカンダリサイトにレプリケートする場合、データを回復する前にミラーリングを解除してください。この操作により、セカンダリサイトに読み取り/書き込みアクセスが許可されます。

3. 回復するVMとvAppのプールメタデータを含むストレージリポジトリ (SR) を選択します。デフォルトでは、このウィザードページに表示されるリストには、現在プール内にアタッチされているすべてのSRが表示されます。さらにSRをスキャンするには、**Find Storage Repositories**を選択し、スキャンするストレージタイプを選択します。

   - 利用可能なすべてのハードウェアHBA SRをスキャンするには、**Find Hardware HBA SRs**を選択します。
   - software iSCSI SRs をスキャンするには、**Find Software iSCSI SRs** を選択し、ダイアログボックスにターゲットホスト、IQN、および LUN の詳細を入力します。

   ウィザードで必要なSRを選択したら、**次へ**をクリックして続行します。
4. 回復する VMs と vApps を選択します。
5. **次へ**をクリックして次のウィザードページに進み、フェイルオーバーの事前チェックを開始します。

   テストフェイルオーバープロセスを開始する前に、ウィザードは事前チェックを実行します。たとえば、チェックは、選択されたVMとvAppに必要なすべてのストレージが利用可能であることを確認します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

a. **ストレージが利用可能であることを確認します。** ストレージが見つからない場合は、このページで**SRの接続**をクリックして、関連するSRを見つけて接続できます。

b. **ターゲットDRプールでHAが有効になっていないことを確認します。** プライマリプールとDRプールの両方で同じVMが実行されるのを避けるため、セカンダリプールで高可用性を無効にします。この操作により、リカバリ後に高可用性がリカバリされたVMおよびvAppを自動的に起動しないようにします。セカンダリプールで高可用性を無効にするには、このページで**HAの無効化**をクリックします。（ウィザードがこの時点で高可用性を無効にした場合、テストフェイルオーバープロセスの終了時に自動的に再度有効になります。）

6. 事前チェックページで問題を解決し、**フェイルオーバー**をクリックしてテストフェイルオーバーを開始します。

   各VMおよびvAppのリカバリが成功したかどうかを示す進行状況ページが表示されます。フェイルオーバーには、リカバリするVMおよびvAppの数に応じて時間がかかる場合があります。このプロセス中に、次のアクションが実行されます。

   - VMおよびvAppのメタデータがレプリケートされたストレージからリカバリされます
   - VMおよびvAppがDRプールで再作成されます
   - 仮想ディスクを含むSRが再作成されたVMに接続されます
   - **リカバリされたVMは一時停止状態になります。テストフェイルオーバー中に、VMはセカンダリサイトで起動されません。**

7. テストフェイルオーバーが正常に実行されたことを確認したら、ウィザードで**次へ**をクリックして、DRサイトでウィザードにクリーンアップを実行させます。

   - テストフェイルオーバー中にリカバリされたVMおよびvAppは削除されます。
   - テストフェイルオーバー中にリカバリされたストレージはデタッチされます。
   - ウィザードが事前チェック段階でDRプール上の高可用性を無効にしてテストフェイルオーバーを許可した場合、再度有効になります。

   クリーンアッププロセスの進行状況がウィザードに表示されます。

8. **完了**をクリックしてウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- 災害復旧とバックアップ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アクセス制御 (AD および RBAC)

- ユーザーの管理
- RBAC の概要
- RBAC ロールと権限の定義
- ドメインへの参加およびユーザーの追加
- ユーザーとグループへのロールの割り当て
- RBAC ロールの計算
- XenServer への変更の監査

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ユーザー

ユーザーの管理

XenServerを初めてインストールすると、ユーザーアカウントが自動的にXenServerに追加されます。このアカウントは、XenServerシステムがローカルで認証するローカルスーパーユーザー(LSU)、つまり`root`です。XenCenterの**ユーザー**タブからActive Directoryアカウントを追加することで、追加のユーザーを作成できます。

注:

「ユーザー」という用語は、XenServer®アカウントを持つすべての人、つまり、その役割のレベルに関係なくXenServerホストを管理するすべての人を指します。

サーバーまたはプールで複数のユーザーアカウントを使用したい場合は、認証にActive Directoryユーザーアカウントを使用する必要があります。この機能により、XenServerユーザーはWindowsドメイン資格情報を使用してプール内のサーバーにログインできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

混合認証プールはサポートされていません。つまり、プール内の一部のサーバーがActive Directoryを使用し、一部が使用しないプールを持つことはできません。

XenServerでユーザーを作成する場合、そのアカウントを使用できるようにする前に、新しく作成されたユーザーに役割を割り当てる必要があります。XenServerは、新しく作成されたユーザーに役割を自動的に割り当て**ません**。その結果、これらのアカウントには、役割を割り当てるまでXenServerプールへのアクセス権がありません。

ロールベースアクセス制御 (RBAC)機能を使用すると、ユーザーの役割に応じてActive Directoryアカウントに異なるレベルの権限を割り当てることができます。環境でActive Directoryを使用しない場合、LSUアカウントに限定されます。

XenServer環境でのAD認証

XenServerサーバーはLinuxベースですが、XenServerではActive DirectoryアカウントをXenServerユーザーアカウントとして使用できます。そのためには、Active Directory資格情報をActive Directoryドメインコントローラーに渡します。

注:

ADドメインコントローラーでLDAPチャネルバインディングとLDAP署名を有効にできます。詳細については、Microsoft Security Advisoryを参照してください。

XenServerに追加されると、Active DirectoryユーザーとグループはXenServerのサブジェクトとなり、XenCenterではユーザーと呼ばれます。サブジェクトがXenServerに登録されると、ユーザーとグループはログイン時にActive Directoryで認証されます。これらのユーザーとグループは、ユーザー名をドメイン名で修飾する必要はありません。

ユーザー名を修飾するには、ユーザー名をダウンレベルログオン名形式で入力する必要があります。例: `mydomain\myuser`。

注記:

デフォルトでは、ユーザー名を修飾しない場合、XenCenter は、参加しているドメインを使用して Active Directory 認証サーバーにユーザーをログオンしようとします。このルールの例外は LSU アカウントであり、XenCenter は常にローカルで（つまり XenServer 上で）最初に認証します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

外部認証プロセスは次のように機能します。

1. サーバーへの接続時に提供された資格情報は、認証のために Active Directory ドメインコントローラーに渡されます。
2. ドメインコントローラーは資格情報を確認します。資格情報が無効な場合、認証は直ちに失敗します。
3. 資格情報が有効な場合、Active Directory コントローラーが照会され、資格情報に関連付けられたサブジェクト識別子とグループメンバーシップが取得されます。
4. サブジェクト識別子が XenServer に保存されているものと一致する場合、認証は正常に完了します。

ドメインに参加すると、プールに対して Active Directory 認証が有効になります。ただし、プールがドメインに参加している場合、そのドメインのユーザー（または信頼関係を持つドメインのユーザー）のみがプールに接続できます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ユーザー

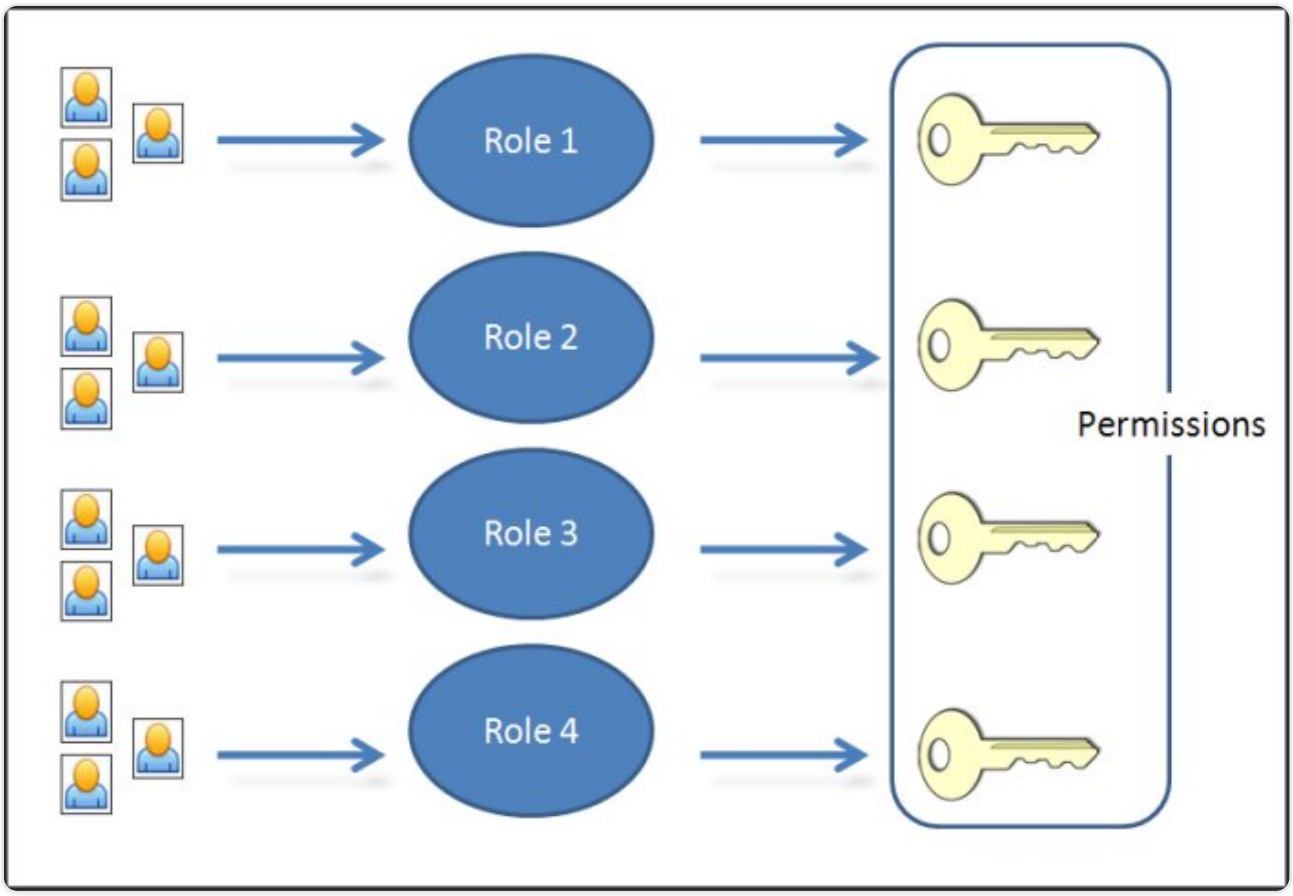
ロールベースアクセス制御の概要

ロールベースアクセス制御 (RBAC) 機能を使用すると、事前定義されたロールまたは一連の権限をActive Directoryユーザーおよびグループに割り当てることができます。これらの権限は、XenServer®管理者がサーバーとプールにアクセスできるレベルを制御します。RBACはプールレベルで構成および展開されます。ユーザーは割り当てられたロールを通じて権限を取得するため、必要な権限を付与するには、ユーザーまたはそのグループにロールを割り当てます。

XenServerユーザーアカウントにActive Directoryアカウントを使用する

RBACを使用すると、異なるユーザーグループが実行できる操作を制限できます。この制御により、経験の浅いユーザーが壊滅的な偶発的変更を行う可能性が低減されます。RBACロールを割り当てることは、コンプライアンス上の理由からリソースプールへの不正な変更を防ぐのにも役立ちます。コンプライアンスと監査を容易にするため、RBACは監査ログ機能と、それに対応するワークロードバランシングプール監査証跡レポートも提供します。詳細については、「変更の監査」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



RBACは、認証サービスにActive Directoryを使用します。具体的には、XenServerはActive Directoryユーザーおよびグループアカウントに基づいて、承認されたユーザーのリストを保持します。そのため、ロールを割り当てる前に、プールをドメインに参加させ、Active Directoryアカウントを追加する必要があります。

RBACプロセス

RBACを実装し、ユーザーまたはグループにロールを割り当てる標準的なプロセスは、次の手順で構成されます。

1. ドメインに参加する。
2. プールにActive Directoryユーザーまたはグループを追加する。
3. ユーザーまたはグループのRBACロールを割り当てる（または変更する）。

ローカルスーパーユーザー

ローカルスーパーユーザー (LSU)、またはrootは、システム管理に使用され、すべての権限または許可を持つ特別なユーザーアカウントです。XenServerでは、ローカルスーパーユーザーはインストール時のデフォルトアカウントです。LSUは外部認証サービスではなくXenServerによって認証されます。外部認証サービスが失敗した場合でも、LSUはログインしてシステムを管理できます。LSUはSSH経由でXenServer物理サーバーに常にアクセスできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

RBACロール

XenServerには、IT組織内のさまざまな機能に合わせるように設計された6つの事前定義されたロールが付属しています。

- **Pool Administrator (Pool Admin)**。このロールは、利用可能なロールの中で最も強力です。プール管理者は、すべてのXenServer機能と設定に完全にアクセスできます。ロールとユーザー管理を含むすべての操作を実行できます。XenServerコンソールへのアクセスを許可できます。ベストプラクティスとして、Citrix®は、このロールを限られた数のユーザーに割り当てることを推奨しています。

  > **注:**
  >
  > ローカルのスーパーユーザー (root) は常にPool Adminロールを持ちます。Pool Adminロールは、ローカルのrootと同じ権限を持ちます。

  ユーザーからPool Adminロールを削除する場合は、rootパスワードの変更とプールシークレットのローテーションも検討してください。詳細については、「プールセキュリティ」を参照してください。

- **プールオペレーター (Pool Operator)**。このロールは、割り当てられたユーザーがプール全体のリソースを管理できるように設計されています。管理アクションには、ストレージの作成、サーバーの管理、パッチの管理、プールの作成が含まれます。プールオペレーターはプールリソースを構成できます。また、高可用性、ワークロードバランシング、パッチ管理などの機能に完全にアクセスできます。プールオペレーターはユーザーを追加したり、ロールを変更したりすることはできません。

- **仮想マシンパワー管理者 (VM Power Admin)**。このロールは、VMおよびテンプレート管理に完全にアクセスできます。VMを起動する場所を選択できます。動的メモリ制御機能とVMスナップショット機能に完全にアクセスできます。さらに、ホームサーバーを設定し、ワークロードを実行する場所を選択できます。このロールを割り当てることで、VMオペレーターが使用する仮想マシンをプロビジョニングするのに十分な権限が割り当てられたユーザーに付与されます。

- **仮想マシン管理者 (VM Admin)**。このロールは、VMとテンプレートを管理し、これらのタスクを完了するために必要なストレージにアクセスできます。ただし、このロールは、ワークロードを実行する場所をXenServerに依存し、動的メモリ制御とホームサーバーのテンプレート設定を使用する必要があります。(このロールは、動的メモリ制御機能にアクセスしたり、スナップショットを作成したり、ホームサーバーを設定したり、ワークロードを実行する場所を選択したりすることはできません。)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **仮想マシンオペレーター (VM Operator)**。このロールは、プール内のVMを使用し、その基本的なライフサイクルを管理できます。VMオペレーターは、十分なハードウェアリソースが利用可能であれば、VMコンソールと対話し、VMを起動または停止できます。同様に、VMオペレーターは起動および停止のライフサイクル操作を実行できます。VMオペレーターロールは、VMの作成または破棄、VMプロパティの変更、またはサーバーリソースの変更を行うことはできません。
- **読み取り専用 (Read Only)**。このロールは、リソースプールとパフォーマンスデータのみを表示できます。

各ロールに関連付けられている権限の詳細については、「RBACロールと権限の定義」を参照してください。RBACがユーザーに適用されるロールを計算する方法の詳細については、「RBACロールの計算」を参照してください。

注:

ユーザーを作成するときは、アカウントを使用する前に、新しく作成したユーザーにまずロールを割り当てる必要があります。XenServerは、新しく作成したユーザーにロールを自動的に割り当て**ません**。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ロールベースのアクセス制御

RBACロールと権限の定義

XenServer® の RBAC ロールと権限を確認するには、使用している XenServer のバージョンのドキュメントを参照してください。

- XenServer RBAC ロールと権限(/ja-jp/xenserver/9/users/rbac-roles-permissions.html)

ドメインに参加してユーザーを追加する

ユーザーまたはグループアカウントにRBACロールを割り当てるには、RBACを介してそのアカウントをXenServer®に追加する必要があります。このプロセスは、次のタスクで構成されます。

1. プールまたはサーバーをドメインに参加させます。ドメインは次のいずれかです。
    - ユーザーまたはグループが属するドメイン

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 同じActive Directoryフォレスト内にあるドメイン
- ユーザーのドメインとの信頼関係があるドメイン

2. ユーザーのActive Directoryアカウントまたはグループを XenServerに追加します。

ユーザーのActive Directoryアカウントまたはグループを XenServerに追加すると、そのユーザーにはPool Adminの固定ロールが割り当てられます。XenServer Premium Editionでは、ユーザーまたはグループに手動でロールを割り当てる必要があります。詳細については、「ユーザーとグループにロールを割り当てる」を参照してください。

ドメインを変更するには、現在のドメインから離脱し、新しいドメインに参加します。

セキュアLDAP (LDAPS)

LDAPSは、ポート636でTLSを使用することにより、XenServerとActive Directoryドメインコントローラー間のLDAPトラフィックを保護します。

LDAPSを有効にする前に、ドメインコントローラーでLDAPS証明書が構成されており、必要なCA証明書がプールにインストールされていることを確認してください。詳細な前提条件と証明書の要件については、「セキュアLDAP (LDAPS)」を参照してください。

LDAPSが有効になっている場合、XenServerは各ドメインコントローラー証明書を、プールにインストールした信頼されたCA証明書に対して検証します。

注：

XenServerは、CA証明書に対してのみ証明書チェーンを検証します。 リーフ証明書または自己署名証明書（非CA）はサポートされていません。

XenServerまたはプールをドメインに参加させるには

1. **リソースペイン**で、権限を付与するプールまたはサーバーを選択します。
2. **ユーザー**タブを選択します。
3. **ドメインに参加**を選択します。
4. 参加するドメインにサーバーを追加するのに十分な権限を持つActive Directoryの資格情報を入力します。参加するドメインは、NetBIOS名ではなく、完全修飾ドメイン名（FQDN）として指定する必要があります。たとえば、`your_domain.net`と入力し、`your_domain`は入力しません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

5. LDAPSで参加するには、**TLS経由のLDAP（LDAPS）を使用してAD通信を保護する**チェックボックスをオンにしてから、**OK**をクリックします。このチェックボックスは、XenServerのバージョンがLDAPSをサポートしている場合にのみ表示されます。

   証明書エラーが表示された場合は、エラーダイアログで**証明書のインストール...**をクリックし、PEM形式のCA証明書を参照して、**インストール**をクリックします。証明書がインストールされると、XenCenterは自動的にドメイン参加を再試行します。

プールまたはサーバーがドメインに参加すると、**ユーザー**タブにアクセスプロトコル（LDAPまたはLDAPS）が表示されます。LDAPS設定を変更するには、**構成...**をクリックし、**TLS経由のLDAP（LDAPS）を使用してAD通信を保護する**チェックボックスをオンまたはオフにしてから、**OK**をクリックします。

Active Directoryユーザーまたはグループをプールに追加するには

1. ユーザーのドメインに参加した後、**ユーザー**タブで**追加**をクリックします。
2. **ユーザーの追加**ダイアログボックスで、1つ以上のユーザー名またはグループ名を入力します。複数の名前はコンマで区切ります。現在参加しているドメイン以外の信頼された別のドメインのユーザーを指定するには、ユーザー名とともにドメイン名を指定します。たとえば、`other_domain\jsmith`と指定します。または、完全修飾ドメイン名（FQDN）を入力することもできます。たとえば、`jsmith@other_domain.com`と指定します。
3. **アクセスを許可**を選択します。
4. ユーザーとグループに役割を割り当てるに従って、アカウントに役割を割り当て、アクセスを許可します。

ドメインから離脱するには

注：

ドメインを離れると、Active Directory 資格情報でプールまたはサーバーに認証されたユーザーはすべて切断されます。

1. **リソースペイン**で、Active Directory ドメインから切断するプールまたはサーバーを選択します。
2. **ドメインから離れる**を選択し、続行するには**はい**を選択します。
3. 離れるドメイン内のサーバーを無効にするのに十分な権限を持つActive Directory資格情報を入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. Active Directory サーバー内のコンピューターアカウントを無効にするかどうかを決定し、次のいずれかをクリックします。

   - **無効にする**。プールまたはサーバーをドメインから削除し、Active Directory データベース内のサーバーまたはプールコーディネーターのコンピューターアカウントを無効にします。
   - **無視する**。ユーザー名/パスワードを入力しなかった場合、または十分な権限を持つアカウントを知らない場合は、このオプションを選択して、サーバーまたはプールコーディネーターのコンピューターアカウントをActive Directoryデータベースから削除します。このオプションは、プールまたはサーバーをドメインから削除しますが、サーバーまたはプールコーディネーターのコンピューターアカウントはActive Directoryに残します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ユーザー

ユーザーとグループにロールを割り当てる

すべてのXenServer®ユーザーはRBACロールを持っている必要があります。XenServerでは、新しく作成されたユーザーがアカウントを使用する前に、まずロールを割り当てる必要があります。XenServerは、新しく作成されたユーザーにロールを自動的に割り当てません。そのため、ロールを割り当てるまで、これらのアカウントはXenServerプールにアクセスできません。

注:

ユーザーまたはグループにロールを割り当てる前に、そのユーザーまたはグループのActive DirectoryアカウントをXenServerプールに追加する必要があります。関連するドメインに参加した後、ADアカウントを追加してください。詳細については、「ドメインに参加してRBACユーザーを追加する」を参照してください。

ユーザーに別のロールを割り当てるには、次のいずれかの方法を使用します。

1. XenCenterの**ロールの選択**ダイアログで、ユーザーに割り当てられているロールを変更します。この操作には、**ロールの割り当て/変更**権限が必要です。この権限はプール管理者のみが利用できます。
2. Active Directoryでユーザーのグループメンバーシップを変更し、ユーザーを別のロールが割り当てられているグループの一部にします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

管理者がユーザーに複数のロールを間接的に適用した場合、XenServerはユーザーに割り当てられている最も高いロールの権限を付与します。

ユーザーまたはグループのロールを変更または割り当てるには

1. **リソース**ペインで、ユーザーまたはグループが含まれるプールまたはサーバーを選択します。
2. **ユーザー**タブを選択します。
3. **アクセス権を持つユーザーとグループ**ペインで、権限を割り当てたいユーザーまたはグループを選択します。
4. **ロールの変更**を選択します。
5. **ロールの選択**ダイアログで、適用したいロールを選択し、**保存**をクリックします。各ロールに関連付けられている権限については、「RBACロールと権限の定義」を参照してください。

   ヒント:

   役割を割り当てる際、**CTRL** キーを押しながらユーザーアカウントを選択することで、複数のユーザーを同時に選択できます。

6. (オプション) 役割を変更する際、ユーザーがプールにログオンしており、新しい権限をすぐに適用したい場合は、**Logout User** をクリックします。この操作により、プール上のユーザーのセッションが切断され、変更された役割を持つ新しいセッションがユーザーに付与されます。

   注:

   役割を変更する場合、新しい役割を有効にするには、ユーザーはログアウトしてから再度ログインする必要があります。**Logout User** ボタンをクリックして、このログアウトを強制します。 ログアウトを強制するには、ユーザーは**アクティブなユーザー接続をログアウトする**権限が必要です。この権限は、プール管理者またはプールオペレーターが利用できます。

注:

ユーザーからPool Adminロールを削除する場合、ルートパスワードの変更とプールシークレットのローテーションも検討してください。詳細については、プールセキュリティを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

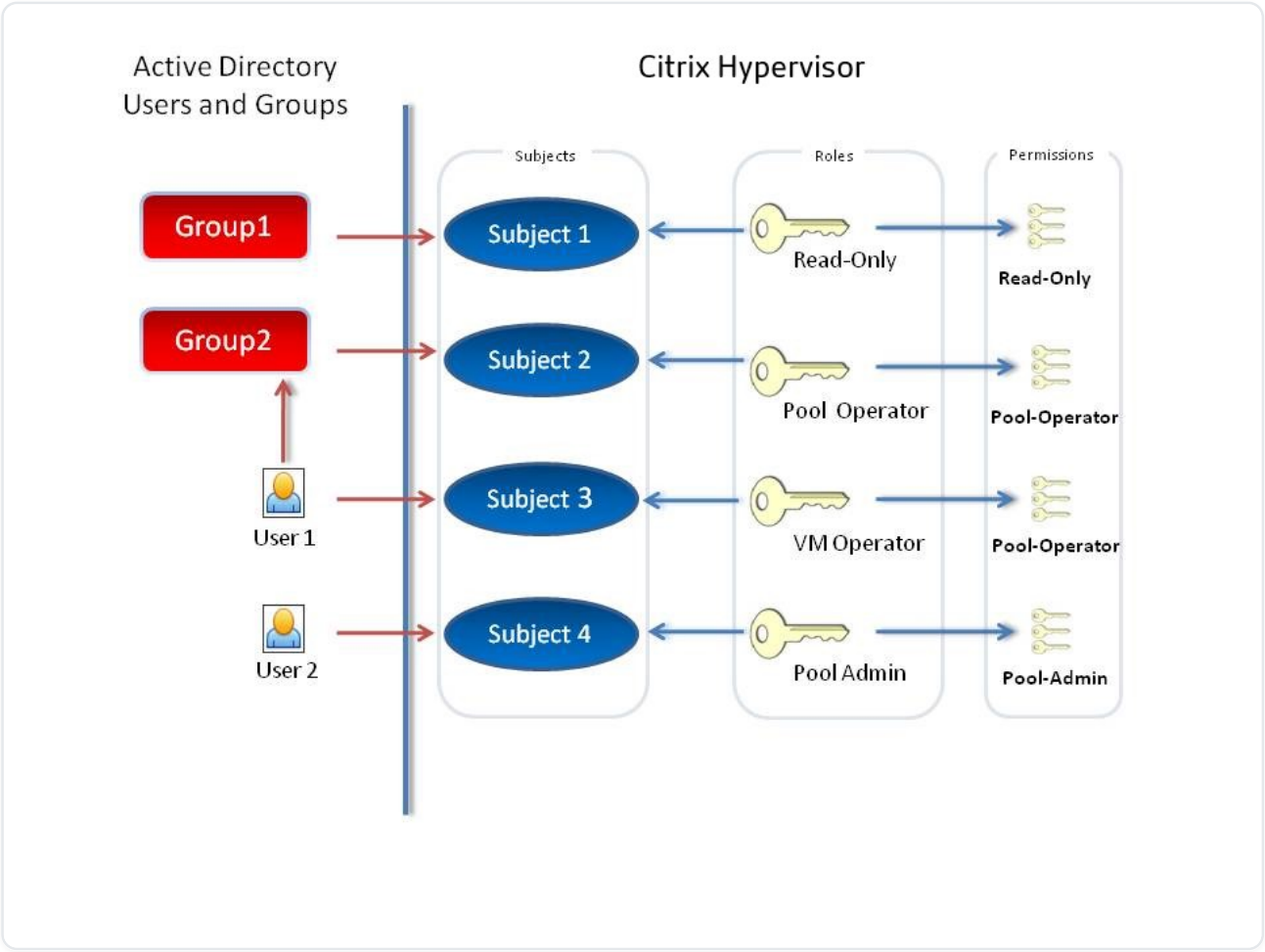
XenServer 現在のリリース

- サブジェクトにRBACロールを割り当てる

RBACロールの計算

ログインすると、XenServer® はセッションのロールをどのように計算しますか?

1. Active Directory サーバーはサブジェクトを認証します。認証中に、Active Directory はサブジェクトが Active Directory 内の他のグループに属しているかどうかも判断します。
2. XenServer は次に、以下の情報を検証します。
   - サブジェクトに割り当てられたロール
   - サブジェクトがメンバーである Active Directory グループに割り当てられたロール。
3. XenServer は、サブジェクトに最高レベルの権限を適用します。サブジェクトは複数の Active Directory グループのメンバーになれるため、関連するロールのすべての権限を継承します。



© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

この図は以下の情報を示しています。

- サブジェクト 2 (グループ 2) はプールオペレーターです。
- ユーザー 1 はグループ 2 のメンバーです。
- サブジェクト 3 (ユーザー 1) がログインしようとすると、サブジェクト 3 (VM オペレーター) とグループ 2 (プールオペレーター) の両方のロールを継承します。
- プールオペレーターのロールの方が高いため、サブジェクト 3 (ユーザー 1) の最終的なロールは VM オペレーターではなくプールオペレーターになります。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- XenServer はセッションのロールをどのように計算しますか(/ja-jp/xenserver/9/users/rbac-roles-permissions.html#how-does-xenserver-compute-the-roles-for-the-session)

監査の変更

XenServer® 監査ログは、デフォルトで有効になっており、既知のユーザーによって実行された副作用のあるすべての操作を記録します。操作は、成功したか失敗したかに関わらず記録されます。この監査ログには以下が含まれます。

- アクションを実行したユーザー名。ユーザー名が利用できない場合、XenServer は代わりにユーザー ID をログに記録します。
- アクションのターゲットとなったサーバー名。
- アクションのステータス - 成功したか失敗したか、および承認されたかどうか。操作が失敗した場合は、エラーコードがログに記録されます。

監査ログ機能はデフォルトで有効になっています。監査ログは、XenServer `syslog` コマンドを使用して監査ログをセーフボックスに複製することでバックアップできます。syslog コマンドは xe CLI から利用でき、コマンドラインインターフェイス に記載されています。

監査に関心がある場合は、ロールベースのアクセス制御を実装することをお勧めします。ただし、監査ログはユーザーに RBAC ロールが割り当てられていることや、Active Directory 統合を必要としません。

XenServer はプールレベルでアクションをログに記録し、プールコーディネーター上の各プールに対してログを作成します。

監査ログを表示するには、2つの選択肢があります。次のいずれかの方法で表示できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ワークロードバランシングが有効になっている場合、プール監査証跡レポートを生成します。
- 任意のテキストエディターで開いて監査ログを表示します。ログはプールコーディネーターに保存されます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- 監査

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ワークロードバランシングの概要

ワークロードバランシングは、リソースプール内のワークロードに対して最適なサーバーに仮想マシンを再配置することで、プールをバランスさせるアプライアンスです。たとえば、ワークロードバランシングは次のことができます。

- リソースプール内のホスト間で仮想マシンのワークロードをバランスさせる
- 仮想マシンを起動する最適なホストを決定する
- 電源をオフにした仮想マシンをパワーオンする最適なホストを決定する
- ホストをメンテナンスモードにしたときに、そのホストの各仮想マシンに最適なホストを決定する

注：

ワークロードバランシングは、XenServer Premium Editionのお客様にご利用いただけます。ライセンスの詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。

ワークロードバランシングは、設定に応じて、これらのタスクを自動的に実行することも、最適化、統合、配置の推奨事項を承認するように促すこともできます。また、使用量が少ない期間（たとえば、夜間の電力節約のため）にホストを自動的にパワーオフするようにワークロードバランシングを設定することもできます。

ワークロードバランシングは、実行するアクションに関してXenCenterで通知を送信できます。XenAPIを使用してワークロードバランシングアラートのアラートレベルを設定する方法の詳細については、「XenCenterでのワークロードバランシングアラートの設定」を参照してください。

ワークロードバランシングは、プール全体のVMワークロードの利用状況を評価します。ホストがいずれかのしきい値に達すると、WLBはVMをプール内の別のホストに再配置します。

再バランスと配置の推奨事項が環境のニーズに合致するように、WLBを構成して、リソースパフォーマンスのためにワークロードを最適化したり、密度を最大化したりできます。これらの最適化モードは、事前に定義された時間に自動的に変更されるように構成することも、常に同じ状態を維持するように構成することもできます。さらに詳細な設定を行うには、個々のリソースメトリック（CPU、ネットワーク、メモリ、ディスク）の重み付けを微調整できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

キャパシティプランニングを支援するために、ワークロードバランシングは、ホストとプールの健全性、最適化とVMのパフォーマンス、VMの移動履歴に関する履歴レポートを提供します。

ワークロードバランシングの詳細については、「XenServer製品ドキュメント」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancing の使用を開始する

Workload Balancing 仮想アプライアンスをダウンロードし、次の手順で稼働させることができます。

1. XenServer ダウンロードページ から Workload Balancing 仮想アプライアンスパッケージをダウンロードします。
2. XenCenter® で、**ファイル**、次に**インポート**を選択し、画面の指示に従って Workload Balancing 仮想アプライアンスをインポートします。
3. 仮想アプライアンスをインポートすると XenCenter のアプライアンスの**コンソール**タブに表示される Workload Balancing 構成ウィザードを使用して、Workload Balancing 仮想アプライアンスを構成します。
4. (/ja-jp/xencenter/current-release/wlb-initialize.html)で説明されているように、プールを Workload Balancing 仮想アプライアンスに接続します。

詳細については、XenServer 製品ドキュメントの(/ja-jp/xenserver/9/wlb/get-started.html)を参照してください。

注:

XenServer Premium Edition でホストをライセンスすると、**WLB**タブが**プロパティ**ペインに表示されます。ライセンスの詳細については、(/ja-jp/xencenter/current-release/licensing-about.html)を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancing の基本概念

Workload Balancing は、仮想マシンと物理ホストのリソースパフォーマンスに関するデータを収集します。このデータと設定したプリファレンスを組み合わせて、最適化と配置の推奨事項を提供します。Workload Balancing はパフォーマンスデータを内部データベースに保存します。Workload Balancing の実行期間が長くなるほど、推奨事項の精度が向上します。

Workload Balancing は、最大限の効率を得るために、プール全体で仮想マシンのワークロードを移動することを推奨します。これは、目標に応じてパフォーマンスまたは密度を意味します。Workload Balancing のコンテキストでは、次のようになります。

- **パフォーマンス**とは、ホスト上の物理リソースの使用状況 (たとえば、ホスト上の CPU、メモリ、ネットワーク、ディスクの使用率) を指します。Workload Balancing をパフォーマンス最大化に設定すると、各仮想マシンで最大限のリソースが利用可能になるように仮想マシンを配置することを推奨します。
- **密度**とは、ホスト上の仮想マシンの数を指します。Workload Balancing を密度最大化に設定すると、適切なコンピューティング能力を維持しながら、可能な限り少ないホストに VM を配置することを推奨します。この動作により、プール内で電源がオンになっているホストの数を減らすことができます。

Workload Balancing を使用すると、配置 (パフォーマンスまたは密度)、電源管理、自動化、メトリックの重み付け、パフォーマンスしきい値の設定を変更できます。

Workload Balancing は高可用性設定と競合しません。高可用性設定が常に優先されます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancing への接続

Workload Balancing 仮想アプライアンスをインポートし、Workload Balancing 構成ウィザードを実行した後、監視するプールを Workload Balancing に接続する必要があります。そのためには、

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter® の **Connect to WLB Server** ダイアログボックスまたは xe CLI のいずれかを使用します。

注:

XenServer Premium Edition でホストをライセンスすると、**WLB** タブが **Properties** ペインに表示されます。ライセンスの詳細については、「About XenServer Licensing」を参照してください。

前提条件

以下の XenCenter 手順を完了するには、次のものが必要です。

- Workload Balancing 仮想アプライアンスの IP アドレス、ホスト名、または完全修飾ドメイン名 (FQDN) とポート。
- Workload Balancing で監視するリソースプール（つまり、プールコーディネーター）の資格情報。
- Workload Balancing アプライアンスで作成したアカウントの資格情報。このアカウントは、Workload Balancing ユーザーアカウントとして知られています。XenServer® は、このアカウントを使用して Workload Balancing と通信します。(このアカウントは、Workload Balancing 構成中に Workload Balancing 仮想アプライアンスで作成しました。)

Workload Balancing サーバーに接続する際に Workload Balancing 仮想アプライアンスの FQDN を指定する場合は、まずそのホスト名を DNS に手動で追加してください。信頼された機関の証明書を構成する場合は、Citrix® は有効期限のない FQDN または IP アドレスを指定することを推奨します。

Workload Balancing に初めて接続すると、ワークロードのバランス調整にデフォルトのしきい値と設定が使用されます。自動最適化モード、電源管理、自動化などの自動機能は、デフォルトで無効になっています。

重要:

WLB がしばらく実行された後も最適な配置推奨が得られない場合は、パフォーマンスのしきい値を評価することをお勧めします。詳細については、「Evaluating the Effectiveness of Your Optimization Thresholds」を参照してください。Workload Balancing の推奨事項が最適であるためには、環境に合った正しいしきい値を設定することが重要です。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Workload Balancing 仮想アプライアンスに接続するには

1. XenCenter の **Resources** ペインで、**XenCenter** > **your-resource-pool** を選択します。
2. 「**プロパティ**」ペインで、「**WLB**」タブを選択します。WLBタブは、XenServerホストのライセンスを付与した後にプロパティペインに表示されます。
3. 「**WLB**」タブで、「**接続**」を選択します。「**WLBサーバーに接続**」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「**サーバーアドレス**」セクションのダイアログボックスで、以下を入力します。

   - 「**アドレス**」ボックスに、Workload BalancingサーバーのIPアドレス、ホスト名、またはFQDNを入力します。FQDNの例は`WLB-appliance-computername.yourdomain.net`です。
   - 「**ポート**」ボックスにポート番号を入力します。XenServerは、このポートを使用してWorkload Balancingと通信します。

     デフォルトでは、XenServerはポート8012でWorkload Balancing（具体的にはWebサービスホストサービス）に接続します。Workload Balancingの構成中にポート番号を変更した場合は、「**ポート**」ボックスにそのポート番号を入力する必要があります。

     重要:

     デフォルトのポート番号は、Workload Balancingの構成中にデフォルトポートを変更した場合にのみ変更してください。構成時、すべてのファイアウォール、および「**WLBサーバーに接続**」ダイアログで指定されたポート番号は一致している必要があります。

5. 「**WLBサーバーの資格情報**」セクションで、XenServerがWorkload Balancing仮想アプライアンスに接続するために使用するユーザー名（例: `wlbuser`）とパスワードを入力します。このアカウントは、Workload Balancingの構成中に作成したアカウントである必要があります。デフォルトでは、このアカウントのユーザー名は`wlbuser`です。
6. 「**XenServerの資格情報**」セクションで、構成するプールのユーザー名とパスワードを入力します。Workload Balancingは、これらの資格情報を使用して、そのプール内の各ホストに接続します。現在XenServerにログインしている資格情報を使用するには、「**現在のXenCenter資格情報を使用**」チェックボックスを選択します。ロールベースのアクセス制御機能（RBAC）を使用してアカウントに権限を割り当てている場合は、Workload Balancingを使用するのに十分な権限があることを確認してください。「RBACロールと権限の定義」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

7. 「**OK**」をクリックします。XenCenterが接続プロセスを開始します。
8. 証明書を構成します。

   - （Workload Balancing 8.4.0以降、XenCenter 2025.1.0以降）プールの証明書検証が有効になっている場合、XenCenterは仮想アプライアンスからWorkload Balancing証明書を取得します。

     a. XenCenterが新規または変更された証明書を表示する場合は、「**証明書の表示**」をクリックして情報を確認します。Workload Balancingコンソールの情報と照合して、証明書のフィンガープリントを検証できます。

     b. 証明書を「**承認**」するか、アクションを「**キャンセル**」するかを選択します。

        - 証明書を**承認**することを選択した場合、XenCenterはそれをXenServerプールにインストールします。
        - **キャンセル**を選択した場合、XenCenterはプロセスを中止します。証明書はXenServerプールにインストールされません。

   - (Workload BalancingまたはXenCenterの以前のバージョン) 証明書は自動的にサポートされません。Workload Balancing証明書を検証するようにXenServerを構成する必要があります。詳細については、証明書を参照してください。

Workload Balancingアプライアンスに接続した後、しきい値または特定の資源に与えられる優先順位の設定を変更したい場合は、Workload Balancing設定の編集を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer現在のリリース

- ワークロードバランシング

基本的なタスクの概要

Workload Balancingは、環境内のワークロードを最適化するために設計された多くの機能を含む強力なXenServer®コンポーネントです。これらの機能には以下が含まれます。

- ホストの電源管理
- 最適化モードの変更をスケジュールする機能
- レポートの実行

さらに、Workload Balancingが最適化の推奨を行うために使用する基準を微調整できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ただし、Workload Balancingを初めて使用する場合、おそらく毎日（または定期的に）Workload Balancingを使用する主なタスクが2つあります。

- 仮想マシンを起動する最適なホストの決定
- Workload Balancingの最適化推奨の受け入れ

VMを起動する最適なホストの決定

Workload Balancingはホストに関する推奨事項を提供できます。VMを起動するホストを決定することは、電源がオフになっているVMを再起動したい場合や、VMを別のホストに移行したい場合に役立ちます。Citrix Virtual Desktops™環境でも役立つ場合があります。

詳細については、「VMの初期配置、移行、および再開に最適なサーバーの選択」を参照してください。

Workload Balancingの推奨の受け入れ

Workload Balancingがしばらく実行されると、環境を改善する方法に関する推奨事項が作成され始めます。たとえば、ホスト上のVM密度を向上させることが目標である場合、適切な設定を行うと、Workload Balancingはホスト上のVMを統合する推奨を発行します。自動モードで実行していない場合、この推奨を適用するか、単に無視するかを選択できます。

詳細については、「最適化の推奨の受け入れ」を参照してください。

これらの両方のタスクと、XenCenter でそれらを実行する方法については、以下のセクションで詳しく説明します。もう1つの頻繁に使用されるタスクは、環境内のワークロードに関するレポートを実行することであり、これはワークロードバランシングレポートの生成と管理で説明されています。

重要:

ワークロードバランシングがしばらく実行された後、最適な配置の推奨事項が得られない場合は、ワークロードバランシングのドキュメントで説明されているように、パフォーマンスしきい値を評価してください。環境に合わせてワークロードバランシングを正しいしきい値に設定することが重要です。そうしないと、推奨事項が適切でなかったり、適切なタイミングで発生しなかったりする可能性があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- ワークロードバランシング

VMの初期配置、移行、および再開に最適なサーバーの選択

ワークロードバランシングが有効になっていてVMを起動すると、XenCenter® は、プール内でVMを起動する最適なホストを決定するのに役立つ推奨事項を提供します。これらの推奨事項は、最適なホストを示すために星が使用されるため、スターレーティングとも呼ばれます。

VMの右クリックメニュー。 サブメニューが選択されています。このサブメニューには、ホスト名の横に5段階のスターレーティングが表示されたホストが一覧表示されます。(/en-us/xencenter/media/wlb-vm-placement.png)

host17の横にはより多くの星が表示されます。これは、このサーバーがVMを起動するのに最適なホストであるためです。host16の横には星がありません。これは、そのホストが推奨されていないことを示します。ただし、このホストは有効になっているため、ユーザーはそのホストを選択できます。host18はメモリ不足のためグレー表示されており、ユーザーは選択できません。

配置はどのように機能しますか?

ワークロードバランシングが有効になっている場合、XenCenterは、VMを起動するための最適なホストを示すスターレーティングを提供します。これらのレーティングは、電源がオフになっているか中断されているVMを起動したい場合、およびVMを別のサーバーに移行したい場合にも適用されます。

ワークロードバランシングを有効にしてこれらの機能を使用すると、物理ホスト名の横に、ホストの推奨事項がスターレーティングとして表示されます。5つの空の星は、最も評価の低い（最適ではない）サーバーを示します。

一般的に、ワークロードバランシングは、推奨するホストでVMを起動する場合、より効果的に機能し、より適切で頻度の少ない最適化の推奨を行います。つまり、配置機能のいずれかを使用して、最も多くの星が付いているホストを選択することによってです。

最適とはどういう意味ですか?

「*最適*」という用語は、ワークロードのホスティングに最も適した物理サーバーを指します。ワークロードバランシングが、どのホストがワークロードに最適かを決定する際に使用するいくつかの要因があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- プール内の各ホストで利用可能なリソースの量。プールが最大パフォーマンスモードで実行されている場合、ワークロードバランシングは、すべてのVMが良好なパフォーマンスを発揮するように、プール内のホスト間でVMのバランスを取ろうとします。プールが最大密度モードで実行されている場合、ワークロードバランシングは、VMに十分なリソースがあることを確認しながら、可能な限り高密度にVMをホストに配置しようとします。
- プールが実行されている最適化モード（最大パフォーマンスまたは最大密度）。プールが最大パフォーマンスモードで実行されている場合、ワークロードバランシングは、VMが必要とするタイプのリソースが最も多く利用可能なホストにVMを配置しようとします。最大密度モードでは、ワークロードバランシングは、VMが可能な限り少ないホストで実行されるように、すでにVMが実行されているホストにVMを配置しようとします。
- VMが必要とするリソースの量と種類。WLBがVMをしばらく監視した後、収集したVMメトリックを使用して、VMが必要とするリソースの種類に応じて配置の推奨を行います。たとえば、WLBは、VMが必要とするもの（過去のパフォーマンス履歴に基づく）であれば、利用可能なCPUは少ないが利用可能なメモリが多いホストを選択する場合があります。ただし、ワークロードバランシングは、現在のホストがリソースの負荷を受けていると判断した場合にのみ推奨を行います。

最適なサーバーで仮想マシンを起動するには

1. XenCenterの**リソース**ペインで、起動したい仮想マシンを選択します。
2. 「**VM**」メニューから「**Start on Server**」を選択し、次のいずれかを選択します。
   - 「**最適なサーバー**」。最適なサーバーとは、起動しようとしている仮想マシンのリソース要件に最も適した物理ホストです。ワークロードバランシングは、パフォーマンスメトリックの履歴記録と配置戦略に基づいて最適なサーバーを決定します。最適なサーバーは、最も多くの星が付いているサーバーです。
   - 「**最適なサーバー**」コマンドの下にリストされている星評価付きのサーバーのいずれか。5つの星は最も推奨される（最適な）サーバーを示し、5つの空の星は最も推奨されないサーバーを示します。

最適なサーバーで仮想マシンを再開するには

1. XenCenterの「**リソース**」ペインで、再開したい中断された仮想マシンを選択します。
2. 「**VM**」メニューから「**Resume on Server**」を選択し、次のいずれかを選択します。
   - 「**最適なサーバー**」。最適なサーバーとは、起動しようとしている仮想マシンのリソース要件に最も適した物理ホストです。ワークロードバランシングは、パフォーマンスメトリックの履歴記録と配置戦略に基づいて最適なサーバーを決定します。最適なサーバーは、最も多くの星が付いているサーバーです。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 「**最適なサーバー**」コマンドの下にリストされている星評価付きのサーバーのいずれか。5つの星は最も推奨される（最適な）サーバーを示し、5つの空の星は最も推奨されないサーバーを示します。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- ワークロードバランシング

最適化の推奨事項を受け入れる

Workload Balancing は、環境を最適化するために仮想マシンを移行する方法に関する推奨事項を提供します。最適化の推奨事項は、XenCenter の **WLB** タブに表示されます。

最適化の推奨事項タブ。(/en-us/xencenter/media/wlb-optimize-recommendations.png)

この図は、**WLB** タブに表示される最適化の推奨事項リストのスクリーンショットです。**理由**列には推奨事項の目的が表示されます。**操作**列には、その最適化の推奨事項に対して提案される動作の変更が表示されます。このスクリーンショットは、仮想マシン `HA-prot-VM-7` とホスト `host17.domain4.bedford4.ctx4` の最適化の推奨事項を示しています。

最適化の推奨事項の根拠

最適化の推奨事項は、以下の要因に基づいています。

- 最適化モードの調整 で説明されているように、選択した配置戦略 (つまり、配置最適化モード)
- 物理ホストの CPU、メモリ、ネットワーク、ディスク使用率などのリソースのパフォーマンスメトリック
- リソースプールにおけるホストの役割。配置の推奨事項を作成する際、Workload Balancing は、他のホストがワークロードを受け入れられない場合、プールコーディネーターのみを考慮します。(同様に、プールが最大密度モードで動作している場合、Workload Balancing は、VM でホストを埋める順序を決定する際に、プールコーディネーターを最後に考慮します。)

最適化の推奨事項には、以下の情報が表示されます。

- Workload Balancing が再配置を推奨する VM の名前
- 現在 VM が存在するホスト
- Workload Balancing がマシンの新しい場所として推奨するホスト
- Workload Balancing が VM の移動を推奨する理由

  例: CPU 使用率を改善するための「CPU」。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

最適化の推奨事項を承認すると、XenServer® は最適化が推奨されているすべての仮想マシンを再配置します。

ヒント:

リソースプールで最適化モードを確認するには、XenCenter でそのプールを選択し、**WLB** タブの**構成**セクションを確認します。

最適化の推奨事項を承認するには

1. **リソース**ペインで推奨事項を表示したいプールを選択し、**WLB** タブを選択します。選択したリソースプール上の仮想マシンに推奨される最適化がある場合、それらは**WLB**タブに表示されます。
2. 推奨事項を承認するには、**推奨事項の適用**を選択します。XenServer は、**最適化の推奨事項**セクションにリストされているすべての仮想マシンを、推奨されるサーバーに移動し始めます。

   推奨事項の適用を選択した後、**通知**、次に**イベント**タブを選択して、仮想マシンの移行の進行状況を表示できます。

高可用性における WLB の推奨事項について

同じプールで Workload Balancing と XenServer の高可用性機能が有効になっている場合、これら2つの機能がどのように相互作用するかを理解することは役立ちます。Workload Balancing は高可用性と干渉しないように設計されています。Workload Balancing の推奨事項と高可用性の設定の間に競合がある場合、**高可用性**の設定が常に優先されます。実際には、これは次のことを意味します。

- Workload Balancing は、**HA の構成**ダイアログの**許可される障害数**ボックスで指定された数を超えて、ホストを自動的にシャットダウンすることはありません。
  - ただし、Workload Balancing は、許容できるホスト障害の数よりも多くのホストをシャットダウンするよう推奨する場合があります。（たとえば、高可用性が1つのホスト障害しか許容しないように構成されている場合でも、Workload Balancing は2つのホストをシャットダウンするよう推奨します。）しかし、その推奨事項を適用しようとすると、XenCenter は高可用性が保証されなくなることを示すエラーメッセージを表示する場合があります。
  - Workload Balancing が自動モードで実行されており、電源管理が有効になっている場合、許容できるホスト障害の数を超える推奨事項は無視されます。この状況で Workload Balancing のログを確認すると、高可用性が有効になっているため電源管理の推奨事項が適用されなかったというメッセージが表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancing レポートの操作

Workload Balancing は、物理ホスト、リソースプール、仮想マシンの3種類のオブジェクトに関するレポートを提供します。大まかに言うと、Workload Balancing は次の2種類のレポートを提供します。

- 日付別に情報を表示する履歴レポート
- 「ロールアップ」形式のレポート

Workload Balancing は監査目的のレポートも提供するため、たとえば仮想マシンが移動した回数などを特定できます。

レポートの種類

Workload Balancing は、プール、ホスト、およびVMに関するさまざまなレポートを提供します。詳細については、「Workload Balancing レポート用語集」を参照してください。

レポートの生成

Workload Balancing を使用すると、レポートを生成し、PDFまたはスプレッドシートとしてエクスポートし、印刷できます。詳細については、「Workload Balancing レポートの生成と管理」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング

タスクでのワークロードバランシングレポートの使用

ワークロードバランシングレポートは、キャパシティプランニングの実行、仮想マシンの健全性の判断、および設定されたしきい値レベルの有効性の評価に役立ちます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

パフォーマンスしきい値の有効性の評価

プール健全性レポートを使用して、最適化しきい値の有効性を評価できます。ワークロードバランシングは、デフォルトのしきい値設定を提供します。ただし、環境で価値を提供するためには、これらのデフォルトを調整する必要がある場合があります。環境に合わせてしきい値が適切なレベルに調整されていない場合、ワークロードバランシングの推奨事項は環境に適さない可能性があります。

管理上の変更のトラブルシューティング

プール監査証跡レポートを使用して、問題のある変更の発生源（つまり、ユーザーアカウント）と、そのユーザーが実行したイベントまたはタスクを特定できます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング(/ja-jp/xenserver/9/wlb.html)

ワークロードバランシングレポートの生成と管理

このトピックでは、ワークロードレポートの使用に関する基本的な手順を説明します。これには、レポートの生成、ナビゲーション、印刷、およびエクスポートの方法が含まれます。

ワークロードバランシングレポートを生成するには

1. XenCenter® の **リソース** ペインで、**your-resource-pool** を選択します。
2. **プール** メニューから、**ワークロードレポートの表示** を選択します。

   > **ヒント:**
   >
   > **WLB** タブから **レポート** ボタンをクリックして、ワークロードレポート画面を表示することもできます。

3. ワークロードレポート画面で、左ペインからレポートを選択します。
4. レポート期間の **開始日** と **終了日** を選択します。選択したレポートによっては、**ホスト**、**ユーザー**、**オブジェクト** などの他のパラメータを指定する必要がある場合があります。
5. **レポートの実行** をクリックします。レポートがレポートウィンドウに表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ワークロードバランシングレポートをナビゲートするには

レポートを生成した後、レポート内のツールバーボタンを使用してナビゲートし、特定のタスクを実行できます。ツールバーボタンの名前を表示するには、マウスをツールバーアイコンの上に一時停止します。

レポートツールバーボタン:

ドキュメントマップアイコン。(/en-us/xencenter/media/wlb-doc-map-icon.png)	**ドキュメントマップ**。長いレポートをナビゲートするのに役立つドキュメントマップを表示します。
「進む」および「戻る」矢印(/en-us/xencenter/media/wlb-page-forward-back-icon.png)	**ページを進む/戻る**。レポートを1ページ進めたり戻したりします。
「戻る」矢印(/en-us/xencenter/media/wlb-back-parent.png)	**親レポートに戻る**。ドリルスルーレポートを操作しているときに、親レポートに戻ります。**注:** このボタンは、プールヘルスレポートなどのドリルスルーレポートでのみ利用可能です。
レンダリング停止アイコン - 赤い円に白い十字(/en-us/xencenter/media/wlb-stop-render-icon.png)	**レンダリングを停止**。レポートの生成を停止します。
印刷アイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-printer-icon.png)	**印刷**。レポートを印刷し、プリンター、ページ数、部数などの一般的な印刷オプションを指定します。
印刷レイアウトアイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-print-layout-icon.png)	**印刷レイアウト**。印刷する前にレポートのプレビューを表示します。印刷レイアウトを終了するには、**印刷レイアウト**ボタンをもう一度選択します。
ページ設定アイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-page-setup-icon.png)	**ページ設定**。用紙サイズ、ページの向き、余白などの印刷オプションを指定します。
エクスポートアイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-save-icon.png)	**エクスポート**。レポートをAcrobat (`.pdf`) ファイルまたは `.xls` 拡張子のExcelファイルとしてエクスポートします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

検索ツール - 検索バーの画像(/en-us/xencenter/media/wlb-find-icon.png)	**検索**。レポート内の単語（仮想マシンの名前など）を検索します。

Workload Balancing レポートを印刷するには

レポートを印刷する前に、まずレポートを生成する必要があります。

1. (オプション) 印刷されたドキュメントをプレビューするには、**印刷レイアウト**を選択します。

   印刷レイアウトアイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-print-layout-icon.png)

2. (オプション) 用紙サイズ/給紙方法、ページの向き、または余白を変更するには、**ページ設定**を選択します。

   ページ設定アイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-page-setup-icon.png)

3. **印刷**をクリックします。

   印刷アイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-printer-icon.png)

Workload Balancing レポートをエクスポートするには

レポートは、Microsoft Excel および Adobe Acrobat (`.pdf`) 形式でエクスポートできます。

エクスポートアイコン(/en-us/xencenter/media/wlb-save-icon.png)

レポートを生成した後、**エクスポート**を選択し、次のいずれかを選択します。

- エクセル
- Acrobat (`.pdf`) ファイル

注記：

レポートをエクスポートする際に含まれるデータ量は、エクスポート形式によって異なる場合があります。Excelにエクスポートされたレポートには、「ドリルダウン」データを含む、レポートで利用可能なすべてのデータが含まれます。一方、XenCenterに表示されるレポート、または `.pdf` としてエクスポートされるレポートには、レポート生成時に選択したデータのみが含まれます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

ワークロードバランシングレポート用語集

ワークロードバランシングは、以下のレポートを提供します。

チャージバック利用状況分析

チャージバック利用状況分析レポート（「チャージバックレポート」）を使用して、組織内の部門がどれだけのリソース（物理サーバーなど）を使用したかを判断できます。具体的には、このレポートは、プール内のすべての仮想マシンに関する情報（可用性やリソース利用率など）を表示します。このレポートは仮想マシンの可用性（「稼働時間」）を示すため、サービスレベルアグリーメントの遵守と可用性を実証するのに役立ちます。

チャージバックレポートは、シンプルなチャージバックソリューションを実装し、請求を容易にするのに役立ちます。特定の顧客に特定のリソースの使用量について請求するには、レポートを生成し、Excelとして保存します。その後、スプレッドシートデータをカスタマイズして単価を含めるか、Excelデータを請求システムにインポートできます。

仮想マシンの使用量について社内外の顧客に請求したい場合は、VMの命名規則に部門名または顧客名を含めることを検討してください。この規則により、チャージバックレポートの読み取りが容易になります。

チャージバックレポートにおけるリソースレポートは、個々のVMへの物理リソースの割り当てに基づいている場合があります。

同様に、XenServer®は固定または自動のメモリ割り当てを許可するため、このレポートの平均メモリデータは、固定メモリ割り当てであろうと自動調整メモリ割り当て（ダイナミックメモリーコントロール）であろうと、現在VMに割り当てられているメモリ量に基づいています。

チャージバックレポートには、以下のデータ列が含まれています。

- **VM名**。その行の列のデータが適用される仮想マシンの名前。
- **VM稼働時間**。仮想マシンが電源オンになっていた分数（より具体的には、XenCenter®で緑色のアイコンが表示されていた分数）。
- **vCPU割り当て**。仮想マシンに構成されている仮想CPUの数。各仮想CPUは、ホスト上の物理CPUの均等なシェアを受け取ります。たとえば、2つの物理CPUを含むホストに8つの仮想

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

CPUを構成し、この列に「1」があった場合、この値はホスト上の総処理能力の2/16に相当します。

- **最小CPU使用率 (%)**。報告期間中の仮想CPU使用率の最低記録値。この値は、VMの仮想CPU容量に対する割合として表されます。容量は、VMに割り当てられた仮想CPUの数に基づいています。たとえば、VMに1つの仮想CPUを割り当てた場合、最小CPU使用率はXenServerが記録した仮想CPU使用率の最低割合を表します。VMに2つの仮想CPUを割り当てた場合、この列の値は、両方の仮想CPUの合計容量の最低使用率を表します。この値はパーセンテージで表されます。

  最終的に、CPU使用率の割合は、仮想CPUが処理した最低記録ワークロードを表します。たとえば、VMに1つの仮想CPUを割り当て、ホスト上の物理CPUが2.4 GHzである場合、VMには2.4 GHzの8分の1を割り当てていることになります。この動作は、VMの割り当て容量が0.3 GHz、つまり300 MHzであり、仮想マシンの最小CPU使用率が20%であった場合、報告期間中のVMの物理ホストCPUの最低使用量は60 MHzであったことを意味します。
- **最大CPU使用率 (%)**。報告期間中に仮想マシンが消費した仮想マシンの仮想CPU容量の最高割合。消費されたCPU容量は、仮想マシンに割り当てた仮想CPU容量に対する割合です。たとえば、VMに1つの仮想CPUを割り当てた場合、最大CPU使用率は、報告期間中に記録された仮想CPU使用率の最高割合を表します。仮想マシンに2つの仮想CPUを割り当てた場合、この列の値は、両方の仮想CPUの合計容量からの最高利用率を表します。
- **平均CPU使用率 (%)**。レポート期間中に使用された仮想マシンの仮想CPU容量の平均量（パーセンテージで表示）。CPU容量とは、仮想マシンに割り当てた仮想CPU容量です。仮想マシンに2つの仮想CPUを割り当てた場合、この列の値は両方の仮想CPUの合計容量からの平均使用率を表します。
- **合計ストレージ割り当て (GB)**。レポートが実行された時点で仮想マシンに現在割り当てられているディスク容量。多くの場合、変更しない限り、このディスク容量は仮想マシンを作成したときに割り当てたディスク容量です。
- **仮想NIC割り当て**。仮想マシンに割り当てられている仮想インターフェース (VIF) の数。
- **現在の最小動的メモリ (MB)**。
  - **固定メモリ割り当て**。仮想マシンに固定量のメモリ（例：1,024 MB）を割り当てた場合、同じ量のメモリが以下の列に表示されます: 現在の最小動的メモリ (MB)、現在の最大動的メモリ (MB)、現在の割り当て済みメモリ (MB)、平均割り当て済みメモリ (MB)。
  - **動的メモリ割り当て**。XenServerを構成して、範囲に基づいてVMのメモリを自動的に調整するようにした場合、この列には範囲で指定された最小メモリ量が表示されます。たとえば、XenCenterの**メモリ設定**ダイアログボックスで、この仮想マシンに対して**この範囲内でメモリを自動的に割り当てる**オプションを選択し、範囲値として最小メモリを1,024

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

MB、最大メモリを2,048 MBと指定した場合、**現在の最小動的メモリ (MB)** 列には1,024 MBが表示されます。

- **現在の最大動的メモリ (MB)**。
  - **動的メモリ割り当て**。XenServerが範囲に基づいてVMのメモリを自動的に調整するように設定されている場合、この列には範囲で指定された最大メモリ量が表示されます。たとえば、提供したメモリ範囲が最小1,024 MB、最大2,048 MBであった場合、現在の最大動的メモリ (MB) 列には2,048 MBが表示されます。
  - **固定メモリ割り当て**。VMに固定量のメモリ（例：1,024 MB）を割り当てた場合、同じ量のメモリが以下の列に表示されます: 現在の最小動的メモリ (MB)、現在の最大動的メモリ (MB)、現在の割り当て済みメモリ (MB)、平均割り当て済みメモリ (MB)。
- **現在の割り当て済みメモリ (MB)**。
  - **動的メモリ割り当て**。動的メモリ制御が構成されている場合、この値はレポートが実行された時点でXenServerが仮想マシンに割り当てているメモリ量を示します。
  - **固定メモリ割り当て**。仮想マシンに固定量のメモリ（例：1,024 MB）を割り当てた場合、同じ量のメモリが以下の列に表示されます: 現在の最小動的メモリ (MB)、現在の最大動的メモリ (MB)、現在の割り当て済みメモリ (MB)、平均割り当て済みメモリ (MB)。

> **注記:**
>
> このレポートを実行する直前に仮想マシンのメモリ割り当てを変更した場合、この列に反映される値は、構成した新しいメモリ割り当てを反映します。

- **平均割り当て済みメモリ (MB)**。
  - **動的メモリ割り当て**。動的メモリ制御が構成されている場合、この値は、レポート期間中にXenServerが仮想マシンに割り当てた平均メモリ量を示します。
  - **固定メモリ割り当て**。仮想マシンに固定量のメモリ（たとえば1,024 MB）を割り当てると、次の列に同じ量のメモリが表示されます：現在の最小動的メモリ (MB)、現在の最大動的メモリ (MB)、現在の割り当て済みメモリ (MB)、および平均割り当て済みメモリ (MB)。

> **注:**
>
> このレポートを実行する直前に仮想マシンのメモリ割り当てを変更した場合、この列に表示される値は、以前に表示されていた値から変更されない可能性があります。この列の値は、期間中の平均を反映しています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **平均ネットワーク読み取り (BPS)**。レポート期間中に仮想マシンが受信したデータの平均量（ビット/秒）。
- **平均ネットワーク書き込み (BPS)**。レポート期間中に仮想マシンが送信したデータの平均量（ビット/秒）。
- **平均ネットワーク使用量 (BPS)**。平均ネットワーク読み取りと平均ネットワーク書き込みの合計（ビット/秒）。たとえば、レポート期間中に仮想マシンが平均1,027ビット/秒を送信し、平均23,831ビット/秒を受信した場合、平均ネットワーク使用量はこれら2つの値の合計である24,858ビット/秒になります。
- **合計ネットワーク使用量 (BPS)**。レポート期間中のすべてのネットワーク読み取りおよび書き込みトランザクションの合計（ビット/秒）。

ホストの健全性履歴

このレポートは、しきい値に関連する特定のホスト上のリソース（CPU、メモリ、ネットワーク読み取り、ネットワーク書き込み）のパフォーマンスを表示します。

色付きの線（赤、緑、黄）は、しきい値を表します。このレポートをホストのプール健全性レポートと組み合わせて使用すると、特定のホストのパフォーマンスがプール全体の健全性にどのように影響しているかを判断できます。パフォーマンスのしきい値を編集する際には、このレポートをホストのパフォーマンスに関する洞察を得るために使用できます。

リソース使用率を日次または時間平均で表示できます。時間平均では、期間中の1日の最も忙しい時間を平均して確認できます。

時間別にグループ化されたレポートデータを表示するには、**Host Health History** タイトルバーの下にある **+ クリックして、期間の時間別にグループ化されたレポートデータを表示** を展開します。

Workload Balancingは、設定した期間の各時間の平均を表示します。データポイントは、その期間内のすべての日におけるその時間の使用率の平均に基づいています。たとえば、May 1, 2009からMay 15, 2009までのレポートでは、平均CPU使用率のデータポイントは、15日間のすべてにおいて12:00時点のリソース使用率を平均として結合したものを表します。つまり、May 1の午後12時にCPU使用率が82%、May 2の午後12時に88%、その他のすべての日に75%だった場合、午後12時に表示される平均は76.3%になります。

プール最適化パフォーマンス履歴

最適化パフォーマンスレポートは、最適化イベント（つまり、リソースプールを最適化したとき）を、そのプールの平均リソース使用量と比較して表示します。具体的には、CPU、メモリ、ネットワーク読み取り、およびネットワーク書き込みのリソース使用量を表示します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

点線は、選択した期間におけるプール全体の平均使用量を表します。青いバーは、プールを最適化した日を示します。

このレポートは、Workload Balancing が環境で正常に機能しているかどうかを判断するのに役立ちます。このレポートを使用して、最適化イベントに至るまでの状況（つまり、Workload Balancing が最適化を推奨する前のリソース使用量）を確認できます。

このレポートは、その日の平均リソース使用量を表示します。システムに負荷がかかっているときのようなピーク時の使用率は表示しません。Workload Balancing が最適化の推奨を行っていない場合でも、このレポートを使用してリソースプールのパフォーマンスを確認できます。

一般的に、最適化イベント後、リソース使用量は減少するか、安定した状態を保ちます。最適化後にリソース使用量の改善が見られない場合は、しきい値の再調整を検討してください。また、リソースプールに仮想マシンが多すぎるかどうか、および指定した期間中に新しい仮想マシンが追加または削除されたかどうかも検討してください。

プール監査証跡

このレポートは、不正なアクションの実行試行と選択された承認済みアクションをログに記録するように設計された機能である Audit Log の内容を表示します。これらのアクションには、インポート/エクスポート、ホストおよびプールのバックアップ、ゲストおよびホストのコンソールアクセスが含まれます。Role-Based Access Control 機能を使用して、XenServer 管理者に個別の役割が割り当てられた独自のユーザーアカウントが与えられている場合、レポートはより意味のある情報を提供します。Audit Log 機能の詳細については、Workload Balancing documentation の監査ログドキュメントを参照してください。

重要:

>

監査ログレポートを実行するには、監査ログ機能が有効になっている必要があります。デフォルトでは、Workload Balancing 仮想アプライアンスでは Audit Log は常に有効になっています。

強化されたプール監査証跡機能により、監査ログレポートの粒度を指定できます。また、特定のユーザー、オブジェクト、および時間で監査証跡ログを検索およびフィルタリングすることもできます。プール監査証跡の粒度は、デフォルトで **最小** に設定されています。このオプションは、特定のユーザーおよびオブジェクトタイプに対して限られた量のデータをキャプチャします。レポートで必要となる詳細レベルに基づいて、いつでも設定を変更できます。たとえば、監査ログの

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ユーザーフレンドリーなレポートには粒度を **中** に設定します。詳細なレポートが必要な場合は、オプションを **最大** に設定します。

プール監査証跡の粒度 設定を変更するには：

1. **インフラストラクチャ** ビューでプールを選択し、**WLB** タブを選択してから、**設定** を選択します。
2. 左ペインで、**詳細設定** を選択します。
3. 詳細設定ページで、**プール監査証跡レポートの粒度** リストを選択し、リストからオプションを選択します。

   重要:

   監査ログの要件に基づいて、粒度を選択します。たとえば、監査ログレポートの粒度を**最小**に設定した場合、監査レポートは特定のユーザーとオブジェクトタイプに対して限られた量のデータのみをキャプチャします。粒度を**中**に設定した場合、レポートは監査ログのユーザーフレンドリーなレポートを提供します。粒度を**最大**に設定することを選択した場合、レポートには監査ログレポートに関する詳細情報が含まれます。監査ログレポートを最大に設定すると、Workload Balancingサーバーがより多くのディスクスペースとメモリを使用する可能性があります。

4. **OK**をクリックして変更を確定します。

このレポートには、次の情報が表示されます。

- **時間**。XenServerがユーザーのアクションを記録した時間。
- **ユーザー名**。アクションが実行されたセッションを作成したユーザーの名前。場合によっては、この値がユーザーIDであることがあります。
- **イベントオブジェクト**。アクションの対象となったオブジェクト（例：仮想マシン）。
- **イベントアクション**。発生したアクション。これらのアクションの定義については、「監査ログイベント名」を参照してください。
- **アクセス**。ユーザーがアクションを実行する権限を持っていたかどうか。
- **オブジェクト名**。オブジェクトの名前（例：仮想マシンの名前）。
- **オブジェクトUUID**。オブジェクトのUUID（例：仮想マシンのUUID）。
- **成功**。この値はアクションのステータス（つまり、成功したかどうか）を示します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プールヘルス

プールヘルスレポートには、リソースプールとそのホストが、クリティカル、高、中、低の4つの異なるしきい値範囲で費やした時間の割合が表示されます。プールヘルスレポートを使用して、パフォーマンスしきい値の有効性を評価できます。

このレポートの解釈に関するいくつかのポイント：

- 平均中しきい値（青）のリソース使用率は、選択した配置戦略に関係なく最適なリソース使用率です。同様に、円グラフの青いセクションは、ホストがリソースを最適に使用した時間を示します。
- 平均低しきい値パーセント (緑) におけるリソース使用率は、必ずしも良好とは限りません。低いリソース使用率が良好であるかどうかは、配置戦略によって異なります。たとえば、配置戦略が最大密度で、ほとんどの場合リソース使用率が緑色であった場合、Workload Balancing はそのホストまたはプールに可能な限り最大の数の仮想マシンを適合させていない可能性があります。その場合は、リソース使用率のほとんどが平均中 (青) のしきい値範囲に収まるまで、パフォーマンスしきい値の値を調整してください。
- 平均クリティカルしきい値パーセント (赤) におけるリソース使用率は、平均リソース使用率がクリティカルしきい値に達した、または超えた時間の量を示します。

ホストのリソース使用状況の円グラフをダブルクリックすると、XenCenter はそのホストのそのリソースに関するホスト健全性履歴レポートを表示します。「**親レポートに戻る**」ツールバーボタンをクリックすると、プール健全性履歴レポートに戻ります。注: このボタンは、プール健全性レポートなどのドリルスルーレポートでのみ使用できます。

レポート結果のほとんどが平均中しきい値の範囲にない場合、このプールのクリティカルしきい値を調整する必要があると考えられます。Workload Balancing はデフォルトのしきい値設定を提供しますが、これらのデフォルトはすべての環境で効果的であるとは限りません。環境に合わせてしきい値が適切なレベルに調整されていない場合、Workload Balancing の最適化および配置に関する推奨事項は適切ではない可能性があります。詳細については、「クリティカルしきい値の変更」を参照してください。

注:

高、中、低のしきい値範囲は、クリティカルしきい値に基づいています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プール健全性履歴

このレポートは、プール内のすべての物理ホストにおけるリソース使用率の経時的な折れ線グラフを提供します。これにより、リソース使用率の傾向 (しきい値 (クリティカル、高、中、低) に対して増加傾向にあるかどうか) を確認できます。このレポートのデータポイントの傾向を監視することで、パフォーマンスしきい値の有効性を評価できます。

Workload Balancing は、クリティカルしきい値に設定した値からしきい値範囲を外挿します。プール健全性レポートと似ていますが、プール健全性履歴レポートは、リソースがしきい値内で費やした全体的な時間ではなく、特定の日付におけるリソースの平均使用率を表示します。

平均空きメモリグラフを除き、データポイントがクリティカルしきい値ライン (赤) を平均して超えることはありません。平均空きメモリグラフの場合、データポイントがクリティカルしきい値ライン (グラフの下部にある) を平均して下回ることはありません。このグラフは空きメモリを表示するため、他のリソースとは異なり、クリティカルしきい値は低い値になります。

このレポートを解釈する上でのいくつかのポイント:

- グラフの平均使用量ラインが平均中しきい値 (青) ラインに近づくと、構成されている配置戦略に関係なく、プールのリソース使用率が最適であることを示します。
- 平均低しきい値 (緑) に近づくリソース使用率は、必ずしも良好とは限りません。低いリソース使用率が良好であるかどうかは、配置戦略によって異なります。たとえば、配置戦略が最大密度で、ほとんどの日で平均使用量ラインが緑色のライン以下である場合、Workload Balancing はそのプールに可能な限り密に仮想マシンを配置していない可能性があります。その場合は、プールのクリティカルしきい値の値を、そのリソース使用率のほとんどが平均中 (青) のしきい値範囲に収まるまで調整してください。
- 平均使用量ラインが平均クリティカルしきい値パーセント (赤) と交差する場合、この交差は、そのリソースの平均リソース使用率がクリティカルしきい値に達した、または超えた日を示します。

ほとんどのグラフのデータポイントが平均中しきい値の範囲にないが、このプールのパフォーマンスに満足している場合は、このプールのクリティカルしきい値を調整する必要があるかもしれません。詳細については、「クリティカルしきい値の変更」を参照してください。

プール最適化履歴

プール最適化履歴レポートは、Workload Balancing の最適化アクティビティを時系列で可視化します。

最適化アクティビティは、グラフと表で要約されます。表内の日付フィールドをドリルダウンすると、その日に実行された各プール最適化の詳細情報が表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

このレポートでは、以下の情報を確認できます。

- **VM 名**: Workload Balancing が最適化した仮想マシンの名前。
- **理由**: 最適化の理由。
- **ステータス**: 最適化が成功したかどうか。
- **元ホスト**: 仮想マシンが元々ホストされていた物理サーバー。
- **移動先ホスト**: 仮想マシンが移動された物理サーバー。
- **時刻**: 最適化が発生した時刻。

ヒント:

WLB タブから **履歴の表示** リンクをクリックして、プール最適化履歴レポートを生成することもできます。

仮想マシン移動履歴

この折れ線グラフは、ある期間にリソースプール上で仮想マシンが移動した回数を表示します。移動が最適化の推奨によるものか、どのホストに仮想マシンが移動したかを示します。このレポートは、最適化の理由も示します。このレポートを使用して、プール上の移動回数を監査できます。

このレポートを解釈する際の注意点：

- チャートの左側の数字は、可能な移動数に対応しており、これはリソースプール内のVMの数に基づいています。
- レポートの**Date**セクションにある+記号を展開すると、特定の日付の移動の詳細を確認できます。

仮想マシンのパフォーマンス履歴

このレポートは、指定した期間における特定のホスト上の各仮想マシンのパフォーマンスデータを表示します。Workload Balancingは、仮想マシンに割り当てられた仮想リソースの量に基づいてパフォーマンスデータを算出します。たとえば、VMの平均CPU使用率が67%の場合、指定された期間中、VMはそのvCPUの平均67%を使用していたことになります。

レポートの初期表示では、指定した期間におけるリソース使用率の平均値が表示されます。

+記号を展開すると、個々のリソースの折れ線グラフが表示されます。これらのグラフを使用して、時間の経過に伴うリソース使用率の傾向を確認できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

このレポートは、CPU使用率、空きメモリ、ネットワーク読み取り/書き込みのデータを表示します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

監査ログイベント

監査ログレポートは、XenServerのイベント、イベントオブジェクト、およびアクションをログに記録します。これらのアクションには、インポート/エクスポート、ホストとプールのバックアップ、ゲストとホストのコンソールアクセスが含まれます。次の表は、XenServer監査ログおよびプール監査証跡レポートに頻繁に表示される一般的なイベントの一部を定義しています。この表は、これらのイベントの粒度も指定しています。

Pool Audit Trailレポートでは、**Event Action**列にリストされているイベントは、プール、VM、またはホストに適用されます。イベントが何に適用されるかを判断するには、レポートの**Event Object**列と**Object Name**列を参照してください。追加のイベント定義については、Management APIを参照してください。**Pool Audit Trail granularity**設定の詳細については、Advanced Settingsを参照してください。

プール監査証跡の粒度	イベントアクション	ユーザーアクション
最小	VM.start	仮想マシンを起動しました。
最小	VM.copy	指定されたVMをコピーし、新しいVMを作成しました。
最小	host.reboot	XenServerホストを再起動しました。
最小	host.disable	ホストを、新しいVMを起動できない状態にする。
最小	pool.join	ホストに新しいプールへの参加を指示した。
最小	pool.join_force	ホストに新しいプールへの参加を指示した（強制）。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プール監査証跡の粒度	イベントアクション	ユーザーアクション
中	SR.destroy	ストレージリポジトリを破棄した。
中	SR.create	ストレージリポジトリを作成した。
中	VDI.スナップショット	VDIの読み取り専用スナップショットを取得し、そのスナップショットへの参照を返しました。
中	VDI.クローン	VDIの正確なコピーを作成し、新しいディスクへの参照を返しました。
中	VIF.プラグ	指定されたVIFをホットプラグし、実行中のVMに動的にアタッチしました。
中	VIF.アンプラグ	指定されたVIFをホットアンプラグし、実行中のVMから動的にデタッチしました。
最大	auth.get_subject_identifier	外部ディレクトリサービスを照会し、人間が判読できるサブジェクト名からサブジェクト識別子を文字列として取得しました。
最大	task.cancel	タスクのキャンセルが要求されました。
最大	VBD.インサート	デバイスに新しいメディアが挿入されました。
最大	VIF.get_by_uuid	指定されたUUIDを持つVIFインスタンスへの参照を取得しました。
最大	VDI.get_sharable	指定されたVDIのsharableフィールドを取得しました。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プール監査証跡の粒度	イベントアクション	ユーザーアクション
最大	SR.get_all	システムに認識されているすべてのSRのリストを返しました。
最大	pool.create_new_blob	このプールに関連付けられた、名前付きバイナリデータブロブのプレースホルダーを作成しました。
最大	host.send_debug_keys	指定された文字列をデバッグキーとしてXenに挿入しました。
最大	VM.get_boot_record	VMの動的状態を記述するレコードを返しました。このレコードはVMの起動時に初期化され、CPUホットプラグなどの実行時構成の変更を反映するように更新されます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancing設定の編集

Workload Balancing仮想アプライアンスに接続した後、Workload Balancingが配置と最適化の推奨事項を計算するために使用する設定を編集できます。次のようなタスクを実行できます。

- 最適化モードの調整
- 自動化と電源管理の設定
- クリティカルしきい値の変更
- メトリックの重み付けの調整
- 推奨事項からホストを除外
- 詳細設定
- XenCenterでのWorkload Balancingアラートの構成

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

Workload Balancingに接続または再接続した後、設定を変更する前に、少なくとも60秒間待機してください（Workload Balancing (/var/log/wlb/LogFile.log) に検出が完了したと表示されるまで）。

Workload Balancing設定の適用方法

Workload Balancing設定は、プール内のすべての仮想マシンとホストにまとめて適用されます。

ネットワークとディスクのしきい値が環境内のハードウェアと一致している場合、最初はWorkload Balancingのほとんどのデフォルト設定を使用することを検討してください。

Workload Balancingをしばらく有効にした後、Citrix®は、パフォーマンスのしきい値を評価し、それらを編集する必要があるかどうかを判断することを推奨します。たとえば、次の場合を検討してください。

- 最適化の推奨がまだ必要ないのに表示される。その場合は、Workload Balancing が適切な最適化の推奨を提供するようになるまで、しきい値を調整してみてください。
- ネットワークの帯域幅が不十分だと思われるのに推奨が表示されない。その場合は、Workload Balancing が最適化の推奨を提供するようになるまで、ネットワークのクリティカルなしきい値を下げてみてください。

しきい値を編集する前に、プール内の各物理ホストのホストヘルス履歴レポートを生成しておくと便利です。

構成設定を変更するには、XenCenter® の **Workload Balancing Configuration** プロパティまたは xe CLI のいずれかを使用できます。

XenServer と Workload Balancing サーバーが通信に使用する資格情報を更新するには、「Updating Workload Balancing Credentials」を参照してください。

Workload Balancing の設定の調整に関する詳細なガイダンスについては、「Workload Balancing documentation」を参照してください。

Workload Balancing 設定ダイアログボックスを表示するには

1. XenCenter の **リソース** ペインで、**your-resource-pool** を選択します。
2. **プロパティ** ペインで、**WLB** タブをクリックします。
3. **WLB** タブで、**設定** をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- ワークロードバランシング

最適化モードの調整

ワークロードバランシングは、最適化モードとして知られる、選択した配置戦略に基づいて、環境内の仮想マシンワークロードを再調整または最適化するための推奨を行います。

次の2つの最適化モードのいずれかを選択できます。

- **パフォーマンスの最大化**。（デフォルト。）ワークロードバランシングは、リソースプール内のすべての物理ホストにワークロードを均等に分散しようとします。目標は、すべてのホストのCPU、メモリ、ネットワーク、ディスクの負荷を最小限に抑えることです。パフォーマンスの最大化が配置戦略である場合、仮想マシンが「高」しきい値に達すると、ワークロードバランシングは最適化を推奨します。
- **密度の最大化**。ワークロードバランシングは、可能な限り多くの仮想マシンを物理ホストに収容しようとします。目標は、オンラインである必要がある物理ホストの数を最小限に抑えることです。

  密度の最大化を配置戦略として選択すると、パフォーマンスの最大化の場合と同様のルールを指定できます。ただし、ワークロードバランシングはこれらのルールを使用して、仮想マシンをホストにどのようにパックできるかを決定します。密度の最大化が配置戦略である場合、仮想マシンが「クリティカル」しきい値に達すると、ワークロードバランシングは最適化を推奨します。

ワークロードバランシングでは、これらの最適化モードを常に適用する*固定*、または指定された期間でモードを切り替える*スケジュール済み*を選択することもできます。

- **固定**。固定最適化モードは、ワークロードバランシングを常に特定の最適化動作（最高のパフォーマンスまたは最高の密度を作成しようとするかのいずれか）に設定します。
- **スケジュール済み**。スケジュール済み最適化モードでは、ワークロードバランシングが時間帯に応じて異なる最適化モードを適用するようにスケジュールできます。たとえば、ユーザーが接続している日中は、ワークロードバランシングをパフォーマンスのために最適化するように構成できます。その後、夜間にワークロードバランシングを最大密度に最適化するように指定することで、エネルギーを節約できます。

  スケジュール済み最適化モードを構成すると、ワークロードバランシングは指定した期間の開始時に自動的に最適化モードに切り替わります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

すべての期間にわたって最適化モードを設定するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**WLB**タブを選択し、次に**設定**を選択します。
2. 左ペインで、**最適化モード**を選択します。
3. **固定**を選択し、次の最適化モードのいずれかを選択します。

   - **パフォーマンスの最大化**。（デフォルト。）リソースプール内のすべての物理ホストにワークロードを均等に分散しようとします。目標は、すべてのホストのCPU、メモリ、ネットワーク、ディスクの負荷を最小限に抑えることです。
   - **密度を最大化**。可能な限り多くの仮想マシンを物理ホストに収容しようとします。目標は、オンラインにする必要がある物理ホストの数を最小限に抑えることです。(Workload Balancing は、統合された VM のパフォーマンスを考慮し、ホスト上のリソースがクリティカルしきい値に達した場合にパフォーマンスを向上させるための推奨事項を発行します。)

最適化モードが自動的に変更される時間を指定するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**WLB**タブを選択し、次に**設定**を選択します。
2. 左ペインで、**最適化モード**を選択します。
3. **スケジュール済み**を選択します。
4. **新規追加**を選択して、**最適化モードスケジューラ**ダイアログボックスを開きます。
5. **変更先**リストボックスで最適化モードを選択します。

   - **パフォーマンスを最大化**。リソースプール内のすべての物理ホストにワークロードを均等に分散しようとします。目標は、すべてのホストのCPU、メモリ、ネットワーク、およびディスクの負荷を最小限に抑えることです。
   - **密度を最大化**。可能な限り多くの仮想マシンを物理ホストに収容しようとします。目標は、オンラインにする必要がある物理ホストの数を最小限に抑えることです。

6. Workload Balancing をこのモードで動作させたい曜日と時間を選択します。
7. 必要な数になるまで、スケジュールされたモード変更 (つまり、「タスク」) をさらに作成します。1つのタスクしかスケジュールしない場合、Workload Balancing はそのモードに切り替わり、元に戻ることはありません。
8. **OK**を選択します。

スケジュールされた最適化モードタスクを削除または一時停止するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**WLB**タブを選択し、次に**設定**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. **最適化モード**を選択します。
3. スケジュールされたタスクを選択し、次のいずれかを選択します。

   - **タスクを完全に削除します。削除**ボタンを選択します。
   - **タスクの一時的な実行を停止します。**タスクを右クリックし、**無効にする**を選択します。

   タスクを再度有効にするには、**スケジュールされたモード変更**リストでタスクを右クリックします。

スケジュールされた最適化モードタスクを編集するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**WLB**タブを選択してから、**設定**を選択します。
2. スケジュールされたタスクを選択します。
3. **編集**を選択します。
4. **変更先**ボックスで、別のモードを選択するか、必要に応じて他の変更を行います。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

自動的に電力を最適化および管理する

Workload Balancing を設定して、最適化の推奨事項を自動的に受け入れ（自動化）、サーバーを自動的にオンまたはオフにできます（電源管理）。

最適化の推奨事項を自動的に受け入れる

Workload Balancing を設定すると、ユーザーに代わって最適化の推奨事項を受け入れ、推奨される最適化アクションを自動的に実行できます。自動化として知られるこの機能を使用して、パフォーマンスの向上やホストの電源オフなど、あらゆる推奨事項を自動的に適用できます。ただし、仮想マシンの使用量が減少したときにホストの電源をオフにするには、自動化、電源管理、および最大密度モードを設定する必要があります。

デフォルトでは、Workload Balancing は最適化を自動的に受け入れません。Workload Balancing に推奨事項を自動的に受け入れさせたい場合は、自動化を有効にします。有効にしない場合でも、Workload Balancing は推奨事項を手動で受け入れるように促します。

Workload Balancing は、推奨事項が High Availability 設定と競合する場合、ホストまたは仮想マシンに推奨事項を自動的に適用しません。Workload Balancing の最適化推奨事項を適用することでプールがオーバーコミット状態になった場合、XenCenter® は推奨事項の適用を続行するかどうか

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

を尋ねます。自動化が有効になっている場合、Workload Balancing は、High Availability プランで許容されるホスト障害の数を超える電源管理の推奨事項を適用しません。

自動モードで Workload Balancing が推奨事項を適用する方法を微調整できます。詳細については、詳細設定を参照してください。

電源管理を有効にする

*電源管理*とは、物理ホストの電源をオンまたはオフにする機能です。Workload Balancing のコンテキストでは、この用語は、プールの総ワークロードに基づいて、プール内のホストの電源をオンまたはオフにすることを指します。

ホストで Workload Balancing の電源管理を設定するには、次の条件が必要です。

- ホストサーバーのハードウェアがリモート電源オン/オフ機能を備えていること
- ホストに対してホスト電源オン機能が設定されていること
- ホストが (Workload Balancing) 電源管理に参加するホストとして明示的に選択されていること

さらに、Workload Balancing にホストを自動的に電源オフさせたい場合は、次の設定も必要です。

- Workload Balancing が推奨事項を自動的に適用するように設定されていること
- Workload Balancing は、Power Management の推奨事項を自動的に適用するように構成されています

プールが最大密度モードの場合、Workload Balancing が未使用のリソースを検出すると、プール内のすべての余剰容量がなくなるまでホストの電源をオフにすることを推奨します。WLB が、サーバーをシャットダウンするのに十分なホスト容量がプールにないと検出した場合、プールのワークロードが十分に減少するまでサーバーの電源をオンのままにしておくことを推奨します。Workload Balancing を構成して余分なサーバーの電源を自動的にオフにする場合、これらの推奨事項を自動的に適用するため、同様に動作します。

ホストが Power Management に参加するように設定されている場合、Workload Balancing は、必要に応じて電源オン/オフの推奨を行います。Power Management の推奨事項を自動的に適用するオプションをオンにすると、プールレベルでそうします。ただし、プール内のどのホストを Power Management に参加させるかを指定できます。

Power Management の動作について

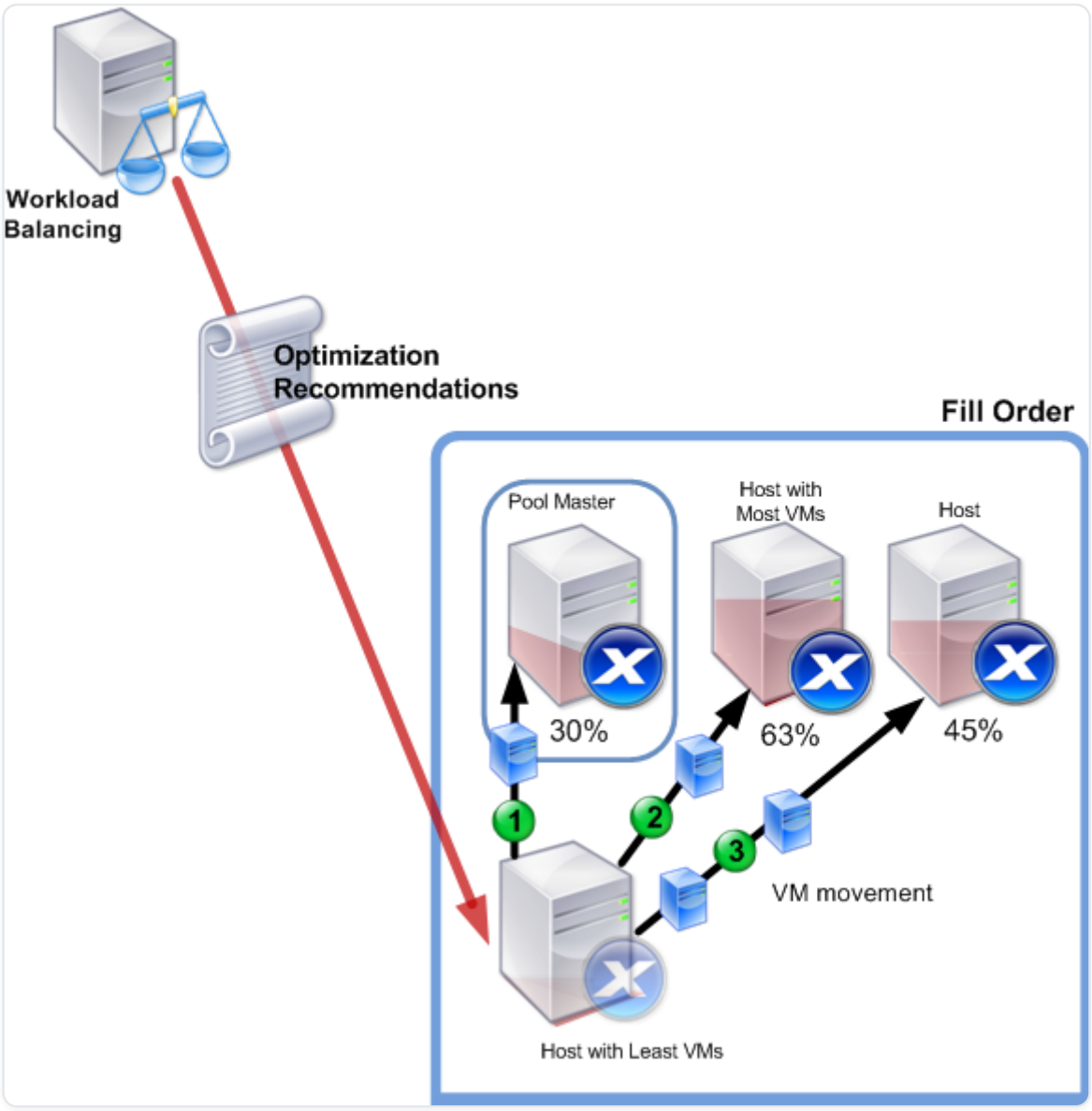
Workload Balancing がホストの電源をオンまたはオフにするよう推奨する前に、仮想マシンを転送するホスト（つまり、「埋める」ホスト）を選択します。それは次の順序で行われます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. プールコーディネーターを埋めます。これは電源をオフにできないホストであるためです。
2. 最も多くの仮想マシンを持つホストを埋めます。
3. 実行中の仮想マシンが最も多いホストに応じて、その後のホストを埋めます。

Workload Balancing がプールコーディネーターを埋める際、プールコーディネーターに対して人為的に低い（内部的な）しきい値を想定して行います。Workload Balancing は、これらの低いしきい値をバッファーとして使用し、プールコーディネーターが過負荷になるのを防ぎます。

Workload Balancing は、密度を高めるためにこの順序でホストを埋めます。



この図は、最大密度モードでホスト上の VM を統合する際に、XenServer® が最初にプールコーディネーターを埋め、次に最も負荷の高いサーバーを、3番目に最も負荷の低いサーバーを埋める方法を示しています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プールが最大密度モードのときに Workload Balancing がパフォーマンスの問題を検出した場合、電源がオンになっているホスト間でワークロードを移行することを推奨することで、その問題に対処します。Workload Balancing がこの方法で問題を解決できない場合、ホストの電源をオンにしようとします。(Workload Balancing は、最適化モードが最大パフォーマンスに設定されている場合と同じ基準を適用して、どのホストの電源をオンにするかを決定します。)

WLB が最大パフォーマンスモードで実行されている場合、プール内のすべてのホストのリソース使用率が「高」しきい値を下回るまで、ホストの電源をオンにします。

1つ以上のVMを移行中に、WLB が容量を増やすことがプールの全体的なパフォーマンスに利益をもたらすと判断した場合、ホストの電源を自動的にオンにするか、そうすることを推奨します。

「

重要:

」:

ワークロードバランシングは、ワークロードバランシングが電源をオフにしたホストの電源をオンにすることのみを推奨します。

電源管理とVM統合のための環境設計

XenServerの実装を計画し、自動VM統合と電源管理を構成する予定がある場合は、ワークロードの設計を検討してください。たとえば、次のようにすることができます。

- **異なる種類のワークロードを別々のプールに配置する。** 特定の種類のハードウェアでより優れたパフォーマンスを発揮する異なる種類のワークロードやアプリケーションがある場合は、これらのワークロードをホストするVMを異なるプールに配置するかどうかを検討してください。

  電源管理とVM統合はプールレベルで管理されるため、同じレートで統合したいワークロードを含むようにプールを設計してください。詳細設定トピックで説明されているような考慮事項を考慮に入れてください。
- **ワークロードバランシングからホストを除外する。** 一部のホストは常にオンである必要がある場合があります。詳細については、推奨事項からホストを除外するを参照してください。

最適化の推奨事項を自動的に適用するには

1. XenCenterの**リソース**ペインで、**XenCenter** > リソースプールを選択します。
2. **プロパティ**ペインで、**WLB**タブを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. **WLB**タブで、**WLBの構成**を選択します。
4. 左ペインで、**自動化**を選択します。
5. 次のチェックボックスを1つ以上選択します。

   - **最適化の推奨事項を自動的に適用する。** このオプションを選択すると、最適化の推奨事項を手動で承認する必要がなくなります。ワークロードバランシングは、最適化と配置に関する推奨事項を自動的に承認します。
   - **電源管理の推奨事項を自動的に適用する。** このオプションの動作は、プールの最適化モードによって異なります。

     - **最大パフォーマンスモード。** 「**電源管理の推奨事項を自動的に適用する**」が有効になっている場合、Workload Balancing は、ホストのパフォーマンスが向上する場合に、ホストの電源を自動的にオンにします。
     - **最大密度モード。** 「**電源管理の推奨事項を自動的に適用する**」が有効になっている場合、Workload Balancing は、リソース使用率が低しきい値を下回ると、ホストの電源を自動的にオフにします。つまり、Workload Balancing は、使用率の低い期間にホストの電源を自動的にオフにします。

6. 次のいずれかを実行します。

   - 電源管理を構成する場合は、「**自動化/電源管理**」を選択し、次のセクションに進みます。
   - 電源管理を構成しない場合、および自動化の構成が完了している場合は、「**OK**」を選択します。

電源管理のサーバーを選択するには

1. 電源管理セクションで、Workload Balancing で自動的に電源をオン/オフするホストを選択します。

   注:

   電源管理の推奨事項のためにホストを選択しても、「**電源管理の推奨事項を自動的に適用する**」を選択しない場合、Workload Balancing は電源管理の推奨事項を提案しますが、それらを自動的に適用することはありません。

2. 「**OK**」をクリックします。リソースプール内の物理サーバーのいずれもリモート電源管理をサポートしていない場合、Workload Balancing は「**電源管理をサポートするホストはありません**」というメッセージを表示します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

臨界しきい値の変更

このトピックでは、デフォルトの臨界しきい値を変更する方法、および臨界しきい値の変更に伴い**高**、**中**、**低**のしきい値の値を設定する方法についてガイダンスを提供します。

この情報は、しきい値を変更する際の参考としてのみ提供されます。このトピックで説明されている概念を理解するには、(/ja-jp/xenserver/9/wlb.html)で提供されている情報のより完全なコンテキストでそれらを読むことが重要です。

概要

使用率を評価する際、Workload Balancing はその日次平均を低、中、高、臨界の4つのしきい値と比較します。臨界しきい値を指定（またはデフォルトを受け入れ）すると、Workload Balancing はプール上の臨界しきい値に対して他のしきい値を設定します。最適化の推奨がいつトリガーされるかを制御する方法として、臨界しきい値を変更したい場合があります。

Workload Balancing は、リソースプール内の物理ホストのCPU、メモリ、ネットワーク読み取り、ネットワーク書き込み、ディスク読み取り、およびディスク書き込みの使用率を評価します。

Workload Balancing は、ワークロードの再配置を推奨するかどうか、および物理ホストが仮想マシンワークロードに適しているかどうかを、以下を評価することによって決定します。

- 物理ホストでリソースの臨界しきい値が満たされているかどうか
- （臨界しきい値が満たされている場合）リソースに割り当てられた重要度

注:

データが人為的に高く表示されるのを防ぐため、Workload Balancing はリソースの日次平均を評価し、使用率の急上昇を平滑化します。

Workload Balancing は、リソースの平均化された履歴使用率がそのしきい値に違反しているかどうかに基づいて、推奨を生成するかどうかを決定します。**Workload Balancing** の推奨は、**最大パフォーマンス**モードの**高しきい値**、または最大密度モードの低および臨界しきい値が違反されたときにトリガーされます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

リソースに新しいCritical thresholdを指定すると、**Workload Balancing** は、新しい**Critical threshold**に対してリソースの他のしきい値をリセットします。(ユーザーインターフェイスを簡素化するため、**Critical threshold**はXenCenterを通じて変更できる唯一のしきい値です。)

詳細については、(/ja-jp/xenserver/9/wlb.html)を参照してください。

しきい値のデフォルト設定

以下の表は、ワークロードバランシングのしきい値のデフォルト値を示しています。

設定	デフォルト	高	中	低
CPU使用率	90%	76.5%	45%	22.5%
空きメモリ	51 MB	63.75 MB	510 GB	1,020 GB
ネットワーク読み取り	25 MB/s	21.25 MB/s	12.5 MB/s	6.25 MB/s
ネットワーク書き込み	25 MB/s	21.25 MB/s	12.5 MB/s	6.25 MB/s
ディスク読み取り	25 MB/s	21.25 MB/s	12.5 MB/s	6.25 MB/s
ディスク書き込み	26 MB/s	21.25 MB/s	12.5 MB/s	6.25 MB/s

高、中、低のリソースメトリックの値を計算するために、Workload Balancing はクリティカルしきい値の新しい値に以下の係数を乗算します。

- 高しきい値係数: 0.85
- 中しきい値係数: 0.50
- 低しきい値係数: 0.25

空きメモリのしきい値を計算するために、Workload Balancing はクリティカルしきい値にこれらの係数を乗算します。

- 高しきい値係数: 1.25
- 中しきい値係数: 10.0
- 低しきい値係数: 20.0

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

この動作は、例えばクリティカルしきい値を95%に引き上げた場合、WLB が他のしきい値を自動的に以下のようにリセットすることを意味します。

- 高しきい値 80.75%に
- 中しきい値 47.5%に
- 低しきい値 23.75%に

特定のしきい値に対してこの計算を実行するには、そのリソースのクリティカルしきい値に入力した値に、そのしきい値の係数を乗算します。

```
High, Medium, or Low Threshold = Critical Threshold &ast; Threshold Factor
```

例えば、ネットワーク読み取りのクリティカルしきい値を40 MB/秒に変更し、その他のしきい値を知りたい場合：

- 低しきい値を得るには、40に0.25を乗算します
- 中しきい値を得るには、40に0.50を乗算します
- 高しきい値を得るには、40に0.85を乗算します

プールコーディネーターが過負荷になるのを防ぐため、Workload Balancingはプールコーディネーターのクリティカルしきい値を自動的に低い値に設定します。

他のしきい値が推奨事項をトリガーする方法

クリティカルしきい値は多くの推奨事項をトリガーしますが、他のしきい値も以下のように推奨事項をトリガーできます。

高しきい値

- **最大パフォーマンス**。高しきい値を超えると、仮想マシンをリソース使用率の低いホストに再配置するための最適化の推奨事項がトリガーされます。
- **最大密度**。Workload Balancingは、いずれかのホストリソースの使用率が高しきい値を超えてしまう場合、VMをホストに配置することを推奨しません。

低しきい値

- **最大パフォーマンス**。ワークロードバランシングは、低しきい値に基づいて推奨事項をトリガーしません。
- **最大密度**。メトリック値が低しきい値を下回ると、ホストが十分に活用されていないことをワークロードバランシングに通知します。この信号は、仮想マシンをより少ないホストに統合するための最適化推奨事項をトリガーします。ワークロードバランシングは、ホストのリソー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

スのいずれかのメトリック値が高しきい値に達するまで、仮想マシンをホストに移動することを推奨し続けます。

ただし、VMの再配置後、新しいホスト上のリソースの使用率がそのクリティカルしきい値を超えた場合、WLBは一時的に最大パフォーマンスアルゴリズムに類似したアルゴリズムを使用して、VMの新しいホストを見つけます。ワークロードバランシングは、プール全体のホストのリソース使用率が高しきい値を下回るまで、このアルゴリズムを使用して仮想マシンの移動を推奨し続けます。

クリティカルしきい値を変更するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**WLB**タブを選択してから、**設定**を選択します。
2. 左ペインで、**クリティカルしきい値**を選択します。
3. **クリティカルしきい値**ページで、**クリティカルしきい値**ボックスに新しい値を承認または入力します。ワークロードバランシングは、仮想マシンの配置とプール最適化の推奨を行う際にこれらのしきい値を使用します。ワークロードバランシングは、ホストのリソース使用率を設定されたクリティカル値を下回るように努めます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

メトリックの重み付けの調整

Workload Balancing は、リソースの重要度を割り当てる方法であるメトリックの重み付けを使用して、どのホストを最初に最適化するかを決定します。

注:

メトリックの重み付けを調整する前に、Workload Balancing のドキュメント で最適化と統合のプロセスについて読むことをCitrixは推奨します。この記事の情報は、その情報の一部であり、ユーザーインターフェイスを変更する際の参照としてのみ使用することを目的としています。

Workload Balancing が最適化の推奨事項を処理する際、最適化の順序を作成します。Workload Balancing は、メトリックの重み付けページで最も重要と評価されたリソースに対して最も高いメトリック値を持つホストに基づいて、最初に処理するホストをランク付けすることで最適化の順序を決定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Workload Balancing が、どのホストと VM を最初に処理するかを決定する際にメトリックの重み付けをどのように使用するかは、最適化モード（最大密度または最大パフォーマンス）によって異なります。一般的に、メトリックの重み付けは、プールが最大パフォーマンスモードの場合に使用されます。ただし、Workload Balancing が最大密度モードの場合でも、リソースがクリティカルしきい値を超えるとメトリックの重み付けを使用します。

最大パフォーマンスモードでのメトリックの重み付けの適用方法

最大パフォーマンス モードでは、**Workload Balancing** はメトリックの重み付けを使用して以下を決定します。

- 最初に処理すべきホストのパフォーマンス
- 最初に移行を推奨するVM

たとえば、ネットワーク書き込みを最も重要なリソースとしてランク付けした場合、Workload Balancing は、1秒あたりのネットワーク書き込みが最も多いホストのパフォーマンスの問題に最初に対処し、最適化の推奨を行います。

最大密度モードでのメトリックの重み付けの適用方法

最大密度モードでは、Workload Balancing はホストがクリティカルしきい値に達した場合にのみメトリックの重み付けを使用します。その後、Workload Balancing は、ホストがクリティカルしきい値を超えなくなるまで、最大パフォーマンスに似たアルゴリズムを適用します。最大パフォーマンスに似たアルゴリズムを使用する場合、Workload Balancing は、最大パフォーマンスモードの場合と同様に、メトリックの重み付けを使用して最適化の順序を決定します。

2つ以上のホストがクリティカルしきい値を超えるリソースを持っている場合、Workload Balancing は、どのホストを最初に最適化し、そのホスト上のどのVMを最初に再配置するかを決定する前に、各リソースに設定した重要度を確認します。

たとえば、プールにホストAとホストBが含まれており、それらが次の状態であるとします。

- ホストAのCPU使用率がCPUのクリティカルしきい値を超えています。CPU使用率のメトリック重み付けは、スライダーの最も右側（**重要度高**）に設定されています。
- ホストBのメモリ使用率がメモリのクリティカルしきい値を超えています。メモリ使用率のメトリック重み付けは、スライダーの最も左側（**重要度低**）に設定されています。

Workload Balancingは、ホストAでクリティカルしきい値に達したリソースが最も高い重み付けが割り当てられているリソースであるため、まずホストAの最適化を推奨します。Workload Balancingは、ホストAのパフォーマンスに対処する必要があると判断した後、そのホスト上のVM

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

の配置を推奨し始めます。これらの推奨事項は、CPU使用率が最も高いVMから始まります。これは、そのCPU使用率が最も高い重み付けを持つリソースであるためです。

Workload BalancingがホストAの最適化を推奨した後、ホストBの最適化推奨を行います。ホストB上のVMの配置を推奨する際には、CPU使用率が最も高い重み付けが割り当てられているため、まずCPU使用率に対処します。

最適化が必要なホストがさらにある場合、Workload Balancingは、3番目に高いCPU使用率を持つホストに応じて、それらのホストのパフォーマンスに対処します。

デフォルトでは、すべてのメトリック重み付けはスライダーの最も遠い点（**重要度高**）に設定されています。

注記:

メトリックの重み付けは相対的です。この動作は、すべてのメトリックが同じレベルに設定されている場合、たとえそのレベルが**重要度低**であっても、すべて同じ重み付けがされることを意味します。各メトリックを実際に設定する重みよりも、メトリック間の関係がより重要です。

メトリックの重み付け係数を編集するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**WLB**タブを選択してから、**設定**を選択します。
2. 左ペインで、**メトリックの重み付け**を選択します。
3. **メトリックの重み付け**ページで、必要に応じて、個々のリソースの横にあるスライダーを調整します。

   スライダーを**重要度低**に移動すると、仮想マシンが常にこのリソースを最大限に利用できるようにすることが、このリソースプールではそれほど重要ではないことを示します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング

推奨事項からホストを除外する

ワークロードバランシングを構成する際、特定の物理ホストをワークロードバランシングの最適化および配置の推奨事項（「開始」配置の推奨事項を含む）から除外するように指定できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ホストを除外するタイミング

推奨事項からホストを除外したい状況には、次のような場合があります。

- プールを最大密度モードで実行し、ホストを統合してシャットダウンしたいが、この動作から除外したい特定のホストがある場合。
- 2つのVMワークロードが常に同じホストで実行される必要がある場合（たとえば、補完的なアプリケーションまたはワークロードがある場合）。
- 移動させたくないワークロードがある場合（たとえば、ドメインコントローラーやSQL Serverなど）。
- ホストでメンテナンスを実行したい場合、そのホストに仮想マシンを配置したくない場合。
- ワークロードのパフォーマンスが非常に重要であるため、専用ハードウェアのコストが問題にならない場合。
- 特定のホストで高優先度のワークロード（仮想マシン）が実行されており、これらの仮想マシンを優先するために高可用性機能を使用したくない場合。
- ホスト内のハードウェアがプール内の他のワークロードにとって最適ではない場合。

固定またはスケジュールされた最適化モードを指定するかどうかにかかわらず、最適化モードが変更されても、除外されたホストは除外されたままになります。ワークロードバランシングがホストを自動的にシャットダウンするのを防ぐには、そのホストの電源管理を有効にしないことを検討してください。詳細については、「電源の自動最適化と管理」を参照してください。

配置および最適化の推奨事項からホストを除外するには

1. **リソース**ペインでプールを選択し、**WLB**タブを選択し、**設定**を選択します。
2. 左ペインで、**除外されたホスト**を選択します。
3. 「**除外されたホスト**」ページで、Workload Balancing に代替の配置や最適化を推奨させたくないホストを選択します。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

推奨事項からのVMの除外

ワークロードバランシングを設定する際、特定のVMをワークロードバランシングの最適化および配置の推奨事項から除外するように指定できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMを除外するタイミング

VMを推奨事項から除外したい状況には、次のようなものがあります。

- 2つのVMワークロードが常に同じホストで実行される必要がある場合 (たとえば、補完的なアプリケーションまたはワークロードがある場合)。
- 移動させたくないワークロードがある場合 (たとえば、ドメインコントローラー、DNSサーバー、またはSQLサーバー)。

固定またはスケジュールされた最適化モードを指定するかどうかにかかわらず、最適化モードが変更されても、除外されたVMは除外されたままになります。

配置および最適化の推奨事項からVMを除外するには

1. **リソース**ペインでVMを選択し、**全般**タブを選択し、**プロパティ**を選択します。
2. 左ペインで、**全般**を選択します。
3. **全般**ページで、**タグ:** フィールドの**タグの編集**を選択します。
4. 新しいタグ `wlb_excluded` を指定し、**作成**をクリックします。

関連ドキュメント

XenServer® 8

- ワークロードバランシング

高度な設定

「**詳細設定**」ダイアログの設定は、Workload Balancing が自動モードで実行されている場合に推奨事項を適用する方法を主に微調整します。

重要:

Workload Balancing を一定期間実行した後、最適な配置推奨事項が得られない場合は、Workload Balancing のドキュメントに記載されているように、パフォーマンスしきい値を評価してください。環境に合わせて Workload Balancing を適切なしきい値に設定することが重要です。そうしないと、推奨事項が適切でない可能性があります。

WLB が自動モードで実行される場合、最適化および統合の推奨事項の頻度と、それらが自動的に適用されるまでの時間は、複数の要因によって決まります。これらの要因には以下が含まれます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **VM 移行間隔**: Workload Balancing が別の最適化推奨事項を適用する前に待機する時間を指定します。
- **推奨事項の数**: Workload Balancing が推奨事項を自動的に適用する前に作成する必要がある推奨事項の数
- **推奨事項の重大度**: 最適化が自動的に適用される前に、推奨事項が達成する必要がある重大度レベル
- **最適化の積極性**: Workload Balancing が推奨事項を自動的に適用する前に必要とする、推奨事項 (移動する推奨仮想マシン、宛先ホスト) の一貫性のレベル

VM 移行間隔

特定の VM が最後に移動されてから、WLB がその特定の VM を含む別の最適化推奨事項を生成するまでに待機する分数 (分単位) を指定できます。

推奨間隔は、Workload Balancing が人為的な理由 (たとえば、一時的な使用率の急増があった場合など) で推奨事項を生成するのを防ぐように設計されています。

自動化が構成されている場合、推奨間隔を変更する際には特に注意が必要です。継続的かつ繰り返し発生するスパイクにつながる問題が発生した場合、頻度を増やすこと (つまり、数値を小さく設定すること) は、多くの推奨事項、ひいては再配置を生成する可能性があります。

注:

推奨間隔を設定しても、Workload Balancing が起動時配置、再開、およびメンテナンスモードの推奨事項に最近再バランスされたサーバーを考慮するまでの待機時間には影響しません。

推奨カウント

Workload Balancingは、監視しているプールに対して推奨事項を生成できるかどうかを2分ごとに確認します。自動化を有効にすると、Workload Balancingが推奨事項を自動的に適用するまでに、一貫した推奨事項が何回行われる必要があるかを指定できます。そのためには、「推奨カウント」として知られる設定を構成します。**推奨カウント**と**最適化の積極性**の設定により、環境における推奨事項の自動適用を微調整できます。

(/ja-jp/xencenter/current-release/wlb-overview.html)の概要セクションで説明されているように、Workload Balancingは、推奨事項の類似性を使用して、次のチェックを実行します。

- 推奨事項が本当に必要かどうかを精査する

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 移行されたVMを受け入れるのに十分な安定したパフォーマンスを、宛先ホストが長期間にわたって維持しているか（すぐにホストから移動し直す必要がないか）を判断する。

Workload Balancingは、推奨カウント値を使用して、Workload Balancingが推奨事項を自動的に適用する前に、推奨事項を繰り返す必要があるかどうかを判断します。

Workload Balancingは、この設定を次のように使用します。

1. Workload Balancingは、最適化の積極性の設定で示される一貫性要件を満たす推奨事項を生成するたびに、推奨カウントをインクリメントします。推奨事項が一貫性要件を満たさない場合、Workload Balancingは、(/ja-jp/xenserver/9/wlb.html)で説明されている要因に応じて、推奨カウントをゼロにリセットできます。
2. Workload Balancingは、推奨事項テキストボックスで指定された推奨カウントの値に達するのに十分な一貫した推奨事項を生成すると、推奨事項を自動的に適用します。

この設定を変更する場合、設定する値は環境によって異なります。次のシナリオを考慮してください。

- 環境内でサーバーの負荷とアクティビティが急速に増加する場合、推奨カウントの値を増やすことができます。Workload Balancingは2分ごとに推奨事項を生成します。たとえば、この間隔を `3` に設定すると、6分後にWorkload Balancingが推奨事項を自動的に適用します。
- 環境内でサーバーの負荷とアクティビティが徐々に増加する場合、推奨カウントの値を減らすことができます。

推奨事項を受け入れると、Workload Balancingが仮想マシンを再配置する際にシステムリソースが使用され、パフォーマンスに影響します。推奨カウントを増やすと、Workload Balancingが推奨事項を適用するまでに発生する必要がある一致する推奨事項の数が増加します。この設定により、Workload Balancingはより保守的で安定した推奨事項を適用するようになり、誤った仮想マシンの移動の可能性を減らすことができます。ただし、推奨カウントはデフォルトで保守的な値に設定されています。

この設定を調整することが環境に与える可能性のある影響のため、細心の注意を払って変更してください。値をテストして繰り返し変更するか、Citrix®テクニカルサポートの指導の下で変更することをお勧めします。

推奨の重大度

すべての最適化推奨事項には、推奨事項の重要性を示す重要度評価（重大、高、中、低）が含まれています。Workload Balancing は、この評価を、設定した構成オプションを含む複数の要因の組み合わせに基づいて決定します。例として、以下が挙げられます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- しきい値とメトリックの調整
- ワークロードに利用可能なリソース
- リソース使用履歴。

Workload Balancing を構成して最適化推奨事項を自動的に適用する場合、Workload Balancing が推奨事項を自動的に適用する前に、その推奨事項に関連付ける最小重要度レベルを設定できます。

最適化の積極性

自動モードで実行する際の信頼性を高めるため、Workload Balancing には、スパイクや異常による VM の移動を防ぐために、最適化を自動的に受け入れるための一貫性基準があります。自動モードでは、Workload Balancing は最初に生成された推奨事項を受け入れません。代わりに、Workload Balancing は、ホストまたは VM が時間の経過とともに一貫した動作を示すまで、推奨事項を自動的に適用するのを待ちます。「時間の経過とともに一貫した動作」というフレーズは、ホストが推奨事項をトリガーし続けるかどうか、およびそのホスト上の同じ VM が推奨事項をトリガーし続けるかどうかなどの要因を指します。

Workload Balancing は、一貫性の基準を使用し、同じ推奨事項が作成される回数（つまり、推奨カウント）の基準を持つことで、動作が一貫しているかどうかを判断します。**最適化の積極性**設定を使用して、Workload Balancing が一貫性基準をどの程度厳密に適用するかを構成できます。

Citrix は主にデモンストレーション目的で**最適化の積極性**設定を設計しましたが、Workload Balancing が最適化推奨事項を適用する前に、この設定を使用して環境に必要な安定性の量を制御できます。最も安定した設定（低い積極性）がデフォルトで構成されています。この文脈において、「安定している」という用語は、このセクション全体で説明されているように、時間の経過に伴う推奨される変更の類似性を指します。

Workload Balancing は、一貫性を確認するために最大 4 つの基準を使用します。満たす必要がある基準の数は、**最適化の積極性**設定で設定したレベルによって異なります。レベルが低いほど（たとえば、低または中）、Workload Balancing は推奨事項を受け入れることに積極的ではありません。言い換えれば、積極性が「低」に設定されている場合、Workload Balancing は、基準が一致することを要求することについて（または、一貫性についてより軽率または積極的ではない）より厳格になります。

たとえば、積極性レベルが「低」に設定されている場合、Workload Balancing は、推奨事項を自動的に適用する前に、**推奨事項**ボックス（推奨カウント値を指定する場所）で指定された回数だけ「低」の各基準が満たされることを要求します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

たとえば、推奨カウントを `3` に設定した場合、Workload Balancing は、「低」のすべての基準が満たされ、3 回連続した推奨事項で繰り返されるまで待機します。この動作により、VM が実際に移動する必要があること、および Workload Balancing が推奨する宛先ホストが長期間にわたって一貫して安定したリソース使用率を持つことが保証されます。これにより、移動後にホストのパフォーマンスが変化したために、最近移動された仮想マシンがホストから移動される可能性が低減されます。デフォルトでは、この設定は安定性を促進するために保守的な設定（低）に設定されています。

低い積極性レベルの基準については、Workload Balancing ドキュメント を参照してください。

Citrix は、ホストが最適化される頻度を増やすために**最適化の積極性**を上げることを推奨していません。ホストが十分に迅速または頻繁に最適化されていないと感じる場合は、重大なしきい値の変更 で説明されているように、重大なしきい値を調整してみてください。

異なる積極性レベルに関連する一貫性基準の詳細については、Workload Balancing ドキュメント を参照してください。

Workload Balancing が最適化の推奨事項を自動的に適用する頻度が十分でないと感じた場合は、アグレッシブネス設定を上げることを検討してください。ただし、Citrix は、そうする前に Workload Balancing のドキュメントの情報を確認することを強く推奨します。

仮想マシンの推奨間隔を構成するには

1. **インフラストラクチャ**ビューでプールを選択し、**WLB**タブを選択してから、**設定**を選択します。
2. 左ペインで、**詳細設定**を選択します。
3. **VM移行間隔**セクションで、次のいずれかまたは複数を実行します。

   - **待機分数**に、Workload Balancing が新しく再バランスされたサーバーで別の最適化推奨を行う前に待機する分数を入力します。
   - **推奨数**ボックスに、Workload Balancing が最適化推奨を自動的に適用する前に行う最適化推奨の数を入力します。
   - **推奨の重大度**リストから、最適化が自動的に適用される前の最小の重大度レベルを選択します。
   - **最適化のアグレッシブネス**リストから、Workload Balancing が最適化推奨を自動的に適用するアグレッシブネスの度合いを指定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プール監査証跡の粒度

Workload Balancing を使用すると、プール監査証跡レポートで収集されるデータ量を指定できます。この機能により、特定のユーザー、オブジェクト、および時間で監査証跡ログを検索およびフィルターすることもできます。

プール監査証跡の粒度は、デフォルトで**最小**に設定されています。このオプションは、特定のユーザーとオブジェクトタイプに対して限られた量のデータをキャプチャします。レポートで必要となる詳細レベルに基づいて、いつでも設定を変更できます。たとえば、監査ログのユーザーフレンドリーなレポートには、粒度を**中**に設定します。詳細なレポートが必要な場合は、オプションを**最大**に設定します。

重要:

プール監査証跡の粒度を最大に設定すると、Workload Balancing サーバーがより多くのディスク領域とメモリを使用する可能性があります。粒度を最大に設定することを選択した場合は、WLB サーバーのディスク領域、メモリ使用量、および CPU 使用量を注意深く監視することをお勧めします。WLB サーバーがリソース不足であると思われる場合は、次のいずれかのアクションを実行できます。

- 粒度設定を中または最小に変更します。
- WLBサーバーのメモリ拡張を検討してください。
- ハードディスクのサイズ拡張を検討してください。

詳細については、Workload Balancing Report Glossary および Audit Log Events を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancing の管理

Workload Balancing で実行したい管理タスクには、次のようなものがあります。

- Workload Balancing からの切断(/ja-jp/xencenter/current-release/wlb-disable.html)
- プールが使用するWorkload Balancing (/ja-jp/xencenter/current-release/wlb-reconfigure-pool.html)仮想アプライアンスの変更

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- Workload Balancing または XenServer が通信に使用する(/ja-jp/xencenter/current-release/wlb-update-creds.html)資格情報の変更

Workload Balancing サービスコマンドを使用して、Workload Balancing 仮想アプライアンスを管理することもできます。これらのコマンドを使用すると、Workload Balancing 仮想アプライアンスのステータスを判別したり、ユーザーアカウントを変更したり、ログの詳細度を上げたりできます。

注:

Workload Balancing を別の証明書を使用するように構成する方法、または XenServer を証明書のIDを検証するように構成する方法については、Workload Balancing ドキュメントを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

ワークロードバランシングからの切断

ワークロードバランシング (WLB) がプールを監視するのを停止したい場合は、ワークロードバランシングサーバーを切断して、プールでワークロードバランシングを無効にする必要があります。

WLB仮想アプライアンスからプールを切断すると、ワークロードバランシングはWLBデータベースからプール情報を完全に削除し、そのプールのデータ収集を停止します。同じWLB仮想アプライアンスを使用してプールを再度管理したい場合は、**WLBサーバーに接続**ダイアログボックスにアプライアンスの情報を再入力してください。

重要:

ワークロードバランシングを一時的に停止したいだけの場合は、**WLB**タブを選択し、**一時停止**ボタンを選択します。

ワークロードバランシングから切断するには

1. XenCenter®の**リソース**ペインで、ワークロードバランシングを停止したいリソースプールを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. **プール**メニューから、**ワークロードバランシングサーバーの切断**を選択します。**ワークロードバランシングサーバーの切断**ダイアログボックスが表示されます。
3. **切断**をクリックして、ワークロードバランシングがプールを監視するのを停止します。

> **注:**
>
> ワークロードバランシング仮想アプライアンスからプールを切断した場合、そのプールでワークロードバランシングを再度有効にするには、アプライアンスに再接続する必要があります。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- ワークロードバランシング

別のWLBアプライアンスを使用するようにプールを再構成する

別のWorkload Balancing仮想アプライアンスを使用するようにプールを再構成できます。

ただし、古いWorkload Balancingアプライアンスが意図せず構成されたままになり、プールのデータを収集し続けるのを防ぐため、新しいWorkload Balancingアプライアンスにプールを接続する**前に**、古いWorkload Balancingアプライアンスからプールを切断してください。

プールが古いWorkload Balancingアプライアンスから切断されたら、新しいWorkload Balancingアプライアンス名を指定してプールを再接続します。

別のWorkload Balancingアプライアンスを使用するには

1. 別のWorkload Balancingアプライアンスを使用したいプールで、**プール**メニューから**Workload Balancingサーバーの切断**を選択し、プロンプトが表示されたら**切断**を選択します。手順については、「Workload Balancingからの切断」を参照してください。
2. **WLB**タブで、**接続**を選択します。**WLBサーバーへの接続**ダイアログが表示されます。
3. **アドレス**ボックスに、新しいWorkload BalancingアプライアンスのIPアドレスまたはホスト名（FQDN）を入力します。

   新しいWorkload Balancingアプライアンスが異なる資格情報を使用している場合は、新しい資格情報も入力する必要があります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

> **注:**
>
> プールをWorkload Balancingに初めて接続するときに通常入力するすべての情報を入力します。詳細については、「Workload Balancingへの接続」を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング

ワークロードバランシングの資格情報の更新

初期設定後、XenServer®サーバーとワークロードバランシングアプライアンスが通信に使用する資格情報を更新するには、次のプロセスを完了します。

1. 後続のセクションで説明されているように、ワークロードバランシングから切断します。
2. WlbConfigファイルを編集してWLB資格情報を変更します（ワークロードバランシング仮想アプライアンスのコンソールで`WlbConfig`コマンドを実行します）。詳細については、ワークロードバランシングのドキュメントを参照してください。
3. 後続のセクションで説明されているように、ワークロードバランシングを再度有効にし、新しい資格情報を指定します。

これらの手順を使用したい状況は次のとおりです。

- XenServerがワークロードバランシングとの通信に使用するユーザーアカウントを変更する必要がある場合
- ワークロードバランシングの資格情報が無効になったというエラーメッセージが表示された場合
- サービスが利用できない場合

しきい値の設定を変更したり、特定の仮想マシンに与えられる優先度を変更したりする場合は、ワークロードバランシング設定の編集を参照してください。

ワークロードバランシングから切断するには

1. XenCenter®の**リソース**ペインで、ワークロードバランシングを停止したいリソースプールを選択します。
2. **プール**メニューから、**ワークロードバランシングサーバーの切断**を選択します。**ワークロードバランシングサーバーの切断**ダイアログボックスが表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. **切断**を選択して、ワークロードバランシングがプールを監視するのを永続的に停止します。

ワークロードバランシングを再度有効にし、新しい資格情報を指定するには

1. プログレスバーが完了したら、**接続** を選択します。WLBサーバーへの接続ダイアログボックスが表示されます。
2. **資格情報の更新** を選択します。
3. サーバーアドレスセクションで、必要に応じて以下を変更します。

   - **アドレス** ボックスに、Workload BalancingアプライアンスのIPアドレスまたはFQDNを入力します。
   - (オプション) Workload Balancingの構成中にポート番号を変更した場合は、そのポート番号を入力します。このボックスで指定するポート番号と、Workload Balancingの構成中に指定するポート番号は、XenServerがWorkload Balancingに接続するために使用するポート番号です。

     デフォルトでは、XenServerはポート8012でWorkload Balancingに接続します。

     注:

     Workload Balancingのセットアップ中にポート番号を変更した場合にのみ、このポート番号を編集してください。セットアップ中および**Workload Balancingの構成**ダイアログで指定されたポート番号の値は一致している必要があります。

4. **WLBサーバーの資格情報**セクションで、XenServerを実行しているシステムがWorkload Balancingサーバーに接続するために使用するユーザー名（例: `wlbuser`）とパスワードを入力します。
5. **XenServerの資格情報**セクションで、構成するプールのユーザー名とパスワード（通常はプールコーディネーターのパスワード）を入力します。Workload Balancingは、これらの資格情報を使用して、そのプールでXenServerを実行しているコンピューターに接続します。現在XenServerにログインしている資格情報を使用するには、**現在のXenCenter資格情報を使用する**チェックボックスをオンにします。

関連ドキュメント

XenServerの現在のリリース

- ワークロードバランシング

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Workload Balancing が有効な状態でメンテナンスモードに入る

WLB が有効な場合、ホストをメンテナンスのためにオフラインにすると、XenServer® は、そのホストで実行されている VM を、利用可能な最適なサーバーに自動的に移行します。XenServer は、Workload Balancing の推奨事項（パフォーマンスデータ、配置戦略、パフォーマンスしきい値）に基づいてそれらを移行します。

最適なサーバーが利用できない場合、「**Enter Maintenance Mode**」ダイアログボックスに「**Click here to suspend the VM**」という言葉が表示されます。この場合、Workload Balancing は、この仮想マシンを実行するのに十分なリソースを持つホストがないため、配置を推奨しません。この仮想マシンを一時停止するか、メンテナンスモードを終了して、同じプール内の別のホストで仮想マシンを一時停止することができます。その後、「**Enter Maintenance Mode**」ダイアログボックスに再度入ると、Workload Balancing は移行に適した候補となるホストをリストできる場合があります。

注:

サーバーをメンテナンスのためにオフラインにし、Workload Balancing が有効になっている場合、「**Enter Maintenance Mode**」ダイアログの右上隅に「Workload Balancing」という言葉が表示されます。

Workload Balancing が有効な状態でメンテナンスモードに入るには

1. リソースペインでサーバーを選択し、次のいずれかを実行します。
   - 右クリックして、ショートカットメニューから「**Enter Maintenance Mode**」を選択します。
   - 「**Server**」メニューで、「**Enter Maintenance Mode**」を選択します。
2. 「**Enter Maintenance Mode**」を選択します。サーバーで実行されている VM は、Workload Balancing のパフォーマンスデータ、配置戦略、およびパフォーマンスしきい値に基づいて、最適なホストに自動的に移行されます。

サーバーをメンテナンスモードから解除するには

1. 「**Resources**」ペインでサーバーを選択し、次のいずれかを実行します。
   - 右クリックして、ショートカットメニューから「**Exit Maintenance Mode**」を選択します。
   - 「**Server**」メニューで、「**Exit Maintenance Mode**」を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. 「**Exit Maintenance Mode**」を選択します。

   サーバーをメンテナンスモードから削除すると、XenServer はそのサーバーの元の仮想マシンをそのサーバーに自動的に復元します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング(/ja-jp/xenserver/9/wlb.html)

ワークロードバランシングのトラブルシューティング

ワークロードバランシングは通常スムーズに動作しますが、問題が発生した場合に備えて、このヘルプシステムでは一連のガイダンスを提供しています。追加のトラブルシューティングのトピックは、ワークロードバランシングのドキュメントに記載されています。

一般的なワークロードバランシングの問題を解決するためのヒントをいくつか紹介します。

一般的なトラブルシューティングのヒント

ワークロードバランシングのログを確認することからトラブルシューティングを開始してください。ログは、ワークロードバランシングの仮想アプライアンスの次の場所（デフォルト）にあります。

```
/var/log/wlb
```

また、XenCenter®の**ナビゲーション**ペインでイベントログを確認できます。詳細については、**通知**を選択し、次に**イベント**を選択してください。

エラーメッセージ

ワークロードバランシングは、XenCenterの**アラート**ビューにエラーメッセージを表示し、場合によっては、ダイアログボックスとして画面に表示します。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Workload Balancing 資格情報の入力に関する問題

「**WLBサーバーに接続**」ダイアログの設定時に、Workload Balancing がアプライアンスのユーザーアカウントとパスワードを受け入れない場合は、次をお試しください。

- Workload Balancing 仮想アプライアンスがインポートされ、正しく構成されており、すべてのサービスが実行されていることを、次のコマンドを使用して確認してください: `service workloadbalancing start`
- Workload Balancing の起動に関する問題 を参考に、正しい資格情報を入力していることを確認してください。
- Workload Balancing の完全修飾ドメイン名の入力に問題がある場合は、Workload Balancing サーバーのIPアドレスを入力してください。

Workload Balancing アプライアンスのホスト名を「**アドレス**」ボックスに入力できますが、完全修飾ドメイン名である必要があります。例: `yourcomputername.yourdomain.net`。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancing の起動に関する問題

Workload Balancing アプライアンスをインポートして構成した後、XenServer® と Workload Balancing が相互に接続できないというエラーメッセージが表示されることがあります。その場合、「**WLBサーバーに接続**」ダイアログに誤った資格情報を入力した可能性があります。この問題を切り分けるには、以下を試してください。

- 「**WLBサーバーに接続**」ダイアログに入力した資格情報が、Workload Balancing サーバーおよび XenServer サーバーで作成した資格情報と一致することを確認する
- 「**WLBサーバーに接続**」ダイアログに入力した Workload Balancing アプライアンスの IP アドレスまたは FQDN が正しいことを確認する.
- Workload Balancing の構成中に作成した Workload Balancing アカウントの資格情報が、「**WLBサーバーに接続**」ダイアログに入力した資格情報と一致することを確認する.

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- ワークロードバランシング

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Workload Balancing 証明書に関する問題

証明書の検証はデフォルトで有効になっています。Workload Balancing 仮想アプライアンスを XenServer® に接続するには、Workload Balancing 証明書を XenServer プールにインポートする必要があります。

プールが Workload Balancing に接続できない場合は、Workload Balancing の証明書チェックを無効にして、証明書構成が原因であるかどうかを確認してください。

1. プール UUID を取得します。

```
xe pool-list
```

2. 証明書の検証を無効にします。

```
xe pool-param-set wlb-verify-cert=false uuid=<uuid_of_pool>
```

証明書の検証をオフにした状態でプールが Workload Balancing に接続できる場合、問題は証明書構成にあります。接続できない場合、問題は Workload Balancing の資格情報またはネットワーク接続のいずれかにあります。詳細については、Support にお問い合わせいただくか、Workload Balancing のトラブルシューティング を参照してください。

問題のトラブルシューティングが完了したら、必ず証明書チェックを再度有効にしてください。

1. プール UUID を取得します。

```
xe pool-list
```

2. 証明書の検証を有効にします。

```
xe pool-param-set wlb-verify-cert=true uuid=<uuid_of_pool>
```

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- ワークロードバランシング

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ワークロードバランシング接続エラー

WLBタブのワークロードバランシングのステータス行に接続エラーが表示された場合、そのリソースプールでワークロードバランシングを再構成する必要があるかもしれません。

WLBタブの**接続**ボタンをクリックし、サーバーの資格情報を再度入力します。

このエラーの一般的な原因には、WLB仮想アプライアンスまたはプールコーディネーターの資格情報の変更、WLB仮想アプライアンスの名前の変更、または誤った証明書構成などがあります。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ワークロードバランシング

Workload Balancingサーバーの変更に関する問題

プールを元のWorkload Balancingアプライアンスから最初に切断せずに、別のWorkload Balancing仮想アプライアンスに接続すると、両方のアプライアンスがプールを監視します。

この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行できます。

- 古いWorkload Balancingアプライアンスをシャットダウンして削除する
- Workload Balancingサービス（分析、データコレクター、Webサービス）を手動で停止し、アプライアンスがプールを監視しないようにする

Citrixは、Workload Balancingサーバー構成を削除または変更するために`pool-initialize-wlb` xeコマンドを使用することを推奨しません。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- ワークロードバランシング

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

コンバージョンマネージャー

Conversion Manager仮想アプライアンスを使用すると、VMware ESXi/vCenter VMをXenServer®にすばやく簡単に変換できます。 複数のVMを並行して簡単に一括移行し、移行プロセス全体を効率化して最大限の効率を実現します。

移行中、XenCenter®はVMのネットワークおよびストレージ接続を準備します。変換後、Conversion ManagerはVMからVMware Toolsを自動的にアンインストールします。完全な互換性と最適な パフォーマンスを確保するために、XenServer VM Toolsのインストールをお勧めします。これらのツールは、完全にサポートされたセットアップに不可欠であり、 I/Oパフォーマンスの向上、ディスクとネットワークの効率の改善、およびクリーンシャットダウン、再起動、 一時停止、ライブマイグレーションなどの主要な機能の有効化に役立ちます。VMはXenServer VM Toolsなしでも実行できますが、パフォーマンスが制限される可能性があります。XenServer VM ToolsはLinux VMに自動的にインストールされ、Windows VMの場合は、Conversion Managerを設定して 自動的にインストールできます。

Tech Zoneの記事で、VMwareからXenServerへの移行について詳しく学ぶことができます。VMwareからXenServerへの移行ガイド。

Conversion Managerを使用すると、次のことができます。

- 1つの簡単なウィザードを使用して、複数のVMware ESXi/vCenter VMを並行して一括変換する
- VMwareとXenServer間でネットワーク設定をマッピングし、変換されたVMが適切な ネットワーク設定で稼働できるようにする
- 新しいXenServer VMを実行するストレージの場所を選択する
- 変換完了後、各変換済みVMを自動的に起動する（オプション）

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

- XenCenterは、既存のVMware環境を削除または変更しません。VMはXenServer 環境に複製され、VMwareから削除されることはありません。ただし、vTPMを搭載したWindows VMを変換する場合、Conversion Managerは 変換プロセス中に元のVMware Windows VMからvTPMデバイスを削除します。
- Conversion Manager仮想アプライアンスは、シンプロビジョニング、シックプロビジョニング、IDE、SCSIなどの異なるストレージを持つ VMware ESXi/vCenter VMの変換をサポートします。
- Conversion Manager仮想アプライアンスは、ソースVMにVMware Toolsがインストールされていることを必要としません。VMware Toolsがインストールされているかどうかにかかわらず、 VMware ESXi/vCenter VMの変換を実行できます。
- Conversion Manager仮想アプライアンスは、4つ以上のディスクを持つVMware ESXi/vCenter Windows VMを XenServer VMに変換できません。VMware ESXi/vCenter Windows VMには、3つ以下のディスクが必要です。

サポートされているゲストオペレーティングシステム

どのゲストオペレーティングシステムが変換可能かについては、「ゲストOS機能サポート」(/ja-jp/xenserver/9/system-requirements/guest-os-support.html#feature-support)を参照してください。

XenServerを理解する

環境を変換する前に、XenServerの概念に慣れておくことをお勧めします。詳細については、 技術概要を参照してください。

VMware仮想マシンをXenServerに正常に変換するには、次のタスクを実行します。

- XenServerのインストールを含む基本的なXenServer環境をセットアップします。詳細については、 クイックスタートおよびインストールを参照してください。
- XenServerでネットワークを作成し、NICにIPアドレスを割り当てます。詳細については、 クイックスタートを参照してください。
- ストレージに接続します。詳細については、「クイックスタート」(/ja-jp/xenserver/9/quick-start.html)を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMwareとXenServerの用語を比較する

次の表に、一般的なVMwareの機能、概念、コンポーネントに対応するおおよそのXenServerの用語を示します。

VMWAREの用語	XENSERVERの対応用語
VMware vSphere クライアント	XenCenter（XenServerの管理コンソール）
VMware ツール	XenServer VM Tools（WindowsまたはLinux用）
クラスター / リソースプール	リソースプール
データストア	ストレージリポジトリ
vMotion	ライブマイグレーション
分散リソーススケジューリング (DRS)	ワークロードバランシング
高可用性 (HA)	高可用性 (HA)
ブイセンター コンバーター	変換マネージャー
ロールベースアクセス制御 (RBAC)	ロールベースアクセス制御 (RBAC)

変換の概要

XenCenter と Conversion Manager 仮想アプライアンスは、ターゲットとなる各 VM のコピーを作成します。ターゲットとなる VM を同等のネットワークおよびストレージ接続を備えた XenServer VM に変換した後、XenCenter はその VM を XenServer プール またはホストにインポートします。

1つまたは2つのVMを変換することも、環境全体のバッチ変換を実行することもできます。変換したいVMを 選択するだけで、Conversion Managerは一度に10個のVMをバッチで変換し、ジョブが完了すると自動的に キュー内の次の10個のVMセットを選択します。

注:

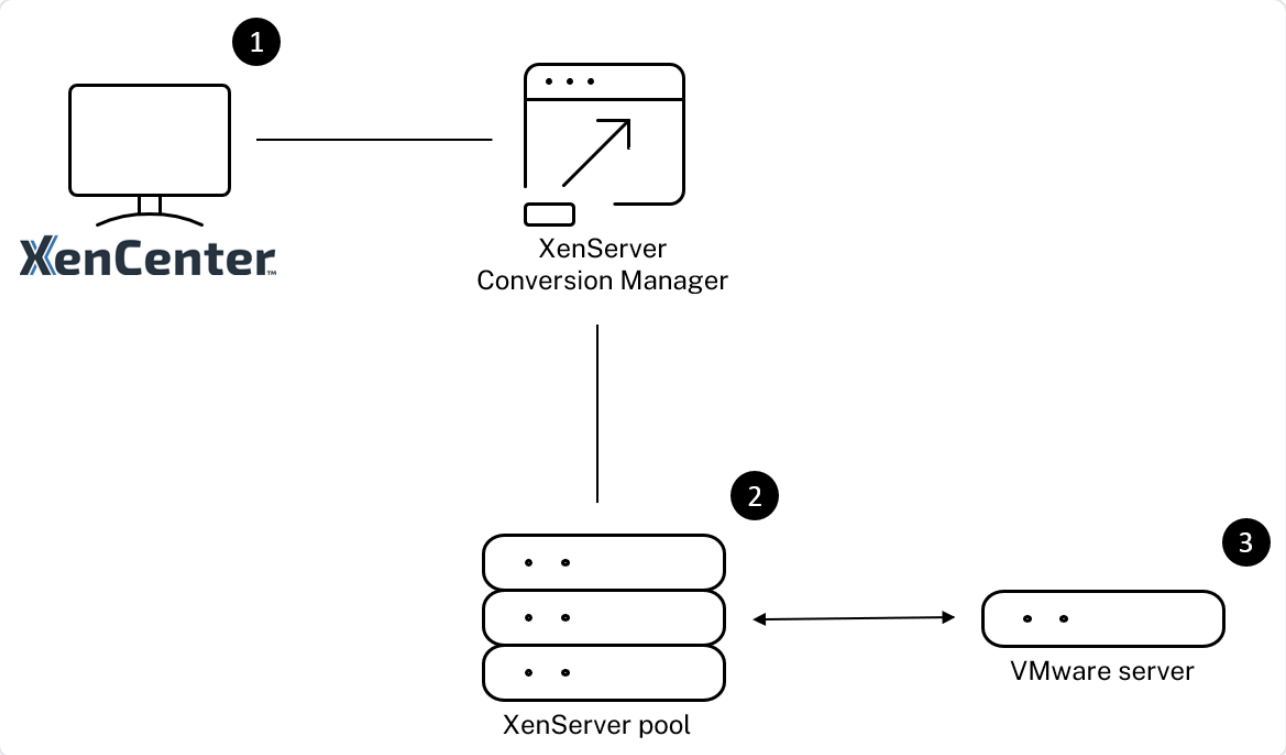
vSphere から VM を変換する前に、vSphere 上で VM (変換対象) をシャットダウンする必要があります。Conversion Manager 仮想アプライアンスは、vSphere から XenServer にコピーされたメモリを使用して実行中の VM を変換することをサポートしていません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

また、変換する前に、VMware VM にネットワークとストレージコントローラーが存在することを確認してください。
変換プロセスには、次の4つの項目が必要です。

- **XenCenter** - XenServer 管理インターフェースには、変換オプションを設定し、 変換を制御する変換ウィザードが含まれています。XenCenter は Windows デスクトップにインストールできます。XenCenter は XenServer および Conversion Manager 仮想アプライアンスに接続できる必要があります。
- **Conversion Manager virtual appliance** - 変換された VM を実行したい XenServer ホストまたはプールにインポートする、事前にパッケージ化された VM です。 この仮想アプライアンスは、VMware ESXi/vCenter VM のコピーを XenServer 仮想マシン形式に変換します。 変換後、これらのコピーを XenServer プールまたはホストにインポートします。
- **XenServer スタンドアロンホストまたはプール** - 変換された VM を実行したい XenServer 環境です。
- **VMware server** - Conversion Manager は、変換したい VM を管理する VMware サーバーへの接続を必要とします。 この接続は、vCenter Server、ESXi Server、または ESX Server のいずれかになります。VM は VMware サーバーから削除されません。 代わりに、Conversion Manager 仮想アプライアンスはこれらの VM のコピーを作成し、 XenServer 仮想マシン形式に変換します。

以下の図は、これらのコンポーネント間の関係を示しています。



© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

この図は以下を示しています。

1. XenCenter が Conversion Manager 仮想アプライアンスとどのように通信するか。
2. Conversion Manager 仮想アプライアンスが VMware サーバーとどのように認証するか。
3. VMwareサーバーが変換中にConversion Manager仮想アプライアンスにどのように応答するか。

VMwareサーバーは、アプライアンスが変換中にVMware サーバーに環境情報とディスクデータについてクエリを実行する場合にのみ、Conversion Manager仮想アプライアンスと通信します。

VMを変換する方法の概要

わずか数ステップで、Conversion Manager仮想アプライアンスを構成し、VMの変換を開始できます。

1. Conversion Manager仮想アプライアンスの最新バージョンを XenServer Downloads pageからダウンロードします。
2. XenCenterを使用して、Conversion Manager仮想アプライアンスをXenServerにインポートします。
3. XenCenterを使用して、Conversion Manager仮想アプライアンスを構成します。
4. XenCenterから、変換ウィザードを起動し、VMの変換を開始します。

VMware ESXi/vCenter VMの変換の詳細については、 Get started with Conversion Managerを参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 9

- (/ja-jp/xenserver/9/conversion-manager.html)

Conversion Manager の新機能

Conversion Manager 仮想アプライアンスの最新バージョンは、 XenServer Downloads pageからダウンロードしてください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Conversion Manager 仮想アプライアンスの以前のバージョンが既にインストールされており、最新バージョンにアップグレードしたい場合でも、 自動アップグレードパスはありません。仮想アプライアンスの最新バージョンをダウンロードし、 古いバージョンをシステムから削除してください。

VMware ESXi/vCenter VM の変換に関する詳細については、 Get started with Conversion Manager を参照してください。

2026.1.0 の新機能

Jul 6, 2026 リリース

このリリースには、以下の新機能が含まれています。

- 追加の Linux ゲスト（Red Hat Enterprise Linux 9、Rocky Linux 8 および 9、Ubuntu 22.04 および 24.04）の変換をサポート。
- XFS ファイルシステムまたは UEFI ブートモードを使用する Linux ゲストの変換をサポート。
- VMware 9 から XenServer® への VM 変換をサポート。
- XenServer 9 への VM 変換をサポート。
- GFS2 ストレージリポジトリ上の最大 16 TiB の単一仮想ディスクの変換をサポート。
- 変換完了後に各 VM を自動的に起動する XenCenter® の新しいオプション。
- （プレビュー）Windows Server 2025 ゲストの変換をサポート。

これらの機能を使用するには、XenCenter が最新バージョンに更新されていることを確認してください。

以前のリリース

このセクションでは、以前のリリースからの機能と解決された問題についてまとめています。これらの以前のバージョンは置き換えられています 最新リリースによって、そして、Conversion Manager仮想アプライアンスの最新バージョンが利用可能になり次第、 更新することをお勧めします。

コンバージョンマネージャー 8.5.0

May 27, 2025 リリース

このリリースには、以下の新機能が含まれています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- VMテンプレートの関連付け: VMを変換する際、XenServerゲストテンプレートに関連付けることができます。変換でテンプレートを使用することで、 変換されたVMの一貫した構成が保証され、より信頼性の高い動作が可能になります。
- XenServer VM Toolsの構成: 変換プロセスの一部として、XenServer VM Tools for Windowsに含まれるWindowsドライバーが 自動的に更新されるかどうかを設定できるようになりました。
- 強化されたディスクイメージのインポート: VHD、VHDX、AVHDX、VMDKなどのディスク形式がより適切にサポートされるようになりました。Conversion Managerは、インポート後にオペレーティングシステムを自動的に修正し、XenServer VM Toolsをインストールします。

これらの機能を使用するには、XenCenterが最新バージョンに更新されていることを確認してください。

コンバージョンマネージャー 8.4.0

Dec 5, 2024 リリース

このリリースには、以下の新機能が含まれています。

- Conversion Managerは、VMware ToolsをVMから自動的にアンインストールし、XenServer VM Toolsをインストールするオプションを提供します。 VMはXenServer VM Toolsなしでも実行できますが、パフォーマンスが制限される可能性があります。XenServer VM Toolsは Linux VMに自動的にインストールされ、Windows VMの場合は、Conversion Managerを構成して それらを自動的にインストールできます。

  注:

  (Citrix Hypervisor 8.2 CU1のみ) Windows 10 (32-bit) Enterpriseエディションでは、XenServer VM Toolsの自動インストールはサポートされていません。 XenServer VM Tools for Windowsを手動でインストールしてください。詳細については、 XenServer VM Tools for Windowsを参照してください。

- 変換用のWindows 11 VMのサポート。

  注:

  UEFIブートモードまたはUEFIセキュアブートモードのみがサポートされています。

- vTPMがアタッチされたWindows VMを変換できるようになりました。Conversion Managerは、既存の vTPMを自動的に削除し、VM用にXenServer vTPMを作成します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

このリリースには、以下の問題に対する修正が含まれています。

- Conversion Managerを使用してVMwareからXenServerに変換されたWindows VMが、誤ってLinux VMとして検出される。

コンバージョンマネージャー 8.3.1

リリース日: Feb 01, 2024

このリリースには、以下の改善が含まれています。

- 複数のVMware ESXi/vCenter VMを同時に並行してバッチ変換できるようになりました。

  変換したいVMを選択するだけで、Conversion Managerは一度に10台のVMをバッチで変換し、 ジョブが完了するとキュー内の次の10台のVMセットを自動的に選択します。

Conversion Manager を始める

Conversion Manager を使用すると、VMware ESXi/vCenter 仮想マシン (VM) を XenServer® VM に、 わずか数ステップで簡単に変換できます。

1. XenServer 環境を準備し、前提条件の情報を確認する (/ja-jp/xenserver/9/conversion-manager/get-started.html#prepare-your-environment)。
2. XenCenter を使用して Conversion Manager 仮想アプライアンスをインポートおよび構成する (/ja-jp/xenserver/9/conversion-manager/get-started.html#import-and-configure-the-virtual-appliance)。

   注:

   以前のバージョンの Conversion Manager 仮想アプライアンスが既にインストールされており、 最新バージョンにアップグレードしたい場合、自動アップグレードパスはありません。仮想アプライアンスの最新バージョンを XenServer ダウンロードページ からダウンロードし、古いバージョンを システムから削除してください。

3. XenCenter から変換ウィザードを起動し、VMware ESXi/vCenter VM を XenServer に変換し始める (/ja-jp/xenserver/9/conversion-manager/get-started.html#convert-vmware-esxivcenter-vms)。
4. 変換後のタスクを完了する (/ja-jp/xenserver/9/conversion-manager/get-started.html#post-conversion-tasks)。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

5. その他の変換タスクを確認する (/ja-jp/xenserver/9/conversion-manager/get-started.html#other-conversion-tasks)。

環境を準備する

VMware 環境を変換する前に、変換された VMware ESXi/vCenter VM を実行するためのターゲット XenServer スタンドアロンホストまたはプールを 作成し、準備する必要があります。環境の準備には、次のアクティビティが含まれます。

1. VMware 環境をどのように変換するかという戦略を定義します。1つまたは2つのVMを変換しますか？ 環境全体を変換しますか？設定が正しいことを確認するために、まずパイロットを作成しますか？ 両方の環境を並行して実行しますか？既存のクラスター設計を維持したいですか？XenServer に変換する際に、 XenServer に変換しますか？
2. ネットワーク構成を計画します。同じ物理ネットワークに接続しますか？ ネットワーク構成を簡素化または変更しますか？
3. プールに含めるホストに XenServer をインストールします。理想的には、インストールを開始する前に、ホストの NIC を 物理ネットワークに接続してください。
4. プールを作成し、基本的なネットワーク構成を実行します。たとえば、次のようにします。
   - XenServerホスト上のVMwareクラスターに接続するためのネットワークを構成します（クラスターがXenServerホストと 同じネットワーク上にない場合）。
   - ストレージアレイに接続するためのネットワークを構成します。つまり、IPベースのストレージを使用している場合は、ストレージアレイの 物理ネットワークに接続する XenServerネットワークを作成します。
   - プールを作成し、このプールにホストを追加します。
5. (共有ストレージとXenServerプールの場合。) 仮想ディスクを保存する共有ストレージを準備し、プール上でストレージリポジトリ (SR) と 呼ばれるストレージへの接続を作成します。
6. (オプション) 変換の要件ではありませんが、XenServerプール上の管理者アカウントを VMwareサーバー上のアカウントと一致するように 構成することをお勧めします。Active Directoryアカウントのロールベースアクセス制御の構成については、「ロールベースアクセス制御」を 参照してください。

XenServerをインストールしてプールを作成する

VMware ESXi/vCenter VMを変換する前に、変換されたVMを実行するXenServerプールまたはホストを作成していることを確認してください。 このプールは、VMwareサーバーに接続できるようにネットワークが構成されている必要があります。また、 VMwareクラスターにあるものと同じ物理ネットワークをXenServerプールに構成するか、 ネットワーク構成を簡素化することもできま

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

す。変換されたVMをプールで実行する場合は、変換前にストレージリポジトリを作成し、 共有ストレージをプールに追加してください。

XenServerを初めて使用する場合は、「クイックスタート」を読むことで、基本的なインストールと構成を含むXenServerの 基本について学ぶことができます。

XenServer環境に関する考慮事項

XenServerをインストールして仮想アプライアンスをインポートする前に、変換戦略を変更する可能性のある以下の要因を 考慮してください。

変換でサポートされるゲストオペレーティングシステム

変換可能なゲストオペレーティングシステムの詳細については、「ゲストOS機能サポート」を参照してください。

ホスト要件

Conversion Manager仮想アプライアンスを実行するホストを選択します。このホストは、スタンドアロンホストでも、変換されたVMを 実行するプール内のホストでもかまいません。

プールの場合、ストレージがストレージ要件を満たしていれば、プール内の任意のホストで仮想アプライアンスを 実行できます。

注:

プール内で一度に1つのConversion Managerのみを実行することをお勧めします。

Conversion Manager仮想アプライアンスには、最低限以下のものが必要です。

- XenServer 8.4またはXenServer 9
- ディスク容量: 30 GBのディスク容量
- メモリ: 6 GB
- 仮想CPU割り当て: 2 vCPU

ネットワーク要件

VMware ESXi/vCenter VMを変換するには、Conversion Manager仮想アプライアンスがVMware サーバーと通信できる物理ネットワークまたは VLANへの接続を必要とします。(以下のセクションでは、このネットワークを「VMware ネットワーク」と呼びます。)

VMwareサーバーがXenServerプール内のホストとは異なる物理ネットワーク上にある場合は、そのネットワークを 変換前にXenServerに追加してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

- VMの変換にかかる時間は、VMwareネットワークとXenServerネットワーク間の物理的な距離、および VMの仮想ディスクのサイズによって異なります。VMwareサーバーとXenServer間のネットワークスループットをテストすることで、 変換にかかる時間を推定できます。
- デフォルトでは、Conversion ManagerはVM変換中にVMの仮想ディスクをダウンロードするためにHTTPSを使用します。 移行プロセスを高速化するには、ダウンロードパスをHTTPに切り替えることができます。

既存のネットワーク構成をマッピングする

Conversion Manager仮想アプライアンスには、既存のVMware ESXi/vCenter VMからXenServerへの変換後に必要となる 手動のネットワーク構成の量を削減できる機能が含まれています。たとえば、Conversion Manager 仮想アプライアンスは次のことを行います。

- VMware ESXi/vCenter VM上の仮想MACアドレスを保持し、結果として得られるXenServer VMでそれらを再利用します。 仮想ネットワークアダプターに関連付けられたMACアドレス（仮想MACアドレス）を保持すると、次のことが可能になります。
  - DHCPを使用する環境でIPアドレスを保持するのに役立ちます
  - 仮想MACアドレスを参照するライセンスを持つソフトウェアプログラムに役立ちます
- (仮想)ネットワークアダプターをマッピングします。Conversion Manager仮想アプライアンスは、VMwareネットワークをXenServerネットワークにマッピングできます。 これにより、VMが変換された後、その仮想ネットワークインターフェースが適切に接続されます。

  例えば、VMwareの「Virtual Network 4」をXenServerの「Network 0」にマッピングした場合、「Virtual Network 4」に仮想 アダプターが接続されていたVMware VMは、変換後に「Network 0」に接続されます。Conversion Manager仮想 アプライアンスは、ハイパーバイザーのネットワーク設定を変換または移行しません。ウィザードは、変換されたVMの 仮想ネットワークインターフェース接続を、提供されたマッピングに基づいて変更するだけです。

  注:

  すべてのVMwareネットワークを対応するXenServerネットワークにマッピングする必要はありません。ただし、 必要に応じて、VMが使用するネットワークを変更したり、新しい XenServer構成のネットワーク数を削減または統合したりできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

これらの機能から最大限のメリットを得るために、以下をお勧めします。

- XenServerをインストールする前に、ホストに構成したいスイッチ上のネットワーク（つまりポート）に ホストを接続します。
- XenServerプールが検出したいネットワークを認識できることを確認してください。具体的には、 XenServerホストをVMwareクラスターと同じネットワークにアクセスできるスイッチポートに接続します。

XenServer NICをVMwareホストのNICと同じネットワークに接続する方が簡単ですが、必須ではありません。 NIC/ネットワークの関連付けを変更したい場合は、XenServer NICを別の 物理ネットワークに接続できます。

CONVERSION MANAGER仮想アプライアンスのネットワーク要件に備える

変換を実行する際、VMwareサーバーが存在するネットワークへのネットワーク接続を作成する必要があります。 Conversion Manager仮想アプライアンスは、XenServerホストと VMwareサーバー間の変換トラフィックにこの接続を使用します。

このネットワーク接続を作成するには、次の2つのタスクを実行する必要があります。

- Conversion Manager仮想アプライアンスをインポートする際、変換トラフィック用にL追加したネットワークを 仮想ネットワークインターフェースとして指定します。これを行うには、**interface 1** をそのネットワークに接続するように構成します。
- 変換ウィザードを実行する前に、VMwareとXenServerを接続するネットワークを、 変換されたVMを実行するXenServerホストに追加します。

デフォルトでは、Conversion Manager仮想アプライアンスをインポートすると、XenCenter®は1つの仮想ネットワークインターフェイスを ネットワーク0およびNIC0 (eth0) に関連付けて作成します。変換用のネットワークを追加する際は、XenServerの 管理ネットワーク以外のネットワークを選択して、ビジーなプールでのパフォーマンスを向上させてください。管理インターフェイスの詳細については、 ネットワーキングを参照してください。

Conversion Manager内では、複数のネットワークインターフェイス (eth0とeth1) が表示される場合があります。eth0はホストの ローカルdom0と通信するために使用される内部ネットワークに接続されます。eth1はXenCenterと 通信するために使用されるルーティング可能なネットワークに接続されます。

XenServerにネットワークを追加するには：

1. XenCenterの**リソース**ペインで、Conversion Manager仮想 アプライアンスを実行するプールを選択します。
2. **ネットワーキング**タブをクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

3. **ネットワークの追加**をクリックします。
4. **種類の選択**ページで、**外部ネットワーク**を選択し、**次へ**をクリックします。
5. **名前**ページで、ネットワークのわかりやすい名前（例：「VMwareネットワーク」）と説明を入力します。
6. **インターフェイス**ページで、以下を指定します。

   - **NIC**。XenServerでネットワークの作成に使用するNIC。 VMwareサーバーの物理ネットワークまたは論理ネットワークに接続されているNICを選択します。
   - **VLAN**。VMwareネットワークがVLANである場合は、VLAN ID（または「タグ」）を入力します。
   - **MTU**。VMwareネットワークがジャンボフレームを使用している場合は、最大転送単位（MTU）の値を 1500から9216の間で入力します。それ以外の場合は、MTUボックスをデフォルト値の1500のままにします。

   > **注：**
   >
   > **このネットワークを新しい仮想マシンに自動的に追加する**チェックボックスは選択しないでください。

7. 「**完了**」をクリックします。

ストレージ要件

VMware ESXi/vCenter VMのバッチを変換する前に、ストレージ要件を検討してください。

- 変換されたVMが単一のスタンドアロンホスト（プールではない）で実行される場合、変換された仮想ディスクの 保存場所として、ローカルストレージまたは共有ストレージのいずれかを指定できます。
- 変換されたVMをプールで実行したい場合、その仮想ディスクは共有ストレージに保存する必要があります。共有ストレージを ストレージリポジトリを作成してプールに追加してください。

  このストレージリポジトリは、そのプールで実行したいすべての変換済みVMの仮想ディスクを 格納できる十分な大きさである必要があります。

ストレージリポジトリを作成するには：

1. XenCenterの**リソース**ペインで、Conversion Manager仮想 アプライアンスを実行する予定のプールを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. 「**ストレージ**」タブをクリックします。
3. **新規SR**をクリックし、ウィザードの指示に従います。詳細な手順については、**F1**キーを押して オンラインヘルプを表示してください。

XenServerの要件

このリリースのConversion Managerで変換されたVMは、以下のバージョンのXenServerで実行できます。

- XenServer 8.4
- XenServer 9

VMwareの要件

Conversion Manager仮想アプライアンスは、以下のバージョンのVMwareからVMware ESXi/vCenter VMを変換できます。

- vCenter Server 7.x、8.x、および9.x
- vSphere 7.x、8.x、および9.x
- ESXi 7.x、8.x、および9.x

> **注：**
>
> Conversion Manager仮想アプライアンスは、4つ以上のディスクを持つVMware ESXi/vCenter Windows VMを XenServer VMに変換できません。VMware ESXi/vCenter Windows VMは、3つ以下のディスクである必要があります。

VMware ESXi/vCenter VMには、ネットワークとストレージコントローラーも構成されている必要があります。

仮想アプライアンスのインポートと構成

Conversion Manager仮想アプライアンスは、XenServerホスト上で実行するように設計された、単一のプリインストール済みVMです。

仮想アプライアンスをダウンロードする

Conversion Manager仮想アプライアンスはXVA形式でパッケージ化されています。仮想アプライアンスは XenServerダウンロードページからダウンロードできます。ファイルをダウンロードする際は、 ローカルハードドライブ上のフォルダー（通常はXenCenterがインストールされているコ

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ンピューターですが、必須ではありません）に保存してください。`.xva`ファイルが ハードドライブに保存されたら、XenCenterにインポートできます。

> **注：**
>
> Conversion Manager仮想アプライアンスは、XenServer Premium Editionのお客様、またはCitrix Virtual Apps and DesktopsエンタイトルメントまたはCitrix DaaSエンタイトルメントを通じてXenServerにアクセスできるお客様が利用できます。XenServerライセンスの 詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたは XenServerライセンスの取得については、CitrixのWebサイトをご覧ください。

仮想アプライアンスをXenServerにインポートする

変換されたVMを実行したいプールまたはホストにConversion Manager仮想アプライアンスをインポートするには、 XenCenterの**インポート**ウィザードを使用します。

1. XenCenterを開きます。仮想アプライアンスパッケージをインポートするプール（またはホスト）を右クリックし、 **インポート**を選択します。
2. 仮想アプライアンスパッケージの場所を参照します。
3. Conversion Manager仮想アプライアンスを実行するプールまたはホームサーバーを選択します。

   > **注:**
   >
   > ホームサーバーとは、プール内のVMにリソースを提供するホストのことです。XenServerは、他のホストを試す前に、 そのホストでVMを起動しようとします。ホストを選択した場合、Conversion Manager仮想 アプライアンスはそのホストをホームサーバーとして使用します。プールを選択した場合、仮想アプライアンスは そのプール内で最も適切なホストで自動的に起動します。

4. Conversion Manager仮想アプライアンスの仮想ディスクを保存するストレージリポジトリを選択し、 **インポート**をクリックします。プールにストレージリポジトリを追加するには、「ストレージ要件を満たす」というセクションを参照してください。 ローカルストレージまたは共有ストレージのいずれかを選択できます。
5. 変換に使用するネットワーク（VMwareサーバーをXenServerホストに接続するネットワーク）が、 **インターフェース 1**（「仮想NIC 1」）に関連付けられたネットワークとして選択されていることを確認します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- インターフェース 1の横に正しいネットワークが表示されない場合は、**ネットワーク**列のリストを使用して 別のネットワークを選択します。
- プールとは異なる物理ネットワーク上にあるVMwareネットワークを追加していない場合は、次の手順を実行します。

  a. ウィザードを終了します。

  b. ネットワークをプールに追加します。

  c. ウィザードを再実行します。

  詳細については、「**XenServerにネットワークを追加するには**」を参照してください。

  警告:

  NIC0 を顧客ネットワークに構成しないでください。NIC0 は\"ホスト内部管理ネットワーク\"にのみ割り当ててください\.

6. 「**インポート後にVMを起動**」チェックボックスを有効にしたまま、「**完了**」をクリックして仮想アプライアンスをインポートします。
7. `.xva`ファイルをインポートすると、Conversion Manager仮想アプライアンスが**リソース**ペインに XenCenterに表示されます。

Conversion Manager仮想アプライアンスの構成

Conversion Manager仮想アプライアンスを使用してVMware ESXi/vCenter VMを変換する前に、XenCenterの**コンソール**タブを使用して構成します。

1. Conversion Manager仮想アプライアンスをインポートした後、「**コンソール**」タブをクリックします。
2. ライセンス契約を読みます。ライセンス契約の内容を表示するには、WebブラウザでURLを開きます。続行するには、いずれかの キーを押します。
3. Conversion Manager仮想アプライアンスの新しいrootパスワードを入力して確認します。強力な パスワードを選択することをお勧めします。
4. Conversion Manager仮想アプライアンスのホスト名を入力します。
5. 仮想アプライアンスのドメインサフィックスを入力します。たとえば、仮想アプライアンスの完全修飾ドメイン名（FQDN）が `citrix-migrate-vm.domain4.example.com` の場合、`domain4.example.com` と入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

6. Conversion Manager仮想アプライアンスのIPアドレスを自動的に取得するには、DHCPを使用するために**y**と入力します。 それ以外の場合は、**n**と入力し、VMの静的IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイを入力します。
7. ホスト名とネットワーク設定を確認し、プロンプトが表示されたら**y**と入力します。この手順でConversion Manager 仮想アプライアンスの構成プロセスが完了します。
8. アプライアンスの構成が正常に完了すると、ログインプロンプトが表示されます。ログイン資格情報を入力し、 **Enter**を押してConversion Manager仮想アプライアンスにログインします。

Conversion Managerを正しく構成しないと、仮想アプライアンスを再構成する必要がある場合があります。詳細については、 以下を参照してください。 Conversion Manager仮想アプライアンスの再構成。

Conversion Manager仮想アプライアンスの再構成

仮想アプライアンスのインストール後にConversion Managerの構成を変更する必要がある場合は、以下の 手順に従って再構成できます。

1. SSHまたはXenCenterの**コンソール**タブを使用して、rootユーザーとしてConversion Manager仮想アプライアンスにログインします。
2. 次のファイルを削除します: `/etc/init.d/vpx_startup_setup_done`。
3. XenCenterを使用して仮想アプライアンスを再起動します。
4. XenCenterの**コンソール**タブを使用して仮想アプライアンスを再構成します。

VMware ESXi/vCenter VMの変換

VMware ESXi/vCenter VMを変換すると、Conversion Manager仮想アプライアンスを実行しているXenServerプールまたはスタンドアロンホストにインポートされます。 変換されたVMは、仮想プロセッサと仮想メモリの元のVMware設定を保持します。

変換手順を開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください:

- XenServerプールまたはスタンドアロンホストの資格情報を持っていること。rootアカウントまたはRBAC (Role-Based Access Control) のプール管理者ロールを持つアカウントのいずれでも構いません。
- 変換するVMをホストしているVMwareサーバーの資格情報を持っていること。これらは、Conversion ManagerコンソールをVMwareサーバーに接続するために必要です。
- 変換するVMware仮想マシンは次のとおりです:
    - 電源がオフになっていること。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ネットワークコントローラとストレージコントローラの両方が構成されていること。
- Windows VMの場合:
  - 管理者としてVMware仮想マシンにログインします。
  - 「組み込みAdministratorアカウントの管理者承認モードを使用する」グループポリシーを無効にします。

- 変換されたVMを実行するXenServerプール（またはホスト）は、ストレージリポジトリに接続されています。ストレージリポジトリ には、変換された仮想ディスクのための十分な空き容量が必要です。
- 新しく変換されたVMをプールで実行したい場合、ストレージリポジトリは共有ストレージである必要があります。ただし、 変換されたVMが単一のスタンドアロンホスト（プールではない）で実行される場合は、ローカルストレージを使用できます。
- 変換するVMの各仮想ディスクは、サポートされている最大サイズ内である必要があります。GFS2ストレージリポジトリでは、 単一の仮想ディスクは最大16 TiBまで可能です。他のストレージリポジトリタイプでは、各仮想ディスクは2 TiB未満である必要があります。
- XenServerプール（またはホスト）には、変換されたVMが使用するネットワークがあります。

VMware ESXi/vCenter VMをXenServer環境で実行できるVMに変換するには：

1. VMware VMが暗号化されている場合は、変換を開始する前に復号化してください。VMにvTPMが接続されている場合は、 vTPMを削除してからVMを復号化してください。
2. 仮想アプライアンスが、VMをインポートするXenServerホストまたはプールに インストールされ、実行されていることを確認してください。
3. XenCenterで、**プール** > **変換マネージャー** に移動します。

   変換マネージャー ウィンドウが開きます。ウィザードが仮想アプライアンスに接続するまでお待ちください。
4. **新規変換** をクリックします。
5. **新規変換** ウィザードで、VMwareサーバーの資格情報を入力します。

   - **サーバー**。変換するVMが含まれているVMwareサーバーのIPアドレスまたはFQDNをXenServerに入力します。
   - **ユーザー名**。このVMwareサーバーの有効なユーザー名を入力します。このアカウントは、VMware管理者アカウント であるか、ルートロールを持っている必要があります。
   - **パスワード**。**ユーザー名** ボックスで指定したユーザーアカウントのパスワードを入力します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

次へ をクリックします。XenCenterがVMwareサーバーに接続します。

6. 「**仮想マシン**」ページで、VMwareサーバーで利用可能なリストから変換したいVMを選択します。

   VM名に`%`、`&`、`*`、`$`、`#`、`@`、`!`、`\`、`/`、`:`、`*`、`?`、`"`、`<`、`>`、`|`、`;`、または`'`などのサポートされていない文字が含まれている場合、変換は失敗します。大文字と小文字のASCII文字、数字、スペース、 ピリオド (`.`)、ハイフン (`-`)、アンダースコア (`_`)、プラス記号 (`+`)、および括弧 (`()`) のみが許可されます。

   > **注:**
   >
   > VMでBitLockerが有効になっている場合、またはBitLockerで使用されているvTPMがアタッチされたVMを変換する場合は、 変換前にBitLockerをシャットダウンすることをお勧めします。この操作により、VMディスクが復号化され、Conversion ManagerがWindowsまたはLinux VMからVMware Toolsを自動的にアンインストールし、XenServer VM Toolsをインストールできるようになります。

   次へをクリックします。

7. vTPMがアタッチされたWindows VMを変換する場合は、「**vTPM**」ページで必須タスクと情報を確認してください。 (このページは、vTPMがアタッチされたWindows VMを変換する場合にのみ表示されます。)

   変換を続行するには、vCenter Serverに接続する必要があります。Conversion Managerが既存のvTPMを削除し、VM用に新しいXenServer vTPMを作成するには、 vCenterへのアクセスが必要です。

   > **注:**
   >
   > 他のアプリケーションがvTPMに依存している場合は、変換前にvTPMデータをバックアップしてください。Conversion Managerは 古いvTPMから暗号化されたデータを回復できないためです。XenServer上に新しい空のvTPMが作成されます。変換後、手動でXenServer上の新しいvTPMにデータを復元してください。

   すべての必須タスクを完了したら、ページの最下部にある同意チェックボックスをオンにして完了を確認し、 **次へ**をクリックします。

8. 「**テンプレート**」ページで、選択した各VMに使用するテンプレートを選択します。デフォルトでは、推奨される VM用テンプレートが選択されています。詳細については、テンプレートマッピングを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Windows VMの場合、このページでは、Windows Updateを介してI/Oドライバー（XenServer VM Toolsのコンポーネント）の 更新を受け取るかどうかを選択することもできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。Citrix Provisioningターゲットまたは 起動時にリセットされるマシンでは、このオプションを無効にすることをお勧めします。

Linux VMの場合、このチェックボックスは無効になっています。

9. 「**ストレージ**」ページで、変換中に使用するストレージリポジトリを選択します。このストレージリポジトリは、 作成するVMと仮想ディスクが永続的に保存される場所です。

   このタブは、変換されたVMの仮想ディスクが消費する利用可能なストレージの割合を示します。

10. 「**Networking**」ページで、リストされている各VMwareネットワークについて、マッピングするXenServerネットワークを選択します。仮想MACアドレスを保持するかどうかも選択できます。 「**Next**」をクリックします。

11. Windows VMを変換する場合は、「**Install XenServer VM Tools for Windows after conversion**」チェックボックスを有効にします。 これは「**XenServer VM Tools**」ページにあります。これにより、Conversion ManagerはXenServer VM Toolsを自動的にインストールできます。 Windows VMに。（このページはWindows VMの変換でのみ表示されます。）

    各Windows VMにXenServer VM Tools for Windowsをインストールすることは、完全にサポートされた構成にとって不可欠です。これらの ツールはI/Oパフォーマンスを向上させ、ディスクとネットワークの効率を高めるとともに、クリーン シャットダウン、再起動、一時停止、ライブマイグレーションなどの主要なVM機能をサポートします。VMはこれらのツールなしでも動作できますが、パフォーマンスが 制限される可能性があります。自動インストールを有効にする場合は、ソースを選択してください。

    - **既存のXenServer VM Toolsバージョンを使用** - 以前にXenServer VM Tools for Windowsをダウンロードしてアップロードしている場合は、そのバージョンを選択できます。 アップロードしたバージョンは参照用に表示されます。
    - **XenServer VM Tools for Windowsの最新バージョンをダウンロードしてアップロード** - インターネットアクセスが利用可能な場合、 XenCenterは自動的にXenServerウェブサイトに接続し、ツールの最新バージョンをダウンロードして Conversion Managerにアップロードします。
    - **ディスクからツールファイルを選択** - 特定のバージョンが必要な場合やインターネット接続がない場合は、 ローカルディスクからツールファイルを手動でアップロードできます。

    「**Next**」をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

12. 「**Finish**」ページで、変換プロセス用に構成したオプションを確認します。これらのオプションを変更するには、「**Previous**」をクリックします。

    （オプション）「**Start the converted VMs automatically after conversion**」を選択すると、各VMの変換が正常に完了するとすぐに電源がオンになります。 このオプションには Conversion Manager 2026.1.0以降が必要です。デフォルトでは 無効になっています。

    「

    注:

    」:

    > 変換ジョブが失敗したり完了しなかったりした場合、このオプションが有効になっていても、 変換されたVMは自動的に起動しません。

    表示されている構成で続行するには、「**Finish**」をクリックします。

    変換プロセスが開始され、その間にConversion ManagerはVMware Toolsを自動的にアンインストールします。 WindowsまたはLinux VMに。変換が完了すると、自動起動オプションを選択していた場合は、 変換されたVMが自動的に起動します。そうでない場合は、XenCenterからVMを右クリックして 「**Start**」を選択し、手動でVMを起動します。

    VMが起動した後、互換性を確保するためにXenServer VM Toolsが自動的にインストールされます。インストールを完了するには、 VMをもう一度手動で再起動してください。

「**Conversion Manager**」ウィンドウには、進行中の変換と完了した変換が表示されます。

変換後のタスク

VMの変換後、WindowsおよびLinux VMで次のタスクを完了します。

Windows VMでWindowsライセンスを再アクティブ化する

Windows VMでは、Microsoftのライセンスモデルによっては、VMのWindowsライセンスを再アクティブ化する必要がある場合があります。この 再アクティブ化は、Windowsオペレーティングシステムが変換をハードウェアの変更と認識するためです。

Windows VMを再起動する

Windows VMの場合、Conversion ManagerでXenServer VM Toolsを自動的にインストールするように選択した場合、ツールは 最初の起動後にインストールされます。インストールを完了するには、VMを手動でもう一度再起動してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

その他の変換タスク

変換の管理ウィンドウでは、VMの変換に関連するその他のタスクを実行できます。これらのタスクには ジョブのクリア、ジョブの概要の保存、ジョブの再試行、ジョブのキャンセル、およびログファイルの表示が含まれます。

すべてのジョブをクリアするには：

1. **すべてクリア**を選択します。
2. このアクションの確認を求められたら、**はい**をクリックして続行します。

ジョブの概要を保存するには：

1. **すべてエクスポート**をクリックします。
2. CSVファイルを保存する場所を指定します。
3. **保存**をクリックします。

ジョブを再試行するには:

1. リストからジョブを選択します。
2. **再試行**をクリックします。

> **注:**
>
> **再試行**オプションは、失敗したジョブまたはキャンセルされたジョブに対してのみ有効です。

ジョブをキャンセルするには:

1. リストからジョブを選択します。
2. **キャンセル**をクリックします。

> **注:**
>
> ジョブのキャンセルは、キューに入っているジョブまたは実行中のジョブに対してのみ有効です。

単一ジョブの変換ログファイルを保存するには:

1. リストからジョブを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

2. ログメニューから、**選択したログの取得**をクリックします。
3. ログファイルを保存する場所を指定します。

すべてのジョブの変換ログファイルを保存するには:

1. 「ログ」メニューから、「**すべてのログを取得**」をクリックします。
2. ログファイルの保存先を指定します。

変換の詳細を表示するには：

1. リストからジョブを選択します。

   情報は「**詳細**」パネルに表示されます。

Conversion Manager のトラブルシューティング

このセクションでは、変換プロセスおよび変換されたVMのトラブルシューティングに関する情報を提供します。

変換されたVMの起動に関する問題

一般的に、変換はスムーズに実行され、Conversion Manager 仮想アプライアンスはVMを問題なく変換します。しかし、 まれに、変換されたVMを開こうとするとエラーが発生する場合があります。以下のセクションでは、 エラーやその他の問題を解決するためのガイダンスを提供します。

Windows STOP コード 0x0000007B のブルースクリーン

このストップコードは、Conversion Manager 仮想アプライアンスが、XenServer® で初回起動するために不可欠なWindowsデバイスを 構成できなかったことを示します。ログを保存し、さらなるガイダンスのためにサポートに送信してください。

Windows の製品アクティベーション

ライセンスモデルによっては、Windows VMを起動しようとすると、システムアクティベーションに関する エラーメッセージが表示されることがあります。

Windows VMでのネットワーク設定の喪失

ESXiサーバーからXenServerにWindows VMをインポートすると、IPv4/IPv6ネットワーク設定が失われる可能性があります。ネットワーク設定を保持するには、 変換完了後にIPv4/IPv6設定を再構成してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

VMware SCSI ディスクを起動できません

VMware VMがSCSIディスクから起動するが、IDEハードディスクも構成されている場合、XenServerに変換するとVMが起動しない可能性があります。 この問題は、移行プロセスがIDEハードディスクにSCSIディスクよりも小さいデバイス番号を割り当てるために発生します。 しかし、XenServerはデバイス0に割り当てられたハードディスクから起動します。この問題を解決するには、XenCenter® で仮想 ディスクの位置を再配置し、オペレーティングシステムを含む仮想ディスクからVMが再起動するようにします。

オペレーティングシステムを含む仮想ディスクの位置を変更するには:

1. XenCenterの**リソース**ペインで、電源がオフになっているゲストVMを選択します。
2. **ストレージ**タブを選択します。
3. 「**仮想ディスク**」リストから、オペレーティングシステムを含む仮想ディスクを選択し、「**プロパティ**」をクリックします。
4. 仮想ディスクの「**プロパティ**」ダイアログで、「***vm_name***」タブをクリックしてデバイスオプションを表示します。
5. 「**デバイス位置**」リストから「**0**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

変換中の問題

VMの変換中に問題やエラーが発生した場合は、VMware VMをOVFパッケージとしてエクスポートしてみてください。VMware VMを OVFパッケージとしてエクスポートできない場合、Conversion ManagerはこのVMを変換できません。VMをOVFパッケージとしてエクスポートしようとしたときに表示されるエラーメッセージを使用して、 VMware VMの問題をトラブルシューティングして修正してください。たとえば、 VMをOVFパッケージとしてエクスポートまたは変換する前に、ネットワークまたはストレージコントローラーを構成する必要がある場合があります。VMware ESXi/vCenter VMのトラブルシューティングの詳細については、 VMware documentation を参照してください。

Linux VMの変換中にエラーが表示された場合は、変換されたVMを削除し、Conversion Manager 仮想 アプライアンスを再起動して再試行してください。

失敗した変換のログはConversion Manager仮想アプライアンスに保存されており、「**Conversion Manager**」ウィンドウで「**すべてのログを取得**」をクリックすると取得できます。問題を報告するためにサポートに連絡する際は、 トラブルシューティングのために、変換ログファイルと、さらに完全なサーバー状態レポートを提供することをお勧めします。詳細については、 サーバー状態レポートの作成を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

システムパフォーマンスの監視

XenCenter® を使用したシステムパフォーマンスの監視

XenCenterの**パフォーマンス**タブでは、リソースプール全体のパフォーマンス統計をリアルタイムで監視できます。このタブでは、仮想マシンおよび物理マシンのパフォーマンスのグラフィカルな傾向も表示されます。

- 最大12か月分のパフォーマンスデータを表示でき、アクティビティの急増を詳しく確認するためにズームインできます。詳細については、「パフォーマンスデータの表示」を参照してください。
- デフォルトでは、CPU、メモリ、ネットワークI/O、ディスクI/Oを示すグラフがタブに表示されます。ただし、パフォーマンスデータを追加したり、グラフの外観を変更したりできます。詳細については、「パフォーマンスグラフの構成」を参照してください。
- 管理対象サーバー、仮想マシン、またはストレージリポジトリで、以下のリソースが指定されたしきい値を超えると、パフォーマンスアラートが生成されます。
  - CPU
  - メモリ使用量
  - ネットワーク
  - ストレージスループット
  - VMディスクアクティビティ

  詳細については、「パフォーマンスアラートの構成」を参照してください。

注:

完全なパフォーマンスデータは、XenServer® VM Toolsがインストールされている仮想マシンでのみ利用可能です。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

NRPE を使用したシステムパフォーマンスの監視

注:

NRPE機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServer Webサイトをご覧ください。

プロパティダイアログの**NRPE構成**タブでは、XenServerホストおよびプール用にNRPEを構成できます。これにより、Nagios Remote Plugin Executor (NRPE) をサポートするサードパーティの監視ツールを使用して、ホスト/プールおよびdom0 (ホストの制御ドメイン) によって消費されるリソースを監視できます。NRPEの構成方法については、NRPEを使用したホストおよびdom0リソースの監視を参照してください。

SNMPを使用したシステムパフォーマンスの監視

注:

SNMP機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServer Webサイトをご覧ください。

プロパティダイアログの**SNMP**タブでは、XenServerホストおよびプール用にSNMPを構成できます。これにより、Simple Network Management Protocol (SNMP) をサポートするサードパーティの監視ツールを使用して、ホスト/プールおよびdom0 (ホストの制御ドメイン) によって消費されるリソースを監視できます。SNMPの構成方法については、SNMPを使用したホストおよびdom0リソースの監視を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- NRPEを使用したホストおよびdom0リソースの監視
- SNMPを使用したホストおよびdom0リソースの監視

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

パフォーマンスデータの表示

「**パフォーマンス**」タブには、選択したサーバーまたは仮想マシンのパフォーマンスデータがグラフ形式で表示されます。

サーバーの場合、次のものを表示できます。

- CPU、メモリ、およびネットワークI/Oの使用状況データ。
- 必要に応じて、追加のリソース使用状況データを示すグラフを追加できます。たとえば、コントロール ドメインの負荷を含めることができます。この負荷は、過去5分間にコントロール ドメイン内でキューに入れられたプロセス数の平均値（Linux `loadavg`）です。
- サーバーでホストされているすべてのVMのライフサイクルイベントは、「**VMライフサイクルイベント**」ペインに表示されます。

VMの場合、CPU、メモリ、ネットワークI/O、およびディスク使用状況データを示すグラフがデフォルトで表示されます。

タブの下部にあるサマリーグラフは、マシンで何が起こっているかをすばやく把握できます。このグラフでは、他のグラフに表示される時間枠を調整することもできます。時間枠は、より長い期間または短い期間のデータを表示するように変更することも、以前の期間のデータを表示するように変更することもできます。

タブに他の種類のパフォーマンスデータを含める場合、またはグラフの外観を変更する場合は、「パフォーマンスグラフの構成」を参照してください。

より長い期間または短い期間のデータを表示するには

デフォルトでは、過去10分間のデータが表示されます。より長い期間または短い期間のデータを表示するには、次のいずれかを実行します。

- 過去1時間、24時間、1週間、1か月、または1年間の利用可能なパフォーマンスデータを表示するには、「**ズーム**」をクリックします。「**1時間**」、「**1日**」、「**1週間**」、「**1か月**」、または「**1年**」を選択します。
- グラフに表示される期間のサイズを変更するには、サマリーグラフで、サンプル領域の端にある垂直分割バーにポインターを合わせます。ポインターが両方向矢印に変わったら、垂直分割バーを右または左にドラッグします。

  サイズ変更カーソル。(/en-us/xencenter/media/resizecursor.gif)

  例：

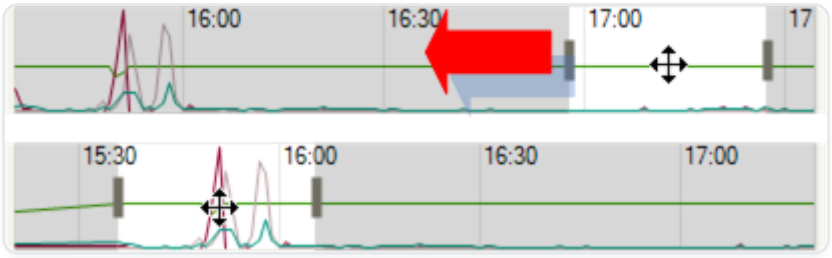
© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



異なる期間のデータを表示するには

グラフに表示されるデータの時間枠を移動するには、任意のグラフをポイントします。ポインターが移動カーソルに変わったら、グラフまたはサマリーグラフのサンプル領域を左右にドラッグします。


例:



サーバー上のVMライフサイクルイベントデータを表示するには

サーバーでホストされているVMのライフサイクルイベントを表示するには、**VMライフサイクルイベント**リストを使用します。

- 各イベントには、そのライフサイクルイベントの完全なメッセージ（「仮想マシン 'Sierra' が起動しました」）を含むツールチップがあります。
- カーソルキーを使用して、リスト内の項目を移動できます。
- ダブルクリックするか、**Enter**キーを押すと、選択したライフサイクルイベントが発生した時点にグラフがズームされます。
- いずれかのイベントを選択（シングルクリックまたはカーソルキーでハイライト）すると、グラフ自体のライフサイクルイベントがハイライト表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

パフォーマンスグラフの設定

グラフを追加するには

1. **パフォーマンス**タブで、**アクション**を選択し、次に**新しいグラフ**を選択します。**新しいグラフ**ダイアログボックスが表示されます。
2. **名前**フィールドにグラフの名前を入力します。
3. データソースのリストから、グラフに含めるデータソースのチェックボックスをオンにします。
4. **保存**をクリックします。

グラフを編集するには

1. **パフォーマンス**タブに移動し、編集したいグラフを選択します。
2. **アクション**を選択し、次に**グラフの編集**を選択します。
3. グラフの詳細ウィンドウで、必要な変更を行い、**OK**をクリックします。

グラフを削除するには

1. **パフォーマンス**タブに表示されているグラフのリストから、削除するグラフを選択します。
2. **アクション**を選択し、次に**グラフの削除**を選択します。
3. 削除を確定するには、**はい**をクリックします。

グラフを並べ替えるには

1. 「**パフォーマンス**」タブに移動し、並べ替えたいグラフを選択します。
2. 「**上へ移動**」または「**下へ移動**」タブを選択して、グラフを現在の場所から移動させます。

グラフのデータソースの色を変更するには

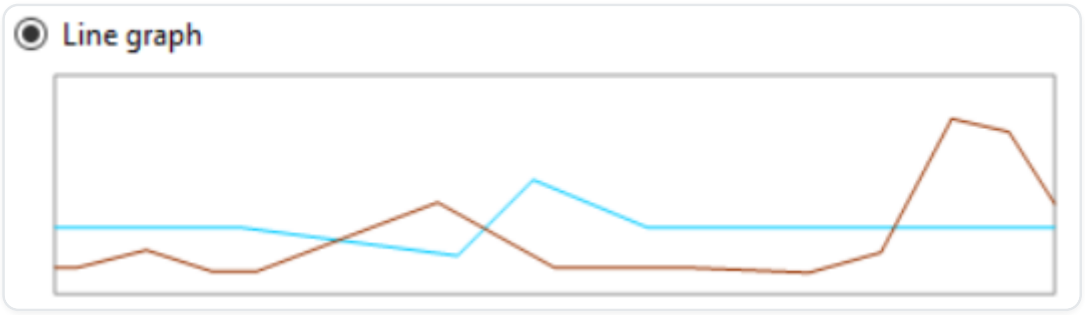
1. 「**パフォーマンス**」タブに移動します。
2. データソースの色を変更したいグラフをダブルクリックします。グラフの詳細ダイアログボックスが表示されます。
3. 必要なデータソースの横にある色付きのチェックボックスをオンにし、カラーピッカーから新しい色を選択します。
4. 「**OK**」をクリックして確定します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

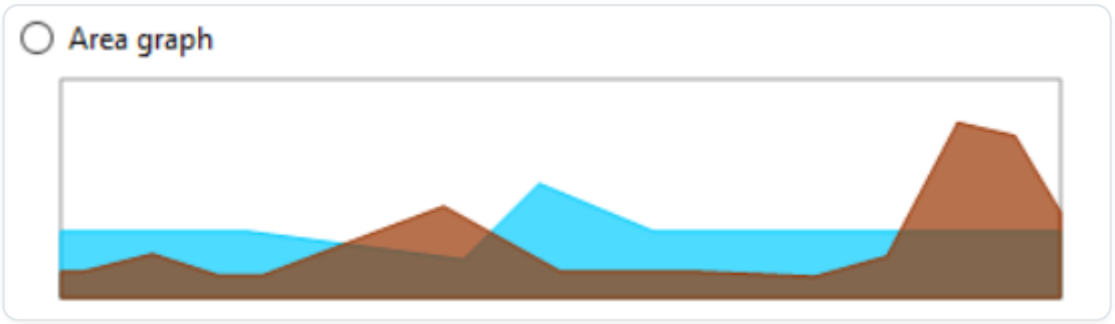
グラフの種類を変更するには

パフォーマンスグラフのデータは、線または領域として表示できます。

折れ線グラフ:



面グラフ:



グラフの種類を変更するには:

1. 「**ツール**」メニューで「**オプション**」を選択し、次に「**グラフ**」タブを選択します。
2. パフォーマンスデータを折れ線グラフとして表示するには、「**折れ線グラフ**」ラジオボタンを選択します。
3. パフォーマンスデータを面グラフとして表示するには、「**面グラフ**」ラジオボタンを選択します。
4. 「**OK**」をクリックして変更を保存します。

XenCenterでのNUMA最適化

概要

XenCenterは、XenServer 9ホスト上の仮想マシン (VM) のNUMA最適化ステータスを表示します。XenCenterを使用して、配置を確認し、NUMA関連のメトリックを有効にした後に視覚化します。

NUMAステータスの表示場所

- VMの**全般**タブ: VMがNUMA最適化されているかどうかを表示します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- VMの**パフォーマンス**タブ: 有効にした後、NUMAおよびスケジューリングのVMごとのRRDデータソースを表示します。

インジケーター

- `NUMA nodes = 1`: VMは最適化されており、単一のNUMAノードを使用しています。
- `NUMA nodes > 1`: VMメモリは複数のNUMAノードに分散されています。VMは最適化されていません。

メトリックを有効にする

VMごとのNUMA関連メトリックは、デフォルトで無効になっています。これらを有効にするには:

1. **リソース**ペインでVMを選択します。
2. **パフォーマンス**タブで、**アクション** > **新しいグラフ...** を選択します。
3. **データソースの表示** > **無効** をクリックして、無効なデータソースをリストに含めます。
4. データソースのリストから、「NUMAノード」、「vCPU実行可能数」など、有効にしたいデータソースのチェックボックスを選択します。
5. 「**有効化**」をクリックして、サーバーで選択したメトリックの記録を有効にします。
6. 「**保存**」をクリックして、選択したデータソースで新しいグラフを作成します。

ガイダンスと考慮事項

NUMA最適化によるパフォーマンスの向上は、以下に依存します。

- VM内のワークロードおよびアプリケーションプロファイル。
- レイテンシーとスループットの測定に使用されるベンチマークまたはメトリック。
- CPUアーキテクチャと世代。

ユースケースで厳密なシングルノード配置が必要な場合、かつVMが1つのNUMAノードに収まらない場合、VMメモリを単一ノード内に収まるようにサイズ変更するか、ホストメモリ割り当てを調整してシングルノード配置を可能にします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

NRPE を使用したホストと dom0 リソースの監視

注:

NRPE 機能は、XenServer Premium または Trial Edition のお客様にご利用いただけます。XenServer のライセンスの詳細については、ライセンス を参照してください。アップグレードまたは XenServer ライセンスの取得については、XenServer の Web サイト をご覧ください。

プール管理者ロールを持つユーザーは、Nagios Remote Plugin Executor (NRPE) をサポートするサードパーティの監視ツールを使用して、XenServer® ホストおよびホストの制御ドメインである dom0 によって消費されるリソースを監視できます。

ホストと dom0 のリソースを監視するには、次のチェックプラグインを使用できます。

メトリック	NRPE チェック名	説明	デフォルトの警告しきい値	デフォルトのクリティカルしきい値	返されるパフォーマンスデータ
ホスト CPU 負荷	check_host_load	ホストの物理 CPU ごとの現在の負荷を取得およびチェックします。負荷とは、実行中または実行可能な状態にある vCPU の数を指します。	3	4	ホストのCPUの現在のシステム負荷（ホストの物理CPUの平均負荷を考慮して計算されます）。
ホストCPU使用率 (%)	check_host_cpu	ホストの現在の平均的な全体CPU使用率を取得し、確認します。	80%	90%	現在空いているホストCPUの割合と、使用中の割合。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

メトリック	NRPE チェック名	説明	デフォルトの警告しきい値	デフォルトのクリティカルしきい値	返されるパフォーマンスデータ
ホストメモリ使用率 (%)	check_host_memory	ホストの現在のメモリ使用率を取得し、確認します。	80%	90%	現在空いているホストメモリの割合と、使用中の割合。
ホスト vGPU使用率 (%)	check_vgpu	ホストの現在実行中のすべてのNvidia vGPU使用状況を取得し、確認します。	80%	90%	現在空いている実行中のvGPUの割合と、使用中の割合。
ホスト vGPU メモリ使用量 (%)	check_vgpu_memory	ホストの現在実行中のすべてのNvidia vGPUメモリ使用量 (共有メモリとグラフィックメモリを含む) を取得し、確認します。	80%	90%	現在空いている実行中のvGPUメモリ (共有メモリとグラフィックメモリを含む) の割合と、使用中の割合。
Dom0 CPU 負荷	check_load	dom0のCPUごとの現在のシステム負荷平均を取得し、確認します。ここで負荷とは、実行中または実行可能な状態にあるプ	2.7,2.6,2.5	3.2,3.1,3	過去1分、5分、15分の平均から算出されるホストCPU負荷データ。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

メトリック	NRPE チェック名	説明	デフォルトの警告しきい値	デフォルトのクリティカルしきい値	返されるパフォーマンスデータ
		ロセスの数を指します。			
Dom0 CPU使用率 (%)	check_cpu	dom0の現在の平均的な全体CPU使用率を取得し、確認します。	80%	90%	パーセンテージで表したdom0の平均的な全体CPU使用率。
Dom0メモリ使用率 (%)	check_memory	dom0の現在のメモリ使用率を取得し、確認します。	80%	90%	現在空いているdom0メモリの割合と、使用中の割合。
Dom0空きスワップ (%)	check_swap	dom0の現在のスワップ使用量を取得し、確認します。	20%	10%	dom0上の現在空いているMBの割合。
Dom0ルートパーティションの空き容量 (%)	check_disk_root	dom0の現在のルートパーティション使用量を取得し、確認します。	20%	10%	dom0ルートパーティション上の現在空いているMBの割合。
Dom0ログパーティションの空き容量 (%)	check_disk_log	dom0の現在のログパーティション使用量を取得し、確認します。	20%	10%	dom0ログパーティションで現在空いているMBの割合。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

メトリック	NRPE チェック名	説明	デフォルトの警告しきい値	デフォルトのクリティカルしきい値	返されるパフォーマンスデータ
ツールスタックのステータス	check_xapi	XenServer管理ツールスタック（XAPIとも呼ばれる）のステータスを取得し、確認します。			XAPIの経過稼働時間（秒単位）。
マルチパスのステータス	check_multipath	ストレージパスのステータスを取得し、確認します。			ストレージパスのステータス。`OK` はすべてのパスがアクティブであることを示し、`WARNING` は一部のパスが失敗したが複数のパスがアクティブであることを示し、`CRITICAL` はアクティブなパスが1つしかないか、すべてのパスが失敗したことを示し、`UNKNOWN` はホストのマルチパスが無効になってお

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

					り、パスのステータスを取得できないことを示します。

NRPEは、dom0で実行され、監視ツールからのチェック実行要求をTCPポート（デフォルト）5666でリッスンするオンプレミスサービスです。要求が到着すると、NRPEはそれを解析し、設定ファイルからパラメーターの詳細を含む対応するチェックコマンドを見つけて実行します。
チェックの結果は監視ツールに送信され、監視ツールは過去のチェック結果を保存し、履歴パフォーマンスデータを示すグラフを提供します。

前提条件

NRPEを使用してホストおよびdom0リソースを監視できるようにするには、使用している監視ツールが次の前提条件を満たしている必要があります。

- 監視ツールはNRPEバージョン4.1.0と互換性がある必要があります。
- NRPEと監視ツールの間の通信を許可するには、監視ツールがTLS 1.2と、暗号スイート `ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384` および `ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256` をサポートし、EC曲線は `secp384r1` である必要があります。

制約事項

- NRPE 設定は、プール全体またはプールの一部ではないスタンドアロンホストに対して構成できます。現在、プール内の個々のホストに対して NRPE 設定を構成することはできません。
- NRPE が有効化され構成済みのプールにホストを追加した場合、XenCenter® はプールの NRPE 設定を新しいホストに自動的に適用しません。新しいホストを追加した後でプールの NRPE 設定を再構成するか、新しいホストをプールに追加する前に同じ NRPE 設定で構成する必要があります。

  注：

  新しいホストを追加した後でプールの NRPE 設定を再構成する際は、ホストが稼働中であることを確認してください。

- NRPE が有効化され構成済みのプールからホストが削除されても、XenCenter はホストまたはプールの NRPE 設定を変更しません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter を使用して NRPE を構成する

NRPE は、XenCenter または xe CLI を使用して構成できます。xe CLI を使用した NRPE の構成方法の詳細については、「xe CLI を使用して NRPE を構成する」を参照してください。

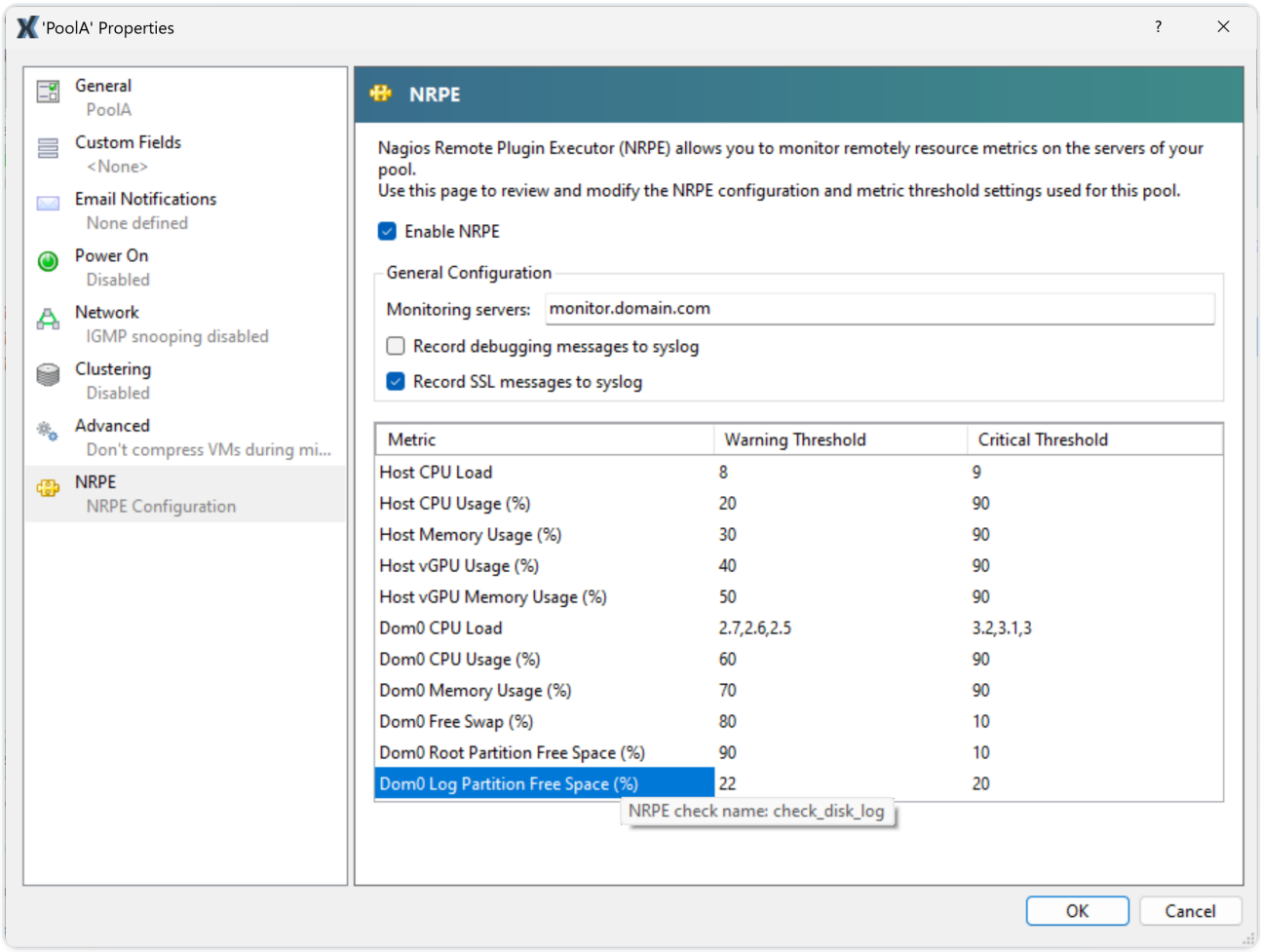
スタンドアロンホストまたはプール全体に対して NRPE を構成するには、ホスト/プールの**プロパティ**ダイアログにある**NRPE 構成**タブに移動し、次の手順に従います。

> **注：**
>
> プールに対して NRPE を構成する場合、**NRPE 構成**タブにはプール全体のデフォルトの NRPE 構成値が表示されます。

1. **インフラストラクチャ**ビューで、NRPE 設定を構成するホスト/プールを選択します。
2. **全般**タブで、**プロパティ**をクリックします。
3. **プロパティ**ダイアログで、**NRPE**タブを選択します。
4. **NRPE を有効にする**チェックボックスをオンにします。
5. NRPEデーモンと通信を許可する監視サーバーを追加するには、ホストをIPアドレスまたはホスト名のコンマ区切りリストとして指定します。それらは以下の形式で指定できます。
   - IPアドレス (IPv4のみをサポート)
   - クラスレスドメイン間ルーティング (CIDR) (形式: `xxx.xxx.xxx.xxx/n`、例: `192.168.1.0/24`)
   - ホスト名
6. デバッグログを有効にするには、**syslogにデバッグメッセージを記録**チェックボックスを選択します。
7. SSLログを有効にするには、**syslogにSSLメッセージを記録**チェックボックスを選択します。
8. (オプション) 警告およびクリティカルしきい値テーブルの値を変更して、警告およびクリティカルしきい値を調整します。

   一部のチェックプラグインでは、警告およびクリティカルしきい値を設定できます。これにより、チェックプラグインによって返される値がしきい値を超えた場合にアラートが生成されます。警告しきい値は潜在的な問題を示し、クリティカルしきい値は即座の対応が必要なより深刻な問題を示します。警告およびクリティカルしきい値にはデフォルト値が設定されていますが、しきい値を調整できます。
9. ホスト/プールへの構成変更を適用するには、**OK**をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- NRPEでホストとdom0リソースを監視する

SNMPによるホストおよびdom0リソースの監視

注:

SNMP機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerのライセンスに関する詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServerウェブサイトをご覧ください。

プール管理者ロールを使用すると、SNMPを使用して、XenServer®ホストおよびdom0（ホストの制御ドメイン）によって消費されるリソースをリモートで監視できます。ネットワーク管理システム（NMS）とも呼ばれるSNMPマネージャーは、XenServerホスト上で実行されているSNMPエー

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ジェントにクエリ要求を送信します。SNMPエージェントは、さまざまなメトリックで収集されたデータをNMSに送り返すことで、これらのクエリ要求に応答します。収集できるデータは、管理情報ベース（MIB）と呼ばれるテキストファイル内のオブジェクト識別子（OID）によって定義されます。OIDは、CPUやメモリ使用量など、ネットワークデバイスに関する測定可能な特定の情報を表します。

また、XenServerで特定のイベントが発生したことをNMSに通知する、エージェントが開始するメッセージであるトラップを設定することもできます。クエリ要求とトラップの両方を使用して、XenServerプールのステータスを監視できます。これらはメトリックオブジェクトおよびトラップオブジェクトとして定義され、XenServerダウンロードページからダウンロードできるMIBファイル `XENSERVER-MIB.txt` 内のOIDによって識別されます。次の表は、これらのメトリックオブジェクトとトラップオブジェクトに関する情報を提供します。

メトリックオブジェクト

次の表にリストされているメトリックを使用して、XenServerホストに関する特定の情報を要求できます。これらのメトリックは、SNMPマネージャーがSNMPエージェントにクエリ要求を送信するときに使用されるため、このデータをNMSで表示できます。

これらのメトリックオブジェクトから返されたデータは、NMSまたはxe CLIから表示できます。xe CLIからメトリックオブジェクトをクエリするには、`host-data-source-query` または `vm-data-source-query` を実行し、`data-source` パラメーターの値としてRRDDデータソースを指定します。例:

```
xe host-data-source-query data-source=cpu_avg host=<host UUID>
```

注:

デフォルトでは、NMSはポート161を使用してSNMPエージェントにOIDクエリ要求を送信します。

オブジェクト識別子（OID）	RRDDデータソース	返されるデータ	タイプ
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.1	`memory`	Dom0 の合計メモリ (MB)	符号なし32ビット整数
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.2	`memory_internal_free`	Dom0 の空きメモリ (MB)	符号なし32ビット整数

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オブジェクト識別子（OID）	RRDDデータソース	返されるデータ	タイプ
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.3	`cpu_usage`	Dom0 の CPU 使用率 (%)	浮動小数点数
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.4	`memory_total_kib`	ホストの合計メモリ (MB)	符号なし32ビット整数
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.5	`memory_free_kib`	ホストの空きメモリ (MB)	符号なし32ビット整数
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.6	`cpu_avg`	ホストのCPU使用率 (パーセンテージ)	浮動小数点数
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.7	(注1を参照)	pCPU数	符号なし32ビット整数
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.8	`running_vcpus`	実行中のvCPU数	符号なし32ビット整数
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.1.9	`running_domains`	実行中のVM数	符号なし32ビット整数

注記:

1. pCPUの名前は`cpu`の形式で、その後に数字が続きます。xe CLIからpCPUの数を照会するには、次のコマンドを実行します。

   ```
   xe host-data-source-list host=<host UUID> | grep -E 'cpu[0-9]+$'
   ```

   これにより、正規表現`cpu[0-9]+`に一致するCPUメトリックのリストが返されます。

トラップ

トラップは、特定のイベントが発生したときにSNMPマネージャーに通知するためにSNMPエージェントによって送信されるアラートであり、XenServerホストを監視し、問題を早期に特定するのに役立ちます。制限に達したとき（たとえば、ホストのCPU使用率が高すぎる場合）にトラップを生成するようにSNMP設定を構成できます。トラップが生成されると、NMSに送信され、トラップオブジェクトの一部として次のフィールドが返されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

デフォルトでは、プールコーディネーターホスト上のSNMPエージェントは、UDPポート162を使用してNMSにトラップを送信します。

オブジェクト識別子 (OID)	フィールド名	タイプ	説明
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.0.1.1	`operation`	文字列	次のいずれかの値になります: `add` または `del`。XenServer によってトラップが生成され、NMS に送信された場合 (XenCenter でもアラートが作成されます) は `operation` が `add` になり、アラートが破棄された場合 (たとえば、アラートを無視した場合) は `del` になります。
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.0.1.2	`ref`	文字列	トラップオブジェクトの参照。
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.0.1.3	`uuid`	文字列	トラップオブジェクトのUUID。
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.0.1.4	`name`	文字列	トラップオブジェクトの名前。
1.3.6.1.4.1.60953.1.1.0.1.5	`priority`	整数	トラップの重大度。以下のいずれかの値になります: `1`: 致命的, `2`: 重大, `3`: 警告, `4`: 軽微, `5`: 情報, `others`: 不明。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

オブジェクト識別子 (OID)	フィールド名	タイプ	説明
1.3.6.1.4.1.60953.1.10.1.6	`class`	文字列	生成されたトラップのカテゴリ。以下のいずれかの値になります: `VM`, `Host`, `SR`, `Pool`, `VMPP`, `VMSS`, `PVS_proxy`, `VDI`, または `Certificate`。
1.3.6.1.4.1.60953.1.10.1.7	`obj-uuid`	文字列	フィールド `class` のさまざまなクラスの xapi オブジェクト UUID。
1.3.6.1.4.1.60953.1.10.1.8	`timestamp`	文字列	トラップが生成された時刻。
1.3.6.1.4.1.60953.1.10.1.9	`body`	文字列	フィールド `name` に関する詳細情報。

前提条件

- プール内のすべてのホストは、同じXenServerバージョンを実行している必要があり、このバージョンにはSNMPプラグインが含まれている必要があります。

  注:

  XenCenter®で**SNMP**タブが表示されない場合、それは、ホストまたはプールメンバーがSNMPをサポートするXenServerバージョンを実行していないためである可能性があります。ホストまたはプールを最新バージョンのXenServerに更新してください。

- 使用しているNMSは、SNMPv2cまたはSNMPv3をサポートしている必要があります。
- NMSとXenServerはネットワーク接続されている必要があります。

制約事項

- プール全体またはプールの一部ではないスタンドアロンホストのSNMP設定を構成できます。現在、プール内の個々のホストのSNMP設定を構成することはできません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- SNMPがすでに有効化され構成されているプールにホストを追加した場合、XenCenterはプールのSNMP設定を新しいホストに自動的に適用しません。新しいホストを追加した後でプール上のSNMP設定を再構成するか、新しいホストをプールに追加する前に同じSNMP設定で構成する必要があります。

  注:

  新しいホストを追加した後でプール上のSNMP設定を再構成する際は、ホストが稼働中でメンテナンスモードではないことを確認してください。

- SNMPが有効化され構成されているプールからホストが削除された場合、XenCenterはホストまたはプールのSNMP設定を変更しません。
- ローリングプールアップグレードを実行する前、またはXenServerホストとプールに更新を適用する前に、以前に手動で変更していてそれらが必要な場合は、以下の構成ファイルをバックアップしてください。
  - `/etc/snmp/snmpd.xs.conf`
  - `/etc/sysconfig/snmp`
  - `/var/lib/net-snmp/snmpd.conf`
- SNMPエージェントがオフラインの場合、トラップは生成できません。例えば、SNMPエージェントが再起動された場合や、プールコーディネーターが再起動または再指定された場合などです。

XenCenterを使用してSNMPを構成する

XenCenterまたはxe CLIを使用して、スタンドアロンホストまたはプール全体に対してSNMPを構成できます。xe CLIを使用してSNMPを構成する方法の詳細については、xe CLIを使用してSNMPを構成するを参照してください。

1. XenServerダウンロードページから`XENSERVER-MIB.txt`ファイルをダウンロードし、お好みのNMSにインポートします。
2. XenCenterの**インフラストラクチャ**ビューで、SNMP設定を構成したいホスト/プールを選択します。
3. **全般**タブで、**プロパティ**をクリックします。
4. 「**プロパティ**」ダイアログで、「**SNMP**」タブを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

> **注:**
>
> プールに対してSNMPを設定する場合、「**SNMP**」タブにはプール全体のデフォルトのSNMP構成値が表示されます。XenCenterで「**SNMP**」タブが表示されない場合、ホストまたはプールメンバーがSNMPをサポートするバージョンのXenServerを実行していない可能性があります。ホストまたはプールを最新バージョンのXenServerに更新してください。

5. SNMPを有効にするには、「**SNMPを有効にする**」チェックボックスをオンにします。
6. (オプション) SNMPv2cに加えてXenServerでSNMPv3を使用できるようにするには、「**SNMPv3をサポートする**」チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、XenServerはSNMPv2cを使用します。
7. (オプション) デバッグログを有効にするには、「**デバッグメッセージをsyslogに記録する**」チェックボックスをオンにします。
8. 「**OK**」をクリックして、ホストまたはプールに構成変更を適用します。
9. NMSのドキュメントを参照してNMSを構成します。XenServer SNMPエージェントアドレス(監視対象のXenServerホストまたはプールのIPアドレス) を必ず指定してください。
10. (オプション) トラップレシーバーを構成し、XenServerで特定のイベントが発生したときにアラートの受信を開始するには、次の手順を実行します。
    - NMSのドキュメントを参照して、NMSでトラップレシーバーを構成します。
    - 「**SNMP**」タブで、「**トラップレシーバーの追加**」をクリックし、「**NMSアドレス**」、「**NMSポート**」、およびサポートされているNMSのSNMPバージョンのパラメーターを指定します。
    - 構成をテストするには、「**テストトラップの送信**」をクリックしてNMSにテストトラップを送信します。
    - トラップレシーバーを削除するには、「**トラップレシーバーの削除**」をクリックします。
    - 「**OK**」をクリックして、構成変更を適用します。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- SNMP を使用してホストと dom0 のリソースを監視する

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

パフォーマンスアラートの構成

サーバー、VM、またはストレージリポジトリ (SR) 上で、CPU、メモリ使用量、ネットワーク、ストレージスループット、またはVMディスクアクティビティが指定されたしきい値を超えたときに、パフォーマンスアラートを生成できます。デフォルトでは、アラートの繰り返し間隔は60分に設定されており、必要に応じて変更できます。

パフォーマンスアラートは、**アラート**ビュー (左側のペインにある**通知**ボタンをクリックしてアクセスします) に表示されます。パフォーマンスアラートをメールで送信するように設定できます。また、SNMPマネージャー (ネットワーク管理システム (NMS) とも呼ばれます) にSNMPトラップを送信するように有効にすることもできます。詳細については、「XenCenterアラート」(/ja-jp/xencenter/current-release/systemalerts.html)を参照してください。

サーバー、VM、またはSRのパフォーマンスアラートを構成できます。パフォーマンスアラートを構成するには:

1. **リソース**ペインでサーバー、VM、またはSRを選択します。**全般**タブを選択し、**プロパティ**をクリックします。
2. **アラート**タブを選択します。次の表は、サーバー、VM、またはSRで利用可能なアラートをまとめたものです。

アラート名	サーバー	VM	SR	説明
CPU使用率アラートを生成	X	X		アラートをトリガーするCPU使用率と時間しきい値を設定します。
コントロールドメインのCPU使用率アラートを生成する	X			アラートをトリガーするコントロールドメインのCPU使用率と時間しきい値を設定します。
メモリ使用率アラートを生成する	X			アラートをトリガーするメモリ使用率と時間しきい値

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アラート名	サーバー	VM	SR	説明
				を設定します。
コントロールドメインのメモリ使用率アラートを生成する	X			アラートをトリガーするコントロールドメインのメモリ使用率と時間しきい値を設定します。
コントロールドメインの空きメモリアラートを生成する	X			アラートをトリガーするコントロールドメインの空きメモリと時間しきい値を設定します。
ディスク使用率アラートを生成する		X		アラートをトリガーするディスク使用率と時間しきい値を設定します。
ストレージスループットアラートを生成する			X	アラートをトリガーするストレージスループットと時間しきい値を設定します。注: 物理ブロックデバイス (PBD) は、特定のXenServerサーバーと接続されたSR間のインターフェースを表しま

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アラート名	サーバー	VM	SR	説明
				す。PBD上の合計読み取り/書き込みSRスループットアクティビティが指定したしきい値を超えると、PBDに接続されたサーバーでアラートが生成されます。他のXenServerサーバーアラートとは異なり、このアラートはSR上で構成する必要があります。
ネットワーク使用量アラートを生成する	X	X		アラートをトリガーするネットワーク使用量と時間しきい値を設定します。

アラートの繰り返し間隔を変更するには、「**アラートの繰り返し間隔**」ボックスに分数で入力します。アラートしきい値に達してアラートが生成された後、アラートの繰り返し間隔が経過するまで、別のアラートは生成されません。

3. 「**OK**」をクリックして変更を保存します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

更新とアップグレード

XenCenter は、定期的に新しい XenCenter の更新を(/ja-jp/xencenter/current-release/updates-autoconfig.html)、新しい製品バージョンが利用可能になったときに通知できます。公開されているすべての更新をインストールすることをお勧めします。

XenCenter® のバージョンを更新する

最新バージョンの XenCenter は、XenServer 製品ダウンロードページで提供されています。このファイルを使用して、XenCenter のインストールを更新してください。詳細については、XenCenter の更新を参照してください。

ホストをアップグレードする

ホストをアップグレードするには、**ローリングプールアップグレード**ウィザードを使用します。このウィザードを使用すると、実行中の VM のサービス中断を最小限に抑えながら、プール内の複数のサーバーをアップグレードできます。アップグレードが各サーバーに順番に適用されると、VM は自動的に他の利用可能なサーバーに移行されます。このウィザードは、スタンドアロンサーバーのアップグレードにも使用できます。詳細については、(/ja-jp/xencenter/current-release/upgrade.html)を参照してください。

XenServer® ホストを更新する

XenServer は、これまで以上に迅速に更新を提供できるように設計された、より高速で効率的なリリースプロセスを導入しています。新機能、バグ修正、およびパフォーマンスの改善は、XenServer ホストおよびプールで利用可能な更新として、コンテンツデリバリーネットワーク (CDN) に頻繁にプッシュされます。各更新セットは累積的であり、以前のすべての更新とともに最新の機能と修正が含まれているため、最小限の労力で環境を最適化された状態に保つことができます。

更新は、以下の方法で XenServer ホストおよびプールに適用できます。

- **CDN からの更新**: CDN から更新を自動的にダウンロードして適用するには、インターネットアクセスが必要です。
- **オフライン更新**: エアギャップ環境向けに設計されており、インターネットアクセスなしで更新を手動でダウンロードして適用できます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **既存のプールからの更新**: この方法を使用すると、スタンドアロンホストまたはプールを、より高いレベルの更新が適用されている別のプールと同じレベルの更新にすることができます。最新レベルの更新が適用されていないプールに新しくインストールされたホストを参加させる場合に推奨されます。

高度な自動化のために、XenServer PowerShell モジュールを使用して、更新バンドルのアップロードと適用をスクリプト化することもできます。詳細については、(/ja-jp/xenserver/developer/sdk-guide/ps-apply-updates.html)を参照してください。

XenServer ホストおよびプールの更新を構成および適用するには、(/ja-jp/xencenter/current-release/updates-applying-xs.html)を参照してください。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- XenServer ホストを更新する
- Citrix Hypervisor 8.2 累積更新プログラム 1 からアップグレードする

ホストをアップグレードする

ローリングプールアップグレードウィザードを使用して、XenServer®のスタンドアロンサーバーまたはサーバープールを新しいバージョンにアップグレードできます。

ローリングプールアップグレードウィザードは、アップグレード手順を案内し、アップグレードパスを自動的に整理します。ローリングプールアップグレードウィザードを使用すると、複数のサーバーとプールを同時にアップグレードできます。プール内の各サーバーは、プールコーディネーターから開始して、順番にアップグレードされます。アップグレードを開始する前に、ウィザードは事前チェックを実行し、高可用性やWLBなどの特定のプール全体の機能が一時的に無効になっていることを確認します。ウィザードはまた、プール内の各ホストがアップグレードの準備ができていることも確認します。一度にオフラインになるサーバーは1台のみで、実行中のVMは、アップグレードがそのサーバーにインストールされる前に、各サーバーから自動的に移行されます。

注:

ローリングプールアップグレードは、ライセンスを持つXenServerのお客様にご利用いただけます。詳細については、「XenServerライセンスについて」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ウィザードは、手動モードまたは自動モードで動作できます。

- 手動モードでは、各サーバーでXenServerインストーラーを順番に手動で実行し、サーバーのシリアルコンソールに表示される画面の指示に従う必要があります。アップグレードが開始されると、XenCenter®は、アップグレードする各サーバーにXenServerインストールメディアを挿入するか、PXEブートサーバーを指定するように求めます。
- 自動モードでは、ウィザードはHTTP、NFS、またはFTPサーバー上のネットワークインストールファイルを使用して、各サーバーを順番にアップグレードします。このモードでは、インストールメディアの挿入、手動での再起動、または各サーバーでのインストーラーの実行は不要です。

  この方法でローリングプールアップグレードを実行する場合は、アップグレードを開始する前に、XenServerインストールメディアをHTTP、NFS、またはFTPサーバーに展開してください。これは、ISOをマウントし、その内容をネットワークの場所にコピーすることで実行できます。詳細については、「NFS、FTP、またはHTTPでインストールメディアをホストする」を参照してください。

重要: アップグレードする前に

サーバープールのアップグレードには、慎重な計画が必要です。アップグレードを計画する際には、以下の点に注意することが重要です。

- XenCenterクライアントが最新であることを確認してください。
- Citrix Virtual Apps and DesktopsワークロードをホストするためにXenServerを使用している場合、XenServerのアップグレードプロセスを最適化するために考慮すべき特定の動作と要件があるかもしれません。詳細については、「Citrix Virtual Apps and Desktopsのアップグレードシナリオ」を参照してください。
- XenServerは現在、Citrix for Private Cloud、Citrix Universal Hybrid Multi-Cloud、Citrix Universal MSP、およびCitrix Platform Licenseサブスクリプションのエンタイトルメントです。詳細はこちら。ライセンスの取得については、XenServer Webサイトを参照してください。
- VMは、古いバージョンのXenServerを実行しているサーバーから、同じバージョンまたはそれ以降のバージョンを実行しているサーバーにのみ移行できます。アップグレードされたサーバーから、古いバージョンのXenServerを実行しているサーバーにVMを移行することはできません。それに応じて、サーバーのスペースを確保してください。
- 混合モードプール（複数のバージョンのXenServerが共存するプール）を必要以上に長く実行することはお勧めしません。この場合、アップグレード中はプールが劣化状態（デグレード状態）で動作します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- プール内のすべてのホストが正しい日時（NTPの使用など）に同期されていることを確認してください。
- アップグレードプロセス中に、主要な制御操作を実行しようとしないでください。VMは通常どおり機能し続けますが、移行以外のVMアクション（シャットダウン、コピー、エクスポートなど）は利用できない場合があります。特に、仮想ディスクの追加、削除、サイズ変更などのストレージ関連の操作を実行することは安全ではありません。
- ウィザードはまずプールコーディネーターをアップグレードします。この操作により新しいプールコーディネーターが指定されるため、アップグレードを実行する前にXenCenterを使用してプールコーディネーターをメンテナンスモードにしないでください。
- `pool-dump-database` xe CLIコマンドを使用して、既存のプールの状態をバックアップしてください。詳細については、コマンドラインインターフェイスを参照してください。バックアップを使用すると、部分的に完了したローリングアップグレードをVMデータを失うことなく元の状態に戻すことができます。アップグレードされたサーバーから古いバージョンのサーバーにVMを移行することはできないため、何らかの理由でローリングアップグレードを元に戻すにはVMをシャットダウンする必要がある場合があります。
- サーバーが過剰にプロビジョニングされていないこと、つまり、アップグレードを実行するのに十分なメモリがあることを確認してください。アップグレードプロセス中に重要でないVMはすべて一時停止することをお勧めします。
- **ローリングプールアップグレード**ウィザードは以下の操作が実行されたことを確認しますが、アップグレードを開始する前にこれらの操作を実行することもできます。
  - プール内のVMのCD/DVDドライブを空にしてください。詳細と手順については、アップグレードを参照してください。
  - 高可用性を無効にする。
  - WLBを無効にする

ローリングプールアップグレードウィザードを使用してXenServerをアップグレードするには

1. ローリングプールアップグレードウィザードを開きます。「**ツール**」メニューで「**ローリングプールアップグレード**」を選択します。
2. 「開始する前に」の情報を読み、**次へ**を選択して続行します。
3. アップグレードするプールまたはスタンドアロンサーバーを選択し、**次へ**を選択します。
4. **アップグレードモード**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- HTTP、NFS、またはFTPサーバー上のネットワークインストールファイルから自動アップグレードを行うには、**自動モード**を選択できます。アップグレードを開始する前に、XenServerインストールメディアをHTTP、NFS、またはFTPサーバーに展開してください。詳細については、NFS、FTP、またはHTTPでインストールメディアをホストするを参照してください。

  自動モードを選択した場合は、次のステップに進む前に、ネットワークインストールファイルの場所、ユーザー名、パスワードを指定してください。

- ISOまたはPXEブートを使用するサーバーから手動アップグレードを行うには、**手動モード**を選択できます。PXEブートの使用に関する詳細については、TFTPおよびDHCPサーバーを構成するを参照してください。

  手動モードを選択した場合は、各サーバーでXenServerインストーラーを順番に実行し、サーバーのシリアルコンソールに表示される画面の指示に従ってください。アップグレードが開始されると、XenCenterは、アップグレードする各サーバーに対してXenServerインストールメディアを挿入するか、PXEブートサーバーを指定するように求めます。

5. **アップグレードオプション**ページで、サーバーを新しいバージョンにアップグレードした後、XenCenterが最小限の更新セットを自動的にダウンロードしてインストールするかどうかを選択します。更新の適用オプションはデフォルトで選択されています。ただし、更新をダウンロードしてインストールするにはインターネット接続が必要です。

   さらに、サーバーのアップグレード後にXenCenterが以前にダウンロードした更新または補足パックをインストールできるようにするには、**ディスクから更新または補足パックをインストール**を選択します。ファイルを選択するには、**参照**を選択します。アップグレードされたバージョンのXenServerと互換性のないファイルを選択すると、インストールが失敗する可能性があります。

6. アップグレードオプションを選択したら、**事前チェックを実行**を選択します。

   > **注:**
   >
   > 新しい事前チェックでは、複数のバリアントを持つドライバーが搭載されているホストを識別します。複数のバリアントが見つかった場合、XenCenterはそのホストに対して警告を表示します。

   バリアントを選択を選択すると、現在のハードウェアに適用可能なホストのドライバーバリアントを一覧表示するダイアログが開きます。ドロップダウンリストから別のオプションを選択することで、バリアントを変更できます。新しいバリアントは、ローリングプールアップグレードが完了し、ホストが再起動した後にアクティブになります。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

7. 画面の指示に従って、失敗したアップグレードの事前チェックを解決してください。XenCenterが失敗したすべての事前チェックを自動的に解決できるようにするには、**すべて解決**を選択します。
8. 事前チェックが解決されたら、**アップグレードを開始**を選択してアップグレードを開始します。

アップグレードが開始されると、ウィザードは各サーバーをアップグレードするために必要な操作を案内します。プール内のすべてのサーバーをアップグレードおよび更新するまで、指示に従ってください。

> **注:**
>
> 何らかの理由でアップグレードプロセスが失敗した場合、ローリングプールアップグレードウィザードはプロセスを停止します。この停止により、問題を修正し、**再試行**ボタンをクリックしてアップグレードプロセスを再開できます。

アップグレードが完了すると、ローリングプールアップグレードウィザードは概要を表示します。「**完了**」を選択してウィザードを閉じます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- Citrix Hypervisor 8.2 Cumulative Update 1からのアップグレード(/ja-jp/xenserver/9/install/upgrade.html)

XenServer® ホストを更新する

XenServer では、新機能やバグ修正が、XenServer ホストおよびプールで利用可能な更新としてコンテンツデリバリーネットワーク (CDN) に頻繁にプッシュされます。これにより、以前よりも速いペースで新しいコンテンツが提供される、より効率的なリリースプロセスから恩恵を受けることができます。

常に最新の更新を適用できるように、選択の余地はありません。プールに更新を適用すると、最新の完全にテストされた状態に更新されます。プールを更新チャネルと自動的に同期するように構成します。このアクションにより、利用可能なすべての更新がプールコーディネーターにダウンロードされます。その後、XenCenter を使用して、ダウンロードされたすべての更新を適用できます。サポートを継続するには、リリースから 6 か月以内にすべての未処理の更新を適用することを推奨します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

更新の適用は、プールの以前の状態が 6 か月未満の場合にのみ動作が保証されます。6 か月以上更新を適用していない場合、最新の更新レベルへの更新はテストされておらず、保証されません。

XenServer プールを更新するには、次の手順を完了します。

1. XenCenter の最新バージョンをインストールする。
2. XenServer 9 をインストールまたはアップグレードする。
3. プールの更新を構成する。

   プールまたはスタンドアロンホストの更新は、次の場所から構成できます。

   - コンテンツデリバリーネットワーク (CDN) 上の更新チャネル。この方法は、インターネットに接続されたプールに推奨されます。
   - ダウンロードされたバンドルからのオフライン更新。この代替方法は、XenServer ホストへのインターネット接続が利用できない、または制限されている場合に使用することを目的としています。
   - 既存のプール。この方法を使用すると、スタンドアロンホストまたはプールを、より高いレベルの更新が適用されている別のプールと同じレベルの更新にすることができます。これは、新しくインストールされたホストを、最新レベルの更新が適用されていないプールに参加させる場合に推奨されます。
4. プールの利用可能な更新を表示する。
5. ガイダンスカテゴリと更新タスクを理解する。
6. プールに更新を適用する(#apply-updates-to-your-pool)。
7. 保留中の更新タスクを完了する(#complete-any-pending-update-tasks)。

プールの更新を構成する

CDNからの更新

前提条件

- XenServer® ホストがインターネットにアクセスでき、必要な更新ドメインに接続できることを確認してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- ホストがファイアウォールの内側にある場合は、`ops.xenserver.com`のサブドメインへのアクセスを許可してください。詳細については、接続要件を参照してください。

注:

更新の適用は、プールの以前の状態が6か月未満の場合にのみ動作が保証されます。6か月以上更新を適用していない場合、最新の更新レベルへの更新はテストされておらず、保証されません。

CDNから更新を適用するようにホストを構成するには、次の手順に従います。

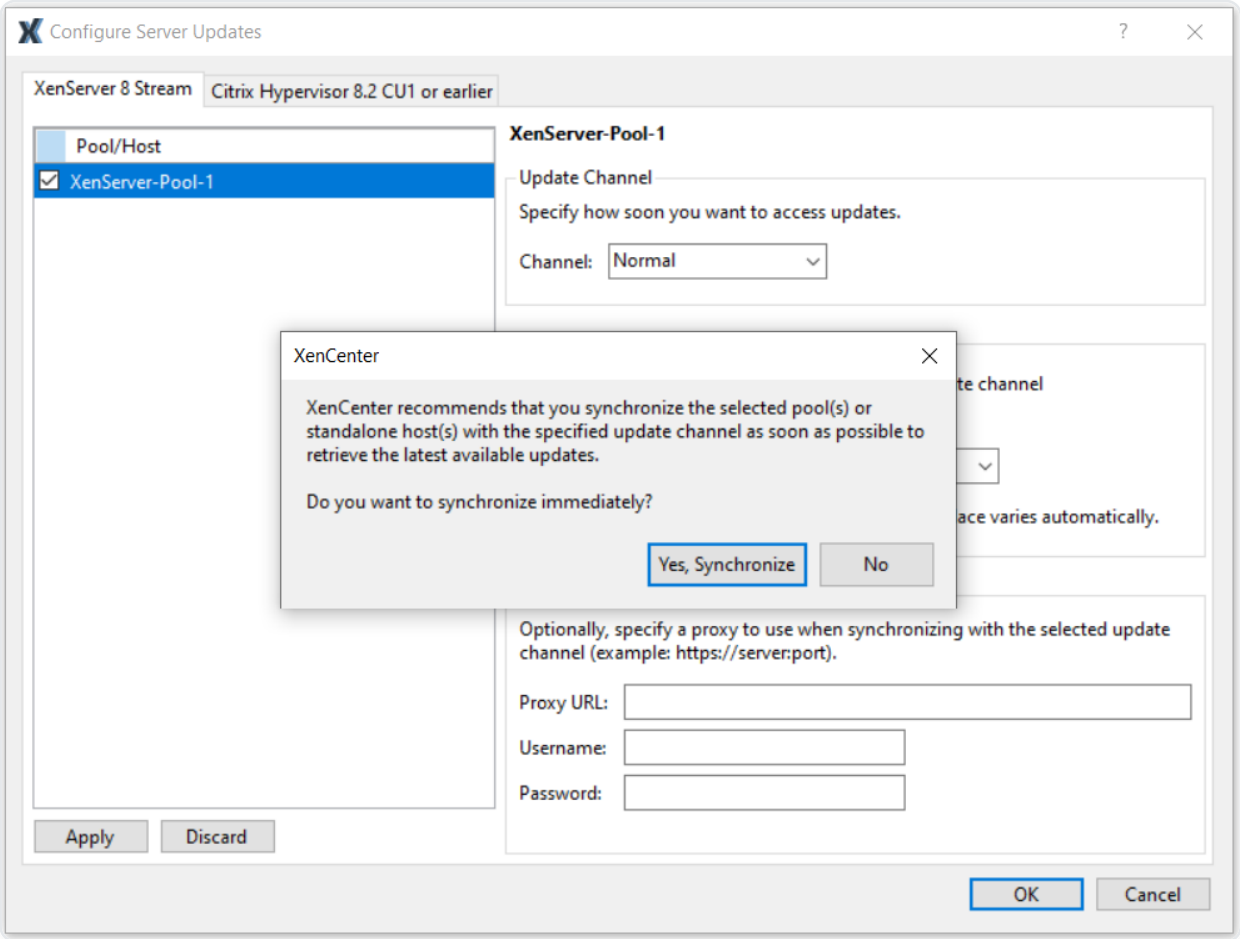
1. XenCenter®で、**ツール**メニューから**更新の構成**を選択します。または、プールの**一般**タブの下にある**更新**セクションに移動して**更新の構成**を選択するか、プールを右クリックして**更新** > **更新の構成**を選択します。**サーバー更新の構成**ウィンドウが開きます。
2. **XenServer 8.4**タブで、構成するプールまたはホストを選択します。
3. **更新チャネル**で、更新にアクセスするタイミングを指定します。プールまたはホストは、次のいずれかの更新チャネルにサブスクライブできます。
   - **早期アクセス**
   - **通常**
4. 「**Synchronization Schedule**」で、XenServer プールを更新チャネルと同期する頻度を選択します。これは、毎日、または特定の曜日に毎週に設定できます。

   注：

   - 同期後、最新の更新プログラムを利用するために、できるだけ早くプールに更新プログラムを適用してください。
   - 同期後、プール内のホストに更新プログラムを適用する前に新しいプールコーディネーターを指定した場合、プールを更新する前に新しいプールコーディネーターと再度同期する必要があります。
   - プールが更新処理中の間は、XenServer プールを同期しないでください。
5. (オプション) 「**Proxy Server**」で、更新チャネルと同期する際に使用するプロキシを指定します。このプロキシサーバーは、ホストとパブリック CDN 間の通信に使用されます。
6. 「**Apply**」をクリックして構成の変更を XenServer プールに適用し、上記の手順を繰り返して残りの XenServer プールの更新を構成します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

7. プールの構成変更に問題がなければ、「**OK**」をクリックして変更を保存し、「**Configure Server Updates**」ウィンドウを閉じます。ホストまたはプールを更新チャネルで初めて設定するとき (または後でホストまたはプールを別の更新チャネルと同期するように変更する場合)、ホストまたはプールを更新チャネルとすぐに同期するように求められます。開いたダイアログボックスで、ホストまたはプールを更新チャネルとすぐに同期する場合は、「**Yes, Synchronize**」を選択します。



または、ホストまたはプールを後日更新チャネルと同期することもできます。ホストまたはプールを後で同期するには、プールの「**General**」タブの下にある「**Updates**」セクションに移動し、「**Synchronize Now**」を選択するか、プールを右クリックして「**Updates**」> 「**Synchronize with update channel**」を選択します。

8. プールが更新チャネルと同期したらすぐに、「**Install Updates**」ウィザードを使用して、ダウンロードした更新プログラムをプールに適用します。詳細については、「Apply updates to your pool」を参照してください。

XenServer プールまたはホストを構成した後、XenCenter のプールまたはホストの「**General**」タブの下にある「**Updates**」セクションで、次の情報を見つけることができます。

- サブスクライブしている更新チャネル
- プールが更新チャネルと最後に同期した時刻

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- その同期のチェックサム
- 適用した最後の更新のチェックサム

オフライン更新

前提条件

- ホストには、October 7, 2024 以降に公開されたISOがインストールされている必要があります。
- 更新バンドルを適用するには、XenCenterバージョン2024.4.0以降を使用する必要があります。

オフライン更新を構成するには、次の手順に従います。

1. 専用のインターネット接続マシンを使用して、次のページから最新の更新バンドルをダウンロードします: XenServer更新バンドルのダウンロード。
2. 更新バンドルをXenCenterからアクセス可能な場所に転送します。
3. XenCenterで、**ツール**メニューから**更新の構成**を選択します。または、プールの**一般**タブの下にある**更新**セクションに移動し、**更新の構成**を選択するか、プールを右クリックして**更新** > **更新の構成**を選択します。**サーバー更新の構成**ウィンドウが開きます。
4. **XenServer 8.4**タブで、構成するプールまたはホストを選択します。
5. **更新チャネル**で、**オフライン**を選択して、ホストまたはプールが**オフライン**更新チャネルを使用するように構成します。**OK**をクリックします。
6. 更新バンドルをすぐにプールにアップロードするよう求められます。

   更新バンドルをすぐにアップロードするには、**はい**をクリックし、開いたウィンドウで、コンピューター上のダウンロードした更新バンドル`.xsbundle`ファイルの場所に移動して選択します。**次へ**をクリックします。

   または、後日更新バンドルをアップロードすることもできます。更新バンドルを後でアップロードするには、プールの**一般**タブの下にある**更新**セクションに移動し、**バンドルのアップロード**を選択するか、プールを右クリックして**更新** > **バンドルのアップロード**を選択します。**更新バンドルファイルの選択**ウィンドウが開き、`.xsbundle`ファイルを選択できます。**更新のインストール**ウィザードを使用して更新バンドルをアップロードすることもできます。詳細については、「プールに更新を適用する」を参照してください。
7. プールの利用可能な更新を確認し、更新を適用する前後に必要な更新タスクがあるかどうかを確認します。詳細については、「プールの利用可能な更新を表示する」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

8. 「**更新のインストール**」ウィザードを使用して、プールに更新を適用します。詳細については、「プールへの更新の適用」を参照してください。

XenServerプールまたはホストを構成した後、XenCenterのプールまたはホストの**全般**タブにある**更新**セクションで、次の情報を見つけることができます。

- XenServerプールまたはホストが使用するように構成されている更新チャネル
- 更新バンドルを最後にアップロードした日時
- その更新バンドルのチェックサム
- 最後に適用した更新のチェックサム

リモートプールからの更新

この方法を使用すると、プールまたはスタンドアロンホストを、別のプール（「リモートプール」と呼びます）と同じレベルの更新に更新できます。リモートプール更新は、ホストまたはプールをリモートプールと同期させ、リモートプールコーディネーターに保持されている更新ファイルから更新します。このプロセスを使用して、既存のプールに新しいホストをより簡単に参加させ、そのプールの更新レベルと一致させることができます。

リモートプールがプールまたはスタンドアロンホストによって更新チャネルとして使用されるには、次の前提条件を満たす必要があります。

- リモートプールは、スタンドアロンホストよりも新しいレベルの更新である必要があります。
- リモートプールには、最新の同期された更新が適用されている必要があります。
- リモートプールが最後に更新されてから、プールコーディネーターが変更されていないこと。

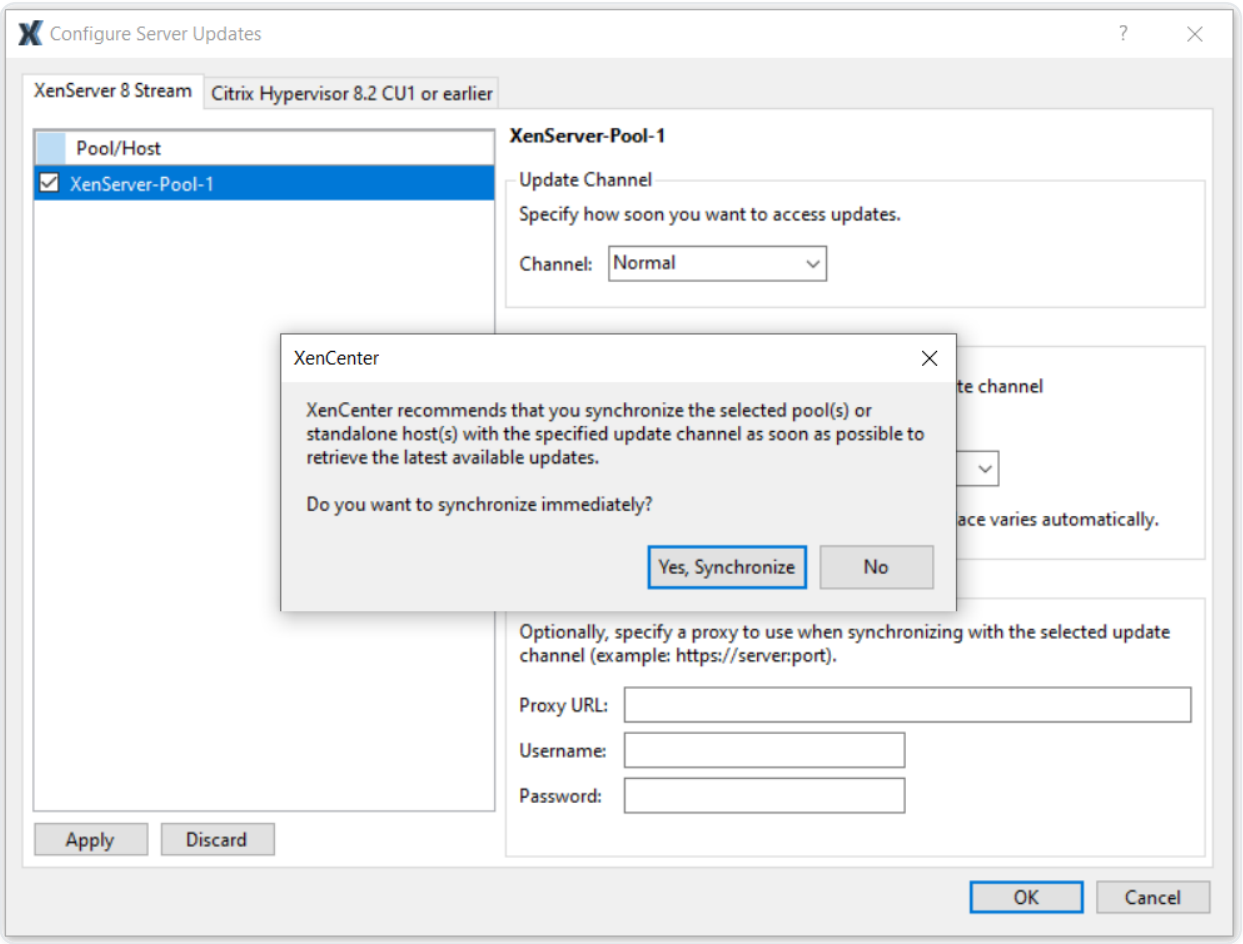
リモートプールを更新チャネルとして構成する

ホストまたはプールが別のプールを更新チャネルとして使用するように構成するには、次の手順に従います。

1. XenCenterで、**ツール**メニューから**更新の構成**を選択します。または、プールの**全般**タブにある**更新**セクションに移動して**更新の構成**を選択するか、プールを右クリックして**更新** > **更新の構成**を選択します。**サーバー更新の構成**ウィンドウが開きます。
2. 「**XenServer 8.4**」タブで、構成するプールまたはホストを選択します。
3. 「**Update Channel**」の下で、「**Channels on other pools or standalone servers**」セクションから同期したいリモートプールを選択します。「**OK**」をクリックします。
4. 「**Apply**」をクリックして、構成の変更をXenServerプールに適用し、残りのXenServerプールの更新を構成するために上記の手順を繰り返します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

5. プールへの構成変更に問題がなければ、「**OK**」をクリックして変更を保存し、「**Configure Server Updates**」ウィンドウを閉じます。ホストまたはプールを更新チャネルで初めて設定するとき（または後でホストまたはプールを別の更新チャネルと同期するように変更する場合）、ホストまたはプールを更新チャネルとすぐに同期するように求められます。
6. 開いたダイアログボックスで、ホストまたはプールを更新チャネルとすぐに同期したい場合は、「**Yes, Synchronize**」を選択します。



または、ホストまたはプールを後日更新チャネルと同期することもできます。ホストまたはプールを後で同期するには、プールの「**General**」タブの下にある「**Updates**」セクションに移動し、「**Synchronize Now**」を選択するか、プールを右クリックして「**Updates**」>「**Synchronize with update channel**」を選択します。

7. プールが更新チャネルと同期したらすぐに、「**Install Updates**」ウィザードを使用してダウンロードされた更新をプールに適用します。詳細については、「プールに更新を適用する」を参照してください。

XenServerプールまたはホストを構成した後、XenCenterのプールまたはホストの「**General**」タブの下にある「**Updates**」セクションで、次の情報を見つけることができます。

- 購読している更新チャネル
- プールが更新チャネルと最後に同期した日時

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- その同期のチェックサム
- 最後に適用した更新のチェックサム

プールで利用可能な更新を表示する

XenCenterは、「**Notifications**」ビューの「**Updates**」タブの下で、ホストとプールで利用可能な更新に関する通知を発行します。「**Updates**」タブは、XenServer 8.4の更新とCitrix Hypervisorの更新に分かれています。



XenServer 8.4の**更新**タブは、以下のシナリオで更新されます。

- **早期アクセス**または**通常**の更新チャネルを購読しているホストおよびプールの場合、タブは設定した同期スケジュール（毎日または特定の曜日に毎週）に基づいて更新されます。

  または、**早期アクセス**または**通常**の更新チャネルと手動で同期することで、ホストおよびプールで利用可能な最新の更新を取得できます。
- オフライン更新用に構成されているホストおよびプールの場合、タブは更新バンドルをホストまたはプールにアップロードするたびに更新されます。

  または、最新の更新バンドルをホストまたはプールにアップロードすることで、ホストおよびプールで利用可能な最新の更新を取得できます。

CDNから更新を適用するように構成されたプールで利用可能な最新の更新を表示するには、XenServerプールを更新チャネルと同期します。これはXenCenter®で以下の場所から実行できます。

- **更新**タブの**サーバー別**ビューで、**すべて同期**を選択してXenCenterで管理されているすべてのプールを同期するか、**選択を同期**を選択して選択したプールを同期できます。
- または、プールの**一般**タブの下にある**更新**セクションに移動し、**今すぐ同期**を選択するか、プールを右クリックして**更新** > **更新チャネルと同期**を選択します。

オフライン更新用に構成されたプールで利用可能な最新の更新を表示するには、最新の更新バンドルをプールにアップロードします。これはXenCenterで以下の場所から実行できます。

- **更新**タブの**サーバー別**ビューで、**すべてにバンドルをアップロード**を選択して、**オフライン**チャネルを使用するXenCenterで管理されているすべてのプールにバンドルをアップロードするか、**選択にバンドルをアップロード**を選択して、選択したプールにバンドルをアップロードできます。
- または、プールの**一般**タブの下にある**更新**セクションに移動し、**バンドルのアップロード**を選択するか、プールを右クリックして**更新** > **バンドルのアップロード**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

その後、XenServer 8.4プールで利用可能なすべての更新を確認できます。更新の種類は次のとおりです。

- **セキュリティ修正**
- **バグ修正**
- **機能強化**
- **新機能**
- **プレビュー機能**
- **基盤の変更**

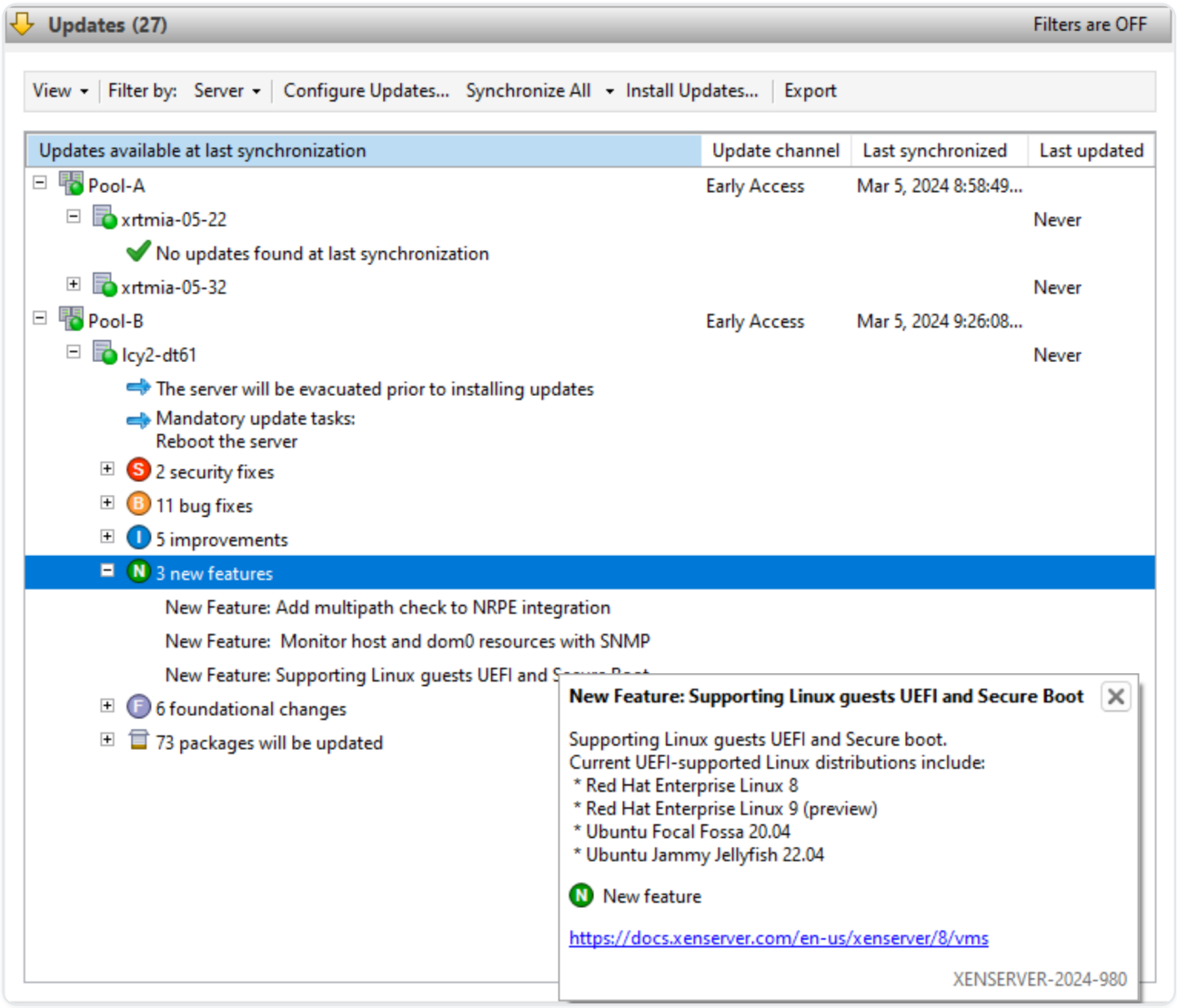
> **注記:**
>
> 基盤の変更とは、製品の維持および改善のための、顧客には見えない基盤となる変更のことです。

メインパネルで、**表示**オプションを使用して、更新プログラムの表示方法を**サーバー別**または**更新プログラム別**のどちらにするか選択します。

サーバー別

更新プログラムは、ホストと更新プログラムの種類別にグループ化されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.



更新プログラムの情報をサーバー別にフィルターできます。更新プログラムを選択してカーソルを合わせると、その更新プログラムに関する詳細情報が表示されます。

利用可能な更新プログラムに関するこの情報をオフラインで表示するには、**すべてエクスポート**を選択して、情報を`.md`ファイルとしてエクスポートします。`.md`ファイルの内容は、プール別、次にホスト別にグループ化されます。各ホストについて、ファイルには次の情報が一覧表示されます:

- このホストまたはそのVMの更新タスク。必須、推奨、および完全な有効性のタスクの詳細については、「ガイダンスカテゴリと更新タスクについて」を参照してください。
- これらの更新プログラムに、このサーバーに適用できるライブパッチが含まれているかどうか
- 更新プログラムの種類別にグループ化された更新プログラム
  - 更新名
  - 更新の説明
- ホストで更新されるRPMのリスト

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

更新別

すべての更新は、リリース順に時系列で表示されます。

更新別ビュー(/en-us/xencenter/media/by-update.png)

更新情報は、適用可能なサーバー、更新の種類、および適用される更新タスクでフィルタリングできます。更新を選択し、その上にカーソルを合わせると、更新に関する詳細情報が表示されます。

利用可能な更新に関するこの情報をオフラインで表示するには、**すべてエクスポート**を選択して、情報を`.csv`ファイルとしてエクスポートします。`.csv`ファイルには、次の情報が含まれています。

- 更新の種類
- 更新名
- この更新を適用できるサーバー
- 更新にサーバーに適用できるライブパッチが含まれているかどうか
- 必須、推奨、および完全な有効性タスク

必須、推奨、および完全な有効性タスクの詳細については、「ガイダンスカテゴリと更新タスクを理解する」を参照してください。

- ホストまたはプールに更新を適用するには、**更新のインストール**を選択して**更新のインストール**ウィザードを開きます。詳細については、次のセクション「プールに更新を適用する」を参照してください。

ガイダンスカテゴリと更新タスクを理解する

一部のタスク（ホストの退避や再起動など）は、プールに更新を適用する前後に必要となる場合があります。更新タスクが不要な場合もあります。

ガイダンスカテゴリ

XenServer®は、これらの更新タスクがVMに引き起こす可能性のある中断を最小限に抑えるため、タスクを**必須**、**推奨**、**完全な有効性**、**ライブパッチ**に分類します。これらの分類により、ホストまたはVMにダウンタイムや軽微な中断を引き起こす可能性のある更新タスクが、お客様の環境とリスクプロファイルにとって必要かどうかを判断できます。

更新には、これらのカテゴリの複数にリストされているタスクが含まれる場合があります。たとえば、更新の完全な有効性を得るためにホストの再起動が必要な場合でも、プールの潜在的な中

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

断を少なくして更新のほとんどのメリットを得るためにツールスタックの再起動を推奨する場合があります。

更新プロセス中に、次の3つのレベルのタスクのいずれかを実行することを選択できます。

1. 必須
2. 必須 + 推奨
3. 必須 + 推奨 + 完全な有効性

必須

Mandatory tasks *must* be performed after an update otherwise the system might fail at runtime. These actions are required to enable critical fixes and ensure that your environment is secure and stable. When you apply updates, XenCenter® performs these tasks. You cannot opt out of mandatory tasks.

推奨

推奨タスクは、更新で提供される機能と修正の大部分のメリットを得るために実行することをお勧めするタスクです。更新を適用すると、これらのタスクはXenCenterでデフォルトで選択されますが、実行をオプトアウトできます。これらのタスクを今すぐ実行しないことを選択した場合、それらは該当するプール、ホスト、またはVMの保留中のタスクにリストされます。

推奨タスクを実行する理由：

- これらのタスクは、安全で安定したXenServer環境を確保するものです。

推奨タスクをオプトアウトする理由:

- 更新の詳細情報を確認した結果、これらの更新を今すぐ完全に適用しないリスクは許容できると判断した。
- 推奨タスクが現在、VM に不要な中断を引き起こす。

完全な有効性

関連する更新のメリットを得るには、完全な有効性タスクが必要です。完全な有効性タスクが関連付けられている更新は、通常、特定のハードウェアを使用しているユーザー、または特定の機能を使用しているユーザーにのみ関連します。

これらのタスクがご使用の環境に必要かどうかを理解するために、更新情報を確認してください。更新を適用する際、これらのタスクは XenCenter でデフォルトでは選択されませんが、更新がご使用の環境または構成に適用されると判断した場合は、更新中に実行することを選択できま

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

す。これらのタスクを今すぐ実行しないことを選択した場合、それらは該当するプール、ホスト、または VM の保留中のタスクにリストされます。

完全な有効性タスクを実行する理由:

- 完全な有効性タスクを持つ更新は、ご使用のハードウェア、環境、または構成に関連しています。

完全な有効性タスクをオプトアウトしたままにする理由:

- 完全な有効性ガイダンスを持つ更新は、ご使用のハードウェア、環境、または構成に関連していません。
- 完全な有効性タスクが現在、VM に不要な中断を引き起こす。
- これらの更新のメリットは今すぐ必要ありません。

完全な有効性タスクがご使用の環境に適用されるが、それらを延期することを選択した場合は、環境の安定性を維持するために、適切なメンテナンス期間中にこれらのタスクを完了する計画を立ててください。

ライブパッチ

特定のコンポーネントへの更新には、ライブパッチが含まれる場合があります。ライブパッチを使用すると、ホストの再起動を必要とせずに、コアコンポーネントに更新を適用できます。

ライブパッチをホストに適用できるかどうかは、ホストが最後に再起動されたときにインストールされたコンポーネントのバージョンによって異なります。更新をライブパッチとしてホストに適用できる場合、ライブパッチのガイダンスが推奨ガイダンスに置き換わります。

例:

2つのプールがあります。プールAは最近のレベルに更新されています。プールBはしばらく更新されていません。推奨される更新タスク「ホストの再起動」とライブパッチの更新タスク「ツールスタックの再起動」を含む新しい更新をリリースします。

プールAでは、これらのより最新のホストにライブパッチを適用できます。XenCenterの推奨ガイダンスには「ツールスタックの再起動」と表示されます。ライブパッチガイダンスのより影響の少ないタスクが、推奨ガイダンスを上書きします。
プールBでは、ホストが古いレベルであるため、ライブパッチを適用できません。XenCenterの推奨ガイダンスには「ホストの再起動」と表示されます。推奨ガイダンスは引き続き適用されます。この場合、ライブパッチガイダンスは関係ありません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

更新がライブパッチとして適用される場合、更新に含まれる修正の一部のみが有効になることがあります。この状況では、ライブパッチが適用されていても、更新の推奨再起動が表示される場合があります。更新の詳細を確認して、更新内のすべての修正が必要なのか、それともライブパッチによって有効になる修正のみが必要なのかを理解してください。この情報を使用して、タスクを実行するかどうかを選択できます。詳細については、プールの利用可能な更新を表示を参照してください。

更新タスク

更新を適用するには、更新の適用前または適用後に1つ以上のタスクを完了する必要がある場合があります。これらのタスクは、どのガイダンスカテゴリにも表示される可能性があります。

ホストの更新タスク

Tasks required *before* applying updates:

- **サーバーの退避**: 更新を適用する前に、すべてのVMをXenServerホストから移行するか、シャットダウンする必要があります。このタスクを完了するために、XenCenterはすべてのVMをホストから移行します。このタスクの実行中は、1つのホストが一時的にVMを実行できないため、XenServerプールは容量を減らして動作します。このタスクは、「ホストの再起動」タスクの一部として実行されることがあります。

Tasks required *after* applying updates:

- **サーバーの再起動**: XenServerホストを再起動する必要があります。すべてのVMはホストから移行され、ホストが再起動されます。このタスクの実行中は、1つのホストが一時的にVMを実行できないため、XenServerプールは容量を減らして動作します。
- **ツールスタックの再起動**: ホスト上のツールスタックを再起動する必要があります。プールコーディネーターで実行された場合、プールへの接続は一時的に失われます。他のホストで再起動しても、プールの状態に目に見える影響はありません。

VMの更新タスク

一部のアップデートはVMに新機能を提供します。これらのアップデートには、VMで以下のタスクが必要になる場合があります。

- **VMの再起動**: VMを再起動する必要があります。XenCenterでは、再起動中にVMに赤い停止アイコン（赤色の四角）が表示されます。タスクが完了すると、緑色の再生アイコンが表示され、VMが実行中であることを示します。再起動中、VMはエンドユーザーが利用できません。
- **デバイスモデルの再起動**: 更新されたホスト上のVMのデバイスモデルを再起動する必要があります。XenCenterでは、デバイスモデルの再起動中にVMに黄色の再生三角形が表示されます。完了すると、緑色の再生アイコンが表示されます。この間、VMを停止、開始、または移行す

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ることはできません。VMのエンドユーザーは、セッションが一時的に中断され、再開される可能性があります。Windows VMでこのタスクをサポートするには、VMにXenServer VM Tools for Windowsがインストールされている必要があります。

プールにアップデートを適用する

XenCenter®のアップデートインストールメカニズムは、**アップデートのインストール**ウィザードを使用して、ホストとプールにアップデートを適用します。このプロセス中、XenCenterは、利用可能なすべてのアップデートを適用した後に必要な、最も影響の少ないアクションを自動的に判断します。**アップデートのインストール**ウィザードは、以下の手順を自動的に実行します。

1. 必要に応じて、各ホストからVMを移行します。
2. 必要に応じて、ホストをメンテナンスモードにします。
3. アップデートを適用します。
4. 必要に応じて、ホストの再起動、ツールスタックの再起動、VMの再起動など、必要なアップデートタスクを実行します。
5. VMを更新されたホストに戻します。

高可用性の無効化など、アップデートを適用できるようにするために事前チェック段階で実行されたアクションはすべて元に戻されます。

開始する前に

サーバーにアップデートを適用する前に、以下の点に注意してください。

- すべてのサーバーをバックアップする
- アップデートセットにドライバーのアップデートが含まれている場合は、新しいバージョンのドライバーがハードウェアおよびファームウェアと互換性があることを確認してください。詳細については、ハードウェア互換性リスト (HCL) およびハードウェアベンダーのドキュメントを参照してください。
- 更新を適用する予定のプールでは、高可用性 (HA) が有効になっていないことを確認してください。
- XenCenter® にプール管理者またはプールオペレーターとして、あるいはローカルの root アカウントを使用してログインしていることを確認してください。

更新のインストール

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

CDN からの更新

以下のセクションでは、**更新のインストール**ウィザードを使用して、インターネットに接続されたプールに更新を適用する手順を段階的に説明します。

1. XenCenter® メニューから、**ツール**、次に**更新のインストール**を選択します。

2. **更新のインストール**ウィザードで、**XenServer 8.4**を選択し、**開始する前に**ページの情報を確認します。続行するには**次へ**をクリックします。
3. **更新を適用**を選択します。続行するには**次へ**をクリックします。
4. 更新する XenServer® プールまたはホストを選択します。次のウィザードページに進むには**次へ**をクリックします。
5. 更新が適用された後、ホストの再起動など、一部のタスクが必要になる場合があります。**更新モード**ページで、プールに更新を適用した後に XenCenter が自動的に実行する更新タスクのレベルを選択します。

   タスクは、**タスク**の下で**必須**、**推奨**、または**完全な有効性**に分類されます。更新タスクが不要な場合、ページには**アクションは不要です**というメモが表示されます。

   デフォルトでは、XenCenter は推奨されるレベルの更新タスクを選択します。ただし、必須タスクは常に実行され、選択を解除することはできません。

   これらのタスクを詳細に確認するには、ウィザードを最小化し、**通知** > **更新**タブに移動します。XenCenter が提供するさまざまな種類の更新タスクとガイダンスレベルの詳細については、ガイダンスカテゴリと更新タスクを理解するを参照してください。

   次へをクリックして次のウィザードページに進み、事前チェックを開始します。
6. ウィザードは、更新がホストまたはプールに適用できることを確認するために、いくつかの事前チェックを実行します。たとえば、過去1週間以内にホストまたはプールを更新チャネルと同期している必要があります。

   失敗した事前チェックを解決するには、画面の指示に従ってください。XenCenterにすべての失敗した事前チェックを自動的に解決させたい場合は、**すべて解決**を選択します。事前チェックが解決されたら、**次へ**を選択して続行します。
7. XenCenterがホストまたはプールの更新のインストールを開始するには、**更新をインストール**をクリックします。
8. **更新のインストール**ウィザードは、更新の進行状況を表示し、XenCenterがプール内の各ホストを更新する際に実行する主要な操作を示します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注記:

- 何らかの理由で更新プロセスが完了できない場合、XenCenterはプロセスを停止します。この停止により、問題を修正し、**再試行**ボタンをクリックして更新プロセスを再開できます。
- この段階で**キャンセル**を選択すると、**更新のインストール**ウィザードは、失敗した事前チェックを解決するために行った変更（高可用性やワークロードバランシングの一時停止、VMのサスペンドなど）を元に戻します。

完了をクリックして更新を完了し、**更新のインストール**ウィザードを閉じます。

オフライン更新

次のセクションでは、**更新のインストール**ウィザードを使用してオフライン更新用に構成されたプールに更新を適用するための段階的な手順を説明します。

1. XenCenterメニューから、**ツール**、次に**更新のインストール**を選択します。

2. **更新のインストール**ウィザードで、**XenServer 8.4**を選択し、**開始する前に**ページの情報を確認します。**次へ**をクリックして続行します。
3. 以前に更新バンドルをアップロードしたことがある場合は、**更新を適用**を選択します。そうでない場合は、**ディスクから更新バンドルまたは補足パックを選択**を選択し、**参照**をクリックして、コンピューター上のダウンロードした更新バンドル`.xsbundle`ファイルの場所に移動します。

   注:

   最新のアップデートバンドルは、専用のインターネット接続マシンを使用して次のページからダウンロードできます: XenServer アップデートバンドルのダウンロード。その後、アップデートバンドルをXenCenterからアクセス可能な場所に転送します。

   続行するには、**次へ**をクリックします。
4. 更新するXenServerプールまたはホストを選択します。**次へ**をクリックします。
5. アップデートバンドルのアップロードを選択した場合、**アップデートのインストール**ウィザードの**アップロード**ページに、バンドルをプールまたはホストにアップロードする進行状況が表

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

示されます。ただし、以前にアップロードしたアップデートバンドルを適用する場合は、このページは表示されません。

> **注:**
>
> 現在プールに適用されているものよりも古いアップデートバンドルをアップロードした場合、XenCenterは適用可能なアップデートがないことを表示し、それ以上進むことはできません。

プロセスが完了したら、**次へ**をクリックして続行します。

6. アップデートが適用された後、ホストの再起動などの一部のタスクが必要になる場合があります。**アップデートモード**ページで、プールにアップデートを適用した後にXenCenterが自動的に実行するアップデートタスクのレベルを選択します。

   タスクは**タスク**の下で、**必須**、**推奨**、または**完全な有効性**に分類されます。必要なアップデートタスクがない場合、ページには**アクションは不要です**というメモが表示されます。

   デフォルトでは、XenCenterは推奨されるレベルのアップデートタスクを選択します。ただし、必須タスクは常に実行され、選択を解除することはできません。

   これらのタスクを詳細に確認するには、ウィザードを最小化し、**通知** > **アップデート**タブに移動します。XenCenterが提供するさまざまな種類のアップデートタスクとガイダンスレベルの詳細については、ガイダンスカテゴリとアップデートタスクを理解するを参照してください。

   次へをクリックして次のウィザードページに進み、事前チェックを開始します。

7. ウィザードは、アップデートがホストまたはプールに適用できることを確認するために、いくつかの事前チェックを実行します。

   失敗した事前チェックを解決するには、画面の指示に従ってください。XenCenterにすべての失敗した事前チェックを自動的に解決させたい場合は、**すべて解決**を選択します。事前チェックが解決されたら、**次へ**を選択して続行します。

8. XenCenterがホストまたはプールへのアップデートのインストールを開始するには、**アップデートのインストール**をクリックします。

9. 「**更新のインストール**」ウィザードは、更新の適用状況を表示し、プール内の各ホストを更新する際にXenCenterが実行する主要な操作を示します。

   「

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

」:

- 何らかの理由で更新プロセスが完了できない場合、XenCenterはプロセスを停止します。この停止により、問題を修正し、「**再試行**」ボタンをクリックして更新プロセスを再開できます。
- この段階で「**キャンセル**」を選択すると、「**更新のインストール**」ウィザードは、失敗した事前チェックを解決するために行った可能性のある変更（高可用性およびワークロードバランシングの一時停止やVMのサスペンドなど）を元に戻します。

「**完了**」をクリックして更新を完了し、「**更新のインストール**」ウィザードを閉じます。

保留中の更新タスクを完了する

更新を適用した後、ホストとVMが期待どおりに動作することを確認するために、保留中の更新タスクをすべて完了してください。

「

注:

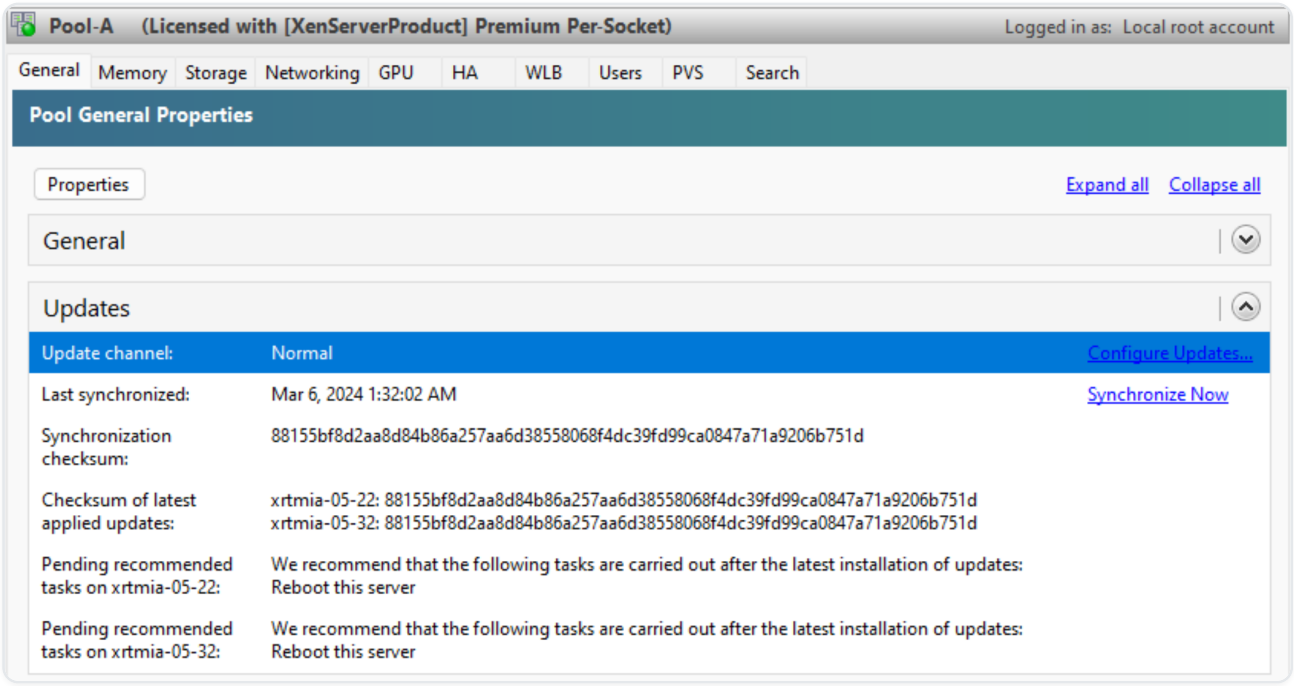
」:

更新を適用する前に、「**通知**」ビューのXenServer 8.4の「**更新**」タブで、必要な更新タスクを確認できます。詳細については、「プールの利用可能な更新を表示する」を参照してください。

更新プロセス中にタスクをスキップした場合、各プール、ホスト、またはVMの保留中のタスクは、プール、ホスト、またはVMの「**全般**」タブの「**更新**」セクションに表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

プールの保留中のタスク



このセクションには、プール内のすべてのホストの保留中のタスクが表示されます。

また、現在のプールコーディネーターが同期したレベルを示すチェックサムと、インストールされている更新のレベルを示す各ホストのチェックサムも表示されます。これらのチェックサムは、テクニカルサポートに連絡する必要がある場合に役立つ情報を提供できます。

ホストの保留中のタスク

ホストの保留中の更新タスク(/en-us/xencenter/media/pending-server.png)

このセクションには、XenServer®ホストの保留中のタスクが表示されます。

インストールされている更新のレベルを示すチェックサムも表示されます。このチェックサムは、テクニカルサポートに連絡する必要がある場合に役立つ情報を提供できます。

仮想マシンの保留中のタスク

仮想マシンの保留中の更新タスク(/en-us/xencenter/media/pending-vm.png)

このセクションには、仮想マシンの保留中のタスクが表示されます。

関連ドキュメント

XenServer の現在のリリース

- XenServer ホストを更新する(/ja-jp/xenserver/9/update.html)

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ライブパッチ

XenServer® ホストを展開するお客様は、更新プログラムを適用した後、サーバーを再起動する必要があることがよくあります。この再起動により、サーバーに不要なダウンタイムが発生し、お客様はシステムが再起動するまで待つ必要があります。再起動はサーバーの稼働時間を短縮し、ビジネスに影響を与えます。ライブパッチ適用により、お客様はサーバーを再起動することなく、一部の Linux カーネルおよび Xen ハイパーバイザーの更新プログラムをインストールできます。この機能により、メンテナンスコストとダウンタイムが削減されます。このような更新プログラムは、次のコンポーネントで構成されています。

- サーバーのメモリに適用されるライブパッチ
- ディスク上のファイルを更新する更新プログラム

ライブパッチ適用はデフォルトで有効になっています。ライブパッチ適用の有効化と無効化の詳細については、「プールプロパティの変更」を参照してください。

更新プログラムのインストールウィザードを使用して更新プログラムを適用すると、**事前チェック**ページに更新タスクに関する情報が表示されます。更新プログラムを有効にするには、これらのタスクを完了してください。さらに、ウィザードは更新プログラムの適用後にサーバーを再起動する必要があるかどうかを確認し、結果を表示します。この機能により、お客様は更新タスクを事前に把握し、それに応じて更新プログラムの適用をスケジュールできます。

ライブパッチ適用シナリオ

更新プログラムは、プール、サーバー、またはスタンドアロンサーバー全体にライブパッチを適用できます。一部の更新プログラムではサーバーの再起動が必要になる場合があります。一部の更新プログラムでは XAPI ツールスタックの再起動が必要です。ごく一部の更新プログラムには更新タスクがありません。

更新プログラムにライブパッチが利用可能な場合と利用できない場合の動作を、次のシナリオで説明します。

- **ライブパッチを含む更新プログラム** Linux カーネルと Xen® ハイパーバイザーを更新する更新プログラムは、通常、適用後に再起動を必要としません。ただし、まれにライブパッチを適用できない場合、再起動が必要になることがあります。
- **ライブパッチを含まない更新プログラム** ここでの動作に変更はありません。通常どおり機能します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

注:

サーバーが再起動を必要としない場合、または更新プログラムにサーバーに適用できるライブパッチが含まれている場合、XenCenter® は**更新モード**ページに**アクション不要**と表示します。

XenCenter® を更新

XenCenter の新しいバージョンが利用可能になると、XenCenter はメニューバーに **XenCenter Update** という通知を表示します。

この通知をクリックして、次のいずれかのアクションを選択します。

- **ダウンロードしてインストール**: XenCenter は更新ファイルをダウンロードし、そのチェックサムを検証し、インストーラーを起動します。

  デフォルトでは、インストールプロセスが完了すると XenCenter は自動的に起動します。この動作は、**XenCenter Setup** ウィザードで変更できます。

  XenCenter でイベントが実行中の場合、XenCenter はこれらのイベントのステータスを通知します。インストールを中止するか、XenCenter を終了してインストールを続行するかを尋ねます。
- **<バージョン> リリースノート**: Web 上で XenCenter の新しいバージョンのリリースノートを表示するためにブラウザウィンドウを開きます。

XenCenter に更新を確認させるには、**ヘルプ > 更新の確認** に移動します。

更新を自動的に確認するかどうかを選択するには、**ツール > オプション** に移動し、**更新** パネルで **XenCenter の新しいバージョンを確認する** の選択を解除します。

XenCenter が更新を確認およびダウンロードするために経由するプロキシサーバーを構成できます。詳細については、「プロキシサーバー」を参照してください。

注:

更新通知と自動更新を提供するために、XenCenter にはインターネットアクセスが必要です。XenCenter がファイアウォールの内側にある場合は、ファイアウォール経由で `updates.ops.xenserver.com` にアクセスできることを確認してください。詳細については、「接続要件」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter がインターネットにアクセスできない場合で、手動で更新したい場合は、XenCenter インストーラーの新しいバージョンが、XenServer 製品ダウンロードページ で定期的に提供されます。

更新通知

XenCenterを使用して、XenCenterおよびXenServerの新しい更新プログラムの自動的かつ定期的な確認を有効にします。

XenCenter®通知を有効にする

前提条件

- XenCenterがインターネットにアクセスでき、必要な更新ドメインに接続できることを確認してください。
- XenCenterがファイアウォールの内側にある場合は、`updates.ops.xenserver.com`のサブドメインへのアクセスを許可します。詳細については、接続要件を参照してください。

XenCenterを初めて起動すると、ダウンロード可能な新しいバージョンのアプリケーションがある場合に、XenCenterが定期的に確認してプロンプトを表示するかどうかを尋ねられます。

次の手順に従って、XenCenter通知を有効にすることもできます。

1. XenCenterで、**ツール**メニューから**オプション**を選択します。**オプション**ウィンドウが開きます。
2. **XenCenter Updates**タブを選択します。
3. **XenCenterの新しいバージョンを確認する**チェックボックスをオンにして、新しいXenCenterバージョンが利用可能になったときにXenCenterが定期的に確認し、通知するようにします。
4. **OK**をクリックして変更を適用し、**オプション**ウィンドウを閉じます。

ホストの更新通知を有効にする

XenCenterは、**通知**ビューの**更新**タブの下に、XenServerを実行しているホストとプールで利用可能な更新プログラムに関する通知を発行します。

更新タブは、更新構成に基づいて更新されます。

- CDNからの更新: タブは、設定した同期スケジュール（毎日または毎週）に従って更新されます。**Early Access** または **Normal** 更新チャネルと手動で同期して、最新の更新を取得することもできます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- オフライン更新: ホストまたはプールに更新バンドルをアップロードするたびに、タブが更新されます。最新の更新を取得するために、最新の更新バンドルをホストまたはプールに手動でアップロードすることもできます。

更新は、ホストおよび更新の種類（セキュリティ修正、バグ修正、改善、新機能、プレビュー機能、または基盤となる変更）によってグループ化されます。**Configure Server Updates** ダイアログを使用して、XenServer ホストおよびプールの更新通知を構成します。

1. XenCenter で、**Tools** メニューから **Configure Updates** を選択します。または、プールの **General** タブの下にある **Updates** セクションに移動して **Configure Updates** を選択するか、プールを右クリックして **Updates** > **Configure Updates** を選択します。**Configure Server Updates** ウィンドウが開きます。
2. 構成するプールまたはホストを選択します。
3. **Update Channel** で、更新にアクセスする頻度を指定します。プールまたはホストは、次のいずれかの更新チャネルに構成できます。

   - **早期アクセス**
   - **通常**
   - **オフライン**

4. **Early Access** または **Normal** を選択した場合は、**Synchronization Schedule** で XenServer プールを更新チャネルと同期する頻度を選択します。これは毎日、または特定の曜日に毎週行うことができます。

   XenCenter は、プールを更新リポジトリと同期し、利用可能な更新をプールコーディネーターにダウンロードします。その後、XenCenter を使用して、ダウンロードした更新をプールに適用します。

   > **注:**
   >
   > 同期後、最新の更新のメリットを享受するために、できるだけ早くプールに更新を適用してください。

5. （オプション）**Early Access** または **Normal** を選択した場合は、**Proxy Server** で更新チャネルと同期するときに使用するプロキシを指定します。このプロキシサーバーは、ホストとコンテンツデリバリーネットワーク（CDN）間の通信に使用されます。
6. **Apply** をクリックして構成変更を XenServer プールに適用し、その後、残りの XenServer プールの更新を構成するために上記の手順を繰り返します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

補足パックをインストールする

補足パック（ドライバーディスクを含む）は、コントロール ドメイン (dom0) にソフトウェアをインストールすることで、XenServer ホストの機能を変更および拡張するために使用されます。ユーザーは、XenServer の初期インストール時、またはその後の任意の時点で補足パックを追加できます。XenServer をアップグレードすると、以前に適用された補足パックはアップグレードによって削除されるため、アップグレード中またはアップグレード後に再適用する必要があります。OEM パートナーが自動化された工場インストールを可能にするために、XenServer インストール リポジトリに独自の補足パックを追加する機能も存在します。

XenCenter® を使用して補足パックをインストールするには

1. 補足パック (`filename.iso`) をコンピューター上の既知の場所にダウンロードします。
2. XenCenter メニューから、**ツール**、次に**更新のインストール**を選択します。
3. **開始する前に**ページの情報をお読みになり、**次へ**を選択して続行します。
4. **更新の選択**ページで、**参照**を選択して補足パックを追加し、**次へ**をクリックして続行します。
5. **サーバーの選択**ページで、補足パックを適用するプールまたはホストを選択します。**次へ**をクリックします。この操作により、補足パックがプールまたはホストのデフォルト SR にアップロードされます。

   > **注:**
   >
   > プール内のデフォルト SR が共有 SR でない場合、または十分な空き容量がない場合、XenCenter は補足パックを十分な空き容量がある別の共有 SR にアップロードしようとします。共有 SR のいずれにも十分な空き容量がない場合、補足パックは各ホストのローカル ストレージにアップロードされます。

6. **アップロード**ページにはアップロードのステータスが表示されます。SR に十分な空き容量がない場合、エラーが表示されます。詳細については**詳細情報**をクリックし、アップロードに必要な空き容量を確保するために必要な措置を講じてください。
7. ファイルが正常にアップロードされると、XenCenter は選択したサーバーに補足パックを適用できるかどうかを判断するための事前チェックを実行します。

   失敗した更新の事前チェックを解決するには、画面の指示に従ってください。XenCenter にすべての失敗した事前チェックを自動的に解決させたい場合は、**すべて解決**をクリックします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

8. **更新モード**を選択します。画面に表示される情報を確認し、適切なモードを選択します。この段階で**キャンセル**を選択すると、**更新のインストール**ウィザードは変更を元に戻し、SR から補足パックを削除します。
9. インストールを続行するには、**更新のインストール**を選択します。**更新のインストール**ウィザードは、更新の進行状況を表示し、プール内の各ホストを更新する際に XenCenter が実行する主要な操作を示します。
10. 補足パックのインストールが完了したら、**完了**をクリックしてウィザードを閉じます。新しくインストールされた補足パックは、ホストまたはプールの**全般**タブの**更新**セクションに表示されます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- XenServerホストのインストール
- 補足パックのインストール

ドライバーディスクをインストールする

注記: XenServer 9 用のドライバーディスクは公開されていません。XenServer 9 を実行している場合は、代わりにドライバーの複数バージョンを使用してください。

ドライバーディスクは、以下のいずれかの方法でインストールできます。

- XenCenter® を使用する（推奨）
- クリーンな XenServer® インストール中
- xe CLI を使用する

クリーンな XenServer インストール中にドライバーディスクをインストールする方法については、XenServer ホストのインストールを参照してください。xe CLI を使用してドライバーディスクをインストールする方法については、ドライバーディスクのインストールを参照してください。

ドライバーをインストールした後、新しいバージョンのドライバーを有効にするためにサーバーを再起動してください。他のソフトウェアアップデートと同様に、ドライバーディスクをインストールする前にデータをバックアップすることをお勧めします。

XenCenter を使用してドライバーディスクをインストールする

XenCenter を使用してドライバーディスクをインストールするには、次の手順を実行します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

1. XenCenter がインストールされているコンピューターの既知の場所にドライバーディスクをダウンロードします。

   zip ファイルの内容を抽出する必要はありません。XenCenter は、zip ファイルまたは ISO からドライバーをインストールできます。

2. XenCenter で、**ツール** > **アップデートのインストール** に移動します。**アップデートのインストール** ダイアログが開きます。
3. **アップデートの選択** タブで、**ディスクからアップデートまたは補足パックを選択** を選択し、zip ファイルまたは ISO の場所を参照します。

   次へ をクリックします。

4. ダイアログの手順を完了して、サーバーを選択し、ドライバーディスクをインストールします。
5. インストールを完了するために、XenCenterは今すぐサーバーを再起動できます。または、都合の良いときに手動で再起動することもできます。

   注:

   ドライバーはホストが再起動されるまで有効になりません。

関連ドキュメント

XenServer 8.4

- ハードウェアドライバー
- XenServerホストのインストール
- ドライバーディスクのインストール

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenter® アラート

「**通知**」をクリックし、次に「**アラート**」をクリックすると、XenCenterでさまざまな種類のシステムアラートを表示できます。

「**アラート**」ビューには、次のようなさまざまな種類のアラートが表示されます。

- 「**パフォーマンスアラート**」。CPU、メモリ使用量、ネットワーク、ストレージスループット、またはVMディスクアクティビティが、サーバー、VM、またはSRで指定されたしきい値を超過した場合に、パフォーマンスアラートが生成されることがあります。パフォーマンスアラートの設定については、「パフォーマンスアラートの設定」を参照してください。
- 「**HA（高可用性）ステータスアラート**」。プールの高可用性ステータスの変更（プールがオーバーコミットされた場合など）に対してアラートが生成されることがあります。
- 「**ライセンス有効期限アラート**」。管理対象サーバーのXenServer®ライセンスの有効期限が近づいているか、有効期限に達した場合にアラートが生成されます。Trial Editionの90日間試用期間が終了したときにも、これらのアラートを受け取ります。
- 「**サポート終了アラート**」。管理対象サーバーのXenServerバージョンがサポート終了に近づいているか、サポート終了に達した場合にアラートが生成されます。今後の機能およびセキュリティ関連の問題に対処するための更新が適用されるように、環境をより新しいサポート対象リリースに更新してください。利用可能な更新またはアップグレードオプションを確認するには、「**更新**」ビューに移動します。
- 「**証明書アラート**」。XenServerホスト上の証明書の有効期限が近づいているか、有効期限に達した場合にアラートが生成されます。最初のアラートは有効期限の30日前に生成されます。アラートの重大度は、有効期限の14日前と7日前に再び増加します。
- 「**更新チャネルアラート**」。XenServerプールに更新チャネルを設定していない場合、またはプールを更新チャネルと最後に同期してから90日以上経過している場合にアラートが生成されます。180日後には、アラートの重大度が増加します。
- 「**VMグループアラート**」。アンチアフィニティグループ内の実行中のVMがすべて単一のホストに存在する場合にアラートが生成されます。これが変更されると、アラートはクリアされます。グループ内のVMが1つだけ実行されている場合、またはグループ内のVMが実行されていない場合は、このアラートは生成されません。
- 「**GFS2クラスターアラート**」。GFS2クラスタリングが有効になっているプールの場合、プール内のホストが参加、離脱、またはフェンスされたときにアラートが生成されます。クラスターがクォーラムを失う寸前の場合にもアラートが生成されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アラートの操作

XenCenterには強力なフィルタリング機能が備わっています。これにより、「**アラート**」タブに表示されるアラートをフィルタリングできます。特定のプールまたはサーバーからのアラートのみ、あるいは特定の期間中に生成されたアラートのみを表示できます。一部のアラートについては、アラートが生成された原因となっている問題を迅速に解決できる場合があります。以下のセクションでは、「**アラート**」ビューで利用可能なさまざまなオプションを一覧表示します。

重大度でフィルター

アラートを重大度でフィルターします

デフォルトでは、すべての重大度レベルのアラートが**アラート**タブに表示されます。特定の重大度のアラートを表示するには、**重大度でフィルター**を選択し、リストから他の重大度レベルの選択を解除します。すべてのアラートを表示するには、**すべて表示**を選択します。

場所でフィルター

アラートの発信元によってアラートをフィルターします

デフォルトでは、XenCenterに接続されているすべてのホストからのアラートが表示されます。特定のホストからのアラートの表示を停止するには、リストを選択し、そのホストの選択を解除します。ホストをもう一度クリックすると、選択が切り替わります。

日付でフィルター

発生時刻に基づいてアラートをフィルターします

デフォルトでは、現在のXenCenterセッションのすべてのアラートが表示されます。リストを選択し、リストから日付範囲を選択します。または、**カスタム**を選択して、開始日時と終了日時を指定して独自の日付範囲を定義します。すべてのアラートを表示するには、**すべて表示**を選択します。

更新

アラートタブが開いているときに新しいアラートが生成された場合、リストに表示されないことがあります。更新されたリストを表示するには、**更新**を選択します。

すべてエクスポート

アラートをコンマ区切り（.csv）ファイルとしてエクスポートし、外部アプリケーションで表示および分析できるようにします。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

すべて無視

表示からアラートを削除します

すべてのアラートを無視または削除するには、**すべて無視**を選択します。特定のアラートセットを無視するには、リストから必要なアラートを選択し、**選択を無視**を選択します。

アクション

表示されているアラートに対して特定のアクションを実行できます。**アクション**リストには、選択したアラートで利用可能なすべてのアクションが表示されます。

リストからアラートを選択し、そのアラートに対処するために関連するアクションを選択します。たとえば、次を選択します。

- **アラーム設定**は、ホストのCPU、メモリ使用量、ネットワークアクティビティ、ストレージスループットのアラートを管理します。このアクションにより、**ホストのプロパティ**ダイアログボックスが開きます。
- **コピー**は、アラートに関する情報をクリップボードにコピーします。
- **無視**は、アラートを無視します。
- **Webページに移動**は、Webブラウザで更新ページを開きます。
- **HA設定**は、高可用性アラートを管理します。このアクションにより、**HAの構成**ダイアログボックスが開きます。
- **ヘルプ**は、アラートに関連するヘルプトピックを開きます。
- **ライセンスマネージャー**は、ライセンスを管理します。このアクションにより、**ライセンスマネージャー**ダイアログボックスが開きます。
- **ログファイルの表示**は、ログが保存されているディレクトリを開きます。
- **証明書のインストール**は、サーバー上の証明書を更新します。このアクションにより、**証明書のインストール**ダイアログが開きます。
- **更新の構成**は、ホストまたはプール用のサーバー更新を構成します。
- **今すぐ同期**は、ホストまたはプールを構成済みの更新チャネルと同期します。

メールによるアラート通知の受信

プール内の任意のサーバーおよびVM、またはスタンドアロンサーバーとそのVMに対してアラートが生成されたときに、XenCenterがメール通知を送信するように構成できます。メール通知機能をオンにすると、優先度が3以上のアラートが生成されたときにメール通知が届きます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenServer xe CLI を使用して独自の警告を生成する場合、さまざまな種類の警告に優先度を割り当てることができます。詳細については、コマンドラインインターフェイスを参照してください。

メール通知をオンにするには

1. **インフラストラクチャ**ビューで、プールまたはスタンドアロンサーバーを選択します。
2. **全般**タブを選択し、次に**プロパティ**を選択します。
3. **プロパティ**ダイアログボックスで、**メール通知**タブを選択します。
4. **メール警告通知を送信**チェックボックスを選択し、配信アドレスの詳細を入力します。

   注:

   認証を必要としないSMTPサーバーの詳細を入力します。認証を必要とするSMTPサーバーを介して送信されたメールは配信されません。認証済みSMTPサーバーを使用してメール通知を受信する手順については、監視と管理を参照してください。

5. 変更を保存してダイアログボックスを閉じるには、**OK**を選択します。

SNMPによる警告通知の受信

注:

SNMP機能は、XenServer PremiumまたはTrial Editionのお客様にご利用いただけます。XenServerライセンスの詳細については、ライセンスを参照してください。アップグレードまたはXenServerライセンスの取得については、XenServer Webサイトをご覧ください。

プール管理者ロールを使用すると、SNMPを使用してXenServerホストとdom0（ホストの制御ドメイン）によって消費されるリソースをリモートで監視できます。また、XenServerでエラーまたは障害が発生したことをネットワーク管理システム（NMS）に警告するメッセージであるトラップを設定することもできます。NMSトラップレシーバーの構成方法の詳細については、SNMPによるホストおよびdom0リソースの監視を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

トラブルシューティング

このセクションでは、問題のトラブルシューティングに役立つ診断情報とログの収集について説明します。

- XenCenterイベントログ
- サーバー状態レポートの作成
- SR接続の問題の解決

特定の課題に関する情報と解決策については、Citrixサポートサイトでナレッジセンターを検索してください。

関連ドキュメント

XenServer 最新リリース

- トラブルシューティング

XenCenter® イベントログの使用

XenCenterは、トラブルシューティングに役立つイベントログを保持しています。現在のXenCenterセッションのイベントの概要は、**通知**をクリックし、次に**イベント**をクリックすることで表示できます。XenCenterイベントのより詳細な永続的な記録は、プロファイルフォルダー内のログファイルに保存されます。この記録を使用して、XenCenterセッション中に発生する可能性のある問題をトラブルシューティングできます。

現在のセッションでイベントを表示する

現在のXenCenterセッションのイベント概要を表示するには、**通知**を選択し、次に**イベント**を選択します。

XenCenterイベントログファイルを表示する

XenCenterを使用すると、永続的なXenCenterログファイル (syslog) が生成されます。このファイルには、XenCenterの使用中に発生するすべての操作とエラーの完全な説明が含まれています。また、XenCenterおよび管理対象リソースで発生したさまざまなアクションの監査証跡を提供するイベントの情報ログも含まれています。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenterログファイルは`%appdata%\XenServer\XenCenter`に保存されます。

XenCenterからのログ出力は、XenServer®環境の問題を診断する際に非常に貴重です。XenCenterログファイルをすばやく見つけるには、XenCenterメニューから**ヘルプ > XenCenterログファイルの表示**を選択します。

現在のセッションでイベントを操作する

XenCenterを使用すると、現在のセッションでイベントをフィルタリングし、それらに対処するための特定のアクションを実行できます。次の表に、**イベント**ビューで利用できるさまざまなオプションを示します。

ステータスでフィルタリング

イベントをその進行状況でフィルタリングします

デフォルトでは、現在のXenCenterセッションのすべてのイベントが表示されます。メニューから特定のステータスを選択して、選択を切り替えます。

サーバーでフィルタリング

イベントをその発生元でフィルタリングします

デフォルトでは、XenCenterに接続されているすべてのホストからのイベントが表示されます。特定のホストからのイベントの表示を停止するには、メニューを選択し、そのホストの選択を解除します。ホストを再度クリックすると、選択が切り替わります。

日付でフィルタリング

発生時刻に基づいてイベントをフィルタリングします

デフォルトでは、現在のXenCenterセッションのすべてのイベントが表示されます。メニューを選択し、リストから日付範囲を選択します。または、**カスタム**を選択して、開始日と終了日時を指定して独自の日付範囲を定義します。

すべてを閉じる

イベントビューからイベントを削除します

現在のすべてのイベントを閉じるまたは削除するには、**すべてを閉じる**を選択します。特定のイベントセットを閉じるには、リストから必要なイベントを選択し、**選択したものを閉じる**を選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

アクション

表示されているイベントに対して特定のアクションを実行できます

リストからイベントを選択し、次に以下を選択します。

- イベントを閉じるには、**閉じる**
- イベントが発生したホストに移動するには、**移動**。このアクションを選択すると、**インフラストラクチャ**ビューに移動します。
- イベントに関する情報をクリップボードにコピーするには、**コピー**

サーバー状態レポートの作成

「**サーバー状態レポート**」ウィザードは、トラブルシューティング目的で特定のXenServer®インストールの包括的なスナップショットを収集およびパッケージ化する便利な方法を提供します。オプションを使用すると、選択したサーバーのさまざまな構成ファイルやログファイルを含めたり除外したりできます。

サーバー状態レポートは、保存または電子メールで送信できる単一のzipファイルとしてパッケージ化されます。生成されるレポートのサイズは、含める項目によって異なります。zipファイルには以下が含まれます。

- ウィザードで選択したレポートタイプを含む、各サーバーのフォルダー
- XenCenter®ログファイル

デフォルトでは、サーバー状態レポート用に収集されるファイルのサイズは制限される場合があります。デフォルトよりも大きいログファイルが必要な場合は、XenServerサーバーコンソールでコマンド`xenserver-status-report -u`を実行できます。

サーバー状態レポートを生成するには

ツールメニューで、**サーバー状態レポート**を選択し、**サーバー状態レポート**ウィザードの手順に従います。

1. **サーバーの選択**。レポートデータを収集するサーバーを選択します。プールチェックボックスを選択すると、そのプール内の利用可能なすべてのサーバーを選択できます。

   利用可能なすべての管理対象サーバーが一覧表示されます。サーバーが一覧にない場合は、**新しいサーバーの追加**をクリックしてリストに追加できる場合があります。
2. **レポート内容の選択**。レポートに含めるデータを選択し、**次へ**を選択します。
3. **レポートの保存先**。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

a. サーバー状態レポートのファイル名を指定します。

b. レポートを保存するフォルダーを指定または参照します。サーバー状態レポートの保存先フォルダーは存在し、XenCenterによって書き込み可能である必要があります。

c. **次へ**を選択します。

4. **レポートのコンパイル**。このページには、レポートのコンパイルの進行状況と、データ収集に関する問題が表示されます。レポートのコンパイルが完了したら、「**完了**」を選択してレポートファイルを指定したフォルダーに保存し、ウィザードを閉じます。

サーバーのステータスレポートを収集した後、Citrix Insight Servicesにアップロードできます。このサイトは、重大な問題に直面していない場合のサーバーまたはプールの一般的な健全性を把握するために使用できます。

関連ドキュメント

XenServer 現行リリース

- トラブルシューティング

SR接続の問題を解決する

ストレージリポジトリがサーバーで利用可能であるためには、サーバーとSRの間に接続が存在する必要があります。この接続は、物理ブロックデバイス (PBD) によってソフトウェアで提供されます。PBDは、特定のSRをサーバーにマッピングできるようにする情報を格納します。SRが利用可能であるためには、PBDがサーバーにアタッチまたは接続されている必要があります。何らかの理由でPBDが切断された場合、SRはサーバーで利用できなくなり、**リソース**ペインに壊れたストレージアイコンが表示されます。



ストレージリポジトリの修復ツールを使用して、一般的なSR接続の問題を診断し、解決できる場合があります。**リソース**ペインで、ストレージリソースを選択し、右クリックして、ショートカットメニューから**ストレージリポジトリの修復**を選択します。

または、**ストレージ**メニューで**ストレージリポジトリの修復**を選択します。

利用可能なストレージリポジトリが一覧表示され、そのステータスを確認できます。

- **接続済み**。SRとサーバー間の接続は正常に機能しており、SRによって提供されるストレージは利用可能です。
- **切断済み**。PBDが切断されているため、ストレージは利用できません。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- **接続が見つかりません。**PBDが見つからないため、ストレージは利用できません。

修復を選択して、XenCenter®にストレージの修復を試行させます。進行状況と結果は、**ストレージリポジトリの修復**ダイアログボックス内に表示されます。

関連ドキュメント

XenServer 現在のリリース

- ストレージリポジトリの管理

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

ヘルプの利用

XenServer および XenCenter® の使用に関する必要な情報は、いくつかの異なる場所で見つけることができます。

- **XenCenter 製品ドキュメント**。XenCenter ユーザーを対象とした包括的なリファレンスドキュメントです。
- **XenServer 製品ドキュメント**。XenServer 管理者および開発者を対象とした包括的なリファレンスドキュメントです。
- **Citrix Knowledge Center**。ナレッジベースの記事やテクニカルノートを閲覧または検索できます。
- **Citrix Tech Zone**。Citrix Tech Zone は、技術コミュニティや愛好家によって着想され、推進された技術的で詳細な記事が集まる場所です。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

index

- XenServer 6.2.0ライセンスの管理
- XenServer 6.5ライセンスの管理
- ライセンス概要 - XenServer 6.5

XenServer 6.2.0ライセンスの管理

このトピックでは、XenServerバージョン6.2.0のライセンスを管理する方法について説明します。

インストールした直後のXenServerは、ライセンスが適用されていない状態で動作します。ライセンスが適用されていない状態でも各機能に対する制限はなく、XenServer 6.2.0のすべての機能を無償で使用できます。ただし、以下を行う場合は **Citrix XenServer Per-Socket** または **Citrix XenServer for XenDesktop** ライセンスが必要です。

- Citrixのテクニカルサポートを受ける。
- XenCenterを使用してHotfixを適用する。

XenServerのライセンスは、サーバー上のCPUソケットごとに必要で、プール内のすべてのサーバーに適用する必要があります。ライセンス済みのサーバーとそうでないサーバーを同一プール内で混在させた場合、ライセンスが適用されていない状態として動作します。

割り当てるには XenServer ライセンス

1. ［ツール］ メニューの **［ライセンスマネージャ］** を選択します。
2. ライセンスを割り当てるホストまたはプールを選択し、**［ライセンスの割り当て］** をクリックします。
3. **［ライセンスの適用］** ダイアログボックスで、ライセンスサーバーに要求するライセンスの種類を選択します。

    - **Citrix XenServer Per-Socket** ：サーバー上の動作CPUソケットごとにライセンスを適用するには、このオプションを選択します。このライセンスモデルは、XenServer バージョン6.2.0に適用されます。
    - **Citrix XenServer for XenDesktop** ：既存のCitrix XenServer for XenDesktopライセンスを適用するには、このオプションを選択します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

4. ライセンスサーバーの詳細を指定して、［**OK**］ をクリックします。

   注： ライセンスサーバーは、デフォルトでポート **27000** を使用してCitrix製品と通信します。ライセンスサーバー上でデフォルト以外のポート番号を使用している場合は、［**ポート番号**］ボックスの値を変更します。ポート番号の変更手順について詳しくは、Citrix製品ドキュメントWebサイトの「ライセンス管理」のトピックを参照してください。

XenCenterは、指定されたCitrix V6ライセンスサーバーと通信し、必要なライセンスを要求します。ライセンスの要求に成功すると、ライセンスがチェックアウトされ、XenCenterのライセンスマネージャの表示が更新されます。ライセンスサーバーと通信できない場合は、サーバーが30日間のライセンス猶予期間に入ります。

注： ライセンスを要求または適用するときに、XenServerのバージョンおよびライセンスの種類に関する情報がCitrix社に送信される場合があります。そのほかの情報（システムのユーザーの情報、環境で実行される仮想マシンの情報、XenServer環境の情報など）は収集されず、Citrix社に送信されません。ライセンス処理に付随してCitrixにより収集される情報は、Citrixでの個人情報保護ポリシーに基づいて慎重に処理されます。詳しくは、`<http://www.citrix.com/privacy>` を参照してください。

無償版からXenServer 6.2.0へのアップグレード

無償版のサーバーやプールをXenServer 6.2.0にアップグレードすると、XenServerの全機能が使用可能になりますが、ライセンスが適用されていない状態で動作します。この場合、XenCenterにライセンスの状態として ［**サポートされません**］ と表示され、XenCenterでHotfixなどの更新ソフトウェアを適用できません。ライセンスを購入してサーバーやプールに新しいライセンスを割り当てると、ライセンスの状態として ［**ライセンス済み**］ と表示され、［**ライセンスの種類**］ に［**Citrix XenServer Per-Socket Edition**］ と表示されます。

Advanced Edition、Enterprise Edition、またはPlatinum EditionからXenServer 6.2.0へのアップグレード

有償版のサーバーやプールをXenServer 6.2.0にアップグレードすると、XenServerの全機能が使用可能になりますが、ライセンスが適用されていない状態で動作します。この場合、XenCenterにライセンスの状態として ［**サポートされません**］ と表示され、XenCenterでHotfixなどの更新ソフトウェアを適用できません。この場合、以下の手順で新しいライセンスを適用します。

1. 既存のサーバー単位のライセンスをCPUソケット単位のライセンスに交換します。
2. 新しいライセンスファイルをライセンスサーバーに追加します。
3. 既存のXenServerサーバーまたはプールに新しいライセンスを適用します。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

新しいライセンスを適用すると、ライセンスの状態として **［ライセンス済み］** と表示され、**［ライセンスの種類］** に **［Citrix XenServer Per-Socket Edition］** と表示されます。

XenServer ライセンスをリリースするには

1. ［ツール］ メニューの **［ライセンスマネージャ］** を選択します。
2. ホストまたはプールを選択し、**［ライセンスの割り当て解除］** をクリックします。

XenServer 6.5ライセンスの管理

このトピックでは、XenServer 6.5のライセンスを管理する方法について説明します。

ライセンスは、プール内のすべてのサーバーに適用する必要があります。XenServer ライセンスを管理するには、XenCenterの **［ライセンスマネージャ］** ダイアログボックスを使用します。ライセンスマネージャでは、次のことを実行できます。

- XenServer ライセンスを特定のサーバーに **割り当て** ます。XenServerは、指定された種類のライセンスをCitrixライセンスサーバーに要求し、割り当て可能なライセンスがある場合は、それがライセンスサーバーからチェックアウトされます。
- **** XenServer ライセンスをリリースします。ライセンスをリリースすると、XenServerがCitrixライセンスサーバーと通信し、ライセンスをチェックインします。

重要： Citrix XenServer 6.5ライセンスでは、Citrixライセンスサーバーv11.12.1以降が必要です。ライセンスサーバーは、Citrix Licensing ページからダウンロードできます。

XenServer ライセンスを割り当てるには

1. **［ツール］** メニューの **［ライセンスマネージャ］** を選択します。
2. ライセンスを割り当てるホストまたはプールを選択し、**［ライセンスの割り当て］** をクリックします。
3. **［ライセンスの適用］** ダイアログボックスで、ライセンスサーバーから要求するライセンスを選択します。XenServer ライセンスの種類について詳しくは、「 ライセンスの概要（XenServer 6.5 ） 」を参照してください。
4. ライセンスサーバーの詳細を指定して、**［OK］** をクリックします。

   注： ライセンスサーバーは、デフォルトでポート **27000** を使用してCitrix製品と通信します。ライセンスサーバー上でデフォルト以外のポート番号を使用している場合は、**［ポート番号］** ボックスの値を変更します。ポート番号の変更手順について詳しくは、Citrix製品ドキュメントWebサイトの「ライセンス管理」のトピックを参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenterは、指定されたCitrixライセンスサーバーと通信し、必要なライセンスを要求します。ライセンスの要求に成功すると、ライセンスがチェックアウトされ、XenCenterのライセンスマネージャの表示が更新されます。

XenServer ライセンスをリリースするには

1. ［**ツール**］ メニューの ［**ライセンスマネージャ**］ を選択します。
2. ホストまたはプールを選択し、 ［**ライセンスの割り当て解除**］ をクリックします。

ライセンス概要 - XenServer 6.5

XenServer 6.5には、以下の2種類の商用エディションが用意されています。

- Standard
- Enterprise

Standard Editionはエントリレベルの商品で、Enterprise Editionで提供される高度な機能は使用できませんが、強固で高性能な仮想化プラットフォームに必要なさまざまな機能を備えています。Citrixの包括的なサポートおよび保守サービスも提供されます。

Enterprise Editionは最上位レベルの商品で、サーバー、デスクトップ、およびクラウドワークロード用に最適化されています。Standard Editionのすべての機能に加えて、ブートストームガード（インメモリ読み取りキャッシュ）機能、動的ワークロードバランス機能、NVIDIA GRIDによるGPU仮想化、VMware vSphereからXenServerへの変換ユーティリティ、Intelセキュアメジャーブート（TXT）のサポート、およびリソースデータのエクスポート機能が提供されます。

XenAppまたはXenDesktopを既に購入されている場合は、引き続きXenServerを使用する権限があります。つまり、**Standard** Editionに含まれているすべての機能と、**Enterprise** Editionに含まれている以下の機能を使用できます。

- 動的ワークロードバランス機能
- NVIDIA GRIDによるGPU仮想化
- VMware vSphereからXenServerへの変換ユーティリティ
- Intelセキュアメジャーブート（TXT）
- インメモリ読み取りキャッシュ機能（ **XenApp** および **XenDesktop Platinum** のみ）

注： Standard EditionからEnterprise Editionへのアップグレードがサポートされています。XenServer ライセンスをアップグレードまたは購入するには、Citrix Webサイト にアクセスしてください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

Citrix ライセンス

XenServerでは、ほかのCitrix製品と同じライセンス処理が行われます。このため、ライセンスサーバー上に有効なライセンスをインストールする必要があります。ライセンスサーバーは、Citrix Licensing ページからダウンロードできます。使用するXenServerエディションのライセンスをご購入いただくと、`.LIC` ライセンスキーが送付されます。このライセンスキーを、以下のいずれかのライセンスサーバーにインストールします。

- Citrixライセンスサーバーソフトウェアが動作するWindowsサーバー
- LinuxベースのCitrixライセンスサーバー仮想アプライアンス

重要： Citrix XenServer 6.5ライセンスでは、Citrixライセンスサーバー11.12.1以降が必要です。

XenServerサーバーにライセンスを割り当てると、XenServerがCitrixライセンスサーバーと通信して、必要なライセンスを要求します。これに成功したらライセンスがチェックアウトされ、ホストがライセンス化されるライセンスについての情報が **ライセンスマネージャ** に表示されます。

ライセンスを要求または適用するときに、XenServerのバージョンおよびライセンスの種類に関する情報がCitrix社に送信される場合があります。そのほかの情報（システムのユーザーの情報、環境で実行される仮想マシンの情報、XenServer環境の情報など）は収集されず、Citrix社に送信されません。ライセンス処理に付随してCitrixにより収集される情報は、Citrixでの個人情報保護ポリシーに基づいて慎重に処理されます。詳しくは、`<http://www.citrix.com/privacy>` を参照してください。

XenServerエディションのライセンス

ライセンスは、プール内のすべてのサーバーに適用する必要があります。異なるライセンスの種類でライセンス化されるホストがあるを実行している場合、一番低いライセンスがあるホストで使用できる機能が XenServerプール内のすべてのメンバーに適用されます。ライセンス済みのサーバーとそうでないサーバーを同一プール内で混在させた場合、ライセンスが適用されていない状態として動作します。XenServer 6.5でのライセンスの管理については、「 XenServer 6.5ライセンスの管理 」を参照してください。

ライセンスの有効期限

ライセンスの有効期限が近くなると、XenCenterに通知が表示されます。ライセンスの有効期限が切れる前に、ライセンスを購入してください。XenServer ライセンスの有効期限が切れた場合：

- XenCenterライセンスマネージャに、ライセンスの状態として「 **非ライセンス** 」が表示されます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

- 新しいライセンスを購入するまで、そのエディションの機能を使用できなくなり、またそのリソースプールのいずれかのサーバーで問題が生じてもCitrixのテクニカルサポートを受けることができなくなります。

ライセンスの猶予期間

Citrix ライセンスシステムには、タイムアウト機能が組み込まれています。XenServerホストがスタートアップライセンスをチェックアウトすると、XenServerとライセンスサーバー間で5分ごとに「ハートビート」メッセージが交換されます。このメッセージにより、両者が正しく動作していることが確認されます。ライセンスサーバーのハードウェアまたはソフトウェアの問題、ネットワーク障害などの理由で XenServerホストがライセンスサーバーと通信できなくなると、30日間の猶予期間に入ります。この期間中、XenServer ライセンスホストはキャッシュ済みのライセンス情報に基づいて通常どおり動作します。この猶予期間は30日間で、これが経過するとXenServerが非ライセンス状態になります。XenServerとライセンスサーバーとの通信が再確立されると、猶予期間はリセットされます。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

XenCenterのドキュメント履歴

次の表に、XenCenter製品のドキュメントに対する重要な変更点を示します。これらの更新に関する通知を受け取るには、RSSフィードを購読してください。

日付	変更	説明
22 Aug 2024	新規リリース：XenCenter 2024.3.0	XenCenter 2024.3.0がリリースされました。詳しくは、「XenCenterの新機能」を参照してください。
09 Jul 2024	新規リリース：XenCenter 2024.2.1	XenCenter 2024.2.1がリリースされました。詳しくは、「XenCenterの新機能」を参照してください。
06 Jun 2024	新規リリース：XenCenter 2024.2.0	このリリースには、VHDXまたはAVHDXディスクイメージを仮想マシンとしてインポートする機能が含まれています。詳しくは、「XenCenterの新機能」を参照してください。
26 Mar 2024	XenCenter 2024.1.0がXenServer 8でGA（一般提供）	XenCenterの最新バージョンは、XenServer 8で実稼働環境でサポートされるようになりました。詳しくは、「XenCenterの新機能」を参照してください。
06 Mar 2024	XenCenterの新しいリリース	XenCenter 2024.1.0がリリースされました。このアップデートには、ライセンスの変更、アップデートガイダンスの改善、SNMPによる監視が含まれます。詳しくは、

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

日付	変更	説明
		「XenCenterの現在のリリース」を参照してください。
04 Dec 2023	XenCenterの新しいリリース	XenCenter 2023.4.0（プレビュー）がリリースされました。詳しくは、「XenCenterの現在のリリース」を参照してください。
05 Oct 2023	XenCenterの新しいリリース	XenCenter 2023.3.2（プレビュー）がリリースされました。詳しくは、「XenCenterの現在のリリース」を参照してください。
24 Aug 2023	XenCenterを使用してXenServerに頻繁なアップデートを適用する	XenCenterでは新機能とバグ修正が頻繁に提供されるようになったため、以前よりも高い頻度で新しいコンテンツを配信する、効率的なリリースプロセスのメリットを利用できます。詳しくは、「XenServerホストのアップデート」を参照してください。
24 Aug 2023	XenCenterのクイックアップデート	XenCenterのアップデートは、UI内からダウンロードして適用できます。詳しくは、「XenCenterのアップデート」を参照してください。
24 Aug 2023	PuTTYはXenCenterにバンドルされなくなりました	XenCenterを使用してXenServerホストに対してSSHコンソールを起動するには、外部SSHコンソールツールをインストールし、XenCenterがそのコンソールツールを使用するように構成されていることを確認する必要があります。詳しくは、「Configure XenCenter to

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

日付	変更	説明
		use an external SSH console」を参照してください。
24 Aug 2023	XenCenterの新しいリリース	XenCenter 2023.3.1（プレビュー）がリリースされました。詳しくは、「XenCenterの現在のリリース」を参照してください。

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.

fix

This is the content for the sample heading topic. It is hidden from the main table of contents but remains accessible via links.

© 1997–2026 Citrix Systems, Inc. All rights reserved.